Adobe RoboHelp (2017 release)

２０１７年1月31日

目次

はじめに 1

基本的なワークフロー 2
プロジェクトの作成 2
コンテンツの編集 2
ファイルの読み込み 2
ナビゲーションの開発 3
出力のカスタマイズ 3
ヘルプパッケージの生成、テストおよび配布 3

ライセンス認証と登録 4
ソフトウェアのインストール 4
インストールに関するヘルプ 4
ライセンス認証 4
Adobe製品向上プログラム 5
登録 5

ヘルプとサポート 6
Adobeコミュニティヘルプ 6
RoboHelpヘルプへのアクセス 6
サービス、ダウンロード、その他 8
Adobe Exchange 8
Adobeダウンロード 8
Adobe Labs 8
Adobeフォーラム 9
Adobe TV 9
RoboHelpサンプルプロジェクトと出力 9
RoboHelpデベロッパーセンター 9
旧バージョンのRoboHelpヘルプ 9

RoboHelp（2017 release）の新機能 10
次世代HTML5パブリッシングによる魅力的なインタラクティブコンテンツ作成 10
より短い時間でより多くのことを 12

RoboHelp サーバーについて 13
追跡とレポート 14
プロジェクトの自動マージ 15
英語以外の言語のサポート 15

Sharepoint との統合 16
SharePoint バージョンマトリクス 17

ワークスペースの概要 18

ワークスペースの概要 18
クイックアクセスツールバー 19
RoboHelp タブ 20
タブ付き文書ペイン 20
ポッド 20

RoboHelp タブでの作業 21

ポッドの操作 22
ポッドの表示 22
ポッドの整列 23
ポッドの種類 24
スターターポッド 24
プロジェクトマネージャーポッド 24
出力設定ポッド 25
スニペットポッド 26
スタイルと書式ポッド 26
ユーザー定義変数ポッド 27
エラーリストポッド 27
出力ビューポッド 27
ツールボックスポッド 27
リソースマネージャーポッド 28
外部コンテンツ検索ポッド 28
RoboHelp サーバーポッド 29

環境 29
環境の作成および保存 29
環境のロード 30
デフォルト環境の復元 30
環境の削除 30

キーボードショートカットの作成または削除 31
キーボードショートカットの作成 31
キーボードショートカットの削除またはリセット 31

一般設定の設定 32
デフォルト言語および他の環境設定の設定 32
確認を有効または無効にする 33
通知を有効、無効、またはリセットする 34

プロジェクト 35
プロジェクトの基本 35
プロジェクトの概要 35
ヘルププロジェクトのコンポーネント 36
プロジェクト内のファイル 38
メインプロジェクトファイル（XPJ） 38
フォルダーファイル（FPJ） 38
シングルソースレイアウトファイル（SSL） 38
補助プロジェクトファイル（APJ） 39
その他の種類のファイル 39
出力タイプについて 40
エンドユーザーのビューアーの要件 43
プロジェクトの作成と管理 44
プロジェクトの作成 44
ドキュメントの読み込みによるプロジェクトの作成 46
FrameMaker ドキュメントまたは Word ドキュメントを使用したプロジェクトの作成 . . 46
DITA マップファイルを使用したプロジェクトの作成 47
プロジェクトの保存 48
自動的に保存の無効化 48
プロジェクトを開く 48
RoboHelp の起動時にプロジェクトを開く 48
RoboHelp を起動した後でプロジェクトを開く 50
プロジェクトのアップグレード 50
最近開いたプロジェクトのリストへのプロジェクトの固定 51
プロジェクトの設定の変更 51
停止リストペインのオプションを設定します 52
フレーズペインのオプションを設定します 53
常に無視する単語ペインのオプションを設定する 53
LNG ファイルペインのオプションを設定します 54
同意語ペインのオプションを設定します 54
プロジェクトの名前の変更 55
プロジェクトの表示 56
章のレイアウトの定義 56
注意： 56
フォルダーのドラッグ 57
ファイルの管理 57
タイトル別またはファイル名別のトピックの一覧表示 57
作業リストの使用 57
最近開いたプロジェクトのリストを編集 58
ファイルおよびフォルダーのバゲッジフォルダーへの追加 59
バゲッジフォルダーの追加機能 60
バゲッジフォルダーからのファイルの削除 60
マップファイルのタイプ 60
プロジェクトからトピックの削除 61

フォルダーの管理 62
フォルダーの作成 62
プロジェクトマネージャーフォルダー 63
フォルダー名の変更 65
フォルダーの移動 65
カスタムフォルダーの削除 66
ファイルとフォルダーのアイコン 66
複数言語のコンテンツの作成 69
複数言語のサポート 69
翻訳のワークフロー 72
異なる言語でのコンテンツの比較 73
プロジェクトファイルの変換用に異なる言語を選択 73
異なる言語でのプロジェクトの作成 74
ローカライズ用にテキストをカスタマイズ 74
WebHelp、WebHelp Pro、FlashHelp および FlashHelp Pro 74
WebHelp のみ 75
HTML Help 75
ラベルファイルの編集 75
注意： 75
プロジェクトのデフォルト言語の変更 76
注意： 76
関連辞書の言語サポート 76
ローカライズされたテキストの索引作成 77
ユニバーサル文字セット 77
Unicode テキストエンコーディング規格のサポート 77
Windows での入力言語の設定 78
ローカライズされたプロジェクトのアップグレード 79
マイナーなカスタマイズ 79
メジャーなカスタマイズ 80
PDF ファイルの読み込み 80
PDF ファイルの読み込みによるプロジェクトの作成 81
スタイルに基づくトピックの新規作成 82
プロジェクトへの PDF ファイルの読み込み 83
Word および FrameMaker ドキュメントの読み込みとリンク 83
Microsoft Word ドキュメントの読み込みとリンク 84
Word ドキュメントを RoboHelp に読み込む手順 84
RoboHelp から Word ドキュメントをリンクする手順 84
Word ドキュメントのリンクと読み込み 85
オンライン出力用の Word ドキュメントの最適化 87
Word ドキュメントのリンクオプション 88
Word ドキュメントのリンクと読み込み 89
Word ドキュメントの読み込みによるプロジェクトの作成 89
Word ドキュメントの RoboHelp プロジェクトへのリンク 90

Word ドキュメントの RoboHelp プロジェクトへの読み込み 91
Word の目次、索引、および用語集の読み込み 92
Word ドキュメントでのヘッダーとフッターの変換 94
Word スタイルの RoboHelp スタイルへの変換 94
スタイルマッピングのための CSS の選択 94
自動マップのスタイル 95
Word の段落スタイルの RoboHelp スタイルへの変換 96
Word の文字スタイルの RoboHelp スタイルへの変換 97
リストのマッピング 98
カスタム HTML タグの作成 99
Word の表スタイルの RoboHelp 表スタイルへの変換 99
Word の参照のハイパーリンクへの変換 100
インライン書式からの RoboHelp スタイルの作成 100
変換された Word ファイルでのページ割り付けとトピックの名前付け 101
オンラインヘルプトピックのページ割り付けの設定 101
Word での状況依存ヘルプマーカーのマップ ID への変換 102
生成されたトピックのトピック名パターンの定義 103
リンクされた Word ドキュメントと RoboHelp プロジェクトとの同期 105
Word ドキュメント同期状態インジケーター 106
リンクされた Word ドキュメントからのトピックの生成 106
リンクされた Word ドキュメントから生成されたトピックの更新 107
更新中にトピックへの変更を維持 108
生成されたトピックの削除 109
削除されたトピックの再生成 109
リンクした Word ドキュメントの編集 110
リンクした Word ドキュメントの削除 110
見つからないまたは名前変更された Word ドキュメントへのリンクの復元 110
Word の変換設定 111
設定の書き出し 111
設定のプロジェクトへの読み込み 111
RoboHelp に変換される Word ドキュメントのコンポーネント 112
FrameMaker ドキュメントの読み込み 114
変換前に行うオンライン出力の最適化 114
HTML に変換する FrameMaker 文書の作成 116
FrameMaker ドキュメントの読み込み 117
FrameMaker ブックまたはドキュメントの読み込みによる RoboHelp プロジェクトの作成 117
FrameMaker ブックの新しい RoboHelp プロジェクトへ読み込み 118
FrameMaker ドキュメントを既存の RoboHelp プロジェクトに読み込む 118
RoboHelp に変換される FrameMaker 文書のコンポーネント 119
変換の概要 122
FrameMaker 目次を変換する 122
FrameMaker 索引エントリの読み込み 124
用語定義の読み込み 124

Ditavalファイルからコンディションを適用する 125
FrameMaker書式のRoboHelpスタイルへの変換 125
変換用のFrameMakerテンプレートの選択 125
スタイルマッピング用のCSSの選択 126
コンテンツ参照先：自動マップ 126
RoboHelp 7からRoboHelp 11へのアップグレード 126
FrameMaker 9ブックの階層構造 129
FrameMaker相互参照書式のRoboHelpスタイルへの変換 129
内容参照 130
変換設定 130
ページ割り付けとピック名の設定 131
ページ割り付けの基本 131
トピック名の基本 132
ページ割り付けとピック名の設定 134
FrameMakerドキュメントからの状況依存ヘルプマーカーの変換 135
FrameMakerのコンディショナルテキストビルド式の適用 136
FrameMaker内容の変換 136
FrameMakerの段落書式のRoboHelpスタイルへの変換 136
FrameMakerの文字書式のRoboHelpスタイルへの変換 137
FrameMaker段落書式をヘルプトピックから除外する 138
カスタムHTMLタグ 138
自動番号書式のマッピング 138
リストマッピングのシナリオ 139
FrameMakerの表書式のRoboHelp表スタイルへの変換 142
画像変換設定 142
変換された画像を保持する 145
画像用の代替テキストの作成 146
DITAマップファイルの読み込み 146
XMLファイルの読み込み 148
XML読み込みハンドラーを選択 149
XML読み込みの詳細オプションダイアログボックス 150
XMLハンドラーマネージャーについて 150
Microsoft HTMLヘルププロジェクトの読み込み 152
WinHelpプロジェクトの読み込み 152
WinHelpプロジェクトの設定の読み込み 153
ポップアップ 153
What's This Help 153
外部トピック 153
画像 153
箇条書き / 番号付きリスト 154
ヒント： 154
WinHelpフォルダー読み込みオプション 154
HTMLファイル用フォルダー 154

画像用フォルダー 155
ファイルのオプション 155
WinHelp書式読み込みオプション 155
WinHelp一般読み込みオプション 156
ナビゲーションペイン 156
デフォルトペイン 157
詳細 158
.HLPと.HPJファイル 158
WinHelpのHTMLプロジェクト：質問と回答 159
WinHelpマクロは、HTMLプロジェクトで動作しますか？ 159
HTMLトピックは、WinHelpのようにカスタムウィンドウに開くことができますか？ 159
HTMLトピックではタブを使用できますか？ 159
HTMLトピックでテキストを配置するため、スペースを追加するにはどうすればよいのですか？ 159
表がHTMLトピックに変換されたのですが、列のサイズが不適切で水平スクロールバーが表示されます 160
間違った書式設定の箇条書きを修正するにはどうしたらよいですか？ 160
WinHelpトピックに{SEQ}フィールドを使用して手動で設定した番号付きリストを使用しています。このフィールドはどうなるのですか？ 160
非スクロール領域はどうなるのですか？ 160
デザインエディターでの背景はグレーですが、プレビューウィンドウでの背景は白で表示されます。背景を常に白で表示するにはどうすればよいのですか？ 160
ハイパーリンクをクリックすると、「ページを表示できません」というエラーが表示されます 160
HTMLプロジェクトを作成したら、配布してもよいのですか？ 161
状況依存トピックは、HTMLプロジェクトに変換されますか？ 161
WinHelp HLPファイルのHTMLプロジェクトへの読み込み 161
ヒント： 162
HLPファイルでのHTMLの制限 163
HLPファイルを使用してHTMLプロジェクトを作成するためのヒント 165
WinHelp HPJファイルのHTMLプロジェクトへの読み込み 165
HPJファイルを使用してHTMLプロジェクトを作成するためのヒント 166
プロジェクトのバージョンコントロールへの追加 167
バージョンコントロールについて 167
バージョンコントロールの適用 169
ポッドのバージョンコントロールオプションへのアクセス 169
バージョンコントロールに関するFAQ 169
バージョンコントロールの仕組みを教えてください？ 169
複数の作成者がバージョンコントロールを使用する方法を教えてください 170
シングルユーザーのプロジェクトでバージョンコントロールを使用できますか？ 170
複数ユーザーによるチェックアウトはできますか？ 170
RoboHelpでは、どこでバージョンコントロールオプションを設定できますか？ 170
RoboHelpの外部でバージョンコントロールプログラムが必要ですか？ 170

プロジェクトを編集するのに、プロジェクトファイル（XPJ）をチェックアウトする必要がありますか？ 170
プロジェクトに追加した項目はバージョンコントロールにも追加されますか？ 171
プロジェクトから削除した項目はバージョンコントロールからも削除されますか？ 171
チームで加えた最新の変更はどこにありますか？ 171
出力ファイルをバージョンコントロールに追加するにはどうすればよいのですか？ 171
RoboHelp プロジェクトのバージョンコントロールへの追加 171
ファイルチェックインまたはチェックアウト 173

Microsoft SharePoint でのバージョンコントロール 174
SharePoint の RoboHelp 設定を設定する 174
SharePoint ドキュメントライブラリ設定を設定する 175
プロジェクトを SharePoint ドキュメントライブラリに追加する 176

Help プロジェクトのマージ 177
マージされたヘルププロジェクトについて 177
マスタープロジェクトを作成する 178
注意： 180
子プロジェクトの公開 181
マージ済み Help プロジェクトの表示 182
マージ済み子プロジェクトの削除 182
マージ済みレスポンシブ HTML5、WebHelp Pro、または FlashHelp Pro プロジェクトのカスタマイズ 182
プロジェクトマージについての FAQ 183
マスタープロジェクト 183
機能 184
WebHelp プロジェクト 186
プロジェクトを開く 186
Adobe AIR プロジェクト 187

レポート 187
プロジェクトレポートの書き出し 187
レポートの印刷 187
レポートの送信 188
レポートの生成とカスタマイズ 188
壊れたリンクレポート 188
コンディショナルビルドタグレポート 189
関連項目レポート 189
索引レポート 190
重複マップ ID レポート 190
外部トピック参照レポート 191
用語集レポート 191
画像レポート 191
マップ ID レポート 192
プロジェクトステータスレポート 192
スニペットレポート 192

スタイルシートレポート 193
目次レポート 193
トピックプロパティレポート 193
トピック参照レポート 194
優先度順トピックレポート 194
未参照トピックレポート 195
未使用ファイルレポート 195
未使用索引キーワードレポート 196
使用ファイルレポート 196
見つからないトピックレポート 196
変数レポート 197

リファレンス 197
URLのプロパティダイアログボックス 197
以前のプロジェクトを削除ダイアログボックス 197
ファイルをプロジェクトに移動ダイアログボックス 197
HelpからHTMLへのスタイルオプション 198
ヒント： 198
HTMLヘルプの詳細設定3ペイン 198
ボタン 198
ナビゲーションペイン 199
フォント 199
Microsoft HTMLヘルプの詳細設定ダイアログ／「目次」タブ 200

トピックでの作業 201

トピックの作成、保存、表示 201
トピックの作成 201
トピックの保存 202
トピックの保存 202
保存の有効と無効の切り替え 203
トピックファイル名の変更 203
トピックを開く 204
複数のドキュメントのインターフェイスのサポート 204

XHTMLの作成者 205
XHTMLのHTMLへの変換 206
XHTMLの検証 206

トピックの読み込みとコピー 207
トピックの読み込み 207
トピックをプロジェクトにコピー 207

トピックの表示と要素のデザイン 208
トピックのプレビュー 208
注意 209
コンディショナルビルド式の定義 209
デザイン要素の表示 210

マスターページ 211
カスタムマスターページの作成 212
トピックからのカスタムマスターページの作成 213
マスターページの書式設定 213
マスターページの編集 214
マスターページに関連付けられているCSSの変更 214
プレースホルダーの挿入 214
プレースホルダーの書式設定と編集 215
マスターページの読み込み 215
マスターページの適用 216
マスターページのトピックへの適用 216
マスターページの複数のトピックへの適用 216
生成時のマスターページまたはCSSの適用 217
印刷ドキュメントのヘッダーとフッターの追加 217

トピックの管理 218
トピック名の変更 218
トピック参照の更新 219
ファイル名へのアンダースコアの追加 220
トピックのプロパティの変更 220
「索引」タブのトピックのプロパティの変更（WebHelp Pro） 221
マスターページの変更 221
トピックの検索 222
プロジェクトマネージャーでのトピックまたは画像の検索 224
デフォルトトピックの割り当て 224
トピックのステータスの追跡 224
トピックリストポッドでのトピックの詳細の表示および管理 225
タグリストの操作 226

スペルチェックおよび検索と置換 226
目次、索引、関連項目リストまたは用語集のスペルチェック 227
スペルオプションの指定 227
主なオプション 227
特別なオプション 228
スペルの自動修正オプション 228
単語を無視リストの表示 229
トピックまたはプロジェクトのスペルチェック 229
トピックのスペルチェックオプション 230
プロジェクトのスペルチェックオプション 231
辞書のカスタマイズ 232
類義語辞典の使用 232
検索と置換 233
検索と置換オプション 233
検索結果を表示する 237

W3Cコンプライアンス 239
リファレンス 240
Oracleプロジェクトの全般ペイン 240

編集と書式 241

RoboHelpエディター 241
RoboHelpデザインエディター 241
RoboHelp HTMLエディター 241
RoboHelp HTMLエディターを開く 241
変更の取り消し 242
行番号を表示する 242
キーワード拡張の追加 242
コード色の変更 243
サードパーティ HTMLエディター 243
他のHTMLエディターでRoboHelpを使用 243
HTMLエディターの追加 244
HTMLエディターの削除または名前変更 244
HTMLエディターの自動選択またはデフォルトの設定 245
新規トピックに対するエディターの指定 246

書式設定およびフォント 247
書式設定の適用または削除 247
色のテキストへの適用 247
フォントの詳細オプションの定義 247
文字の間隔の変更 248
フォントサイズの変更 248
フォントセットの作成 249
フォントセットのテキストへの適用 249
フォントセットの変更 249
フォントセットの削除 250
記号や特殊文字の挿入 250
非分離スペースの挿入 250

段落の書式設定 250
段落の整列 250
段落のインデント 251
テキスト行のインデント 251
余白の変更 252
ヒント： 252
ルーラーの測定単位の変更 252
段落の言語の定義 253
テキストの折り返しの適用 253
注意： 253
行間の調整 254
改行の段落への追加 254

罫線、背景、カラー、およびサウンド 254
トピックの罫線と背景の追加または編集 255
画像への罫線の追加 255
罫線または背景の削除 255
横線の追加または変更 256
横線の追加 256
横線の削除 256
色の変更 256
色の削除 257
トピックへのサウンドの追加 257

表 258
表について 258
表作成のワークフロー 259
表の挿入 259
基本の表の挿入 259
カスタム表の挿入 260
表の中への表の挿入 260
表のコピー / ペースト 260
表の編集 261
表の行または列の挿入 261
表のプロパティの編集 261
自動フィット表のプロパティの設定 261
セルのプロパティの編集 262
セル内の間隔の変更 262
表のセルのマージまたは分割 262

リスト 263
リストのインデント 263
箇条書きスタイルの適用 263
インラインの箇条書きスタイルを指定します 263
スタイルシートの箇条書きスタイルの作成 264
箇条書きの色をテキストに一致 264
インラインスタイルを使用したカラーの一致 264
スタイルシートを使用した色の一致 264
箇条書きと番号付きリストの削除 265
段落番号形式の適用 265
リスト内での段落の追加 265
段落番号またはレタリングの再開または継続 266

ヘッダー、フッター、改ページ 266
ヘッダーとフッター 266
ヘッダーおよびフッターの作成または編集 267
ヘッダーおよびフッターの削除 267
改ページの挿入 267

テキストボックス 268
トピックでのテキストボックスの挿入 268
注意： 268
テキストボックスの挿入 268
配置済みテキストボックスの挿入 268
配置済みテキストボックスのレイヤー化 269
テキストボックスのプロパティの変更 269
トピックからのテキストボックスの削除 269

ユーザー定義変数 270
ユーザー定義変数の作成 270
変数セットの作成 271
ユーザー定義変数の編集 271
ユーザー定義変数の書式設定 272
ユーザー定義変数の挿入 272
ユーザー定義変数のプロパティの表示 272
変数の表示を切り替え 273
ユーザー定義変数の削除 273
ユーザー定義変数の名前の変更 274

スニペットによるシングルソース 274
スニペットの作成および管理 275
トピックでのスニペットの挿入 276
ドロップダウンテキストエディターでのスニペットの挿入 276
スニペットへのコンディショナルビルドタグの適用 276
スニペットへの変数の挿入 277
スニペットをテキストに変換する 277
スニペットの削除 277

リファレンス 278
META タグデフォルトエディター 278

スタイルとスタイルシート 279

スタイルの種類 279

スタイルのメディアルールおよび属性 280
スタイルシートでのメディア特有スタイルの定義 280
トピックスタイルでのメディアルールの追加 280
メディア特有の CSS のトピックへのリンクおよび HTML へのメディア属性の追加 281
リンクタブの構文 281
例 281
Word ／ FrameMaker コンテンツのメディア特有スタイルのマップ 281
デザインビューでメディア特有スタイルの内容を表示 281
メディア特有スタイルの削除 282

メディアクエリー 282
スクリーンプロファイルのメディアクエリーを管理 282

スタイルシートの管理 283
スタイルシートのトピックまたはマスターページへのリンク 283
トピックまたはマスターページからのスタイルシートのリンク解除 284
スタイルシートの作成 284
スタイルシートとトピックの同時作成 285
スタイルシートの書き出し 285

スタイルシートのスタイルの作成 286
スタイルダイアログボックスでのスタイルの作成 286
スタイルと書式ポッドを使用したスタイルの作成 287
デザインエディターを使用したスタイルの作成 287

表のスタイル 288
グローバルな表のスタイル 288
表スタイルの適用 288
表のスタイルの作成と管理 289
表のスタイルの作成 289
コンディショナルビルドタグの表への適用 290

リストスタイル 290
リストスタイルの概要 290
HTML リストの作成 291
マルチレベルリストの作成 292
自動番号付けスタイルの作成 293
シーケンスプレフィックスの作成 293
シーケンスプレフィックスの編集 294
カスタムシーケンスの削除 294

HTML スタイル 294
Div、ハイパーリンク、画像スタイルに基づいてスタイルを作成 295
Div スタイルの編集 295
ハイーパーリンクスタイルの編集 295
擬似クラスの使用 296
Twisty 画像の使用 296
ブロックスタイルハイパーリンクの使用 296
画像スタイルの編集 297

スタイルの適用 297

CSS ファイルのスタイルの編集 298
スタイルダイアログボックスを使用したスタイルの編集 298
スタイルと書式ポッドを使用したスタイルの編集 298
HTML Editor でのスタイルの編集 299

スタイルシートからのスタイルの削除 299

色と画像の使用 299
スタイルシートのテキスト色とリンク色の変更 299
スタイルシートの罫線または背景の追加または編集 301

インラインスタイル 301
インラインスタイルの適用または編集 301
インラインスタイルの更新 302
インラインスタイルのテキストからの削除 302
スタイルをリセット 302
例（表のスタイルをリセット） 303
書式設定を消去 304

目次、索引、用語集 305

目次 305
目次の基礎 305
目次について 305
目次の作成 305
目次の印刷 306
目次ブックとページの作成 307
目次ブックの作成 307
ターゲットリンクのある目次ブックおよびページの作成 307
ページから目次ブックの作成 308
ドラッグによる目次ページの作成 308
ユーザー定義変数による目次ブックとページの作成 308
目次ブックとページの編集 309
目次ブックとページの名前変更 309
目次ブックおよびページの並べ替え 309
目次ブックまたはページの削除 309
目次ブックまたはページのプロパティの変更 310
目次の管理 310
レポートを使用した目次の管理 310
壊れた目次リンクの識別と修正 311
複数目次 312
複数の目次について 312
目次へのブックとページの移動 312
プロジェクトへの複数の目次の作成 312
目次のマージ 313
目次から閲覧シーケンスを作成する 313

索引 314
索引の基礎 314
索引とキーワードについて 314
トピックキーワード 315
索引ファイルキーワード 316
プロジェクトのキーワードタイプの指定 317
索引の印刷 317
索引キーワードの追加およびリンク 318
ツールバーを使用した索引キーワードの追加 318

トピックタイトルに基づく索引キーワードの追加 319
トピックのプロパティを使用した索引キーワードの追加 319
トピックテキストの選択による索引キーワードの追加 319
索引キーワードのコピー 319
索引キーワードのリンク先の選択 320
ユーザー定義変数による索引キーワードの作成 321
索引キーワードの相互参照 321
索引キーワードの編集 322
索引キーワードの移動とソート 322
プロジェクトのキーワードの名前変更 322
トピックのキーワードの名前変更 322
キーワードの大文字と小文字の変更 323
索引ポッドからの索引キーワードの削除 323
トピックからの索引キーワードの削除 323
索引の管理 324
レポートを使用しての索引の管理 324
キーワードトピックの壊れた参照の識別と修正 324
キーワードからトピック参照の削除 325
未使用索引キーワードの削除 325
コンディショナルビルドタグの索引への適用 325
スマート索引ウィザードを使用した自動索引 326
索引の自動作成 326
無視するキーワードの指定 328
無視する一般的な単語の指定 328
カスタムフレーズの指定 329
索引の同意語の検索 330
複数索引 330
複数の索引の作成 330
索引のマージ 331

Microsoft HTMLヘルプでの目次と索引 332
カスタム目次アイコンの割り当て（HTML Help）. 332
バイナリ目次ファイルの作成（HTML Help） 332
バイナリ索引の作成（HTML Help） 333
目次のカスタマイズ（HTML Help） 334
索引のカスタマイズ（HTML Help） 335
目次コントロールの追加（HTML Help）. 336
索引コントロールの追加（HTML Help）. 337
カスタムウィンドウおよびフレームへのキーワードと目次アイテムのリンク
（HTML Help）. 338

用語集 339
用語集の用語の作成 339
用語集の用語と定義の読み込み 339
用語集のテストと印刷 340
出力の用語集のテスト 340

用語集の印刷 340
用語集からの用語の削除 341
用語集の定義の変更 341
複数の用語集の作成 341
用語集のマージ 342

用語集ホットスポット 343
拡張用語集ホットスポット 343
注意： 343
拡張用語集ホットスポットの追加 344
拡張用語集ホットスポットの更新 344
拡張用語集ホットスポットのテスト 345
拡張用語集ホットスポットのマーク解除 346
用語集ホットスポットウィザードを使用したホットスポットのマーク解除 346
デザインビューでのホットスポットのマーク解除 346

リンク、ナビゲーション、検索 347

ナビゲーションの基本 347
ナビゲーションオプション 347
ブレッドクラムについて 350
ブレッドクラムのトピックへの追加 350

テキストリンクの作成 351
デザインエディターを使用したテキストリンクの作成 351
ドラッグによるリンクの作成 352

ポップアップへのリンク 353
全文検索の対象からのポップアップの除外 353

ブックマーク 354
ブックマークの作成 354
ブックマークへのリンクへの作成 354
ブックマークの名前の変更 355
ブックマークへの移動 355
ブックマークの削除 355

画像とマルチメディアのリンク作成 356
マルチメディアクリップへのリンクの追加 356
画像およびマルチメディアからのリンクの追加 356

外部リンク 357
外部トピックへのリンク（Microsoft HTMLヘルププロジェクト） 357
外部ファイルへのリンク 357
WinHelpトピックへのリンク（Microsoft HTMLヘルププロジェクト） 358
電子メールアドレス、FTPサイト、ニュースグループ、
およびWebアドレスへのリンク 358

リンクビュー 359
リンクビューポッドの操作 359

リンクビューポッドのリンクの外観の変更 359
アイコンのサイズ変更 359
リンクビューのスクロール機能の設定 360
リンクビューポッドでのオプションの設定 360

リンクのメンテナンスと修復 361
リンクの更新および削除 361
壊れたリンクの管理 361
壊れたリンクの修正 362
トピック参照の識別および更新 363
トピック参照の識別 363
トピック参照の更新 363
外部トピック参照の識別および更新 363
ハイパーリンクの表示およびテスト 364
ハイパーリンクの表示および閲覧シーケンスの選択 364
トピックのリンクのテスト 364

リンクコントロール 365
リンクコントロール 365
リンクコントロールの種類 365
キーワードリンクのプロパティ 366
HTMLヘルププロジェクトの場合： 366
関連トピックコントロールの追加 367
関連トピックウィザード 367
関連項目またはKLinkコントロールを使用したHTMLヘルププロジェクトの場合 369
関連項目キーワードおよびコントロールの作成、割り当ておよび追加 369
関連項目キーワードの作成および割り当て 369
関連項目ポッド 370
関連項目ウィザードでの関連項目キーワードの設定 370
リモートCHMファイルにキーワードを設定 371
リモートCHMファイルに関連項目キーワードを設定 371
関連項目コントロールの追加 372
リンクコントロールの変更、再利用または削除 373

テキストのみポップアップ 373
テキストのみポップアップの作成 373
テキストのみポップアップの作成 373
テキストのみポップアップの編集 374
テキストのみポップアップの削除 374
テキストのみポップアップのテスト 374
生成する前のテスト 374
生成後のテスト 374

閲覧シーケンス 375
閲覧シーケンスの作成または編集 375
閲覧シーケンスを自動的に作成 375
閲覧シーケンスを手動で作成 376

閲覧シーケンスからのトピックの削除 376
閲覧シーケンスの名前の変更または削除 376
閲覧シーケンスの表示およびテスト 376
閲覧シーケンスに関連するトピックの確認 376
閲覧シーケンスのテスト 377
1つのトピックのシーケンスの表示 377
ブラウザーまたはビューでの閲覧シーケンスのテスト 377
トピックが含まれる閲覧シーケンスの確認 377

RoboHelp出力検索 378
RoboHelp検索の基本 378
検索メタデータを追加する 380
コンテンツを検索用に最適化する 381
検索エクスペリエンスを設定する 383
検索のオートコンプリート 383

外部コンテンツ検索 385
外部コンテンツ検索の設定と管理 385
外部コンテンツ検索を有効にする 386

マルチメディアと特殊効果 387

画像 387
画像の基本 387
画像ファイル形式 387
画像の検索 388
画像のコピー 388
画像の表示 389
画像のトピックへの追加 389
RoboScreenCapture画像のトピックへの追加 390
トピックからの画像の削除 391
RoboHelpでの画像の編集 391
RoboScreenCaptureによる画像の編集 392
画像のサムネール 392
画像のサムネールサポート 392
画像マップ 394
画像マップの作成 394
画像マップの変更 394

Adobe Captivateデモ 395
Adobe Captivateデモの作成 395
Adobe Captivateデモの挿入 396
Adobe Captivateデモの読み込み 396
Adobe Captivateデモの編集 397

マルチメディア 398
マルチメディアの追加 398
マルチメディアの変更 402

トピックからのマルチメディアの削除 402
ダイナミックHTMLと特殊効果 403
DHTMLの基本 403
DHTML効果のトピックへの追加 403
DHTML効果の複数の段落への適用 404
トピックでのDHTML効果の更新 404
DHTML効果の変更または削除 405
ダイナミックホットスポット 405
DHTMLホットスポットについて 405
DHTMLホットスポットの追加 405
ホットスポットの削除 406
DHTMLホットスポットの書式変更 406
トリガーとターゲット 407
トリガーおよびターゲットについて 407
トリガーのテキストまたは画像への割り当て 407
トリガーのテキストへのリンク 407
トリガーの画像へのリンク 408
トリガーの削除 408
マーキー 408
マーキーの追加 408
マーキーのプロパティの設定または変更 409
マーキーの削除 409
トピックのHTMLコメント 410
HTMLコメントの挿入 410
HTMLコメントの表示 410
Iframe 410
iframeの挿入 411
iframeの編集 411
コンディショナルテキスト 412
コンディショナルテキストの基本 412
印刷出力のカスタマイズ 412
特定対象者向けにカスタマイズした内容の提供 412
アプリケーションの異なるバージョンの配布 412
コンディショナルテキストのデザインおよびテスト 413
コンディショナルテキストを実装するワークフロー 414
除外トピックへのリンクの管理 414
コンディショナルビルドタグ 415
コンディショナルビルドタグの作成 415
コンディショナルビルドタグのコンテンツへの適用 415
注意： 415
トピックに適用されたタグの検証 416

コンディショナルビルドタグのトピックへの適用 416
コンディショナルビルドタグの複数のトピックへの適用 416
コンディショナルビルドタグのトピック内容への適用 417
複数のコンディショナルビルドタグのトピック内容への適用 417
コンディショナルビルドタグのフォルダー、索引、または目次への適用 417
コンディショナルビルドタグのプレースホルダーへの適用 418
コンディショナルテキストの範囲のプレビュー 418
コンディショナルテキストの表示および非表示 419
コンディショナルビルドタグの削除 419
コンディショナルビルドタグの名前変更 420
コンディショナルビルドタグの式 420
コンディショナルビルドタグの式を定義 420
複雑なコンディショナルビルドタグの式 422

状況依存ヘルプ 423
状況依存ヘルプに関する基本情報 423
状況依存ヘルプの作成におけるヘルプ作成者とアプリケーション開発者の役割 425
マップファイルおよびマップ ID 426
マップ番号、マップファイルおよびマップ ID について 426
マップファイルの管理 427
マップファイルの作成 427
マップファイルの読み込み 428
マップファイルの書き出し 428
マップファイルのロックまたはロック解除 429
古いマップファイルの削除 429
未使用マップ ID の削除 430
マップ ID の管理 430
マップ ID の作成 430
マップ ID の編集 431
マップ ID の割り当て 433
マップ ID の自動生成 433
トピックへのマップ ID の割り当て 435
マップ ID の割り当て解除 435
状況依存トピックの動的編集 436
使用シナリオ 436
アプリケーションダイアログボックスとトピックとのマッピング 437
開発者向け情報 438
Visual Basic アプリケーション用のヘルプのプログラミング 439
RH_ShowHelp の構文 440
Visual Basic アプリケーションのエアプレインヘルプ 440
Visual C++ アプリケーションのヘルプのプログラミング 441
プリコンパイル済みヘッダーを RoboHelp_CSH.cpp で使用しないようにする 441

Visual C++ アプリケーションからの関数呼び出し 442
AIR ヘルプの状況依存ヘルプ関数の呼び出し 443
レスポンシブ HTML5、マルチスクリーン HTML5、WebHelp、FlashHelp、
または FlashHelp Pro の状況依存関数呼び出し 444
WebHelp Pro の状況依存関数の呼び出し 445
HTML ヘルプの状況依存関数の呼び出し 446
デフォルトの MFC ヘルプハンドラーのオーバーライド 446
C++ アプリケーションのエアプレインヘルプ 449
Java アプリケーションのヘルプのプログラミング 449
Java アプリケーションからの関数呼び出し 450
マルチスクリーン HTML5、レスポンシブ HTML5、WebHelp、FlashHelp、
または FlashHelp Pro の状況依存関数呼び出し 451
WebHelp Pro の状況依存関数の呼び出し 451
Web ページのヘルプのプログラミング 452
Web ページのヘルプのプログラミング（WebHelp/Pro）. 452
Web ページからの関数呼び出し 453
WebHelp Pro の状況依存関数の呼び出し 455
WebHelp または FlashHelp の状況依存関数の呼び出し 455
.NET のためのヘルプのプログラミング 456
.NET の基礎 456
ヘルプの呼び出し 457
RoboHelp Server with .NET のサンプルの検索 463
URL を指定します（WebHelp Pro）. 464
RoboHelp Server with .NET で提供される Web サービス 464
サポートファイルを使用しない手順 465
WebHelp Pro 465
WebHelp 466
アプリケーションで HTML ヘルプのプログラム 470
HTML ヘルプの関数呼び出し 471
ウィンドウレベルヘルプのトラブルシューティング 472
状況依存 JavaHelp の作成 474
状況依存 Oracle Help の作成 475
What’s This? Help の作成 479
What's This? Help Composer ツールについて 479
What's This? Help と Microsoft HTML Help 479
What's This? Help Composer を使用しての状況依存ヘルプの作成 480
What's This? Help Help 480
ヒント： 481
What's This? Help プロジェクトの読み込みヘルププロジェクト 482
注意： 482
What's This? Help プロジェクトを開くヘルププロジェクト 482
What's This? Help のプロジェクトからの削除 483
What's This? のテスト BugHunter によるヘルプ 483
HTML ヘルプ API をテスト 484

What's This? Helpのトラブルシューティング 485
テキストのみトピックを保守（Microsoft HTMLヘルププロジェクト） 487
注意： 487
テキストのみトピックでの作業 488
テキストのみトピックの作成 488
ヒント： 489
テキストのみトピックの編集 489
テキストのみトピックのテスト 490
ヒント： 490
テキストのみトピックの削除 490
ヒント： 491
テキストのみトピックファイルの削除 491
状況依存ヘルプのテスト 492
状況依存ヘルプツールによるテスト 492
BugHunter for HTMLヘルプによるテスト 493
BugHunterの起動と終了 493
BugHunterデータの解釈 494
BugHunterペインのカスタマイズ 494
マップ番号の16進数での表示 494
アプリケーションでのテスト 495
状況依存ヘルプの用語 496
iOSとAndroidアプリ用のヘルプの作成 498
使用できるようになる機能 498
モバイルヘルプを実装するためのステップの拡大 498
使用可能なAPI関数 499
iOS 499
Android 499
サンプルアプリ 500
フィルタリングされたダイナミックコンテンツの状況依存ヘルプ 503
リファレンス 504
オプションダイアログボックスの「BugHunter」タブ（HTML Help） 504
表示オプション 504
例（1行） 504
例（複数行） 504
カラーオプション 504

出力の生成 505
シングルソースの基本と詳細 505
シングルソースレイアウトについて 505
RoboHelpのレイアウトタイプ 505
プライマリレイアウトの指定 506
シングルソースレイアウトの作成と編集 506

シングルソースレイアウトの作成または複製 506
シングルソースレイアウトの編集 507
シングルソースレイアウト名の変更 507
シングルソースレイアウトの削除 507
出力から無参照トピックを除外するオプションについて 508
ダイナミックコンテンツ出力の生成 508
タグコンテンツ 509
ダイナミックコンテンツフィルターの作成 510
出力でのダイナミックコンテンツフィルターの使用 512
ダイナミックコンテンツフィルターのテスト 514
動的なユーザー中心のコンテンツ（DUCC）の生成 515
Microsoft SharePointのネイティブ（ASPX）またはHTML出力の生成 516
ネイティブ（ASPX）マルチスクリーン出力のMicrosoft SharePointへの公開 516
Microsoft SharePointへのHTML出力の公開 516

レイアウトタイプの使用 517
レスポンシブHTML5のレイアウト 517
カスタマイズ可能なHTML5レイアウト 518
サポートされるブラウザー 520
オンラインとオフラインの動作 520
レスポンシブHTML5の前提条件の設定 520
HTML5出力生成のワークフロー 521
HTML5出力を作成するための推奨事項 522
マルチスクリーンのレイアウト 522
サポートされるブラウザー 524
オンラインとオフラインの動作 524
マルチスクリーンHTML5の前提条件の設定 524
HTML5出力生成のワークフロー 525
HTML5出力を作成するための推奨事項 526
eBookのレイアウト 526
WebHelpのレイアウト 527
WebHelpについて 527
WebHelpでの検索ハイライトの追加と削除 528
Section 508準拠のWebHelpの作成 528
WebHelp ProとFlashHelp Proのレイアウト 530
WebHelp ProおよびFlashHelp Proについて 530
デスクトップヘルプからWebHelp Proへの変換 531
Microsoft HTMLヘルプのレイアウト 532
Microsoft HTMLヘルプについて 532
Microsoft HTMLヘルプの生成 533
目次のブックまたはページのカスタムウィンドウへのリンク
（Microsoft HTML Help） 533
CHMファイルの抽出 535
CHMファイルの名前変更 535
HTMLヘルプファイルとコンポーネントの検索 535

CHM ファイルの置換 536
CHM ファイルの登録または登録解除 536
JavaHelp のレイアウト 536
JavaHelp について 536
JavaHelp 出力の生成 537
JavaHelp プロジェクトのマージ 538
JavaHelp の制限 538
Oracle Help のレイアウト 540
Oracle Help について 540
Oracle Help のトピック ID の更新 541
Oracle Help のトピックウィンドウの設定 542
Oracle Help とリモートビュー 542
Oracle Help の制限 545
XML のレイアウト 546
Adobe AIR のレイアウト 547
Adobe AIR レイアウトの設定 547
自己署名電子証明書の作成 562
AIR 開発者ツールで AIR ヘルプ中間アプリケーションに署名 563

出力の生成、表示、公開 563
出力生成の基本 564
最適なプロジェクト生成のためのヒント 564
レスポンシブ HTML5 出力の生成 565
モバイルアプリ出力の生成 574
App Store にモバイルアプリケーションをアップロード 582
マルチスクリーン HTML5 出力の生成 582
EPUB および Kindle Book 出力の生成 591
EPUB のリソース 591
eBook 出力の生成 592
ベストプラクティス 597
制限 597
EPUB 2.0.1 出力を生成 597
EPUB 2.0.1 出力を生成するための準備 597
EPUB 2.0.1 出力生成用スクリプトを実行 598
WebHelp 出力の生成 599
WebHelp Pro または FlashHelp Pro 出力の生成 608
Microsoft HTML Help 出力の生成 613
Oracle Help 出力の生成 615
JavaHelp 出力の生成 619
XML 出力の生成 622
EclipseHelp の生成 624
出力のバッチ生成 625
注意： 625
レイアウトのカスタマイズ 626
出力の表示 627

マルチスクリーンHTML5出力の表示 628
WebHelp、FlashHelp、WebHelp Pro、FlashHelp Proの出力の表示 628
コンパイル済みMicrosoft HTMLヘルプの表示 629
ヘルプビューアーウィザード 630
出力の公開 632
コマンドプロンプトからの出力の生成と公開 634
コマンドプロンプトからアプリケーションを開くには 634
コマンドプロンプトからのレイアウトの生成 635
コマンドプロンプトからのレイアウトの公開 635
コマンドプロンプトのオプション 635
AIRヘルプのアップデートのホスト 637
アップデートの作成とホスト 637
アップデートの送信 638

プロジェクト出力の配布 638
マルチスクリーンHTML5出力の配布 638
Multiscreen_HTML5フォルダーの出力ファイル 639
スクリーンプロファイルフォルダー内の出力ファイル 640
whxdataフォルダーの出力ファイル 640
テンプレートフォルダーのサブフォルダー 640
eブック出力の配布 641
WebHelpの配布 641
WebHelpフォルダー内の出力ファイル 642
Whgdataサブフォルダーの出力ファイル 644
Whdataサブフォルダーの出力ファイル 645
Whxdataサブフォルダーの出力ファイル 647
FlashHelpの配布 647
FlashHelpをアプリケーションと共に配布 647
FlashHelpをディスク、サーバーまたはデスクトップに公開 648
FlashHelpの出力ファイル 648
Microsoft HTMLヘルプの配布 651
ActiveXコントロールの登録 652
JavaHelpの配布 652
JavaHelp出力ファイル 653
Oracle Helpの配布 653
Oracle Help出力 654
XML出力の配布 654
Adobe AIR出力の配布 655
ローカルのブラウザーベースヘルプを実行するためのFlashPlayerTrustの設定 655
モデレーターパスワードと設定ファイルパス 656
設定ファイルの属性 656
Windows、Mac、およびLinuxのURL書式 658
新しいコメントのステータスの変更について 658

印刷ドキュメント 658
印刷ドキュメントについて 658

目次の編成とカスタマイズ 658
プロジェクトスタイルのWordへのマップ 659
作成するWordドキュメントの種類 659
印刷ドキュメントの構造 659
オンライン機能の変換 660
ページ設定 661
本文ページの設定 661
その他の設定 661
ドキュメントのコンテンツの編成とカスタマイズ 664
注意： 669
印刷ドキュメントを作成する前に 669
印刷ドキュメントの整理 669
スタイルと書式 669
コンディショナルテキスト 670
シングルソースレイアウト 671
スタイルのマッピング 671
マップされるスタイル 671
マップされないスタイル 673
スタイル名 673
RoboHelpが追加するスタイル 673
重複スタイル 673
スタイルのマップ 673
スタイルマップの書き出し 675
スタイルマップの読み込み 676
PDFの生成 676
PDFの生成 676
設定オプションでのPDFの生成 677
印刷ドキュメントの生成 677
印刷ドキュメントにヘッダーとフッターを追加する 678
デフォルトプリンターオプションの指定 680

スキン 681
スキンについて 681
スキンの編集 681
ヒント： 682
ギャラリへのスキンの追加 682
スキンの読み込み 683
スキンの書き出し 683
スキンの削除 683
スキンのプレビュー 684
スキンのコンパイル 684
Adobe AIRプロジェクトのカスタムスキンの作成 684
パレットの微調整 685
フォントプロパティの変更 686
アイコンのカスタマイズ 686

WebHelp および WebHelp Pro プロジェクトのカスタムスキンの作成 687
FlashHelp スキンのカスタマイズ 691
Flash によるスキンのカスタマイズまたは作成 691
Flash を使用しないでスキンを変更 692
スキンギャラリから WebHelp または FlashHelp のスキンを選択してのプレビュー 692
FlashHelp の垂直スタイルスキン 693

ウィンドウ 694
ウィンドウの作成または編集 694
WebHelp、WebHelp Pro、FlashHelp、FlashHelp Pro のオプション 695
HTML のオプション 696
HTML ボタンの追加 702
JavaHelp ビューアーおよび Oracle ビューアーの編集ウィンドウ 703
JavaHelp ビューアーのオプション 704
Oracle ビューアーのオプション 704
デフォルトウィンドウの割り当て 705
ウィンドウの削除 705

スクリーンプロファイル 705
スクリーンプロファイルのマルチスクリーン HTML5 SSL への追加 706
スクリーンプロファイルの変更 707
スクリーンプロファイルをプロジェクトに追加する 708
スクリーンプロファイルの削除 708
スクリーンプロファイルへのスタイルのマッピング 708
スクリーンのサイズと解像度にデバイスのピクセル比を使用 709

スクリーンレイアウト 710
スクリーンレイアウトの作成 711
スクリーンレイアウトの管理 711
スクリーンレイアウトのプレビュー 711
スクリーンレイアウトの編集 712
クリーンレイアウトページ（SLP）の追加 712
スクリーンレイアウトページのコンポーネント 712
プレースホルダーのプロパティと属性 715
スクリーンレイアウトデザインのガイドライン 718
スクリーンレイアウトページ（SLP）の編集 719
デフォルトトピックページのカスタマイズ 720

レビューと共同作業 721

デザインエディターでのレビュー 721
レビューツールバーを表示する 721
変更履歴モードを有効にする 722
レビュー設定を設定する 722

PDF レビュー 723
レビュー用の PDF を作成する 723
レビュー用 PDF に SWF を埋め込む 725

SWFにコメントを付ける 726
PDFからコメントを読み込む 726
デザインエディターに読み込まれたPDFコメントについて 727
SWFに付けられたコメントの読み込み 727
プレースホルダー、スニペット、およびヘッダーやフッターに付けられたコメントの読み込み 727

共有リソースの管理 728
共有場所を追加 729
カテゴリの追加 730
注意： 730
ユーザー間のリソースの共有 731
リソースマネージャーポッドでコンテンツを表示/非表示にする 732
共有ファイルとフォルダーの管理 732
リンク先リソースの管理 734
リンク先リソース通知の管理 736
リソースマネージャーの設定 736
アプリケーションレベルのリソースマネージャー設定の指定 737
プロジェクトレベルのリソースマネージャー設定の指定 737
バージョンコントロールアプリケーションの設定 738

コメントおよび変更の管理 739
レビューペインポッド 739
コメントおよび変更のフィルター 740
コメントおよび変更のグループ化 741
コメントに対して返信またはステータスを設定 741
変更の承認または拒否 741
コメントの削除 742

AIRヘルプでのレビューと共同作業 743
トピックレーティング 743
コメント 743
コメントを共有ネットワークフォルダーに保存する 743
RoboHelpサーバーにコメントを保存する 744
コメントの環境設定を設定する 745
コメントの追加 746
コメントモデレーション 746
コメントのモデレーション 747

プログラムの高度な機能 748

ActiveXコントロール 748
ActiveXコントロール 748
デザインタイムコントロールの追加 749
HTMLヘルプActiveXコントロールの種類 749
ActiveXコントロールの追加 750
ActiveXコントロールプロパティのカスタマイズ 750

ActiveXコントロールプロパティの削除 751
カレンダーコントロールのカスタマイズ 751

アプレット 752
注意： 753

フォーム 753
フォーム作成のワークフロー 753
フォームへのトピックの追加 754
フォームのプロパティの設定 754
フォーム要素 754
テキストフィールドの追加および編集 756
特殊フィールドの追加 757
フォームへのボタンの追加 758
画像ボタンの追加 758
チェックボックスの追加 759
ラジオボタンの追加 759
ドロップダウンメニューの追加 760

フレーム 761
フレームやフレームセットの概要 761
注意： 761
フレームセットの作成 762
フレームやフレームセットの変更 763
フレームのサイズの変更 763
フレームセットの削除 763
フレームセットのブックまたはページへのリンク 764
フレームのトピックへのリンク 764

HTMLヘルプコントロール 765
HTMLヘルプコントロールの再使用 765
WinHelpトピックコントロールの追加 765
索引コントロールの追加 767
目次コントロールの追加 767
スプラッシュ画面の追加 768
ショートカットコントロールの追加 768
HHCTRLバージョンコントロールの追加 769
クローズウィンドウコントロールの追加 770
HTMLヘルプコントロールの変更 771
HTMLヘルプコントロールの削除 771

情報の種類（HTML Help） 771
情報タイプについて（HTML Help） 771
カテゴリと情報タイプの定義（HTML Help） 772
情報タイプの割り当て（HTML Help） 773
HTMLヘルプビューアーから情報タイプにアクセス 773
情報タイプの編集（HTML Help） 774
情報タイプのカテゴリの変更（HTML Help） 774

情報タイプからのカテゴリの削除（HTML Help）. 774
情報タイプの削除（HTML Help）. 774
情報タイプのブックまたはページからの削除（HTML Help）. 774
情報タイプのカテゴリからの削除（HTML Help）. 774
スクリプト 775
スクリプトの使用 775
スクリプトのHTMLトピックの追加 775
スクリプトのイベントのサポート 776
定義済みのイベント 776
イベントの関数の登録 777
関数の登録解除 777
ExtendScript Toolkitのサポートについて 778
スクリプトの作成 780
スクリプトフォルダーの管理 780
スクリプトファイルの管理 781
スクリプトの実行 781
Twisties 782
ホットスポットでの画像の追加または変更 782
用語の画像の追加または変更 783
Twisties画像の削除 783
デフォルトのキーボードショートカット 784

はじめに

Adobe RoboHelp ソフトウェアは、ヘルプシステム、e ラーニングコンテンツ、ポリシーとプロシージャ、およびナレッジベースを開発するために設計されています。その高度な編集およびレイアウト機能により、プロレベルの外観のコンテンツを作成することができます。新しいレスポンシブ HTML5 およびモバイルレイアウト（SSL）により、RoboHelp、FrameMaker または Microsoft® Word で作成したコンテンツをモバイルデバイスおよびタブレットに読み込めるようになりました。カスタムの流動的なレイアウトを作成して、ユーザーが幅広い機器で表示し出力できるようにできます。

レスポンシブ HTML5 のレイアウトを使用すると、異なるデバイスのサイズと解像度に応じて出力を生成できます。例えば、目次を右側に配置したり、検索結果を表示するページをデザインしたりすることができます。マルチスクリーンのパラダイムでは、デスクトップは特定の幅と高さを持つ別のスクリーンです。

また、レスポンシブ HTML5 出力を RoboHelp Server 10 に公開することにより、複数のユーザーのレビューコメントを追跡し、それらをレポート作成して分析することもできます。

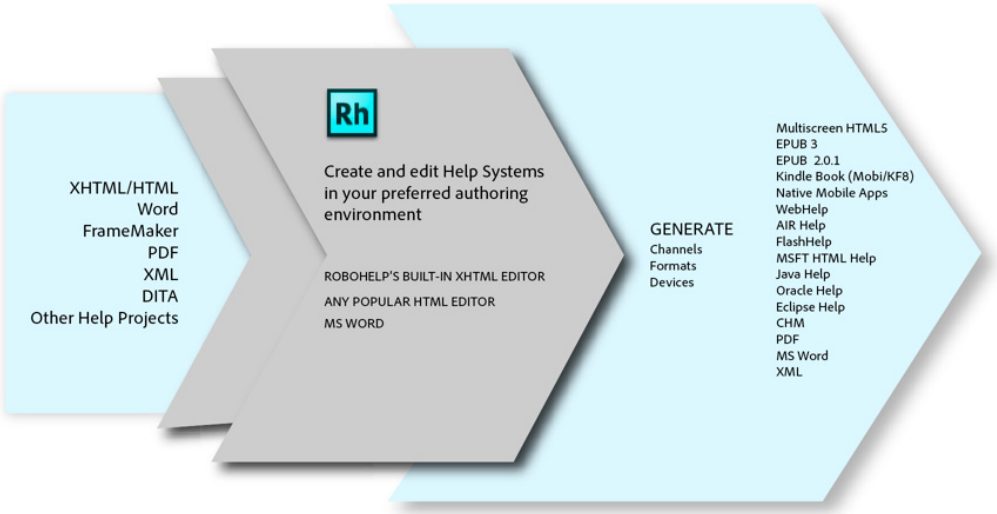
世界的にも、Adobe RoboHelp は、絶え間ないイノベーションによりオンラインヘルプオーサリングツールのリーダーとなっています。新機能は、テクニカルコミュニケーターとその対象ユーザーに対して、より生産的なエクスペリエンスを作成します。

Adobe RoboHelp の最新の情報については、
www.adobe.com/go/learn_robohelp_product_jp をご覧ください。

ソフトウェアの使用を開始する前に、基本的なワークフローやユーザーが使用できる様々なリソースの概要をお読みください。作業手順説明ビデオ、プラグイン、テンプレート、ユーザーコミュニティ、セミナー、チュートリアル、RSS フィードなど、多くの情報やサービスも用意されています。

基本的なワークフロー

情報の流れ：RoboHelpの入出力フォーマット



プロジェクトの作成

すべてのヘルプシステムに、1つ以上のプロジェクトがあります。プロジェクトの基本的要素は、トピックを参照してください。

コンテンツの編集

トピックの作成マルチメディアはここで、または後で出力をカスタマイズするときに追加できます。アプリケーション開発者と相談して、どのトピックを状況依存ヘルプにも使用するかの計画を開始してください。状況依存ヘルプのトピックは、ユーザーがインターフェイスの「ヘルプ」ボタンをクリックしたり、F1キーを押したりすると表示されます。

ファイルの読み込み

HTMLファイル、Microsoft Wordファイル（.doc、.docx、.docmおよび.rtf）、FrameMakerブックおよびドキュメント（.book、.bk、.fm、.frm、.mif）、XMLファイル（.xml）およびAdobe PDFファイル（.pdf）を読み込むことができます。

ナビゲーションの開発

コンテンツの階層または組織体系に基づいて、トピック間、および必要に応じて外部コンテンツとのリンクを作成します。その他のコンテンツに対して、テキストや画像をリンクすることもできます。コンテンツ階層を反映する目次を作成して、ユーザーが参照できる索引を含めます。ユーザーがヘルプトピックから利用できる閲覧シーケンスも作成できます。例えば、機能を完全に理解するために、ユーザーが複数の関連トピックを読む必要がある場合、トピックを閲覧シーケンスでリンクすることができます。

出力のカスタマイズ

レイアウト（動作と外観を決定する）と書式設定を適用できます。コンディショナルテキストを使用して、ユーザーの興味、使用するアプリケーション、スキルレベルなどの要素を基にコンテンツの表示と非表示を切り替えることもできます。マルチメディアを追加すると、ヘルプをより魅力的で豊かにできます。

ヘルプパッケージの生成、テストおよび配布

ヘルプを表示したり、リンクや書式設定などを確認できるように、出力を生成します。印刷されたドキュメントを含めて、配布するすべての出力をテストします。

ライセンス認証と登録

Adobe® RoboHelp® ソフトウェアの詳細な必要システム要件と推奨事項を確認するには、www.adobe.com/jp/support/robohelp を参照してください。

コンピューターがインターネットに接続されていない場合は、インストールディスクの ReadMe ファイルを確認できます。

ソフトウェアのインストール

1) コンピューターで開かれている他の Adobe アプリケーションをすべて閉じます。

2) CD ドライブにインストールディスクを挿入し、画面の指示に従います。

注： RoboHelp をインストールするコンピューターに、最新バージョンの PDF アドオンがインストールされていない場合は、RoboHelp のインストール時に最新版をインストールできます。ExtendScript ツールキットもインストールできます。RoboHelp はこのツールキットを使用してスクリプト機能を提供します。ExtendScript の詳細は、ExtendScript Toolkit のサポートについてを参照してください。

詳しくは、インストールディスクに収録されている ReadMe ファイルを参照してください。

インストールに関するヘルプ

インストール問題については、RoboHelp ハブページの「インストールおよび導入」セクションを参照してください。

ライセンス認証

インストール時、アドビソフトウェアはライセンス認証を完了するためにアドビシステムズ社のサーバーに接続します。個人データが送信されることはありません。ライセンス認証について詳しくは、アドビシステムズ社の Web サイト www.adobe.com/go/activation_jp を参照してください。

Adobe製品向上プログラム

アドビソフトウェアを一定回数使用すると、ダイアログボックスが開き、Adobe製品向上プログラムに参加するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。

参加することを選択すると、アドビソフトウェアの使用状況に関するデータがアドビシステムズ社に送信されます。個人情報は記録されず、送信もされません。Adobe製品向上プログラムでは、ソフトウェアで使用している機能やツール、またその使用頻度に関する情報だけが収集されます。

このプログラムへの参加と参加とりやめは随時できます。

- 参加するには、ファイル／ヘルプ／ Adobe 製品向上プログラムを選択し、「はい、参加します」をクリックします。
- 参加を取り消すには、ファイル／ヘルプ／ Adobe 製品向上プログラムを選択し、「いいえ、結構です」をクリックします。

アドビ製品向上プログラムについては、Adobewebsiteを参照してください。

登録

製品を登録すると、無料のインストールサポート、アップデート通知、その他のサービスを受けることができます。

注： RoboHelpの製品登録は一度だけ行います。

1) 製品登録をするには、ソフトウェアをインストールした後に表示されるユーザー登録ダイアログボックスで、画面の指示に従います。

ヘルプとサポート

Adobe コミュニティヘルプ

Adobe コミュニティヘルプは、コミュニティで作られるコンテンツにアクセスできるよう adobe.com に開設された統合環境であり、Adobe および業界の専門家によって管理されています。コミュニティヘルプは、本というよりは関連項目のコレクションです。Adobe は、これらのコレクションを持続的に監督し、追加します。

RoboHelp ヘルプハブページをブックマークすることで、以下のリソースを含む RoboHelp に関する最良のコンテンツを Web 上で見つけることができます。

- デザイナーおよびデベロッパー向けのビデオ、チュートリアル、ヒント & テクニック集、ブログ、記事、サンプル。
- 詳細で定期的に更新されるオンラインヘルプ
- サポートデータベースの記事、ダウンロードとアップデート、デベロッパーコネクションなど、その他すべての Adobe.com コンテンツ。

RoboHelp ヘルプへのアクセス

Web ブラウザーを使用したヘルプへのアクセス

RoboHelp ヘルプにオンラインでアクセスするには、RoboHelpHelp にアクセスします。製品の状態に関係なく、Web ブラウザー（Internet Explorer、Safari、Chrome、Firefox など）を使用してヘルプを表示できます。つまり、Web ブラウザーを使用してオンラインヘルプにアクセスするときに、RoboHelp を開く必要はありません。

オンラインヘルプには、RoboHelp ドキュメントまたは adobe.com のヘルプを検索できる検索機能があります。

オンラインヘルプにはさらに、オフライン時にダウンロードして表示できる PDF も含まれています。

オフラインヘルプの詳細については、オフラインヘルプを参照してください。

RoboHelp 内からのヘルプへのアクセス

RoboHelp での作業中には、F1 を押すと、状況依存ヘルプビューアーでヘルプが起動します。

- オンライン環境で RoboHelp 内からヘルプを起動すると、ヘルプビューアーでオンラインヘルプが起動します。このビューアは、新しいウィンドウに表示されます。マルチスクリーン環境では、RoboHelp を 1 つのスクリーンに表示し、ビューアーを別のスクリーンまでドラッグして表示することができます。

  ビューアは状況依存であるため、アプリケーション内のコンテキストに対応するヘルプトピックを表示できます。

  例えば、マルチチャネル公開ポッドを使用している場合、F1 を押すと、その機能に対応するヘルプコンテンツが表示されます。

  注: ヘルプビューアーの検索機能を使用すると、RoboHelp ヘルプのトピックを検索できます。RoboHelp 内および adobe.com のヘルプを検索するには、Web ブラウザーを使用してオンラインヘルプにアクセスします。

- オフラインの状態では、状況依存ヘルプが Microsoft Help（CHM）ビューアで表示されます。オフラインビューアでも、オンラインヘルプビューアを使用したときと同じ製品内状況依存機能が提供されます。

  重要: オフラインヘルプの CHM ファイルは、Adobe が提供する新しいパッチが適用された状態で提供されます。今後リリースされるパッチで RoboHelp ヘルプが更新された場合は、本ナレッジベース記事の指示に従い、更新されたヘルプファイルをダウンロードおよびインストールしてください。

サービス、ダウンロード、その他

製品に様々なサービス、プラグインおよび拡張機能を組み込むことによって製品を強化できます。サンプルおよびその他のアセットをダウンロードし、作業は完了するための各種リソースを見ることができます。

Adobe Exchange

サンプルおよびアドビシステムズ社やサードパーティのデベロッパーによるプラグインおよび拡張機能は、www.adobe.com/go/exchange_jp の Adobe Exchange からダウンロードできます。プラグインや拡張機能を使用すると、作業の自動化、ワークフローのカスタマイズ、プロ級の効果の作成などを行うことができます。

Adobe ダウンロード

無料のアップデート、体験版、その他の便利なソフトウェアは、
www.adobe.com/go/downloads_jp でダウンロードできます。

Adobe Labs

Adobe Labs（www.adobe.com/go/labs_jp）では、アドビの新しい技術および製品を体験し評価することができます。Adobe Labs では次のようなリソースにアクセスできます。

- リリース前のソフトウェアおよび技術
- 学習に役立つコードサンプルと訓練
- 製品および技術に関するドキュメントの旧バージョン
- 同様の目的を持つユーザーとの交流に役立つ、フォーラム、wiki ベースのコンテンツ、およびその他の共同リソース

Adobe Labs は共同のソフトウェア開発プロセスを促進させます。この環境を利用することで、お客様は新しい製品や技術に関する生産性をすばやく向上させることができます。また、Adobe Labs は早期フィードバックを受け付けるためのフォーラムでもあります。フィードバックは、Adobe 開発チームがお客様のニーズを取り入れ、コミュニティのご期待に応えるための参考にさせていただきます。

Adobe フォーラム

Adobe RoboHelp コミュニティの専門家を利用するには、www.adobe.com/go/learn_robohelp_forum_jp にアクセスしてください。ヘルプページでコメントすると、そのコメントが自動的にフォーラムに投稿されます。専門家や他のユーザーはそのコメントに答えることができます。

Adobe TV

Adobe TV（http://tv.adobe.com/jp）では、操作手順やヒントについてのビデオを提供しています。Technical Communications チャンネルには、technical communicators に関するビデオがあります。RoboHelp チャンネルのビデオが役立ちます。

RoboHelp サンプルプロジェクトと出力

RoboHelp リソースページにアクセスして、RoboHelp で作成したサンプルプロジェクトおよび状況依存ヘルプの実装のために設定されたワークスペースおよびアプリケーションなどのその他のリソースをダウンロードしてください。

RoboHelp デベロッパーセンター

RoboHelp デベロッパーセンターにアクセスして、ユーザリクエストトピックについて、内部、外部の RoboHelp ユーザが書いた記事を参照してください。

旧バージョンの RoboHelp ヘルプ

RoboHelp ヘルプハブページから、旧バージョンの RoboHelp のマニュアルをダウンロードしてください。

RoboHelp（2017 release）の新機能

次世代 HTML5 パブリッシングによる魅力的なインタラクティブコンテンツ作成

次世代レスポンシブ HTML5 のレイアウト

充実した新しい HTML5 レイアウトを使用することで、対象ユーザーに視覚的にリッチなコンテンツを提供できます。インターフェイスの見た目と使用感がよりすっきりしたことで、もっとも有益な情報に素早くジャンプできるようになりました。専門的にデザインされたレイアウトが、優れた検索性能と直感的なナビゲーション体験を提供します。

新レイアウトには、ページ内のトピックスライダー、用語集や目次などのウィジェットを表示／非表示、トピックをお気に入りに追加などの一連の便利な機能があらかじめロードされています。画面やデバイスのサイズを問わず Web サイトを快適に機能させるレスポンシブなデザインを提供します。コンテンツは、デバイスの画面サイズに応じてダイナミックに調整されます。

詳しくは、カスタマイズ可能な HTML5 レイアウト

オートコンプリートでより迅速に検索

レスポンシブ HTML5 出力の検索フィールドに、入力された数文字に基づいて予測検索結果が表示されるようになりました。SVG 画像のテキストを含むヘルプコンテンツ全体にインデックスが付けられ、コンテンツ全体を検索できるようになりました。

検索ボックスにトピック、テーマ、またはキーワードの最初の数文字を入力すると、予測候補がドロップダウンに表示され始めます。検索結果は瞬時に表示され、検索文字列をすべて入力する必要も、検索ボタンを毎回クリックする必要もありません。ユーザーはより短い時間とより少ないクリック回数で、よりコンテキストに合致し関連性の高い優れた結果を得られるようになりました。

背景で機能するパワフルなアルゴリズムが、検索結果を絞り込んで作業効率を高めます。これにより検索タスクが大幅に簡略化され、正確な結果がもたらされます。検索結果は、コンテンツ内での検索用語の出現頻度に基いてインテリジェントにランク付けされます。

詳しくは、検索のオートコンプリート。

画像のサムネールサポート

新しい画像のサムネールサポートにより、画像をサムネールとして公開・表示することが可能になりました。これによりページロード時間が削減され、結果として帯域が節約される可能性があり、コンテンツをモバイルデバイスに対応させて表示するのがより容易になりました。

ユーザーは任意にサムネール画像をクリックし、より大きな画像をダウンロードすることができます。これによりコンテンツがユーザーフレンドリーになり、ユーザーは見る必要のない大きな画像ファイルをダウンロードしなくて済むようになりました。画像サムネールが導入されたことで、ユーザーは関心のある画像のみをクリックすることが可能になりました。ユーザーはサムネールの標準サイズをより柔軟に設定できるようになりました。これにより、公開された出力の全体に渡ってサムネールの見た目と印象を統一できます。

詳しくは、画像のサムネール。

コンテンツアクセシビリティの向上

インディゴテーマの新しいレスポンシブなHTML5レイアウトを使用して生成される出力は、リハビリテーション法第508条に準拠しています。Webサイトのユーザビリティおよびアクセシビリティ向上により、オンラインコンテンツのリーチを拡大することができます。Webサイトをアクセシビリティ基準に準拠させることは、特別なニーズの有無に関係なく、すべてのお客様の利益になります。アクセシブルなコンテンツの大きな潜在的メリットは、検索エンジンでヒットしやすくなる点です。

レスポンシブなHTML5レイアウトにお気に入りを追加

新しいインディゴテーマのレスポンシブHTML5のレイアウトでは、トピックをお気に入りとしマークしてカスタムリンクを追加することにより、コンテンツに再度アクセスする際の時間と手間を省くことができます。

より短い時間でより多くのことを

バゲッジファイルへのフォルダーの読み込み

バゲッジファイルにフォルダーを読み込む機能によって、時間を節約し作業を効率化します。フォルダーに複数のバゲッジファイルが保存されている場合は、シングルクリックでそのフォルダーをプロジェクトに追加することで、すべてのファイルを追加できます。これにより、サポート情報を含む関連するフォルダーの読み込みがはるかに容易になります。追加されたフォルダーの階層構造は、プロジェクトのバゲッジファイルフォルダーにおいて保持されます。

詳しくは、ファイルおよびフォルダーのバゲッジフォルダーへの追加。

変数の表示を切り替え

キーボードショートカットまたはコンテキストメニューを使用して、変数名とその値を簡単に切り替えることで、コンテンツのアクセシビリティを高め、時間を節約することができます。これはコンテンツをエンドユーザーと同じ視点で見る助けになります。単一の変数、またはプロジェクトで使用しているすべての変数をシングルクリックで切り替えられるようになりました。

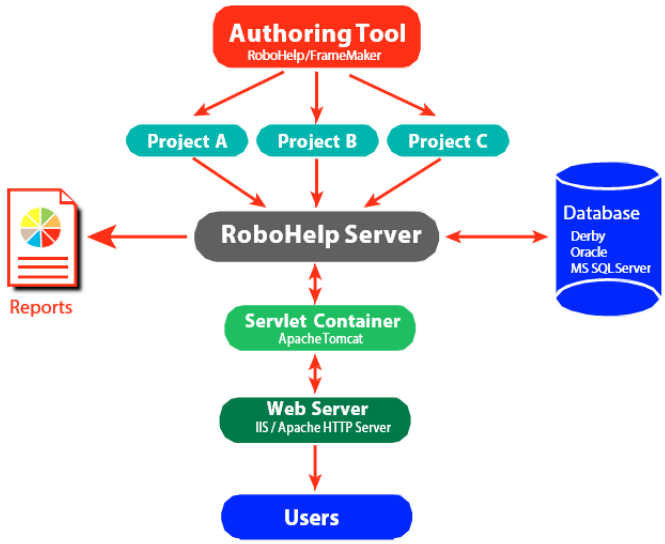
詳しくは、変数の表示を切り替え。

RoboHelp サーバーについて

Adobe RoboHelp Server は、ヘルプとナレッジベースに対してリアルタイムのエンドユーザーフィードバックを提供する、サーバーベースのヘルプソリューションです。RoboHelp Server は、ユーザーがコンテンツを検索中に行った質問や、ユーザーがトピックをナビゲートした方法などに関するデータを収集しログに記録します。結果は簡単に閲覧できる形式で表示され、素早く解釈できます。ヘルプシステムはサーバー上（例えば、Adobe Help Resource Center）に設置され、ヘルプシステムのコンテンツを瞬時に更新できます。

RoboHelp Server は、バックエンドプロセス、データベース機能、および統合のために必要な JDBC 接続を含んでいます。RoboHelp Server はオーサリングツールと一緒に機能するので、作者はコンテンツを編集し、マスタープロジェクトオプションを設定し、ウィンドウを管理し、レポートを表示することができます。

RoboHelp Server とさまざまなコンポーネントの相互関係



注： RoboHelp Server を使用すると、別のマシン上にデータベースサーバーを設置したり、既存のデータベースサーバーを使用したりできます。

追跡とレポート

Adobe RoboHelp Serverは、エンドユーザーに対して、質問があるときに情報を見つけるための機能を提供します。ユーザーは標準のブラウザーとオペレーティングシステムを使用してコンテンツを表示できます。公開されたドキュメントにアクセスできるユーザー数に制限はありません。

注: robohelp_server.propertiesファイルの`maxload`プロパティを使用して、OracleおよびMicrosoft SQL Serverデータベース管理システムの最大データベース接続数を定義できます。

RoboHelp Serverは、次の種類のデータを追跡します。

- ユーザーが支援を要求した場所：ユーザーが特定の情報を繰り返し要求した場所を特定します。
- ユーザーが検索した方法：ユーザーが繰り返し実行した検索。これらのデータを調べることにより、頻繁に検索される情報をコンテンツ内の注目されやすい位置に移動して、ユーザーが簡単にアクセスできるようにすることができます。また、これらの情報を使用して、情報の不足部分を探し、見出しタイトルを改善して、さらに直感的なナビゲーションができるようにすることができます。
- ユーザーがオンラインコンテンツをナビゲートした方法：ユーザーがオンラインコンテンツ内で情報を探した方法や、ユーザーが見出しや記事など特定の情報にアクセスした頻度を追跡します。これらの情報はトピックレベルで入手できます。
- RoboHelp Server はすべでのオペレーティングシステムとブラウザーの詳細を追跡します。この情報を使用することで、ユーザーがお気に入りのブラウザーに対して、コンテンツの品質を改善することができます。

プロジェクトの自動マージ

複数のプロジェクトで同時に作業でき、ランタイム時にそれらを単一のプロジェクトにマージできます。

オンライン情報システムを構築しながら、作者は自分のスケジュールに従ってコンテンツを開発し公開できます。RoboHelp Serverには自動プロジェクトマージ機能があるので、作者はプロジェクトのさまざまな部分に対して同時に作業を行うことができ、これらを同じサーバーに公開できます。エンドユーザーがコンテンツを表示するときに、ユーザーは1つのシームレスなオンライン情報システムを見ることになります。ソースの共有や単一作者または単一プロジェクトを心配することはありません。個別に作業したすべてのプロジェクトは、ユーザーがコンテンツにアクセスしたときにマージされます。ユーザーは、索引ボタン、コンテンツボタン、および検索ボタンを使って、すべてのプロジェクトをナビゲートできます。

デフォルトでは、複数のプロジェクトは、それらがサーバーに公開された順番で目次に追加されます。この順番は、Web管理者インターフェースのプロジェクトページでカスタマイズできます。プロジェクトのマージ時に、オーサリングツール内での各プロジェクトファイルはそのままの状態に留まりますが、索引と用語集の用語からのキーワードは、実行時またはエンドユーザーがサーバーから情報システムにアクセスしたときに結合されます。

英語以外の言語のサポート

実行時インターフェース（目次、索引、用語集、検索を含む）は自動的にローカライズでき、作者はさまざまな言語で作成されたプロジェクトを同一サーバーに公開できます。RoboHelp Serverは、フランス語、ドイツ語、日本語のローカライズをサポートしています。オンラインシステムのユーザーインターフェイスの表示テキストは、コンテンツ、索引、検索のボタンのテキストを含め、別の言語に変更できます。

さらに、エンドユーザーはオンラインコンテンツの全文検索を母国語で実行できます。このような柔軟性により、作者は英語以外の言語でコンテンツを開発でき、サーバーベースのオンライン情報システムに利点を活用できます。

Sharepoint との統合

RoboHelp バージョン 10 以降では、Microsoft SharePoint とネイティブで統合できます。この統合により、SharePoint をコンテンツリポジトリとして使用したエンドツーエンドのワークフローが実現できます。また、プロジェクトとユーザーの全体に渡って共有する RoboHelp アセットも実現できます。SharePoint ワークスペースを、RoboHelp 生成 PDF のレビューのためのリポジトリとして使用したり、RoboHelp コンテンツを SharePoint サーバーに最終的に公開したりできます。

SharePoint を RoboHelp コンテンツのためのコンテンツリポジトリとして使用

RoboHelp は、Microsoft SharePoint 2010 以降によるバージョンコントロールをネイティブでサポートします。すなわち、サードパーティのプラグインをインストールする必要がありません。RoboHelp プロジェクトを SharePoint リポジトリに追加します。こうすることにより、ファイルをチェックインしたりチェックアウトしたり、RoboHelp 内から他のバージョンコントロール操作を実行したりできます。詳細については、Microsoft SharePoint でのバージョンコントロールを参照してください。

デスクトップおよびモバイルの両方のアクセスのために、マルチスクリーンおよびレスポンシブ HTML5 コンテンツを SharePoint にネイティブで公開

Microsoft セキュリティと互換性推奨条件に従って、RoboHelp コンテンツを RoboHelp 内から直接 SharePoint サイトに公開できます。RoboHelp は、マルチスクリーン HTML5 およびレスポンシブ HTML5 出力を SharePoint にネイティブフォーマット（ASPX）で公開でき、SharePoint で問題なく出力を表示できます。公開してた出力を表示する場合、SharePoint Chrome では、トピックが一つの連続した HTML ページとなります。SharePoint への公開の詳細については、次のように、SharePoint タブの詳細に関するそれぞれのダイアログのドキュメントを参照してください。

- マルチスクリーン HTML5 出力の生成
- レスポンシブ HTML5 出力の生成

RoboHelp のプロジェクトおよびユーザーに対する SharePoint アセットのリンク

SharePoint アセット（画像、マルチメディアファイル、録画ビデオ、CSS ファイルなど）を、複数の RoboHelp プロジェクトおよび作成者に対してリンクできます。**RoboHelp** リソースマネージャーのライブリンクは SharePoint と統合されます。すなわち、アセットが 1 人の作成者によって変更されたときに、その変更が、そのアセットを使用（リンク）しているすべてのトピックおよびすべての RoboHelp プロジェクト内に反映されます。SharePoint の場所を追加する方法については、共有場所を追加を参照してください。

RoboHelp コンテンツを SharePoint ワークスペースにホストして PDF レビューを行う

レビューのために送信する RoboHelp トピックを選択します。レビュー用のこの PDF を SharePoint ワークスペースにホストし、そのリンクをレビューする人に送信します。レビュー者は無償の PDF リーダーを使用してレビューコメントを書き入れることができるので、他のソフトウェアをインストールしたり学習したりする必要がありません。SharePoint ワークスペースに保存されたすべてのコメントを RoboHelp プロジェクトに 1 回のクリックですべて読み込むことができます。詳細については、PDF レビューを参照してください。

SharePoint バージョンマトリクス

RoboHelp バージョンと SharePoint バージョンのサポートの詳細を、次のマトリクスに示します。

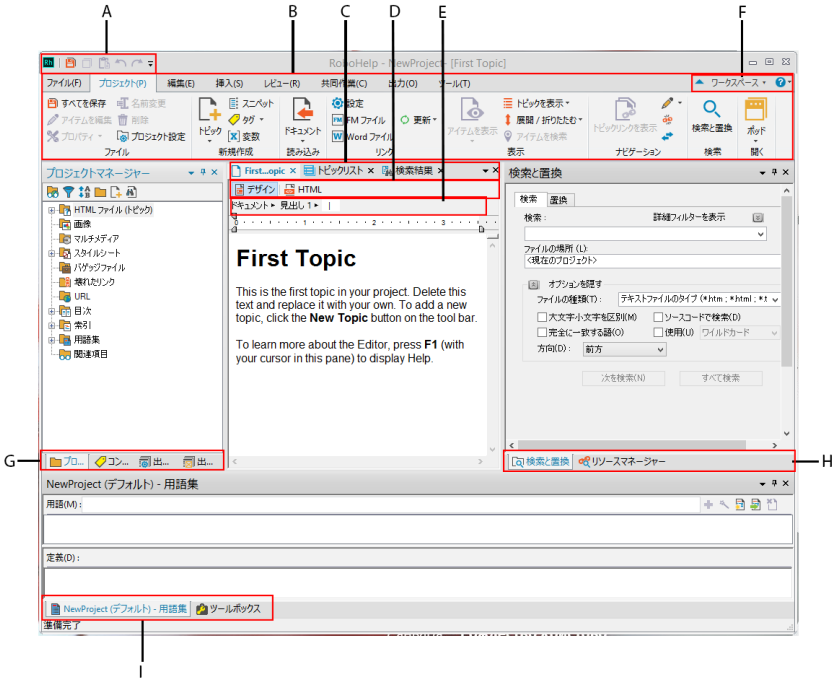
RoboHelp バージョン	バージョンコントロール	公開	リソース共有	レビュー
11	SharePoint 2010 +	ネイティブサポート：SharePoint 2010 + SharePoint の割り当てドライブ経由：SharePoint 2007	SharePoint 2007、2010 +	SharePoint 2007、2010 + Adobe Acrobat X +
10	SharePoint 2010	ネイティブサポート：SharePoint 2010 SharePoint の割り当てドライブ経由：SharePoint 2007	SharePoint 2007、2010	SharePoint 2007、2010 Adobe Acrobat X +

ワークスペースの概要

ワークスペースの概要

RoboHelp では、ポッド、ペイン、バー、ウィンドウなど、さまざまな要素を使用して作業できます。これらの要素の構成を、ワークスペースと呼びます。RoboHelp のワークスペースには、ポッド、ペイン、カスタマイズ可能なタブが表示されます。クイックアクセスツールバーをカスタマイズして、使用頻度の最も高いコマンドを表示できます。また、キーボードショートカットをカスタマイズすることもできます。

RoboHelp ワークスペース



A.

クイックアクセスツールバー

B.

タブ

C.

タブ付き文書ペイン

D.

デザインおよびHTML表示ペイン

E.

ドキュメント領域セレクター

F.

ワークスペース切り替えコントロール

G、H、I.

様々なポッド

クイックアクセスツールバー

右上隅にあるクイックアクセスツールバーには、使用頻度の最も高いコマンドが表示されます。

右端のドロップダウンには、以下のオプションが表示されます。

その他のコマンド

カスタマイズダイアログ内：

RoboHelpキーボードショートカットのカスタマイズ

RoboHelpテーマの変更：明または暗アイコン、カラーまたはグレースケールアイコン

クイックアクセスツールバーへのコマンドの追加または削除

リボンの下に表示

クイックアクセスツールバーをリボンの上（デフォルト）または下に表示します。

リボンを最小化

RoboHelpリボンの表示（デフォルト）と非表示を切り替えます。

RoboHelp タブ

RoboHelp タブ（プロジェクト、編集、出力、レビューなど）から、使用可能なすべての RoboHelp コマンドに簡単にアクセスできます。詳細については、RoboHelp タブでの作業を参照してください。

タブ付き文書ペイン

トピックウィンドウまたはタブ付き文書ペインには、現在編集中のトピックが表示されます。複数のトピックを同時に編集するには、ファイル／オプション／複数のトピックの編集を許可するを選択します。複数のトピックでオブジェクトや選択内容をペーストすることができます。トピックの水平または垂直のタイル表示を選択できます。

トピックウィンドウのデザインボタンと HTML ボタンを使用すると、デザインエディターと HTML エディターを切り替えることができます。

複数のトピックが開いているときに、タブ付き文書ペインの右上角にある下向き矢印ボタンをクリックすると、開いているトピックのリストが表示され、任意のトピックに移動できます。

タブ付き文書ペインにある固定のボタンを活用して、トピックを迅速に開いたり閉じたりできます。

タブを右クリックすると、アクティブトピックを保存したり、アクティブトピックを閉じたり、すべてのトピックを閉じたり、すべてのアクティブトピックを閉じたり、水平または垂直タブグループを作成したりするオプションが表示されます。

ポッド

プロジェクトマネージャー、出力設定、リソースマネージャー、シングルソースレイアウトなど、さまざまなポッドが用意されており、プロジェクトを作成したり必要な出力を生成したりするさまざまな手順を容易に完了できます。プロジェクト／開く／ポッドを選択し、必要に応じてポッドの表示と非表示を切り替えます。

注： また、ポッドのリストを表示するには、編集タブに移動します。

ポッドのタイトルバーの状況依存メニューから、ポッドをさまざまな方法で配置するためのオプション（ドッキング、フローティング、タブ付き文書）を選択できます。このメニューには、ポッドを隠したり閉じたりするオプションも含まれています。

RoboHelp タブでの作業

RoboHelp コマンドは論理グループに分けられ、対応するタブにまとめて表示されます。各タブには、関連する機能のコマンドが表示されます。タブのグループ分けは、ユーザーが実行したタスクに基づいて決まります。例えば編集タブには、RoboHelp コンテンツを編集するためのコマンドが表示されます。出力タブには、出力の生成に関連するコマンドが表示されます。

一般的なコマンドの一部は、複数のタブに表示されます。例えばポッドドロップダウンは、プロジェクトタブと編集リボンに表示されます。また、状況依存のタブは、関連するコンテキストでのみ表示されます。例えば表タブは、表で作業しているときにのみ表示されます。

RoboHelp インターフェイスには、以下のタブが表示されます。

タブ	説明
File	プロジェクトを開く、閉じる、名前を変更する、最近のプロジェクトのリストを表示するなどのオプションが表示されます。このタブには、ヘルプリソースやコミュニティリソースへのリンク、および RoboHelp 環境設定をカスタマイズするためのオプションも表示されます。
プロジェクト	プロジェクトに関連付けられているコマンドが表示されます。トピック、スニペット、タグ、変数などのプロジェクトレベルのコンポーネントを管理、作成、読み込み、編集、削除できます。プロジェクト全体で現在保存されていない変更を保存できます。
編集	スタイルシートの作成や編集などのオーサリングタスクを実行できます。トピック、スニペット、またはマスターページのコンテンツのオーサリング中に、このタブのコマンド（太字、斜体、フォント、行揃えなど）を選択できます。また、タグをコンテンツに適用することもできます。
挿入	プロジェクト内の任意のポイントに各種オブジェクトを挿入するためのコマンドを使用できます。表、画像、Captivate コンテンツ、スニペットなどのオブジェクトを挿入できます。
レビュー	PDF 共有レビューのコメントを設定したり、読み込んだりするときに、このタブのコマンドを使用できます。このタブには、ドキュメントレビューで変更を追跡、承認、拒否するためのコマンドも表示されます。
共同作業	ユーザー間でプロジェクトリソースを共有するためのコマンドが表示されます。また、バージョンコントロールを設定したり、使用したりすることもできます。
出力	このタブには、RoboHelp 出力を作成、設定、生成、表示するためのオプションが表示されます。

タブ	説明
ツール	レポートを作成したり、表示したりすることができます。特定のコマンドを実行するために使用できる多数のスクリプトが用意されています。このタブのスクリプトリストからスクリプトを選択し、実行できます。
表	マージ、分割、罫線と網かけなど、表に関連するコマンドが表示されます。 注意：このタブは状況依存であり、挿入ポイントが表内である場合にのみ表示されます。
配置	配置済みテキストボックスの位置とサイズを決定できます。 注意：このタブは状況依存であり、配置済みテキストボックスが選択されている場合にのみ表示されます。配置済みテキストボックスを挿入するには、挿入タブで「配置済みテキストボックス」を選択します。

ポッドの操作

ポッドとは、アプリケーションウィンドウの任意の場所に移動またはドッキングすることのできるワークフローペインです。ポッドを使用すると、ある場所から、論理的にグループ化された機能に素早くアクセスできます。例えば、シングルソースレイアウトポッドから様々なレイアウトを選択および生成することができます。

RoboHelp では、柔軟なオプションを使用して、頻繁に使用するポッドとプロジェクトにアクセスできます。ポッドは画面上や別のモニター上の任意の場所に移動できます。デスクトップ上でポッドを表示にしたり非表示にしたりするには、ポッドを自動的に非表示にする機能を使用します。

ポッドの表示

1) 次のいずれかを行います。

- プロジェクト／開く／ポッド／ [ポッド名] を選択します。
- プロジェクト／開く／ポッド／ [ポッド名] を選択します。

ポッドの整列

- ポッドのタイトルバーをクリックして、それを画面上の必要な部分でドラッグしドロップします。
- ポッドの表示を変更します。

  a) 次のいずれかを行います。

  - ポッドの右上角にある下向き矢印ボタンをクリックします。
  - ポッドのタイトルバーを右クリックします。

  b) 次のいずれかのオプションを選択します。

ドッキング

ポッドがタブ付き文書ステートまたはフローティングステートにある場合は、ポッドがドッキングされます。

閉じる

ポッドを閉じます。

フローティング

ポッドがタブ付き文書ステートまたはドッキングステートにある場合は、ポッドがフローティングされます。

自動的に非表示

ポットがタブ付き文書ステートにない場合は、ポッドが固定または固定解除されます。

タブ付き文書

トピックウィンドウの新しいタブにポッドを開きます。

ポッドの種類

スターターポッド

スターターポッドには一般的なコマンドおよび製品情報へのリンクがあります。

最近のプロジェクト

最近使用したプロジェクト（最近のプロジェクトを最大10まで表示）とその他のプロジェクトを開きます。

新規作成

生成するヘルプの種類を選択します。

読み込み

HTMLヘルププロジェクト、Wordドキュメント、およびその他の使用可能な種類のヘルププロジェクトを読み込みます。

リソース

フォーラム、開発者センター、ナレッジベース記事、完全オンラインヘルプ、ビデオ、その他のオンラインコンテンツにアクセスします。

スターターポッドにある最新学習リソースのストリームにアクセスします。このストリームがわずらわしい場合は、全般設定にある「開始ページに学習リソースを表示する」オプションを選択解除して非表示にすることができます。

プロジェクトマネージャーポッド

プロジェクトマネージャーポッドには様々なフォルダが含まれていて、そのフォルダでプロジェクトファイルを作成および削除したり、そのプロパティを編集したりします。このポッドには、目次、索引、用語集など、プロジェクトのさまざまな主要コンポーネントのためのフォルダーがあります。

ヒント: プロジェクトが多くのトピックを持っている場合は、最初にプロジェクトファイルフォルダーを縮小して他のフォルダーが見えるようにしてください。

関連するリンク:

プロジェクトマネージャーフォルダー

出力設定ポッド

出力設定ポッドには、次のフォルダーがあります。

ウィンドウ

出力用のコンテナ。プロジェクト用のカスタムウィンドウはこのフォルダーに格納されます。ウィンドウのプロパティを変更するには、ウィンドウのアイコンをダブルクリックします。

マスターページ

情報を再利用し、トピックの標準的な外観を作成するには、マスターページを使用します。

スキン

ヘルプシステムの外観を変更するには、WebHelp プロジェクトまたは FlashHelp プロジェクトでスキンを使用します。企業 Web サイトの外観に一致させたり、出力に趣向やスタイルを追加することができます。スキンを使用すると、色、ボタン、テキスト、フォント、アイコン、背景、マルチメディア（FlashHelp プロジェクト）、目次アイコンやナビゲーションボタンの画像などをカスタマイズすることができます。

スクリーンプロファイル

マルチスクリーン HTML5 出力で使用されるスクリーンプロファイルのコンテナ。

スクリーンレイアウト

マルチスクリーン HTML5 出力で使用されるスクリーンレイアウトのコンテナ。

状況依存ヘルプ

マップファイルフォルダーおよび What’s This Help Files フォルダーのコンテナ。

- マップファイルフォルダーを使用すると、マップファイルにアクセスし、ウィンドウレベルの状況依存ヘルプのほとんどのタスクを実行できます。
- HTML ヘルププロジェクトで、What's This Help Files フォルダーをフィールドレベルの状況依存ヘルプ用に使用できます。

関連するリンク：

Windows
マスターページ
スキン
スクリーンプロファイル
スクリーンレイアウト
状況依存ヘルプに関する基本情報
マップファイルとマップ ID

スニペットポッド

プロジェクトにカスタム HTML コードスニペットを追加して、後で目的のトピックに挿入します。複数のトピックで共有しているコードスニペットを変更すると、その変更は関連するすべてのトピックに反映されます。

スニペットは、.hts 拡張子を付けた個別のファイルとしてスニペットライブラリに保存されます。スニペットポッドでは、スニペットをカテゴリで分類し、カテゴリを展開または折りたたんで見やすくすることができます。スニペットポッド内および挿入ダイアログボックス内では、カテゴリ名がソートされて表示されます。スニペットをトピック内の目的の場所にドラッグすることができます。スニペットを選択して、コピー、複製、または削除を行うこともできます。スニペットをプレビューするには、コンテキストメニューから「プレビュー」オプションを選択します。

関連するリンク：

スニペット付きシングルソース

スタイルと書式ポッド

スタイルを素早く適用するには、スタイルと書式ポッドを使用します。ポッドでスタイルを選択し、トピック内の選択したテキストに適用します。ポッドから直接スタイルを作成および編集することができます。スタイルを名前変更、削除、またはプレビューするには、スタイルの名前を右クリックします。

注： スタイルと書式設定を表示するには、プロジェクト／開く／ポッド／スタイルと書式設定を選択します。スタイルと書式ポッドを表示するには、トピックを開く必要があります。

関連するリンク：

スタイルと書式ポッドを使用してスタイルを作成

ユーザー定義変数ポッド

ユーザー定義変数ポッドからは次のタスクを実行できます。

- 変数を作成、編集、または削除する。
- 変数セットを作成、編集、または削除する。
- 出力の生成中に、様々な変数セットに一意のランタイム値を指定および変更します。
- 変数の値を書式設定する。

関連するリンク：

ユーザー定義変数

エラーリストポッド

エラーリストポッドには、トピックまたはマスターページの検証を試みるときに表示されるエラー、警告およびメッセージ用のボタンが表示されます。これらのボタンをクリックすると、関連する情報がエラーリストに表示されます。ボタンのキャプションにエラー、警告またはメッセージの数が示されます。関連する情報を表示するには、これらのボタンをすべてクリックします。

出力ビューポッド

出力ビューポッドには、RoboHelp がコンテンツを読み込んでいるときまたはプロジェクト出力を生成しているときに発生した重要なエラー、警告、メッセージが表示されます。クイックアクセスツールバーと右クリックオプションを使用すると、ログを保存、コピー、選択、消去できます。

ツールボックスポッド

ツールボックスポッドには、RoboHelp に付属するさまざまなツールにアクセスするためのショートカットアイコンが用意されています。ツールを追加することもできます。

グラフィックロケーター、HTML ヘルプスタジオ、サイズ変更などのデフォルトツールがあります。

リソースマネージャーポッド

リソースマネージャーでは、プロジェクトを通じて使用するすべての共通リソースが格納され、共通リソースファイルの迅速なアクセスおよび管理が行われます。

共有場所

プロジェクト間で使用するためのリソースファイルを保存するさまざまな共有フォルダーを指定します。共有場所には任意のタイプのファイルが保存できますが、リソースマネージャーが表示するのは、定義されているファイルタイプ（カテゴリを追加/編集で定義）に一致するものだけです。

カテゴリ

カテゴリを指定し、ファイルタイプに従ってリソースを整理します。たとえば、ビデオという名前のカテゴリを追加し、それに .flv、.swf、.avi ファイルタイプを関連付けることができます。

ファイルタイプ

カテゴリに関連付けられている拡張子を一覧で表示します。たとえば、画像カテゴリの場合は、リソースマネージャーが画像として使用するべきすべてのファイルタイプを一覧で表示します。

リンク先リソース

リンク先リソース（共有場所のオリジナルバージョンにリンクされているプロジェクト内のリソース）を管理します。オリジナルバージョンとコピーを同期したり、リンクを削除して更新の自動追跡を中止したり、同じファイルタイプの別のリソースへのリンクに置き換えたりします。

関連するリンク：

共有リソースの管理

外部コンテンツ検索ポッド

外部コンテンツ検索ポッドでは、ヘルプシステム外のコンテンツ（例えばブログ）の URL を指定し、ユーザーが検索しそうな用語にマッピングできます。このようにして関連コンテンツを補佐することにより、ユーザーに対して検索処理を最適化し、ユーザー生成コンテンツへ簡単にアクセスできるようになります。

関連するリンク：

外部コンテンツ検索

RoboHelp サーバーポッド

RoboHelp サーバーポッドでは、RoboHelp サーバーに接続できます。レスポンシブ HTML5、WebHelp Pro または FlashHelp Pro をプライマリレイアウトとして選択して、サーバー用のセットアップを構成できます。

`http://`<**サーバー名**>`:`<**ポート番号**>`/`<**コンテキスト名**>`/server` と入力し、そのサーバーに接続して、プロジェクトを公開することができます。

注: デフォルトでは、RoboHelp Server は http プロトコルを使用します。https プロトコルを使用する必要があることを指定する場合には、次のように入力します：`https://`<**サーバー名**>`:`<**ポート番号**>`/`<**コンテキスト名**>`/server`。

環境

RoboHelp 環境は、ポッドなど、メインアプリケーションウィンドウの様々なワークスペースコンポーネントの整列を指します。現在のワークスペースを名前の付いた環境として保存しておくと、ポッドを移動したり閉じたりしても、そのワークスペースを呼び出すことができます。保存した環境の名前は、メニューバーの右のワークスペースメニューに表示されます。

環境の作成および保存

プロジェクト用に複数の環境を作成できます。ロードされる環境は一度に 1 つだけです。

1) ポッドを整列します。
2) ワークスペーススイッチャーの下向き矢印ボタンをクリックし、「環境を保存」を選択します。
3) .rhs 拡張子を含めたファイル名を入力します。
4) 環境の場所を指定します。デフォルトの場所は、C:\Documents and Settings*[user name]*\My Documents\My RoboHelp Projects です。

   注: 他の作成者と RHS ファイルを交換することができます。

環境のロード

1) ワークスペーススイッチャーの下向き矢印ボタンをクリックし、「環境を読み込む」を選択します。

2) RHS ファイルを参照して選択します。

3) 「開く」をクリックします。

   注: 前回 RoboHelp を閉じる前に使用していた最後の環境が、次に RoboHelp を開くときに使用されます。

デフォルト環境の復元

1) ワークスペーススイッチャーの下向き矢印ボタンをクリックし、「デフォルト環境」を選択します。

環境の削除

1) 次のいずれかを行います。

   - RHS ファイルを、その保存場所から削除します。
   - スタート／ファイル名を指定して実行をクリックします。名前ボックスに、regedit と入力し、「OK」をクリックします。HKEY_CURRENT_USER／Software／Adobe／RoboHelp／11.00／Commonに移動してMRUENVFile[n]変数を探し、この変数に割り当てられている文字列を削除します。

キーボードショートカットの作成または削除

キーボードショートカットの作成

1) クイックアクセスツールバーの右側にあるドロップダウン矢印をクリックし、「その他のコマンド」を選択します。
2) カスタマイズダイアログの「全般」タブで「キーボードツールヒントを表示」にチェックマークを付けた場合、Alt キーを数秒間押ししてから放すと、キーボードショートカットが表示されます。
3) 「キーボードショートカットのカスタマイズ」をクリックします。
4) カテゴリドロップダウンでタブのカテゴリを選択します。
5) コマンドリストからコマンドを選択した後、「新しいショートカットキーを押してください」ボックス内の挿入ポイントにカーソルを移動します。
6) キーボードでショートカットキーの組み合わせを選択し、「割り当て」をクリックします。

キーボードショートカットの削除またはリセット

1) クイックアクセスツールバーの右側にあるドロップダウン矢印をクリックし、「その他のコマンド」を選択します。
2) 「キーボードショートカットのカスタマイズ」をクリックします。
3) 次のいずれかを行います。
   - キーボードショートカットを削除するには、削除するショートカットのカテゴリとコマンドを選択します。「キーの割り当て」でショートカットを選択し、「削除」をクリックします。
   - すべてのショートカットをデフォルト設定に回復するには、「すべてリセット」をクリックします。
4) 「書き出し」をクリックして、キーボードショートカットを .csv 形式に書き出します。

   これで、ショートカットファイルを共有できます。

一般設定の設定

1) ファイル／オプションを選択します。「一般」をクリックし、次のオプションを設定して、プログラムを使用するためのオプションやプロジェクトファイルで作業するためのオプションを設定します。

デフォルト言語および他の環境設定の設定

言語（デフォルト）新規プロジェクト用

RoboHelp アプリケーションを使用して作成するプロジェクトはすべてデフォルトの言語に変更できます。

ファイル名にアンダーラインを使用

単語間にアンダーラインを使用してトピックのファイル名を保存します（例えば、My_Help_Topic.htm）。HTML ヘルププロジェクトの場合、トピックファイル名にはスペースではなくアンダーラインを使用する必要があります。この規則に従うと、ブックまたはページは、ビューアーの右側に表示されるトピック内容と同期できるようになります。

更新を自動チェック

プログラムの終了時に更新をチェックします。このオプションは、ファイル／ヘルプ／アップデートを確認を選択しても有効にすることができます。

複数のトピックの編集を許可する

デザインエディターの複数のタブでトピックを開き、編集を許可します。単独トピックモードで作業する場合は、このオプションを選択解除します。

すべてのプロジェクトを開く前にプロジェクトキャッシュ（.cpd ファイル）を消去

プロジェクトを開いたときに古い<プロジェクト名>.cpd ファイルを削除しプロジェクトファイルから新しい<プロジェクト名>.cpd を作成するかどうかをコントロールします。

プロジェクトの状態の記憶

開いたファイルとポッドの場所をRoboHelpに記憶させる場合は、このオプションを選択します。RoboHelpを次回開いたときに、プロジェクトが同じ状態で開きます。現在の状態をRoboHelpに記憶させないようにするには、このオプションの選択を解除します。

古いファイルの自動コンパイル

プロジェクトを表示または公開するときに、出力ファイルが古くなっている場合はプライマリレイアウトが自動的に生成されます。このオプションが無効になっていると、出力ファイルが古くなっている場合はプライマリレイアウトを生成するよう要求するプロンプトが表示されます。

出力ビューの自動表示

プロジェクトの生成中に、プログラムウィンドウの下部に出力が表示されます。

RoboHelpで編集したトピックをHTMLに変換

RoboHelpで作成または編集したXHTMLトピックを出力内のHTMLに変換します。サードパーティ製エディターで作成または編集されたトピックは変換されません。

開始ページでの学習リソースの表示

ウェビナー、ビデオチュートリアル、ホワイトペーパーなどの学習リソースのストリームの領域の表示または非表示は、開始ページに表示されます。

確認を有効または無効にする

ファイルが保存されたときに確認する

デフォルトでは、「ファイルは保存されました」オプションは無効です。現在のトピックに対する変更は、他のトピックを開いたときや、プロジェクトを保存しないで閉じたときに保存されます。必要な場合は、この設定を無効にしてください。例えば、トピックを変更し、コンテンツを復元して、自動保存を一時的に無効にすることができます。

リンク先文書からの自動生成トピックが変更されたときに確認する

リンクされているWordまたはFrameMaker文書のコンテンツから生成されたトピックを変更したときにメッセージが表示されることを有効または無効にできます。

通知を有効、無効、またはリセットする

デフォルトでは、通知は有効になっています。一部の通知では、表示を禁止するためのオプション「次回から表示しない」が提供されています。

- すべての通知を有効または無効にするには、ファイル／オプション／全般／通知を表示しないを選択または選択解除します。
- すべての通知をデフォルト設定に回復するには、「すべてリセット」をクリックします。

プロジェクト

プロジェクトの基本

プロジェクトの概要

プロジェクトには、最終的なヘルプシステムになるソースファイルが含まれています。ヘルプ作成者はプロジェクトファイルを使用し、ヘルプユーザーは出力を表示します。CHM出力の場合、プロジェクトには、出力ウィンドウの外観など、ユーザーが作成したコンテンツやユーザーが設定したプロパティが含まれます。開発者はWebHelpおよびFlashHelp出力形式のウィンドウを決定します。または、出力形式をそのままにしてブラウザーウィンドウで実行します。プロジェクトマネージャーで、フォルダーを作成し、ヘルプシステムのトピックと構成を整理します。

プロジェクトとは、ファイルのコレクションです。プロジェクトファイル（XPJファイル）には、プロジェクトのコンテンツとプロパティに関する情報が含まれています。プロジェクトを変更するたびに、このファイル（およびその他の影響を受けるファイル）は自動的に更新されます。プロジェクトファイルは、以下で構成されます。

コンテンツ

プロジェクトファイルには、トピックが含まれ、トピックには、コンテンツ、トピック、画像、索引、目次およびその他のファイルの場所に関する情報が伴います。

プロパティ

プロジェクトには、プロジェクトタイトル、言語およびウィンドウなどの設定情報が含まれます。最初にプロジェクトを作成するときは、基本的な（デフォルト）設定が使用されます。デザインのニーズに従って設定を変更します。

ボタン操作

プロジェクトには目次、索引および全文検索が含まれています。

プロジェクトマネージャー、シングルソースレイアウトポッドおよびプロジェクトの設定ダイアログボックスなど、複数の場所でプロジェクトを構成する要素を表示できます。プロジェクトステータス、重複トピック、ヘルプと共に配布されるファイルなどを識別する様々なレポートも生成できます（ツール／レポート）。

ヘルププロジェクトのコンポーネント

ヘルプシステムは、配信するヘルプの書式に従って異なる様々なコンポーネントで構成されます。

プロジェクト

RoboHelp HTMLでは、トピック、画像およびその他のファイルに関する情報を含むメインプロジェクトファイル（拡張子.xpj）が作成されます。（プロジェクトを開くには、このファイルを開きます）。プロジェクトファイルには、ヘルプシステムの外観と機能に影響する設定も含まれます。

トピック

ヘルプシステムの基本単位はトピックです。トピックは主にテキストと画像でヘルプシステムのメッセージをやりとりします。トピックの内容、形式、構成を決定します。

目次

目次が含まれている場合は、ユーザーがヘルプシステムを開くと、「コンテンツ」タブまたはボタンが表示されます。目次には、ヘルププロジェクトに含まれる内容について、階層上のアウトラインが示されます。ユーザーは「コンテンツ」タブから、表示するトピックを参照して選択できます。

索引

索引が含まれている場合は、ユーザーがヘルプシステムを開くと、「索引」タブまたはボタンが表示されます。索引には、指定したトピック、キーワード、または語句を含む複数レベルのリストが表示されます。

全文検索

全文検索を使用すると、ユーザーはコンテンツ内で、特定の単語または語句を検索できます。

リンクとナビゲーション

ユーザーはリンクをクリックして、ヘルプシステムを移動します。ヘルプ作成者はトピックをリンクする方法をデザインします。最も一般的なリンクはテキストリンクです。リンクを使用すると、様々なヘルプシステムのトピック、様々な出力形式、Webサイトまたはアプリケーションに移動できます。

スタイル

トピックはスタイルを使用して書式設定します。スタイルを使用することで、テキストのレイアウトと外観を制御することができます。

画像とマルチメディアファイル

画像とマルチメディアファイルを使用すると、グラフィック、サウンド、ビデオ、アニメーションなどを追加して、ヘルプ機能を強化できます。

Windows

ウィンドウとは、トピックを表示するフレームです。特定の出力形式では、ウィンドウの外観や属性をカスタマイズできます。内容に合わせて新しいウィンドウをデザインすることもできます。複数のウィンドウを開いて、ウィンドウダイアログボックスからウィンドウを選択し、「アクティブ化」をクリックして表示します。クリックすると、表示されているウィンドウが保存されます。Windowsの機能を使用すると、出力に表示するプロジェクトタイトルの名前を変更できます。

ヘルプコンパイラー

ヘルプコンパイラーは、最終的なヘルプファイルの一部ではありませんが、ヘルプファイルの作成にはコンパイラーが必要な場合があります。例えば、Microsoft HTMLヘルププロジェクトで、コンパイラーはソースファイルと他のプロジェクトコンポーネントを統合します。そして、エンドユーザーに配布する1つのヘルプシステムファイルを作成します（WebHelpとFlashHelpプロジェクトはコンパイルされません）。

ビューアーとブラウザー

ユーザーは、ビューアーまたはブラウザーからヘルプシステムにアクセスします。

プロジェクト内のファイル

メインプロジェクトファイル（XPJ）

プロジェクトファイル（.xpj）は、XMLベースです。RoboHelpの古いバージョンの形式である.mpj拡張子の付いたプロジェクトファイルを開くことはできますが、XPJファイルに変換されます。

フォルダーファイル（FPJ）

各プロジェクトフォルダーには、フォルダーのコンテンツのリストが記載されているFPJファイルがあります。RoboHelpでは、フォルダーのFPJファイルにリストが記載されているサブフォルダーとトピックのみが表示されます。

すべてのサブフォルダーには、それぞれにFPJファイルがあります。プロジェクトフォルダーのFPJファイル以外のFPJファイルの名前は、フォルダーの名前と同じです。

プロジェクトフォルダーのFPJファイルの名前はroot.fpjです。フォルダー内のトピックやサブフォルダーを追加、削除したり、名前を変更したりすると、foot.fpjファイルは変更されます。プロジェクトマネージャーでトピックまたはサブフォルダーの順序が変更されると、foot.fpjファイルも変更されます。

シングルソースレイアウトファイル（SSL）

シングルソースレイアウトファイル（SSL）は、各シングルソースレイアウトに使用されます。SSLファイルは、それぞれのシングルソースレイアウトのプロパティを格納し、プロパティを変更するとこのファイルも変更されます。SSLファイルは、シングルソースレイアウトを生成、表示、または公開しても変更されません。

補助プロジェクトファイル（APJ）

次のコンポーネントにはそれぞれに対応するAPJファイルがあり、コンポーネントを編集すると変更されます。

- バゲッジファイル
- 色
- コンディショナルビルドタグ
- フォントセット
- 情報タイプ
- マップファイル
- ポップアップノートトピック
- 関連項目キーワード
- スキン（スキンのみを追加または削除する場合）
- シングルソースレイアウト（シングルソースレイアウトのみを追加または削除する場合）
- トピックキーワード
- トピックテンプレート（シングルソースレイアウトのみを追加または削除する場合）
- Windows

その他の種類のファイル

次のコンポーネントを変更すると、それぞれのファイルは変更されます。

- 閲覧シーケンス（BRS）
- トピック（HTM）
- 目次（HHC）
- 索引（HHK）
- 用語集（GLO）
- 画像とマルチメディアファイル（ファイル名と拡張子は様々です）
- スタイルシート（CSS）

出力タイプについて

RoboHelpでは、以下の出力タイプが生成できます。これらのタイプは、基本特性は同じですが、機能、表示、プラットフォーム要件が異なっています。

WebHelp

AdobeWebHelp形式は、Webベースまたはデスクトップアプリケーション、オンラインヘルプ、およびオンラインブック用のブラウザーとプラットフォームのほぼすべての組み合わせで動作します。またWebHelpでは、カスタマイズ可能なナビゲーションペインやダウンロードの高速化の提供されています。

WebHelp Pro

WebHelp ProはWebベースのアプリケーションに使用され、サーバーベースのヘルプでのみ有効な機能を備えています。WebHelp Proでは、ヘルプシステムの使用法に関するフィードバックを提供できます。作成者は、いつでも別々のプロジェクトで作業して公開することができます。プロジェクトは、実行中にサーバー上にマージされます。RoboHelpサーバーはWebHelp Proを生成する必要があります。

FlashHelp

Adobe FlashHelp® はAdobe Flash® を使用して、インタラクティブなナビゲーションペイン、カスタマイズ可能なナビゲーションコントロール、Flashアニメーション、ストリーミングビデオ、オーディオ、グラフィックを提供します。ご利用にはFlash Playerが必要です。

FlashHelp Pro

FlashHelp ProはWebベースのアプリケーションに使用され、サーバーベースのヘルプでのみ有効な機能を備えています。作成者は、いつでも別々のプロジェクトで作業して公開することができます。プロジェクトは、実行中にサーバー上にマージされます。RoboHelpサーバーはFlashHelp Proを生成する必要があります。

マルチスクリーンHTML5

マルチスクリーンHTML5出力を使用すると、特定の種類のデバイスに最適な表示ができます。デバイスごとに異なるスクリーンプロファイルを追加および設定し、これらのスクリーンプロファイル用にマルチスクリーンHTML5出力を生成することができます。ユーザが使用しているデバイスでマルチスクリーンHTML5出力のランディングページを表示すると、そのデバイスに最適化されたコンテンツに自動的にリダイレクトされます。

レスポンシブ HTML5

レスポンシブ HTML5 を使用して、すべてのスクリーンに最適化された 1 つの出力を作成できます。レスポンシブ HTML5 は、ユーザーがアクセスしているスクリーンに自動的に合わせたり、ブラウザーの向きの反転やサイズ変更など、動的なスクリーンサイズ変更にも自動的に合わせます。

また、RoboHelp Server 10 にレスポンシブ HTML5 出力を公開することができます。

eBook

eBook のレイアウトは、EPUB 3 および Kindle Book（MOBI）形式で出力を生成する場合に役立ちます。

Microsoft HTML Help

Microsoft HTML ヘルプは Windows 98 以降のアプリケーションヘルプおよびスタンドアロンヘルプとして使用され、Internet Explorer 4.x 以降を使用して様々な機能を提供します。**注：** Microsoft によるセキュリティを目的とした変更により、現在 Microsoft HTML Help は必要な場合にのみユーザーの PC 上で実行されます。レジストリを変更しない限りサーバーにインストールすることはできません。WebHelp および FlashHelp は、ヘルプがサーバーから実行される場所で使用されます。WebHelp および FlashHelp をローカルで実行することができますが、推奨されません。

XML

情報の構造化、格納、送信に適した Extensible Markup Language（XML）形式での出力が可能です。XML ファイルは、ハンドラーファイルと同様にスタイルシートを使用します。ハンドラーファイルは、RoboHelp での XML ファイル、関連スタイルシートおよび関連コンポーネントの読み込み方法または生成方法を決定します。

JavaHelp

Sun Microsystems™ の JavaHelp は Java アプリケーションと共に動作する配布システムであり、ヘルプオーサリングツールではありません。HTML 機能（リンク、関連トピックボタンおよび画像ファイル）に加え、JavaHelp 機能（目次、索引、全文検索、操作コントロール、グローバル検索と置換、ポップアップウィンドウ）を自動的に作成します。

Oracle Help

Oracle Help for Java™ は、どの言語で記述されているアプリケーションでも使用できます。Oracle Help および ICE 5 ブラウザーは、Oracle Help ビューアーを通して、目次、索引、全文検索、ポップアップウィンドウ、状況依存ヘルプ、カスタマイズ可能なウィンドウを提供します。

印刷ドキュメント

RoboHelp では印刷ドキュメント機能が強化され、印刷ドキュメントの構成、内容、外観を制御できます。必要に応じてコンテンツを編成し、書式設定および構造化された Word ドキュメントまたは PDF ファイルを、CSS または Word テンプレートスタイルを使用してフォーマットし作成できます。

Adobe AIR

Adobe AIR 出力形式により、Adobe AIR 形式でヘルプを生成することができます。クロスプラットフォームの Adobe AIR ヘルプ形式でコンテンツを生成すると、次のような多くの拡張が実現されます。

- ブレッドクラムなどの簡単なナビゲーション機能
- 新しいテンプレートとスキン
- リッチなブランド体験、およびヘルプ内に企業ロゴやバージョン情報ボックスを挿入できる機能
- リッチなコメント機能および自動更新
- オフラインおよびオンライン両方のコンテンツを提供するブラウザーベースのヘルプ
- RSS フィードを追加しアクセスする機能
- 高度な検索

エンドユーザーのビューアーの要件

エンドユーザーシステム	レスポンシブ HTML5	モバイルアプリケーション	WebHelp/Pro	Microsoft HTML Help	EPUB	PDF
Windows® XP SP4 以降、Windows Vista、Windows 7	Web ブラウザー	利用できません	Web ブラウザー	組み込みビューアー	eBook ビューアー	PDF ビューアー。例：Adobe Acrobat, Adobe Acrobat Reader
Mac OS、Linux®	Web ブラウザー	利用できません	Web ブラウザー	利用できません	eBook ビューアー	PDF ビューアー。例：Adobe Acrobat, Adobe Acrobat Reader
iOS、Android（デバイス）	Web ブラウザー	ネイティブモバイルアプリ	利用できません	利用できません	eBook ビューアー	PDF ビューアー。例：Adobe Acrobat, Adobe Acrobat Reader

エンドユーザーシステム	マルチスクリーン HTML5	JavaHelp*	Oracle Help	AIR ヘルプ
Windows® XP SP4 以降、Windows Vista、Windows 7	Web ブラウザー	JavaHelp ビューアー	Oracle Help ビューアー	AIR Help Runtime
Mac OS、Linux®	Web ブラウザー	JavaHelp ビューアー	利用できません	AIR Help Runtime
iOS、Android（デバイス）	Web ブラウザー	利用できません	利用できません	利用できません

プロジェクトの作成と管理

プロジェクトの作成

1) 次のいずれかを行います。

- ファイル／新規プロジェクトを選択します。
- スターターポッドで、「新規作成」の下から、「詳細」を選択します。

2) 新規プロジェクトダイアログボックスの「新規」ペインで、プロジェクトのタイプをダブルクリックします。プロジェクトを作成した後で、プロジェクトのタイプを変更できます。

空のプロジェクト

任意の出力のプロジェクトをカスタマイズして公開します。WebHelp、FlashHelp および HTML ヘルプ出力のウィンドウ設定を変更できます。

アプリケーションヘルプ

ローカルにインストールできるヘルプシステムを作成します。アプリケーションヘルププロジェクトにはサンプルトピックがあり、情報のカスタマイズおよび変更方法に関する注意が付いています。例えば、会社の製品に関する情報を提供するヘルプシステムを作成できます。**注：** デフォルトでは、マスターページやスニペットはアプリケーションヘルプには使用されていませんが、いつでも追加できます。

従業員の手引き

会社の従業員向けハンドブックなどの電子ハンドブック用プロジェクトを作成します。従業員の手引きプロジェクトテンプレートには、関連するフォルダーおよびトピックが用意されていて、会社固有の情報を指定できます。

e ラーニング

Captivate デモをプロジェクトに統合し編成します。提供されるレイアウトと推奨オプションを使用して、コンピューターベースおよび Web ベースのトレーニングを作成できます。

ナレッジベース

wiki ページに似たインターフェイスを持つナレッジベースを作成します。ナレッジベースプロジェクトテンプレートには、カスタマイズできるマスターページが用意されています。自己更新ページを作成することもできます。

Webアプリケーションヘルプ

サーバーに公開できるヘルプシステムを作成します。Webアプリケーションヘルププロジェクトにはサンプルトピックがあり、ソフトウェアアプリケーション用のオンラインヘルプの作成に関する注意が付いています。

部門ガイドライン

会社の部門向けガイドラインの概要を示すヘルプシステムを作成します。例えば、採用と選抜やフレックス勤務時間などに関するガイドラインの概要を示す、人事管理部門向けのヘルプを作成できます。

災害復旧計画

災害復旧計画の作成方法に関するサンプル付きのヘルプシステムを作成します。

オンラインマニュアル

会社の製品またはソフトウェアアプリケーションのオンラインマニュアルを作成します。

ポリシーと手順

組織固有のポリシーおよび手順を集めたハンドブックまたはドキュメントを作成します。

カスタム

ヘルププロジェクトのテンプレートをカスタマイズします。

3) 新規プロジェクトウィザードダイアログボックスでオプションを指定します。

- RoboHelpでは、「プロジェクトタイトル」というフィールドにプロジェクトタイトルを保存します。トピックの内容、スニペット、マスターページおよびスクリーンレイアウトにフィールドを挿入できます。
- 言語を英語のままにするか、別の言語を選択して、プロジェクトをローカライズします。スペルチェック、スマート索引ウィザードを使用した索引およびユーザーインターフェイスの部分がローカライズされます。
- 「デフォルトとして保存」を選択すると、選択した言語がすべての新規プロジェクトで使用されます。

4) 「完了」をクリックします。

最初のトピックが右側のデザインエディターで開きます。左側にプロジェクトマネージャーが開きます。最初のトピックはHTMLファイル（トピック）フォルダーから選択されます。

ドキュメントの読み込みによるプロジェクトの作成

1) 次のいずれかを行います。

- スターターポッドで、読み込みリストから新しいプロジェクトタイプを選択します。
- ファイル／新規プロジェクトを選択します。「読み込み」タブをクリックし、新しいプロジェクトタイプを選択します。

2) 表示に従います。RoboHelp で新しいプロジェクトが開きます。

FrameMaker ドキュメントまたは Word ドキュメントを使用したプロジェクトの作成

FrameMaker または Word ドキュメントを読み込むことにより、新しいプロジェクトを作成できます。読み込み中に、これらのドキュメントのスタイルを RoboHelp のスタイルにマップできます。

1) ファイル／新規プロジェクトを選択し、「読み込み」をクリックします。

2) FrameMaker ドキュメントまたは Word ドキュメントを選択して、「OK」をクリックします。

3) FrameMaker の場合は .book、.mif、.fm、.bk および .frm ファイルの中から選択し、Word の場合は .doc、.docx、.rtf および .docm ファイルの中から選択します。複数の FrameMaker ドキュメント、または Word ドキュメントを同時に読み込むことができます。.book および .bk ファイルは一度に 1 つずつ読み込むことができます。

   注: MIF 以外の FrameMaker 形式の場合は FrameMaker 8 以降が必要です。正しいバージョンがインストールされていないと、ファイルを読み込むことができません。

4) プロジェクトタイトル、ファイル名、プロジェクトの場所を入力します。

5) 「完了」をクリックします。

   新規プロジェクトのウィザードでは、目次、索引または用語集をマッピングするためのオプションを選択する必要があります。

6) 必要なオプションを選択し、「次へ」をクリックします。

7) 「編集」をクリックします。

8) RoboHelp スタイルにマップするスタイルを選択します。

   FrameMaker ドキュメントの様々な変換オプションの詳細については、変換の概要を参照してください。

Word ドキュメントの様々な変換オプションの詳細については、Word スタイルの RoboHelp スタイルへの変換をクリックします。

9) 「OK」をクリックします。

注: ウィザードで「キャンセル」をクリックすると、ファイルは読み込まれず、空のプロジェクトが開いたままになります。

10) 「完了」をクリックします。

DITA マップファイルを使用したプロジェクトの作成

重要: 上級者向け。

DITA マップファイルを読み込む前に、Java JDK と DITA Open Toolkit がインストールされていて、正しく実行されている必要があります。DITA と DITA Open Toolkit の使用経験も必要です。

1) ファイル／新規プロジェクトを選択します。

2) 「読み込み」タブをクリックします。

3) 「DITA Map File」を選択します。

4) 「OK」をクリックします。

5) 新規プロジェクトウィザードに次の情報を入力します。

読み込む DITA マップファイル

読み込んでプロジェクトの作成に使用する、有効な DITA マップファイルへのパスを指定します。参照ボタン をクリックして、ファイルを選択します。

プロジェクトの場所

新しいプロジェクトの場所へのパスを指定します。

6) 「次へ」をクリックします。

7) DITA Toolkit 処理オプションを開くダイアログボックスで、必要な入力を指定します。

8) 「完了」をクリックします。

関連するリンク:

Word スタイルの RoboHelp スタイルへの変換
RoboHelp プロジェクトのバージョンコントロールへの追加

プロジェクトの保存

作業中はこまめに保存してください。

- ファイルを個別に保存するには、クイックアクセスツールバーの「保存」をクリックします。
- すべてのファイルを保存するには、クイックアクセスツールバーの「保存」をクリックします。

自動的に保存の無効化

RoboHelpでは、プロジェクトを閉じるときにデフォルトで変更が保存されます。必要に応じて、自動的に保存の機能を無効にすることができます。

1) ツールメニューから「オプション」を選択します。
2) 「全般」タブをクリックします。
3) 「オプション」では「確認なしで保存」を選択解除します。

プロジェクトを開く

RoboHelpの起動時にプロジェクトを開く

1) スターターポッドの最近開いたプロジェクトのリストから、プロジェクト名を選択します。目的のプロジェクトが表示されていない場合は、「開く」をクリックします。

   次のコントロールを使用すると、開くプロジェクトを指定できます。

マイプレースバー

フォルダーとファイルのリストの左側のショートカットを使用して、ドキュメントを検索します。

デスクトップ

デスクトップフォルダーは、コンピューターにあるすべてのフォルダーを一覧表示するフォルダーです。

マイコンピューター

マイコンピューターフォルダーは、コンピューターに設定されているドライブを一覧表示するフォルダーです。

マイ RoboHelp プロジェクト

マイ RoboHelp プロジェクトフォルダーは、RoboHelp で扱うすべてのプロジェクトを保存するデフォルトの作業フォルダーです。このフォルダーは、Adobe RoboHelp をインストールしたときにマイドキュメントフォルダーに置かれます。Adobe RoboHelp を起動すると、マイ RoboHelp プロジェクトフォルダーに保存されているプロジェクトが、最近使用したプロジェクトリストのスターターポッドに自動的に表示されます。RoboHelp プロジェクトのファイルには、拡張子として .xpj を使用します。

ファイルの場所リスト

デフォルトでは、このリストにマイ RoboHelp プロジェクトフォルダーが表示されます。また、他の複数のフォルダーにアクセスしたことがある場合は、最後にアクセスしたフォルダーがこのリストで選択状態になります。このリストでは、デスクトップフォルダーにマイコンピューター、マイネットワークプレースおよびマイドキュメントの各フォルダーが表示されます。

最後に表示したフォルダーへ移動アイコン

最後にアクセスしたフォルダーが表示されます。最近アクセスしたフォルダーのリストを表示するには矢印をクリックします。開くダイアログボックスでフォルダーにアクセスしないと、このアイコンは無効になります。

1 つ上のレベルに移動アイコン

ファイルの場所リストに表示された現在のフォルダーの親フォルダーに移動します。

削除アイコン

選択したフォルダーまたはファイルを削除します。削除したフォルダーやファイルはごみ箱に送られます。

新規フォルダーを作成アイコン

ファイルの場所リストで選択した親フォルダーにフォルダーを作成します。

メニューを表示アイコン

矢印をクリックして、フォルダーとファイルのリストを表示するビューを選択します。フォルダーとファイルの表示方法を、サムネイル、タイル、アイコン、簡易リストおよび詳細なリストのいずれかから選択できます。

ツールアイコン

フォルダーやファイルの削除または名前変更、マイプレースバーへのフォルダーまたはファイルの追加、またはネットワーク上のコンピューターまたはフォルダーへのハードドライブのマップが行えます。フォルダーまたはファイルのプロパティも表示できます。

ファイル名ボックス （開く、読み込むなど）アクセスするファイルの名前を指定します。

ファイルの種類メニュー

フォルダーとファイルのリストに表示するファイルの種類を選択します。

RoboHelp を起動した後でプロジェクトを開く

1) ファイル／プロジェクトを開く／ローカルパスまたはネットワークパスを選択します。

   プロジェクトを開くダイアログボックスが表示されます。

   注: ファイルメニューの下部から最後に開いた 10 件のプロジェクトを選択することもできます。

2) ファイルの種類メニューから、RoboHelp HTML ヘルププロジェクト（.xpj）を選択します。

3) プロジェクトファイルを探してダブルクリックします。

プロジェクトのアップグレード

前のバージョンの RoboHelp で作成したプロジェクトを開く場合、開く前に変換するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

重要: 新しい形式に変換する前にプロジェクトのコピーを作成します。

関連するリンク:

RoboHelp 出力検索

最近開いたプロジェクトのリストへのプロジェクトの固定

デフォルトでは、スターターポッド内およびファイルメニュー内に表示される最近のプロジェクトは、最後に開いた10プロジェクトまで表示されます。最近に開いたプロジェクトを固定すると、それが常に最近のプロジェクトのリストに表示されます。このリストには、固定されたプロジェクトと最近使用されたプロジェクトが、「最大プロジェクト」フィールドで設定されたプロジェクト数まで表示されます。

1) ファイル／オプションを選択します。
2) 「最近のプロジェクト」タブで、「最近開いたプロジェクト」リストからプロジェクトを選択します。
3) 「固定」をクリックします。「OK」をクリックします。

注: 「固定解除」をクリックして、固定されたプロジェクトを最近のプロジェクトリストから削除します。

プロジェクトの設定の変更

1) プロジェクト／ファイル／プロジェクトの設定を選択します。
2) 「全般」タブで、必要に応じて設定を変更します。

プロジェクトタイトル

プロジェクトのタイトルを入力します。このタイトルは、出力のウィンドウバーに表示されます。

プライマリ出力とレイアウト

プライマリレイアウトを選択します。

言語

デフォルトのプロジェクト言語を選択します。

詳細

クリックして、ローカライズするリストを作成または編集します。各ペインでオプションを設定します。

確認項目リスト

「管理」をクリックして、プロジェクトの作業リストを管理します。詳細については、作業リストの使用を参照してください。

索引

キーワードの保存に関するオプションを選択します。

- 「索引ファイル（HHK）」は、新しい索引キーワードをプロジェクトの索引ファイル（HHK）に保存します。
- 「トピック」は、新しい索引キーワードを個別のトピックファイル（HTM）に保存します。
- 「バイナリ索引」は、Microsoft HTMLヘルププロジェクトのバイナリ索引を使用します。

停止リストペインのオプションを設定します

停止リストファイル（ProjectName.stp）にある単語を変更するには、「停止リスト」タブを使用します。停止リストには、正確な結果を得るために検索で無視される一般的な単語が記録されています。

編集

単語を選択し、「編集」をクリックします。新しい名前を入力します。Enterキーを押します。単語を右クリックすると、「元に戻す」、「カット」、「コピー」、「ペースト」、「削除」および「すべてを選択」の各オプションを持つドロップダウンボックスが表示されます。

デフォルトにリセット

新しいエントリを削除し、デフォルトのリストを復元します。

新規

単語を追加します。「新規」をクリックします。単語を入力します。Enterキーを押します。

削除

選択した単語を削除します。

注: Microsoft HTMLヘルププロジェクトでは、停止リストファイルを512 Kより大きくすることはできません。ファイルが大きくなると、ファイルの末尾の単語が、CHMファイルに含まれなくなります。

フレーズペインのオプションを設定します

フレーズファイル（ProjectName.phr）内の単語を変更します。このタブには、スマート索引ウィザードでキーワード検索に含められるフレーズリストが含まれています。例えば、"project settings" を2つの単語ではなく、1つのフレーズにします。単語を追加、名前変更、および削除することができます。

編集

単語を選択し、「編集」をクリックします。新しい名前を入力します。Enter キーを押します。単語を右クリックすると、「元に戻す」、「カット」、「コピー」、「ペースト」、「削除」および「すべてを選択」の各オプションを持つドロップダウンボックスが表示されます。

デフォルトにリセット

新しいエントリを削除し、デフォルトのリストを復元します。

新規

「新規」をクリックします。新しい単語を入力します。Enter キーを押します。

常に無視する単語ペインのオプションを設定する

常に無視する単語ファイル（ProjectName.ign）の単語を変更します。このリストには、検索で常に無視する「不要な」単語が含まれています。スマート索引ウィザードでは、不要な単語を索引から除外するためのリストを使用します。

編集

単語を選択し、「編集」をクリックします。新しい名前を入力します。Enter キーを押します。単語を右クリックすると、「元に戻す」、「カット」、「コピー」、「ペースト」、「削除」および「すべてを選択」の各オプションを持つドロップダウンボックスが表示されます。

デフォルトにリセット

新しいエントリを削除し、デフォルトのリストを復元します。

新規

「新規」をクリックします。新しい単語を入力します。Enter キーを押します。

LNG ファイルペインのオプションを設定します

マルチスクリーン HTML5、WebHelp、WebHelp Pro、FlashHelp、FlashHelp Pro、AIR Help、印刷ドキュメント、または HTML ヘルプ出力のユーザーインターフェイスのテキスト要素を変更します。

「LNG ファイル」タブで可能な変更の完全なリストを確認します。

LNG ファイルを編集すると、その変更は、他の場所で「プロジェクトの設定」で行った設定よりも優先されます。

1) 要素を選択して、次のいずれかをクリックします。

編集

リストにある各ユーザーインターフェイス要素について、LNG ファイルのテキストを変更します。編集モードでは、編集済みの行を右クリックして、編集を元に戻したり、カット、コピー、ペースト、削除したり、すべて選択することもできます。**注:** マスターページの設定で、トピックの目次を展開または折りたたんだときに表示する文字列を変更できます。詳細については、マスターページを参照してください。

デフォルトにリセット

新しいエントリを削除し、デフォルトのリストを復元します。

注: これらのオプションに素早くアクセスするには、編集／LNG ファイルを選択します。

同意語ペインのオプションを設定します

単語を同意語として定義します。例えば、「find」と「locate」を「search」の同意語として定義できます。生成された出力で「search」を検索すると、「find」と「locate」に対する結果も表示されます。

デフォルトにリセット

新しいエントリを削除し、デフォルトのリストを復元します。

編集

単語を選択し、「編集」をクリックします。新しい名前を入力します。Enter キーを押します。単語を右クリックすると、「元に戻す」、「カット」、「コピー」、「ペースト」、「削除」および「すべてを選択」の各オプションを持つドロップダウンボックスが表示されます。

新規

同意語テーブルで新しい単語を追加し、その同意語を指定する場合にクリックします。

削除

単語とその同意語を削除する場合にクリックします。

関連するリンク：

ローカライズされたプロジェクトのアップグレード
出力の表示

プロジェクトの名前の変更

プロジェクトの名前を変更すると、メインプロジェクトファイル（.xpj）およびその他すべてのプロジェクトファイルの名前も変更されます。**注**：目次、索引および用語集ファイルの名前は変更されません。

プロジェクトの名前を変更すると、プロジェクトは閉じられ、また開きます。最後に保存された後に実行された変更はすべて保存されます。**注**：　バージョンコントロールされているプロジェクトの名前は変更できません。

1) プロジェクトを開きます。

2) ファイル／プロジェクトの名前を変更を選択します。

3) 「プロジェクト名」ボックスで、新しいプロジェクト名を入力します（ファイル名拡張子は入力しないでください）。

4) 「OK」をクリックします。変更を有効にするため、プログラムはプロジェクトを閉じてから再び開きます。

   注：Microsoft HTML ヘルプを作成している場合、コンパイルされた HTML ヘルプファイル（CHM）の名前はプロジェクトファイル名に基づきます。プロジェクト名を変更すると、CHM ファイルの名前も変わります。CHM ファイルの名前を変更して、古い名前を復元できます。

プロジェクトの表示

ヘルプシステムは、出力形式、アプリケーションプラットフォーム、およびエンドユーザーのプラットフォームに依存して、ブラウザーまたはビューアーで表示されます。ヘルプシステムはメインウィンドウに表示されます。ユーザーは、右側のペインにトピックを表示でき、左側のペインおよび上部にあるタブ、ボタン、ツールバーでナビゲートできます。

プロジェクトを繰り返し表示して、リンクをテストし、スタイルが正しく表示されることを確認してください。指定された出力形式で、必要とされるビューアーに各シングルソースを表示します。

関連するリンク：

目次の作成

章のレイアウトの定義

プロジェクトマネージャーポッドで、トピックとフォルダーを論理的に順序付けるために、プロジェクトの章のレイアウトを定義できます RoboHelp では、この章のレイアウトを使用して目次が自動作成されます。

注意：

- フォルダーまたはトピックの名前を変更しても、トピックとフォルダーの順序は維持されます。
- トピックまたはフォルダーを削除しても、残りのトピックの順序は維持されます。
- 新しいトピックまたはフォルダーを追加した場合は、親フォルダー内部の一番上に追加されます。
- トピック / フォルダー以外のアイテム（CSS、画像、バゲッジなど）にトピックまたはフォルダーをドロップした場合は、ターゲットの親フォルダー内部の最後の位置に移動します。
- RoboHelp の古いバージョンからプロジェクトをアップグレードすると、すべてのトピックが不規則に表示されます。トピックの順序は、後でカスタマイズできます。
- プロジェクトマネージャーポッド内のフォルダーまたはトピックを右クリックして、「エクスプローラー」を選択し、Windows エクスプローラーでトピックまたはフォルダーを開きます。

フォルダーのドラッグ

- トピックまたはフォルダーを別のトピックまたはフォルダーの上下にドラッグします。リンクされたドキュメントは、リンクされたドキュメントの上にのみドラッグできます。

関連するリンク：
最近開いたプロジェクトのリストへのプロジェクトの固定

ファイルの管理

タイトル別またはファイル名別のトピックの一覧表示

1) プロジェクトマネージャーポッドで、プロジェクトファイルフォルダーを開きます。
2) プロジェクト／表示／トピックを表示／トピックタイトル順またはファイル名順を選択します。

作業リストの使用

作業リストは、プロジェクトのタスクを追跡するのに便利です。既存の作業タスクを追加、削除および変更して、リストをカスタマイズできます。**注**：RoboHelpの古いバージョンから新しいバージョンにプロジェクトをアップグレードしても、作業の設定は維持されます。

カスタマイズされた作業リストでレポートを生成することができます。

作業リストのアイテムの編集

1) プロジェクト／ファイル／プロジェクトの設定を選択します。
2) 「全般」タブをクリックします。
3) 「管理」をクリックします。
4) 次のいずれかを行います：
   - リストにタスクを追加するには、「追加」をクリックします。タスクアイテムの名前を入力します。
   - タスクを編集または削除するには、タスクを選択して「編集」または「削除」をクリックします。

注： プロジェクトの設定ダイアログボックスからは、デフォルトの作業リストにスマート検索を実行済みアイテムを表示できません。これは、誤ってこのアイテムを削除しないようにするためです。デフォルトのRoboHelpでは、スマート検索ウィザードを実行するすべてのトピックに対して、スマート検索を実行済みオプションが設定されています。

トピックの作業リストの更新

1) プロジェクトマネージャーポッド内のトピックを右クリックして「プロパティ」を選択します。「ステータス」タブをクリックします。

2) 作業リストのアイテムを選択または選択解除します。

ステータスレポートの作成

プロジェクトステータスレポートを生成し、作業リストを使用してトピック番号を表示できます。

1) ツール／レポート／プロジェクトのステータスの順に選択します。

最近開いたプロジェクトのリストを編集

RoboHelp Starterポッドに最近開いたプロジェクトの一覧が表示されます。

1) ファイル／オプションを選択します。

2) 「最近のプロジェクト」タブをクリックします。

- 一覧表示されるファイルの数を変更するには、「最大プロジェクト」ボックスで数字を指定します。
- リストからファイルを削除するには、選択して「削除」をクリックします。

関連するリンク：

壊れたリンクレポート

ファイルおよびフォルダーのバゲッジフォルダーへの追加

RoboHelp が外部要素への参照をバゲッジファイルフォルダーに自動的に追加しない場合があります。出力で外部要素が正しく表示されるように、必要に応じて、バゲッジファイルフォルダーにファイルを追加します。ファイルを個別に追加するのではなく、フォルダー全体をバゲッジファイルに読み込むことにより、時間を節約できます。選択されているフォルダーのすべてのコンテンツを追加するだけでなく、プロジェクト内の同じフォルダー構造を保持します。プロジェクトにバゲッジファイルまたはフォルダーを追加するには、次の手順に従います。

1) プロジェクト／開く／ポッド／プロジェクトマネージャーを選択します。

   ポッドドロップダウンリストは、編集リボンおよびレビューリボンにも表示されます。

2) プロジェクトファイルを右クリックして「バゲッジを読み込み」を選択し、「ファイル」または「フォルダー」を選択します。

   注: このオプションへは、バゲッジファイルフォルダーを右クリックして新規／ファイルまたはフォルダーを選択することでもアクセスできます。バゲッジファイルフォルダーが表示されない場合は、プロジェクトマネージャービューを切り替えボタン をクリックします。

3) ファイルを追加するには、次のいずれかのソースファイルをダブルクリックします。

   - HTML ヘルプコントロールで使用されるビットマップおよびアイコン
   - スタイルシート、トピックの背景、およびスクリプトで使用される画像ファイル
   - ポップアップやドロップダウンホットスポットなどのダイナミック HTML 効果をサポートする JavaScript ファイル

4) フォルダーを追加するには、バゲッジファイルを含むフォルダーを参照して選択します。

5) 「開く」をクリックします。

   注: トピックにドラッグ & ドロップする際に Shift キーを押すことにより、バゲッジファイルへのリンクを作成することができます。

バゲッジフォルダーの追加機能

バゲッジファイル機能により、次の追加タスクを実行することができます。

1) バゲッジファイルフォルダー内のコンテンツをある場所から別の場所にドラッグアンドドロップして整理します。
2) 不要なファイルを削除してください。
3) ファイルおよびフォルダーの名前を変更します。
4) トピックにドラッグ＆ドロップする際にShiftキーを押すことにより、バゲッジファイルへのリンクを作成することができます。
5) バゲッジファイルの画像を挿入するには、ドラッグ＆ドロップで作業中のトピックに挿入します。

バゲッジフォルダーからのファイルの削除

バゲッジフォルダーからファイルを削除するには、ファイルを選択して「削除」をクリックします。

マップファイルのタイプ

ファイルタイプをマップして、編集に使用するアプリケーションにファイルタイプを関連付けます。

ファイル拡張子とアプリケーションの関連付け

1) ファイル／オプションを選択します。
2) 「ファイル関連付け」タブをクリックします。
3) 関連プログラムの場合は、「追加」をクリックします。
4) ファイル名拡張子を入力します。

5) 指定のファイル名の拡張子の付いたドキュメントを編集するエディターを選択します。

プログラムを選択すると、「アプリケーションを選択して編集」ボックスにそのプログラムの場所が表示されます。プログラムはアルファベット順に表示されます。**注:** これらのプログラムだけが、レジストリエントリが「NoOpenWith」に設定されているリストに表示されます。

6) ファイルを表示するプログラムを選択します。

プログラムリストに表示されていないプログラムを参照することもできます。

HTMLエディターマッピングの追加

1) ファイル／オプションを選択します。

2) 「ファイル関連付け」タブをクリックします。

3) HTMLエディターの場合、「追加」を選択します。

4) 推奨または登録された他のプログラムから選択し、.htmlまたは.htmを編集するか、表示します。**注:** プログラムを選択すると、「名前」および「場所」ボックスに名前と場所が表示されます。プログラムリストに表示されていないプログラムを参照することもできます。

5) 「OK」をクリックします。選択したプログラムがHTMLエディターのリストに表示されます。**注:** HTMLエディターを変更するには、新しいプログラムを参照し、選択します。

プロジェクトからトピックの削除

ファイルを削除する前に、すべてのプロジェクトファイルをバックアップし、プロジェクトがバージョンコントロールされていない場合は、レポートを印刷します。壊れたリンクを作らないために、ファイルはWindowsエクスプローラーやバージョンコントロールソフトウェアで削除しないでください。

1) 1つ以上のファイルを選択します。

- トピックを削除するには、プロジェクトマネージャーポッドを使用します。
- 複数のトピックを削除するには、トピックリストポッドを使用します。

2) 「削除」を押します。プロンプトが表示された場合は、削除されるトピックへの参照を削除しないでください。

注： 参照の削除を選択できますが、そのようにすると、他のトピックでの削除の効果を確認できません。「いいえ」を選択して参照を削除すると、「壊れたリンク」でリンクが表示されます。「壊れたリンク」からは各トピックを確認して、編集が必要であるかどうかを調べることができます。

関連するリンク：

未使用ファイルレポート
章のレイアウトの定義

フォルダーの管理

フォルダーの作成

プロジェクトマネージャーには、プロジェクト構成用のデフォルトフォルダーがあります。フォルダーとサブフォルダーの作成は、HTMLファイル（トピック）、画像、マルチメディア、スタイルシートおよびバゲッジファイルのフォルダーでのみ可能です。

注： Windowsエクスプローラーを使用して、ファイルを追加したり、移動したり、または名前を変更するためのサブフォルダーを作成しないでください。RoboHelpはこのような変更を認識しません。

1) プロジェクトマネージャーポッドでプロジェクトファイルフォルダーを選択します。**注：** プロジェクトファイルフォルダーが表示されない場合は、プロジェクトマネージャービューを切り替えボタン をクリックします。

2) フォルダーを右クリックして新規作成／フォルダーを選択します。

3) フォルダーの名前を入力します。特殊文字やスペースは使用しないでください。

4) Enterキーを押します。

ヒント：

- プロジェクトマネージャーのファイルとフォルダーをドラッグして移動します。
- トピックリストからプロジェクトマネージャーの複数のフォルダーにトピックをドラッグできます。

プロジェクトマネージャーフォルダー

プロジェクトマネージャーポッドで、プロジェクトファイルを編集、削除および作成します。プロジェクトマネージャーでは、2つの表示が使用できます。両方のビューには、オーサリング用の一般的に使用されるオプションのセットが含まれます。一方のビューには、Project Filesと呼ばれる1つのフォルダーに集められたすべてのプロジェクトファイルが表示されます。もう一方のビューは、プロジェクトファイルをファイルの種類に基づいて様々な仮想フォルダーにグループ化します。表示を変更するには、プロジェクトマネージャービューを切り替えボタン または をクリックします。

様々な仮想フォルダーのプロジェクトファイルを表示するプロジェクトマネージャービューには、次のフォルダーが含まれます。

HTMLファイル（トピック）

プロジェクトのトピックを格納します。ファイルはアルファベット順（AからZ）および数字順（0から9）に並べ替えて表示されます。このフォルダーにはフォルダーを追加できます。構成を使用して、目次を自動的に生成し、閲覧シーケンスを作成できます。

画像

プロジェクトで使用した画像は、このフォルダーに保存されます。画像マップと関連付けられているリンク（ホットスポット）もリストに表示されます。このフォルダーからデザインエディターに画像をドラッグして、トピックに画像を追加できます。画像を選択して、F2キーを押すと、このフォルダーの画像の名前を変更することもできます。

マルチメディア

プロジェクトで使用したすべてのサウンドおよびビデオファイルは、このフォルダーに保存されます。Adobe Captivateのデモ（SWFファイル）もここに保存されます。デザインエディターにサウンドまたはビデオファイルをドラッグして、トピックにマルチメディアを追加できます。ファイルがプロジェクトのどこで参照されているかを検索することもできます。

スタイルシート

スタイルシートはトピックの書式設定を制御します。スタイルシートを変更すると、関連するすべてのトピックが更新されます。RoboHelpのデフォルトのスタイルシート（CSSファイル）とプロジェクトに追加したその他のスタイルシートは、このフォルダーに保存されます。スタイルシートは、アイコンをダブルクリックして編集します。

バゲッジファイル

RoboHelpには、プロジェクトに直接リンクしていないコンテンツを、バゲッジファイルとしてアップロードすることで取り込む機構があります。バゲッジファイルのコンテンツへのリンクをクリックすると、関連付けられたアプリケーションでファイルが開きます。PDF、Wordドキュメント、Excelスプレッドシート、PowerPointなどのファイルを追加することができます。生成されたプロジェクトで、以下を正しく表示するために、特定のファイルはプロジェクトマネージャーのバゲッジファイルフォルダーに自動的に追加されます。

- HTMLヘルプコントロールで使用するビットマップおよびアイコンファイル
- トピックの背景やスクリプトで使用する画像ファイル
- 関連トピックのポップアップ、スマートポップアップ、ドロップダウンホットスポットなどのダイナミック HTML 効果をサポートする JavaScript ファイル（ehlpdhtm.js）
- ブラウザーベースの出力（目次、索引、用語集および全文検索）のスキンおよびナビゲーションペイン用のサポートファイル

バゲッジファイルフォルダーからトピックにファイルをドラッグして、ファイルへのリンクを作成できます。

壊れたリンク

プロジェクトに存在しないファイルへのリンクを格納します。壊れたリンクを復元または削除するには、リンクをダブルクリックします。

URL

Webアドレス、FTPサイト、ニュースグループ、電子メールアドレス、および外部のCHMファイルにあるHTMLトピックへのリンクを格納します。このフォルダーから、索引へのURLを追加できます。URLをデザインエディターにドラッグできます。

目次

デフォルトの目次およびプロジェクトで作成されたその他すべての目次を格納します。

索引

デフォルトの索引およびプロジェクトで作成されたその他すべての索引を格納します。

用語集

デフォルトの用語集およびプロジェクトで作成されたその他すべての用語集を格納します。

関連項目

関連項目フォルダーをダブルクリックして、関連項目ポッドを表示します。関連項目ポッドに、関連項目キーワードを追加することができます。

フォルダー名の変更

プロジェクトマネージャーを使用してフォルダー名を変更します。

1) プロジェクトマネージャーポッドでプロジェクトファイルフォルダーを選択します。
2) フォルダーを右クリックします。「名前変更」を選択します。
3) 新しい名前を入力します。特に WebHelp と FlashHelp では、特殊文字とスペースは使用しないでください。
4) Enter キーを押します。

フォルダーの移動

プロジェクトマネージャーポッドを使用してフォルダーを移動します。

1) プロジェクトマネージャーポッドでプロジェクトファイルを選択します。
2) サブフォルダーを新しい場所にドラッグします。

カスタムフォルダーの削除

フォルダーを削除する前に、フォルダーの中にある保持したいアイテムを移動します。

1) プロジェクトマネージャーポッドでカスタムフォルダーを選択します。

2) プロジェクト／削除を選択します。

ファイルとフォルダーのアイコン

Project Managerのアイコンは、プロジェクトに含まれるコンポーネントとファイルを示します。

注: 赤いチェックマークの付いたアイコンは、ファイルがチェックアウトされていることを示します（バージョンコントロールされているトピックのみに該当）。

アイコン	説明
	閉じているフォルダー：閉じているフォルダーにファイルが含まれている場合は、プラス記号が表示されます。プラス記号をクリックすると、フォルダーの内容が表示されます。右クリックするとさらにオプションが表示されます。
	開いているフォルダー：開いているフォルダーにはマイナス記号が表示され、下に内容が表示されます。マイナス記号をクリックすると、フォルダーを閉じます。
	表示の切り替え：クリックするとフォルダー数の少ない簡素化された表示と、すべてのフォルダーを表示する表示が切り替わります。
	ファイルの表示/非表示：プロジェクトマネージャーで表示するファイルをクリックして選択します。
	空のフォルダー：空のフォルダーに記号は表示されません。
	HTMLファイル（トピック）：ページアイコンをダブルクリックするとデザインエディターが開きます。右クリックするとさらにオプションが表示されます。
	ブックマーク付きHTMLトピック：ブックマークの付いたトピックには、プラス記号が表示されます。プラス記号をクリックすると、すべてのブックマークが表示されます。
	見つからないファイル：赤いXは、プログラムによって検索できないファイルを示します。これらのファイルは、プロジェクトパスにありません。削除されているか、プロジェクトの別のフォルダーに保存されています。
	ブックマーク。ブックマークは、それぞれのトピックの下にアルファベット順に表示されます。ダブルクリックするとトピックが開きます。デザインエディターでトピックにブックマークをドラッグすると、リンクが作成されます。

アイコン	説明
	フレームセット。ダブルクリックすると、フレームの属性を変更するためのダイアログボックスが開きます。
	URL：Webアドレス、FTPサイト、ニュースグループ、電子メールアドレス、外部のCHMファイルにあるHTMLトピックなどです。ダブルクリックすると、リンクにキーワードを追加するためのダイアログボックスが開きます。デザインエディターで開いているトピックにURLをドラッグすると、リンクが作成されます。
	画像：（GIF、JPEG、JPG形式）ダブルクリックすると画像がプレビューされ、画像を使用するトピックが識別されて、ファイル情報が表示されます。デザインエディターでトピックに画像をドラッグすると、画像が追加されます。
	画像マップ。クリック可能なリンク、またはホットスポットのある画像。プラスサインをクリックするとリンクが表示されます。ダブルクリックすると画像がプレビューされ、画像を使用するトピックが識別されて、ファイル情報が表示されます。デザインエディターでトピックに画像マップをドラッグすると、画像マップが追加されます。
	画像マップリンク（ホットスポット）：ダブルクリックすると、画像マップを使用しているトピックが識別されます。
	サウンドファイル（AU、MID、RMI、WAV形式）：ダブルクリックするとファイルを使用するトピックが識別され、ファイル情報が表示されます。デザインエディターでトピックにサウンドファイルをドラッグすると、そのサウンドファイルを追加できます。
	ビデオファイル（AVI、MOV形式.）：ダブルクリックするとファイルを使用するトピックが識別され、ファイル情報が表示されます。デザインエディターでトピックにビデオファイルをドラッグすると、そのビデオファイルを追加できます。
	Adobe Captivateファイル（SWFファイル）：ダブルクリックするとファイルを使用するトピックが識別され、ファイル情報が表示されます。デザインエディターでトピックにAdobe Captivateファイルをドラッグすると、そのファイルを追加できます。
	カスタムウィンドウ。ウィンドウプロパティを変更するには、ダブルクリックします。
	スタイルシート（CSS）：スタイルを変更するには、ダブルクリックします。
	What's This? Helpのテキストのみファイル（.TXT形式）：ダブルクリックすると、テキストのみトピックファイルを作成または変更できます。
	状況依存ヘルプのマップファイル（.HH）：読み込まれたマップファイルまたは自動生成されたファイルが含まれます。
	すべてのマップID：状況依存ヘルプのHTMLトピックにマップIDをリンクします。ダブルクリックすると、マップIDとマップファイルの作業を行うことができます。
	目次フォルダー：デフォルトの目次およびプロジェクトのその他の目次を表示します。

アイコン	説明
	目次フォルダー：目次のリストの表示を展開します。
	目次：ダブルクリックして、選択した目次ペインを開きます。
	索引フォルダー：デフォルトの索引およびその他の索引の一覧を表示します。
	索引フォルダー：索引のリストの表示を展開します。
	索引：ダブルクリックして、選択した索引ペインを開きます。
	用語集フォルダー：デフォルトの用語集およびその他の用語集の一覧を表示します。
	用語集フォルダー：目次のリストの表示を展開します。
	用語集：選択した用語集ペインをダブルクリックして開きます。
	関連項目：ダブルクリックして関連項目ペインを開き、関連項目キーワードに追加します。
	バゲッジファイル（BMP、ICO、XML、JS、その他のファイル）：リンクコントロールやスタートアップ画面用のカスタムボタンなどのHTMLヘルプコントロールで使用するビットマップおよびアイコンなどのファイル。プロジェクトにダイナミックHTMLが含まれる場合、EHLPDHTMJSファイルはバゲッジファイルフォルダーに追加されます。トピックの背景やスクリプトなどのその他の画像ファイルも追加されます。

ヒント: ファイル名拡張子をアプリケーションにマップできます。例えば、GIFファイルをAdobe Photoshop®にマップできます。画像フォルダーからGIFファイルを右クリックして、「編集」を選択すると、ファイルはPhotoshopで開きます。

関連するリンク:

段落の言語の定義

複数言語のコンテンツの作成

既存のプロジェクトまたは新規プロジェクトで言語を変更できます。これにより、ウィンドウのテキスト、スペルチェッカーの辞書、自動索引（スマート検索ウィザード）のカスタム設定がすべて自動的に変更されます。

閲覧シーケンスボタンのテキスト、「進む」および「戻る」ボタン、「表示/非表示」ボタン、一部のメッセージテキストなどの表示テキストもカスタマイズできます。テキストはすべてユーザーが指定できます。例えば、「検索」タブのデフォルトのテキスト「検索」は、ユーザーが選択した言語の「検索」という意味の単語に変更できます。

プロジェクトを翻訳者に提出するときには、出力ファイルではなく、必ずソースファイルを提出します。

注: HTML ヘルプシステムでは、エンドユーザーのオペレーティングシステムの言語は、プロジェクトで使用する言語と同じである必要があります。そうでない場合、エンドユーザーのオペレーティングシステムによって、プロジェクトで指定した言語が上書きされます。辞書および索引のソートは、エンドユーザーのシステムの影響を受けません。

複数言語のサポート

RoboHelp では、段落、トピックおよびプロジェクトレベルで複数の言語がサポートされています。RoboHelp のユーザーインターフェイスを使用して、段落レベルとトピックレベルで言語を設定できます。段落レベルで定義された言語は、トピックレベルで定義された言語に優先します。トピックレベルで設定された言語は、プロジェクトレベルで定義された言語に優先します。プロジェクトレベルで定義された言語が、段落レベルで定義された言語に優先することはありません。優先される言語は、有効な言語として考慮することができます。有効な言語は、スペルチェック、辞書または類義語辞典、スマート索引の生成および全文検索の準備で使用されます。

プロジェクトの言語は、プロジェクトレベルで定義されます。プロジェクト／プロジェクト設定で、様々な言語設定を適用できます。

トピックプロパティダイアログボックスを使用して、トピックの言語を定義します。

段落ダイアログボックスを使用して、段落の言語を定義します。デザインビューで段落を選択し、コンテンツメニューから「段落」を選択します。

RoboHelp では次の言語がサポートされています：

言語	スペルチェック	ユーザー辞書	類義語辞典	自動修正
アラビア語	O	O	O	O
デンマーク語（デンマーク）	O	O	O	O
ドイツ語（ドイツ）	O	O	O	O
英語（米国）	O	O	O	O
英語（英国）	O	O	O	O
スペイン語（スペイン）	O	O	O	O
フランス語（フランス）	O	O	O	O
ヘブライ語	O	O	O	O
イタリア語（イタリア）	O	O	O	O
オランダ語（オランダ）	O	O	O	O
ノルウェー語ブークモール（ノルウェー）	O	O	O	O
ノルウェー語ニーノシク（ノルウェー）	O	O	X	O
ポルトガル語（ブラジル）	O	O	X	O
スウェーデン語（スウェーデン）	O	O	O	O
クロアチア語（クロアチア）	O	O	X	O
ポルトガル語（ポルトガル）	O	O	X	O
フランス語（カナダ）	O	O	O	O
フィンランド語（フィンランド）	O	O	X	O
カタロニア語（スペイン）	O	O	X	O
ロシア語（ロシア）	O	O	X	O
ブルガリア語（ブルガリア）	O	O	X	O
チェコ語（チェコ共和国）	O	O	X	O

言語	スペルチェック	ユーザー辞書	類義語辞典	自動修正
ポーランド語（ポーランド）	O	O	X	O
ルーマニア語（ルーマニア）	O	O	X	O
ハンガリー語（ハンガリー）	O	O	X	O
ギリシャ語（ギリシャ）	O	O	X	O
トルコ語（トルコ）	O	O	X	O
エストニア語（エストニア）	O	O	X	O
ラトビア語（ラトビア）	O	O	X	O
リトアニア語（リトアニア）	O	O	X	O
スロベニア語（スロベニア）	O	O	X	O
ドイツ語（スイス）	O	O	O	O
日本語（日本）	X	X	X	X
韓国語（韓国）	X	X	X	X
繁体字中国語（台湾）	X	X	X	X
簡体字中国語（中国）	X	X	X	X
タイ語（タイ）	X	X	X	X
ベトナム語（ベトナム）	X	X	X	X

関連するリンク：

トピックの作成

シングルソースレイアウトの作成と編集

翻訳のワークフロー

同一プロジェクトの中で英語のコンテンツを翻訳することで、1つのRoboHelp HTMLプロジェクトに複数言語のコンテンツを作成できます。さらに、必要な言語のプロジェクトで、目次、索引、用語集およびコンディショナルビルドのタグを作成できます。最後に、コンディショナルビルドタグを各種言語で作成されたコンテンツに適用して、条件付き出力を生成します。

このワークフローの手順に従います。このワークフローでは例として、英語からフランス語および日本語への翻訳を使用します。

1) フランス語の言語を選択し、フランス語の言語のプロジェクト設定を適用します。

2) 英語版のトピックを開き、フランス語のトピックを作成し、トピックタイトルを含むコンテンツを英語からフランス語に翻訳します（トピックのファイル名は翻訳しないでください）。

3) フランス語の目次、索引および用語集を作成します。

4) FrenchContentなどのコンディショナルビルドタグを作成します。

5) フランス語のコンテンツとトピックにFrenchContentコンディショナルビルドタグを適用します。

6) フランス語の出力を生成します。

7) 日本語を選択して、日本語の言語プロジェクト設定を適用します。

8) 英語版のトピックを開き、日本語のトピックを作成し、コンテンツを英語から日本語に翻訳します。

9) 日本語の目次、索引および用語集を作成します。

10) JapaneseContentというコンディショナルビルドタグを作成します。

11) 日本語のコンテンツに JapaneseContent コンディショナルビルドタグを適用します。

12) 日本語の出力を生成します。**注**：日本語の出力を表示するには、PCの言語を日本語に変更する必要があります。**注**：WebHelpプロジェクトを翻訳するには、まずプロジェクトのコピーを作成し、RoboHelpでそのコピーを開き、目的の言語でオーサリングを行います。

異なる言語でのコンテンツの比較

1) 異なる言語で作成されたトピックを開きます。
2) デザインエディターで、トピックを並べて配置します。トピックのタブを少し下、または右にドラッグし、ページアイコン が表示されたらマウスを放します。「新規水平タブグループ」または「新規垂直タブグループ」を選択します。

プロジェクトファイルの変換用に異なる言語を選択

1) 出力／ストップ語を選択します。
2) ローカライズの詳細設定ダイアログボックスで、以下のタブを使用します。

停止リスト

「新規」をクリックして、全文検索中に無視する単語を追加します。

フレーズ

「新規」をクリックして、トピックのコンテンツでキーワードを検索するときにスマート索引ウィザードが取り込むフレーズを追加します。

ラベル

「編集」をクリックして、リストにある各ユーザーインターフェイス要素について、テキストを変更します。

「常に無視」する単語

「新規作成」をクリックして、索引の生成時にスマート索引ウィザードで無視する単語またはフレーズを追加します。

同意語

単語の同意語を追加するには、「新規」をクリックします。このオプションを使用すると、単語とその同意語を検索できます。結果は常に検索された単語について返されます。

異なる言語でのプロジェクトの作成

1) ファイル／新規プロジェクトを選択します 。

2) 「新規作成」タブで、「プロジェクトタイプ」をダブルクリックします。新規プロジェクトウィザードが表示されます。

   注: JavaHelp プロジェクトまたは Oracle Help プロジェクトを作成する場合は、まず、Microsoft HTML ヘルププロジェクトを作成してから、そのプロジェクトに新しいレイアウトを追加します。

3) プロジェクト情報を入力します。

4) 言語メニューで、言語を選択します。その言語をデフォルトとして保存するには、「デフォルトとして保存」をクリックします。

5) 「完了」をクリックします。

最初のトピックがデザインエディターで開きます。プロジェクトを生成して表示して、結果を表示します。

関連するリンク:

Microsoft Word ドキュメントの読み込みとリンク

ローカライズ用にテキストをカスタマイズ

WebHelp、WebHelp Pro、FlashHelp、FlashHelp Pro および HTML ヘルプのユーザーインターフェイスで特定のテキストをカスタマイズできます。各書式で変更できるものは次のとおりです。

WebHelp、WebHelp Pro、FlashHelp および FlashHelp Pro

- スキンを使用して　スキンエディターでテキストをカスタマイズします。デフォルトのテキスト（コンテンツボタンの「コンテンツ」など）を変更しない場合、テキストはプロジェクトの言語で自動的に翻訳されます。スキンのテキストをカスタマイズする場合、スキンテキストは LNG ファイルでユーザーが行うすべてのカスタマイズに優先します。FlashHelp の場合、Flash 開発者はスキン開発キットを使用してテキストをカスタマイズします。

WebHelp のみ

- スキンを使用しないで　言語ファイルを編集します。「閲覧シーケンス」ボタン、「用語集」タブ、「前へ」ボタン、「次へ」ボタン、特定のメッセージ、「コンテンツ」タブ、「索引」タブおよび「検索」タブのテキストをローカライズできます。例えば、「検索」タブのテキストを「検索」から「サーチ」に変更できます。

HTML Help

「閲覧シーケンス」ボタンのテキストおよび「用語集」タブのテキストをカスタマイズできます。Windows のプロパティダイアログボックスでウィンドウのタイトルを変更します。

ラベルファイルの編集

1) プロジェクトを作成するか、開きます。
2) 出力／ラベルを選択します。
3) インターフェイスのテキストを選択します。「編集」をクリックします。
4) 編集内容を入力します。Enter キーを押します。

注意：

- RoboHHRE.LNG が既にユーザーの Windows フォルダーにある場合は、バゲッジファイルフォルダー内のファイルよりも優先されます。
- RoboHHRE.LNG ファイルを含めない場合や、一部の値を省略した場合は、例に示した英語の値がプロジェクトのデフォルトになります。
- スキンを使用している場合、デフォルトのテキストはデフォルトの言語に翻訳されます。スキンのテキストをカスタマイズした場合、スキンテキストは LNG ファイルのカスタマイズに優先します。

プロジェクトのデフォルト言語の変更

1) プロジェクトを開きます。
2) プロジェクト／プロジェクトの設定を選択します。
3) 「全般」タブを選択し、言語を選択します。
4) 「OK」をクリックします。
5) プロジェクトを生成して表示します。

注意：

- スキンを使用している場合、デフォルトのテキストでは、プロジェクトの言語設定が使用されます。カスタマイズしたスキンテキストは、LNG ファイルのテキスト設定よりも優先されます。
- ウィンドウのプロパティダイアログでウィンドウのタイトルをローカライズします（WebHelp プロジェクトには適用されません）。

関連辞書の言語サポート

お使いのプロジェクトに、複数言語用に固定されたコンテンツが含まれている場合、プロジェクト、トピックおよび段落内の RoboHelp 言語設定を別々に定義します。有効な言語は辞書および類義語辞典の関連付けおよびスペルチェックに使用します。例えば、プロジェクト言語を英国英語に設定し、複数の段落の言語をフランス語に設定したとします。フランス語の段落ではフランス語のスペルチェッカーが有効になりますが、コンテンツの残り部分には英国英語スペルチェッカーが使用されます。

注: 各言語の更新された言語設定は、プロジェクトフォルダーの共通の場所に保存されます。言語設定情報には、プロジェクトフォルダー内の !Language! フォルダーでアクセスできます。

ローカライズされたテキストの索引作成

スマート索引ウィザードを使用して、ローカライズしたプロジェクトに索引を付けます。トピック内容に基づいて、各トピックにキーワードを割り当てることができます。索引は、スマート索引ウィザードで定義した言語および検索条件に基づいて生成されます。スマート索引ウィザードでは、トピック内容に基づいてキーワードの候補が表示されます。

1) 新規または既存のプロジェクトの言語を選択します。

2) 索引を自動的に作成する手順に従います。

ユニバーサル文字セット

RoboHelp では、複数の言語でコンテンツを作成できます。ただし、複数言語の環境でコンテンツを作成するのは、言語が Microsoft Windows コードページが複数にわたる場合、困難となる可能性があります。RoboHelp では Unicode 文字のエンコード規格のサポートにより、こうした困難の多くを克服します。

Unicode を使用しない場合、オペレーティングシステムではコードページベースの環境を使用します。この環境では、言語スクリプトごとに個別の文字の表があります。1 つのオペレーティングシステムのコードページに基づくコンテンツは、別のコードページを使用するオペレーティングシステムでは、正しく翻訳されない場合が多くあります。例えば、ドイツ語のコードページを搭載した Microsoft Windows® XP/Vista オペレーティングシステムの英語版を実行しているとします。Windows XP/Vista の日本語版で作成されたプレーンテキストファイルを開くとします。この場合、日本語のコードページのコードポイントが欧文スクリプトで予期しない、または存在しない文字にマップされます。結果として生じるテキストは判読できないものになります。

Unicode テキストエンコーディング規格のサポート

RoboHelp HTML は Unicode テキストエンコーディングをサポートしています。RoboHelp を実行するオペレーティングシステムによって使用される言語にかかわらず、複数言語でトピックを作成できます。

Unicode に関連する次のタスクを実行できます。

- 複数言語の段落および語句を含むドキュメントをオーサリングします。例えば、同じ段落の中に、ギリシャ語の文字、ロシア語の文字、フランス語のテキストを続けて入力することができます。

- 関連する言語のスペルチェッカーを使用してUnicodeコンテンツをチェック
- Unicodeエンコード HTMLおよびテキストファイル（UTF-8およびUTF-16エンコードファイル）を作成し、開き、編集します。
- 入力フォームとダイアログボックスへのUnicode文字の入力。
- Unicode文字列を使用した目次、索引、および用語集の生成。
- Unicode以外でエンコードされたファイルの種類（HTML、XML、MIGFなど）の変換およびテキストの読み込み
- 完全なパス名でマルチバイト文字を追加することによる、英語以外のサーバーへのコンテンツの公開
- UnicodeでエンコードされたHTMファイル（UTF-8およびUTF-16でエンコードされたファイル）を作成、開く、または編集
- フィールド、ダイアログボックス、ウィザードおよびフォームにおける、Unicodeでエンコードされた入力とUnicodeコンテンツの表示

Windowsでの入力言語の設定

HTMLファイルで英語以外のテキスト、またはUnicode文字の入力を開始する前に、RoboHelp HTML 8がUTF-8ロケールで実行されていることを確認します。オペレーションシステム全体でのキーボード入力用に言語を追加する場合は、コンピューターで地域言語の設定、またはロケール設定を行います。

Windows® XPの地域と言語の設定を使用して、キーボード入力用の言語を追加します。これらの言語および音声の設定は、デスクトップ上の言語バーに表示されます。バーとローカライズされたキーボードから言語を選択した後、ドキュメント内で必要なテキストの入力を開始できます。Microsoft®はキーボードのレイアウトを定義します。

1) コントロールパネルを開き、地域と言語のオプションアイコンをダブルクリックします。地域と言語のオプションダイアログボックスが表示されます。
2) 「言語」タブをクリックします。
3) 「詳細」ボタンをクリックします。テキストサービスと入力言語ダイアログボックスが表示されます。
4) 「設定」タブの「追加」ボタンをクリックします。
5) 入力言語リストから言語を選択します。

6) 「OK」をクリックします。選択した言語は、インストール済みサービスリストに含まれています。

7) 既定の言語リストで目的の言語を選択します。

8) 「適用」をクリックして設定を保存し、「OK」をクリックしてテキストサービスと入力言語ダイアログボックスを閉じます。

9) 「地域オプション」タブをクリックし、既定の言語リストで選択した言語を選択します。

10) 「適用」をクリックして設定を保存し、「OK」をクリックして地域と言語のオプションダイアログボックスを閉じます。言語バーがコンピューターのデスクトップに表示されます。

11) RoboHelp を開いてコンテンツを入力します。選択した言語でテキストが表示されます。

既定の言語リストと「地域オプション」タブで言語を変更できます。言語バーで選択された言語は、新しい選択を反映して自動的に更新されます。

ローカライズされたプロジェクトのアップグレード

製品レベルのカスタマイズは RoboHelp の *[install_folder]*\Language に移動されます。例えば、英語は en_US と en_UK という名前に変更され、フランス語は fr_FR という名前に変更されます。

プロジェクトレベルのカスタマイズは、*[project folder]*\!Language!*[language folder]* に移動されます。

マイナーなカスタマイズ

1) メモ帳を開きます。

2) 変更するファイルを開きます。これらのファイルは C:\Program Files\Adobe\Adobe RoboHelp*[version]*\RoboHTML\!Language!\en_US にあります。

3) プロジェクトを開きます。次の操作を行います：

- LNG ファイルの編集。
- カスタム単語リストの編集。

メジャーなカスタマイズ

1) メモ帳を開きます。

2) C:\Program Files\Adobe\Adobe RoboHelp*[version]*\RoboHTML\Languageにある古いファイルを開きます。

3) Languageプロジェクトフォルダーにある新しいファイルを別のウィンドウで開きます。

4) 古いファイルから新しいファイルにカスタマイズ内容をコピーします。ファイル名については、表を参照してください。

ファイルの説明	7より前のファイル名	7のファイル名
フレーズリスト	Phrases.wlf	ProjectName.phr
常に無視リスト	AlwaysIgn.wlf	ProjectName.ign
停止リスト	*.stp	ProjectName.stp
言語ファイル	*.lng	ProjectName.lng

注： 上記の手順は推奨される手法ではありません。推奨される手法については、次を参照してください：プロジェクトの設定の変更

PDFファイルの読み込み

1つのAdobe PDFファイル（バージョン1.4以降）を、新規または既存のプロジェクトの単一のトピックまたは複数のトピックに変換することができます。

- SWF、PDFポートフォリオ、および暗号化PDFファイル（パスワードが必要なファイル）を読み込むことはできません。
- PDFに3D画像が含まれている場合は、これらの画像を読み込むにはPDFをバージョン5で保存します。
- 目次または索引のフィールドコードは、PDFに変換されます。
- PDFファイルの読み込みにAdobe Reader®またはAdobe Acrobat®は必要ありません。
- HTMLに読み込んだときに、PDFファイルの一部のフォントが正しく変換されない場合があります。

PDF ファイルの読み込みによるプロジェクトの作成

注: 暗号化された PDF ファイル（パスワードの必要なファイル）は読み込むことができません。

1) ファイル／新規プロジェクトを選択します 。
2) 「読み込み」タブをクリックします。PDF ドキュメントを選択して、「OK」をクリックします。
3) 「参照」ボタンをクリックして、1 つのフォルダーから 1 つ以上の PDF ファイルを選択します。「開く」をクリックし「次へ」をクリックします
4) プロジェクト情報を入力します。「次へ」をクリックします。
5) 変換オプションダイアログボックスでオプションを選択します。

トピック

PDF をトピックに分割する方法を選択します。

スタイルに基づいて新規トピックを作成

「次へ」ボタンをアクティブ化します。スタイルをクリックして選択します。

シングルトピックを作成

PDF 全体から 1 つのトピックを作成します。

各 PDF ページにトピックを作成

追加オプションを選択します。

HTML として変換

各 PDF ページにトピックを作成します。

画像として変換

各 PDF ページを別々の画像としてレンダリングします。

絶対配置された HTML として変換（詳細）

各 PDF ページにトピックを作成します。コンテンツを配置すると、高度な HTML が必要となり、その後の編集が難しくなる場合があります。他のオプションで期待する結果が得られない場合に、このオプションを使用してください。このオプションは、印刷ドキュメントには推奨しません。

画像（JPG、GIF、PNG）

PDFから変換した画像のフォーマットを選択します。画像を除外するには、「なし」を選択します。

ページ範囲

デフォルトでは、すべてのPDFページが変換されます。開始ページと終了ページの番号を入力することもできます。

スタイルに基づくトピックの新規作成

スタイルは次のように変換されます。

- 最も多く使用されているスタイルが「標準」スタイルになります。このスタイルを使用してトピックを分割することはできません。
- その他のスタイルは、最大のポイントサイズから最小までランク分けされます。スタイルのランキングでは、太字（最高優先）、イタリック、および通常（最低優先）も考慮されます。
- スタイルは、並べ替えられて、最優先の見出しスタイルには"Heading 1"が割り当てられ、その他のスタイルには"PdfParaStyle01"から"PdfParaStyleX"までが割り当てられます。これらのスタイルの名前を変更するには、このダイアログを使用します。

次に基づいて新規トピックを作成

PDFドキュメントで使用するスタイルをリストします。

> **注：** RoboHelpでは、指定されたスタイルを使用して、ドキュメントをトピックに分割します。作成されるトピックファイルのファイル名には、そのスタイルのテキストがデフォルトで含まれます。トピックファイル名に含まれる非ASCII文字はすべて自動的にASCII文字に変換されます。

説明

選択したスタイルの説明を表示します。

段落プレビュー

選択したスタイルのプレビューを表示します。

スタイル名を変更

プロジェクト内で選択したスタイルの名前を変更します。

完了

読み込みプロセスを完了します。

戻る

変換オプションダイアログボックスに戻ります。

プロジェクトへの PDF ファイルの読み込み

1) プロジェクトマネージャーポッドで「プロジェクトファイル」を右クリックします。
2) 読み込むファイルを選択します。
3) プロジェクト／読み込み ／ PDF ドキュメントを選択します。
4) 1 つ以上の PDF ファイルを選択します。「開く」をクリックします。
5) 変換オプションダイアログボックスでオプションを選択します。
6) 「スタイルに基づいて新規トピックを作成」を選択した場合は、「次へ」をクリックしてスタイルを選択します。
7) 「完了」をクリックします。

Word および FrameMaker ドキュメントの読み込みとリンク

Microsoft Word および Adobe FrameMaker ドキュメントを、RoboHelp プロジェクトに読み込むことができます。

関連するリンク：

FrameMaker ドキュメントの読み込み
カスタム HTML タグ

Microsoft Word ドキュメントの読み込みとリンク

RoboHelp では、Microsoft Word ドキュメント（ファイル名の後に .docx、.docm、.doc または .rtf 拡張子の付いているファイル）を読み込むか、またはリンクすることができます。Word ドキュメントを読み込むかリンクして、新しいプロジェクトを作成できます。または、Word ドキュメントを既存の RoboHelp プロジェクトのソースファイルとして使用できます。このワークフローを使用して、別の作成者が Word で作成したコンテンツを統合できます。

Word ドキュメントの読み込みやリンクの設定は、プロジェクトレベルで適用されます。このため、RoboHelp プロジェクトに読み込むか、またはリンクするすべてのドキュメントに一貫した設定が使用されます。また、定義した変換設定を書き出して、複数のプロジェクトで再利用できます。変換に一連の標準設定を定義すると、プロジェクト全体での一貫性が確保されます。Word の変換設定を参照してください。

Word ドキュメントを RoboHelp に読み込む手順

1) Word ドキュメントを指定します。
2) Word ドキュメントを読み込むために最適化します。オンライン出力用の Word ドキュメントの最適化を参照してください。
3) Word ドキュメントのリンクと読み込みの違いに目を通しておきます。Word ドキュメントのリンクと読み込みを参照してください。
4) RoboHelp を開きプロジェクトを作成するか既存のプロジェクトを使用し、Word ドキュメントを読み込みます。
5) Word ドキュメントを読み込みます。Word ドキュメントの RoboHelp プロジェクトへの読み込みを参照してください。
6) 変換設定を書き出し、別の Word ドキュメントを読み込むときに再使用します。設定の書き出しを参照してください。

RoboHelp から Word ドキュメントをリンクする手順

1) Word ドキュメントを指定します。
2) Word ドキュメントをリンクするために最適化します。オンライン出力用の Word ドキュメントの最適化を参照してください。

3) Word ドキュメントのリンクと読み込みの違いに目を通しておきます。Word ドキュメントのリンクと読み込みを参照してください。

4) Word ドキュメントをリンクするためのオプションに目を通しておいてください。Word ドキュメントのリンクオプションを参照してください。

5) RoboHelp を開きプロジェクトを作成するか既存のプロジェクトを使用し、Word ドキュメントをリンクします。

6) Word ドキュメントをリンクします。Word ドキュメントの RoboHelp プロジェクトへのリンクを参照してください。

7) Word ドキュメントを編集する場合は、リンクされた Word ドキュメントと RoboHelp を同期します。リンクされた Word ドキュメントと RoboHelp プロジェクトとの同期を参照してください。

8) 変換設定を書き出し、別の Word ドキュメントをリンクするときに再使用します。設定の書き出しを参照してください。

Word ドキュメントのリンクと読み込み

Word ドキュメントから RoboHelp プロジェクトへのコンテンツの統合には、リンクと読み込みという 2 つのオプションがあります。次の表では、2 つの方法の違いを説明します。

オプション	リンク	読み込み	備考
生成されたトピックの更新機能	**O.** を修正します。ソース文書や、RoboHelp プロジェクトの設定を変更するたびに、生成されたトピックを更新できます。	**X.** を修正します。Word ドキュメントを RoboHelp プロジェクトに読み込むと、RoboHelp は、Word ドキュメントの内容を RoboHelp プロジェクトにコピーします。RoboHelp は、変換設定に基づいてトピックを生成します。ソース文書が変更されると、生成されたトピックを削除して、Word ドキュメントを再読み込みします。	ソース Word ドキュメントを変更できる場合、リンクオプションを使用します。通常、複数のプロジェクトで Word ドキュメントを共有している場合は、Word ドキュメントをリンクします。 ただし、コンテンツを 1 回限りの活動に使用する場合は、「読み込み」オプションを使用できます。

オプション	リンク	読み込み	備考
ソース文書から目次、索引、および用語集の変更を自動的に更新する機能	**O.** を修正します。ドキュメントをリンクすると、独立した目次、索引、および用語集のファイルが作成され、リンクされたWordドキュメントに関連付けられます。リンクされたWordドキュメントが更新されると、リンクされた目次、索引、および用語集のファイルも更新されます。	**X.**Wordドキュメントを読み込むと、生成された目次が追加され、索引と用語集が、選択された目次、索引、および用語集のファイルにマージされます。	コンポーネントがWordドキュメントで更新されるたびに、目次、索引、および用語集を自動的に更新する必要がある場合は、リンクオプションを使用します。
削除されたトピックの再生成機能	**O.** を修正します。読み込まれたWordドキュメントから生成したトピックを削除して、Wordドキュメントの更新時に、同じトピックを再作成できます。	**X.** を修正します。ソース文書を再度読み込んで、削除されたトピックを再生成します。	ソース文書を複数のプロジェクトで共有している場合は、このリンクオプションを使用します。
生成されたトピックで変更を保存する機能。	**O.** リンクされたドキュメントが更新されたときに、マークされたトピックが更新されないようにするため、リンクされたWordドキュメントから生成されたトピックをマークすることができます。このようにすると、RoboHelpで行ったすべての変更を保存できます。	**X.**Wordドキュメントを再読み込みすると、読み込まれたドキュメントから以前に生成されたすべてのトピックは再作成され、RoboHelp でユーザーが行った変更は上書きされます。	リンクされた Word ドキュメントと生成されたトピックの両方に対して行われた更新を保持する必要がある場合は、リンクオプションを使用します。
プロジェクトマネージャーから生成されたファイルのファイル名とトピックタイトルを変更する機能。	**X.**Wordドキュメントをリンクする場合、プロジェクトマネージャーから生成されたファイルのファイル名またはトピックタイトルを変更することはできません。	**O.**Wordドキュメントを読み込む場合、生成されたファイルのファイル名またはトピックタイトルを変更することができます。	プロジェクトマネージャーからファイル名とトピックタイトルをカスタマイズする必要がある場合は、読み込みオプションを使用します。

オンライン出力用のWordドキュメントの最適化

印刷形式、またはオンライン形式で公開されているWordドキュメントを読み込む場合は、リンクしたり、RoboHelpプロジェクトに読み込む前に、以下を検討してください。

見出しの階層

見出しのスタイルに基づいて、自動ページ割り付けがされるように（ドキュメントをトピックに分割する）、Wordの見出しのスタイルからRoboHelpのスタイルに最も適したマッピングを決定します。ドキュメントで階層的な見出しのスタイルを使用していない場合は、変換前にスタイルを適用します。例えば、Wordドキュメントで見出し1スタイルを独立した記事に適用できます。次にこのスタイルを類似したRoboHelpスタイルにマッピングして、各見出し1スタイルについて、HTMLトピックを作成するスタイルとページ割り付けを定義します。次を参照してください。変換されたWordファイルでのページ割り付けとトピックの名前付け。

インラインスタイルとスタイルの無視

インラインスタイルは、RoboHelpのCSSスタイルに変換できます。ただし、インラインスタイルをCSSスタイルに変換すると、多数のスタイルで同じ書式を共有することになります。次を参照してください。WordスタイルのRoboHelpスタイルへの変換。

ヘッダーとフッターの情報

RoboHelpでは、ヘッダーとフッターを変換できます。トピック全体で一貫性を確保するため、必要なヘッダーとフッターの情報を含むマスターページを定義できます。マスターページを使用すると、ヘッダーとフッターのページ番号を非表示にすることもできます。Wordドキュメントでのヘッダーとフッターの変換を参照してください。

章とトピック

印刷ドキュメントの章とは、内容をグループ化する論理的および物理的単位です。オンラインヘルプの組織単位はトピックで、ユーザーはトピックを一度に1つずつ表示します。コンテンツは、ユーザーが目次を移動するときに展開するフォルダー内にグループ化できますが、画面に一度に表示されるトピックは1つだけです。冗長にならないように、関連トピックをグループ化して包括的な情報の提供を試みます。変換されたWordファイルでのページ割り付けとトピックの名前付け。

目次

Wordドキュメントを読み込むときに、Wordの目次をRoboHelpの目次に読み込むこともできます。トピックの階層を定義して、RoboHelpの目次でその階層を使用できます。Wordの目次、索引、および用語集の読み込みを参照してください。

状況依存

オンラインヘルプ形式では、特定のトピックとユーザーがアプリケーションワークフローで使用するダイアログボックスやその他の要素とリンクできます。RoboHelpのトピックにマップIDを割り当てることができます。カスタムの脚注エントリを使用して、Wordドキュメントに状況依存ヘルプマーカーを割り当てることもできます。RoboHelpでは、これらの脚注エントリが読み取られ、生成されたトピックにマップIDが割り当てられます。ソースWordドキュメントのトピックは、断片化しすぎないようにします。トピックには、独立した単位として意味を成す情報が含まれている必要があります。

例えば、導入的な概念情報がないと意味を成さない短いタスクは、独立したトピックとして表示しないでください。コンテンツが断片化しすぎないように、トピックには高レベルで状況依存ヘルプマーカーを割り当てます。こうすると、生成されたヘルプトピックに、概念、タスク、関連性のあるグラフィックが含まれるようになります。Wordでの状況依存ヘルプマーカーのマップIDへの変換を参照してください。

Wordドキュメントのリンクオプション

WordドキュメントをRoboHelpプロジェクトにリンクする場合、プロジェクト設定（プロジェクト／プロジェクト設定）の「読み込み」タブで次のオプションのいずれかを指定できます。

参照を作成

外部Wordドキュメントへの参照を作成します。この場合、ソースWordドキュメントは、RoboHelpプロジェクトフォルダーにコピーされません。ドキュメントは、プロジェクト外に置かれたままになります。Wordドキュメントは、Wordで独立した編集と更新が可能です。リンクされたドキュメントから生成したトピックは、後でRoboHelp内で更新できます。

複数のプロジェクトで共有するコンテンツを読み込むには、参照でリンクするオプションを使用します。ドキュメントのコピーが、1つしか存在しないので、ソース文書の変更は、リンクされているすべてのプロジェクトに反映されます。

コピーとリンクを作成

ソース文書のコピーとRoboHelpプロジェクトへのリンクを作成できます。この場合は、ソース文書のコピーが、RoboHelpプロジェクトにコピーされ、プロジェクトマネージャーポッドに表示されます。Wordコピーは、ソース文書に影響を与えずに編集と更新が可能です。コピーされたWordドキュメントから生成したトピックは、ドキュメントを編集するたびに更新されます。

コピーとリンクを作成オプションを使用してRoboHelpでWordドキュメントを維持し、ソース文書へのアクセスを制限して、RoboHelpプロジェクトで使用可能なコピーのみで編集を許可します。例えば、静的Wordドキュメントからコンテンツを読み込むには、そのドキュメントをRoboHelpプロジェクトにコピーしてリンクします。**注**: このオプションは、Wordドキュメントをリンクしている場合にのみ使用できます。Wordドキュメントを読み込むときに、RoboHelpは、ソースWordドキュメントへのリンクは保持しません。

Wordドキュメントのリンクと読み込み

- Wordドキュメントのリンクまたは読み込みによるRoboHelpプロジェクトの作成。DOCX、DOC、DOCMまたはRTFファイルを読み込むことができます。
- WordドキュメントのRoboHelpプロジェクトへのリンクまたは読み込み
- （リンクされたドキュメントの場合）変換設定やソース文書を変更するたびに、生成されたトピックを更新します。

変換設定を定義し、ヘルプトピックを生成するまで、HTMLファイルは作成されません。ソースWordドキュメントは、リンクやその後の編集による影響を受けません。RoboHelpは、変換設定を適用する前に、リンクまたは読み込まれたWordドキュメントのコピーを作成します。

Wordドキュメントの読み込みによるプロジェクトの作成

Wordドキュメントを読み込んでRoboHelpプロジェクトを作成できます。Wordファイルを読み込むには、Microsoft Wordがコンピューターにインストールされている必要があります。
注: DOCX形式とDOCM形式は、Microsoft Word 2007以前のバージョンではサポートされていません。詳細は、Microsoft Wordヘルプを参照してください。

1) スターターポッドで、「読み込み」の下から Word ドキュメントを選択します。

2) ファイルの種類ポップアップメニューから、「Word ドキュメント」を選択します。Word ドキュメントを選択し、「開く」をクリックします。

3) 新規プロジェクトウィザードに関連する詳細を入力して、「完了」をクリックします。

Word ドキュメントの RoboHelp プロジェクトへのリンク

1) RoboHelp でプロジェクトを作成します。

2) プロジェクト／リンク／Word ファイルを選択します 。

3) 「参照」をクリックし、1 つ以上の Word ドキュメントを選択して、「開く」をクリックします。

   注: 別個の目次を持つ複数のドキュメントを読み込むには、ドキュメントをマスター目次に表示する順に選択します。

4) プロジェクトマネージャーでリンクされているファイルを右クリックし、「プロパティ」を選択します。

5) Word ドキュメント設定ダイアログボックスで次の操作を行います。

   - ソース文書から目次を生成するには、目次を変換オプションを選択し、ファイル名を指定します。
   - ソース文書から索引を生成するには、索引を変換オプションを選択し、ファイル名を指定します。
   - ソース文書から用語集を生成するには、用語集を変換オプションを選択し、ファイル名を指定します。

     注: プロジェクト設定の用語集の用語と定義の段落スタイルを定義することができます。Word の段落スタイルの RoboHelp スタイルへの変換を参照してください。

   注: RoboHelp は、生成された目次、索引、および用語集のファイルをソース Word ドキュメントに関連付けます。そのため、ソース文書が更新されると、目次、索引、および用語集のファイルも更新されます。

6) 「OK」をクリックします。

Word ドキュメントの RoboHelp プロジェクトへの読み込み

1) RoboHelp でプロジェクトを作成します。

2) プロジェクト／読み込み ／ Word ドキュメントを選択します 。

3) 「参照」をクリックし、1 つ以上の Word ドキュメントを選択して、「開く」をクリックします。

   注: 別個の目次を持つ複数のドキュメントを読み込むには、ドキュメントをマスター目次に表示する順に選択します。

4) ダイアログボックスで、目次、索引、および用語集の変換オプションを設定し、「次へ」をクリックします。

   様々な変換オプションの詳細については、Word の目次、索引、および用語集の読み込みを参照してください。

5) （オプション）変換設定を編集するには、「編集」をクリックします。

6) 「最大読み込み」チェックボックスを選択し、MS Word ドキュメントから読み込む異なるヘッダーやフッターの数を指定します。

   注: 新しいマスターページは、読み込んだ MS Word ドキュメントからのヘッダーとフッターを使用して作成されます。

7) 要件に応じて変換設定を変更し、「OK」をクリックします。

   ヘッダーおよびフッターの変換に関する詳細については、次を参照してください：Word ドキュメントでのヘッダーとフッターの変換

   段落、文字、およびその他のスタイルの変換に関する詳細については、Word スタイルの RoboHelp スタイルへの変換。

8) 「完了」をクリックします。

Wordの目次、索引、および用語集の読み込み

Wordドキュメントを RoboHelpプロジェクトに読み込むときに、目次も読み込むことができます。Wordドキュメントで定義したナビゲーション構造をヘルプで維持するには、RoboHelpプロジェクトに目次を読み込みます。Wordで生成した目次を読み込むと、最初の見出しがブックになります。それ以下の見出しはページになります（それ以下にブックがない場合）。

別個の目次を持つ複数のドキュメントを読み込むには、開くダイアログボックスでWordドキュメントをマスター目次に表示する順に選択します。変換された目次は、Wordドキュメントの{TOC}フィールドコードに基づいています。次の点を確認してください。

- メインブックとする見出しに、その下のレベルの見出しが含まれている。
- サブブックとする見出しは、メインの見出しの下に表示され、その下のレベルの見出しが含まれている。
- ページとする見出しには、その下のレベルの見出しが含まれていない。

例えば、目次には見出し1と見出し2のエントリしか含まれていない場合に、目次より多い見出しレベル1から3のスタイルを含むドキュメントを読み込むとします。見出し3のスタイルを確実に目次に表示させるには、Wordの目次に見出し3を含めるか、RoboHelpで目次を自動作成します。

Wordの目次の読み込み

1) プロジェクト／読み込み ／Wordドキュメントを選択します。
2) コンテンツ設定ダイアログボックスで、「目次を変換」を選択します。
3) 次のいずれかのオプションを選択します。

既存の目次に追加

目次エントリを、プロジェクト内にある既存のRoboHelp目次に追加します。リストから既存のRoboHelp目次を選択します。

新規関連目次を作成

RoboHelpプロジェクトに追加する新規関連目次の名前を入力します。

Word索引エントリの読み込み

RoboHelpが、読み込むドキュメントの索引に基づいてキーワードを作成します。

1) プロジェクト／読み込み ／Wordドキュメントを選択します。

2) コンテンツ設定ダイアログボックスで「索引を変換」を選択し、次のいずれかのオプションを選択します。

既存の索引ファイルに追加

Word索引のエントリをプロジェクトの既存のRoboHelp索引に追加します。

新規関連索引を作成

RoboHelpプロジェクトに追加する新規関連索引の名前を入力します。

トピックに追加

Word索引のエントリを表示される各トピックに追加します。

Wordの用語集エントリの読み込み

RoboHelpにより、プロジェクト設定の用語集の用語と定義に関して定義された段落スタイルに基づいて、ユーザーが読み込むWordドキュメントから用語集が作成されます。

注: Wordドキュメントの指定されたスタイルで用語と定義を検索することにより、RoboHelpは用語集エントリを作成します。用語スタイルまたは定義スタイルの連続インスタンスは拒否されます。

1) プロジェクト／読み込み ／Wordドキュメントを選択します。

2) コンテンツ設定ダイアログボックスで「用語集を変換」を選択し、次のいずれかのオプションを選択します。

既存の用語集に追加

プロジェクトの既存のRoboHelp用語集にWord用語集エントリを追加します。

新規関連用語集を作成

RoboHelpプロジェクトに追加される新しい関連付けられた用語集の名前を入力します。

Word ドキュメントでのヘッダーとフッターの変換

Word ドキュメントのヘッダーとフッターを生成された HTML トピックのヘッダーとフッターに変換することができます。**注:** プロジェクトに RoboHelp でネイティブに作成して読み込んだり、他のソースからもリンクされているトピックがある場合、この手順は使用しないでください。代わりに、RoboHelp のマスターページ機能を使用します。マスターページを使用すると、一貫性のあるレイアウトと一貫性のあるヘッダーおよびフッターを定義できます。

1) プロジェクト／プロジェクトの設定 を選択します。

2) プロジェクト設定ダイアログボックスの「読み込み」タブで、「Word ドキュメント」の下の「編集」をクリックします。

3) 変換設定ダイアログボックスで、「その他の設定」を選択して、次の操作を行います。

- Word ドキュメントのヘッダーとフッターを変換するには、「ヘッダーおよびフッターを変換」を選択します。

Word スタイルの RoboHelp スタイルへの変換

RoboHelp で Word スタイルを RoboHelp スタイルにマップするのに使用するカスケードスタイルシート（CSS）を選択できます。RoboHelp では、すべてのスタイル変換設定が、この CSS ファイルに保存されています。デフォルトでは、RoboHelp のプロジェクトで RHStyleMapping.css ファイルを使用します。

プロジェクトのカスタム CSS を使用することもできます。このスタイルは、後で、RoboHelp や、Adobe Dreamweaver® のような外部 CSS 編集アプリケーションの中で編集することができます。Word スタイルの RoboHelp スタイルへの変換方法は、プロジェクトレベルで定義できます。Word ドキュメント内にあるすべての Word スタイルの定義は、ドキュメント内で使用するかどうかとは無関係に、マッピングダイアログボックスに表示されます。

スタイルマッピングのための CSS の選択

1) 次のいずれかを行います。

- プロジェクト／読み込み／ Word ドキュメントを選択します。
- プロジェクト／リンク／ Word ファイルを選択します。
- プロジェクト／プロジェクトの設定を選択します。

2) プロジェクト設定ダイアログボックスの「読み込み」タブで、次のいずれかを行います。

- スタイルマッピング用の CSS メニューから CSS ファイルを選択します。RoboHelp のプロジェクトのルートフォルダーには、CSS ファイルを選択できる CSS ファイルのリストがあります。
- スタイルマッピング用の CSS メニューから「CSS を参照」を選択し、使用する CSS ファイルを選択します。このオプションを使用して、プロジェクト用にカスタム CSS を指定します。このオプションを選択すると、RoboHelp では、選択した CSS ファイルがプロジェクトのルートフォルダーにコピーされ、スタイルマッピング用に選択した CSS が使用されます。

  注: スタイルマッピング用に使用する CSS ファイルを編集できます。「アプリケーションを選択して編集」オプションを使用すると、既定のリストからエディターを選択できます。これには、RoboHelp CSS Editor やその他の登録 CSS エディターが含まれています。

自動マップのスタイル

RoboHelp は、Word ファイルの段落スタイル、文字スタイル、表スタイルを、スタイルマッピングに選択した CSS 内の対応するスタイルにマップするためのクイックオプションを提供します。自動マップが動作するには、Word ファイルのスタイル名と CSS のスタイル名が同じである必要があります。

1) プロジェクト／プロジェクトの設定を選択します 。

2) プロジェクト設定ダイアログボックスの取り込みタブをクリックします。

   次のいずれかを行います。

   - スタイルマッピング用の CSS メニューから CSS ファイルを選択します。
   - 「スタイルマッピング用の CSS」メニューの隣にある「追加」をクリックして、CSS ファイルを選択します。

     このオプションは、プロジェクト用のカスタム CSS を指定するために使用します。このオプションを選択すると、RoboHelp は、選択された CSS ファイルをプロジェクトのルートフォルダーにコピーして、選択された CSS をスタイルマッピングに使います。

3) Word 文書の変換設定を編集するには、「編集」をクリックします。

4) 段落タブで、「段落スタイルの自動マップ」を選択します。

5) 文字タブで、「文字スタイルの自動マップ」を選択します。

6) 表タブで、「表スタイルの自動マップ」を選択します。

Word の段落スタイルの RoboHelp スタイルへの変換

デフォルトで、RoboHelp はすべての Word スタイルを CSS に変換して、Word スタイルの外観と動作を RoboHelp プロジェクトで維持します。オンラインヘルププロジェクトの整合性を確保するには、Word スタイルを RoboHelp スタイルにマップして、編集することができます。

スタイルマッピングのために選択されたスタイルシート内のスタイル名が、RoboHelp スタイル名と一致している場合は、自動マップのスタイルに記載の手順に従います。

スタイルを手動でマッピングするには、次の手順に従います。

1) 次のいずれかを行います。

- プロジェクト／読み込み ／ Word ドキュメントを選択します。
- プロジェクト／リンク／ Word ファイル を選択します。
- プロジェクト／プロジェクトの設定 を選択します。

2) プロジェクト設定ダイアログボックスの「読み込み」タブで、「Word ドキュメント」の下の「編集」をクリックします。

3) 変換設定ダイアログボックスで、「段落」グループから Word スタイルを選択します。

4) RoboHelp スタイルポップアップメニューで、Word スタイルにマップする RoboHelp スタイルを選択します。オンラインヘルプ書式で Word テキストの外観を保持するには、「ソース」を選択します。

5) 選択した Word スタイルのプロパティを選択します。選択された RoboHelp スタイルを編集するには、「スタイルを編集」をクリックします。

用語集のスタイルをマークするには

- 「用語集の定義スタイル」を選択して、用語集の定義に考慮するスタイルをマークします。
- 「用語集の用語」を選択して、用語集の用語に考慮するスタイルをマークします。

注：「用語集の用語スタイル」を使用した「用語集の定義スタイル」に従って、「用語集の用語の定義」ペアを作成します。RoboHelp では、選択したスタイルでマークされた用語を使用して用語集が作成されます。

- ページ割り付けを設定するには：選択した Word の段落スタイルが出現するたびに「ページ割り付け（このスタイルに基づくトピックの分割）」を選択し、ヘルプトピックを作成します。例えば、見出し 1 と「ページ割り付け（このスタイルに基づくトピックの分割）」を選択すると、RoboHelp では見出しのインスタントごとに新規トピックが開始されます。ページ割り付けについての詳細は、次を参照してください：オンラインヘルプトピックのページ割り付けの設定

- ユーザー定義 **HTML** タグの使用：選択した段落スタイルに、ユーザー定義 HTML タグを選択または入力します。

  例：

  ParaStyleOne スタイルの段落は、`<p class=ParaStyleOne> Paragraph Text </p>` として RoboHelp に読み込まれます。

  この文字列を **Pre** として ParaStyleOne スタイルに指定すると、RoboHelp では ParaStyleOne スタイルの段落を `<pre> Paragraph Text </pre>` として読み込みます。

Word の文字スタイルの RoboHelp スタイルへの変換

Word の文字書式は RoboHelp の文字スタイルにマップできます。RoboHelp でスタイルを編集することもできます。

スタイルマッピングのために選択されたスタイルシート内のスタイル名が、RoboHelp スタイル名と一致している場合は、自動マップのスタイルに記載の手順に従います。

スタイルを手動でマッピングするには、次の手順に従います。

1) 次のいずれかを行います。

- プロジェクト／読み込み ／ Word ドキュメントを選択します。
- プロジェクト／リンク／ Word ファイル を選択します。
- プロジェクト／プロジェクトの設定 を選択します。

2) プロジェクト設定ダイアログボックスの「読み込み」タブで、「Word ドキュメント」の下の「編集」をクリックします。

3) 変換設定ダイアログボックスで、「文字」グループを選択します。

4) 変換設定ダイアログボックスの左ペインで、Wordの文字スタイルを選択します。

5) ポップアップメニューからRoboHelpの文字スタイルを選択します。オプションで、次の操作を行えます。

- Word の文字スタイルを読み込むには、ポップアップメニューから「ソース」を選択します。
- RoboHelpで文字スタイルを編集するには、「スタイルを編集」をクリックします。

リストのマッピング

WordのリストをRoboHelpリストまたはHTMLリスト（通常の並べ替えリストおよび並べ替えられていないリスト）にマップできます。RoboHelpの段落スタイルとしてリストを定義している場合、これらのリストスタイルは、RoboHelpでマップできます。リストに対してスタイルマッピングオプションを選択していない場合は、リストプロパティのないテキストに変換されます。

1) 次のいずれかを行います。

- プロジェクト／読み込み ／Wordドキュメントを選択します。
- プロジェクト／リンク／Wordファイル を選択します。
- プロジェクト／プロジェクトの設定 を選択します。

2) 「読み込み」タブで、「Wordドキュメント」の下の「編集」をクリックします。

3) 変換設定ダイアログボックスで、「その他の設定」グループを選択します。

4) 次のいずれかを行います。

- WordのリストスタイルをRoboHelpリストに変換するには、Wordのリストの変換先ポップアップメニューから、「RoboHelpリスト」を選択します。
- WordのリストスタイルをHTMLリストに変換するには、Wordのリストの変換先ポップアップメニューから、「HTMLリスト」を選択します。

カスタム HTML タグの作成

Word ドキュメントから読み込む書式の HTML 出力では、標準的な <p> タグではなく、カスタム HTML タグを定義または適用することができます。Word ドキュメントの各書式に独立した HTML タグを定義できます。

1) 次のいずれかを行います。

- プロジェクト／読み込み ／ Word ドキュメントを選択します。
- プロジェクト／リンク／ Word ファイル を選択します。
- プロジェクト／プロジェクトの設定 を選択します。

2) 「読み込み」タブで、「Word ドキュメント」の下の「編集」をクリックします。

3) 変換設定ダイアログボックスで、Word の段落スタイルを選択してから、「ユーザー定義 HTML タグ」オプションを選択します。

4) カスタム HTML タグの名前を入力するか、デフォルトの HTML タグの代わりに使用する既存のタグを選択します。

Word の表スタイルの RoboHelp 表スタイルへの変換

Word の表スタイルを RoboHelp の表スタイルにマップできます。Word ドキュメントからインライン書式として、表スタイルを読み込むこともできます。オプションとして、変換した表スタイルは、RoboHelp で編集できます。

スタイルマッピングのために選択されたスタイルシート内のスタイル名が、RoboHelp スタイル名と一致している場合は、自動マップのスタイルに記載の手順に従います。

スタイルを手動でマッピングするには、次の手順に従います。

1) 次のいずれかを行います。

- プロジェクト／読み込み ／ Word ドキュメントを選択します。
- プロジェクト／リンク／ Word ファイル を選択します。
- プロジェクト／プロジェクトの設定 を選択します。

2) 「読み込み」タブで、「Word ドキュメント」の下の「編集」をクリックします。

3) 変換設定ダイアログボックスの左ペインで、Word の表スタイルを選択します。

4) ポップアップメニューから RoboHelp の表スタイルを選択します。オプションで、RoboHelp で表スタイルを編集するには、「スタイルを編集」をクリックします。

Wordの参照のハイパーリンクへの変換

RoboHelpはWord文書内の相互参照を変換できます。これらの参照は生成したヘルプトピックでハイパーリンクとして表示されます。

1) 次のいずれかを行います。

- プロジェクト／読み込み ／Wordドキュメントを選択します。
- プロジェクト／リンク／Wordファイル を選択します。
- プロジェクト／プロジェクトの設定 を選択します。

2) 「読み込み」タブで、「Wordドキュメント」の下の「編集」をクリックします。

3) 「変換設定」グループで、「その他の設定」を選択し、「参照をハイパーリンクに変換」を選択します。

インライン書式からのRoboHelpスタイルの作成

Wordドキュメントでのインライン書式と定義された段落スタイルおよび文字スタイルの適用は避けるのがベストですが、WordドキュメントはRoboHelpにリンクおよび読み込むことができます。Wordドキュメントのインライン書式から、RoboHelpスタイルを作成することもできます。これらのスタイルは、プロジェクトのCSSに追加されます。

1) プロジェクト／プロジェクトの設定 を選択します。

2) 「読み込み」タブで、「Wordドキュメント」の下の「編集」をクリックします。

3) 変換設定ダイアログボックスで、「その他の設定」を選択し、「インラインの書式設定からCSSスタイルを自動作成」を選択します。

変換されたWordファイルでのページ割り付けとトピックの名前付け

ドキュメントをトピックに分割しトピックの名前付け設定を定義する以外にも、次の操作を行うことができます。

ヘッダーとフッターの変換

Wordドキュメントのヘッダーおよびフッターテキストが変換され、ヘルプトピックで使用されます。Wordドキュメントでのヘッダーとフッターの変換を参照してください。

目次および索引エントリの変換

Wordドキュメントの目次および索引エントリがRoboHelpプロジェクトで変換されます。Wordの目次、索引、および用語集の読み込みを参照してください。

WordリストスタイルのRoboHelpスタイルへのマッピング

WordのリストスタイルをRoboHelpリストスタイルまたはHTMLリストスタイルに変換することができます。リストのマッピングを参照してください。

インライン書式からのCSSスタイルの自動作成

インライン書式からのRoboHelpスタイルの作成を参照してください。

オンラインヘルプトピックのページ割り付けの設定

Wordドキュメントを読み込むときに、トピックとしてRoboHelpにWordファイルのコンテンツを表示する方法を定義します。例えば、10件のトピックを含むWordファイルがあるとします。各トピックにサブトピック、定義リスト、タスクおよび表が含まれている場合、各トピックを独立したHTMLファイルとして表示することができます。これらの各トピックが見出し1スタイルである場合、各見出し1トピックを独立したHTMLトピックとして作成できます。見出し2でページ割り付けを設定すると、各見出し2トピックに関して独立したHTMLファイルが作成されます。

ページ割り付けに複数の段落スタイルを選択できます。例えば、ページ割り付けに見出し1と2を選択すると、RoboHelpでは見出し1と2のインスタンスごとに新規トピックが開始されます。

注： ページ割り付けは、RoboHelp スタイルではなく、Word の段落スタイルに基づいて行われます。作成されるトピックファイルのファイル名には、Word の段落スタイルのテキストがデフォルトで含まれます。トピックファイル名に含まれる非 ASCII 文字は、すべて自動的に ASCII 文字に変換されます。

ページ割り付けは任意の Word の段落スタイルに対して設定できますが、読者のために、生成されたトピックには、関連性のある、完全な情報が含まれている必要があります。例えば、見出し 3 にページ割り付けを設定すると、タスクレベルの命令のみでトピックが作成されるリスクがあります。この場合は、タスクの完了に必要なコンテキスト情報が、別の見出し 3 レベルのトピックに分離されます。このように不完全なトピックを回避するには、高レベルでページ割り付けを設定します。

1) 次のいずれかを行います。

- プロジェクト／読み込み ／ Word ドキュメントを選択します。
- プロジェクト／リンク／ Word ファイル を選択します。
- プロジェクト／プロジェクトの設定 を選択します。

2) 「Word ドキュメント」の下の「編集」をクリックします。

3) 変換設定ダイアログボックスの「段落」グループで、ページ割り付けの元にする段落スタイルを選択します。

4) ページ割り付け（このスタイルに基づくトピックの分割）がマークされたオプションを選択し、「OK」をクリックします。

RoboHelp では、指定されたページ割り付けスタイルを使用して、ドキュメントをトピックに分割します。

Word での状況依存ヘルプマーカーのマップ ID への変換

Microsoft Word ドキュメントに挿入した状況依存ヘルプマーカーは、マップ ID に変換して再利用できます。Word の「脚注」オプションを使用して、状況依存マーカーを挿入します。Word の脚注と文末脚注ダイアログボックスを使用して状況依存ヘルプマーカーを挿入します。状況依存ヘルプマーカーを挿入するには、TopicAlias などのカスタムの文字列を入力してから、マップ ID をマーカーテキストとして挿入します。カスタムの文字列には、スペースや他の無効な文字が含まれていない必要があります。脚注マーカーの挿入の詳細については、Microsoft Word のヘルプを参照してください。

リンクや読み込みに使用するWordドキュメントに、状況依存ヘルプマーカーが含まれている場合があります。その場合、生成するマップIDヘッダーファイルに組み込むことができます。プロジェクトヘッダーファイルで、Wordドキュメントでトピックに割り当てたマップIDを追加します。状況依存マーカー文字列は、プロジェクト全般のパラメーターです。リンクや読み込みに使用するすべてのWordドキュメントに、状況依存ヘルプマーカーテキストと同じ文字列が含まれていることを確認してください。

1) 次のいずれかを行います。

- プロジェクト／読み込み ／Wordドキュメントを選択します。
- プロジェクト／リンク／Wordファイル を選択します。
- プロジェクト／プロジェクトの設定 を選択します。

2) 「Wordドキュメント」の下の「編集」をクリックします。

3) 変換設定ダイアログボックスの「その他の設定」グループで、状況依存ヘルプマーカーの文字列を入力して、「OK」をクリックします。

生成されたトピックのトピック名パターンの定義

ページ割り付けに見出しのスタイルを設定すると、見出しのテキストは、RoboHelpが作成するトピックファイルのファイル名にデフォルトで含まれます。例えば、ページ割り付けに見出し2を定義するとします。Wordドキュメントに「Introduction」と「Beyond basics」という2つの見出し2トピックがある場合、トピックはintroduction.htmとbeyond_basics.htmという名前のファイルとして作成されます。トピックタイトルを示す、直感的にわかる名前の付いたHTMLファイルが作成されます。このデフォルトの命名体系だけでなく、名前付け規則をさらに定義できます。ヘルプシステムで、helptopic001.html、helptopic002.htmlなどのように連番の付いたファイルを使用している場合は、その規則をサポートするパターンを定義できます。

1) 次のいずれかを行います。

- プロジェクト／読み込み ／Wordドキュメントを選択します。
- プロジェクト／リンク／Wordファイル を選択します。
- プロジェクト／プロジェクトの設定 を選択します。

2) 変換設定ダイアログボックスで、「その他の設定」を選択します。

3) 「その他の設定」タブで、トピック名のパターンを設定します。

トピックの名前は選択したパターンで付けられます。次のいずれかを選択するか、トピック名のパターンを作成できます。

デフォルト	トピックファイル名としてトピックタイトルテキストを使用します。
<$filename_no_ext>-<$paratext>	変換されたHTMLトピックの名前には、次のものが含まれます。 • 拡張子を除いたWordのソースファイルの名前 • 区切り文字としてのハイフン • HTMLトピックの境界の作成に使用する段落テキスト 例えば、段落テキスト「1-Introduction」の付いた「Chapter.doc」という名前のWordファイルは、「Chapter-1-Introduction」という名前のHTMLトピックに変換されます。
<$filename_no_ext>-<n>	変換されたHTMLトピックの名前には、次のものが含まれます。 • 拡張子を除いたWordのソースファイルの名前 • 区切り文字としてのハイフン • 連続的な番号 例えば、「Chapter.doc」は、「Chapter-1」という名前のHTMLトピックに変換されます。
<$paratext_no_num>	変換されたHTMLトピックの名前には、HTMLトピックの境界の作成に使用する段落テキスト（番号付けを除く）が含まれます。例えば、段落テキスト「1.Introduction」は、「Introduction」という名前のHTMLトピックに変換されます。
<$paratext>	変換されたHTMLトピックの名前には、HTMLトピックの境界の作成に使用する段落テキストが含まれます。例えば、段落テキスト「Introduction」は、「Introduction」という名前のHTMLトピックに変換されます。

リンクされたWordドキュメントとRoboHelpプロジェクトとの同期

WordドキュメントをRoboHelpプロジェクトに読み込むかリンクした後で、プロジェクト設定に基づいてヘルプトピックを生成します。WordドキュメントをRoboHelpプロジェクトに読み込むと、トピックはすぐに生成され、プロジェクトマネージャーポッドに表示されます。ただし、WordドキュメントをRoboHelpプロジェクトにリンクしても、明示的に生成しなければトピックは生成されません。RoboHelpは、リンクされたWordドキュメントとライブリンクを維持しているので、RoboHelpプロジェクトのソース文書や変換設定が変更された場合に、リンクされたWordドキュメントを更新することができます。プロジェクトマネージャーポッドのプロジェクトファイルのアイコンは、ドキュメントがRoboHelpトピックと同期しているかどうかを示します。

次のシナリオでは、リンクされたWordドキュメントから生成されたトピックを更新します。

- RoboHelp プロジェクトに追加またはリンクした後で、ソースの Word ドキュメントを変更した。
- RoboHelpプロジェクトでページ割り付け設定を変更した。
- RoboHelp プロジェクトでスタイルを変更し、FrameMaker ドキュメント内のようにスタイルを戻す必要があるとします。
- RoboHelpプロジェクトでCSSを更新した。

ドキュメントをプロジェクトに読み込んだ場合は、プロジェクトマネージャーポッドに同期ステータスは表示されません。Wordドキュメント、または変換設定を変更した場合は、Wordドキュメントを再読み込みして、既に生成されたRoboHelpトピックを上書きします。ドキュメントを更新すると、RoboHelpでは変換されたHTMLトピック、目次、索引および用語集が更新されます。

Word ドキュメント同期状態インジケーター

次の表は、リンクされたすべての Word ドキュメントについて、プロジェクトマネージャーポッドに表示される様々な状態インジケーターについて説明しています。

アイコン	説明
	参照によってリンクされたソースの Word ドキュメントが見つかりません。RoboHelp プロジェクトにリンクしたソース文書が別のフォルダーに移動された、名前変更された、または削除されています。ソース文書を検索して、新しい場所へのリンクを作成します。
	コピーによってプロジェクトにリンクされたソースの Word ドキュメントが見つからない、名前変更された、または別のフォルダーに移動されています。ソース文書を検索して、新しい場所へのリンクを作成します。
	ソース文書の変更により、参照によってリンクされていたソースの Word ドキュメントが同期しなくなっています。ドキュメントを更新してください。
	ソース文書の変更により、プロジェクトへのコピーによってリンクされていたソースの Word ドキュメントが同期しなくなっています。ドキュメントを更新してください。
	RoboHelp 変換設定の変更により、参照によってリンクされていたソースの Word ドキュメントが同期しなくなっています。ドキュメントを更新してください。
	RoboHelp 変換設定の変更により、プロジェクトへのコピーによってリンクされていたソースの Word ドキュメントが同期しなくなっています。ドキュメントを更新してください。
	参照によってリンクされているソースの Word ドキュメントと生成されたトピックは、同期しています。
	プロジェクトへのコピーによってリンクされているソースの Word ドキュメントと生成されたトピックは、同期しています。

リンクされた Word ドキュメントからのトピックの生成

リンクされた Word ドキュメントからのヘルプトピックの生成は、1 回限りのアクティビティです。ヘルプトピックを生成した後、ソース文書や変換設定の変更のたびに、ヘルプトピックを更新することができます。

1) プロジェクトマネージャーポッド内でリンクされた Word ドキュメントを右クリックして、更新／生成を選択します。

リンクされたWordドキュメントから生成されたトピックの更新

RoboHelpでは、WordドキュメントをRoboHelpプロジェクトにリンクしたときに、リンクしたドキュメントは自動的に更新されません。スタイルマッピングとページ割り付けを含む変換設定を定義して、トピックを生成します。リンクされたドキュメントを手動で更新するオプションを選択します。

1) プロジェクトマネージャーポッドで、Word ドキュメントを右クリックし、更新を選択して、次のいずれかを選択します。

生成

まず、リンクしたWordドキュメントからHTMLトピックを生成します。トピックを生成すると、オプションが「更新」に変わります。

更新

選択したWordドキュメントから生成したトピックを更新します。変更されたトピックのみが更新されます。

すべて更新

すべてのWordドキュメントとFrameMakerドキュメントを含めて、リンクされたすべてのドキュメントから生成されたすべてのトピックを更新します。RoboHelpで編集したドキュメントを含めて、すべてのドキュメントが更新されるので、「すべて更新」オプションを使用する場合は、注意が必要です。

強制的に更新

選択したWordドキュメントから生成したトピックの現在のセットを上書きします。Microsoft Wordでソースを編集した後、リンクされたWordドキュメントから生成したトピックを強制的に更新するには、このオプションを使用します。このオプションは、変更されていないトピックを含めてすべてのトピックを更新します。

すべてを強制的に更新

WordドキュメントとFrameMakerドキュメントを含めてリンクされたすべてのドキュメントを更新して、すべての生成されたトピックを上書きします。

更新中にトピックへの変更を維持

通常、リンクされたドキュメントを更新すると、そのドキュメントから生成されたすべてのトピックが更新され、生成されたトピックに対して行ったその他の変更が上書きされます。ただし、生成されたトピックへの変更を選択的に維持し、編集内容を保持することができます。

1) プロジェクトマネージャーポッド内でリンクされたドキュメントを右クリックして、「プロパティ」を選択します。

2) Word ドキュメント設定ダイアログボックスで、「ファイル更新設定」タブを選択します。

3) 左側の列で、更新中に変更を維持するファイルを選択して、「OK」をクリックします。

生成されたトピックを編集する際の警告の設定

リンクされたドキュメントから生成されたトピックに変更を加える場合にユーザーに警告するように、RoboHelp を設定することができます。これらのトピックの変更内容を保存しようとすると、RoboHelp はリンクされたドキュメントの更新時に変更が失われることを警告します。

1) ファイル／オプションを選択します。

2) 「全般」タブで「リンク文書から自動生成されたトピックが変更された場合は警告を表示する」を選択し、「OK」をクリックします。

保存用のトピック編集のマーキング

生成されたトピックへの変更を保存するときの警告を有効にすると、更新時にトピックの編集を維持するマークを付けることができます。更新中に変更を維持するマークが付けられたトピックは、ファイル更新設定ダイアログボックスの維持されるトピックのリストに自動的に追加されます。

1) 生成されたトピックを編集し、変更を保存します。

2) 表示される警告メッセージで、「このファイルへの変更を維持」を選択し、「OK」をクリックします。

生成されたトピックの削除

生成されたトピックを削除する場合、2つのオプションがあります。削除されたトピックは、リンクされたWordドキュメントの更新時に再生成できます。また、削除されたトピックは、プロジェクトから完全に削除することができます。デフォルトで、RoboHelpは、Wordドキュメントの更新時に、削除されたトピックを再生成します。

1) プロジェクトマネージャーポッドで、リンクされたWordドキュメントを展開し、そのドキュメントから生成されたトピックを表示します。

2) 削除するトピックを右クリックして、「削除」をクリックします。

3) 次のいずれかを行います。

- 「OK」をクリックすると、トピックがプロジェクトから完全に削除されます。削除されたトピックは、Wordドキュメントを更新しても再生成されません。
- 「このファイルを次回更新時に生成」を選択し、「OK」をクリックして、トピックを削除します。削除されたトピックは、Wordドキュメントの更新時に再生成されます。

削除されたトピックの再生成

リンクされたWordドキュメントから生成したトピックを削除すると、そのトピックはプロジェクトから削除されます。ただし、リンクされたドキュメントから削除されたトピックは、再生成することができます。

1) プロジェクトマネージャーポッド内でリンクされたWordドキュメントを右クリックして、「プロパティ」を選択します。

2) Wordドキュメント設定ダイアログボックスで、「ファイル更新設定」タブを選択します。

3) 右側の列の削除されたファイルの中から、取得するファイルを選択して、「OK」をクリックします。

4) Wordドキュメントを更新します。

リンクしたWordドキュメントの編集

リンクしたWordドキュメントは、Microsoft Wordで直接編集できます。

1) ドキュメントを右クリックして、「編集」を選択します。
2) Wordドキュメントを、Microsoft Wordで編集します。
3) 「保存」をクリックします。変更されたWordドキュメントは、別のアイコンでプロジェクトマネージャーポッドに表示されます。このアイコンは、ソースコンテンツが、リンクされたWordドキュメントから生成されたトピックと同期しなくなっていることを示します。**注**: Microsoft Wordでソースを編集した後、ドキュメントを強制的に更新します。

リンクしたWordドキュメントの削除

プロジェクトファイルフォルダーからのコピーによってリンクされていたドキュメントは、直接削除できます。また、参照によってリンクされていたドキュメントの参照を削除できます。

1) ドキュメントを右クリックして、「削除」を選択します。

リンクされたファイルを削除すると、CSS、画像、バゲッジファイルおよびマルチメディアファイルなど、関連付けられているドキュメントもすべて削除されます。

注意：

- 参照されているファイルを別の場所に移動すると、アイコンが変わります。新しい場所をポイントすると、Wordドキュメントへのリンクを復元できます。
- Word ドキュメントをリンクした後に生成されたファイルの名前は変更しないでください。
- 生成されたトピックは、プロジェクトマネージャーポッドで、Microsoft Wordの親ドキュメントフォルダー以外の場所にドラッグすることはできません。

見つからないまたは名前変更されたWordドキュメントへのリンクの復元

リンクされたWordドキュメントを移動、または名前変更すると、プロジェクトマネージャーポッドで、リンクされたドキュメントに見つからないリンクのアイコンが表示されます。移動または名前変更されたファイルへのリンクを復元して、既にそのドキュメントから生成されているすべてのトピックをプロジェクト内に保持できます。

1) プロジェクトマネージャーポッドで、見つからないリンクのアイコンが付いたWordドキュメントを右クリックします。

2) 「Wordファイルへのリンクを復元」を選択し、見つからないファイルの新しい場所を参照して選択します。

Wordの変換設定

WordコンテンツをRoboHelpプロジェクトに読み込むための変換設定の標準セットを作成し、複数のプロジェクト間で一貫して使用できます。

これらの設定は、1回のみ定義します。その後のプロジェクトには、これらの設定を読み込みます。こうすると、プロジェクト環境をすばやく設定して、Wordコンテンツを複数のオンライン形式で公開できます。

次の設定が含まれます。

- RoboHelpプロジェクト用のカスケーディングスタイルシート（CSS）
- WordスタイルとRoboHelpスタイルとの間のスタイルマッピング
- スタイル変換とその他の設定

設定の書き出し

1) プロジェクト／プロジェクトの設定を選択します。

2) プロジェクト設定ダイアログボックスの「書き出し」タブで、「書き出し」をクリックします。

3) RoboHelp読み込み設定ファイル（ISF）の名前を指定して、「保存」をクリックします。

設定のプロジェクトへの読み込み

1) プロジェクト／プロジェクトの設定を選択します。

2) プロジェクト設定ダイアログボックスの「読み込み」タブで、「参照」をクリックします。

3) RoboHelp読み込み設定ファイル（ISF）を選択します。「開く」をクリックします。

RoboHelp に変換される Word ドキュメントのコンポーネント

Word ドキュメントをリンクするか読み込むと、RoboHelp でほとんどの Word コンポーネントが変換されます。以下の表は、主な Word ドキュメントコンポーネントの一覧と、各コンポーネントが RoboHelp でどのように変換されるかを示しています。

Word ドキュメントコンポーネント	
目次	選択すると、変換されます。次を参照してください。Word の目次、索引、および用語集の読み込みを参照してください。
索引	選択すると、変換されます。次を参照してください。Word の目次、索引、および用語集の読み込みを参照してください。
用語集	Word で選択した段落スタイルから、RoboHelp に用語集を作成できます。Word の目次、索引、および用語集の読み込みを参照してください。

式	
式	ドキュメントを RoboHelp に読み込むと、無視されます。

マーカー	
相互参照、ハイパーテキスト、URL	相互参照はある条件でハイパーテキストリンクに変換されます。その条件とは、「参照をハイパーリンクに変換」オプションが、Word 文書の読み込み時に RoboHelp で有効になっている場合です。その他の場合は、相互参照はプレーンテキストとして読み込まれます。非決定の相互参照やハイパーテキストエントリは、オンラインヘルプの中ではテキストとして表示されます。 URL は、オンラインヘルプ出力の中では、ライブハイパーテキストリンクになります。Word の参照のハイパーリンクへの変換を参照してください。
状況依存ヘルプマーカー	RoboHelp のマップ ID に変換されます。Word での状況依存ヘルプマーカーのマップ ID への変換を参照してください。

書式	
段落書式	変換されます。Microsoft Word の段落書式を RoboHelp スタイルにマップするか、ソースの書式設定を読み込むことができます。Word の段落スタイルの RoboHelp スタイルへの変換を参照してください。

文字書式	変換されます。Microsoft Word の文字書式を RoboHelp スタイルにマップするか、ソースの書式設定を読み込むことができます。Word の文字スタイルの RoboHelp スタイルへの変換を参照してください。
表書式	変換されます。Microsoft Word の表書式を RoboHelp スタイルにマップするか、ソースの書式設定を読み込むことができます。Word の表スタイルの RoboHelp 表スタイルへの変換を参照してください。
リスト	ユーザーが定義する設定に従って変更されます。次を参照してください。リストのマッピングを参照してください。

ページレイアウト	
ページレイアウト、サイズ、および Word ページ割り付け	無視されます。これらのエレメントは、オンラインヘルプには適用できません。
ヘッダー / フッター	変換されます。Word ドキュメントでのヘッダーとフッターの変換を参照してください。

画像	
画像	変換されます。Microsoft WordWeb オプションで **PNG** をグラフィックとして許可する書式オプションが選択されている場合は、PNG 画像はそのまま読み込まれます。その他のすべての画像は、GIF または JPG に変換されます。
描画	画像に変換されます。

FrameMaker ドキュメントの読み込み

FrameMaker でオーサリングされた FrameMaker ブック、ブックに含まれる XML ファイル、FM ファイルや MIF ファイルを、Robohelp プロジェクトに読み込むことができます。この章では、Framemaker ドキュメントを RoboHelp へ読み込む際に考慮されるべきファイル変換のヒントと設定について説明します。

変換前に行うオンライン出力の最適化

FrameMaker のオーサリングプロセスがプリント出力に最適化されている場合には、FrameMaker ドキュメントを RoboHelp プロジェクトにリンクしたり取り込んだりする前に、以下の点を考慮してください。

見出し書式

FrameMaker の見出し書式から RoboHelp スタイルへの最善のマッピングを判断します。FrameMaker 文書には、印刷文書専用の様々な見出し書式が定義されています。このような書式の中には、新しいページから始まるわき見出しや見出しスタイルがあります。このような書式は、オンラインフォーマットには適用されません。このような見出しスタイルは、一般に、RoboHelp プロジェクトの少数の標準スタイルにマップされます。

ページレイアウト設定

FrameMaker の章テンプレートは、新しい章が奇数（右）ページから始まるように、偶数ページを指定していることが多くあります。オンラインヘルプは、このようなページに関する考慮を無視します。

ヘッダーとフッター

RoboHelp は、変換時に、「機密」や著作権行のような法律文を含むヘッダーやフッターを無視します。そのようなテキストは、変換の後、独立した手順でヘッダーやフッターに取り込まれます。同じように、RoboHelp では、印刷文書で使われている透かし用のテキストや画像を作り直します。このような変更を行うには、RoboHelp のマスターページ機能を利用します。

ボタン操作

印刷では、相互参照はページ番号を指定しますが、これはヘルプでは無意味です。FrameMakerでは、相互参照書式を、章番号やページ番号のない書式にマップすることができます。オンラインヘルプを変換すると、ヘッダー、フッターの中の章や節のタイトルは削除されます。その代わり、ブレッドクラム、「戻る」「次へ」ボタン、定義済みの閲覧シーケンスなどによって、操作性を向上させることができます。

冗長なコンテンツ

印刷文書では一般に、様々なセクションに文脈を提供するために、そこまでに書かれた概念の簡単な概要のような冗長な情報が付加されます。オンラインヘルプは、ランダムアクセスで非線形のメディアなので、より冗長でないコンテンツが必要です。出力中の冗長なコンテンツを最小限にするには、相互参照やコンディショナルテキストのオプションを利用してください。

章とトピック

印刷文書では、コンテンツを自己完結した章に分離する必要があります。これにより、読者をコンテンツから論理的および物理的に切り離すことができます。オンラインヘルプでは、コンテンツはトピックのレベルで分離され、同時にアクセスされるのは1つのトピックだけになります。章内のコンテンツは、ユーザーが目次を開いたときに展開されるフォルダーにグループ化することもできますが、同時に表示されるトピックは1つだけです。この場合には、関連したトピックをまとめることによって冗長性を付け加えることなく、包括的な情報の提供を試みます。

状況依存

オンラインヘルプフォーマットでは、アプリケーションワークフローの中で、特定のトピックを関連するコンテンツにリンクすることができます。RoboHelpでは、トピックにマップIDを割り当てることができますが、FrameMaker文書でも、状況依存ヘルプマーカーを割り当てることができます。RoboHelpでは、これらのマーカーが読み取られ、生成されたトピックにマップIDが割り当てられます。FrameMakerから作成されたトピックには、十分な情報が含まれているようにしてください。

例えば、スタンドアロントピックとして短い手順は概念的な情報をリーダーに提供しません。情報が不完全なトピックが生成されることを避けるには、生成されたヘルプトピックに概念、手順、関連するグラフィックスのすべてが含まれるように、トピックに高いレベルで状況依存ヘルプマーカーを割り当てるようにします。

HTMLに変換するFrameMaker文書の作成

取り込むFrameMaker文書が非構造化FrameMakerブックである場合には、単一のFrameMakerテンプレートを変換用に定義することができます。さらに、このテンプレートは、RoboHelpプロジェクトレベルで各ドキュメントの書式を上書きするプロジェクトテンプレートとして指定できます。変換設定を書き出して、他のプロジェクト間で変換設定を再使用することもできます。

汎用FrameMakerテンプレートを利用するときなどには、RoboHelpに文書を取り込む前に、FrameMakerテンプレートを注意深く調べるようにしてください。このテンプレートにブックでは使われていない書式が含まれている場合には、変換に使うテンプレートの中ではそのような書式を省略するようにしてください。

1) ヘルプで必要な書式を含む FrameMaker テンプレートを作成します。または、FrameMakerテンプレートをカスタマイズします。テンプレートを手動で適用する必要はありません。RoboHelpでは、RoboHelpにFrameMakerファイルがリンクまたは取り込まれる前に、選択されたテンプレートをFrameMakerファイルに適用するように設定することができます。

   構造化FrameMakerでは、構造化FrameMakerテンプレートで使われるエレメント定義文書（EDD）やDTDが、書式を自動的に制御します。構造化FrameMakerでは、有効な構造や書式が強制的に適用されるので、構造化文書には書式の上書きが含まれません。

2) 状況依存ヘルプマーカーを必要なトピックに適用します。FrameMaker ドキュメントからの状況依存ヘルプマーカーの変換を参照してください。

3) アンカー枠にFrameMakerグラフィックツールで作成したグラフィック、コールアウト、グラフィックまたはテキストフレームを囲みます。RoboHelpはアンカー枠に囲まれたFrameMakerグラフィックのみを読み込みます。デフォルトでは、グラフィックおよびマルチメディアファイルをFrameMakerドキュメントに読み込むと、アンカー枠内に配置されます。逆に、FrameMaker文書の中にグラフィック枠に配置されたグラフィックスが含まれている場合、FrameMaker ファイルをRoboHelpにリンクしたり取り込んだりする前に、アンカー枠の中に配置する必要があります。

   注： FrameMakerファイル内の画像のオフセットが負の値に設定されている場合、HTMLでの画像は一部が非表示になる場合があります。読み込み前に値を変更してください。

4) 画像の元の画質を維持するには、参照により FrameMaker ドキュメントに画像を挿入します。画像全体がアンカー枠内に表示される場合、RoboHelp はソースから参照されている画像を直接コピーします。同様に、画像が大きい場合は、参照によりソース文書に画像を挿入します。

5) 未解決の相互参照、存在しないフォント、不規則な番号など、文書中のあらゆる問題を修正します。詳細は、FrameMaker ヘルプを参照してください。

6) 画像およびグラフィック用に代替テキストまたはキャプションを設定し、アクセス可能なオンラインコンテンツを作成します。画像用の代替テキストの作成を参照してください。

7) FrameMaker ドキュメントでコンディショナルテキスト設定を適用します。FrameMaker ヘルプを参照してください。

8) 様々なスタイルをもつインデントされた階層的な見出しを作成するには、FrameMakerTOC リファレンスページを編集します。FrameMaker 目次を変換するを参照してください。

FrameMaker ドキュメントの読み込み

FrameMaker ドキュメントのリンクまたは読み込みのための RoboHelp ワークフローでは、次の操作が可能になります。

- FrameMaker ブックを読み込んで、RoboHelp プロジェクトを作成します。BOOK ファイルや BK ファイルを取り込むことができます。
- FrameMaker ドキュメントを RoboHelp プロジェクトに読み込みます。FrameMaker でオーサリングされた FM ファイルや MIF ファイルを読み込むことができます。FrameMaker ブックの一部である XML ファイルを読み込むことができます。

FrameMaker ドキュメントを読み込む前に、未解決の相互参照や書式のオーバーライドなど、FrameMaker のエラーがないかを確認します。HTML に変換する FrameMaker 文書の作成を参照してください。

FrameMaker ブックまたはドキュメントの読み込みによる RoboHelp プロジェクトの作成

FrameMaker ブックまたはドキュメントの読み込みによって RoboHelp プロジェクトを作成できます。これらのファイルの読み込みには、FrameMaker 8 以降がコンピューターにインストールされている必要があります。

1) RoboHelpのスターターページで、読み込み／詳細、またはファイル／新規プロジェクトを選択します。

2) 新規プロジェクトダイアログボックスの「読み込み」タブで、「FrameMakerドキュメント」を選択して「OK」をクリックします。

3) ファイルの種類ポップアップメニューから、FrameMaker ブックまたは文書（BOOK、BK、FM、MIF、FRM）を選択して、「開く」をクリックします。

注： 上記の手順を使用して最初から新しいプロジェクトを作成し、その新しいプロジェクトでFrameMakerコンテンツを読み込みます。ただし、この場合はFrameMakerドキュメントのリンクは許可されていません。

FrameMakerブックの新しいRoboHelpプロジェクトへ読み込み

1) RoboHelpでプロジェクトを作成します。

2) プロジェクト／読み込み／ドキュメント／FrameMakerドキュメントを選択します。

3) ファイルの種類ポップアップメニューで「FrameMakerブック（BOOK）」を選択します。

4) 参照してFrameMakerブックファイルを選択し、「開く」をクリックします。

FrameMakerドキュメントを読み込む場合は、表示される読み込みウィザードから読み込むコンポーネントを選択できます。目次、索引、および用語集を選択して、変換設定を指定することもできます。

注： ある程度のコンテンツが含まれるプロジェクトが既に存在し、FrameMakerコンテンツを読み込む必要がある場合は、上記の手順を使用します。この場合、FrameMakerドキュメントのリンクは許可されています。

FrameMakerドキュメントを既存のRoboHelpプロジェクトに読み込む

1) プロジェクト／読み込み／ドキュメント／FrameMakerドキュメントを選択します。

2) 読み込むFrameMakerドキュメントのタイプを選択します。

3) ドキュメントを選択し、「開く」をクリックします。

RoboHelp に変換される FrameMaker 文書のコンポーネント

FrameMaker 文書をリンクまたは取り込むと、RoboHelp は FrameMaker コンポーネントのほとんどを変換します。以下の表は、主な FrameMaker 文書コンポーネントの一覧と、各コンポーネントが RoboHelp でどのように変換されるかを示しています。

FrameMaker ファイル	
ブックファイル	ブックの中に含まれる文書（FM、XML、MIF、HTM、HTML ファイル）は、変換されます。FrameMaker ブックに含まれる XHTML ファイルは、有効な XHTML である必要があります。XHTML の検証は、FrameMaker 自体の中で行います。FrameMaker ブック中のそれ以外のファイルは、すべて無視されます。FrameMaker 9 ブック内の子ブック、フォルダーおよびグループが変換され、RoboHelp プロジェクトのフォルダーとして表示されます。FrameMaker 9 ブックの階層構造を参照してください。
目次	選択すると、変換されます。次を参照してください。FrameMaker 目次を変換するを参照してください。
テキストインセット	FrameMaker ドキュメントのテキストインセットは FrameMaker ドキュメントそれ自体の一部とみなされ、RoboHelp トピックのテキストとして挿入されます。一旦挿入されると、コンテンツは FrameMaker のテキストインセットとしては編集できませんが、RoboHelp 内のテキストとしてのみ編集することができます。
索引と用語集	FrameMaker ブックで生成された索引と用語集のファイルは変換されません。代わりに、読み込んだ FrameMaker ドキュメントで索引マーカーと用語集マーカーを選択すると、変換されます。FrameMaker 索引エントリの読み込みおよび用語定義の読み込みを参照してください。

変数とコンディショナルテキスト	
変数	変換されます。FrameMaker のユーザー定義の変数は RoboHelp と同様に変換されるので、再定義することができます。オンラインフォーマットには表示したくない変数の変換を禁止するには、関連するコンディショナルテキストタグを適用します。例えば、FrameMaker 文書の中のページをまたがって存在する表の、表ヘッダーの表の続き変数を禁止したりすることができます。
コンディショナルビルドタグ	RoboHelp コンディショナルビルドタグとして変換されます。
式	数式は画像に変換され、変換後に、RoboHelp トピックの中に挿入されます。

マーカー	
相互参照、ハイパーテキスト、URL	ハイパーテキストリンクに変換されます。オンライン書式に関連のないボリューム、章およびページを削除できるように、RoboHelp で相互参照の書式をマップできます。非決定の相互参照やハイパーテキストエントリは、オンラインヘルプの中ではテキストとして表示されます。URL は、オンラインヘルプ出力の中では、ライブハイパーテキストリンクになります。FrameMaker 相互参照書式の RoboHelp スタイルへの変換を参照してください。
索引と用語集マーカー	プロジェクトを作成するときに、索引と用語集マーカーに変換されます。FrameMaker 索引エントリの読み込みおよび用語定義の読み込みを参照してください。
トピック名マーカー	プロジェクト変換設定でオプションを選択した場合には、変換されます。トピックタイトルやトピックファイル名をマーカーのテキストから生成するには、トピック名マーカーを使用します。ページ割り付けとピック名の設定を参照してください。
状況依存ヘルプマーカー	プロジェクト変換設定でオプションを選択した場合には、変換されます。状況依存ヘルプを生成するには、FrameMaker の状況依存ヘルプマーカーを使って FrameMaker 文書の中のテキストを指定します。ページ割り付けとピック名の設定を参照してください。
カスタムマーカー	変換されます。これらのマーカーは、FrameMaker ソースからトピックを抽出したり、RoboHelp に画像や表のための処理命令を渡したりするために利用できます。

書式	
段落書式	変換されます。FrameMaker の段落書式を RoboHelp スタイルにマップするか、ソースの書式設定を読み込むことができます。次を参照してください。FrameMaker の段落書式の RoboHelp スタイルへの変換
文字書式	変換されます。FrameMaker の文字書式を RoboHelp スタイルにマップするか、ソースの書式設定を読み込むことができます。FrameMaker の文字書式の RoboHelp スタイルへの変換を参照してください。
表書式	変換されます。FrameMaker 表書式を RoboHelp スタイルにマップしたり、ソース書式を取り込んだりすることができます。FrameMaker の表書式の RoboHelp 表スタイルへの変換を参照してください。
脚注のプロパティおよび表の脚注	変換されます。FrameMaker では、表のタイトルや脚注は段落書式なので、このような段落書式の変換設定は別に指定します。
リスト	ユーザーが定義する設定に従って変更されます。次を参照してください。リストマッピングのシナリオ

ページレイアウト	
マスターページ	FrameMaker マスターページが無視されます。FrameMaker のマスターページは、レイアウト、境界線、ページ番号に使われるので、オンラインヘルプには適用できません。RoboHelp では、シングルソースレイアウトの出版時に選択できるブレッドクラム、トピックの目次、ヘッダー、フッターに対してはマスターページサポートを提供しています。
リファレンスページ	無視されます。ただし、RoboHelp で高度なスクリプト作成サポートを使用して、段落書式に関連付けられているリファレンスページの画像およびグラフィックを変換できます。
ページレイアウト、サイズ、 およびページ付け	無視されます。これらのエレメントは、オンラインヘルプには適用できません。ページ割り付けとピック名の設定を参照してください。
ヘッダー / フッター	無視されます。FrameMaker のヘッダーやフッターには、通常、章の名前、章の番号、ページ番号などが含まれており、これらはオンラインフォーマットには適用できません。RoboHelp でトピックを生成した後で、トピックの上下に情報を配置できるヘッダーとフッターを RoboHelp で作成できます。
回転テキスト	表のセルなどのテキストに変換されます。（回転テキストは HTML ではサポートされていません。）

画像とアンカー枠	
画像	画像がアンカー枠内にある場合、変換のみが行われます。画像がアンカー枠の中にない場合、FrameMaker ファイルを取り込んだ後で、画像を挿入し直します。取り込まれたまたはリンクされた画像は、デフォルトでアンカー枠の中に配置されるので、変換されます。ただし、グラフィック枠の中に配置された画像は、変換されません。アンカー枠に含まれた画像が見つからない場合、RoboHelp はファイル名に連番を持つ空白画像を生成します。画像変換設定を参照してください。
描画	アンカー枠内で作成した描画は画像に変換されます。画像変換の設定を定義できます。画像変換設定を参照してください。
アンカー枠	画像に変換されます。画像変換設定を参照してください。
画像とアンカー枠の代替テキスト	変換されます。FrameMaker 文書の中で画像に ALT テキストが設定されていない場合、RoboHelp は、変換された画像のファイル名を ALT テキストとして適用します。画像用の代替テキストの作成を参照してください。
ホットスポット	画像マップに変換します。

テキスト枠、 グラフィック枠および アンカー枠内の画像	アンカー枠およびその内容は、画像に変換されます。テキスト枠、複数画像、コールアウトなどのアンカー枠の中の内容は、すべて、単一の画像に変換されます。RoboHelp では、代替テキストがアンカー枠で定義されない場合、代替テキストとして作成された画像のファイル名が挿入されます。
式	RoboHelp で変換するときに、式が画像に変換されるよう、式をアンカー枠で囲みます。FrameMaker ヘルプを参照してください。

構造化 **FrameMaker** コンポーネント	
ブックの XML ファイル	FrameMaker 文書のように変換されます。
ブックの XHTML ファイル	FrameMaker 文書のように変換されます。
内容参照	FrameMaker 文書に内容参照として挿入されたテキストやファイルは、トピックの一部として表示されます。オンラインヘルプ出力の参照としては表示されません。内容参照を参照してください。

変換の概要

FrameMaker 目次を変換する

FrameMaker ブックを RoboHelp プロジェクトに取り込む場合には、目次（TOC）を取り込むこともできます。FrameMaker ブックで定義したナビゲーション構造を維持するには、RoboHelp プロジェクトに目次を取り込みます。

1) プロジェクト／読み込み／ FrameMaker ドキュメントを選択します。FrameMaker ファイルを選択します。

2) コンテンツ設定ダイアログボックスで、「FrameMaker の目次を変換」を選択し、FrameMaker 目次ファイルを参照して選択します。

   注： FrameMaker DITA マップを読み込む場合、RoboHelp では FrameMaker が「ditafm_output.ini」ファイルの設定に基づき作成する目次が使用されます。「ditafm_output.ini」ファイルについての詳細は、FrameMaker ヘルプを参照してください。

3) 次のいずれかのオプションを選択します。

既存の目次に追加

プロジェクト中の既存のRoboHelp目次に目次エントリを追加します。リストから既存のRoboHelp目次を選択します。

新規関連目次を作成

RoboHelpプロジェクトに追加する新規関連目次の名前を入力します。

FrameMaker目次のスタイルは、どの目次項目がブック、サブブックまたはページになるかを決めます。レベルを決定する際の最も重要な要素は、一番左のインデントで、フォントサイズやフォント太さが後に続きます。インデントされたアイテムを持つ目次のエントリは、RoboHelp目次のブックになります。目次のエントリがすべて同じインデント、フォントサイズおよびフォントの太さを持つ場合、RoboHelpの目次はフラットに表示されます。

- 特定の見出しをメインブックにするには、その見出しの下にインデントされた見出しを含むようにするか、配下の見出しでより小さいフォントや太字以外のフォントを使うようにします。
- 見出しをサブブックにするには、その見出しを主見出しの下に配置します。そして、サブブックの見出しの下にインデントされた見出しを含むようにするか、配下の見出しでより小さいフォントや太字以外のフォントを使うようにします。
- 見出しをページにするには、その見出しの下にいかなるレベルの見出しも含まないようにします。ページ見出しは、インデントするか、小さいフォントまたは太字以外のフォントを使います。

FrameMaker目次とRoboHelp目次の違い

目次は、FrameMakerの目次から取り込むこともできるし、RoboHelpの中で生成されたトピックから自動的に目次を生成することもできます。

- FrameMaker では、目次は、目次に取り込んだ見出しスタイルにしたがって生成されます。RoboHelp では、目次はトピックタイトルにしたがって生成されます。FrameMakerの中でトピック名マーカーを使ってトピックの名前をつけた場合、FrameMaker文書を取り込んだときのRoboHelp内でのファイル名は、トピックタイトルとは違う名前になります。
- FrameMaker 9以降のブックの自動生成目次では、FrameMaker 9以降のブックのフォルダー構造により、複数のレイヤーを持つコンテンツを作成することができます。
- RoboHelp では、別の目次に目次のプレースフォルダーを配置できるので、ネストされた目次を作成することができます。

FrameMaker索引エントリの読み込み

RoboHelpが、読み込むドキュメントの索引に基づいてキーワードを作成します。ただし、FrameMakerブックで生成される索引ファイルはRoboHelpプロジェクトには読み込まれません。

1) プロジェクト／読み込み／FrameMakerドキュメントを選択し、FrameMakerブックまたはドキュメントを選択します。

2) コンテンツ設定ダイアログボックスで「索引を変換」を選択し、次のいずれかのオプションを選択します。

既存の索引ファイルに追加

FrameMaker索引のエントリをプロジェクトの既存のRoboHelp索引に追加します。

新規関連索引を作成

RoboHelpプロジェクトに追加する新規関連索引の名前を入力します。

トピックに追加

FrameMaker索引のエントリを表示される各トピックに追加します。**注:** RoboHelpには、索引の種類に関連するプロジェクトレベルの設定はありません。索引のエントリは、プロジェクトの索引またはトピック内に存在可能です。FrameMakerのリンクを使用すると、索引に関連する様々な使用可能なオプションから索引の種類を選択することができます。RoboHelpから出力が生成される場合、トピックに存在する索引のエントリと（SSLレイアウトで）選択された索引に存在する索引のエントリが出力に配置されます。

用語定義の読み込み

RoboHelpでは、読み込み中のドキュメント内の用語集マーカーに基づく用語集を作成します。用語集マーカー内のテキストは用語集の用語で、マーカーを含む段落テキストが定義です。

1) プロジェクト／読み込み／FrameMakerドキュメントを選択し、FrameMakerブックまたはドキュメントを選択します。

2) コンテンツ設定ダイアログボックスで「用語集を変換」を選択し、次のいずれかのオプションを選択します。

既存の用語集に追加

FrameMaker 用語集をプロジェクトの RoboHelp 用語集に追加します。リストから用語集を選択できます。

新規関連用語集を作成

RoboHelp プロジェクトの新しい関連付けられた用語集の名前を入力します。

Ditaval ファイルからコンディションを適用する

FrameMaker DITA マップを読み込むときに、Ditaval ファイルを適用できます。RoboHelp は Ditaval ファイル内に指定されているコンディションを処理して、読み込みのコンテンツをフィルタリングします。

1) プロジェクト／読み込み／ FrameMaker 文書を選択し、FrameMaker DITA マップを選択します。

2) 適用する .ditaval ファイルを選択し、「開く」をクリックします。

FrameMaker 書式の RoboHelp スタイルへの変換

FrameMaker 書式をプロジェクトレベルの RoboHelp スタイルに変換する方法を定義できます。FrameMaker 文書の中の FrameMaker 書式の定義は、使われていないものも含めて、すべて変換設定ダイアログボックスに表示されます。以下を指定します。

- 変換に使用される FrameMaker テンプレート。この手順はオプションです。
- スタイルマッピング用の RoboHelp スタイルシート。

変換用の FrameMaker テンプレートの選択

このテンプレートは、後で RoboHelp プロジェクトレベルで、各文書の書式に上書きされるプロジェクトテンプレートとして指定することができます。変換設定を書き出して、他のプロジェクト間で変換設定を再使用することもできます。

1) プロジェクト／プロジェクトの設定を選択します。

2) プロジェクト設定ダイアログボックスの取り込みタブをクリックします。「FrameMaker テンプレートを適用」を選択します。

3) 「参照」をクリックして、プロジェクトに使いたいFrameMakerテンプレートを選択します。

注: 読み込み中は、RoboHelpによって最初にテンプレートがプロジェクトにコピーされ、次にテンプレートを読み込んでいるドキュメントに適用されます。変更は、元の場所のテンプレートに行われます。

スタイルマッピング用のCSSの選択

RoboHelpがFrameMaker書式をRoboHelpスタイルにマップするために使うカスケーディングスタイルシート（CSS）を選択することができます。デフォルトでは、RoboHelpは、RHStyleMapping.cssファイルをプロジェクトに使用します。また、カスタムCSSを使うこともできます。このスタイルは、後で、RoboHelpや、Adobe® Dreamweaver®のような外部CSS編集アプリケーションの中で編集することができます。

1) プロジェクト／プロジェクトの設定を選択します。

2) プロジェクト設定ダイアログボックスの取り込みタブをクリックします。次のいずれかを行います。

- スタイルマッピング用のCSSメニューからCSSファイルを選択します。
- 「スタイルマッピング用のCSS」メニューの隣にある「追加」をクリックして、CSSファイルを選択します。

  このオプションは、プロジェクト用のカスタムCSSを指定するために使用します。このオプションを選択すると、RoboHelpは、選択されたCSSファイルをプロジェクトのルートフォルダーにコピーして、選択されたCSSをスタイルマッピングに使います。

コンテンツ参照先：自動マップ

RoboHelp 7からRoboHelp 11へのアップグレード

RoboHelp 7では、RoboHelpプロジェクトに追加したFrameMaker文書に対して、文書レベルで変換設定を行うことができました。RoboHelp 8では、この変換設定がプロジェクト全体に適用されるので、変換パラメーターの一貫性を維持することができます。参照またはコピーによって追加されたFrameMaker文書を含むRoboHelp 7プロジェクトを開いている場合、RoboHelp 7プロジェクトで定義された文書固有の設定を維持することができました。

アップグレード後のプロジェクトにも、文書レベルの変換設定をもつ文書を追加したり、削除したりすることができます。また、新たに追加されたFrameMaker文書に対しても、文書レベルの変換設定を定義することができます。このオプションは、アップグレード後のプロジェクトでも RoboHelp 7 の動作を維持することを可能にします。ただし、RoboHelp 9の拡張機能やそのFrameMakerとの統合の利点を活用するには、プロジェクトを完全にアップグレードする必要があります。例えば、RoboHelp 7が自動番号やリストスタイルに提供しているマッピングオプションは限られたものでした。一方、RoboHelp 8では、複雑な自動番号書式やマルチレベルのリストスタイルを、RoboHelpスタイルやHTMLリストにマップすることができます。RoboHelp 9では、リストや表の読み込みがさらに強化されています。

注: 文書レベルの設定は、アップグレードの時点で維持することを選択した場合でも、いつでも破棄することができます。ただし、破棄した文書レベルの設定を取り消すことはできません。

アップグレード時に RoboHelp 7 の設定を維持するか破棄するか

FrameMakerコンテンツをRoboHelpプロジェクトに変換するための文書レベルの設定を維持するには、RoboHelp 7プロジェクトから継承された文書レベルの設定をもつ変換後のプロジェクトの、プロジェクトレベルの設定を上書きします。デフォルトでは、プロジェクトレベルの設定を上書きすることによって文書レベルの設定を維持することができます。

1) RoboHelp 7プロジェクトをRoboHelp 9で開きます。

2) プロジェクト／プロジェクトの設定を選択します。

3) プロジェクト設定ダイアログボックスの「読み込み」タブで、次のいずれかを行います。

   - アップグレードされたプロジェクトで文書レベルの設定を維持するには、「プロジェクト設定を文書レベルで上書き」オプションを選択します。初期設定では、このオプションが選択されています。

   - 文書レベルの設定を破棄して、プロジェクトレベルの設定を利用するには、「プロジェクト設定を文書レベルで上書き」オプションの選択を解除します。

文書レベルの変換設定を編集する

旧バージョンのRoboHelpから変換されたプロジェクトにおいて、プロジェクトレベルの設定を上書きする文書レベルの設定を維持している場合には、この設定を編集することができます。

1) プロジェクトマネージャーポッドで、追加されたFrameMaker文書を右クリックして、「属性」を選択します。

2) FrameMaker 文書設定ダイアログボックスの中で、変換設定タブを選択して、以下のように設定します。

FrameMakerコンディショナルテキストビルド式を適用する

追加されたFrameMaker文書を変換する前に、コンディショナルテキスト設定を適用することを選択します。

自動番号をHTMLリストに変換

変換され後のHTMLトピックでは、FrameMaker自動番号をHTMLリストに変換することを選択します。

状況依存ヘルプマーカー

RoboHelpが状況依存ヘルプを生成する際に使う状況依存ヘルプマーカーを指定します。

ユーザー定義のHTMLタグ

生成されたトピックの中で、標準の<p>タグの代わりに使いたいユーザー定義のHTMLタグを選択します。**注:** ユーザー定義のタグを適用する必要のあるFrameMaker書式を選択するには、プロジェクト設定ダイアログボックスから該当するFrameMaker書式を選択します。

トピック名パターン

追加されたFrameMaker文書から生成されるトピックの、トピック名パターンを指定します。

FrameMakerのページ設定用スタイル

オンラインヘルプトピック用のページ化を行う必要のあるFrameMaker段落書式のリストを指定します。FrameMaker段落書式をコンマで区切って指定します。

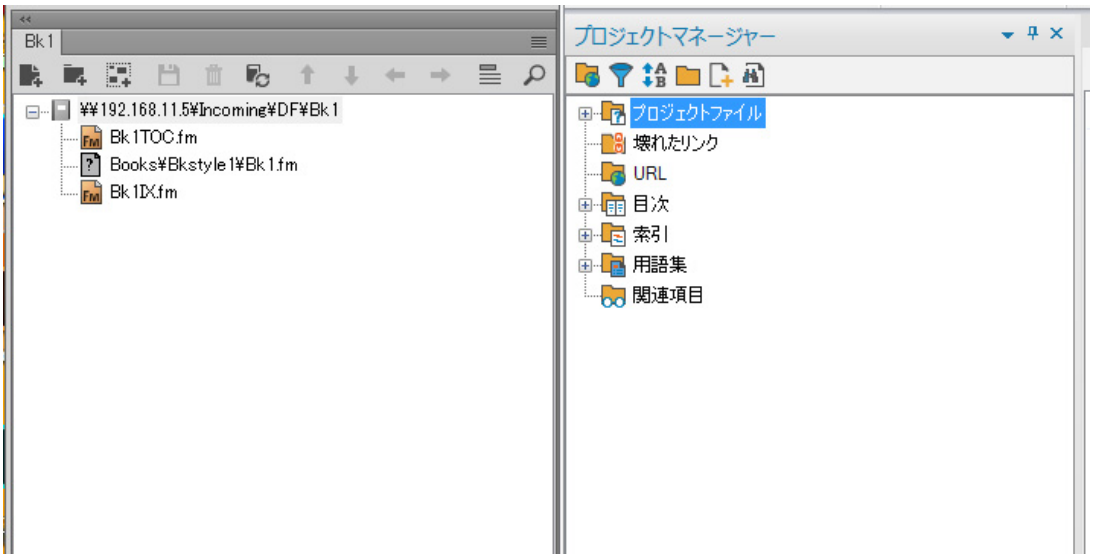
注: ページ設定はFrameMakerの段落書式に基づいて行われます。

FrameMaker 9 ブックの階層構造

FrameMaker 9 以降では、階層構造やグループ化をブックの中で強制することができます。子ブックをブック内に含めたり、フォルダーおよびグループをブック内で作成したりすることもできます。

構造化された FrameMaker ブックをリンクまたは取り込むと、RoboHelp のプロジェクトマネージャーポッドには、FrameMaker ブックの階層構造が表示されます。RoboHelp にリンクまたは読み込んだ子ブックは、親ブックの目次、索引、用語集を継承します。詳細は、FrameMaker ヘルプを参照してください。

FrameMaker ブックを RoboHelp にリンクした際に、プロジェクトマネージャーポッドに反映される FrameMaker ブックの階層構造



FrameMaker 相互参照書式の RoboHelp スタイルへの変換

1) プロジェクト／プロジェクトの設定を選択します。

2) プロジェクト設定ダイアログボックスの「読み込み」設定タブの「FrameMaker 文書」の下にある「編集」をクリックします。

3) PDF 設定ダイアログボックスの「相互参照」グループで、相互参照書式を選択します。

4) 選択した書式にマップする RoboHelp スタイルを選択するか、RoboHelp スタイルのフィールドに入力して、FrameMaker 文書の中の相互参照を再定義します。

5) 構成要素をダブルクリックして、RoboHelp 相互参照定義を追加します。

内容参照

FrameMaker 文書に内容参照として挿入されたテキストやファイルは、トピックの一部として表示されます。オンラインヘルプ出力の参照としては表示されません。詳細は、FrameMaker ヘルプを参照してください。

変換設定

RoboHelp では、各ソースタイプ用にプロジェクト全体の設定を定義することができます。すべての FrameMaker ドキュメントに対して、変換設定を一度のみ定義します。同様に、Microsoft Word ドキュメントの変換設定は、読み込まれる Word ドキュメントに対しても同じです。

プロジェクト全体の変換設定により、プロジェクト内部だけでなく、複数のプロジェクトにまたがって一貫性が向上します。段落、表、画像などを対象とした個別の変換設定を定義することなく、RoboHelp プロジェクトを迅速に設定することができます。

次の設定が含まれます。

- FrameMaker テンプレートの定義
- RoboHelp プロジェクト用のカスケーディングスタイルシート（CSS）
- FrameMaker 書式と RoboHelp スタイルとの間のスタイルマッピング
- 書式変換設定、画像変換設定、その他の設定

設定の書き出し

1) プロジェクト／プロジェクトの設定を選択します。
2) 「読み込み」タブの「書き出し」をクリックします。
3) RoboHelp 読み込み設定ファイル（ISF ファイル）の名前を指定して、「保存」をクリックします。

設定のプロジェクトへの読み込み

1) プロジェクト／プロジェクトの設定を選択します。
2) 「読み込み」タブの「参照」をクリックします。
3) RoboHelp 読み込み設定ファイル（ISF ファイル）の名前を指定して、「開く」をクリックします。

ページ割り付けとピック名の設定

ページ割り付けの基本

FrameMaker 文書をリンクまたは取り込む場合には、FrameMaker ファイルの内容を、RoboHelp の中でどのようにページ割り付けするのか、またはトピックに分割するのかを定義します。FrameMaker ドキュメントをページ割り付けする場合は、ドキュメントで使用する 1 つまたは複数の段落スタイル（見出し 1 など）やマーカーの種類（PageBreak など）を選択できます。

注: PageBreak は、RoboHelp の「マーカーを使用したトピックの分割」設定で提供しているデフォルトのマーカータイプです。FrameMaker ドキュメントでページ割り付け用に使用するマーカータイプを指定できます。

例を挙げます。FrameMaker ドキュメントに 10 個のトピックが含まれていて、各トピックにサブトピック、タスク、表が含まれているような場合、各トピックを別々の HTML ファイルとして出力するように設定することができます。これらの各トピックが見出し 1 書式である場合、独立した HTML トピックとして作成されるように各見出し 1 書式を設定できます。一方、見出し 2 でページ割り付けを設定すると、各見出し 2 トピックに関して独立した HTML ファイルが作成されます。ページ割り付けに見出し 1 と見出し 2 の両方を選択する場合、これらの段落スタイルの 2 つの連続する見出し間の内容は、トピックの作成に使用されます。

注: RoboHelp では、指定された段落スタイルとマーカータイプの一方または両方を使用して、FrameMaker ドキュメントをトピックに分割します。作成されるトピックファイルのファイル名には、段落スタイルのテキストまたはマーカーのテキストがデフォルトで含まれます。トピックファイル名に含まれる非 ASCII 文字は、すべて自動的に ASCII 文字に変換されます。

マーカーを使用してドキュメントのページ割り付けを行うには、RoboHelp でトピックを作成する段落にマーカーを適用し、マーカーの種類を選択します。例えば、FrameMaker ドキュメントで PageBreak マーカーをすべての見出し 1 段落に適用できます。

場合によっては、段落スタイルとマーカーの種類を組み合わせて使用し、ページ割り付けを行うことができます。例えば、すべての見出し 1 段落と、いくつかの見出し 2 段落でページ割り付けを行うことができます。場合によっては、PageBreak マーカーを FrameMaker ドキュメントの個々の見出し 2 段落に割り当てた後、RoboHelp でページ割り当ての段落スタイルとして見出し 1 を選択して PageBreak マーカーの種類を適用できます。

<NoSplit> マーカーテキストのある PageBreak マーカーの種類を適用することで、特定の段落スタイルのドキュメントのページ割り付けを停止することもできます。

注： `<NoSplit>` マーカーテキストには、大文字と小文字の区別はありません。

RoboHelp では、連続する 2 つの段落に内容が存在しないと判断した場合、ページ割り当ての段落スタイル設定に基づき、ページ割り付けを行ったり、段落をトピックに分割することはありません。PageBreak マーカーを 2 つめの段落に適用し、別のトピックを作成するべきであることを、明示的に示すことができます。

注： PageBreak は、一例です。ページ割り付けには任意のマーカーを一貫して適用できます。そのマーカーについては、「マーカーを使用したトピックの分割」設定で指定可能です。

ドキュメントのページ割り付けを行うには、次のガイドラインに従います。

トピック内のコンテンツの完全性

生成されるトピックが、関連する読者のための情報をすべて含むことを保証します。例えば、Heading 3 レベルの段落にページ設定を設定した場合、他の Heading 3 レベルのトピックに含まれる文脈情報が失われて、タスク情報だけが含まれる可能性があります。このようにトピックが切り離されるのを避けるには、単一のヘルプトピックだけで詳細が得られるように、高いレベルでページ設定を設定してください。

ドロップダウンテキスト

ドロップダウンテキスト用の段落書式には、ページ設定を設定しないようにしてください。この書式で適用された段落は、ドロップダウンテキストのキャプションの段落書式に添付する必要があります。変換前に行うオンライン出力の最適化を参照してください。

トピック名の基本

ページ設定用の見出しスタイルを設定した場合には、この見出しテキストが、RoboHelp で作成されたトピックファイルのデフォルトのファイル名になります。例えば、Heading 2 をページ設定用に定義したとし、FrameMaker 文書には「Introduction」と「Beyond basics」という 2 つの Heading 2 のトピックがあったとします。この場合、RoboHelp では「introduction.htm」および「beyond_basics.htm」というファイル名の「Introduction」および「Beyound basics」というトピックが作成されます。したがって、トピックのタイトルを示す直観的な名前のついた HTML ファイルが得られます。

RoboHelp では、次のような場合にトピック名をカスタマイズするための様々な方法をサポートします。

スタイルに基づいたページ割り付け

トピックは、変換設定ダイアログボックスの「その他の設定」タブで選択したパターンに従って名前が付けられます。以下のいずれかを選択することも、RoboHelp が提供するトピック名パターン構成単位を利用してトピック名パターンを作成することもできます。さらに、「HelpTopic」など静的テキストの後ろに <n> を追加し（HelpTopic 1、HelpTopic 2 など）、トピックを作成することもできます。

トピック名パターン	説明
デフォルト	生成された HTML トピックには、トピックタイトルとしての段落テキストとファイル名があります。
<$filename_no_ext>-<$paratext>	生成された HTML トピックには、FrameMaker ドキュメントのファイル名で構成されるファイル名があり、.fm 拡張子と段落テキストは含まれず、ハイフンで区切られます。例えば、名前が「Chapter.fm」で段落テキストが「1-Introduction」になっている FrameMaker ドキュメントは、「Chapter-1-Introduction」というタイトルで「Chapter-1-Introduction.htm」というファイル名の HTML トピックに変換されます。
<$filename_no_ext>-<n>	生成される HTML トピックのファイル名は、FrameMaker 文書のファイル名から .fm 拡張子を省いたものと、段落番号とをハイフンで区切ったものになります。例えば、「Chapter.fm」という FrameMaker ドキュメントは、「Chapter-1」というタイトルで「Chapter-1.htm」というファイル名の HTML トピックに変換されます。
<$paratext_no_num>	生成された HTML トピックには、ページ割り付けが設定された段落書式の段落テキストで構成されるファイル名があり、段落番号は含まれません。例えば見出し 1 段落「1.　Introduction」は、「Introduction」というタイトルで「Introduction.htm」というファイル名の HTML トピックに変換されます。
<$paratext>	生成される HTML トピックのファイル名は、ページ設定が設定された段落書式の段落テキストになります。例えば、見出し 1 段落「Introduction」は、「Introduction.htm」というタイトルとファイル名の HTML トピックに変換されます。

マーカーに基づくページ割り付け

ページ割り付けに使用するマーカーに基づくトピックに名前を付けるには、FrameMaker ドキュメントで各マーカーを設定し、ファイル名とタイトルをファイル名 | タイトルフォーマットのマーカーテキストとして指定します。

注： ファイル名とタイトルは、どちらもオプションです。ファイル名を指定しない場合は、（例えば、| <title>）、RoboHelp ではタイトルから有効なファイル名が作成されます。タイトルを指定しない場合は、（例えば、| <filename>）、RoboHelp ではトピック名のパターンからタイトルが作成されます。マーカーテキストが空白の場合は、RoboHelp ではトピック名のパターンを使用して、トピックタイトルと有効なファイル名が作成されます。

ページ割り付けとピック名の設定

1) プロジェクト／プロジェクトの設定を選択します。
2) プロジェクト設定ダイアログボックスの「読み込み」設定タブの「FrameMaker 文書」の下にある「編集」をクリックします。
3) ドキュメントをトピックに分割するには、次の手順のどちらか、または両方を行います。
   - 「段落スタイル」タブで、段落スタイルを選択し、その段落スタイルでドキュメントを分割します。
   - 「その他の設定」タブで、「マーカーを使用したトピックの分割」を選択し、ページ割り付けに FrameMaker ドキュメントで使用するマーカーを指定します。
4) デフォルトでは、FrameMaker ドキュメントのページ割り付けを行うために使用されるスタイルの段落テキストに基づきトピックに名前が付けられます。段落スタイルに基づいて作成されるトピックに別の命名規則を指定するには、トピック名パターンリストからトピック名のパターンを選択するか、カスタムパターンを指定します。
5) 「OK」をクリックします。

FrameMaker ドキュメントからの状況依存ヘルプマーカーの変換

FrameMaker ドキュメントに挿入した状況依存ヘルプマーカーは、マップ ID に変換して再利用できます。FrameMaker ドキュメントをリンクする前に、プロジェクト設定ダイアログボックスで状況依存ヘルプマーカーを指定します。FrameMaker ドキュメントを読み込む場合にも、この設定を指定できます。次の 2 つの方法で、FrameMaker ドキュメントの状況依存ヘルプマーカーを操作することができます。

FrameMaker ドキュメントからのマップ ID の自動変換

FrameMaker ドキュメントで状況依存ヘルプマーカーを適用し、変換設定でマーカーの種類を指定します。RoboHelp により FrameMaker ドキュメントからマーカーが読み込まれ、状況依存ヘルプマーカーに含まれている文字列からマップ ID が追加されます。

マップ ID ファイルの手動追加

開発チームからマップ ID を受け取った場合、これらのマップ ID を状況依存ヘルプマーカーテキスト文字列として使用し、マーカーを FrameMaker ドキュメントの状況依存ヘルプマーカーとして使用します。その後、開発チームからのマップ ID と、FrameMaker ドキュメントで挿入した状況依存ヘルプマーカーテキストを関連付けることにより、マップ ID ファイルを作成します。次に、このファイルをプロジェクトに追加します。FrameMaker ドキュメントをリンクまたは読み込むときに、変換設定で状況依存ヘルプマーカーを指定します。

1) プロジェクト／プロジェクトの設定を選択します。

2) プロジェクト設定ダイアログボックスの「読み込み」設定タブの「FrameMaker 文書」の下にある「編集」をクリックします。

3) 変換設定ダイアログボックスの「その他の設定」グループで、状況依存ヘルプマーカーを入力します。

FrameMakerのコンディショナルテキストビルド式の適用

RoboHelpプロジェクトに読み込んだFrameMakerドキュメントのコンテンツにコンディショナルテキストビルド式の表示／非表示の設定を適用できます。FrameMakerコンテンツに表示/非表示設定を適用した後、RoboHelpによりコンテンツが読み込まれます。非表示のテキストはRoboHelpプロジェクトには読み込まれません。

1) プロジェクト／プロジェクトの設定を選択します。
2) プロジェクト設定ダイアログボックスの「読み込み」設定タブの「FrameMaker文書」の下にある「編集」をクリックします。
3) 変換設定ダイアログボックスの「その他の設定」グループで、「FrameMakerコンディショナルテキストビルド式を適用する」を選択します。

FrameMaker内容の変換

FrameMakerの段落書式のRoboHelpスタイルへの変換

デフォルトでは、RoboHelpは、FrameMakerの段落書式をすべてRoboHelp CSSスタイルに変換するので、FrameMaker書式の外観と動作はRoboHelpプロジェクトでも維持されます。オンラインヘルププロジェクトの一貫性を保証するには、FrameMaker書式をRoboHelpスタイルにマップして、編集します。

1) プロジェクト／プロジェクトの設定を選択します。
2) プロジェクト設定ダイアログボックスの「読み込み」設定タブの「FrameMaker 文書」の下にある「編集」をクリックします。
3) 変換設定パネルで、段落グループからFrameMaker書式を選択します。
4) RoboHelpスタイルメニューから、FrameMaker書式にマップしたいRoboHelpスタイルを選択します。FrameMakerテキストの外観をオンラインヘルプフォーマットでも維持するには、「ソース」を選択します。

   選択されたRoboHelpスタイルを編集するには、「スタイルを編集」をクリックします。
5) マップされたRoboHelpスタイルの属性を選択します。

出力から除外

選択したFrameMaker段落書式で適用するFrameMakerドキュメントのコンテンツの破棄を選択します。

ページ割り付け（このスタイルに基づくトピックの分割）

選択されたFrameMaker段落書式が出現するごとに、ヘルプトピックを生成することを選択します。例えば、見出し1ページ割り付け（このスタイルに基づくトピックの分割）を選択すると、RoboHelpでは見出しのインスタントごとに新規トピックが開始されます。

ユーザー定義のHTMLタグ

選択した段落書式についてユーザー定義のHTMLタグを選択するか、入力します。

選択したFrameMaker書式に定義された自動番号付けプロパティがある場合、自動番号付けの変換方法を指定します。

関連するリンク：

自動番号書式のマッピング
プロジェクトの作成

FrameMakerの文字書式のRoboHelpスタイルへの変換

FrameMakerの文字書式はRoboHelpの文字スタイルにマップできます。

RoboHelpでスタイルを編集することもできます。

1) プロジェクト／プロジェクトの設定を選択します。
2) プロジェクト設定ダイアログボックスの「読み込み」設定タブの「FrameMaker文書」の下にある「編集」をクリックします。
3) PDF設定ダイアログボックスの左ペインで、FrameMakerの文字書式を選択します。
4) ポップアップメニューからRoboHelpの文字スタイルを選択します。オプションで、次の操作を行えます。

- FrameMaker の文字書式を読み込むには、ポップアップメニューから「ソース」を選択します。
- 選択されたRoboHelpスタイルを編集するには、「スタイルを編集」をクリックします。
- 選択した文字書式で適用した FrameMaker ドキュメントのテキストを除外するには、文字書式を選択し、「出力から除外」を選択します。
- ユーザー定義の HTML タグを HTML 出力で読み込んだテキストに適用するには、「ユーザー定義HTMLタグ」を選択し、ポップアップメニューからタグを選択します。新しいHTMLタグも入力できます。文字書式用のカスタムHTMLタグは、生成したHTMLファイルのタグを置換します。

FrameMaker 段落書式をヘルプトピックから除外する

指定された段落書式を持つ FrameMaker 文書の内容を、変換された出力から除外することができます。このオプションは、オンライン出力では不要な特別通知のような内容を削除するために使われます。

1) プロジェクト／プロジェクトの設定を選択します。
2) プロジェクト設定ダイアログボックスの「読み込み」設定タブの「FrameMaker 文書」の下にある「編集」をクリックします。
3) プロジェクト設定の左側のペインから、FrameMaker 段落書式を選択します。
4) 「出力から除外」をクリックします。

カスタム HTML タグ

FrameMaker から取り込んだ書式の HTML 出力の中では、標準の段落スタイル用の <p> タグや文字スタイル用の タグの代わりに、カスタム HTML タグを定義して適用することができます。FrameMaker ドキュメントの各書式に独立した HTML タグを定義できます。

1) プロジェクト／プロジェクトの設定を選択します。
2) プロジェクト設定ダイアログボックスの「読み込み」設定タブの「FrameMaker 文書」の下にある「編集」をクリックします。
3) 変換設定ダイアログボックスで、ユーザー定義の HTML タグオプションを選択します。
4) カスタム HTML タグの名前を入力するか、デフォルトの HTML タグの代わりに使用する既存のタグを選択します。

自動番号書式のマッピング

FrameMaker 文書の自動番号書式をヘルプ書式に変換するための変換設定を選択します。FrameMaker 文書に階層的な番号リストが含まれている場合には、以下のいずれかを選択することができます：

Autonumberを無視

自動番号テキストを必要とするのが印刷形式だけである場合には、このオプションを選択します。変換された段落には、自動番号が含まれなくなります。例えば、FrameMakerの「Section2 Level」という段落書式の自動番号を無視したします。この場合、ソースの「節1.1 システム要件」は、生成されたRoboHelpトピックの中では「システム要件」として表示されます。

Autonumberをテキストに変換

このオプションを選択して、FrameMakerの番号付けリストの外観を保持します。Autonumber部分はシーケンスプロパティを持たないので、RoboHelpトピックの段落テキストの一部として表示されます。

自動番号をHTMLリストに変換

、<ul>、<li>のようなHTMLタグを使用して自動番号をHTMLリストに変換するには、このオプションを選択します。

AutonumberをRoboHelpリストに変換

RoboHelpで生成したHTMLトピックを編集する場合か、RoboHelpのスタイルを使用して番号付けプロパティを制御する場合に、このオプションを選択します。

リストマッピングのシナリオ

RoboHelpでは、FrameMaker段落書式のリストのプロパティを複数の方法で変換できます。次のシナリオを検討します。

ソースにマップするFrameMaker番号付けリスト

FrameMakerの段落書式自動番号属性は、そのFrameMaker段落書式に対して定義された自動番号変換設定に従って、リストに変換されます。

Autonumberを無視

FrameMaker段落書式の自動番号の部分は無視されます。変換後のRoboHelpトピックの中の段落スタイルには、リストの部分が含まれていません。

Autonumberをテキストに変換

FrameMaker段落の自動番号の部分はテキストに変換されて、RoboHelpトピックの中の段落テキストとして表示されます。

自動番号をHTMLリストに変換

自動番号書式は、<ol>、<ul>、<li>のようなHTMLタグを使用してリスト項目に変換されます。

自動番号をRoboHelpリストに変換する

段落スタイルの自動番号属性は、RoboHelpリストに変換されます。

例：

- FrameMakerの中で「FM_Para1」という段落スタイルを作成し、<a+>という自動番号を定義して、それを段落に適用します。生成された段落には、「a、b、c、…」のようにアルファベットがふられます。
- FrameMakerの段落書式「FM_Para1」を、「ソース」にマップします。

生成されたRoboHelpトピックの中の段落のリストには、ソース文書の中のリストと同じような属性を持つようなリストスタイルが適用されます。

RoboHelpの番号付けのないスタイルにマップしたFrameMakerの番号付けリスト

自動番号属性をもつFrameMaker段落書式は、いかなるリストスタイルにもリンクされてないRoboHelp段落スタイルにマップすることができます。この場合、自動番号は、段落書式に対して定義された自動番号変換設定にしたがって、リストに変換されます。

Autonumberを無視

FrameMakerの段落自動番号は無視され、RoboHelpトピックには表示されません。ただし、段落スタイルはマップされます。

Autonumberをテキストに変換

FrameMakerの自動番号の部分はテキストに変換されてRoboHelpトピックの段落テキストの一部として表示されます。段落スタイルはマップされます。

自動番号をHTMLリストに変換

FrameMaker段落書式は、<ol>、<ul>、<li>のようなHTMLタグを使用してHTMLリスト項目に変換されます。

AutonumberをRoboHelpリストに変換

FrameMaker段落書式の自動番号属性は無視されます。段落スタイルはマップされます。

RoboHelp 番号付けスタイルにマップした FrameMaker の番号付けのない書式

この場合、変換した段落は RoboHelp 段落スタイルを持つので、RoboHelp リストスタイルが継承されます。自動番号変換オプションは、RoboHelp トピック中の段落の挙動には影響を与えません。

例：

- FrameMaker ドキュメントの中で、自動番号属性のない段落書式「FM_Para 1」を作成します。
- RH スタイルマッピング CSS の中で、RoboHelp リストスタイル「RH_List1」を定義します。
- 段落スタイル「RH_Para1」を作成し、リストスタイル「RH_List1」の最初のレベルを段落スタイル「RH_Para1」にリンクします。
- FrameMaker 段落スタイル「FM_Para1」を RoboHelp 段落スタイル「RH_Para1」にマップします。

生成された RoboHelp トピック中の段落は、リストスタイル「RH_List1」の属性を継承します。

RoboHelp 番号付けリストにマップした FrameMaker 番号付けリスト

変換された段落は RoboHelp 段落スタイルを持ち、RoboHelp リストスタイルを継承します。自動番号変換オプションは、RoboHelp トピック中の段落の挙動には影響を与えません。

例：

- FrameMaker の中で、段落書式「FM_Para1」を作成して自動番号 <a+> を定義し、段落に適用します。この段落には、「a、b、c、…」のようなリストが設定されます。
- RoboHelp スタイルマッピング CSS の中で、番号リストスタイル「RH_List1」を定義して、第 1 レベルを <x> と定義します。
- RoboHelp で、段落スタイル「RH_Para1」を定義し、リストスタイル「RH_List1」の最初のレベルを段落スタイル「RH_Para1」にリンクします。
- FrameMaker の段落書式「FM_Para1」を、RoboHelp の段落スタイル「RH_Para1」にマップします。

生成された RoboHelp トピックの中の段落は、リストスタイル「RH_List1」の属性を継承し、「1、2、3、…」という種類のリストを表示します。

FrameMakerの表書式のRoboHelp表スタイルへの変換

FrameMakerの表書式をRoboHelpの表スタイルにマップできます。また、FrameMaker文書から表書式を取り込むこともできます。RoboHelpで表書式を編集することもできます。FrameMaker文書の連結された（またがった）セルは連結を解除することはできません。連結セルは、RoboHelpトピックの中でも連結されて表示されます。

FrameMaker　表書式に表タイトルや表脚注が含まれている場合には、このようなFrameMakerの段落書式は、別々のRoboHelp段落スタイルに変換されます。表タイトルスタイルの自動番号を維持するかを決めて、自動番号属性をマップされたRoboHelp段落スタイルに指定します。たとえば、FrameMaker文書の表タイトルの書式が、「表2-3 四半期の業績」のように章の番号を含んでいる場合、自動番号の部分を無視して、「四半期の業績」だけが表タイトルに表示されるようにすることができます。リストマッピングのシナリオ。

1) プロジェクト／プロジェクトの設定を選択します。
2) プロジェクト設定ダイアログボックスの「読み込み」設定タブの「FrameMaker 文書」の下にある「編集」をクリックします。
3) PDF設定ダイアログボックスの左ペインからFrameMakerの表書式を選択します。

画像変換設定

PDFによる高品質の印刷のために最適化されたような一部のFrameMaker文書には、EPS形式の画像が含まれています。オンラインヘルプ用に、EPS画像を、JPEG、GIF、PNGなどのWebでサポートされている画像形式に変換します。

変換設定ダイアログボックスで、以下の画像変換設定を指定します。

Distillerを使用して画像を生成

このオプションを選択すると、FrameMaker文書内にリンクおよび挿入されているグラフィックから、Webに適した画像形式を生成します。このオプションは、EPSやAIなどのベクターグラフィック形式や、テキストが含まれているグラフィックを使用している場合に特に使用してください。

画像を再生成しない

FrameMakerドキュメントを再読み込みする場合で、読み込んだ内容の画像を更新する必要がない場合は、このオプションを選択すると時間を節約できます。

3D 画像を保持

このオプションを選択すると、3D レンダリングを保持して 3D グラフィックを PDF ファイルとして変換します。3D 画像がレンダリングを保持できるようにするには、FrameMaker で埋め込みを有効にします。

推奨する寸法

画像のサイズを指定します。次のいずれかを選択します：

サイズの変更

既存のサイズのパーセンテージで画像をサイズ変更します。画像の縦横比が維持されます。

幅、高さ

画像の絶対サイズを高さと幅（ポイント）で指定します。「縦横比を維持」を選択して、画像がゆがまないようにします。

注: FrameMaker 文書の中の画像を、実寸法の画像に変換するには、高さと幅を 0 ポイントに指定します。生成された HTML の中では、そのような画像の <img> タグは、高さや幅の値を持ちません。この変換は、画像を含むアンカー枠のサイズには無関係です。

最大サイズ

オンライン形式の画像の最大サイズを設定します。ユーザーが指定した最大サイズを超える画像は、その最大サイズに合わせて自動的に縮小されます。画像をサイズ変更して、縦横比を指定する場合、RoboHelp では、指定の最大サイズ内に画像がサイズ変更され、縦横比が維持されます。

このオプションを使用して、ブラウザーのウィンドウを横方向または縦方向にスクロールする必要のある大きなサイズの画像を防ぎます。例えば、ウィンドウのサイズを 800x600 ピクセルに指定する場合、画像がウィンドウのサイズを超えないように、最大サイズを 640x480 と指定できます。

余白

画像に余白を設定します。

- 辺の余白をすべて同じにするには、余白を「すべての辺」に設定します。
- 各側面の余白を設定するには、各側面で余白を設定します。

罫線

画像境界線を設定します。

- すべての側面で均一な罫線を設定するには、罫線ポップアップメニューから「すべて」を選択します。代わりに、ポップアップメニューで、罫線が表示される側面を指定できます。
- 罫線のスタイルを設定するには、スタイルポップアップメニューでスタイルを選択します。
- 罫線の色を設定するには、カラーポップアップメニューで色を選択します。
- 境界線の幅を設定するには、幅メニューから幅をポイントで選択します。

書式

FrameMaker 文書の中の画像から変換される Web 対応の画像に、画像形式、色深度、画質設定を定義します。

そのまま

画像を現在の Web に対応するフォーマットにするには、このオプションを選択します。

JPG

スクリーンショットや写真のような多色画像の場合には、このオプションを選択します。色深度の大きい JPG フォーマットは、最高オンライン画質を提供しますが、ファイルサイズも増えます。写真用にはこのオプションを選択します。

GIF

FrameMaker 文書に含まれるのが概念図のような線画だけである場合には、このオプションを選択します。

BMP

アイコン、ロゴなどの小さい画像に対してのみ、このオプションを選択します。BMP は無圧縮の画像形式であるため、豊富な色情報と優れた画質を誇りますが、データサイズは大きくなります。また、この形式の画像はうまく拡大または縮小されません。したがって、この画像形式は、Web に適していません。

PNG

スクリーンショット用にはこのオプションを選択します。

JPEG 画質

JPG 画像の品質パーセンテージを設定します。

色ビット深度

ビットマップ画像の色ビット深度を設定します。JPG および PNG フォーマットに設定できるのは、8 ビットまたは 24 ビットの色深度であるのに対し、BMP 画像には、1、4、8、16、24、32 ビットの色深度を設定することができます。GIF 画像には 8 ビットのカラー深度のみがあります。

グレースケール

画像をモノクロにしたい場合には、このオプションを選択します。

変換された画像を保持する

RoboHelp では、トピックを更新したり、生成したりするたびに、FrameMaker ドキュメント内の画像およびアンカー枠が変換されます。対応するアンカー枠の対応する画像または SWF ファイルが既に RoboHelp プロジェクトに表示されている場合、画像の更新をスキップできます。このオプションは以下の場合に使用します。

- FrameMaker ドキュメントが更新されるたびに、画像を再生成したくない場合。
- RoboHelp プロジェクトの中の画像が別の画像編集ツールを使って編集されていて、編集済みの画像が上書きされることを防ぎたい場合
- FrameMaker 文書の中で画像が変更されても、RoboHelp プロジェクトで生成した画像をそのまま保持したい場合

画像が文書中に表示される順序や、画像の名前が変更された場合には、このオプションを消去して、RoboHelp に画像を更新させる必要があります。

1) PDF 設定ダイアログボックスの「画像」タブで、「画像を再生成しない」を選択します。

画像用の代替テキストの作成

アクセシビリティのあるコンテンツを作成するために、画像には代替テキスト（ALTテキスト）を作成して、視力障害をもつユーザーがスクリーン読者経由でコンテンツにアクセスできるようにします。完成したFrameMakerブックをRoboHelpにリンクまたは読み込んで出版する場合には、FrameMakerドキュメントで使われているグラフィックに代替テキストを追加します。このような入力はPDFファイル上では見えませんが、オンラインコンテンツではマウスが画像の上に移動したときに表示されます。グラフィックや画像に対する代替テキストの設定については、FrameMakerヘルプを参照してください。

DITAマップファイルの読み込み

DITAマップは、特定の出力用にトピックをリストし、リンクする目次のようなものです。DITAマップは、特定の配布要件に合わせて調整されたシーケンスと階層にトピックをまとめます。それぞれがリファレンスマニュアル、チュートリアルまたはオンラインヘルプのような異なる要件のためにトピックを並べる複数のマップを持つことができます。DITAマップファイルの拡張子は、.ditamapです。

RoboHelpでDITAマップファイルを読み込んで、XHTML出力を生成できます。DITA Open Toolkitは、DITAマップファイルの情報を処理して、XHTML出力を提供します。RoboHelpは、XHTML出力を読み取って、XHTMLトピック、目次および索引を生成します。RoboHelpでは、出力ビューポッドで、DITA Open Toolkitの処理情報が表示されます。

注： RoboHelpでのDITAマップコンテンツの処理は、DITA Open Toolkitによって行われています。RoboHelpは、DITA Open Toolkitによって生成されたエラーの修正は行いません。例えば、DITA Open Toolkitが、XHTML 1.0移行に準拠したファイルを生成しなくても、RoboHelpでエラーは生成されません。そのため、DITAマップファイルの読み込みから生成されたXHTMLトピックには、メタタグが含まれていません。

```
<meta name="generator" content="Adobe RoboHelp - www.adobe.com" />
```

注： XHTMLファイルには、整形式のXMLが必要です。

1) 次のいずれかを行います。
   - プロジェクト／読み込み／DITAマップを選択します。
   - プロジェクトマネージャーポッドでプロジェクトファイルフォルダーを右クリックします。「読み込み」を選択し、ファイルの種類として「DITAマップ」を選択します。

2) DITAマップファイルを選択します。「開く」をクリックします。

3) DITA Open Tool Kitの処理オプションダイアログボックスで、次のオプションを指定します。

変換用のデフォルトXSLTファイルを置き換え

DITAファイルからXHTMLへの変換に、DITA Open ToolkitがデフォルトのXSLファイルの代わりに使用するXSLファイルを選択します。DITA Open ToolkitファイルのAnt処理で対応するパラメーターは、args.xslです。

コンディショナルプロセスにDITA変数を使用

DITAファイルのコンディショナルプロセスに使用するDITA Valファイルを指定します。XHTMLはValファイルに基づいて生成されます。DITA Valファイルには、フィルター、フラグ設定および改訂情報が含まれています。DITA Open ToolkitファイルのAnt処理で対応するパラメーターは、args.filterです。

索引エントリをトピックに表示

索引エントリ（DITAトピックで<indexterm>によってマークされている）をRoboHelpトピックに表示するには、このオプションを選択します。DITA Open ToolkitファイルのAnt処理で対応するパラメーターは、args.indexshowです。

画像のファイル名を注釈で表示

トピックに含める画像のファイル名、またはフルパスを示す注釈を画像に追加する場合に選択します。DITA Open ToolkitファイルのAnt処理で対応するパラメーターは、args.artlblです。

ドラフトとクリーンアップコンテンツを含める

ドラフトと必要なクリーンアップコンテンツ（公開前に未実行だったことが特定されたアイテム）を含める場合に選択します。DITA Open ToolkitファイルのAnt処理で対応するパラメーターは、args.draftです。

ヘッダー領域に配置するXHTMLファイルを選択（hdf）

出力ファイルのヘッダー領域に配置するXHTMLを含むファイルの場所を選択します。DITA Open ToolkitファイルのAnt処理で対応するパラメーターは、args.hdfです。

本文のランニングヘッダー領域（hdr）に配置するXHTMLファイルを選択

出力ファイルの本文のランニングヘッダー領域に配置するXHTMLを含むファイルの場所を選択します。DITA Open Toolkitファイルの Ant処理で対応するパラメーターは、args.hdrです。

本文のランニングフッター領域（ftr）に配置するXHTMLファイルを選択

出力ファイルの本文のランニングフッター領域に配置するXHTMLを含むファイルの場所を選択します。DITA Open Toolkitファイルの Ant処理で対応するパラメーターは、args.ftrです。

DITA Open Tool Kitホームディレクトリ

DITA Open Toolkitのホームフォルダーの絶対ロケーションを選択します。DITA Open Toolkitの有効なホームフォルダーを指定します。このロケーションは一度だけ指定します。ロケーションはレジストリに格納されます。ロケーションは変更可能です。

4) 「完了」をクリックします。

注： RoboHelpは選択されたファイルの位置を検証しますが、DITA Open Toolkitがすべての情報を処理するため、ファイルは検証しません。

XMLファイルの読み込み

XMLファイルを既存のプロジェクトに読み込むと、RoboHelpは、そのXMLファイルに関するトピックを作成します。

1) プロジェクトマネージャーポッドで、読み込むファイルを選択します。

2) プロジェクト／読み込み／XMLファイルを選択します。

3) 1つ以上のXMLファイルを選択します。「開く」をクリックします。

4) XML読み込みハンドラーの選択ダイアログボックスでオプションを選択します。

5) （オプション）詳細オプションを設定するには、「XMLを読み込み（CSS/XSL）」を選択します。

6) 「詳細」をクリックします。

7) オプションを選択します。

テキストフローとして処理

XMLファイルを書式設定なしで、HTMLテキストとして読み込みます。

XMLツリービューとして処理

XMLファイルをHTMLツリービューで読み込みます。HTMLはコードとして読み込みます。

カスタマイズされたCSS/XSLファイルを使用

ポップアップメニューでファイルを選択します。

8) 「OK」をクリックします。

注: 複数の読み込まれたトピックに同じトピック名が付いている場合、このエラーは読み込みプロセス中に使用されるXSLファイルによるものです。XMLからHTMLへの変換に使用されるXSLファイルには、<title>という指定フィールドが含まれています。XSLファイルを編集してXMLファイルを再度読み込んでください。

XML読み込みハンドラーを選択

ハンドラー名

事前定義のハンドラーは、次のとおりです。

トピックとしてのDocBookの読み込み

DocBookファイルは、HTMLトピックとして読み込まれます。

XML（CSS/XSL）の読み込み

XMLファイルに、関連付けられたスタイルシート（CSSまたはXSLファイル）がある場合、XMLファイルはHTMLトピックとして読み込まれます。スタイルシートがない場合、XMLファイルは表示コントロールのないHTMLファイルとして読み込まれます。

詳細

「XMLを読み込み（CSS/XSL）」を選択するとアクティブになります。クリックすると、詳細な読み込みオプションを設定できます。

前のセッションで読み込まれたトピックを自動的に置換

古いデータを上書きします。

読み込み前に XML を検証

RoboHelp は、読み込み前に XML ファイルを検証します。

XML 読み込みの詳細オプションダイアログボックス

これらのオプションは、関連付けられた XML スタイルシートが存在しない場合のみ、このハンドラーを使用して、XML の読み込みに使用できます。

テキストフローとして処理

XML ファイルを書式設定なしで、HTML テキストとして読み込みます。

XML ツリービューとして処理

XML ファイルを HTML ツリービューで読み込みます。HTML はコードとして読み込みます。

カスタマイズされた CSS/XSL ファイルを使用

カスタマイズされたファイルを選択します。

注: カスタマイズされたハンドラーファイルを作成および編集するには、XML ハンドラーマネージャーと HDF（ハンドラー記述ファイル）Editor を使用します。

XML ハンドラーマネージャーについて

ハンドラーによって XML の読み込み方法が決定されます。定義済みのハンドラーを選択するか、要件に合うカスタムハンドラーを作成します。XML ファイルをプロジェクトに読み込むとき、または XML 出力を生成するときに、ハンドラーを選択できます。

XML ハンドラーマネージャーには、HDF Editor から書き出されたすべての HDF ファイル（ハンドラー記述ファイル）が表示されます。

ハンドラー記述ファイル（HDFファイル）

XML変換を行うために必要な個別のハンドラーとファイルを含みます。定義済みのHDFファイルは、タイプ別（XHMTLなど）に整理され、関連するすべてのハンドラーを含みます。

DocBook

このハンドラータイプに含まれるのは、DocBookをトピックとして読み込み、プロジェクトをDocBookに書き出し、トピックをDocBookに書き出しです。

XHTML

このハンドラータイプに含まれるのは、XHMTLを読み込み（.XML）、XHTMLを読み込み（.XHTML）、トピックをXHTMLに書き出し、プロジェクトをXHMTLに書き出しです。

XML/CSS

このハンドラータイプに含まれるのは、XMLの読み込み（CSS/XSL）です。

ヒント: HDFファイルを開いて、そこに含まれるハンドラーを表示するには、HDFファイルの左側のプラス記号をクリックします。

編集

HDFファイル（XHTMLなど）または特定のハンドラーを選択した後、クリックすると、HDF Editorが起動し、ハンドラーを編集できます。

削除

HDFファイル（XHTMLなど）を選択した後、クリックすると、そこに含まれるすべてのハンドラーが削除されます。

読み込み

既存のハンドラーを読み込みます。

注: 初期状態のハンドラーは、補助ファイルのサブフォルダーがあるHDFファイルです。HDF Editorで編集したハンドラーファイルをこのプログラムで使用できるようにするには、HDFファイルをZDFファイルに書き出します。このタスクには、HDF Editorを使用します。

Microsoft HTMLヘルププロジェクトの読み込み

HHPファイルを読み込むと、新しいRoboHelpプロジェクトファイル（XPJ）が作成されます。

1) ファイル／プロジェクトを開く／ローカルパスまたはネットワークパスを選択します。

2) ファイルの種類メニューから、HTMLヘルププロジェクト（*HHP）を選択します。

3) HHPファイルの場所に移動して開きます。

ヒント: FrameMaker（.fm、.book、および.mif）ファイル、Wordファイル（.doc、.docx）、PDFファイルおよびXMLファイルも読み込むことができます。

注: コンテンツの作成にデザインエディター以外のHTMLエディターを使用する場合でも、プロジェクトにRoboHelpを使用できます。

関連するリンク:

サードパーティ HTMLエディター
サードパーティ HTMLエディター

WinHelpプロジェクトの読み込み

コンパイルされたWinHelp 4.0（ファイルHLP）、またはWinHelpプロジェクトファイル（HPJ）をプロジェクトに読み込むことができます。

HPJファイルは、すべてのソースファイルを含むプロジェクトのメインファイルです。WinHelpを生成する場合、RoboHelpは、HLPファイルとCNTファイルを作成します。HLPファイルに、コンディショナルビルドの式によって除外されたトピックが含まれていなければ、新しいプロジェクトがオリジナルをミラーリングしない場合があります。

HTMLベースのプロジェクトにHLPファイルを読み込むことができますが、HPJファイルがある場合は作業がより簡単になります。

RoboHelp HTMLから、WinHelpファイルを出力することはできません。

WinHelp プロジェクトの設定の読み込み

ポップアップ

スマートポップアップ

コンテンツに合わせてサイズ変更されるポップアップを表示するリンクを作成します。すべての HTML 書式がサポートされます。

通常のハイパーリンク

リンクが表示されるウィンドウで開くリンクを作成します。

What's This Help

テキストのみトピックファイル

テキストのみ形式（TXT）でトピックを作成および保存します。このオプションは、What's This Help トピックに使用します。

個別の HTML ファイル

トピックをウィンドウレベル状況依存ヘルプの通常のHTMLトピックとして作成および保存します。

外部トピック

外部 HTML ヘルプトピックへのリンク

外部 WinHelp トピックリンクを外部 CHM ファイルの HTML トピックリンクに変換します。

外部 WinHelp トピックリンクを維持

WinHelp トピックコントロールを含む HTML トピック。このオプションは、HTML トピックを WinHelp トピックにリンクする場合に使用してください。

画像

BMP 画像を GIF または JPEG に変換します。

箇条書き / 番号付きリスト

HHTMLの箇条書きと段落記号

（推奨設定）HTML箇条書きと段落番号ピュアHTMLタグ（<ol>、<ul>、<li>）を使用して箇条書きと段落番号リストをHTMLの同等のものに変換します。これらのリストには、箇条書きまたは番号付きリストが自動的に付けられます。RTFファイルで使用される特殊な段落書式は継承されません。

書式設定されたテキスト

RTFファイルからのインデント、行間および段落書式を保持します。番号付きリストをハードコードされた番号付きリストに変換します。箇条書きの項目をハードコードされたシンボル文字に変換します。

ヒント：

- ハードコードされた番号付きリストや箇条書きを削除して、デザインエディターで番号付きリストと箇条書きを自動的に付けることができます。
- 特殊な箇条書きや番号付きリストのスタイルを作成し、変換後の段落に適用できます。

WinHelpフォルダー読み込みオプション

HTMLファイル用フォルダー

サブフォルダーを作成しない

すべてのHTMLトピックをプロジェクトフォルダーのルートに保存します。

サブフォルダーを作成

すべてのHTMLトピックをサブフォルダーに保存します。

ソース文書名に基づいてフォルダーを作成

DOCファイルに基づいて、サブフォルダーにHTMLトピックを作成および保存します。

目次の構造に基づいてサブフォルダーを作成

WinHelp の目次に基づいて、サブフォルダーに HTML トピックを作成および保存します。ブック内のブックは、フォルダー内のサブフォルダーとして作成されます。WinHelp の目次に使用されていないすべてのトピックは、プロジェクトフォルダーのルートに保存されます。

画像用フォルダー

サブフォルダーを作成しない

すべての画像ファイルをプロジェクトフォルダーのルートに保存します。

サブフォルダーを作成

すべての画像ファイルをサブフォルダーに保存します。

ファイルのオプション

HTML ファイル拡張子

選択した拡張子を使用して、すべての HTML トピックを保存します。

常に小文字を使用

ファイル名拡張子を小文字で保存します。このオプションは、UNIX® サーバーを使用する場合に選択してください。

WinHelp 書式読み込みオプション

スタイルシートを使用しても使用しなくてもかまいません。スタイルシートを使用しない場合、トピックはインラインスタイルを使用して書式設定されます。外部スタイルシートの場合、WinHelp ドキュメントの書式に基づいた新しいスタイルシートを作成するか、または既に使用されているスタイルシートを選択します。

インラインスタイル（外部スタイルシートなし）

すべての書式設定を HTML インラインスタイルに変換します。このオプションでは、トピックにスタイルやスタイルシートを作成することも、適用することもありません。書式設定は、段落単位および文字単位で処理されます。スタイルはプロジェクトの読み込み後に適用されます。新規トピックには、文字や段落の属性を手動で適用できます。

外部スタイルシート（ソース文書ごとに1つ）

読み込まれた各DOCファイルからスタイルシートを1つ作成します。

1つのソース文書に基づいた外部スタイルシート

1つのDOCファイルに基づいて、単一の外部スタイルシートを作成します。スタイルシートは、WinHelpドキュメントのスタイルと同じ名前や書式を使用します。HTMLトピックのテキストは、これらのスタイルを使用して書式設定されます。

既存のスタイルシートに基づいた外部スタイルシート

既存のスタイルシートをすべてのトピックにリンクします。DOCファイルのスタイルとスタイルシートのスタイルは、スタイル名も含め、1対1の関係である必要があります。スタイルを使用する段落と文字に適用します。スタイルが1対1の関係である場合、HTMLトピックのスタイルはWinHelpドキュメントのスタイルと同じ名前および書式を使用します。

WinHelp一般読み込みオプション

ナビゲーションペイン

目次

「目次」タブには、目次のブックとページが表示されます。索引には、キーワードが表示されます。

用語集

ヘルプシステムの定義を提供します。

お気に入り

お気に入りのトピックの個別リストを作成します。

履歴

以前に表示したトピックを確認できます。ナビゲーションペインのオプションを設定します。

検索：

検索なし

このオプションを選択すると、全文検索機能が無効になります。

標準

タイトル順にトピックのリストを表示します。

詳細

論理演算子、ワイルドカード、ネスト式などを使用できる高度な全文検索を追加します。以前の検索結果に検索範囲を絞る、類似した単語を一致させる、またはトピックタイトルのみを検索することもできます。

タブ位置

「上」、「左」、「下」のいずれかを選択します。

デフォルトペイン

ヘルププロジェクトのオプションを設定します。

WebSearch

Web 上の情報をすばやく検索できます。WebSearch ボタンがヘルプビューアーに追加されます。

閲覧シーケンスを作成

WinHelp の閲覧シーケンスを HTML ベースのヘルプに変換します。

セカンダリウィンドウを無視

HTML トピックをビューアーで表示するようにジャンプを変換します。

注: WinHelp CNT のページは、カスタムウィンドウで表示されます。HTML は、目次ページからカスタムウィンドウへのジャンプをサポートします。

キーワードを追加

キーワードを保存する場所を選択します。

索引ファイル（HHK）

すべてのキーワードを単一の索引ファイルに保存します。

各トピック

すべてのキーワードを参照するHTMLトピックファイルに保存します。

注: キーワードがHTMLプロジェクトに追加されると、プロジェクトはバイナリ索引をコンパイルします。トピックキーワードは、自動的に索引で並べ替えられ、相互参照できないようになります。また、ローカルのHTMLトピックにしかリンクできなくなります。リンク先はデフォルトのヘルプウィンドウにしか表示できなくなります。

詳細

ビューアーをさらにカスタマイズするには、HTMLヘルプの詳細設定ダイアログを開きます。

.HLPと.HPJファイル

コンパイルされたWinHelp 4.0ファイルを読み込むと、RoboHelpは以下を実行します。

- HTMLベースのプロジェクトを作成します。HLPまたはHPJファイルの情報を使用してプロジェクトファイル（HHP）とRoboHelpプロジェクトファイル（XPJ）を作成します。
- HTMLトピックを作成します。HPJファイルの情報を使用して、HTMLヘルプファイルとRoboHelpプロジェクトファイル（XPJ）を作成します。プロジェクトを開き、XPJファイルを開きます。WinHelpトピックごとに個別のHTMLトピックが作成されます。これらのファイルは、HTMLファイル（トピック）フォルダーに保存されます。
- WinHelpグラフィックをHTML画像に変換します。WinHelpビットマップファイル（BMP、MRB）およびメタファイル（WMF）をGraphic Interchange Formatファイル（GIF）に変換します。右揃えの画像はHTMLトピックで左揃えになります。デザインエディターでこれらの画像の大きさと配置場所を変更します。
- ホットスポット画像を画像マップに変換します。WinHelpホットスポット画像（SHGファイル）をHTML画像マップ（GIF）に変換します。
- オーサリング可能ボタンを保持します。カスタムテキストボタン、ミニボタン、グラフィックボタンは、すべてHTMLトピックで動作するように変換されます。オーサリング可能ボタンはデザインエディターで変更します。オーサリング可能ボタンは、リンクコントロールまたはHTMLヘルプコントロールと呼ばれます。

- HTML の目次を作成します。HTML ヘルプの目次（HHC ファイル）は、WinHelp コンテンツファイル（CNT）から作成されます。目次は TOC Composer で変更します。
- HTML の索引を作成します。HTML ヘルプの索引（HHK ファイル）は、WinHelp と同じキーワードを含めて作成されます。新しい索引には、トピックのジャンプと一致するキーワードが含まれます。

RTF ファイルは、同じキーワードを含む HTML 索引を作成するために使用します。キーワードの変更は索引デザイナーで行い、キーワード作成のタスクを自動化するにはスマート索引ウィザードを使用します。

注: この情報は、すべての HLP または HPJ プロジェクトに適用されるわけではありません。

WinHelp の HTML プロジェクト：質問と回答

WinHelp マクロは、HTML プロジェクトで動作しますか？

HTML に対応する WinHelp マクロすべては、変換され HTML プロジェクトに追加されます。HTML に対応していない、一般的ではない WinHelp マクロは変換されません。

HTML トピックは、WinHelp のようにカスタムウィンドウに開くことができますか？

目次のブックやページを設定して、カスタムウィンドウやフレームにトピックのリンク先を表示させることができます。Microsoft HTML ヘルプでは、これらのリンクをポップアップノートウィンドウおよびフレームを使用するように設定できますが、カスタムウィンドウへのリンクはサポートしていません。

HTML トピックではタブを使用できますか？

HTML では、タブとタブのスペースへの変換はサポートされていません。HTML でテキストを配置するには、表を使用します。

HTML トピックでテキストを配置するため、スペースを追加するにはどうすればよいのですか？

トピックを RoboHelp HTML エディターで編集し、非分離スペースを追加してテキストを配置します。ただし、ヘルプウィンドウをサイズ変更すると、表示の問題が生じる場合があります。HTML でテキストを配置するには、表の使用を検討します。

表がHTMLトピックに変換されたのですが、列のサイズが不適切で水平スクロールバーが表示されます

デザインエディターを使用し、セルと表のサイズを変更します。

間違った書式設定の箇条書きを修正するにはどうしたらよいですか？

トピックから壊れたビットマップ参照を削除し、HTMLの箇条書きスタイルを使用し、ぶら下がりインデントを調整します。また、書式済みテキストオプションを使用し、Wordドキュメントの段落書式を読み込むことも可能です。

WinHelpトピックに{SEQ}フィールドを使用して手動で設定した番号付きリストを使用しています。このフィールドはどうなるのですか？

HTMLは{SEQ}フィールドをサポートしません。しかし、番号のシーケンスは識別されるのでリストは番号付きリストとして変換されます。これらの番号を削除し、HTMLの番号付きリストスタイルをリストに適用することも可能です。

非スクロール領域はどうなるのですか？

HTMLプロジェクトは非スクロール領域をサポートしません。3ペイン出力ウィンドウは、この領域を必要としません。

デザインエディターでの背景はグレーですが、プレビューウィンドウでの背景は白で表示されます。背景を常に白で表示するにはどうすればよいのですか？

スタイルシートはグレーの背景色（HTMLのデフォルト）を使用しますが、プレビューウィンドウはブラウザーで指定した背景色を使用します。スタイルシートの背景色を変更するには、色と画像の使用を参照してください。

ハイパーリンクをクリックすると、「ページを表示できません」というエラーが表示されます

リンク先のファイルが存在しないか、プロジェクトには含まれていないDOCまたはWinHelpヘルプファイルのトピックです。

HTML プロジェクトを作成したら、配布してもよいのですか？

HTMLプロジェクトをRoboHelpで開いてトピック、目次、索引などを確認します。トピックをプレビューしてリンクをテストします。

状況依存トピックは、HTML プロジェクトに変換されますか？

RoboHelp for WordのWhat's This?トピックはテキストのみのトピックに変換できます。ダイアログボックスレベルのトピックは、個別のHTMLトピックに変換して、RoboHelpでウィンドウレベルのヘルプとして使用できます。

WinHelp HLP ファイルの HTML プロジェクトへの読み込み

1) スターターポッドで、「読み込み」の下から、「詳細」を選択します。
2) 「WinHelp（*.hlp）」を選択して、「OK」をクリックします。
3) 「参照」をクリックし、HLPファイルのある場所まで移動してファイルを開きます。
4) 「次へ」をクリックします。「ファイル」オプションを設定します：

期待される結果	操作
HTMLプロジェクトと画像（GIF）ファイルを保存するハードドライブとフォルダーを指定する（どちらも同じフォルダーを使用する）。	参照ボタン をクリックして、ドライブまたはフォルダーを選択します。または、テキストボックスにフォルダー名を入力します。
HTMLファイル名の長さを8文字に制限する。	「短いファイル名」を選択します（ファイル名にプレフィックスを付ける場合は、3文字まで「プレフィックス」に入力することができます）。
HTML プロジェクトをコンパイルしていないHTMLヘルプとして配布する（AdobeのWebHelpも使用しない）。	「スタートページ名」にスタートページの名前を入力します。
プロジェクトをコンパイル済みMicrosoft HTMLヘルプ、またはAdobeのWebHelp、JavaHelpまたは Oracle Help 出力を使用したクロスプラットフォームヘルプとして配布する。	「スタートページ名」に何も情報を入力しないでください。

5)

期待される結果	操作
スタイルシートを適用せずにHTMLトピックに書式を設定する。	「<スタイルシートなし>」を選択します。すべてのトピックは、灰色の背景に黒いテキストのデフォルトHTMLスタイルを使用します。
WinHelpトピックと同じようにHTMLトピックに書式を設定する。	「<埋め込み済み>」を選択します。スタイルシートはトピックに適用されません。すべての書式は、各トピックに埋め込まれます。トピックタイトルは、見出し1のスタイルになります。その他すべてのテキストには（WinHelpで使用されているスタイルにかかわらず）標準スタイルが設定されます。
すべてのHTMLトピックにカスタムスタイルシートを適用する。	「参照」をクリックして、スタイルシートファイル（CSS）があるドライブ/フォルダーに移動して選択します。

6) 「次へ」をクリックします。HTMLヘルプのオプションを設定します。

期待される結果	操作
ビューアーで「目次」タブ、「索引」タブ、「検索」タブを表示する位置を指定する。	「上」、「下」、「左」のいずれかを選択します。
WinHelp　ポップアップウィンドウを一般的なHTMLリンクに変換する。	「ActivePopupウィンドウにポップアップを表示」の選択を解除します。

7) 「完了」をクリックします。

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

ヒント：

- HTMLトピックにスタイルシートをリンクすると、StylesCSSという汎用スタイルシートファイルが作成され、プロジェクトフォルダーに追加されます。スタイルシートのスタイルはいつでも変更可能です。
- 「番号付きリストを変換」を選択した場合、番号付きリストを使用するすべてのWinHelpはHTMLトピックの番号付きリスト書式設定を保持します。

HLP ファイルでの HTML の制限

箇条書き

WinHelp トピックの箇条書きにビットマップ参照が使用されていないことを確認してください。箇条書きリストを保持するオプションを選択することができます。このオプションは、画像ではなく行頭文字を使用するトピックに対してのみ適用されます。画像を使用すると、HTML 出力はぶら下がりインデントを追加しない場合があります。

HTML のジャンプ

HTML ページへのジャンプは変換されません。HTML トピックが作成された後、リンクはデザインエディターで簡単に再度作成できます。

外部 WinHelp トピックへのジャンプ

外部 WinHelp トピックへのジャンプは、HTML トピックから削除されます。外部ジャンプを含む WinHelp プロジェクト（特にマスタープロジェクト）を使用している場合、HLP ファイルではなく HPJ ファイルを使用してください。

マクロ、ボタン、およびショートカット

変換可能なマクロは、Jump Context、JumpId、および PopupId です。その他のマクロは、変換されません。ウィンドウに出力を送信する Jump Context マクロは、カスタムウィンドウに出力を送信するリンクがサポートされていないので変換できません。唯一変換可能なボタンは、Popup Context マクロだけです。グラフィックボタンに画像は維持されますが、ボタンは含まれません。

Microsoft Word の HTML スタイル

Microsoft Word の HTML スタイルは、HTML トピックの書式設定には使用されません。

Microsoft Word のテンプレート

WinHelp の RTF ファイルの書式設定に使用される Word テンプレートは、HTML スタイルシートには変換されません。

中間トピックジャンプ

中間トピックジャンプは、ブックマークに変換されます。ただし、ブックマーク名に、WinHelp で作成された中間トピックジャンプのトピック ID は使用されません。代わりに、HLP ファイルで読み取れる数列が割り当てられます。

マルチメディアファイル（AVI、WAV形式）

これらのファイルは、HLPファイルを使用して変換することはできません。デザインエディターからHTML Helpトピックにサウンドやビデオを追加することができます。HTMLトピックではAVI、AU、MID、RMI、WAVファイルなどを使用できます。

非スクロール領域

HTMLベースの出力は、非スクロール領域をサポートしません。

番号付きリスト

番号付きリストには、12ポイントのMS UI Gothicがデフォルトで使用されます。番号付きリストのスタイルを作成して、番号付きリストの書式変更に使用することができます。

「関連トピック」ボタン

関連トピックのキーワードは、翻訳されて関連トピックの用語になります。カスタマイズ可能ボタンは、トピックを表示するときに表示されます。

セカンダリウィンドウ

WinHelpのセカンダリウィンドウは、翻訳されません。WinHelpトピックと異なり、HTMLトピックはセカンダリウィンドウに情報を表示するリンクをサポートしません。RoboHelpでカスタムウィンドウをデザインし、「関連トピック」ボタン、キーワードリンクコントロール、関連項目コントロール、目次、索引から選択されたトピックを表示することができます。

目次

HTML TOCファイル（HHC）は、外部WinHelpトピックにリンクするWinHelpページ、またはリンクステートメントを含む参照マクロをサポートしません。HTMLの目次アイテムをHTMLトピック、Webおよび電子メールアドレス、FTPサイト、ニュースグループ、およびマルチメディアにリンクすることができます。

What's This? Help

状況依存ヘルプは変換されません。What's This? Helpスタイルのトピックやダイアログトピックは、通常のHTMLヘルプトピックに変換されます。マップファイルを読み込んで、ウィンドウレベルのヘルプトピックのマップIDを割り当てることができます。What's This? Helpに関しては、変換されたHTML Helpトピックをテキストのみダイアログボックスに再入力してテキストのみトピックを作成できます。

What's This? Help Composer で作成された状況依存ヘルプは、HTML Help プロジェクトに読み込み可能です。HPJ ファイルを使用すると、状況依存ヘルプトピックを HTML ヘルプに変換できます。

Microsoft Word の書式

下線、段落、インデント、行揃え、表の境界線、スプレッドシート、背景色、透かしなどの書式は、HTML トピックに変換されません。

HLP ファイルを使用して HTML プロジェクトを作成するためのヒント

- HTML トピックには、WinHelp プロジェクトのスタイルと書式を使用できません。すべてのトピックタイトルには見出し 1 スタイルが設定され、それ以外のテキストには標準スタイルが設定されます。
- スタイルオプションを選択する際に、書式を埋め込みます。HTML トピックはスタイルシートを適用せず、WinHelp トピックで使用されていた書式に近くなります。
- スタイルシートは必要ありません。生成後に作成できます。
- WinHelp プロジェクト全体を利用できる場合、HLP ファイルではなく HPJ ファイルを使用して HTML プロジェクトを作成します。

WinHelp HPJ ファイルの HTML プロジェクトへの読み込み

1) ファイル／新規プロジェクトを選択します。
2) 「読み込み」タブをクリックします。
3) 「WinHelp プロジェクト」を選択します。「OK」をクリックします。
4) 「参照」ボタンをクリックして、読み込む HPJ ファイルを選択します。「次へ」をクリックします。
5) 出力フォルダーとファイル名を指定します。
6) 「ソース文書を選択」の下で、読み込む Word ドキュメントを選択します。
7) 「終了」または「次へ」をクリックして、ウィザードの残りの手順に従います。

HPJ ファイルを使用して HTML プロジェクトを作成するためのヒント

- 作成される HTML プロジェクトの品質が必要なレベルに達するようにする場合は、開始する前に手順を確認してください。
- WinHelp プロジェクト（HPJ）が参照するすべてのファイルは、プロジェクトファイルを生成する前に指定した場所に存在している必要があります。
- スタイルシートを 1 つ作成してすべてのトピックに適用するか、または別々のスタイルシートを個別のトピックに使用できます。
- WinHelp トピックでは、定義されたスタイル、カスタムで作成した文字、および段落の書式設定の組み合わせを使用できます。この場合、特殊な書式を維持するため、WinHelp トピックから同じスタイルを使用してスタイルシートを作成してください。
- 他の HTML プロジェクトで使用している既存のスタイルシートを選択できます。WinHelp トピックで使用されているスタイル名とそのスタイルシートのスタイル名は完全に同じである必要があります。WinHelp トピックの段落もスタイルシートのスタイルを使用して書式設定してください。設定しない場合は、プロジェクトの生成後、スタイルシートのスタイルを HTML トピックの段落に適用する必要があります。
- スタイルシートを使用する必要はありません。HTML トピックには、DOC ファイルからの書式が適用されます（段落や文字ごとに書式を設定するインラインスタイル）。HTML プロジェクトを作成した後にスタイルを作成し、トピックに適用する方法もあります（プロジェクトが大きい場合、スタイルシートを使用して HTML トピックを作成してください。スタイルを変更すると、トピックが自動的に更新されます）。
- オプションに慣れるため、小さなテストプロジェクトを実行します。希望どおりの HTML 出力が得られるまで、様々なオプションを試してください。
- 大きなプロジェクトを生成する場合、どのように構成するかをあらかじめ決定しておいてください。HTML では、各 WinHelp トピックに 1 つの HTML トピックファイルが作成されます。これらのファイルを構成するには、いくつかのオプションがあります。プロジェクトフォルダーのルート、またはサブフォルダーに保存できます。DOC ファイル名に基づいてサブフォルダーを作成し、対応するトピックをそのサブフォルダーに保存することができます。最後に、目次でのページとしてどう使用するかに基づいてトピックを保存できます（CNT ファイルで、フォルダーは各ブックに対して、サブフォルダーはサブブックに対して作成されます）。

- プロジェクトが、他の複数のWinHelpプロジェクトと結合して（例えば、マスタープロジェクトとして）使用されることもよくあります。その場合、すべてのリンクが機能するように、HTMLプロジェクトは、別々のHPJファイルで作成します。
- プロジェクトを生成してから、スタイルシートにいくつか変更を加えたい場合もよくあります。デフォルトでは、グレーの背景が使用されます。スタイルシートのドキュメントプロパティを変更して、背景色を白に変更することができます。

プロジェクトのバージョンコントロールへの追加

注： バージョンコントロールに新しいプロジェクトを追加する場合、作成者はRoboHelpオーサリングクライアントアプリケーション自体の内部から「バージョンコントロールに追加」コマンドを使用する必要があります。ファイルが破損する可能性があるため、RoboSource Control Explorerインターフェイス内部ではフォルダーとファイルの追加を行わないでください。

バージョンコントロールについて

RoboHelpはバージョンコントロールソフトウェアと連携して、編集開始時に自動的にファイルをチェックアウトし（未使用の場合）、その使用状況を追跡します。ファイルは、チェックアウトせずに、バージョンコントロールから開いて、表示することもできます。

RoboHelpで作業するには、お使いのバージョンコントロールソフトウェアがMicrosoft SCC APIをサポートしている必要があります。Adobe RoboSource Control（RoboHelpと一緒にインストールされています）、Microsoft SharePoint（RoboHelpとネイティブで統合されています）、またはその他のサードパーティパッケージを使用できます。どちらの場合も、RoboHelpからバージョンコントロールタスクを実行します。

RoboHelpプロジェクトをMicrosoft Team Foundation ServerまたはSubversionに統合する場合は、次の記事を参照してください。

- RoboHelpプロジェクトのTeam Foundation Serverへの統合
- RoboHelpプロジェクトのSubversionへの統合

ファイルでの作業が終わったら、コンポーネントをバージョンコントロールにチェックインするか、プロジェクトを閉じるときにすべてのファイルを自動的にチェックインすることができます。変更内容をチェックインすると、他の作成者がそれらにアクセスできます。プロジェクトを閉じるときにファイルを自動的にチェックインするようにRoboHelpを設定することもできます。**注**: ファイルをチェックアウトできない場合は、1つ以上のファイルが別のユーザーによってチェックアウトされていないか確認してください。または、ファイルにバージョンコントロールが適用されていることを確認してください。

多くのトピックは、他のトピックにリンクしていたり、目次、索引、および閲覧シーケンスの一部になっています。ファイルを修正したり、プロジェクト構造を変更したりすると、影響を受けるすべての依存ファイル（使用できる場合）が自動的にチェックアウトされます。ファイルを移動すると、作成者にはソースと移動先フォルダーをチェックアウトするように促すメッセージが表示されます。

バージョンコントロールタスクを手動で実行するときにメッセージを非表示にするには、「バージョンコントロール」タブ（ファイル／オプションを選択）でオプションをオフにします。ファイルが自動的にチェックアウトされます。リストで選択しなかったファイルは、チェックアウトされません。チェックアウトする必要のあるファイルと、それらのファイルが既にチェックアウトされているかどうかが表示されます。**注**: RoboHelpは、すべての依存ファイルを自動的にチェックアウトします。

バージョンコントロールが適用されているファイルで、チェックアウトしたコピーでの変更を取り消すには、リストされているファイルのチェックアウトを取り消します。その後、バージョンコントロールから最新のコピーを開きます。この「チェックアウトを取り消し」コマンドは、ローカルファイルコピーへの変更を破棄します。

バージョンコントロールを使用すると、作業中のファイルを保護し、バージョン追跡を提供し、バックアップを作成し、ファイル共有および構成を提供することができます。バージョンコントロールされているプロジェクトに追加されたすべてのファイルは、自動的にバージョンコントロールに追加され、チェックアウトされます。プロジェクトから削除されたすべてのファイルは、自動的にバージョンコントロールから削除されますが、ファイルの履歴は残ります。

プロジェクトペインからバージョンコントロールタスクを実行できます。ファイルを右クリックし、いずれかのコマンドを選択します。ファイルを選択し、共同作業リボンの「バージョンコントロールに追加」をクリックします。または、ファイルを選択してから、共同作業リボンのオプションを選択します。

バージョンコントロールの適用

1) Microsoft SCC APIをサポートしているバージョンコントロールソフトウェアをインストールします。
2) ネットワーク管理者と相談してユーザーアクセスを指定します。お使いのバージョンコントロールソフトウェアのマニュアルを参照してください。
3) バージョンコントロールにプロジェクトを追加します。

ポッドのバージョンコントロールオプションへのアクセス

ファイルステータスポッド

プロジェクト／開く／ポッド／ファイルステータスを選択します。ファイルの一覧でステータスとバージョンコントロールタスクを表示します。バージョンコントロールツールバーからバージョンコントロールタスクにアクセスできます。

トピックリストポッド

プロジェクト／開く／ポッド／トピックリストを選択します。トピックを開き、表示し、ソートするのに使用します。

プロジェクトマネージャーポッド

プロジェクト／開く／ポッド／プロジェクトマネージャーを選択します。ファイルアイコンを表示します。赤いチェックマークは、ファイルがチェックアウトされていることを示します。

注: RoboHelpのユーザーインターフェイスは、RoboSource Control、Microsoft Team Foundation Server 2005およびMicrosoft Visual SourceSafe向けに最適化されています。

バージョンコントロールに関するFAQ

バージョンコントロールの仕組みを教えてください？

ヘルププロジェクトには、トピック、グラフィック、スタイルシート、目次、ウィンドウ、およびその他のコンポーネントがそれぞれのファイルと共に含まれており、作成者は個別にコンポーネントで作業できます。

複数の作成者がバージョンコントロールを使用する方法を教えてください

- 作成者による他のコンポーネントの編集中に、プロジェクトコンポーネントを編集します。
- 作業中のプロジェクトコンポーネントを表示します。
- 最新の変更内容を取得します（作成者がファイルをチェックインした後）。
- RoboHelpからバージョンコントロールを設定および使用します（RoboHelpの外部でプロジェクトのバージョンコントロールを行うことは推奨しません）。

シングルユーザーのプロジェクトでバージョンコントロールを使用できますか？

はい。修正を追跡したり、バックアップのためにプロジェクトをネットワーク上で一元管理することができます。

複数ユーザーによるチェックアウトはできますか？

複数ユーザーによるチェックアウトは推奨しません。

RoboHelpでは、どこでバージョンコントロールオプションを設定できますか？

ファイル／オプション／バージョンコントロールをクリックします。

RoboHelpの外部でバージョンコントロールプログラムが必要ですか？

プロジェクトからファイルやフォルダーを削除する場合は、バージョンコントロールからも削除してください。ユーザーアカウントを作成したり、プログラムのプロパティを設定する際にも、バージョンコントロールソフトウェアを使用します。バージョンコントロールはRoboHelpから開くことができます。

プロジェクトを編集するのに、プロジェクトファイル（XPJ）をチェックアウトする必要がありますか？

編集するときにXPJファイルをチェックアウトする必要はありません。XPJファイルは、プロジェクトの設定を編集する場合にのみチェックアウトする必要があります。

プロジェクトに追加した項目はバージョンコントロールにも追加されますか？

はい。新しいトピックは即座に追加されます。新しいフォルダーはプロジェクトを保存するときに追加されます。ファイルまたはフォルダーの名前を変更しても、バージョンコントロールでは名前は変更されません。新規アイテムを追加しても、元のアイテムは古い名前で残ります。バージョンコントロールに入って、アイテムを削除してください。

ファイルを追加したら必ずプロジェクトを保存してください。ただし、変更をバージョンコントロールに追加する場合は、ファイルをチェックインし直してください。ローカルハードドライブに保存された変更は、追加されません。

プロジェクトから削除した項目はバージョンコントロールからも削除されますか？

ファイルをプロジェクトから削除すると、ファイルはバージョンコントロールからも削除されます。名前変更されたアイテムは新しい名前で追加されますが、古いバージョンは古い名前で残ります。

チームで加えた最新の変更はどこにありますか？

最新のファイルバージョン（他のユーザーによってチェックインされたもの）は、プロジェクトを開いたときに取得したり、手動で取得することができます。

出力ファイルをバージョンコントロールに追加するにはどうすればよいのですか？

他のユーザーが出力ファイルにアクセスする必要がある場合は、バージョンコントロールに追加してください。

RoboHelp プロジェクトのバージョンコントロールへの追加

注： このトピックでは、RoboSource Control への RoboHelp プロジェクトの追加について説明します。バージョンコントロールシステムとして SharePoint を使用する場合は、Microsoft SharePoint でのバージョンコントロールを参照してください。

RoboHelp プロジェクトをバージョンコントロールに追加する場合、RoboSource Control に最初に接続するときに、データベース接続を作成します。RoboHelp は、この

接続を使用して、データベースにアクセスします。詳細については、Adobe RoboSource Controlヘルプを参照してください。

1) プロジェクトをRoboHelp HTMLで開きます。

2) 共同作業／バージョンコントロールに追加を選択します。

3) 「RoboSource Control」をクリックして、「OK」をクリックします。

4) 自分のコンピューターから初めてRoboSource Controlデータベースに接続している場合には、手順5に進んで接続を作成します。以前に接続している場合は、「接続」リストで正しい接続が選択されていることを確認します。手順9に進みます。

5) 「接続」リストで、「作成」を選択します。

6) 次のいずれかを行います。

- RoboSource Controlサーバーソフトウェアが、コンピューターにインストールされている場合、左側にあるリストから該当するデータベース接続を選択します。
- RoboSource Control サーバーソフトウェアが、別のサーバーにインストールされている場合、次のフィールドに入力します。

接続名

RoboSource Controlクライアントからデータベースを識別するための任意の名前を入力します。データベース名はそのまま使用しても構いません。

サーバー

ローカルネットワークでサーバーを識別できるIPアドレスか一意の名前を入力します。

データベース

データベースの名前は、データベースを作成ダイアログボックスで入力したとおりに入力します。

7) 「作成」と「接続」をクリックします。

8) RoboSource Controlに接続します。

9) ソースコントロールを構成ダイアログボックスで、「ルートパス」フィールドの隣にある「参照」ボタンをクリックします。

10) プロンプトが表示されたら、ログインで入力したパスワードと同じパスワードを入力します。

11) **注:** ログインダイアログボックスがRoboHelpの後で非表示になっていると、画面がフリーズしたように表示されます。Alt+Tabキーを押して、ログインダイアログボックスを表示します。

12) ルートノード $ をクリックして選択し、「OK」をクリックします。次に、表示されるメッセージで「はい」をクリックします。

これで、RoboHelpプロジェクトファイルがすべて、サーバーベースのデータベースにコピーされ、すべてのファイルがこの操作を行ったユーザーにチェックアウトされたものとして、フラグが立てられます。プロジェクトを閉じると、データベースにファイルをチェックインするように促すメッセージが表示されます。「はい」と答えると、すべてのファイルがチェックインされます。

注: RoboHelpユーザーインターフェイスに、追加のファイルステータスポッドが表示されます。このポッドは、バージョンコントロール下にあるプロジェクトファイルすべて、および各ステータス（チェックイン、チェックアウトの状況）を一覧表示するものです。追加のドキュメントがRoboSource Controlを使用してインストールされます。このヘルプファイルは、RoboSource Control Explorerアプリケーション内部からアクセスされます。

ファイルチェックインまたはチェックアウト

RoboHelpでプロジェクトファイルの変更を開始すると、トピックファイルがバージョンコントロールからチェックアウトされます（使用中でない場合）。

多くのトピックは、他のトピックにリンクしていたり、目次、索引、および閲覧シーケンスの一部になっています。ファイルを修正したり、プロジェクト構造を変更したりすると、影響を受けるすべての依存ファイル（使用できる場合）が自動的にチェックアウトされます。

依存しているファイルがある場合、RoboHelpからチェックアウトするように要求されます。一部が既にチェックアウトされている場合は、ユーザーにチェックインするように依頼します。

注: プロジェクトをバージョンコントロールシステムに追加したら、ファイルのバージョン履歴とプロパティを表示できます。また、そのファイルのローカルコピーとチェックインバージョンの違いも表示できます。

Microsoft SharePointでのバージョンコントロール

RoboHelpは、Microsoft SharePoint 2010以降によるバージョンコントロールをネイティブにサポートしているため、サードパーティ製プラグインをインストールする必要はありません。

RoboHelpインストーラーは、自動的にすべての必要なコンポーネントをインストールします。これには、バージョンコントロール機能がスムーズに動作するために必要な次の要件も含まれます。

- Dotnet framework 4.0
- SQLServer Compat 3.5 SP2

SharePointのRoboHelp設定を設定する

1) RoboHelpで、ファイル／オプション／バージョンコントロールをクリックしてバージョンコントロール設定を表示します。

2) SharePoint設定エリアで、システムにインストールされたファイル比較プログラムのパスとその引数（パラメーター）を入力します。RoboHelpは、そのパスをファイル比較操作で使用します。次のURLから、Winmergeという無料の比較プログラムをダウンロードできます。http://winmerge.org/

   注: WinMergeを使用する場合は、システムにインストールされたWinMergeへのパスをpathパラメータに入力し、%1 %2を引数として入力します。%1と%2は、比較する2つのファイルを示します。

3) 以下のオプションを設定します。

書き込み可能ファイルの上書き前に通知

チェックアウトされていない書き込み可能ファイルを上書きする前にユーザーに通知します。

サーバーバージョンが同じでもローカルファイルを置換

ローカルファイルのバージョンがサーバーのバージョンと同じでも、RoboHelpが最新のファイルを取得するように強制します。

デフォルトチェックインオプション

ファイルをメジャーバージョンとしてチェックインするか、マイナーバージョンとしてチェックインするかを選択します。デフォルトでは、メジャーバージョンとしてチェックインします。

注： チェックイン中にチェックインダイアログが禁止されていると、デフォルトチェックインオプションが有効になります。

RoboHelpは、バージョンコントロール操作の通知をデフォルトでは表示しません。通知を表示するには、オプションダイアログボックス（ファイル／オプション）のバージョンコントロールページの「次の場合に確認ダイアログを表示」エリアで関連オプションを有効にします。

SharePointドキュメントライブラリ設定を設定する

RoboHelpプロジェクトをSharePointのドキュメントライブラリに追加するには、ドキュメントライブラリ設定を次のように設定します。

1) SharePointにログインします。
2) 「サイトの操作／すべてのサイトコンテンツの表示」をクリックします。
3) 編集するドキュメントライブラリを、表示されたドキュメントライブラリのリストからクリックします。
4) 「ライブラリ」タブをクリックし、「ライブラリ設定」を選択します。
5) 「バージョン設定」をクリックし、次の設定を設定します。

送信済みアイテムのコンテンツの承認を要求

「いいえ」を選択します。

このドキュメントライブラリ内でファイルを編集するたびにバージョンを作成しますか？

メジャーまたはマイナー（ドラフト）バージョンを選択します。

注： 「メジャーバージョンを作成」オプションもサポートされています。この場合、ファイルをマイナーバージョンとしてチェックインすることはできません。

次の数のメジャーバージョンを保持

このオプションの選択を解除します。

次の数のメジャーバージョンのドラフトを保持

このオプションの選択を解除します。

このドキュメントライブラリの下書きアイテムを表示できるユーザー

読み取りアクセス権を持つユーザー。

ドキュメントを編集可能にする前にチェックアウトを要求しますか？（チェックアウトを強制）

「はい」を選択します。

注： SharePointサーバーのRoboHelpファイルへの読み取りおよび書き込みアクセスをユーザーに提供するには、それらのユーザーに対して適切なSharePointユーザー権限が与えられていることを確認してください。

プロジェクトをSharePointドキュメントライブラリに追加する

1) 共同作業／バージョンコントロールに追加アイコンをクリックします。

2) 「RoboHelp SharePointコネクター」を選択し、「OK」をクリックします。

3) ドキュメントライブラリを含むSharePointサイト、およびSharePointにログインするためのユーザーネームとパスワードを指定します。SharePointにログインして「OK」をクリックします。

   注： LDAP認証がSharePointサーバーに設定されている場合は、「Windows認証を使用」オプションを選択して、使用できます。

   SharePointサイトに接続するときは、そのサイトのすべてのドキュメントライブラリが表示されます。

4) ドキュメントライブラリ内にフォルダーを作成するか既存の空のフォルダーを使用してRoboHelpファイルをアップロードし、「OK」をクリックします。

   RoboHelpは、プロジェクトファイルをSharePointに追加します。

   注： ドキュメントライブラリの任意のフォルダーにプロジェクトを追加することができます。フォルダーは空である必要があります。プロジェクトをドキュメントライブラリに直接追加することはできません。

Help プロジェクトのマージ

マージされたヘルププロジェクトについて

RoboHelp を使用すると、様々なドキュメントプロジェクトが共通のプロジェクトにフィードされる、エンタープライズ設定または配布される設定で、プロジェクトを作成できます。複数のライターが個々のプロジェクトに対して作業でき、それらをマージして共通プロジェクトを作成できるので、ソースコントロールソフトウェアを使用することなくマルチオーサリングを実現できます。共通のプロジェクトでスキンやテンプレートを使用すると、マージ済みのプロジェクトで外観を統一できます。

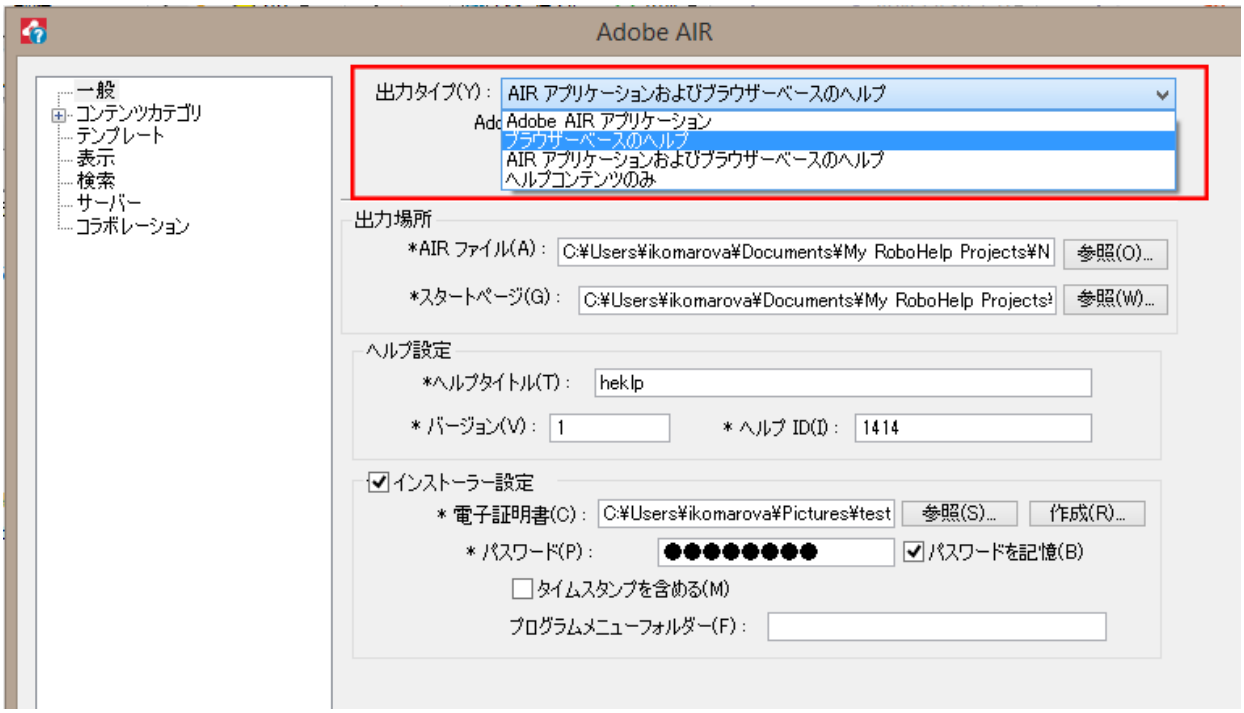
マージは、プロジェクトが生成された後、実行時に行われます。プロジェクトをマージする前に、マスタープロジェクト内の他のプロジェクトへの参照を配置します（実際には、マスタープロジェクトには子プロジェクトが含まれていません）。マスタープロジェクトの目次に各参照を挿入し、子プロジェクトの目次を表示させる場所に配置します。この手順により、エンドユーザーが子プロジェクトにアクセスする場所を制御でき、単一の統一されたヘルプシステムの外観が得られます。エンドユーザーに表示されるのは、目次、索引、全文検索、用語集（WebHelp プロジェクト）、およびリンクコントロールが装備された単一のオンラインシステムです。**重要**: 子プロジェクトはコンテンツカテゴリを含めることはできません。

複数のプロジェクトをマージするには、次の手順で行います。

- 目次内で子プロジェクトへの参照を持つマスタープロジェクトを作成します。マスタープロジェクトを作成するを参照してください。
- 子プロジェクトを公開します。子プロジェクトの公開を参照してください。

  注: Adobe AIR アプリケーション出力タイプを持つマスタープロジェクトの場合は、ブラウザーベースの Adobe AIR ヘルプとして子プロジェクトを公開します。

ブラウザーベースヘルプ出力タイプの選択



- （Adobe AIR アプリケーション出力タイプのみ）マスタープロジェクトの出力を再生成します。Adobe AIR レイアウトの設定。

注： レスポンシブ HTML、WebHelp Pro および FlashHelp Pro プロジェクトは、RoboHelp サーバーによって自動的に公開されます。

マスタープロジェクトを作成する

この手順は、HTML Help、WebHelp、FlashHelp、Adobe AIR アプリケーション、およびブラウザーベースの Adobe AIR プロジェクトに適用します。

1) マスタープロジェクトと、マージするプロジェクトを作成します。

   ヒント：メンテナンスを容易にするには、マスタープロジェクトが空のコンテナであるか、デフォルトトピックのみを含んでいることをお勧めします。子プロジェクトはすべてのコンテンツが保存されている必要があります。詳しくは、マスタープロジェクトとして最適であるのはどのようなプロジェクトですか？（プロジェクトマージについての FAQ）を参照してください。

2) マスタープロジェクトを開きます。デフォルトトピックで、マージ後のヘルプのホームページに表示するコンテンツを追加します。

3) スキンを選択します。マスタープロジェクトのスキンは、マージ後のヘルプのスキンとして使用されます。

4) 次のいずれかを行います。

- プロジェクトマネージャーポッドからマスタープロジェクトのデフォルトの目次を選択します。
- マスタープロジェクトの目次を作成します。

5) 子プロジェクトを挿入するには、目次にカーソルを置きます。

6) 目次ポッドで、新規のマージ済みプロジェクトアイコンをクリックします。

7) 次のいずれかを行います。

- HTMLヘルププロジェクトの場合は、マージ済みプロジェクトダイアログボックスの「HTML Help」タブをクリックします。
- WebHelp/FlashHelp/Adobe AIRプロジェクトの場合は、「WebHelp/FlashHelp/Adobe AIR」タブをクリックします。

8) 次のいずれかを行います。

- HTMLヘルププロジェクトの場合は、現在のプロジェクトフォルダーに既にあるCHMファイルを選択するか、CHMファイルの場所を参照します。

  子プロジェクトを挿入した目次ポッドには、ファイル名付きのアイコンが表示されます。ファイル名の形式は、<CHMファイル> .chm::/<CHMファイル>.hhcです。HHCファイルは、マージ済みのCHMファイルの目次を表します。このアイコンは、マージ済みのプロジェクトで子プロジェクトの目次が生じる場所に表示されます。必要に応じて、アイコンを目次内の別の場所にドラッグ&ドロップして配置できます。

- WebHelp/FlashHelp/Adobe AIRプロジェクトの場合は、RoboHelpプロジェクト（XPJ）の名前を入力するか、「開く」をクリックしてプロジェクトファイルを参照します。

  WebHelp/FlashHelp/Adobe AIRプロジェクトの場合は、プロジェクトの名前としてプレースホルダーが表示されます。

9) マスタープロジェクトを生成します。

目次にマージ済みのプロジェクト参照があるプロジェクトが生成された場合、SSL出力フォルダーにはフォルダー「mergedProjects」が表示されます。mergedProjectsフォルダーには、参照される各子プロジェクト用のフォルダーが含まれています。WebHelp/FlashHelp/Adobe AIRの場合、対応する子プロジェクトは独自のフォルダーで生成される必要があります。

注: 名前「mergeProjects」は予約済みです。プロジェクトフォルダー内のフォルダーには、名前「mergedProjects」を付けないでください。

10) 結果ダイアログで、「表示」をクリックして結果を確認し、マージ済みのプロジェクトをテストします。

注意：

- マージ済み HTML ヘルププロジェクトは、非バイナリの目次ファイル（HHC）を使用します。コンパイル済み出力ファイル名（.CHM）や目次ファイル名（.HHC）には、空白文字を使用できません。（ファイル名に空白文字があるかどうかを確認するには、Windowsエクスプローラーでプロジェクトフォルダーにある名前を調べます。ただし、Windowsエクスプローラーではファイルの名前を変更しないでください。）いずれかのファイル名に空白文字がある場合は、プロジェクトを開き、プロジェクトファイルの名前を変更します。続いて、プロジェクトを生成し、出力ファイル（CHMファイル）の名前を変更します。プロジェクト名を変更すると、HHCファイル名は自動的に更新されます。
- バイナリの目次機能をプロジェクトに割り当てないでください。このようにすると、HTMLヘルプビューアーの「目次」タブには外部の目次が表示されません。
- スキンを使用してWebHelp/FlashHelp/Adobe AIR出力を生成した場合、マージ済みのプロジェクトでは、マスタープロジェクトのスキンは子プロジェクトのスキンをオーバーライドします。マージ済みのプロジェクトの外部で個別にプロジェクトにアクセスした場合は、プロジェクト固有のスキンが使用されます。
- クロスプロジェクトリンクを追加する必要がある場合は、生成され公開されたファイルのフォルダー構造と同じようにソースプロジェクトのフォルダー構造を設定してください。

  指定しない場合、ハイパーリンク時に、生成され公開されたファイルのフォルダー構造に基づいてURLを手動で構築し、リンク先テキストボックスで指定する必要があります。詳細な手順については、この記事を参照してください。

子プロジェクトの公開

この手順は、Microsoft HTML Help、WebHelp、FlashHelp、Adobe AIR アプリケーション、およびブラウザーベースの Adobe AIR プロジェクトに適用します。

マスタープロジェクトを作成した後、子プロジェクトを公開して、正しい場所に配置します。プロジェクトを公開すると、実行時にプロジェクトをまとめて表示できます。様々な場所で子プロジェクトを管理し、また別の場所で子プロジェクトをマージすることができます。マージ済みのプロジェクトは、企業イントラネット、インターネットサイト、ローカルハードディスク、ネットワークまたは FTP サーバーに公開することができます。マージ済みのプロジェクトの出力ファイルは、個別の子プロジェクトの場所ではなく、公開先サイトのみに保存されます。

1) 子プロジェクトを開きます。

2) シングルソースレイアウトポッドのレイアウトを右クリックし、「生成」を選択します。

   注: Adobe AIR アプリケーション出力タイプを持つマスタープロジェクトの場合は、各子プロジェクトごとに出力タイプ「ブラウザーベースヘルプ」を選択します。

3) Adobe AIR アプリケーション出力タイプを持つマスタープロジェクトの場合は、子プロジェクトに出力タイプ「ブラウザーベースヘルプ」を選択します。

4) 公開設定を表示します。

   - （Adobe AIR/WebHelp）レイアウトプロパティダイアログボックスで、「公開」タブをクリックします。
   - （FlashHelp/Microsoft HTML Help）公開ダイアログボックスが表示されるまで「次へ」を押していきます。

5) 公開先を指定します。例えば、[master_project_folder]/SSL!/[layout_name]/mergedProjects/[child_project_name] または //servername/mergedProjects/[child_project_name]。

6) 「保存して生成」をクリックします。レイアウトが生成されます。

7) 結果ダイアログボックスで「公開」をクリックします。

   処理が完了すると、公開プロセスの統計と公開されたファイルのリストがダイアログボックスに表示されます。

8) 「閉じる」をクリックします。

マージ済み Help プロジェクトの表示

1) （公開先の場所ではなく）マスタープロジェクトのローカルコピーからマージ済みヘルプシステムを表示するには、子プロジェクトの WebHelp ファイルを、マスタープロジェクトの mergedProject\<ProjectName> フォルダーにコピーします。**注：** ブラウザーベースヘルプをローカルドライブから実行するには、FlashPlayerTrust フォルダー内の RoboHelp.cfg ファイル内で定義されている信頼フォルダーのリストに、インストールフォルダーを追加する必要があります。Adobe AIR 出力の配布を参照してください。

2) シングルソースレイアウトのフォルダーでレイアウトを右クリックし、「表示」を選択します。この方法を使用する場合は、マスタープロジェクトでは「すべて再公開する」オプションを使用しないでください。このオプションを使用すると、ネットワークまたはサーバー上の新しい子プロジェクトファイルが上書きされる可能性があります。

マージ済み子プロジェクトの削除

1) マージ済み Help プロジェクトを削除するには、目次ポッドで「削除」をクリックします。子プロジェクトのアイコンが削除されます。出力から子プロジェクトを削除するには、マスタープロジェクトを再生成します（必要な場合は公開します）。WebHelp プロジェクトの場合、子プロジェクトを公開して変更を有効にします。

マージ済みレスポンシブ HTML5、WebHelp Pro、または FlashHelp Pro プロジェクトのカスタマイズ

RoboHelp Server は自動的に複数のレスポンシブ HTML5、WebHelp Pro、または FlashHelp Pro プロジェクトをマージします。プロジェクトはアルファベット順に目次に表示されます。プロジェクトの目次を別のプロジェクトの目次内でネストするために、目次でプロジェクトの順序を変更することができます。RoboHelp サーバーでプロジェクトの順序を変更するようにサーバー管理者に依頼したり、または自分でプロジェクトをカスタマイズすることができます。

1) サーバー管理者に、RoboHelp サーバーの「プロジェクト」タブ（Web Admin インターフェイス）の「すべてのプロジェクトを自動的にマージ」オプションを選択解除するように依頼します。

2) マスタープロジェクトを開きます。任意のプロジェクトをマスターとして選択するか、空白のプロジェクトをマスタープロジェクトとして選択します。

3) 目次ポッドで、新規のマージ済みプロジェクトアイコンをクリックします。マージ済みプロジェクトダイアログが開きます。

4) 「プロジェクト名」で、プログレッシブ HTML5、WebHelp Pro または FlashHelp Pro プロジェクト（XPJ）名を入力します。または、「開く」をクリックして、プロジェクトファイルを参照します。ユーザーがクリックした現在のプロジェクトの目次に、このプロジェクトへの参照が挿入されます。

5) 「OK」をクリックします。ユーザーが子プロジェクトを挿入した目次には、プロジェクト名付きのアイコンが表示されます。アイコンは、マージ済みプロジェクトで子プロジェクトの目次が表示される場所を示すプレースホルダーです。必要に応じて、アイコンを目次内の別の場所にドラッグ＆ドロップして配置できます。

6) すべてのプロジェクトを生成し、変更を更新します。

7) マスタープロジェクトを公開します。

8) マージ済みプロジェクトをサーバーから表示します。

プロジェクトマージについての FAQ

この情報は、Adobe AIR、WebHelp、および Microsoft HTML ヘルププロジェクトに適用されます。

マスタープロジェクト

マスタープロジェクトとして最適であるのはどのようなプロジェクトですか？

マスタープロジェクトとして最も良く機能するものは、子プロジェクトに対するコンテナとしてトピックを持たない空白プロジェクトです。マスタープロジェクト内にコンテンツを含める必要がある場合は、クロスプロジェクトリンクを作成しないようにします。

マスタープロジェクトの目次は、子プロジェクトへの参照のみから構成することができます。子プロジェクトの目次は出力に表示されます。

マスタープロジェクトにコンテンツカテゴリを含めることはできますか？

マスタープロジェクトが参照できる子プロジェクトの数は？

マスタープロジェクトで参照できる子プロジェクトの数には制限がありません。

マスタープロジェクトは、別のマスタープロジェクトの子プロジェクトになることができますか？

はい。例えば、Project Aは、Project Bを参照するマスタープロジェクトになることが可能で、またProject Cの子プロジェクトとして追加することも可能です。各出力形式の例を次に示します。

WebHelpプロジェクトの場合：Project Aを子プロジェクトとして使用するには、Project Cの\mergedProjects\フォルダーにProject Aを公開します。

HTMLヘルププロジェクトの場合：Project Aを子プロジェクトとして使用するには、Project CにCHMファイルを追加し、マージ済みプロジェクトを生成します。

目次ではどの場所に子プロジェクトを配置すればよいですか？

マスタープロジェクトの目次の任意の場所（サブブックまたはトップレベルブックとして）に、子プロジェクトを配置することができます。目次に子プロジェクトを挿入した後、目次内の選択した場所に子プロジェクトをドラッグすることができます。ただし、マスター目次で子プロジェクトの目次を分離または分割することはできません。子プロジェクトの目次は、配置した場所で全体が表示されます。

マスタープロジェクトを生成または公開すると、子プロジェクトが更新されますか？

いいえ。マージ済みヘルプシステムで子プロジェクトを更新するには、その子プロジェクトを生成します。WebHelpプロジェクトでは、子プロジェクトを正しいフォルダーに公開する作業も行ってください。

機能

別々に索引をマージする必要がありますか？

いいえ。RoboHelpの更新マージ機能により、索引は自動的にマージされます。

マージ済みのプロジェクトに同一の索引キーワード、用語集、またはリンクコントロールがある場合はどうなりますか？

- 索引キーワード

  同一の索引キーワードは実行時に結合されます。例えば、Project AとProject Bの両方に索引キーワード"インストール"がある場合、このキーワードには両方のプロジェクトのすべてのトピックとサブキーワードが含まれます。

- 用語集

  WebHelp プロジェクトでは、マスタープロジェクトと子プロジェクトで同じ用語が使用されている場合、定義は実行時に結合されます（定義が異なる場合、定義は定義ペインの別の行に配置されます）。

  HTML ヘルププロジェクトでは、マスタープロジェクトと子プロジェクトで同じ用語が使用されている場合、マスタープロジェクトの定義が子プロジェクトの定義を置き換えます。

- 関連項目キーワード

  – WebHelp では、同一の関連項目キーワードは実行時に結合されません。各プロジェクトで独自の関連項目キーワードを使用します。例えば、Project A と Project B の両方がキーワード "設定" を使用する場合であっても、個別のプロジェクトに対してのみトピックが表示されます。

  – HTML ヘルプでは、同一の関連項目キーワードは実行時に結合されます。

閲覧シーケンスをマージすることはできますか？

いいえ。閲覧シーケンスはマージされません。ただし、マージされた各プロジェクト内で定義されているすべての閲覧シーケンスは、マージ後のヘルプ内で使用できます。

コンディショナルテキストはどのように処理されますか？

コンディショナルビルド式を使用して生成された子プロジェクトは、マスタープロジェクトでサポートされます。例えば、子プロジェクトでコンディショナルビルド式を定義して Tag A を除外する場合、Tag A が適用されているすべてのトピックとトピック内容は、子プロジェクトとマスタープロジェクトから除外されます。

HTML Help プロジェクトでは、外部トピックへのリンクは保持されますか？

マージ済みの HTML ヘルププロジェクトでは、索引キーワード、目次のブックとページ、および HTML トピックはすべて、マスタープロジェクトに含まれる CHM ファイルの外部トピックにリンクできます。（WebHelp ではリモートトピックはサポートされていません。）

WebHelp プロジェクト

マージ済みの **WebHelp** プロジェクトを配布する方法は？

マージ済みの WebHelp プロジェクトは、イントラネットまたは Web アドレス、ローカルまたはネットワークドライブ、FTP サーバーに公開します。

プロジェクトはどこに公開しますか？

ユーザーは、通常公開する場所にマスタープロジェクトを公開しますが、子プロジェクトは特別な場所に公開されます。

公開されていない子プロジェクトへの参照はどうなりますか？

マスタープロジェクトに子プロジェクトを追加しても子プロジェクトを公開しない場合は、マスタープロジェクトが公開されても子プロジェクトは表示されません。

プロジェクトを開く

使用するべき索引タイプは？

マスタープロジェクトでは、索引またはマージされた索引は空である必要があります。CHM ファイルをマージするには、生成時に、バイナリ索引がマスタープロジェクトに必要です。バイナリ索引を使用すると、子プロジェクトからのすべてのキーワードは、マージされ、アルファベット順に並べ替えられ、マスタープロジェクトの索引ファイル（HHK）に保存されます。バイナリ形式は、圧縮率が高く、占有する領域が少なく、ロードが高速であるので最適です。子プロジェクトの索引ファイルはバイナリ形式である必要はありません。

プロジェクトをマージする前に、マスタープロジェクトに対して「バイナリ索引」オプションを設定します。

マージ済み **HTML Help** プロジェクトの配布方法は **?**

すべてのプロジェクトの CHM ファイルを配布し、マスタープロジェクトと同じフォルダーにそれらを保存します。プロジェクトをマージする際には、子プロジェクトの CHM ファイルがマスタープロジェクトのフォルダーにコピーされます。子プロジェクトを更新または生成するたびに、更新された CHM ファイルをマスタープロジェクトのフォルダーにコピーしてください。（この操作は Windows エクスプローラーを使用して行うことができます。）すべての CHM ファイルの最新バージョンを配布してください。

Adobe AIR プロジェクト

マージされた **Adobe AIR** アプリケーションプロジェクトはどのように配布しますか？

Adobe AIR アプリケーションプロジェクトは 1 つの .air ファイルです。この .air ファイルを配布するには、このファイルを出力場所から必要な共有場所にコピーします。

マージされたブラウザーベースの **Adobe AIR** ヘルプをローカルフォルダーからどのように実行しますか？

FlashPlayerTrust フォルダーにある RoboHelp.cfg ファイル内に定義されている信頼フォルダーのリストに、出力フォルダーを追加します。Adobe AIR 出力の配布を参照してください。

レポート

プロジェクトレポートの書き出し

1) 「ツール」をクリックします。レポートの種類を選択します。
2) レポートをカスタマイズします。
3) 「別名で保存」をクリックします
4) ファイルの保存場所を参照します。
5) ファイルの名前を入力します。
6) 「ファイルの種類」で「RTF」か「TXT」を選択します。
7) 「保存」をクリックします。

レポートの印刷

1) 「ツール」を選択します。
2) レポートの種類を選択します。
3) レポートオプションをカスタマイズします。
4) 「印刷」をクリックします。

   ヒント : 目次または索引は、目次ポッドまたは索引ポッドから印刷します。ファイル／プリントを選択します。

レポートの送信

レポートの内容を電子メールで他のメンバーに送信して共有できます。

1) 「ツール」を選択します。

2) レポートの種類を選択します。レポートダイアログボックスが表示されます。

3) 利用できるオプションを使用して、レポートをカスタマイズします（一部のレポートはカスタマイズできません）。

4) 「送信」をクリックします。

   電子メールプログラムでメッセージが作成され、レポートの情報がメッセージにペーストされます。他の電子メールメッセージと同様に、このテキストを編集し、情報を追加します。

5) アドレスを指定し、電子メールを送信します。

   注: プロファイルの設定などの「送信」機能に関しては、電子メール管理者にご相談ください。

レポートの生成とカスタマイズ

すべてのレポートは、ツールメニューから使用可能です。

壊れたリンクレポート

このレポート（ツール／マップ ID ／壊れたリンクで使用可能）は、壊れたリンクを含むファイルを検索します。このレポートはカスタマイズできません。

注意：

- 複数のヘルプ作成者がいるバージョンコントロール環境では、移動されたり、名前が変更されたり、削除されたりしているトピックにリンクしないようにしてください。このようなリンクは壊れたリンクになります。
- バージョンコントロールプロジェクトの場合は、最終出力をリリースする前に、最新バージョンに壊れたリンクがないことを誰かにテストさせて確認してください。

コンディショナルビルドタグレポート

このレポートは、プロジェクト全体でのトピックレベル、コンテンツレベルおよび目次レベルのビルドタグの使用状況に関する情報を表示します。

プロジェクトの概要が表示されます。プロジェクトで使用されるコンディショナルビルドタグを確認できます。タグごとに、そのタグが使用されるすべてのトピックの詳細パスが表示されます。

1) ツール／トピックのプロパティ／タグを選択します。レポートダイアログボックスの「ビルドタグ」タブに、コンディショナルビルドタグレポートが表示されます。

   デフォルトでは、ビルドタグの名前順に表示されます。

2) （オプション）表示順を変更するには、「オプション」を選択します。ビルドタグレポートオプションダイアログボックスが表示されます。

3) 「トピック」、「目次」、および「索引名」を選択します。

4) 「OK」をクリックします。タグ使用状況レポートをトピック、目次、および索引名順で表示できます。

関連項目レポート

1) ツール／目次／関連項目を選択します。関連項目レポートが表示されます。

2) これらのオプションを必要に応じてカスタマイズします。

キーワード

索引のすべてのキーワードが含まれます。

キーワードとトピック

キーワードのリストが含まれます。各キーワードには、そのキーワードを使用するトピックが表示されます。どのトピックにもリンクされていないキーワードを見つけたり、キーワードから削除するトピックを識別したりすることができます。

トピックとキーワード

トピックのリストが含まれます。各トピックには、そのトピックに関連付けられたキーワードが表示されます。キーワードのないトピックや不正なフレーズを見つけたり、トピックから削除するキーワードを識別したりすることができます。

索引レポート

1) ツール／目次／索引を選択します。

2) カスタマイズするには、次のオプションから選択します。

キーワード

索引のすべてのキーワードが含まれます。

キーワードとトピック

キーワードのリストが含まれます。各キーワードには、そのキーワードを使用するトピックが表示されます。どのトピックにもリンクされていないキーワードを見つけたり、キーワードから削除するトピックを識別したりすることができます。

トピックとキーワード

トピックのリストが含まれます。各トピックには、そのトピックに関連付けられたキーワードが表示されます。キーワードのないトピックや整合性のないフレーズを見つけたり、トピックから削除するキーワードを識別したりすることができます。

索引の選択

リストから索引を選択して、選択した索引のレポートを生成します。

重複マップ ID レポート

プロジェクト内のマップ番号は、一意の値である必要があります。このダイアログを使用して、重複したマップ ID を削除します。

プロジェクトで状況依存ヘルプが使用されている場合、マップファイルのマップ ID はすべて一意の値である必要があります。マップファイル中に同じマップ ID がある場合、このタブにその情報が表示されます。

注: プロジェクトに重複マップ ID が存在する場合、状況依存ヘルプが正しく動作しない可能性があります。

1) ツール／マップ ID ／重複マップ ID を選択します。

ヒント: このレポートは、ヘルププロジェクトのテストに使用できます。RoboHelp BugHunter ツールを使用して、マップ番号およびトピックをテストできます。

外部トピック参照レポート

外部トピック参照レポート（ツール／マップID／外部トピック）には、これらのトピックに関するデータが含まれます。

- URL
- 他のCHMファイルでのHTMLトピックへのリンク
- FTPアドレス
- ニュースグループアドレス
- 電子メールアドレス

ヒント：

- このレポートは、リンクのテストに使用できます。
- これらのURLを使用するヘルプ作成者と、このレポートを共有できます。

用語集レポート

1) ツール／目次／用語集を選択します。
2) レポートメニューからこれらのオプションのいずれか1つを選択します。

詳細リスト

用語と定義

概要リスト

定義のない用語

選択した用語集に対する用語集レポートが表示されます。

画像レポート

1) ツール／トピックのプロパティ／画像を選択します。画像レポートが表示されます。

画像のリストをアルファベット順に表示

各画像の下にグループ化されるのは、その画像を使用するすべてのトピックのリストです。

トピックのリストをアルファベット順に表示

各トピックの下にグループ化されるのは、そのトピックに含まれるすべての画像のリストです。

マップ ID レポート

このレポート（ツール／マップ ID ／マップ ID）を使用して、プロジェクトの概要を生成します。マップ ID の数、トピック ID と場所、マップ番号、マップファイル名が表示されます。

マップ ID レポートは、プロジェクトで使用されているマップ ID およびテキストのみトピック（What's This? Help の場合）を含む、状況依存ヘルプに関する情報を表示します。

まず、レポートがプロジェクト全体の概要を表示します。マップ ID の数を識別し、その他と詳細情報を表示します。マップ ID が割り当てられているプロジェクトの各トピックが、トピック ID、マップ番号、マップファイル名、およびトピックの場所と共に表示されます。

ヒント : このレポートをヘルプのテスト用の参照として使用します。

プロジェクトステータスレポート

「フォルダー」リストで特定のフォルダーを選択して、トピックのグループ（ツール／プロジェクトのステータス）の情報を生成できます。

- 完了したトピック、進行中トピックおよびレビュー可能トピックの総数。
- プロジェクトのトピック総数。
- すべてのトピックを編集するために必要な予想開発時間。
- 作業アイテムに関する情報。

スニペットレポート

ツール／トピックのプロパティ／スニペットを選択します。プロジェクトで定義されたスニペットを示すスニペットレポートが表示されます。スニペットレポートには、特定のスニペットが使用されているトピックも表示されます。

スタイルシートレポート

このレポート（ツール／トピックのプロパティ／スタイルシート）を使用して、スタイルシートまたはトピックのアルファベット順のリストを表示します。スタイルシートのリストには、どのトピックに各スタイルシートが使用されているかが表示されます。トピックのリストで、各トピックに適用されるスタイルシートを識別できます。並べ替えるには、ソート順メニューからオプションを選択します。

目次レポート

このレポート（ツール／目次／目次）を使用して、目次に関する情報を表示します。表示する詳細のレベルを指定します。

詳細

ブックやページのタイトル、リンクされているトピック名、およびファイルの場所を表示します。

概要

ブックやページのタイトルとリンクされているトピック名を表示します。

選択した目次に対する目次レポートが表示されます。

ヒント: トピックタイトル、またはファイル名を変更したときは、いつでも目次を変更できます。

トピックプロパティレポート

このレポート（ツール／トピックのプロパティ／トピックのプロパティ）を使用し、各種プロパティに従ってレポートをフィルタリングします。レポートをカスタマイズするには、「オプション」をクリックし、追加する詳細を選択します。

全般

フォルダー、ブックマーク名、場所。

トピックのステータス

ステータス、優先度、時間、完了した作業アイテム、コメント。

参照

トピックへのリンク、トピックからのリンク、マップID、目次、関連項目キーワード、キーワード。

詳細

情報タイプ、コンディショナルビルドタグ、検索キーワード、スタイルシート、検索から除外。

「フォルダー」リストで特定のフォルダーを選択して、レポートに表示するトピックのリストをフィルターすることができます。

トピック参照レポート

このレポート（ツール／トピックのプロパティ／トピック参照）を使用して、トピック参照を追跡します。参照には次が含まれます：

- トピックリンク
- トピックが使用されている目次のブックとページ
- トピックが使用されているキーワードやフレーズ

「フォルダー」リストを選択して、トピックグループの情報を生成します。

ヒント：

- トピックを更新する際にこのレポートを使用して、削除する参照を確認します。
- トピックを削除する前に、そのトピックへのすべての参照を削除できます。このレポートを使用して、参照を識別し、別のトピックに再リンクします。
- トピックを削除する際にそのトピックへの参照を削除しない場合、このレポートで、壊れる可能性のある参照を確認できます。

優先度順トピックレポート

優先度順トピックレポート（ツール／トピックのプロパティ／優先度順トピック）には、プロジェクトの概要が示されます。ヘルプ作成者が指定した優先度で並べ替えられたトピックが一覧表示されます。この情報はトピックのプロパティから収集されます。したがって、「トピックのプロパティ」を作成者として変更すると、このレポートは正しくデータを表示することができます。

このレポートに表示される情報をカスタマイズするには、「オプション」をクリックして、追加する情報を選択します。一部の優先度を選択することも、すべての優先度を表示することもできます。「フォルダー」リストでフォルダーを選択して、レポートに表示するトピックのリストをフィルターすることもできます。

未参照トピックレポート

このカスタマイズ可能なレポート（ツール／トピックのプロパティ／未参照トピック）では、目次、索引、閲覧シーケンス、他のトピックから参照されていないトピックを追跡します。次の項目の識別に使用します：

- アクセスできないトピック（修正するには、他のトピックからリンクを作成します）
- 目次にないトピック
- 索引または参照項目キーワードのないトピック（修正するには、キーワードを追加するか、参照項目キーワードにトピックを追加します）

注: トピックによっては参照が全くない場合があります。例えば、ウィンドウレベルの状況依存ヘルプを作成した場合、エンドユーザーがF1またはヘルプを選択したときにのみアクセスできます。このようなトピックに参照は不要です。状況依存ヘルプトピックとして使用している未参照トピックは、区別できます。

未使用ファイルレポート

このレポート（ツール／トピックのプロパティ／未使用ファイル）を使用して、未使用ファイルを1箇所にまとめて表示します。ソート順メニューから選択して、ファイル名、またはファイルタイプで並べ替えできます。

これらのファイルはプロジェクト内からは削除できません。使用されていないファイルとそのパスのリストを作成し、Windows Explorerを使用してファイルを削除します。

重要: ファイルを削除する前に、変更を元に戻す必要がある場合に備えて、プロジェクトのバックアップコピーを作成します。

注: 使用されていないファイルのレポートによりリストされている以外のファイルを考慮せずに削除すると、リンクの破損、ファイルの所在不明などの望ましくない結果になります。

未使用索引キーワードレポート

このレポート（ツール／マップID／未使用索引キーワード）を使用して、トピックに関連付けられていないすべての索引キーワードを追跡します。次の項目に使用します：

- プロジェクトから削除できる索引キーワードの識別
- トピックに関連付ける必要のある索引キーワードの検索
- 索引に追加された相互参照の確認

使用ファイルレポート

このレポート（ツール／トピックのプロパティ／使用ファイル）は、プロジェクトのすべてのファイルの目録として使用します。

見つからないトピックレポート

このレポート（ツール／トピックのプロパティ／見つからないトピック）を使用して、見つからないトピックと複数の関連要素を追跡します。

- 見つからないトピックを参照している目次、ブック、ページ
- 見つからないトピックを参照している索引キーワードとフレーズ

「フォルダー」リストでフォルダーを選択して、トピックグループ情報を生成できます。

ヒント：

- トピックを削除する前に、そのトピックへのすべての参照を削除してください。
- トピックを削除する際にそのトピックへの参照を削除しない場合、このレポートで、壊れる可能性のある参照を確認できます。

変数レポート

このレポート（ツール／トピックのプロパティ／変数）を使用して、変数とその値および使用に関する情報を、変数の作成順に一覧表示します。

プロジェクトのすべての変数を表示すると、レポートには変数セットとその変数が使用されているファイルで定義された変数が示されます。使用されていない変数を見つけることもできます。

このレポートは、変数を削除する場合に便利です。その変数が使用されているすべてのトピックを特定し、変数を削除する前に変数への参照を削除します。

リファレンス

URLのプロパティダイアログボックス

このダイアログは、プロジェクトの索引キーワードとURLを関連付けるために使用します。

キーワード

URLにアクセスするためにエンドユーザーが索引に入力する必要のある単語や句を入力します。

以前のプロジェクトを削除ダイアログボックス

名前を変更したプロジェクトを公開する前に、RoboHelpサーバーから古いWebHelp Proプロジェクトを削除します。

ファイルをプロジェクトに移動ダイアログボックス

ファイルを検索したり、リンクを作成して、壊れたトピックリンクを復元します。

検索

リンクされたファイルを参照します。

新規作成

トピックを作成してプロジェクトフォルダーに保存し、壊れたリンクを修正します。

Help から HTML へのスタイルオプション

使用するスタイルシートを選択

作成されたすべての HTML トピックに適用するスタイルシートの名前を指定します。

スタイルシートなし

スタイルシートを適用しません。すべてのトピックはデフォルトの書式を使用します。

埋め込みスタイル

トピックにスタイルシートを適用しません。すべての HTML トピックは WinHelp 書式を使用します。書式は各 HTML 要素に埋め込まれます。

箇条書きを変換

WinHelp トピックの箇条書きリストをトピックに変換します（箇条書きリストを保持します）。

番号付きリストを変換

WinHelp トピックの番号付きリストをトピックに変換します（番号付きリストを保持します）。

ヒント：

- プロジェクトの変換後にスタイルシートを変更できます。
- 変換後に新しいスタイルシートを作成し、トピックに適用できます。
- プロジェクトには、複数のスタイルシートを含められます。

HTML ヘルプの詳細設定 3 ペイン

ボタン

ツールバーに追加するボタン / コントロールを定義します。オプション：

表示 / 非表示

3 ペインの左側のタブコンポーネントを非表示にします。

オプション

オプションのメニューを表示します。

同期

左側と右側のペインの同期を取ります（「目次を自動同期」が選択されていない場合)。

ナビゲーションペイン

内容をビューアーに表示する方法を定義します。オプション：

ナビゲーションペインの表示と非表示を自動的に切り替え

エンドユーザーがコンパイル済みヘルプからプログラムに切り替えたときに、左側のナビゲーションペインを非表示にします。内容は右側のペインに表示されたままになります。左側のタブはユーザーがウィンドウを選択するまで表示されなくなります。

目次を自動同期

ユーザーがヘルプの内容を閲覧しているときに、左側のペインと右側のペインの内容を自動的に同期させます。

注: プロジェクトのファイル名には空白文字を使用しないでください。プロジェクトを作成した後に、空白文字をアンダースコアに自動的に変換できます。

幅

ナビゲーションペインの幅をピクセル単位で指定します。

注: プロジェクトのファイル名には空白文字を使用しないでください。プロジェクトを作成した後に、空白文字をアンダースコアに自動的に変換できます。

幅

ナビゲーションペインの幅をピクセル単位で指定します。

フォント

「目次」タブにタイトルを表示するフォントを選択します。

以下を選択します。

フォントダイアログボックスを開きます。

デフォルト

デフォルトのシステム設定で使用するフォントを設定します。

Microsoft HTML ヘルプの詳細設定ダイアログ／「目次」タブ

罫線

「目次」ペインの周りに罫線を追加します。

ダイアログフレーム

「目次」ペインの周りにフレームを追加します。

ルートからの線

ルートからブックとページを繋ぐ線を表示します。

プラス / マイナス記号

ブックを開いたり閉じたりするプラス記号とマイナス記号を表示する。

ブックの代わりにフォルダー

目次ブックアイテムのアイコンをフォルダーのアイコンに置き換えます。

シングルクリックでブックを開く

ブックアイテムをシングルクリックで開くように指定します。この機能が選択されていない場合、ブックはダブルクリックで開きます。

項目間の線

ブックとページの間に線を追加します。

エッジを浮かせる

目次のエッジに 3 ペインよりも上がった感じの 3D 効果を出します。

エッジを沈める

目次のエッジに 3 ペインよりも沈んだ感じの 3D 効果を出します。

トピックでの作業

トピックの作成、保存、表示

トピックの作成

1) プロジェクトマネージャーポッドで、XHTML ファイル（トピック）フォルダーを開きます。

2) 特定のカスタムフォルダーにトピックを保存するには、フォルダーを選択します。

3) 次のいずれかを行います：

   - 新規トピックアイコン をクリックします。
   - 異なる HTML エディターを使用してトピックを作成するには、右クリックし、新規／トピック（エディター選択）を選択します。それから、エディターを選択します。

     注: トピックリストで右クリックし、新規トピック／[エディター] を選択することもできます。

4) トピックタイトルを指定します。

5) 変数リストから UDV を選択し、トピックタイトルに挿入し「挿入」をクリックします。「OK」をクリックします。例えば、タイトルに製品名を埋め込むのではなく、製品名に UDV を使用します。UDV は変更および一貫性を管理するのに役立ちます。

6) 必要であればトピックタイトルから RoboHelp が作成したファイル名を変更します。

   ファイル名にはスペースではなくアンダースコアを使用し、HTML 命名規則に従うことをお勧めします。ファイル名に次の文字は使用しないでください：\/: * ? < > | # ", $, &, [ ]

   （フォルダー名にも同じ規則を適用します。）

7) （オプション）マスターページを選択します。

8) 新しいトピックの言語を指定します。

注: 作成中のトピックの言語を指定しない場合、RoboHelp はプロジェクトの言語設定を使用します。RoboHelp では、スペルチェッカー、類義語辞典、スマート索引、および全文テキスト検索索引に関しては、トピックの言語設定を使用します。出力 UI は、プロジェクトの言語設定により制御されます。言語サポートの詳細については、複数言語のコンテンツの作成

9) を参照してください。ユーザーからこのトピックのコンテンツが見つかりやすくなるように、キーワードを追加します。キーワードを区切るには、コンマ、セミコロン、スペースなどの一般的に使用される文字を使用できます。多くの言語ではスペースを使用します。

注: 指定したキーワードが索引に追加されます。詳細については、トピックキーワードを参照してください。

10) このトピックを検索結果に表示しない場合のみ、「このトピックを検索から除外」を選択します。

注: Microsoft HTML ヘルプ（CHM）検索では「検索から除外」は使用できません。

ヒント: サードパーティエディターでトピックを開くには、プロジェクトマネージャーポッドまたはトピックリストポッドでトピックを右クリックし、「編集」を選択します。指定したエディターでトピックが開きます（「エディター」ボックスにはプロジェクトに設定されたエディターがそのまま表示されています）。

関連するリンク:

ファイル名にアンダースコアを追加

トピックの保存

トピックの保存

- Ctrl+S キーを押します。
- ツールバーの「保存」をクリックします。

保存の有効と無効の切り替え

「確認なしで保存」を選択解除すると、トピックを保存するかどうかの確認を求められます。

1) ファイル／オプションを選択します。

2) 「全般」タブをクリックします。

3) 「オプション」の「確認なしで保存」を選択または選択解除します。

4) 「OK」をクリックします。

トピックファイル名の変更

注: Windows エクスプローラーまたはバージョンコントロールアプリケーションを使用してファイル名を変更しないでください。プロジェクトマネージャーではファイル参照を更新できません。

1) 次のいずれかを行います：

- プロジェクトマネージャーポッドで、適切なフォルダーを展開します。プロジェクト／表示／トピックを表示／ファイル名順を選択します。ファイルを右クリックし、「名前を変更」を選択します。
- トピックリストポッドで、ファイルを右クリックします。「プロパティ」を選択します。

2) 新しい名前を入力します。

スペースではなくアンダースコアを使用し、HTML 命名規則に従うことをお勧めします。ファイル名に次の文字は使用しないでください：\/: * ? < > | # ", $, &, [ ]

ファイル名に複数の単語が含まれている場合は、スペースではなくアンダースコアを使用します。

トピックを開く

RoboHelp を使用しながら、デザインエディターまたは別のエディターでトピックを開き、オンラインヘルプ機能を追加できます。

1) プロジェクトマネージャーポッドまたはトピックリストポッドで、次のいずれかを行います。

- デザインエディター（またはデフォルトエディターとして設定しているサードパーティエディター）でトピックを開くには、トピックをダブルクリックします。
- エディターでトピックを開くには、トピックを右クリックし、アプリケーションを選択して編集／[エディター]を選択します。

  HTML コードを変更して続行するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。ただし、異なるエディターでのコード変更を避ける場合は、同じエディターでトピックを変更し、「いいえ」をクリックします。

関連するリンク：

RoboHelp デザインエディター

サードパーティの HTML エディター

複数のドキュメントのインターフェイスのサポート

デザインエディターでは複数のトピックを開くことができます。トピックを同時に編集し、トピックを比較し、コンテンツをトピック間でコピーできます。

デザインエディターポッドには、開いているそれぞれのトピックに対応するタブがあります。トピックウィンドウをアクティブにするには、タブをクリックします。タブをスクロールしたり、非表示のタブを表示したりするには、スクロール矢印をクリックします。デザインエディター内でトピックウィンドウを水平方向または垂直方向に配置するには、タブをドラッグします。

XHTMLの作成者

RoboHelpを使用して、XHTMLでトピックファイルを作成したり、XMLでプロジェクト固有のファイルを作成することができます。XHTMLで構造化されたオーサリングを行うことで、コードを適切に記述し、タグを閉じ、タグの重複をなくし、明確な値で適切に属性を引用し、独自の属性を避けることができます。すべての古いRoboHel for HTMLのトピックは読み込み時に、XHTMLにアップグレードされます。

注： アップグレードされたプロジェクトの場合は、箇条書きリストの書式は正しく出力されない場合があります。プロジェクトをアップグレードした後に、CSS内の箇条書きリストスタイルが、左余白に対してゼロまたは正数を指定していることを確認してください。

RoboHelpエディターにより、すべてのトピックがXHTMLで作成されます。すべてのトピックファイルはXHTML 1.0 Transitionalと互換性があります。RoboHelpで生成されたXHTMLは、World Wide Web Consortium（W3C）のXHTML 1.0 Transitionalの仕様に準拠しています。すべてのトピックは、XHTML 1.0 TransitionalのDOCタイプになります。

```
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Transitional//EN"
"http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-transitional.dtd">
```

すべてのXHTMLトピックには、HTMLタグとxmlns属性の値
http://www.w3.org/1999/xhtmlが含まれています。

注： トピックのXHTMLソースを表示するには、デザインエディターでトピックを開いて、HTMLビューを選択します。

メモ帳、Microsoft Word、Adobe Dreamweaverなどのサードパーティエディターを使用して、ファイルを編集したり、これらのファイルを既存の書式で保持できます。サードパーティXHTMLエディターを使用して、トピックを編集できます。RoboHelpでは、データ損失を避けるため、処理命令（PI）が、コメントとして保持されます。RoboHelpを使用して、サードパーティHTMLトピックやXHTMLトピックを作成したり、XHTML出力を生成できます。

注： スニペット、マスターページ、フレームセットは、XHTML形式でのみ作成されます。

プロジェクトを作成する場合、RoboHelpでは、XML形式で、APJファイル、CSSファイル、およびBRSファイルなど、複数のプロジェクト固有のファイルが作成されます。例えば、目次、索引、用語集および次のプロジェクトファイル名の拡張子は、整形式のXMLで生成されます。

.ali、.brs、.phr、.stp、.ign、.lng、.ssl、.xpj、.apj、.syn、.glo、.hhk、.hhc、.ppf、.fpj

これらのファイルは、RoboHelp プロジェクトフォルダーのルートにあります。XML プロセッサーを使用して、これらの XML ファイルを開いたり、データを読み込むことができます。

XHTML の HTML への変換

1) ファイル／オプション／全般を選択します。

2) 「RoboHelp で編集したトピックを HTML に変換する」を選択します。

このオプションを選択すると、SSL 出力で、すべてのトピックが HTML に変換されます。SSL を生成して、出力ファイルが HTML か XHTML かを確認できます。XHTML ページでは、RoboHelp HTML を使用して適用できるすべての DHTML 効果がサポートされています。HTML ページでは、DHTML を効率的に処理します。トピック内を右クリックして「表示」または「トピックのプレビュー」を選択します。出力ファイルのソースを表示するか、トピックをプレビューして XHTML か HTML かを確認します。

関連するリンク：

RoboHelp エディター

XHTML の検証

XHTMLTransitional 1.0 準拠の W3C 仕様に対して、RoboHel- 生成 XHTML コードを検証できます。プロジェクトマネージャーでトピックを右クリックして、「W3C 準拠を検証」を選択してトピックを検証します。「すべて検証」を選択し、すべてのトピックを評価できます。

次の機能は、XHTML ではサポートされていません。

- トピックのマーキー
- フレームセット内の罫線の色
- トピックプロパティ内の背景サウンド

これらの機能を使用すると、無効な XHTML コードが作成されます。有効な XHTML コードを生成するには、これらの機能を削除してください。

関連するリンク：

W3C コンプライアンス

トピックの読み込みとコピー

トピックの読み込み

1) プロジェクト／開く／ポッド／プロジェクトマネージャーを選択します。プロジェクトマネージャーポッドが表示されます。
2) HTMLファイル（トピック）フォルダーを開きます。
3) サブフォルダーにファイルを保存するには、そのフォルダーを選択します。
4) プロジェクト／読み込み／ HTMLファイルを選択します。
5) HTML/XHTMLファイルに移動します。
6) ファイルを選択します。複数のファイルを選択するには、Ctrl キーを押しながら選択します。
7) 「開く」をクリックします。
8) 「はい」をクリックして、プロジェクトフォルダーにファイルをコピーします。ファイルとそのコンポーネントをすべてコピーするには、「すべてはい」をクリックします。

   注: 同様に、FrameMakerドキュメント（*.mif、*.fm、*.book、*.bk）、PDFドキュメント（*.pdf）、Wordドキュメント（*.docx、*.docm、*.doc、*.rtf）、XMLファイル（*.xml）、DITAマップ（*.ditamap）、およびDITAトピック（*.xml、*.dita）を読み込むことができます。

トピックをプロジェクトにコピー

1) 次のいずれかを行います。
   - プロジェクト／開く／ポッド／プロジェクトマネージャーを選択します。プロジェクトマネージャーポッドが表示されます。
   - プロジェクト／開く／ポッド／トピックリストを選択します。トピックリストポッドが表示されます。
2) トピックを選択します。
3) 右クリックし、「トピックを複製」を選択します。

4) 「トピックタイトル」ボックスに、タイトルを入力します。

5) トピックがマスタープロジェクトと関連付けられている場合、マスターページポップアップメニューにそのトピックが表示されます。「なし」が表示された場合、トピックはデフォルトのスタイルシートを使用します。

6) 表示アイコン をクリックして、マスターページを表示します。または新しいマスターページを参照します。

7) スタイルシートを変更するには、「外観」タブをクリックします。

8) 「OK」をクリックします。

新しいトピックが、プロジェクトに追加されます。トピックはプロジェクトマネージャーに表示されます。

トピックの表示と要素のデザイン

トピックのプレビュー

プロジェクト全体を生成する代わりに、トピックをプレビューします。リンクと「関連トピック」ボタンのクリック、ダイナミックHTML効果の表示、フレームとフォームへのアクセス、および機能の表示を行います。

重要: トピックにPDFへのリンクが含まれている場合は、Adobe® Acrobat® 10がコンピューターにインストールされていることを確認してください。Acrobat 9またはそれ以前のバージョンでPDFをプレビューすると正しく動作しない場合があります。

複数のブラウザーがコンピューターにインストールされている場合は、プレビューウィンドウの「アプリケーションを選択して表示」リストからブラウザーを選択できます。RoboHelpは、選択されたブラウザーでトピックを表示します。

1) 次のいずれかを行います。

- デザインビューでトピックを開き、ツールバーの表示アイコン をクリックします。
- トピックリストポッドまたはプロジェクトマネージャーポッドでトピックを右クリックし、「表示」を選択します。

2) （オプション）コンディショナルテキスト領域をプレビューするには、メニューからコンディショナルビルドタグの式を選択します。

   注: ブラウザーでプレビュー中にCBTを変更するには、プレビューダイアログでCBTを変更し、ブラウザーで「更新」をクリックします。

3) 「アプリケーションを選択して表示」をクリックし、コンピューターにインストールされているブラウザーのリストからブラウザーを選択します。

注意

- 「関連項目」コントロールや「キーワードリンク」コントロールなど、一部の機能はプレビューモードでは動作しません（プレビューダイアログボックスおよびブラウザーのいずれでも動作しません）。
- テキストのみのポップアップは、Firefox、Chrome、および Safari では表示できません。
- プレビューダイアログボックスを閉じても、ブラウザーに表示されていたトピックは、ブラウザーが更新されるまで表示され続けます。
- （プレビューダイアログボックス）状況依存メニューの「戻る」および「進む」オプションを使用すると、プレビューしているトピック内のリンクをクリックして開いたトピック間を移動できます。Backspaceキーを押すこともできます。
- （プレビューダイアログボックス）デザインエディターでトピックを変更し、プレビューダイアログボックスをドラッグすると、RoboHelpはコンテンツを更新して新しい変更を表示します。

コンディショナルビルド式の定義

1) プレビューウィンドウで、「定義」をクリックします。
2) 出力から除外するタグを指定します。
   - 1 つのタグを移動するには、タグを選択して、単方向の矢印のボタンをクリックします。
   - すべてのタグを移動するには、双方向の矢印のボタンをクリックします。

3) （オプション）「詳細」をクリックします。メニューからコンディショナルビルドタグを選択します。「タグを追加」をクリックします。演算子 AND、OR、または NOT をクリックして、式を定義します。式を削除するには「クリア」をクリックします。

NOT

名前が付けられているコンディショナルビルドタグを使用するトピックを除外します。NOT はビルド式の中で最も高い優先度を持っています。

AND

指定されたコンディショナルビルドタグを使用するトピックを含めるか除外します。AND はビルド式の中で 2 番目に高い優先度を持っています。

OR

指定されたコンディショナルビルドタグを使用するトピックを含めるか除外します。

4) 「OK」をクリックしてプレビューウィンドウに戻ります。

5) プレビューから条件を削除するには、メニューから「なし」を選択します。

デザイン要素の表示

1) 編集／表示／表示 / 非表示を選択します。*[* デザイン要素 *]* を選択します。

デザイン要素	デザインエディターでの表示
ブックマーク	
段落マーカー	¶
表のガイドライン	
字形	
フィールド	November 23, 2006

デザイン要素	デザインエディターでの表示
不明なタグ	<hreg>
コンディショナル範囲	In this topic, provide high-level, overview steps describing how to use your product.
コメント	

マスターページ

注： マスターページは、RoboHelp HTML 7以前のテンプレートに置き換わります。

HTMLページは、コンテンツ、レイアウトおよびスタイリングの3つの要素で構成されています。シングルソースの場合、コンテンツをスタイリングとレイアウトから切り離すことをお勧めします。CSSファイルによってスタイリングをコンテンツから切り離すことはできますが、レイアウトはHTMLコードに埋め込まれたままです。マスターページを使用すると、レイアウトとスタイリングをコンテンツから切り離すことができます。マスターページはレイアウト情報を含み、CSSファイルと関連付けられています。

マスターページはHTMLトピックのテンプレートです。ヘッダー、フッター、本文プレースホルダー、ブレッドクラム、およびトピックの目次の配置を定義します。マスターページにはスニペットおよびユーザー定義変数を含めることができます。マスターページを使用してトピックを作成したり、既存のトピックをマスターページに関連付けたりできます。マスターページを使用してトピックを作成する場合、作成されたトピックに本文コンテンツが配置されます。既存のトピックにマスターページを適用した場合、本文コンテンツは無視されます。

マスターページに定義されたレイアウト情報はデザインビューには表示されません。ただし、デザインビューにはマスターページのCSSが表示されます。出力またはプレビューを生成すると、レイアウトが表示されます。トピックコンテンツは本文プレースホルダーに配置され、レイアウトはマスターページから継承します。また、マスターページに定義されるすべてのプレースホルダーにも、出力を生成したときの関連情報が設定されます。

表を使用して、表のセルに各プレースホルダーを配置する正確なレイアウトを作成できます。

本文プレースホルダー

マスターページからトピックを作成する場合、トピックにはマスターページのコンテンツが含まれます。例としては著作権情報があります。マスターページをトピックに適用すると、プレビュー時および生成時にトピックの実際のコンテンツが本文プレースホルダーに置き換わります。

注: マスターページをトピックに適用すると、マスターページのヘッダーとフッターがトピックのヘッダーとフッターに優先します。

トピックの目次プレースホルダー

ヘルプトピックの生成またはプレビュー時に自動的に生成されるトピックの目次を表示します。マスターページのレイアウトをデザインすることにより、トピックの目次の正確な場所と書式を定義します。デフォルトでは、目次レイアウトで使用できるレベルは見出し2から見出し6です。

ブレッドクラムプレースホルダー

ヘルプトピック生成時に自動的に生成されるブレッドクラムを表示します。ブレッドクラムは目次に基づいて生成されます。トピックをプレビューする場合、実際のブレッドクラムリンクは生成されず、ブレッドクラムのレイアウトのみが表示されます。

トピックの目次プレースホルダーおよびブレッドクラムプレースホルダーにはコンディショナルビルドタグを適用できますが、本文プレースホルダーには適用できません。ただし、本文プレースホルダーの内部または外部のコンテンツには、コンディショナルビルドタグを適用できます。

カスタムマスターページの作成

1) 出力／マスターページ／新規マスターページを選択します。
2) 「全般」タブで新規マスターページの名前を入力します。

   注: マスターページのファイル名拡張子は.httです。

3) 「外観」タブをクリックします。
4) マスターページに適用するスタイルシートを選択します。
5) （オプション）「背景サウンド」オプションを選択します。

6) 「OK」をクリックします。

新規マスターページにはデフォルトで本文プレースホルダーが表示されます。トピックの目次アイコン をクリックすることによりトピックの目次を挿入し、マスターページのデザインエディターのツールバーからブレッドクラムアイコン をクリックすることによりブレッドクラムプレースホルダーを挿入できます。ただし、このツールバーは一般的なページには表示されません。マスターページの任意の場所に任意の数のトピックの目次またはブレッドクラムを挿入できます。

トピックからのカスタムマスターページの作成

1) トピックを開きます。

2) 次のいずれかを行います。

- デザインエディターで右クリックし、追加先／マスターページを選択します。
- 出力／マスターページ／選択したトピックをマスターページに追加を選択します。

トピック内のすべてのコンテンツは、本文プレースホルダーで折り返されます。マスターページにトピックを追加した後、このマスターページから作成される新規トピックには、本文プレースホルダーコンテンツが含まれます。

トピックがマスターページに関連付けられている場合、マスターページのスタイルシート、ヘッダーおよびフッターは、トピックのスタイルのプロパティに優先します。後でトピックのCSSを編集または変更することができます。

注: 「トピックのプロパティ」オプションを使用して、トピックに関連付けられているマスターページを変更します。

関連するリンク:

ヘッダー、フッター、および改行

マスターページの書式設定

レイアウトを生成またはプレビューするときに、マスターページの罫線と網かけのプロパティは、トピックの罫線と網かけのプロパティよりも優先されます。プロパティが競合しない場合、プロパティは独立して適用されます。例えば、マスターページの罫線のプロパティと、トピックの背景色を設定すると、最終的な出力トピックには両方が適用されます。

マスターページの編集

1) 次のいずれかを行います。
   - 出力設定ポッドのマスターページを右クリックし、「編集」を選択します。
   - 出力設定ポッドのマスターページをダブルクリックします。
2) 必要な変更を行います。

マスターページに関連付けられているCSSの変更

1) マスターページで右クリックし、「プロパティ」を選択します。
2) 「外観」タブをクリックします。
3) プロジェクトで使用可能なスタイルシートのリストからスタイルシートを選択します。
4) 「OK」をクリックします。

   注: マスターページに関連付けられているすべてのトピックに関するレポートを表示するには、マスターページプロパティダイアログボックスの「使用箇所」タブを選択します。

プレースホルダーの挿入

トピックの目次、ブレッドクラム、およびトピックのプレースホルダーをマスターページに挿入できます。デフォルトでは、本文プレースホルダーは新規マスターページに挿入されます。

1) カーソルを本文プレースホルダーの前または後ろに配置します。
2) 挿入／ページデザイン／トピックの目次またはブレッドクラムを選択します。

   注: 段落内のプレースホルダーをインラインテキストとして挿入したり、ヘッダーやフッターに挿入することはできません。

関連するリンク:

ヘッダー、フッター、および改行

プレースホルダーの書式設定と編集

コンテキストメニューから「プレースホルダーを書式設定」オプションを使用すると、プレースホルダーのスタイルを書式設定することができます。デザインビューでマスターページを開き、次のいずれかを行います。

- プレースホルダーを右クリックし、「プレースホルダーを書式設定」を選択します。
- プレースホルダーを選択し、デザインエディターツールバーのプレースホルダーを書式設定ボタン をクリックします。
- プレースホルダーでダブルクリックします。

注意：

- 本文プレースホルダーがマスターページから削除された場合、または本文プレースホルダーが表示されない場合、最終的なトピックではヘッダーが最初に表示され、その後にはマスターページのHTMLコンテンツ、トピックコンテンツおよびフッター（存在する場合）が続きます。
- プレースホルダーにはDHTML効果を適用できません。本文プレースホルダー内のコンテンツは通常のHTMLコンテンツなので、そのコンテンツにはDHTML効果を適用できます。
- マスターページをプレビューすると、最終的な出力でプレースホルダーコンテンツがどのように表示されるかを確認できます。関連付けられているマスターページにトピックの目次およびブレッドクラムプレースホルダーがある場合、プレビューまたはレイアウト生成の時点で、トピックの目次およびブレッドクラムが生成されます。

関連するリンク：

トピックにブレッドクラムを追加

マスターページの読み込み

他のプロジェクトからマスターページを読み込んで、現在のプロジェクトのトピックに適用できます。RoboHelp 7以前からアップグレードすると、トピックテンプレートは読み込み時にマスターページに変換されます。ヘッダーとフッターを除き、トピックテンプレートのすべてのコンテンツは、本文プレースホルダー内で折り返されます。

マスターページの適用

1つ以上のトピックに対してマスターページを一度に適用または変更できます。このオプションは、プロジェクト内のすべてのトピックではなく、1つ以上のマスターページの変更に使用します。ヘルプ出力の生成時に、マスターページをすべてのトピックに適用できます。

マスターページのトピックへの適用

1) トピックリストで、トピックを右クリックして、「プロパティ」を選択します。

2) トピックのプロパティダイアログボックスで、「全般」タブをクリックします。

3) マスターページメニューにプロジェクト内のすべてのマスターページが表示されます。マスターページを選択して、「OK」をクリックします。オプションで、次の操作を行えます。

- 選択したマスターページをプレビューするには、プレビューアイコンをクリックします。
- 現在のプロジェクトに含まれていないマスターページを選択するには、閲覧ボタンをクリックします。

マスターページの複数のトピックへの適用

1) トピックリストで、トピックに関連付けられているマスターページ順にトピックをソートします。

   注: マスターページ列が表示されていない場合は、列のヘッダーを右クリックし、表示されるメニューから「マスターページ」を選択します。

2) 置き換えるマスターページに関連付けられているトピックを選択します。マスターページを初めて適用する場合は、マスターページに関連付けられていないトピックを選択します。また、異なるマスターページが関連付けられている、複数のトピックセットを選択することもできます。

3) 右クリックし、「プロパティ」を選択します。

4) トピックのプロパティダイアログボックスで、「全般」タブをクリックします。

5) マスターページメニューからマスターページを選択し、「OK」をクリックします。

生成時のマスターページまたはCSSの適用

シングルソースレイアウトを使用して、出力生成時にマスターページまたはCSSに優先することができます。異なる出力結果を得るには、異なるマスターページまたはCSSを適用します。

印刷ドキュメントレイアウトを除く各シングルソースレイアウトには、マスターページまたはCSSを適用するためのオプションがあります。プロジェクト内のすべてのトピックにマスターページまたはCSSを適用できます。**注:** 印刷ドキュメントレイアウトの場合は、別のCSSのみ適用できます。

- 「すべてのトピックに適用」オプションが選択されていない場合、個別のトピックと関連付けられているマスターページが有効になります。個々のトピックに関連付けられているマスターページがない場合、出力生成時にマスターページは適用されません。
- マスターページを適用することを選択した場合、個別のトピックに関連付けられているマスターページは無効になります。マスターページに関連付けられているCSSが有効になり、その他すべての個別トピックに関連付けられているCSSよりも優先されます。
- CSS を適用することを選択した場合、個別トピックに関連付けられているマスターページが有効になり、マスターページがトピックに関連付けられているかどうかに関係なく、選択されたCSSがすべてのトピックに適用されます。

印刷ドキュメントのヘッダーとフッターの追加

印刷ドキュメントのマスターページにヘッダーとフッターを追加できます。ヘッダーやフッターを追加するときに、静的な情報を追加できます。例えば、ドキュメントの著者名をフッターに追加できます。ただし、静的情報のほかに、ドキュメントに固有の情報も追加できます。

印刷ドキュメントのヘッダーとフッターを追加するには、次の操作を実行します。

1) 出力設定ポッドに移動します。
2) マスターページフォルダーを展開し、ダブルクリックしてマスターページを開きます。

   あるいは、新しいマスターページを作成するには、マスターページフォルダーアイコンを右クリックし、「新規マスターページ」を選択します。

3) マスターページにヘッダーを追加または編集するには、マスターページペインの右上角にある「ヘッダーを編集」アイコンをクリックします。

   同様に、マスターページにフッターを追加または編集するには、マスターページペインの右上角にある「フッターを編集」アイコンをクリックします。

4) ヘッダーまたはフッターで、必要に応じて静的コンテンツを追加します。

5) 静的コンテンツのほかに、次の変数を追加することもできます。

ページ番号

ヘッダーまたはフッターにページ番号を追加するには、マスターページペインの右上角にある「ページ番号を挿入」アイコンをクリックします。

章の名前

ヘッダーまたはフッターに章を追加するには、マスターページペインの右上角にある「章の名前を挿入」アイコンをクリックします。

ドキュメントのヘッダーやフッター内の静的コンテンツはそのまま表示されますが、ページ番号や章の名前は動的に表示されます。

トピックの管理

トピック名の変更

トピック名を変更すると、トピックのプロパティでタイトルが更新されます。トピックへのリンクはそのまま機能します。その他の参照は自動的には更新されません。例えば、目次ページのタイトルは目次エディターで編集する必要があります。

マスターページを使用して新規トピックを作成する場合、「トピックのプロパティ」でトピックタイトルを変更するとトピックタイトルは自動的に更新されます。

1) 次のいずれかを行います。

   - プロジェクト／開く／ポッド／プロジェクトマネージャーを選択します。
   - プロジェクト／ポッド／トピックリストを選択します。

2) トピックを選択します。

3) ツールバーのプロパティアイコン をクリックします。「全般」タブをクリックします。

4) 「トピックタイトル」ボックスに、新しいタイトルを入力します。

5) 「OK」をクリックします。トピックタイトルが更新されます。

6) トピックの見出しを変更するには、デザインエディターでトピックを開きます。見出しテキストを編集します。

注: 更新されたトピックタイトルにファイル名を一致させるには、トピックタイトルを変更するときにファイル名を変更します。

関連するリンク:

トピックファイル名の変更

ファイルの管理

トピック参照の更新

トピックタイトルの名前を変更する場合、次のアイテムを指示に従って更新する必要があります。

テキストリンク

リンクのパスは更新されますが、ユーザーに表示されるリンクテキストは更新されません。トピックのリンクテキストにトピックタイトルが含まれている場合、各トピックを更新します。

トピックの見出し

トピックタイトルに合わせてトピックの見出しを変更する必要がある場合は、デザインエディターで見出しを変更します。

目次

新しいタイトルでブックまたはページを更新します。目次ポッドで、ブックまたはページを右クリックして、「名前変更」を選択します。新しいタイトルを入力します。

索引

トピックタイトルが索引キーワードの場合は、索引ポッドでキーワードを更新します。上部ペインのキーワードを右クリックして、「名前を変更」を選択します。新しいタイトルを入力します。

ファイル名へのアンダースコアの追加

トピックのファイル名に複数の単語が含まれる場合は、アンダースコアをスペースに置き換えるようにRoboHelp HTMLを設定できます。この規則に従うと、目次ブックとページは、ビューアーに表示されるトピック内容と同期できるようになります。

既存のファイル名については、手動で編集しない限り影響はありません。

1) ファイル／オプションを選択します。

2) 「全般」タブをクリックします。

3) 「ファイル名にアンダーラインを使用」を選択します。

トピックのプロパティの変更

トピックには、デザインと索引キーワードを定義するプロパティがあります。特定のトピックまたはトピックのグループのプロパティを変更できます。

1) 次のいずれかを行います。

- トピックリストポッドで1つ以上のトピックを右クリックします。「プロパティ」を選択します。
- プロジェクトマネージャーポッド内のトピックを右クリックして「プロパティ」を選択します。
- デザインエディターでトピックを右クリックし、トピックのプロパティを選択します。

2) タブをクリックして、変更します。

3) 「OK」をクリックします。

ヒント: トピックの開発を追跡し、プロジェクトを管理するには、「ステータス」タブのオプションを使用します。（「ステータス」タブにアクセスするには、トピックを右クリックして、「プロパティ」を選択します。トピックのプロパティダイアログボックスで、「ステータス」タブをクリックします。）また、設定したプロパティに基づいたプロジェクトレポートを生成することもできます。

「索引」タブのトピックのプロパティの変更（WebHelp Pro）

トピックが参照するキーワードに使用されます。

索引の選択

キーワードを追加するか、関連する参照キーワードを表示するには、索引を選択します。

索引キーワード

キーワードを作成および編集します。

追加

「索引キーワード」テキストボックスからキーワードを追加します。

既存のキーワードを追加

他のトピックからキーワードをコピーします。

削除

キーワードを削除する。

置換

キーワードをテキストボックスのテキストで置き換えます。

スマート索引

スマート索引ウィザードを開きます。

プロパティ

「全般」タブを表示します。索引ファイルまたは現在のトピックにキーワードを保存します。

マスターページの変更

トピックに適用されるマスターページを変更するには、マスターページメニューからマスターページを選択します。デフォルトは、トピックに適用された最後のマスターページです。表示ボタン をクリックしてマスターページを表示したり、閲覧ボタンをクリックして新規マスターページを参照したりできます。

関連するリンク：

トピックの確認項目リストを更新

スタイルシートをトピックまたはマスターページにリンク

複数のトピックにコンディショナルビルドタグを適用

トピックが割り当てられたブラウズシーケンスを識別

壊れたリンクの修正

トピックの検索

プロジェクトの目次、索引およびプロジェクトマネージャーポッドから、トピックを検索します。

トピックタイトルの全体または一部、またはトピックのプロパティを検索できます。

1) ポッドをクリックして検索します。
   - トピックがあるフォルダーを検索する場合、プロジェクトマネージャーポッドをクリックします。
   - 目次でトピックを検索する場合、目次ポッドをクリックします。
   - トピックを参照している索引を検索する場合、索引ポッドをクリックします。
   - プロジェクトにトピックがあるかどうかを検索する場合、トピックリストポッドをクリックします。
2) プロジェクト／表示アイテムを検索を選択します。
3) 単純な検索を行うには、「検索」タブをクリックして、「トピックタイトルに次を含む」の横にトピックタイトルを一部または完全に入力します。
4) 高度な検索を行うには、「詳細設定」タブをクリックします。検索は次のオプションに従って行うことができます。

トピックタイトルに次を含む

トピックをタイトルで検索できるように、テキストを入力します。

次を含むファイル名

トピックをファイル名で検索できるように、テキストを入力します。

次のようなトピックのプロパティを検索できます。

ステータス

任意のステータスか特定のステータスを指定します。

ファイル更新日時

すべての日付か日時を指定します。このオプションの右に日付を入力することができます。

優先度

すべての優先度か特定の優先度を指定します。このオプションの右に数値を入力することができます。

注: 作成者による検索はサポートしていません。

見つかったトピック領域には次の 3 つの機能があります。

見つかったトピック

検索条件と一致するトピックを表示します。プレビューまたはプロパティを変更するためリストからトピックを選択します。

表示ボタン

プレビューウィンドウで選択したトピックを表示します。

タイトル順

ファイル名ではなく、トピックタイトルのテキストを検索するときにクリックします。

<アイテム>を含むトピック

検索条件と一致するトピックを表示します。プレビューまたはプロパティを変更するためリストからトピックを選択します。

プロジェクトマネージャーでのトピックまたは画像の検索

現在、トピックまたはスニペットで作業中の場合は、RoboHelp プロジェクト内のトピックまたはスニペットの場所を検索できます。または、選択した画像のトピック内での場所を検索できます。また、選択した画像をプロジェクトマネージャーで見つけ出すこともできます。

1) プロジェクトリボンの「アイテムの検索」をクリックします。

トピック、スニペット、画像が、選択された状態でプロジェクトマネージャーポッドに表示されます。

デフォルトトピックの割り当て

ヘルプシステムが開いているときは、デフォルトトピックはトピックパネルに表示されます。

1) シングルソースレイアウトポッドで、レイアウトを右クリックします。「プロパティ」を選択します。
2) 「デフォルトトピック」ボックスの横にある「選択」をクリックします。
3) トピックを選択して、「OK」をクリックします。
4) 「保存」をクリックします。
5) レイアウトを生成し表示します。

トピックのステータスの追跡

デフォルトでは、新しいトピックのステータスは「進行中」です。このステータスは進行状況に合わせて変更できます。

ステータス情報はプロジェクトステータスレポートで使用されます。

1) トピックリストポッドでトピックを選択します。
2) プロパティボタンをクリックします。
3) 「ステータス」タブをクリックします。
4) 必要な場合は、オプションを設定します。

ステータス

開発段階を選択するには、三角形 ▼ をクリックします。

優先度

数値を入力します。

時間

トピック開発の推定時間または実際の時間に割り当てる数値を入力します。

確認項目リスト

完了させるアイテムを選択します。

コメント

テキストを入力します。

関連するリンク:

生成とカスタマイズのレポート

トピックリストポッドでのトピックの詳細の表示および管理

1) トピックリストポッドで、次のいずれかの操作を行います。

- トピックについての詳細を表示するには、プロジェクト／アイテムを表示を選択します。
- トピックをソートするには、列のヘッダーをクリックします。
- トピックリストポッドに表示する詳細を選択するには、列のヘッダーを右クリックし、「詳細」を選択して、詳細を選択します。
- トピックのプロパティを表示または更新するには、1 つ以上のトピックを選択して、プロパティボタン をクリックします。
- トピック参照を作成するには、トピックをリストからドラッグして、目次、索引、および関連項目キーワードを作成します。

関連するリンク:

レポート

タグリストの操作

デザインビューのタグリストには、HTMLページの階層構造が示されます。階層の上位は左側です（常にドキュメント）。現在選択されているアイテムは右側にあります。

- タグリストを表示するには、編集／表示／表示 / 非表示／タグリストを選択します。
- デザインエディターでアイテムを選択するには、タグリストのアイテムをクリックします。
- タグリストでアイテムのプロパティを編集するには、アイテムをダブルクリックします。オプションを設定します。

削除する書式属性を指定します。

タグ

指定した書式の種類を作成するHTMLタグ。

テキスト

書式を適用するテキスト。

クラス

HTMLタグで使用されているクラス（スタイルシートで指定されているスタイル）。すべてのタグにクラスが割り当てられているとは限りません。

Id

HTMLタグで使用されているID（JavaScriptやDynamic HTML用のタグ）。すべてのタグにIDが割り当てられているとは限りません。

スペルチェックおよび検索と置換

注： プロジェクトがローカライズされている場合は、スペルチェックでは選択されている言語の辞書を使用します。

目次、索引、関連項目リストまたは用語集のスペルチェック

スペルチェックでエラーが見つかると、その単語を無視、変更または辞書に追加することができます。

1) スペルチェックを行うコンポーネントを開きます。
2) ツールを選択し、「目次をスペルチェック」、「索引をスペルチェック」、「関連項目をスペルチェック」または「用語集をスペルチェック」のいずれかを選択します。
3) 候補の中から単語を選択するか、「辞書にない単語」に置換後の単語を入力します。
4) オプションを選択します。
5) カスタム辞書に単語を追加するには、「追加」をクリックします。

   注: オンライン用語集は、WebHelp および Microsoft HTML ヘルプで使用することができます。

スペルオプションの指定

1) レビュー／スペルオプションを選択し、次のオプションセットの中から選択します。

主なオプション

入力中にスペルチェック

入力中にスペルミスをチェックします。

可能な場合は自動修正

入力中にスペルミスを修正します。スペルを間違えることがよくある単語のリストを表示するには、辞書エディターダイアログボックスを開きます。

大文字と小文字を区別

指定どおりの大文字と小文字で検索します。

注:「入力中にスペルチェック」を選択していない場合、「可能な場合は自動修正」と「大文字と小文字を区別」は無効です。

特別なオプション

すべての大文字の単語を無視

すべての大文字の単語を無視します。

文字と数字の混在を無視

文字と数字を両方含む文字列を無視します。

重複を無視

単語の繰り返しを無視します。

ユーザー辞書

既存の辞書を変更できます。

スペルの自動修正オプション

ツール／オプションダイアログボックスで「可能な場合は自動修正」オプションと「入力中にスペルチェック」オプションを選択した場合に限り、「可能な場合は自動修正」は有効です。（レビュー／スペルチェックのオプションを選択します）。正しいスペルと共にスペルミスも定義できます。例えば、「r;adn」をスペルミスとして追加し、「random」を正しいスペルとして定義できます。

注: スペルミスは定義済みではないので、明示的に追加する必要があります。この機能はUnicodeに準拠しています。同じプロジェクト、トピックまたは段落内では、任意の言語（ロシア語や日本語など）で単語を追加できます。

置換

「置換」ボックスにスペルミスを指定します。

With

「置換文字列」ボックスに正しい単語を指定します。

追加

クリックすると、自動修正リストに単語が追加されます。

削除

クリックすると、スペルミスのエントリが削除されます。

キャンセル

ダイアログボックスのフィールドに加えた変更をキャンセルします。

OK

ダイアログボックスのフィールドで加えた変更を保存します。

単語を無視リストの表示

1) 「単語を無視」タブを選択します。このダイアログボックスを使用して、スペルチェック中に無視される単語のリストを表示します。

単語を無視

スペルチェック中に無視される単語をリストします。

すべてを削除

クリックすると、無視された単語リストからすべての単語が削除されます。

削除

クリックすると、無視された単語リストから選択した単語が削除されます。

トピックまたはプロジェクトのスペルチェック

1) デザインエディターでトピックを開きます。次のいずれかを行います。
   - レビュー／スペルチェックを選択します
   - レビュー／すべてのトピックをスペルチェックを選択します。(オプション)「トピックをスキップ」をクリックします。
   - レビュー／プロジェクトをスペルチェックを選択します（オプション）「スキップ」をクリックします。
2) 候補の中から単語を選択するか、「辞書にない単語」に置換後の単語を入力します。
3) 必要な場合は、オプションを選択します。
4) カスタム辞書に単語を追加するには、「追加」をクリックします。

トピックのスペルチェックオプション

辞書にない単語

疑わしい単語が表示されます。

修正候補

スペルミスと思われる単語の修正候補がリストされます。

ヒント:「辞書にない単語」に正しいスペルを入力します。

追加

単語を辞書に追加します。

無視

単語をスキップしてスペルチェックを続けます。

すべてを無視

常に無視する単語リストに単語を追加します。

変更

辞書にない単語に表示される単語を、修正候補で選択されている単語に置き換えます。

すべてを変更

辞書にない単語に表示される単語を、見つかったすべての箇所で修正候補で選択されている単語に置き換えます。

閉じる

スペルチェックを終了し、ダイアログボックスを閉じます。

注: スペルチェック機能は選択した言語で動作します。選択した言語でスペルチェックツールがサポートされていない場合、このツールはツールメニューで無効になります。

プロジェクトのスペルチェックオプション

現在チェック中

現在チェック中のトピックが表示されます。

スキップ

現在のトピックをスキップします。

辞書にない単語

辞書で見つからない単語が表示されます。

追加

単語を辞書に追加します。

修正候補

辞書で見つからない単語に類似する単語のリストが表示されます。

無視

辞書で見つからない単語が無視されます。

すべてを無視

選択した単語のすべての修正候補が、常に無視されます。

変更

辞書にない単語に表示されている単語が、修正候補リストの単語で置換されます。

すべてを変更

単語の出現箇所をすべて変更します。

注: 単語は、プロジェクトで使用されている言語のカスタム辞書に追加されます。

関連するリンク:

複数言語でのコンテンツのオーサリング

辞書のカスタマイズ

辞書エディターを使用して、「RoboHelp」などの単語を辞書に追加します。辞書は言語およびユーザーに固有です。すべての言語に独自の辞書があり、すべてのユーザーは変更を辞書に保存できます。

注: 辞書エディターでは、大文字小文字が区別されます。

1) レビュー／スペルチェックのオプションを選択します。
2) 「オプション」タブをクリックします。
3) 「変更」をクリックします。
4) 辞書エディターの「単語」に新しいエントリを入力して、「追加」をクリックします。エントリを削除するには、削除するエントリを選択して「削除」をクリックします。

   注: 辞書エディターで実行した追加または削除をキャンセルすることはできません。このため、キャンセルボタンは無効です。

類義語辞典の使用

1) デザインエディターで、任意のトピックを開きます。
2) 単語を選択します。
3) レビュー／類義語辞典を選択します。
4) 同意語または反意語を選択し、「置換」をクリックします。

検索された単語

トピックで選択した単語が表示されます。または、検索する単語を入力します。

置換

単語の修正候補が表示されます。

カテゴリ

単語の意味とその品詞が表示されます。複数のカテゴリが表示される場合、1つを選択して異なる同意語を参照します。

同意語

選択された単語と同じ意味を持つ別の単語を表示します。検索した単語の置換後の単語を選択します。

置換

現在の単語を新しい単語で置換します。

検索

検索ポップアップメニューに単語を追加します。

閉じる

ダイアログボックスを閉じます。

検索と置換

RoboHelpの「検索と置換」機能を使用すると、現在のトピック内、現在のプロジェクト全体、指定したパスに含まれるファイル内およびフォルダ内で、テキスト、HTMLタグ、属性を検索（および任意で置換）できます。プロジェクト内のHTMLエディター、索引、目次のテキストを検索できます。つまり、索引ポッドと目次ポッドのテキストを検索できます。さらに、置換機能では、これらのポッド内のテキストを置換できます。

検索と置換ポッドで、検索オプションを設定します。検索後、検索結果ポッドに結果が表示されます。検索結果のエディターポッド（HTMLビュー）では、変更済みの各ファイルを開くこともできます。さらに、置換操作を実行するときには、テキストが置換されるファイルのバックアップを作成するためのオプションを選択することもできます。

注: このツールは、テキストファイルでも最も良く機能します。

検索と置換オプション

1) Ctrl+Shift+Fキーを押して、次のいずれかの操作を行います。
   - プロジェクトリボンの「検索と置換」をクリックします。
   - プロジェクトリボン、編集リボン、レビューリボンのポッドドロップダウンで、「検索と置換」を選択します。

2) 次のいずれかの方法で、検索対象を指定します。

- （基本モード）検索の対象ボックスに検索するテキスト、タグ、または属性を入力します。**注**: `Windows Desktop`のようなテキストが複数行にわたる場合、これを検索するには、`Windows(.|\n)*Desktop`と入力し、「正規表現を使用」が選択されていることを確認します。
- （詳細設定モード）詳細設定モードアイコンをクリックします。フィルターを選択して、テキスト、タグ、または属性を指定し、RoboHelpが正規表現をビルドできるようにします。

始まる

検索対象の始まりに使用されるフレーズ、単語、文字を指定します。

終わる

検索対象の終わりに使用されるフレーズ、単語、文字を指定します。

含む

検索対象に含まれるフレーズ、単語、文字を指定します。

含まない

検索対象に含まれないフレーズ、単語、文字を指定します。

注: 詳細設定モードでは、「マルチファイルの検索と置換」ツールは複数行検索を実行します。

3) 置換文字列ボックスに置換するテキスト、タグ、または属性を入力します。

置換せずに検索する場合には、置換文字列ボックスを空にします。

4) 「ファイルの場所」オプションで検索場所を指定します。

現在のプロジェクト

（デフォルト）現在のプロジェクト内を検索します。

現在のウィンドウ

現在のトピック内を検索します。

開いたファイル

RoboHelpで現在開いているすべてのファイルを検索します。

パス

選択したフォルダーパスに含まれるすべてのファイルを検索します。

注: 選択したパスを検索するときには、ファイルステータスポッド（プロジェクト／開く／ポッド／ファイルステータス）に表示されるファイルのみが検索されます。

5) 現在のプロジェクト内の特定のファイルタイプに限定して検索する、あるいは、前の手順で選択したファイルまたはフォルダーに限定して検索するには、「ファイルの種類」オプションを使用します。

注: 「検索と置換」は、テキストファイルを対象とした場合に最も機能性が高まります。

6) （オプション）検索を限定したり、フィルターしたりするために次のオプションを使用します。

大文字と小文字を区別

検索したいテキストの大文字、小文字に正確に一致するものを検索します。例えば、`the quick fox` を検索すると、`The Quick Fox` は見つかりません。

正規表現を使用

正規表現演算子と解釈される MS Word スタイルまたは UNIX スタイルの式が使用できます。詳しくは、Microsoft スタイルの正規表現を参照してください。

ワイルドカードの使用

ワイルドカード文字（`*`,`?` など）を使用し、検索で 1 つ以上の文字を表す文字として使用できます。例えば `index*` は `index` という単語のすべてのインスタンスに対応し、また、`index` で始まるすべてのファイルに対応します。例えば `index.doc` や `index.txt` です。**注**: ワイルドカードまたは正規表現を使用する場合には、「完全に一致する語」および「HTML タグを無視」オプションは自動的にオフになり使用できません。これらのオプションはオンにできます。

完全に一致する語

1 つ以上の語に完全に一致するテキストを検索します。例えば、`nation` を検索語に入力しても `expla`**`nation`** は見つかりません。

HTML タグを除外する

HTML タグを無視し、コンテンツのみに対して特定のテキスト文字列を検索します。例えば、文字列 `title` の検索は、コンテンツのみを対象とし、`<title>` のような HTML タグを無視します。

注： 属性を検索する場合は、「HTML タグを除外」オプションの選択を解除します。

7) （オプション）ファイルのテキストを置きかえる際には次のオプションを使用します。

修正したファイルをバックアップ

テキストを置換する前にオリジナルファイルのバックアップをとります。

バックアップを上書き

「バックアップを作成」を選択すると既存のバックアップを上書きします。

すべてを置換した後に変更済みファイルを開く

テキストを置換した後で HTML エディターで変更済みファイルを開きます。必要に応じて、変更をレビューしたり、変更を取り消したり、ファイルを保存したりすることができます。

注： このオプションが選択されていない場合、RoboHelp はすべてのインスタンスを置換した後に各変更済みファイルを保存します。

8) 置換せずに検索するには「すべて検索」または「次を検索」をクリックします。

次を検索

複数のファイル内を反復式で検索します。つまり、複数のファイルで検索項目が見つかった場合は、最初の出現箇所が選択された状態で最初のファイルが開きます。「次を検索」を使用すると、現在のファイル内で次の出現箇所に移動します。そのファイル内の最後の出現箇所まで達したら、次のファイルが開きます。検索項目が見つかったすべてのファイルでこの方法が繰り返されます。検索方向として前方または後方を指定できます。

すべて検索

検索テキストまたはタグのすべての出現箇所を検索結果ポッドに表示します。

検索結果は検索結果ポッドに表示されます。詳しくは、検索結果を表示するを参照してください。

9) 見つかったテキストまたはタグを置換するには「すべてを置換」または「置換」をクリックします。

Microsoft スタイルの正規表現

RoboHelp は次のような Microsoft スタイルの正規表現をサポートします。

?

c?rd と入力した場合の検索結果：card、cord

*

r*m と入力した場合の検索結果：ram、random

[ ]

[cg]lass と入力した場合の検索結果：class、glass

[-]

[c-g]lip と入力した場合の検索結果：clip、flip

@

ste@p と入力した場合の検索結果：step、steep

詳細情報については、Microsoft-style regular expressions およびこれらの例を記載した Peter Grainge のサイトを参照してください。

検索結果を表示する

「マルチファイルの検索と置換」ツールは、検索結果ポッドに結果を表示します。

検索結果ポッドを表示するには、次の操作を実行します。

1) プロジェクト／開く／ポッド／検索結果を選択します。

検索結果ポッドは検索テキストが現れるファイルを表示します。行番号および列番号は、トピック内の検索テキストまたは置換テキストの場所を探すのに役立ちます。

素早くナビゲートしたり置換したりするには、次のオプションを使用します。

検索ボックス

結果内を検索する条件を指定できます。検索機能で、フィールドを指定して結果リスト内を検索できます。つまり、ファイル名、行番号、ファイルパスなどを指定して検索できます。

表示

選択されたファイルのコンテンツをブラウザーに表示します。

編集

選択されたファイルを検索と置換エディターで開きます。何も結果が選択されていない場合は、最初の一致が強調表示されます。それ以外の場合は、選択されている結果が強調表示されます。

キャンセル

検索をキャンセルします。

スクロールの切り替え

最後に見つかった一致を表示するための自動スクロールと、最後に表示された一致で停止することを切り替えます。

すべてを置換

一致のすべてのインスタンスを置換します。

W3C コンプライアンス

World Wide Web Consortium（W3C）準拠について XHTML または HTML トピックを検証し、W3C に準拠していないエラーメッセージ、有益なメッセージまたは警告を表示することができます。W3C コンプライアンスについては、以下を検証できます。

トピック

プロジェクトマネージャーポッド内のトピックを右クリックして「W3C 準拠を検証」を選択します。

プロジェクト

プロジェクトマネージャーポッドでプロジェクトファイルを右クリックし、「W3C 準拠を検証」を選択します。

RoboHelp では、すべての HTML/XHTML トピックを検証し、準拠していない場合、出力ビューポッドまたはエラーリストポッドに警告またはエラーメッセージを表示します。RoboHelp には、次の様々な状況で、エラー、警告および情報が表示されます。

- エラーは、間違ったタグを追加した場合またはタグを閉じなかった場合に表示されます。
- 警告は、XHTML でタグが有効でない場合に表示されます。
- 情報は、すべてのトピックが有効である場合に表示されます。

注： エラーリストポッドでエラーまたは警告メッセージをダブルクリックし、開くことができます。エラーリストポッドでエラー上にカーソルを置くと、エラーが発生したトピックのラインが示されます。

リファレンス

Oracle プロジェクトの全般ペイン

「全般」ペインは、Oracle Help プロジェクトのトピックのプロパティダイアログボックスおよび新規トピックダイアログボックスに関するものです。

トピックタイトルとファイル名を作成するには、「全般」ペインを使用します。

トピックタイトル

ビューアーに表示されるか、プロジェクトマネージャーでトピックのタイトルを表示する際に表示されます。

ファイル名

トピックファイルの名前です（デフォルトではタイトルに基づいています）。プロジェクトマネージャーでトピックのファイル名を表示する際に表示されます。

ヒント: ファイル名を保存する際、単語間のスペースをアンダースコアに自動的に置き換えることができます。この機能によって、「目次」タブの目次ブックやページと、表示中のペインの内容を同期させることが可能です。

テンプレート

トピックテンプレートを表示または選択します。「なし」を選択すると、デフォルトのスタイルシートから書式設定が使用されます。表示されているテンプレートを見るには、表示ボタンをクリックします。

エディター（トピックのプロパティ用）

プロジェクトの HTML エディターが表示されます。RoboHelp デザインエディター以外のものを使用するには、この設定を変更します。

注: Oracle Help は、（マップファイル内の）トピック ID を使用して、状況依存ヘルプを呼び出します。ID は、トピックの META タグを編集することによって変更できます。

関連するリンク:

ファイル名にアンダースコアを追加

編集と書式

RoboHelp エディター

デフォルトの RoboHelp には、デザインエディターと HTML エディターの 2 つのエディターがあります。サードパーティエディターを使用して、それぞれのドキュメントを編集することもできます。例えば、Microsoft Word を使用して、プロジェクトにリンクしている Word ドキュメントを編集できます。

RoboHelp デザインエディター

プロジェクトマネージャーポッドからトピックファイルを選択したときは、トピックはデザインエディターで開かれます。RoboHelp デザインエディターを使用すると、ドキュメント処理作業を行うだけでなく、リンク、マルチメディア、ダイナミック HTML、「関連項目」ボタンや「関連トピック」ボタンなど、オンライン要素を挿入できます。また、索引キーワードをトピックに追加したり、コンディショナルテキストの適用、シーケンスの閲覧、ID のマップ、マスターページの編集を行うことができます。

デザインエディターでは任意の標準的な XHTML または HTML ファイルを編集できます（スタンドアロン HTML ファイルはプロジェクトに読み込み、編集することができます）。

注：デザインエディターから HTML エディターに切り替えるには、「HTML」タブをクリックします。

RoboHelp HTML エディター

RoboHelp HTML エディターで XHTML コードを記述して、RoboHelp のトピックを作成できます。RoboHelp HTML エディターは、XHTML および HTML タグとテキスト用のテキストエディターです。

RoboHelp HTML エディターを開く

1) プロジェクトマネージャーポッドでトピックのファイルを選択します。デザインエディターでトピックが開きます。
2) 「HTML」タブをクリックし、トピックの HTML コードを表示します。

変更の取り消し

1) 「直前の操作を取り消し」ボタンをクリックします。

   注: 変更を行った後に表示を切り替えた場合は、変更を取り消すことができません。

行番号を表示する

1) トピックの本文を右クリックして、「行番号」を選択します。

   HTMLエディターですべてのコード行に番号が表示されます。

キーワード拡張の追加

キーワード拡張を使用すると、エディターで入力したテキストについて一致したキーワードを表示できます。最も近いキーワードがハイライトされます。リストに表示されたエントリを挿入するにはエントリでクリックします。

例えば、拡張として"RoboHelp"を追加したとします。"R"を入力すると、"R"で始まるキーワードのリストが表示されます。次の文字「o」を入力すると、「RoboHelp」のキーワードがハイライトされます。このキーワードをクリックすると、HTMLエディターに挿入されます。このキーワードに割り当てたテキスト（Adobe RoboHelpなど）がHTMLエディターに表示されます。

注: 入力する文字に一致するキーワードがない場合、ポップアップウィンドウは表示されなくなります。

HTMLエディターにキーワード拡張を追加できます。

1) HTMLエディターを右クリックして「拡張を編集」を選択します。
2) 「新規」をクリックします。
3) （オプション）キーワードボックスに新しいキーワードを入力します。
4) キャプションボックスにキーワードのキャプションを入力します。
5) テキスト領域を挿入するには、「テキスト」に任意のテキストを入力します。このテキストは、HTMLエディターでリストからキーワードを選択する際に表示されます。
6) 「OK」をクリックします。

コード色の変更

RoboHelp HTMLエディターでコードの色を変更することができます。ただし、コンテンツテキストは常に黒色です。

1) HTMLビューで、「カラー」を右クリックして選択します。

2) カラーテーブルダイアログボックスで、アイテムを選択し、テキストとハイライトの一方または両方の色を指定します。

3) 「OK」をクリックします。

関連するリンク：
色の変更

サードパーティ HTMLエディター

他のHTMLエディターでRoboHelpを使用

サードパーティ HTMLエディターでRoboHelpを使用する場合は、次の点に注意してください。

- RoboHelp を開いた状態で HTML を別のエディターで編集することができます。サードパーティ HTMLエディターでトピックを開くと、RoboHelpの機能は使用できません。HTMLコードやHTML要素は挿入できますが、RoboHelpの機能（テキストのみポップアップ、リンクコントロールなど）は挿入または編集できません。
- RoboHelp でファイルを開く前に、サードパーティエディターで開いているファイルを閉じてください。
- サードパーティエディターを使用して画像を挿入する場合、画像はプロジェクトのバゲッジファイルフォルダーに追加されます。添付の .js ファイルなど、画像付きのJavaScriptベースの特殊効果も同じです。

HTMLエディターの追加

検出されたHTMLエディターのリストを使用する場合は、ファイル／オプション／関連付けを選択します。

1) ファイル／オプションを選択します。

2) 「関連付け」タブをクリックします。HTML エディター領域で「追加」をクリックします。

3) HTMLエディターの名前を入力するか、Enterキーを押します。

- 推奨プログラムまたは他のプログラムフォルダーからエディターを選択します。「名前」および「場所」ボックスには、選択されたプログラムに関する情報が表示されます。
- 参照ボタン をクリックします。HTMLエディターのEXEファイルを選択し、「開く」をクリックします。エディターの名前を入力します。

注: 新しいHTMLエディターをインストールした場合は、RoboHelpを再起動するまで追加できません。

HTMLエディターの削除または名前変更

1) ファイル／オプションを選択します。

2) 「関連付け」タブをクリックします。

3) エディターを選択します。「編集」をクリックします。

- エディターの名前を変更するには、「編集」をクリックして、「名前」ボックスに名前を入力します。
- エディターを削除するには、「削除」をクリックします。

注: RoboHelp のデザインエディター、RoboHelp HTML エディターおよびWindowsメモ帳は、変更したりリストから削除したりできません。

HTMLエディターの自動選択またはデフォルトの設定

RoboHelpは自動的にサードパーティのHTMLエディターを開くことができます。RoboHelpはHTMLファイルを使用してエディターを検出します。「自動選択」オプションを使用すると、エディターを独自のMeta/Generatorタグと関連付けて、作成に使用したエディターでトピックを自動的に開くこともできます。

注： RoboHelpに関係付けられているエディターを検索するには、ファイル／オプションを選択し、「関連付け」タブでデフォルトエディターの設定をチェックします。

デフォルトのHTMLエディターを設定することができます。自動選択機能が有効にされていても、新しいトピックの作成には、デフォルトのエディターが使用されます。

1) ファイル／オプションを選択します。

2) 「関連付け」タブをクリックします。1つ以上の次の操作を実行します。

- 「デフォルトエディターを使用」を選択します。「デフォルトとして設定」をクリックします。
- 「自動選択エディター」を選択します。

3) エディターとタグの関連付けを変更するには、「自動選択」を選択します。HTMLエディターは変更できますが、Generatorタグは変更できません。タグを削除することもできません。次のGeneratorタグから選択します。

<なし>

このタグに関連付けられているエディターは、Meta/Generatorタグを持たないファイルで使用されます。

<不明>

このタグに関連付けられているエディターは、「関連HTMLエディター」リストにない、Meta/Generatorタグを持つファイルで使用されます。

<RoboHelp>

このタグに関連付けられているエディターは、RoboHelpのすべてのバージョンで作成されるファイルで使用されます。

次のオプションを使用して、エディターとタグの関連付けを変更します。

追加

エディターをMeta/Generatorタグに関連付けます。

削除

エディターとMeta/Generatorタグの関連付けを削除します。

エディターを設定

「関連付け」にエディターが表示されます。エディターとMeta/Generatorタグの関連付けを変更します。

タグを設定

Meta/Generator タグとエディターの関連付けを変更します。フィールドにMeta/Generatorタグを入力するか、Meta/Generatorタグを含むHTMLファイルを指定します。

4) 完了したら「OK」をクリックします。

注意：

- デフォルトのエディターを設定していても、トピックごとにサードパーティHTMLエディターを使用できます。プロジェクトマネージャーポッドまたはトピックリストポッドでトピックを右クリックし、「編集」を選択します。
- すべてのエディターがMeta/Generatorタグと関連付けられている必要があります。

新規トピックに対するエディターの指定

新規トピックに対してデフォルトのエディターを指定します。

1) プロジェクトマネージャーポッドでトピックを右クリックします。新規／トピックを選択します。

2) エディターを選択します。「OK」をクリックします。「全般」タブをクリックしてオプションを指定します。

3) ファイル／オプションを選択します。「関連付け」タブをクリックします。「デフォルトエディターを使用」を選択します。

書式設定およびフォント

編集ツールバーまたは編集／書式設定／フォントオプションを使用して文字を書式設定すると、インラインスタイルが作成されます。インラインスタイルはシートをオーバーライドします。繰り返し使用するためには、スタイルシートで文字スタイルを作成または修正します。

書式設定の適用または削除

1) 書式を設定するテキストを選択します。次のいずれかを行います。
   - ツールバーで、書式設定オプション用のツールをクリックします。
   - 編集／文字／書式設定／フォントを選択します。

色のテキストへの適用

1) テキストを選択します。
2) 編集ツールバーで、フォントカラーを変更ボタン A 上の矢印をクリックします。
3) カラースウォッチをクリックするか、「その他のカラー」をクリックして、追加のスウォッチから選択するか、カスタムカラーを適用します。

関連するリンク：

スタイルシートのスタイルの作成

フォントの詳細オプションの定義

1) 編集／文字／書式設定／フォントを選択します。
2) 「詳細」をクリックします。

フォントに関する次の詳細オプションを定義できます。

スタイル

フォントがどのように表示されるかを、標準、イタリック、斜体から選択します。

太さ

フォントのプロパティを定義します（軽くまたは重たく見せます）。文字の太さの値には、相対値と絶対値があります。すべてのフォントが表示されている重さであるとは限りません。

上線

テキストを上線で装飾することができます。

プレビュー

選択されたフォントオプションで、テキストがどう表示されるかをデザインエディターで表示します。タブでの違う設定を適用するとビューが更新されます。

文字の間隔の変更

1) 編集／文字／書式設定／フォントを選択します。
2) 「間隔」タブをクリックします。
3) 「標準」、「展開」または「圧縮」を選択します。オプションを設定します。

By

（展開または圧縮の場合）文字の間の間隔を指定します。

配置

テキストの場所を指定します。

4) 「OK」をクリックします。

フォントサイズの変更

1) テキストを選択します。
2) ツールバーの「フォントサイズ」を選択します。

ヒント: WebHelp スキンエディターを使用してナビゲーションペインでフォントサイズを変更することもできます。

フォントセットの作成

フォントセットは、スタイルシートまたは文字や段落の書式で適用されるフォントの集まりです。例えば、HG ゴシック E-PRO を最初に表示するフォント、MS ゴシックおよび MS P ゴシック® を代用のフォントとするフォントセットを作成できます。このフォントセットでは、HG ゴシック E-PRO がインストールされていない場合、ビューアーは MS ゴシックまたは MS P ゴシックを使用します。

1) 編集／文字／書式設定／フォントセットを選択します。
2) 「新規」をクリックし、名前を入力して「修正」をクリックします。第 1 のフォントを選択し、「追加」をクリックします。

   注: フォントセットはプロジェクトと共に保存されます。

フォントセットのテキストへの適用

1) デザインビューでトピックを開きます。書式を設定するテキストを選択します。
2) フォントを選択します。

フォントセットの変更

1) 編集／文字／書式設定／フォントセットを選択します。
2) フォントを選択します。
3) 「変更」をクリックします。
4) 「使用可能なタイプフェイス」からフォントを追加するか、「フォントセット選択」からフォントを削除します。
5) 「OK」をクリックします。

フォントセットの削除

注: フォントセットを削除する前に、そのフォントセットを使用するすべてのテキストの書式を変更します。変更しないと、削除するフォントセットが再作成されます。

1) 編集／文字／書式設定／フォントセットを選択します。
2) 削除するフォントを選択します。
3) 「削除」をクリックします。

記号や特殊文字の挿入

1) デザインエディターでトピックを開きます。文字の場所を選択します。
2) 挿入／メディア／記号を選択します。
3) 記号をダブルクリックします。

非分離スペースの挿入

1) 非分離スペースが必要な挿入ポイントを指定します。Ctrl+Alt+ スペースを押します。

段落の書式設定

編集ツールバーまたは編集／段落／段落書式／段落オプションを使用して段落を書式設定すると、インラインスタイルが作成されます。インラインスタイルはシートをオーバーライドします。繰り返し使用するために、スタイルシートで段落スタイルを作成または修正します。

段落の整列

1) デザインビューでトピックを開きます。整列する段落を選択します。
2) ツールバーの整列ボタンをクリックします。

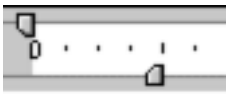
段落のインデント

1) 段落内をクリックします。
2) 次のいずれかを行います。
   - ツールバーでインデントを減らすボタン またはインデントを増やすボタン をクリックします。
   - 編集／段落／段落書式／段落を選択します。インデントの設定：
   - 左または右余白インデントの場合、「上」または「下」をクリックしてリストから数値を選択します。
   - 最初の行インデントの場合、「特殊」の下にある三角形をクリックし、「先頭行」を選択します。「間隔」で、「上」または「下」をクリックして、リストから数値を選択します。
   - ぶら下がりインデントの場合、「特殊」の下にある三角形をクリックし、「ぶら下がり」を選択します。「間隔」で、「上」または「下」をクリックして、リストから数値を選択します。

テキスト行のインデント

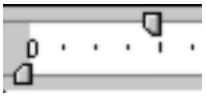
1) 編集／表示／表示 / 非表示／定規を選択します。
2) デザインエディターで、インデントを作成する場所にカーソルを置くか、変更するテキストを選択します。
3) ルーラーで、次のいずれかの操作を行います。
   - ぶら下がりインデントを作成するには、インデントを開始する場所で下マーカーをドラッグします。

   ぶら下がりインデントのマーカー位置



   - 先頭行インデントを作成するには、テキストを開始する場所に上マーカーをドラッグします。

   先頭行インデントのマーカー位置



余白の変更

シングルトピックを変更する場合、この手順に従います。それ以外の場合、スタイルシートを使用します。

1) 編集／表示／表示 / 非表示／定規を選択します。

2) デザインエディターで、余白を変更する場所にカーソルを置くか、変更するテキストを選択します。

3) ルーラーで余白マーカーをドラッグします。

ヒント：

- 表では、カーソルを表の中で動かして各セルに余白設定を適用します。
- 正確な余白を指定するには、編集／段落／段落書式／段落を選択します。
- 特定のスタイルに影響する余白設定を指定するには、スタイルシートを変更します。
- ルーラーを右クリックすると、「目盛りマークにスナップ」オプションにアクセスできます。このオプションを選択し、ルーラー上の目盛りに合わせて整列するよう、ルーラー上のマーカーをドラッグします。細かい区切りにマーカーを移動するには、「目盛りマークにスナップ」を選択解除します。

関連するリンク：

スタイルシートのスタイルの作成

ルーラーの測定単位の変更

1) 編集／表示／表示 / 非表示／定規を選択します。

2) ルーラーを右クリックします。

3) 測定の単位を選択します。

段落の言語の定義

段落の言語を選択します。言語が選択されていない場合、プロジェクトの言語が段落に適用されます。

1) 右クリックして、「段落」を選択します。言語メニューから言語を選択します。

関連するリンク:
複数言語のサポート

テキストの折り返しの適用

1) デザインエディターで、オブジェクトをダブルクリックします。
2) 「テキストの回り込み」からオプションを選択します。

   注: 「周囲」(表の場合)を使用するには、表は左揃えまたは右揃えである必要があります。

3) (オプション)オブジェクトとその周りのテキスト間のスペースを設定するには、「余白」をクリックします。
   - 選択したオブジェクトと周囲のテキストの間隔の値を入力します。
   - テキストとオブジェクトの間隔を設定するか、値を入力します。「左揃え」または「右揃え」の整列を選択するかにより、「すべて」または「左/右」か「上/下」の間隔を入力できます。
4) 「OK」をクリックします。

注意:

- テキストの折り返しを使用するには、表が左揃えまたは右揃えに、サイズが100%未満に設定されている必要があります。
- 画像の周囲にテキストの折り返しが適用されている場合、画像を整列することはできません。

行間の調整

1) 編集／段落／段落書式／段落を選択します。

2) 「間隔」オプションを次のように設定します。

前

各段落の前の行間を指定します。

後

各段落の後の行間を指定します。

間隔

（固定値と倍数）選択した行間の間隔を（ポイントで）入力します。

3) 「OK」をクリックします。

改行の段落への追加

手動の改行は現在の行を終止して、テキストを次の行に配置します。

1) デザインエディターでトピックを開きます。改行する場所をクリックします。

2) 挿入／ページデザイン／改行を選択します。または、Shift + Enter を押します。

罫線、背景、カラー、およびサウンド

スタイルを使用せずに書式設定を適用すると、インラインスタイルが作成されます。インラインスタイルはシートをオーバーライドします。

トピックの罫線と背景の追加または編集

1) トピックを開きます。トピック、または段落や表セルなどのトピック要素を選択します。
2) 編集／段落／段落書式／罫線と網かけを選択します。
3) 「罫線」タブまたは「網かけ」タブをクリックします。
4) 罫線または網かけのオプションを指定します。「OK」をクリックします。
5) すべてを保存ボタン をクリックします。

関連するリンク：

スタイルシートの罫線または背景の追加または編集

画像への罫線の追加

1) デザインエディターで、画像をダブルクリックします。
2) 「画像」タブをクリックします。「罫線」をクリックします。
3) 罫線のオプションを設定します。
4) 「OK」をクリックします。

関連するリンク：

スタイルシートの罫線または背景の追加または編集

罫線または背景の削除

1) トピックを開きます。
2) 罫線または背景が付属するアイテムを選択します。
3) 次のいずれかを行います：
   - ツールバーで、罫線の種類ボタン をクリックし、罫線のないオプションを選択します。
   - ツールバーで、塗りつぶしカラーボタン をクリックして、「なし」を選択します。
   - 編集／段落／段落書式／罫線と網かけを選択します。「罫線」タブまたは「網かけ」タブをクリックします。罫線を「なし」または塗りつぶしカラーを「透明」に設定します。背景画像を削除するには、「パターン」領域の画像ボックスから画像名を削除します。

横線の追加または変更

横線の追加

横線のGIF画像を挿入するか、次の手順を使用すると、線を追加および変更することができます。

1) デザインビューでトピックを開き、線を挿入する箇所をクリックします。
2) 挿入／HTML／テキストボックス／横線を選択します。
3) 線のオプションを選択します。
   - 線の長さを変更するには、「幅」に値を入力します。
   - 線の太さを変更するには、「高さ」に値を入力します（数値が低いほど、線が細くなります）。
   - 配置を指定するには、線の位置を選択します。
   - 線の色を変更するには、「カスタム」をクリックして色を選択します。
   - 余白を追加するには、余白をクリックしてオプションを選択します。
   - 罫線を追加するには、「罫線」をクリックしてオプションを選択します。

横線の削除

線を選択して、削除ボタン をクリックします。

色の変更

1) 編集／文字／書式設定／色を選択します。
2) 「新規」をクリックします。色の名前を入力します。
3) 「変更」をクリックします。次のいずれかを行います：
   - 基本の色見本をクリックします。
   - カラースペクトルボックスと垂直方向のカラーバーをクリックして、色に含まれる黒と白の量を調整します。
   - 色相、彩度、および明るさの値を指定します。0～255の値を入力します。

- 赤、緑、および青の値を指定します。0～255の値を入力します。
- スライダーをドラッグして明るさを調節します。
- 「セーフカラーにスナップ」を選択して、選択した色を最も近いWeb対応カラーに変更します。

色の削除

注: 色を削除する前に、その色が設定されているテキストの書式を再設定してください。

1) 編集／文字／書式設定／色を選択します。
2) 色を選択して削除します。
3) 「削除」をクリックします。

トピックへのサウンドの追加

1) 「トピックリスト」ポッドで、1つ以上のトピックを選択します。
2) プロパティボタンをクリックします。
3) 「外観」タブをクリックします。
4) 「背景サウンド」ボックスにサウンドファイル名を入力します。次の形式がサポートされています。

.au

UNIXシステムで使用されます。Microsoft WindowsとHTMLヘルプでサポートされています。

.mid、.rmi

Musical Instrument Digital Interfaceです。電子楽器による人工的なサウンドの標準です。

.wav

Windowsのサウンド形式です。

5) 「サウンドループ回数」ボックスにサウンドファイルを再生する回数を入力します。

表

表について

RoboHelp for HTML では、複雑なデータを簡単な書式に整理する表を作成できます。表を使用すると、様々な要素を整理して様々な色を使用して分類したり、グループ内の様々な要素を簡単に識別できるようにパターンを描くことができます。

表のスタイルを使用すると、表に様々な書式を選択できます。スタイルを使用すると、ヘッダー行やヘッダー列、最初の行や最後の行、行や列で繰り返し使用できるグループ、セル内の余白などを定義できます。表のプロパティを使用すると、テーブル内の余白の設定、様々なセルの幅と高さの定義、様々な表のスタイルの選択が可能です。RoboHelp for HTML で定義済みの表のスタイルを使用するだけでなく、様々な種類のデータを表示する独自の表のスタイルを作成できます。例えば、給料の構成要素を示す簡単な表を作成したり、給料の構成要素、節税のための投資などの税金控除の合計を表示する表を作成することもできます。複数のトピックで使用できるグローバルな表のスタイルを使用できます。

FrameMaker ドキュメントや Word ドキュメントを読み込んで、表のスタイルを RoboHelp の表のスタイルにマップしたり、他の書式の元のスタイルを保持することもできます。

表にテキストを追加できます。表のコンテンツに相互参照、画像、ハイパーテキストリンクを追加できます。コンディショナルビルドタグを行や列に適用して、特定の出力で非表示または表示することができます。例えば、RoboHelp 出力のそれぞれの機能を説明する表を作成することもできます。特定の出力に関する機能を記載した各列にコンディショナルビルドタグを適用して、出力を生成した場合のみ表示することもできます。

表のトピックの目次とブレッドクラムのサポートは、整理された、わかりやすい形式でのコンテンツの表示に便利です。

表作成のワークフロー

1) ツールバー、または表メニューを使用して、表を挿入します。さらに、表のグリッドで行と列の数を選択します。

   表の挿入を参照してください。

2) 表に適用するグローバルなスタイルを選択します。編集／スタイルタブを使用して、独自の表のスタイルを作成することもできます。

   注: 表のスタイルを選択しない場合、デフォルトの表のスタイルが表に割り当てられます。

   表のスタイルを参照してください。

3) 表のプロパティダイアログボックスで、表のプロパティを変更します。表で余白やセルの整列を設定したり、表に網かけや罫線を適用することができます。

   表の編集を参照してください。

表の挿入

トピックまたはマスターページに、ヘッダーとフッターを含んだ表を挿入することができます。また、表内に表を挿入することもできます。挿入した表に様々な表のプロパティを適用すると、複雑なデータを表示できます。

基本の表の挿入

1) 表を追加する場所をクリックします。
2) 挿入／表を選択します。
3) 表グリッドでドラッグして、追加する列と行を決定します。
4) クリックして表を挿入します。

カスタム表の挿入

1) 表を追加する場所をクリックします。
2) 挿入／表を選択します。
3) 行と列の数を指定します。
4) 表テンプレートを選択するか、CSS スタイルからカスタムスタイルを選択します。
5) 「OK」をクリックします。

ヒント : 表の下に線を追加するには、表の右下のセル内でクリックします。カーソルが点滅しているときに、右向き矢印キーを押すか、下向き矢印キーを押します。Enter キーを押し、新しい線を開始します。

表の中への表の挿入

表に別の表を挿入すると、2 つめの表は、1 つめの表の 1 つのセルの中に含まれることになります。それぞれの表のプロパティを変更して、情報をさらに区別することもできます。

挿入したセルの幅に合わせて 2 つめの表は作成されます。挿入後にこの設定を変更することができます。

表のコピー / ペースト

表をカット、コピー、およびペーストすることが可能です。

1) 表の周りの点線を選択します。表の周りのボックスは、その表が選択されていることを示しています。
2) 右クリックします。「コピー」を選択します。表を移動するには「カット」を選択します。
3) コピー先を右クリックします。「ペースト」を選択します。

ヒント : 表の下に線を追加するには、表の右下のセル内でクリックします。カーソルが点滅しているときに、右向き矢印キーを押すか、下向き矢印キーを押します。Enter キーを押し、新しい線を開始します。

表の編集

表の編集のデモについては、表および表スタイルを作成・管理する簡単な方法ビデオの表の操作セクションを参照してください。

表の行または列の挿入

- 表の中をクリックします。行または列の書式設定を選択します。
- 複数の行または列を挿入するには、表で複数のセルを選択します。書式／挿入／行または列を選択します。
- 行または列を選択します。選択範囲をコピーまたはカットして、新しい場所でペーストします。
- 表または表の一部を削除します。表、行、列またはセルを削除するには、選択して右クリックします。*[オブジェクト]*の削除を選択します。

  注： 同じ表の中や別の表の行、列、およびセルをカット、コピー、およびペーストすることもできます。

表のプロパティの編集

1) 表をクリックします。
2) 書式／表／プロパティを選択します。
3) オプションを設定します。

自動フィット表のプロパティの設定

1) 表をクリックします。
2) 書式／サイズ／内容に合わせて自動サイズ調整を選択します。

   列の幅を列のコンテンツの幅に設定します。

   OR

   書式／サイズ／ウィンドウの自動サイズ調整を選択します。

   列の幅を固定サイズに設定します。

セルのプロパティの編集

セルのプロパティを編集するには、カーソルを表の内側に置いて、書式／表／プロパティ／セルタブをクリックします。

- セルの間隔を入力できます。css の表のスタイルでセルの間隔が設定されていたり、行や列の書式が設定されていると、このオプションは表のプロパティ／セルで有効になりません。
- 各セル内のテキストの縦の配置を選択します。

注: 「セル」タブを使用して配置およびセルの間隔を設定すると、表のすべてのセルに対して適用されます。

セル内の間隔の変更

セルの内容と枠線との間隔を定義します。間隔を追加すると、表が見やすくなります。

1) 変更するセルを1つ以上選択します。
2) 編集／段落／段落書式／罫線と網かけをクリックします。
3) 「罫線」タブをクリックします。「パディング」をクリックします。
4) 「上」、「下」、「左」、および「右」ボックスに値を入力します。
5) 「OK」を2回クリックして変更を適用します。

注: 「余白」オプションは表の周囲の間隔を設定します。

表のセルのマージまたは分割

1) マージまたは分割するセルを選択します。
2) 書式／結合／結合または書式／セルの分割を選択します。

   ヒント: セルを複数の行および列に分割して表を作成することができます。

関連するリンク:

表のスタイル

リスト

リストのインデント

1) インデントするリストアイテムを選択します。次のいずれかを行います。
   - ツールバーで「インデントを減らす」および「インデントを増やす」をクリックします。

     注: Shift+Tab や Tab を押してインデントを増減することもできます。
   - 書式メニューから、「段落」を選択し、「左」または「右」に数値を入力します。
   - （マルチレベルリスト）ルーラー上でマーカーをドラッグして、数字または文字とリストアイテムとの間の間隔を設定します。

箇条書きスタイルの適用

注: ツールバーまたは書式メニューを使用してリストを書式設定すると、インラインスタイルが作成されます。スタイルシートは影響を受けません。

インラインの箇条書きスタイルを指定します

1) デザインエディターでトピックを開きます。
2) テキストを選択します。
3) リストを右クリックし、「箇条書きと段落番号」を選択します。
4) 次のいずれかを行います。
   - 箇条書きスタイルを選択します。
   - カスタム箇条書きを作成するには、「参照」をクリックします。GIF ファイルを選択します。「OK」をクリックします。ファイルはバゲッジファイルに追加されます。

スタイルシートの箇条書きスタイルの作成

1) トピックを開き、箇条書きスタイルをカスタマイズします。
2) 式メニューから、「スタイル」を選択します。
3) 「リスト」から「すべてのスタイル」を選択します。
4) 「利用可能な場所」から、外部または埋め込み済みのスタイルシートを選択します。
5) スタイルリストでスタイルを選択し、新規スタイルを作成ボタン をクリックします。
6) 「スタイルタイプ」で、「段落スタイル」を選択します。
7) 新規スタイルの名前を入力します。名前には文字と数字のみを使用できますが、先頭に数字を使用することはできません。
8) 「次の段落のスタイル」で、「(変更なし)」を選択します。
9) 「書式」をクリックし、設定を指定します。

箇条書きの色をテキストに一致

インラインスタイルを使用したカラーの一致

1) 箇条書きリストを選択し、編集／文字／書式設定／フォントを選択します。

   行頭文字とテキストの色は、スタイルに関連付けられるのではなく、インラインになります。

スタイルシートを使用した色の一致

1) デザインエディター内にカーソルを置いて、編集／スタイル／スタイルポッドを選択します。
2) スタイルリストでスタイルを選択し、新規スタイルを作成ボタン をクリックします。
3) 「スタイルタイプ」で、「段落スタイル」を選択します。
4) 新規スタイルの名前を入力します。名前には文字と数字のみを使用できますが、先頭に数字を使用することはできません。

5) 「次の段落のスタイル」で、スタイルを選択します。

段落のスタイルは、段落全体に適用され、フォント、行間隔、段落番号、罫線と網かけ、DHTML効果に影響します。

6) 書式／フォントを選択します。

7) 色を選択します。

8) 「OK」を2回クリックします。

9) 書式設定するテキストを選択します。「箇条書き」をクリックします。

10) 「スタイルリスト」から、作成したスタイルを選択します。

箇条書きと番号付きリストの削除

1) 書式を変更する箇条書きまたは番号付きリストを選択します。

2) 編集メニューで「番号付きリストを作成」または「箇条書きリストを作成」切り替えボタンをクリックします。

段落番号形式の適用

注: ツールバーまたは書式メニューを使用してリストを書式設定すると、インラインスタイルが作成されます。スタイルシートは影響を受けません。

1) デザインエディターでトピックを開きます。

2) 番号付きリストを選択します。

3) リストを右クリックし、「箇条書きと段落番号」を選択します。

4) 「番号付き」タブをクリックします。番号付き書式を選択します。

リスト内での段落の追加

この手順を使用して、リストの番号付きまたは箇条書きのアイテムを挿入します。

1) ラインの端でクリックして、段落を挿入します。

2) Shift+Enterキーを押します。

3) 改行を終了し、番号付けまたは箇条書きを再開するには、Enterキーを押します。

4) （オプション）デザインエディターの上部にあるルーラーをドラッグして、段落をインデントします。

ヒント: リストを終了および開始するには、ツールバーの番号付きリストボタンをクリックします。

段落番号またはレタリングの再開または継続

ネストしたリストを挿入した後は、コンテナリストの番号付けまたはレタリングを調整できます。

1) 新しい番号またはレタリングを開始する行に挿入ポイントをおきます。

2) リストを右クリックし、「箇条書きと段落番号」を選択します。

3) 「番号付きリスト」タブを選択します。

4) 「開始番号」に開始番号を入力します。

   アルファベット順のリストの場合、開始文字に対応する数値を入力します。例えば、文字Dの場合は4を入力します。

5) 「OK」をクリックします。

ヘッダー、フッター、改ページ

ヘッダーとフッター

トピックまたはマスターページにヘッダーまたはフッターを作成できます。

ヘッダー/フッターを編集または削除すると、トピックとマスターページは次のようになります。

トピック内

変更がトピックに適用されます。

マスターページ内

変更はテンプレートに関連するすべてのトピックに適用されます。

マスターページに関連付けられたトピック内

変更を現在のトピック、マスターページ、または関連付けられたすべてのトピックに適用するかを選択できます。

ヘッダーおよびフッターの作成または編集

1) トピックまたはマスターページを開きます。
2) 挿入／ページデザイン／トピックの目次／ヘッダーまたはフッターを選択します。
3) ヘッダーまたはフッターの内容を入力します。テキストのみポップアップはサポートされていません。
4) （オプション）余白、罫線、色、または画像を追加および編集するには、ヘッダーまたはフッターを右クリックし、「ヘッダーのプロパティ」、または「フッターのプロパティ」を選択します。

   注: 選択した画像ファイルは、バゲッジファイルフォルダーに追加され、生成する際にプロジェクトに含まれます。
5) ヘッダーまたはフッターの外側をクリックします。
6) すべてを保存ボタンをクリックします。

ヘッダーおよびフッターの削除

1) ヘッダーまたはフッターを含むトピックまたはマスターページを開きます。
2) 「ヘッダー」ボタンまたは「フッター」ボタンをクリックします。
3) ヘッダーまたはフッターを右クリックし、「ヘッダーを削除」または「フッターを削除」を選択します。
4) すべてを保存ボタンをクリックします。

改ページの挿入

トピック内に改ページを挿入して、印刷ドキュメント出力内で新しいページを開始します。

1) デザインエディターでトピックを開きます。改ページする場所をクリックします。
2) 挿入／ページデザイン／改ページを選択します。または、Ctrl + Enter を押します。

テキストボックス

トピックでのテキストボックスの挿入

注意：

- 表示メニューから「配置」を選択します。
- テキストは、テキストボックスの周囲に配置できます。
- Internet Explorer 4.0またはそれ以降を使用している場合は、テキストボックスに段落を配置することで、段落にダイナミックHTML効果を適用できます。

テキストボックスの挿入

1) テキストボックスを挿入する位置をクリックします。
2) 挿入／HTML／テキストボックスを選択します。
3) （オプション）テキストボックスを右クリックし、「テキストボックスのプロパティ」をクリックします。プロパティを修正します。
4) テキストボックスをクリックして、テキストを入力するか、画像やその他の要素を入力します。

配置済みテキストボックスの挿入

ページ上で正確に情報を配置すると、その他の要素がテキストボックスの後ろを流れることが可能になります。

1) 挿入／HTML／テキストボックス／配置済みテキストボックスを選択します。
2) 配置済みテキストボックスを選択して、必要な場所にドラッグします。
3) 配置済みテキストボックスを右クリックし、「配置済みテキストボックスのプロパティ」を選択します。プロパティを調整します。

配置済みテキストボックスのレイヤー化

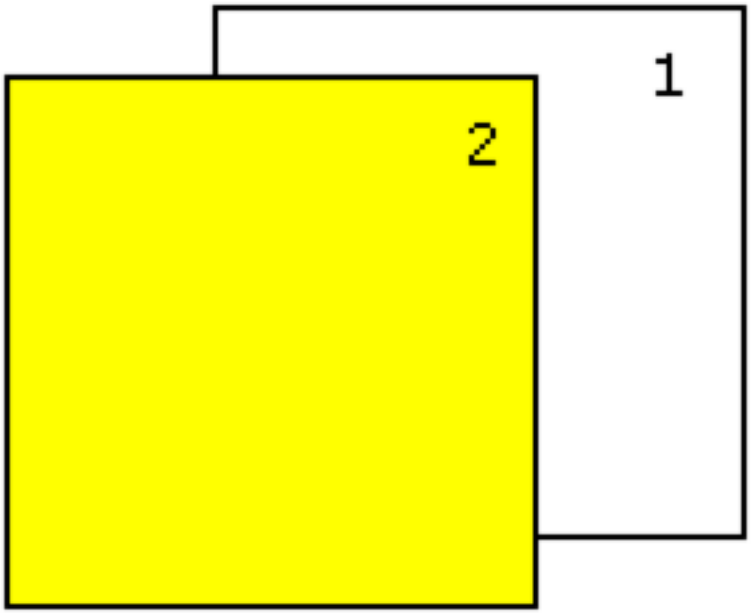
ダイナミックHTML（DHTML）効果を適用することにより、配置済みテキストボックスを重ね、その表示順序を指定します。

1) 最下層レイヤーのテキストボックスを選択します。

2) 配置ツールバーのZメニューから、「1」を選択します。

3) その他のテキストボックスに対して繰り返します。

レイヤー化されたテキストボックス



テキストボックスのプロパティの変更

1) テキストボックスを右クリックします。「テキストボックスのプロパティ」または「配置済みテキストボックスのプロパティ」を選択します。

2) プロパティを変更します。

トピックからのテキストボックスの削除

1) テキストボックスを選択します。

2) 編集ツールバーで、削除ボタンをクリックします。

ユーザー定義変数

ユーザー定義変数に静的なグローバル情報を保存し、プロジェクトで繰り返し使用できるため、情報を移植性を持った更新しやすい情報にすることができます。変数または値を修正すると、その変数または値の出現箇所すべてが、プロジェクト全体にわたって更新されます。ユーザー定義変数ポッド（プロジェクト／開く／ポッドから使用可能）には、プロジェクト内のすべてのユーザー定義変数が表示されます。

ヒント: ドキュメントは変数と共にプロジェクトに読み込むことができます。

注: RoboHelp の以前のバージョンからアップグレードすると、変数の値は HTML テキストに変換され、このような変数の値がデフォルトの変数セットに表示されます。

ユーザー定義変数の作成

グローバル変数の場合、必要なすべての変数が存在していることを確認します。

1) 次のいずれかを行います。

- プロジェクト／開く／ポッド／ユーザー定義変数を選択します。
- トピックの単語を右クリックします。追加／ユーザー定義変数を選択します。

2) 変数名と値を入力します。

   変数名は、英数字、アンダースコア（_）、およびハイフン（-）のみを使用し、255 文字以内で指定します。変数の値が空白になることがあります。

3) 「OK」をクリックします。変数が挿入されます。

ヒント: Ctrl+F9 キーを押し、トピックに表示されるかっこの中に変数名を指定します。変数をダブルクリックして変数ダイアログボックスで値を指定します。**注**: 変数はデフォルト変数セットで作成できますが、他の変数セットで変数の値を変更できます。

変数セットの作成

変数セットを使用すると、様々なユーザー定義変数の値を変更して、様々な出力で使用できます。

デフォルト変数セットはマスター変数セットです。変数を挿入すると、変数はデフォルト変数セットから取得されます。

ユーザー定義変数ポッドで異なる変数セットを作成して、デフォルト変数セット内の変数の値をオーバーライドし、それらをさまざまな出力で使用できます。デフォルト変数セット以外の変数セットを使用するには、レイアウトプロパティのコンテンツペインで変数セットを選択します。

1) 変数セットを追加/編集アイコンをクリックします。
2) 「追加」をクリックし、新しい変数セットの名前を指定します。
3) 「OK」をクリックします。

注: それぞれのボタンをクリックして、変数セットダイアログボックスで、変数セットを編集または削除します。

ユーザー定義変数の編集

1) ユーザー定義変数ポッドで、デフォルトの変数セットから、ユーザー定義の変数を選択します。
2) 次のいずれかを行います。

- 右クリックし、「編集」を選択します。
- ユーザー定義変数エディターで値を選択し編集します。
- 編集メニューで、「[変数名] を編集」を選択します。

3) （オプション）別の変数セットを選択します。
4) 値を修正します。
5) 「OK」をクリックします。

注: ユーザー定義変数エディターでユーザー定義変数を書式設定できます。エディターのデザインボタンとHTMLボタンを使用すると、デザインエディターとHTMLエディターを切り替えることができます。

ユーザー定義変数の書式設定

ユーザー定義変数エディターで変数の値を書式設定できます。デザインエディターを使用して、以下もアーカイブできます。

- 画像、ハイパーテキストリンクおよび変数値のマルチメディアファイルを挿入します。
- コンディショナルビルドタグを値に適用します。
- 変数の値にスペルチェックを実行します。

ユーザー定義変数の挿入

ユーザー定義変数ポッドからユーザー定義変数を、デザインエディター内で開いているトピックの必要な位置にドラッグできます。変数のリストが長い場合は、変数の名前または値を指定して変数を検索します。次の手順を使用して変数を挿入することもできます。

1) トピック内の必要な位置に挿入ポイントを置きます。
2) 挿入／変数／変数を選択します。
3) 変数を選択して「OK」をクリックします。

   ヒント: 変数の名前または値を指定して変数を検索します。検索文字列を入力していくと、RoboHelp は変数リストを絞り込みます。

ユーザー定義変数のプロパティの表示

1) ユーザー定義変数ポッドで、デフォルトの変数セットを選択します。
2) 変数を選択します。
3) 次のいずれかを行います。
   - 右クリックし、「プロパティ」を選択します。
   - 編集／プロパティを選択します。
4) 詳細（「変数名」、「変数セット」、「変数値」、「説明」、「トピック内で使用済み」）を表示します。
5) 「OK」をクリックします。

変数の表示を切り替え

次のいずれかの方法で、変数名とその値を簡単に切り替えられるようになりました。

1) キーの組み合わせを使用します。トピックの変数をクリックし、Shift+F9 で単一のフィールドを切り替えるか、Shift+F11 ですべてのフィールドを切り替えます。

2) コンテキストメニューを使用します。変数を右クリックし、フィールド／フィールドを変更を選択して単一の変数を切り替えるか、「すべてのフィールドを変更」を選択してすべての変数を変更します。

   変数をマウスでポイントすることでも変数名を表示できます。

   注: 「変数の表示を切り替え」および「コンテキストメニュー」オプションは、変数名を選択した場合にのみ表示されます。

ユーザー定義変数の削除

1) ユーザー定義変数ポッドで、デフォルトの変数セットを選択します。

2) ユーザー定義の変数を右クリックし、「削除」を選択します。

3) 次のいずれかのオプションを選択します。

変数とその参照を削除

すべてのトピック、目次、索引、SSL、およびテンプレートで変数とその参照を削除します。削除の前に警告は表示されません。

注: 変数レポートを使用して、削除する必要のある変数を探すことができます。

変数のみを削除

変数の値をローカルで削除します。目次でユーザー定義変数を削除しても、索引からは削除されません。

注: シングルソースレイアウトファイルで変数値を上書きすると、その変数はシングルソースレイアウトダイアログボックスの変数リストから削除されます。

変数を削除して実際の内容と置換

すべてのトピック、目次、索引、SSL、およびテンプレートで変数を削除します。変数の書式のルールは変わりません。

ユーザー定義変数の名前の変更

注: 保存された変数名は変更できません。

1) プロジェクト／開く／ポッド／ユーザー定義変数を選択します。ユーザー定義変数ポッドが表示されます。
2) 変数を右クリックし、「名前を変更」を選択します。
3) 「変数名」フィールドに名前を入力します。
4) 「変数値」フィールドで値を修正します。
5) 「OK」をクリックします。

スニペットによるシングルソース

スニペットとは、様々な場所でシングルソースおよび再利用できる要素です。スニペットには、テキストの段落、コードリスト、画像などのオブジェクト、または独立したトピック全体を使用できます。スニペットを作成すると、RoboHelpにより、.hts拡張子を持つファイルとしてスニペットポッドに追加されます。スニペットを変更すると、スニペットを共有するすべてのトピックでスニペットが自動的に更新されます。スニペットには画像、変数、およびコンディショナルテキストタグを含めることができます。トピックで共有されている場合、スニペットはインラインテキスト書式を保持します。CSS書式設定は、スニペットを含むトピックで適用されるCSSに応じて変更されます。

スニペットポッドには、各選択についてすべてのスニペットのプレビューが表示されます。スニペットポッドで右クリックすると、プレビューモードの有効/無効を切り替えることができます。スニペットをポッドからトピック、Windowsエクスプローラーからスニペットポッドにドラッグします。1つ以上のスニペットを選択し、コピー、複製、または削除を行うこともできます。**注**: 使用されていないスニペットに関するレポートを生成し、使用されていないスニペットを削除することができます。

スニペットをスニペットポッドからリソースマネージャーにドラッグアンドドロップして、ターゲットフォルダーに書き出すことができます。グローバルレベルには書き出されたスニペットがあり、すべてのユーザーに表示されます。スニペットをリソースマネージャーポッドからスニペットポッドにドラッグすると、RoboHelpにより、選択したスニペットファイルおよび関連付けられたファイルがプロジェクトに書き出されます。

注： スニペットをデザインエディターでドラッグアンドドロップし、コンテンツを編集できます。

関連するリンク：

共有リソースの管理

スニペットの作成および管理

- 新しくスニペットを作成するには、挿入／変数／スニペットを選択します。カテゴリ名を指定します（カテゴリ名を指定しなかった場合は、RoboHelpはスニペットをデフォルトカテゴリに追加します）。
- 既存のコンテンツからスニペットを作成するには、テキストを選択します。右クリックし、追加／スニペットを選択します。カテゴリ名を指定します（カテゴリ名を指定しなかった場合は、RoboHelpはスニペットをデフォルトカテゴリに追加します）。
- スニペットのプロパティを表示するには、スニペットポッドでスニペットを右クリックし、「プロパティ」を選択します。「使用箇所」タブで、スニペットが使用されるトピックの名前を見ることができます。
- スタイルシートをスニペットに適用するには、スニペットポッドでスニペットを右クリックし、「プロパティ」を選択します。「外観」タブをクリックし、スタイルシートを選択します。
- スニペットをコピーするには、スニペットポッドでスニペットを右クリックし、コンテキストメニューから「コピー」を選択します。
- スニペットを読み込むには、プロジェクト／読み込み／スニペットを選択し、ソースフォルダーに移動します。
- スニペットを書き出すには、スニペットポッドでスニペットを選択し、ツールバーで をクリックし、宛先フォルダに移動します。
- スニペットコンテンツでレビュー用のPDFを作成するには、スニペットポッドでスニペットを右クリックし、「レビュー用のPDFを作成」を選択します。設定をカスタマイズし、「OK」をクリックします。
- スニペットに変数を挿入するには、ポインターを挿入し、ユーザー定義変数ポッドから変数をドラッグします。
- スニペットをプレビューするには、スニペットポッドでスニペットを右クリックし、「プレビューを表示」を選択します。

トピックでのスニペットの挿入

1) トピックを開きます。

2) 次のいずれかを行います。

- オブジェクトツールバーで、スニペットを挿入アイコン をクリックします。
- スニペットポッドからスニペットを選択し、トピックにドラッグアンドドロップします。
- 挿入／変数／スニペットを選択します。ダイアログボックスで一覧からスニペットを選択し、「OK」をクリックします。

  注： リソースマネージャーのスニペットを右クリックして、「プロジェクトに追加」を選択し、スニペットをプロジェクトに追加します。

ドロップダウンテキストエディターでのスニペットの挿入

1) トピックを開きます。

2) 展開する一部のテキストを選択します。

3) 挿入／DHTML／ドロップダウンテキストを選択します。

4) スニペットポッドからスニペットをドラッグし、ドロップダウンテキストエディターにドロップします。**注：** トピックをプレビューして、DHTMLを適用したテキストをクリックします。ドロップダウンテキストにスニペットが表示されます。

スニペットへのコンディショナルビルドタグの適用

コンディショナルビルドタグポッドを使用するか右クリックして、スニペットの全体または一部にコンディショナルテキストを適用します。また、プレビューオプションを使用すると、選択したテキスト、コードまたは画像上にコンディショナルタグを適用することもできます。出力からコンディショナルビルドタグを除外したり、出力にコンディショナルビルドタグを含めることができます。

スニペットへの変数の挿入

ユーザー定義変数ポッドから変数を選択するか、トピックで右クリックして「ユーザー定義変数を挿入」を選択します。スニペットの挿入ポイントに変数の値が表示されます。

スニペットをテキストに変換する

挿入されたスニペットを埋め込みテキストに変換します。スニペットが更新された場合、RoboHelpは埋め込みテキストを更新しません。

1) トピック内のスニペットをクリックします。

2) 右クリックし、「HTMLテキストに変換」を選択します。

スニペットの削除

1) スニペットポッドで、削除するスニペットを選択し、「選択したアイテムを削除」をクリックします。

2) 次のいずれかのオプションを選択します。

スニペットおよびその参照の削除

すべてのトピック、目次、索引、SSL、およびテンプレートでスニペットとその参照を削除します。削除の前に警告は表示されません。

注: スニペットレポートを使用して、削除する変数を探すことができます。

スニペットのみを削除

スニペットのコンテンツをローカルに削除します。例えば、目次内のスニペットを選択し、このオプションが選択された状態でそれを削除しても、スニペットのコンテンツは索引からは削除されません。

スニペットを削除して参照を実際のコンテンツで置換

スニペットを削除し、プロジェクト内の参照をコンテンツで置き換えます。

リファレンス

METAタグデフォルトエディター

RoboHelpデザインエディターを、METAタグを持たないトピック用のデフォルトエディターに設定するには、「はい」をクリックします。「いいえ」をクリックして、現在の設定を保持します。トピックが選択されたエディターで開きます。

スタイルとスタイルシート

スタイルの種類

プロジェクト単位でスタイルシートを管理し、トピック単位でスタイルを適用することができます。マスターページには、トピックのレイアウトが用意されているので、スタイリングを制御することができます。次の種類のスタイルが使用できます。

インラインスタイル

デザインエディターを使用して直接書式設定される、HTMLファイル（トピック）内のテキストブロックとその書式設定。インラインスタイルは、外部参照スタイルおよび埋め込みスタイルに優先します。インラインスタイルを参照してください。

埋め込みスタイル

HTMLファイル（トピック）に保存されているスタイルの定義。埋め込みスタイルは、外部参照スタイルに優先します。文字または段落のスタイルを作成することができます。

カスケードスタイルシートのスタイル（CSS）

CSSファイルに保存されているスタイル定義。文字、段落、リスト、マルチレベルリスト、および表のスタイルを作成することができます。

WinHelpプロジェクトをHTMLベースのプロジェクトに変換した後、スタイルは次のように使用できます。

HPJファイルから作成されたプロジェクト

Wordテンプレートのスタイルと同じ書式を使用するスタイルを作成できます。このスタイルは、HTMLトピックに適用されるスタイルシートに保存されます。スタイルシートが必要でない場合は、Wordの書式を、HTMLトピックのインラインスタイルに変換します。

HLPファイルから作成されたプロジェクト

書式設定済みスタイルシートはHTMLトピックに適用できます。トピックは、デフォルトのHTMLスタイルを使用するよう書式設定されます。

関連するリンク：

マスターページ

スタイルのメディアルールおよび属性

メディアルールおよび属性は、従来のデスクトップ画面、プリンター、iPad、iPhoneなど異なるメディアへのプロジェクト出力の外観をコントロールするのに役立ちます。RoboHelpでは、スタイル定義を変更して、メディアルールおよび属性を追加できます。

スタイルシートでのメディア特有スタイルの定義

プロジェクトマネージャポッドで、スタイルシートを右クリックし、編集をクリックします。

1) スタイルダイアログボックスで特定のメディア用に変更するスタイルを選択します。

2) メディアリストからメディアタイプを選択します。

なし

汎用スタイルの定義に使用

印刷

プリンターに使用

<スクリーンプロファイル名>

プロジェクトの各スクリーンプロファイル

3) スタイルを必要に応じて変更します。例えば、小さなフォントサイズを選択します。

4) 「OK」をクリックします。

トピックスタイルでのメディアルールの追加

この手順に従って、現在のトピックにリンクしたスタイルシートに異なるメディアルールを定義します。

1) プロジェクト／開く／ポッド／スタイルと書式設定を選択します。

2) スタイルと書式設定ポッドで特定のメディア用に変更するスタイルを選択します。右クリックし、「編集」を選択します。

3) メディアリストからメディアまたはスクリーンのプロファイル名を選択します。

4) スタイルを必要に応じて変更します。例えば、小さなフォントサイズを選択します。

5) 「OK」をクリックします。

スタイルを適用し出力を表示します。

メディア特有のCSSのトピックへのリンクおよびHTMLへのメディア属性の追加

異なるCSSを作成し、トピックにリンクし、HTMLコードを編集してリンクタグにメディア属性を追加します。

リンクタブの構文

```
<link rel="StyleSheet" href="<stylesheet_filename>" type="text/css"
media="<media_type>"/>
```

例

```
<link rel="StyleSheet" href="screen.css" type="text/css" media="screen"/> <link
rel="StyleSheet" href="print.css" type="text/css" media="print"/>
```

注: 上の例ではコンピュータスクリーンへの表示およびプリンターへの出力に使用されるscreen.cssおよびprint.cssscreen.cssを個別に指定します。メディア属性はスクリーン、印刷、プロジェクション、ハンドヘルドなど予め定義された値を必要とします。

Word／FrameMakerコンテンツのメディア特有スタイルのマップ

Microsoft WordまたはFrameMakerのコンテンツを読み込みまたはリンクするときに、既存のスタイルを異なるメディアにマッピングできます。プロジェクト／読み込み。

デザインビューでメディア特有スタイルの内容を表示

メディア特有スタイルをトピック、スニペット、マスターページに提供した後で、特定のメディアのコンテンツの見え方を確認し、必要であればスタイルを変更できます。デザインビューは選択したメディアのスタイルを使用してコンテンツを表示します。

メディアに関連したスタイルは、スタイルと書式設定ポッドおよび書式ツールバーに表示されます。

1) 書式ツールバーのメディアリストからメディアを選択します。

メディア特有スタイルの削除

メディア特有スタイルを作成すると、RoboHelp は一般スタイルからそれを作成します。メディア特有スタイルを削除すると、メディア特有スタイルのみが削除され、一般スタイルは削除されません。

次のいずれかを行います。

- プロジェクトマネージャーのスタイルシートを右クリックし、編集を選択します。スタイルダイアログボックスで、削除するメディア特有スタイルを選択し、「削除」をクリックします。
- 書式ツールバーでメディアを選択します。プロジェクト／開く／ポッド／スタイルと書式設定を選択します。スタイルと書式設定ポッドで削除するメディア特有スタイルを選択します。右クリックし、「削除」を選択します。

メディアクエリー

メディアクエリーは、メディア特有スタイルを微調整するのに役立ちます。デバイスの幅などメディアの機能とスタイルを結合します。例えば次のコードは、最小スクリーン幅が 980px のデバイスのスタイル属性を定義するのに役立ちます。

```
@media screen and (min-width:980px) { p { color: blue; } }
```

スタイルシートがメディアクエリーを使用するスタイル定義を含む場合、最小および最大幅の値は RoboHelp が生成する出力に反映されます。

スクリーンプロファイルのメディアクエリーを管理

スクリーンプロファイルの幅を変更した場合、スタイルシートに定義されたスクリーンプロファイルのメディアクエリーは未定義になります。RoboHelp では、メディアクエリーは自動的に更新されません。

未定義のメディアクエリーのスタイルをマップするには次の手順を行います。

1) CSS ファイルを右クリックし、「編集」をクリックします。
2) スタイルダイアログボックスで、メディアリストから「メディアクエリーを管理」を選択します。

3) 未定義のメディアクエリーを指定した幅で選択し、「マップ」をクリックします。

4) スクリーンプロファイルを選択します。

5) 「OK」をクリックします。

メディアクエリーのスタイルを削除するには、メディアクエリーを管理ダイアログボックスでメディアクエリーを選択し、「削除」をクリックします。

スタイルシートの管理

スタイルシートのトピックまたはマスターページへのリンク

デザインビューのトピック、複数のトピック、または新規トピックを含む任意の数のHTMLトピックに、1つのスタイルシートを関連付けることができます。

プロジェクトにスタイルシートを作成して新規トピックに適用すると、以降作成するすべてのトピックでそのスタイルシートが使用されます。必要に応じて、トピックを別のトピックにリンクします。

1) トピックリストで、1つ以上のトピックを選択します。

2) プロジェクトツールバーのプロパティアイコン をクリックします。「外観」タブをクリックします。

3) スタイルシートを選択します。必要に応じて、参照ボタン をクリックしてスタイルシートに移動するか、「新規」をクリックしてスタイルシートを作成します。

4) （オプション）スタイルシートを編集します。

編集

スタイルシートのスタイルを追加、変更または削除します。

背景サウンド

トピックがビューアーまたはブラウザーで表示されたときに再生されるサウンドクリップを追加します。

サウンドループ回数

トピックが表示されたときにサウンドクリップを再生する回数を定義します。「無限」オプションを選択すると、トピックが開かれている間、連続再生します。

5) 「OK」をクリックします。

注: この同じ手順で、デザインエディターを使用してスタイルシートをトピックにリンクさせます。

関連するリンク:

生成時のマスターページまたは CSS の適用

トピックまたはマスターページからのスタイルシートのリンク解除

スタイルシートをトピックからリンク解除した後で、スタイルシートの書式設定がトピックから削除されます。

1) トピックリストで、1 つ以上のトピックを選択します。

2) プロジェクトツールバーのプロパティアイコン をクリックします。「外観」タブをクリックします。

3) スタイルシートのリストで「なし」を選択するか、参照ボタン をクリックし、適用する別のスタイルシートを選択します。

4) 「OK」をクリックします。

スタイルシートの作成

ユーザーがスタイルシートを作成するか、別のスタイルシートを新規トピックにリンクするまで、新しいスタイルシート（default.css）がデフォルトになります。

1) 編集／CSS／新規スタイルシートを選択します。

2) 「新規」を選択します。

3) 「名前」に .css 拡張子を含めたファイル名を入力します。

4) 「フォルダー」で場所を選択します。

5) （オプション）新しいスタイルシートを既存のものを基にするには、「次の場所からスタイルをコピー」を選択します。スタイルシートを選択します。

6) 「作成」をクリックし、新しいスタイルを作成して、「OK」をクリックします。

スタイルシートとトピックの同時作成

1) プロジェクト／新規作成／トピックを選択します。「外観」タブをクリックします。

2) 「新規」をクリックします。

3) .css 拡張子を含めたファイル名を入力します。

4) スタイルダイアログボックスで、スタイルを作成するか定義済みのスタイルを編集します。

5) 「OK」をクリックします。

スタイルシートの書き出し

1) デザインエディターを選択します。

2) 書式／スタイルを書き出しを選択します。

3) スタイルシートを書き出す場所を参照します。

   必要に応じて、.css ファイル名拡張子を維持しながらスタイルシートの名前を変更します。**注：** この機能はプロジェクトレベルではなく、トピックに適用されたスタイルにのみ適用可能です。

4) 「保存」をクリックします。

   注：トピックに固有の埋め込みスタイルのみを書き出すことができます。

スタイルシートのスタイルの作成

スタイルダイアログボックスでのスタイルの作成

1) プロジェクトマネージャーポッドで、スタイルを作成するスタイルシートを右クリックし、「編集」をクリックします。

2) 「新規」をクリックし、段落スタイルなど、スタイルの種類を選択します。デフォルトでは、新しいスタイルはデフォルト名（Style 1 など）で作成されます。

3) 「スタイル」ボックスで、スタイルのデフォルト名を変更します。名前には特殊文字やスペースを使用しないでください。

   注： 特殊文字を使用すると、名前を修正するよう要求するプロンプトが表示されます。一部のブラウザーでは、特殊文字が含まれる名前を持つスタイルを読み取ることができません。

4) スタイルダイアログボックスの「書式設定」セクションでオプションを選択します。変更は「段落プレビュー」セクションに表示されます。

5) （オプション）追加の値を設定するには、「書式」をクリックし、次のオプションを選択します。

フォント

フォントやサイズ、属性（太字、斜体など）を選択します。

段落

インデント、行間、整列を設定します。

罫線と網かけ

「罫線」タブを使用して、罫線の種類、色、線の太さ、間隔を設定します。「網かけ」タブを使用して、背景色および画像のオプションを設定します。

DHTML 効果

含めるダイナミック HTML 効果および、どのような場合にダイナミック HTML 効果を含めるかを選択します。

注: ダイナミックHTML効果を含めるようスタイルを変更した場合は、スタイルシートに添付されているトピックを再保存します。ツール／スクリプト／DHTMLを更新を選択します。スタイルシートにリンクしているファイルを再保存する場合、サードパーティエディターで作成されたトピックがRoboHelp HTMLに変換されます。特別なHTMLタグが、プログラムで特別のヘルプ機能をサポートするために追加されます。

スタイルと書式ポッドを使用したスタイルの作成

1) スタイルと書式設定ポッドを開くには、トピックを開いて、プロジェクト／開く／ポッド／スタイルと書式設定を選択します。
2) スタイルと書式ツールバーで新規スタイルを作成ボタン をクリックし、スタイルの種類（「リストスタイル」など）を選択します。
3) スタイル名を入力して「OK」をクリックします。
4) フォントと書式のオプションを選択して「OK」をクリックします。

関連するリンク:

スタイルと書式ポッド

デザインエディターを使用したスタイルの作成

1) デザインエディターでトピックのテキストを選択します。
2) 太字などの書式を適用します。
3) テキストをハイライトしたまま、ツールバーのスタイルリストにスタイル名を入力し、Enterキーを押します。
4) 「作成」をクリックします。

表のスタイル

スタイルエディターで、必要に応じてスタイルを作成およびカスタマイズできます。インライン書式設定の代わりに表スタイルを適用することで、標準的かつ保守が簡単な表を追加できます。表スタイルを変更すると、そのスタイルを使用しているすべての表も変更されます。

スタイルを適用することにより既存の表の表示を変更できます。RoboHelp は、インライン書式を削除するかどうかも尋ねてきます。

表のカスタマイズに関するヒントと解決策については、Peter Grainge 氏の RoboHelp ツアーの表のセクションを参照してください。

グローバルな表のスタイル

表には定義済みのスタイルを選択できます。このスタイルはグローバルに使用可能で、プロジェクト全体で使用して様々な表を定義できます。グローバルな表のスタイルは、C:\Documents and Settings*[user name]*\Application Data\Adobe\RoboHTML*[version]*\Templates\Tables にあります。Windows Vista® の場合、グローバルな表のスタイルは、C:\users*[user name]*\AppData\Roaming\Adobe\RoboHTML*[version]*\Templates\Tables にあります。**注：** 推奨される場所から Tables フォルダーを削除しても、グローバルスタイルリストではグローバルな表スタイルが依然として表示されます。スタイルは、C:\Program Files\Adobe\Adobe RoboHelp [version]\RoboHTML\Gallery\Tables からいつでも回復できます。

定義済みのグローバルなスタイルだけでなく、プロジェクトフォルダーから表のスタイルをコピーして、C:\Documents and Settings*[user name]*\Application Data\Adobe\RoboHTML*[version]*\Templates\Tables にペーストすることもできます。このスタイルは、グローバルに使用可能ですべてのプロジェクトに使用できます。

ヒント : 表と罫線ツールバーのグローバルな表のスタイルを適用アイコン をクリックして、表にスタイルを適用します。

表スタイルの適用

既存の表に表スタイルを適用するには、次の操作を行います。

1) トピックで既存の表を選択します。

2) 表と罫線ツールバーのグローバルな表のスタイルを適用アイコン をクリックして、表にスタイルを適用します。

3) 表のスタイルを選択ダイアログボックスで、「表のインライン書式を消去」を選択します。「表のインライン書式を消去」を選択すると、表に使用されているインラインスタイルが削除されます。

4) 「使用可能なスタイル」リストからスタイルを選択するか、グローバル表スタイル（表テンプレート）を選択します。

5) 「OK」をクリックします。**注：** 表のスタイルダイアログボックスでスタイルをダブルクリックすると、表にスタイルを適用できます。

表のスタイルの作成と管理

CSS のグローバル表スタイル（表テンプレート）および定義済みの表スタイルを使用する以外にも、カスタムの表スタイルを作成して、表のレイアウト、罫線、整列、網かけおよびフォントを一貫したものにすることができます。行と列に適用する特性（色、フォント、太字、斜体および整列）は、変更することができます。

John Daigle 氏の表および表スタイルを作成・管理する簡単な方法にいくつかのデモがあります。

表のスタイルの作成

1) プロジェクト／開く／ポッド／スタイルと書式設定を選択します。

2) 「新規スタイルを作成」をクリックし、「表スタイル」を選択します。

3) 新しい表スタイルに名前を付け、「OK」をクリックします。

4) 表全体、最初や最後の列や行、または行や列のグループに書式を適用します。書式設定の適用先リストから、書式を設定する列または行を選択します。例えば、最初の行の背景を青色にして、最初の列の背景を黄色にすることができます。

5) フォント、サイズ、および色を選択します。

6) 罫線と罫線の色を選択します。

7) 「適用」をクリックします。表スタイルダイアログボックスのCSSスタイルリストには新しいスタイルが表示されます。後で同じスタイルを使用して表を作成するには、このスタイルを選択します。

注意：

- 表と罫線ツールバーのグローバルな表のスタイルを適用アイコン をクリックして、表にスタイルを適用します。
- 一連の変更に基づいて、行の最初と最後のセルでは行の色が列の色に優先します。

表の外観は、Table、TR、およびTDなどの複数のクラスの結果です。表クラスを適用すると、RoboHelpによりこれらのサブクラスが各表アイテムに適用されます。このため、コードまたはスクリプトを使用して表のスタイルを変更するには、テーブルタグでクラス属性（class=”myTableClass”）を設定します。デザインエディターでは、表の残りアイテムの表パターンがすべて適用されます。

コンディショナルビルドタグの表への適用

コンディショナルビルドタグを使用すると出力から内容を除外することができます。

1) 行、列、表、または表のテキストを選択します。
2) 編集／タグ／適用／新規作成または複数選択をクリックします。
3) タグを選択します。「OK」をクリックします。

リストスタイル

リストスタイルの概要

RoboHelpには、HTMLリスト、詳細設定リストおよび自動番号付きリストの3種類のリストが用意されています。詳細設定リストは単一レベルリストにもマルチレベルリストにもなります。HTMLリストのスタイリングは「リストスタイル」で、詳細設定リストは「マルチレベルリストスタイル」で定義できます。自動番号付きリストは「段落スタイル」で定義します。

HTML リスト

番号付きリスト <ol> および箇条書き <ul> はすべて HTML リストに含まれます。

詳細設定リスト

1、1.1、1.1.1 などの段落番号付きで、番号付き見出しスタイルなどの階層リストまたはアウトラインリストを作成します。単純な番号付きリストと同じように、階層番号付きリストおよび付随する段落スタイルは、同じ書式を共有します。マルチレベルリストは、ステップ、ステップ結果、サブステップなどの複雑なネストされたステップを設定します。マルチレベルリストは段落番号のプロパティのみを定義します。マルチレベルリストは段落スタイルにリンクされるまでは自分の書式設定はありません。

提供されたスタイル（リストテンプレート）に基づいてマルチレベルリストを作成する方法の例は、PeterGrainge の RoboHelp ツアーのアウトライン番号付けのセクションを参照してください。

自動番号付きリスト

自動番号付きリストは段落スタイルにリンクされています。段落に自動的に番号を付けるには、その段落に自動番号付けを適用できます。図や表の番号を順に付けるには、図番号や表番号などの単純な番号付きリスト形式を定義します。単純な番号付きリストでは、段落スタイルと段落番号スタイルは、同じフォント、フォントサイズ、フォントの太さ、フォントの色を共有します。

John Daigle 氏のビデオの紹介については、Adobe RoboHelp ビデオチュートリアルページの「箇条書きおよび自動番号の簡単な作成方法」を参照してください。

HTML リストの作成

1) スタイルダイアログボックスで「リストスタイル」を右クリックします。

2) 「新規」をクリックします。

3) 新しいリストに名前を指定します。

4) 新しいリストのスタイルのフォント、フォントサイズまたは色を選択します。

5) 番号付きリストを作成するには「番号付きリストを作成」ボタンをクリックし、箇条書きを作成するには「箇条書きを作成」ボタンをクリックします。

6) （オプション）スタイルエディターの「書式設定」セクションで他の書式設定オプションを選択します。

注： リストスタイルを編集するには、スタイルエディターの「書式設定」セクションで別の書式設定オプションを選択して、「プレビュー」セクションでプレビューします。

マルチレベルリストの作成

1) 次のいずれかを行います。

- スタイルと書式設定ポッドの「新規スタイルを作成」をクリックし、「マルチレベルリストスタイル」を選択します。新規マルチレベルリストの名前を入力し、「OK」をクリックします。
- スタイルと書式設定ポッドでマルチレベルリストスタイルを右クリックし、「編集」を選択します。

2) 書式設定の適用先メニューからリストレベルを選択します。「リストプレビュー」には、選択されたレベルの階層順が表示されます。

3) （マルチレベルリストのみ）現在のリストレベルに適用するには、段落スタイルを選択します。

4) リストスタイルを作成するには、リストスタイルポップアップメニューから定義済みリストスタイルを選択するか、「新規」をクリックします。例えば、リストスタイルのシーケンス（月など）を定義し、このシーケンスに12か月すべてのシーケンスを追加できます。

5) シーケンスまたはマルチレベルリストにプレフィックスを付けることができます。リストスタイルにプレフィックスを付けるには、「スタイルを編集」ボックスでプレフィックスとなるテキストまたは数値を入力します。プレフィックスを付けるレベルを指定するには、挿入レベルメニューからレベルを選択します。「スタイルを編集」ボックスでレベルにプレフィックスを追加するには、レベルとプレフィックスをドット（.）または山かっこ（>）などの区切り文字で区切ります。

6) 次の書式設定をリストスタイルに適用します。

    - フォント、フォントサイズ、色、ハイライトカラー、太字、イタリック、下線
    - リストインデント、リストプレフィックスの間の空白、および付随する段落テキスト

自動番号の動作、インデントと余白のコントロール、または接頭辞の形式については、www.adobe.com/go/learn_rh_blog_multilist_jp を参照してください。

自動番号付けスタイルの作成

自動番号付けは段落スタイルにリンクします。段落スタイルに自動的に番号を付けて、番号付きリストスタイルとして適用することができます。

1) 次のいずれかを行います。

- スタイルダイアログボックスで段落スタイルを選択します。
- 段落スタイルを作成します。

2) 自動番号ボタン をクリックします。

3) （オプション）自動番号付けを適用するためにマルチレベルリストを継承するには、「番号付けのプロパティをマルチレベルリストから継承」を選択します。リストクラスポップアップメニューから「マルチレベルリストスタイル」を選択し、自動番号付けを適用するレベルを選択します。「OK」をクリックします。

4) 「書式」テキストボックスに新しい自動番号付けスタイル用のプレフィックスを入力します。

5) 自動番号付けスタイルのシーケンスを作成するには、番号付けポップアップメニューから定義済み番号付けオプションを選択するか、「新規」を選択します。

詳細については、www.adobe.com/go/learn_rh_blog_autonumber_jp を参照してください。

シーケンスプレフィックスの作成

カスタムシーケンスプレフィックスを作成して、詳細設定リストに割り当てることができます。

1) スタイルダイアログボックスで、「新規」をクリックします。

2) カスタムシーケンスを作成 / 編集ダイアログボックスでプラスの記号をクリックしてシーケンスを作成します。

3) 一意のシーケンス名（月など）を入力し、「OK」をクリックします。

4) シーケンスフォントポップアップメニューからシーケンスのフォントを選択し、「追加」をクリックします。

5) 「シーケンスを編集」ボックスをクリックし、追加するシーケンスを入力します。例えば、1月、2月などを入力します。1月を入力した後で、「追加」をクリックして2月を追加する、という具合です。

カスタムシーケンスの詳細については、www.adobe.com/go/learn_rh_blog_multilist_jp を参照してください。

シーケンスプレフィックスの編集

1) スタイルダイアログボックスで、「新規」をクリックします。

2) シーケンスポップアップメニューからシーケンスを選択し、次のいずれかを行います。

- シーケンスエントリを編集するには、シーケンスを編集リストでエントリを選択し、「編集」をクリックします。「シーケンスを編集」ボックスで編集を行います。
- シーケンスエントリを削除するには、シーケンスを編集リストでエントリを選択し、「削除」をクリックします。
- シーケンスを並べ替えるには、エントリを削除してから必要な順序でエントリを再入力します。

カスタムシーケンスの削除

1) スタイルダイアログボックスで、「新規」をクリックします。

2) シーケンスを選択します。プラスサインをクリックします。

3) 「はい」をクリックして確定します。「OK」をクリックします。

HTMLスタイル

Div、ハイパーリンク、画像のスタイルを、スタイルエディターを使用して、またはスタイルと書式設定ポッドから編集できます。Divスタイルはテキストボックスおよび配置テキストボックスに使用できます。ハイパーリンクスタイルは、ハイパーリンク、ドロップ

ダウンホットスポット、展開ホットスポット、用語集の用語に使用できます。画像スタイルは画像を配置するのに使用できます。

Div、ハイパーリンク、画像スタイルに基づいてスタイルを作成

使用可能なスタイルに基づいてスタイルを作成、または既存のスタイルのプロパティを編集できます。

1) プロジェクトマネージャーポッドの CSS ファイルをダブルクリックしてスタイルエディターを開きます。
2) スタイルリストからスタイルカテゴリーを選択します。例えば、ハイパーリンクを選択します。
3) 右クリックして「新規」を選択します。スタイルに名前を付け、プロパティを設定します。

Div スタイルの編集

スタイルエディターを使用して、またはスタイルと書式設定ポッドから Div スタイルのプロパティを編集できます。テキストのディビジョンまたはセクションのサイズ、余白、フロート、および境界線を編集できます。フロート属性を使用して、テキストをディビジョンの右側または左側に配置します。例えば、フロート属性を左に設定すると、テキストは右に置かれます。

オーバーフロー属性を使用して、テキストがディビジョンをはみ出した場合の設定を行います。例えば、オーバーフローをスクロールに設定すると、はみ出したコンテンツの画面にスクロールバーが追加されます。

ハイーパーリンクスタイルの編集

スタイルエディターを使用して、またはスタイルと書式設定ポッドからハイパーリンクスタイルのプロパティを編集できます。

擬似クラスの使用

CSS では、ハイパーリンクに異なる効果を追加するために疑似クラスを使用します。ハイパーリンクの見え方を、その状態によって変化させられます。例えば、クリックされていないハイパーリンクに対して特定の CSS プロパティを定義できます。クリックされたハイパーリンクに対しては別の CSS プロパティを定義できます。

疑似クラスの使用例

- ある閲覧した疑似クラスにある色をあるスタイル（例えば拡張ホットスポット）で、別の閲覧した疑似クラスに別な色を他のスタイル（例えば用語集の用語）で指定できます。
- 同じトピック中の複数のオブジェクトに、複数のハイパーリンクおよび Div スタイルを使用できます。同じトピック中の 2 つのハイパーリンクが異なるスタイルになります。

疑似クラスの詳細情報については、www.w3schools.com/css/css_pseudo_classes.asp を参照してください。

Twisty 画像の使用

ハイパーリンクスタイルに Twisty 画像を追加し、そのスタイルを拡張ホットスポット、ドロップダウンホットスポット、用語集の用語に適用できます。Twisty 画像を設定するには、「Twisties を設定」をクリックし、「画像のプロパティ」を選択します。

ブロックスタイルハイパーリンクの使用

ハイパーリンクスタイルにブロック属性を追加できます。ブロックスタイルハイパーリンクは、iPad または iPod などのデバイスに表示される出力に役立ちます。

1) スタイルエディターで、ハイパーリンクスタイルを選択し変更します。
2) ディスプレイリストからブロックを選択します。
3) ブロックの高さと幅を指定します。

画像スタイルの編集

スタイルエディターを使用して、またはスタイルと書式設定ポッドから画像スタイルのプロパティを編集できます。

画像のサイズ、余白、フロート、経線の属性を編集できます。

フロート属性を使用して、画像を左または右に配置し、一方で、パラグラフのテキストはそれを取り囲むようにします。例えば、フロート属性を左にすると、画像は右に配置され、テキストは右になります。

スタイルの適用

トピックにCSSファイル、外部スタイルシートまたは埋め込みスタイルをリンクした後で、スタイルを適用できます。

1) デザインビューで、次のいずれかの操作を行います。
   - 書式を設定するテキストを選択します。
   - 書式設定する段落をクリックします。複数の段落をインデントする場合は、複数の段落を選択します。
2) スタイルと書式ポッドでスタイルをダブルクリックします。
   - 文字のスタイルは、選択したテキストのブロックに適用され、フォントやDHTML効果に影響します。
   - 段落のスタイルは、段落全体に適用され、フォント、行間隔、段落番号、罫線と網かけ、DHTML効果に影響します。
   - 表スタイルは表の内容に適用されます。
   - リストスタイルはすべての段落番号および箇条書きスタイルに適用されます。
   - マルチレベルリストスタイルは階層構造のリストに適用されます。

   ヒント: 文字のスタイルを削除するには、そのテキストを選択し、「スタイル」リストから異なるスタイルを選択します。段落スタイルを削除するには、スタイル「なし」を選択します。

CSS ファイルのスタイルの編集

CSS ファイルのスタイルを編集する場合、そのファイルにリンクしているすべてのトピックが更新されます。

重要: CSS ファイルに加えた変更は「取り消し」コマンドを使用して取り消すことはできません。前のスタイルに戻すには、CSS ファイルを編集します。

スタイルダイアログボックスを使用したスタイルの編集

1) プロジェクトマネージャーポッドで、CSS ファイルを右クリックします。「編集」をクリックします。
2) 「継承したスタイルを非表示」を選択解除します。
3) 「利用可能な場所」からスタイルシートを選択します。
4) 「スタイル」ボックスでスタイルを選択します。
5) 「書式」をクリックし、属性を選択します。
6) （オプション）書式セクションから書式のオプションを選択します。
7) 「OK」をクリックします。

スタイルと書式ポッドを使用したスタイルの編集

1) スタイルと書式ポッドでスタイルを選択します。
2) 「選択したアイテムを編集」をクリックします。
3) スタイルダイアログボックスで書式のオプションを選択します。
4) 「OK」をクリックします。

ヒント: ユーザー定義の色がブラウザーの背景に表示されないようにするには、「背景テキスト」スタイルを白の背景に設定します。このスタイルは、見出しや段落などの通常のトピックテキスト用です。背景画像、背景色、および境界線のデフォルト設定を制御します。

HTML Editor でのスタイルの編集

1) プロジェクトマネージャーポッドで、CSS　ファイルを右クリックします。「アプリケーションを選択して編集」をクリックします。
2) HTML Editor を選択します。

   RoboHelp はスタイルシートを新しいトピックウィンドウに開きます。
3) 必要に応じてスタイルを編集します。

スタイルシートからのスタイルの削除

1) プロジェクトマネージャーポッドで、削除するスタイルが含まれるスタイルシートを右クリックし、「編集」をクリックします。
2) 「継承したスタイルを非表示」が選択されている場合、選択を解除して使用可能なスタイルを表示します。
3) 利用可能な場所メニューから、スタイルシート名を選択します。埋め込みスタイルに対するトピック名を選択します。
4) スタイルメニューから、削除するスタイルを選択します。

   デフォルトのスタイルからカスタム書式設定を削除するには、スタイルを選択します。
5) 「削除」をクリックします。
6) 確認で「はい」をクリックします。**注：** スタイルシートまたは書式ツールバーからスタイルを削除するには、スタイルメニューから「なし」を選択します。

色と画像の使用

スタイルシートのテキスト色とリンク色の変更

RoboHelp では、CSS ファイルに加えた変更を、その CSS ファイルをリンク先とするすべてのトピックに組み込みます。CSS ファイルに加えた変更を取り消すことはできません。

WebHelp スキンエディターを使用して、WebHelp および WebHelp Pro の目次、索引および検索パネルのテキストの色を変更できます。

1) プロジェクトマネージャーポッドで、CSS ファイルを右クリックします。「編集」を選択します。

2) 「継承したスタイルを非表示」を選択解除します。

3) 「利用可能な場所」から、CSS ファイルを選択します。

4) 「スタイル」ボックスで「文字」を選択します。

5) 「文字スタイル」を展開し、次のオプションからリンクまたはテキストスタイルを選択します。

背景 + テキスト（BODY）

デフォルトのスタイルシートの、本文テキスト（通常のテキスト）。このスタイルは、トピックのテキスト、表、および見出し用です。背景画像、背景色、および境界線のデフォルト設定を制御します。

ハイパーリンク（アクセスされていない）

アクセスされていないハイパーテキストリンク。

ハイパーリンク（アクセスされた）

アクセスされたハイパーテキストリンク。

ハイパーリンク（アクティブ）

選択されたハイパーテキストリンクです。

6) 編集／文字／書式設定／フォントを選択します。

7) 「フォントカラー」で、色を選択します。「OK」をクリックします。

関連するリンク：

スタイルシートのスタイルを作成

スキン

スタイルシートの罫線または背景の追加または編集

1) プロジェクトマネージャーポッドで、罫線または背景を編集するスタイルシートを右クリックし、「編集」をクリックします。
2) 「継承したスタイルを非表示」を選択解除します。
3) 「利用可能な場所」から、CSSファイルを選択します。
4) 「スタイル」ボックスの「その他」で「背景+テキスト（BODY）」を選択します。
5) 「書式」を選択し、「罫線と網かけ」を選択します。
6) 「罫線または網かけ」タブをクリックし、罫線または背景を定義し、「OK」をクリックします。

   注: 罫線または背景用に使用される任意の画像ファイルはプロジェクトのバゲッジファイルフォルダーに追加され、生成する出力に含まれます。

関連するリンク:

トピックの罫線と背景の追加または編集

インラインスタイル

インラインスタイルの適用または編集

1) デザインエディターで、書式を設定するテキストのブロックを選択します。
2) 次のいずれかを行います。
   - ツールバーから書式設定オプションを選択します。
   - 編集リボンで、「フォント」、「段落」、「箇条書きと段落番号」、「罫線と網かけ」、「トピックの罫線と網かけ」オプションから目的の書式を選択します。

インラインスタイルの更新

文字または段落のスタイルの書式設定を編集した後、同じスタイルを適用するプロジェクト全体ですべての文字または段落を更新できます。

1) スタイルを更新するテキストまたは段落の該当部分を選択します。

2) 編集リボンで、文字または段落の各種書式設定を使用して、スタイルを編集します。

3) 編集／スタイル／スタイルを更新を選択します 。を選択します。

プロジェクト内の全トピックにおいて、選択したスタイルが適用されているコンテンツの書式設定が更新されます。

インラインスタイルのテキストからの削除

1) デザインエディターで、インラインスタイルを使用しているテキストのブロックを選択します。

2) ツールバーで、「スタイル」ボックスの横のオプションメニュー ▼ をクリックします。

オプションメニュー

3) 「デフォルトの段落フォント」を選択します。

スタイルをリセット

スタイルと書式設定ポッドの各スタイルカテゴリーには、（スタイルをリセット）というオプションがあります。スタイルカテゴリのスタイルを使用して適用したすべてのフォーマッティングを、選択したコンテンツから削除する場合、次のようにします。

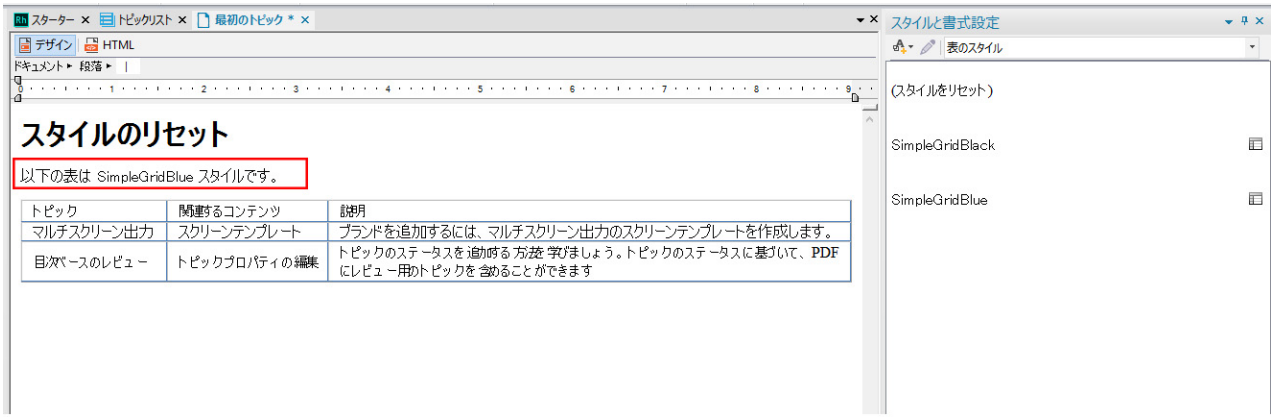
1) スタイルと書式設定ポッドのスタイルリストからスタイルカテゴリを選択します。例えば、表のスタイルを選択します。

2) 「スタイルをリセット」をダブルクリックします。（または、「スタイルをリセット」を右クリックし「適用」をクリックします。）

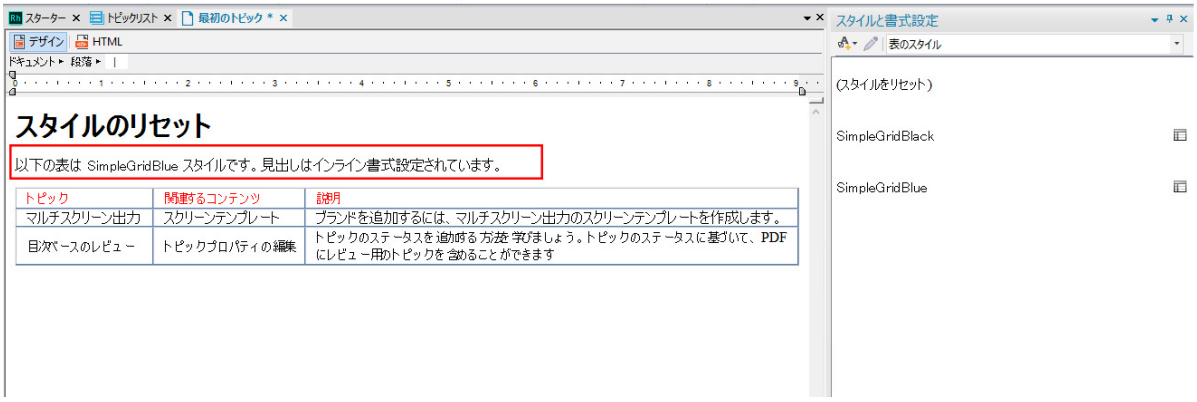
例（表のスタイルをリセット）

次の例は表のスタイルをリセットする方法を示します。

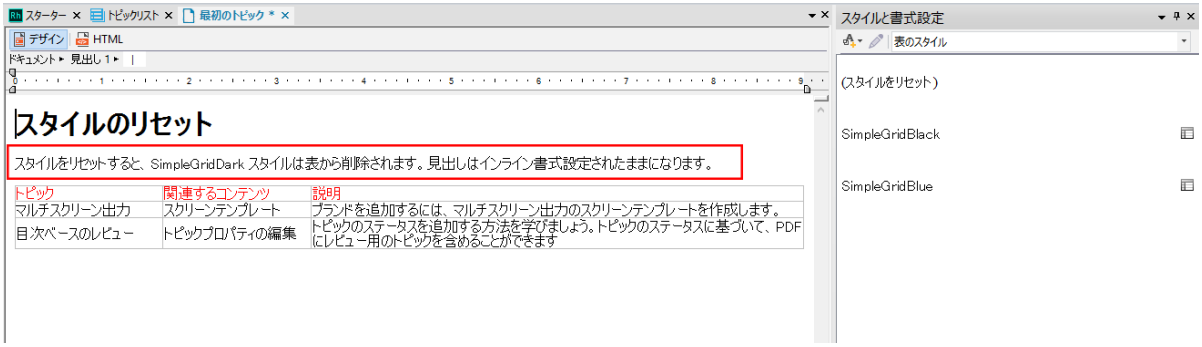
スタイルを適用した表のサンプル



インラインの書式設定を見出しに追加します。表全体、選択した行、セルにはインライン書式設定は適用されていません。RoboHelp はこれらの選択はテーブルエレメントと扱い、表のスタイルをリセットすると、これらのエレメントに適用されたインラインの書式設定を削除します。（表のスタイルを選択ダイアログボックスの「表のインライン書式設定を消去」と同様です）



「表のスタイルをリセット」を適用すると表のスタイルは削除されます。見出しのインラインの書式設定（テーブルエレメント以外）は残ります。



書式設定を消去

デザインエディターで選択した項目のスタイル設定と書式設定をすべて解除するには、次のようにします。

- 「編集」タブの「文字」セクションで、「書式設定をクリア」を選択します。

  ヒント: 段落の書式設定を消去するには、段落内にカーソルを置いて「書式設定を消去」をクリックします。

目次、索引、用語集

目次

目次の基礎

目次について

目次は、プロジェクトマネージャーのフォルダ、トピックおよびサブフォルダから構成される階層です。ブックはカスタムフォルダーから作成され、ページはこれらのフォルダーのトピックから作成されます。カスタムフォルダーに保存されていないトピックは、目次の一番上のレベルにあるページとして表示されます。

目次を作成した後で、ブックとページの順番を変更できます。

目次の作成

プロジェクトマネージャーポッドで定義した章のレイアウトに基づいて目次を自動作成します。

1) プロジェクトマネージャーで、目次フォルダーを右クリックし、「新規目次」を選択します。**ヒント**: プロジェクトが多くのトピックを持っている場合は、最初にプロジェクトファイルフォルダーを縮小して目次フォルダーが見えるようにしてください。

2) 目次の名前を指定します。

3) （オプション）「既存の目次をコピー」を選択し、既存の目次ファイル（.hhc）を参照して、使用できる目次から目次を作成します。

4) 「OK」をクリックします。RoboHelpは目次ポッドを開きます。

5) 目次ポッドで、「目次を自動作成」ボタン をクリックします。

6) ツールバーの目次を自動作成ダイアログボックスで、オプションを選択します。

新規作成する前に現在の目次を削除する

目次を自動作成する前にブックとページを削除します。このオプションを選択しない場合、既存のブックとページが目次に含められます。

中間トピックリンクの目次ページを作成

ブックマークに基づいて目次のページを作成します。ブックマークが設定されているトピックはブックに変換され、すべてのブックマークはページに変換されます。

7) 「OK」をクリックします。

注： Microsoft HTML ヘルププロジェクトでは、ウィンドウのプロパティで目次を同期します。フォルダー名とファイル名では、トピック用のフォルダー名とファイル名を含め、スペースではなくアンダースコアを使用する必要があります。

関連するリンク：

目次ブックとページの並べ替え

章のレイアウトを定義

目次の印刷

1) 目次ポッドをクリックします。

2) ツールバーの印刷をクリックします。

3) ポップアップメニューから、印刷する情報を選択します。

概要

すべてのブックとページタイトルを印刷します。

詳細

すべてのブックタイトル、ページタイトル、リンクしているトピックタイトルと、トピックが保管されているフォルダーを印刷します。

4) 「プロパティ」または「ページ設定」をクリックして、印刷オプションを指定します。

目次ブックとページの作成

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

目次ブックの作成

1) プロジェクトマネージャーで必要な目次をダブルクリックして、目次ポッドを開きます。
2) ツールバーの新規目次ブックボタン をクリックします。
3) 「ブックタイトル」ボックスに、目次に表示する名前を入力します。
4) 「OK」をクリックします。

   注: ページが出力で表示されるためには、ブックには少なくとも 1 つのページが含まれている必要があります。

ターゲットリンクのある目次ブックおよびページの作成

ユーザーが指定するコンテンツに目次のブックとページをリンクできます。ユーザーがブックまたはページをクリックすると、トピックペインにリンクされているコンテンツが表示されます。トピック、Web サイトなどにリンクできます。

1) 目次ポッドで、次のいずれかの操作を行います。
   - 新規目次ブックボタン をクリックします。「リンクを含むブック」を選択します。
   - 新規目次ページボタン をクリックします。
2) 「ブック公開先」または「ページのリンク先」で、公開先またはリンク先を指定します。
   - リストでアイテムを選択します。必要に応じて、ポップアップメニューからアイテムを選択して移動します。他のプロジェクトのアイテムにもリンクできます。
   - トピックを作成するには、「新規トピック」をクリックします。タイトルを入力し、必要に応じてファイル名を変更して、マスターページを選択します。ブックまたはページをトピックにリンクします。
3) 「OK」をクリックします。

ページから目次ブックの作成

1) 目次ポッドで、ページを右クリックします。
2) 「ページからブックを作成」を選択します。

ページと同じタイトルのブックが作成されます。ページは、新規ブック内に配置されます。

ドラッグによる目次ページの作成

1) 目次ポッドおよびトピックリストポッドを開きます。
2) トピックリストポッドで、1つ以上のトピックを選択します。
3) トピックを目次ポッドにドラッグします。

   注: 目次ポッドにドラッグしたトピックのタイトルは、トピックタイトルに基づきます。トピックタイトル名を変更するには、タイトルをクリックし、「名前変更」を選択します。

ユーザー定義変数による目次ブックとページの作成

1) 目次ポッドで右クリックし、新規／ブックまたは新規／ページを選択します。
2) 使用可能な変数メニューから変数を選択します。「追加」をクリックします。変数が「ページタイトル」ボックスにリストされます。
3) (オプション)「ページタイトル」ボックスで、変数にプレフィックスまたはサフィックスを追加します。例えば、変数「RoboHelp」にプレフィックス「Adobe」を追加します。
4) 「既存のトピック」リストから、新規ページ用のトピックを選択します。
5) 「OK」をクリックします。ブックまたはページが目次に表示されます。タイトルには、ユーザー定義変数とユーザーが追加したテキストが表示されます。

   ヒント: 目次アイテムに適用した変数を表示または変更するには、アイテムを右クリックして「プロパティ」を選択します。

目次ブックとページの編集

目次ブックとページの名前変更

注: 目次ページの名前を変更しても、ページにリンクされているトピックタイトルには反映されません。同時に、トピックタイトルを変更する場合も、目次ページの名前には反映されません。目次ページの名前は、必要に応じて、別々に変更する必要があります。

1) 目次ポッドで、ブックまたはページを右クリックします。「名前変更」を選択します。
2) 新しい名前を入力します。Enter キーを押します。

ヒント: プロパティを変更することで、ブックまたはページの名前を変更することもできます。

目次ブックおよびページの並べ替え

1) 目次ポッドで、ブックまたはページを選択します。
2) 次のいずれかを行います。
   - アイテムを別の場所にドラッグします。
   - ツールバーの矢印をクリックしてアイテムを移動します。

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

目次ブックまたはページの削除

目次からページを削除しても、ページがリンクしているトピックは削除されません。

1) 目次ポッドで、ブックまたはページのアイコンを選択します。
2) ツールバーで、削除ボタンをクリックします。

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

目次ブックまたはページのプロパティの変更

ブックまたはページの名前を変更したり、リンク先、ウィンドウフレーム、またはカスタムアイコンを編集したりします。

1) 目次ポッドで、ブックまたはページを右クリックします。「プロパティ」を選択します。

2) 「全般」タブおよび「詳細設定」タブで変更を行います。

注: プライマリレイアウトにより、ブックとページのプロパティが制御されます。たとえば、ブックとページにカスタムアイコンを追加できるのは、プライマリレイアウトがMicrosoft HTMLヘルプの場合のみです。

3) 「OK」をクリックします。

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

目次の管理

レポートを使用した目次の管理

RoboHelpには、目次の管理およびエラーの解決に役立つ複数のレポートが用意されています。

1) ツール／レポート／*[*レポート名*]*を選択します。

レポートを保存、印刷、コピー、およびメールすることができます。

目次レポート

このレポートには、目次のブックとページの階層が表示されます。「フォルダー」リストで特定のフォルダーを選択して、目次の一部だけを表示できます。トピックタイトル名やファイル名を変更した場合、ブックとページで使用されているタイトルと比較してください。

次のレポート形式から選択します。

詳細

ブックやページのタイトル、それらにリンクしているトピック名、ファイルが保存されているフォルダー名が表示されます。

概要

ブックやページのタイトル、それらにリンクしているトピック名を表示します。

ヒント: このレポートをプロジェクトのアウトラインとして使用します。

トピックプロパティレポート

このレポートをカスタマイズして次のアイテムを表示できます。

- トピックタイトル
- ファイル名
- フォルダー名
- トピックを参照しているブックとページ

トピック参照レポート

このレポートは、トピックを対象とする目次のブックとページを含む、プロジェクト内のトピックに対する参照を追跡します。

未参照トピックレポート

このレポートは、目次、索引、または操作コンポーネントで使用されていないプロジェクト内のトピックを追跡します。

壊れたリンクレポート

このレポートは、プロジェクト内の壊れたリンクをファイルごとにまとめて表示します。

壊れた目次リンクの識別と修正

ブックまたはページに壊れたリンクがある場合、目次ポッドでは赤いXで示されます。

1) プロジェクト／ナビゲーション／壊れたリンクを選択します。

選択したトピックへの参照

見つからないトピックへのすべての参照を表示します。開いたブックアイコン は、壊れた目次参照を示しています。

すべての見つからないトピック

プロジェクトで見つからないトピックを表示します。

2) 目次アイテムを削除するには、「選択したトピックへの参照」でアイテムを選択して、「削除」をクリックします。

関連するリンク：

壊れたリンクの修正

複数目次

複数の目次について

1つのプロジェクトに対して複数の目次を作成できます。単一ソースの公開の場合にこの機能を使用できます。例えば、異なるユーザー向けの複数の言語または出力を含むプロジェクトに、異なる複数の目次を作成できます。**注：** 目次をデフォルトとして設定するには、プロジェクトマネージャーポッドの目次を右クリックして、「デフォルトとして設定」を選択します。

サブプロジェクトをマスタープロジェクトにマージした場合、サブプロジェクトの目次をマスタープロジェクトで使用できます。

目次へのブックとページの移動

1) プロジェクトマネージャーポッドで、目次フォルダーの目次をダブルクリックします。

2) ある目次ポッドから別の目次ポッドに、ブックとページをドラッグします。

プロジェクトへの複数の目次の作成

1) 次のいずれかを行います。

- プロジェクトマネージャーポッドで、目次フォルダーを右クリックします。「新規目次」を選択します。
- 目次を作成/表示ボタン をクリックします。目次を選択ダイアログボックスで、「新規」をクリックします。

2) 名前を入力します。

3) （オプション）「既存の目次をコピー」を選択して、既存の目次を新しい目次のベースにします。参照ボタン をクリックしてプロジェクトフォルダー内のHHCファイルを検索し、選択します。

4) 「OK」をクリックします。

デフォルトで、プロジェクトと同じ名前の空の目次が、目次フォルダーに表示されます。

注: 目次を自動作成ボタン をクリックして、目次を自動的に作成します。

目次のマージ

以下の手順で、プロジェクト内の目次をマージします。

1) 目次ポッドで、目次をマージするブックまたはページを選択します。

2) 目次プレースホルダーを挿入ボタンをクリックします 。をクリックします。索引プレースホルダーの挿入ダイアログボックスが表示されます。

3) 目次を選択メニューから、マージする目次を選択します。

4) 「OK」をクリックします。

レイアウトを生成するときは、ウィザードのレイアウト画面で、マージした目次をリストから選択します。選択した目次がヘルプの出力ビューに表示されます。

関連するリンク:

ヘルププロジェクトをマージ

目次から閲覧シーケンスを作成する

複数の目次を使用して閲覧シーケンスを生成できます。

1) プロジェクト／ナビゲーション／閲覧シーケンスエディターを選択します。

2) 「目次から自動作成」をクリックします。

目次から閲覧シーケンスを自動作成ダイアログで、次のいずれかのオプションを選択できます。

目次をそのまま使用して、シーケンスを作成：

デフォルト。目次に基づいて閲覧シーケンスを作成。目次内のエントリ数が限られている場合は、このオプションを使用します。

各ブックの独立したシーケンスを指定のレベルまで作成：

このオプションを選択し、目次からシーケンスする最下位レベルを指定します。

3) 目次を選択ドロップダウンリストで、次のように目次のタイプを選択します。

- すべてテキスト
- CSH
- 開発者
- EPUB
- 機能トピック
- HTML5-CSH
- Salesbuilder（デフォルト）

4) 「OK」をクリックして変更を適用します。

索引

索引の基礎

索引とキーワードについて

索引を作成するには、キーワードを追加し、それをトピックと関連付けます。索引をスペルチェックしたり、トピックの作業リストを使用して索引作成中の作業を追跡したりできます。索引ポッドでキーワードの大文字使用を変更できます。

索引には、複数のレベルのキーワードや他のキーワードへの相互参照を含めることができます。サブキーワードは、メインキーワードの下にリストされるか、検索結果ウィンドウに表示されます。メインキーワードが2つ以上のトピックにリンクされている場合は、サブキーワードが必要です。

トピックキーワード

トピックキーワードは、索引ファイル（HHK）キーワードと同じように表示されますが、個別のHTMLトピック内に保存されます。索引デザイナーでは、トピックキーワードはキー/ページアイコン で識別します。

トピックキーワードを操作するときは、次の点に注意してください。

- プロジェクトにトピックを読み込むと、キーワードは索引に追加されます。
- トピックキーワードを他のトピックにコピーしてから、コピーしたトピックキーワードから索引ファイルキーワードを作成できます。
- トピックキーワードをキーワードリンクコントロールと共に使用することができます。
- プロジェクトからトピックを削除した場合、索引中のキーワードは太字で表示されます（これは、キーワードがトピックにリンクされていないことを示します）。キーワードを他のトピックにリンクするまで、キーワードは索引に表示されません。
- トピックキーワードは、ローカルHTMLトピックのみにリンクすることができます。トピックは、デフォルトのヘルプウィンドウのみに表示されます。
- トピックキーワードは、索引内の他のキーワードと相互参照（リンク）できません。相互参照を作成するには、索引ファイルキーワードを使用します。
- トピックキーワードは、索引内ではアルファベット順にソートされます。キーワードの順序を変更することはできません。

HTMLヘルププロジェクトに関する補足情報

- 複数の CHM ファイルのトピックキーワードをマスタープロジェクトにマージできます。
- トピックに索引コントロールを追加すると、コントロールの索引ファイル（HHK）には索引ファイルキーワードだけが表示されます。

WinHelpプロジェクトに関する補足情報

- WinHelpプロジェクトファイル（.HPJ）をRoboHelpプロジェクトファイル（XPJ）に変換する場合、WinHelpトピックにあるキーワードは、索引ファイルのキーワードとして保存されます。

索引ファイルキーワード

索引ファイルキーワードは、個別のHTMLトピックのコードではなく、プロジェクト索引ファイル（HHK）に保存されます。索引デザイナーでは、索引ファイルキーワードはキーアイコン で識別します。プロジェクトの複数の索引を作成および維持することができます。

索引ファイルキーワードを操作するときは、次の点に注意してください。

- 索引ファイルキーワードは、すべてのサポートされている出力タイプおよびキーワードリンクコントロールで使用できます。
- 索引ファイルキーワードは、他の索引ファイルキーワードと相互参照（リンク）できます。
- 索引ファイルキーワードは、ローカル HTML トピック、マルチメディアファイル、バゲッジファイル、ブックマーク、およびURLにリンクできます。ヘルプ形式によって異なりますが、トピックはデフォルトのヘルプウィンドウ、カスタムウィンドウ、またはフレームに表示することができます。
- バイナリ索引を作成しているのではなく、プロジェクトにトピックキーワードが含まれない場合は、任意の順序でキーワードをソートできます。
- プロジェクトからトピックを削除すると、索引ファイルキーワードは他のトピックで使用されている場合、索引に残されます。他のトピックで使用されているかどうかにかかわらず、キーワードを削除または保持することができます。
- 索引ファイルを他のプロジェクトとマージできます。HTML　ヘルプの場合、プロジェクトをマージするにはバイナリ索引が必要です。バイナリ索引のキーワードは、アルファベット順にソートされ、順番を変更できません。
- プロジェクトにトピックを読み込む場合は、索引ファイルキーワードを個別に割り当ててください。索引ファイルキーワードは、トピックキーワードとは異なり、トピックに含めることはできません。
- 索引から索引ファイルキーワードを削除すると、キーワードに割り当てられていたトピックからも、キーワードが削除されます。
- プロジェクトからトピックを削除し、トピックが使用している索引ファイルキーワードへの参照を削除しないと、キーワードは未使用としてマークされます。（例外は、他のトピックで索引ファイルキーワードが使用されている場合です）。これらのキーワードを他のキーワードが使用していない場合、プロジェクトには壊れたリンクが含まれます。

プロジェクトのキーワードタイプの指定

プロジェクトは、索引ファイルキーワードとトピックキーワードのどちらか一方または両方を含むことができます。使用するタイプを指定するには、プロジェクトの設定を変更します。

1) プロジェクト／プロジェクトの設定を選択します。
2) 「全般」タブをクリックします。
3) 「新規索引キーワードの追加先」で、キーワードタイプを指定します。
   - 索引ファイルキーワードを追加するには、「索引ファイル（HHK）」を選択します。
   - トピックキーワードを追加するには、「トピック」を選択します。
4) 「OK」をクリックします。

設定を変更するまで、新しいキーワードは指定したタイプを使用します。

注意：

- キーワードを索引に追加すると、キーワードは自動的に索引ファイル（.HHK）か、トピックファイル（.HTM）に追加されます。
- 索引ファイルキーワードは、キーアイコン 、トピックキーワードは、ページアイコン を使用します。

索引の印刷

1) 索引ポッドをクリックします。
2) ポップアップメニューから、印刷するアイテムを選択します。
3) ツールバーの印刷をクリックします。
4) 「プロパティ」および「ページ設定」をクリックして、印刷オプションを指定します。

   ヒント: カスタマイズ可能なキーワードのリストを印刷するには、索引レポートまたは関連項目レポートを使用します。

索引キーワードの追加およびリンク

- 大文字の使用が異なる同じキーワードを索引に追加した場合、索引デザイナーは、最初のエントリに基づいて、これらのキーワードを1つのエントリとして追加します。
- 索引に同じ索引ファイルキーワードとトピックキーワードが含まれる場合、キーワードはプロジェクトが生成されたときにマージされます。「索引」タブでは、1つのキーワードとして表示されます（索引デザイナーでは、異なるキーワードとして表示されます）。
- WinHelp プロジェクト（hpj ファイル）を RoboHelp プロジェクト（xpj ファイル）に変換する場合、WinHelp トピックにあるキーワードは、索引ファイルのキーワードとして保存されます。

関連するリンク：

索引を自動的に作成

ツールバーを使用した索引キーワードの追加

1) 索引ポッドで、次のいずれかの操作を行います。
   - キーワードを追加するには、新規索引キーワードボタン をクリックします。
   - サブキーワードを追加するには、リストから親キーワードを選択します。新規索引サブキーワードボタン をクリックします。
2) テキストボックスにキーワードを入力します。Enter キーを押します。

   キーワードが索引に追加されます。キーワードはまだトピックにリンクされていないため、太字で表示されます。

   ヒント：キーワードおよびサブキーワードを素早く追加するには、手順1を飛ばして、キーワードとサブキーワードを \ で区切って入力し、「キーワードを追加」をクリックします。
3) プロジェクト／開く／ポッド／トピックリストを選択します。トピックリストポッドが表示されます。
4) キーワードをトピックにリンクするには、トピックリストポッドから索引ポッドの下部のパネルに、トピックをドラッグします。

   リンクされたキーワードは、太字から普通のテキストに変わります。

トピックタイトルに基づく索引キーワードの追加

1) 索引ポッドを開きます。
2) プロジェクト／開く／ポッド／トピックリストを選択します。
3) トピックリストポッドでトピックを選択します。

   疑問符アイコン は、トピックが索引に追加されていないことを示します。
4) 索引デザイナーの上側にあるペインにトピックをドラッグします。

キーワード名はトピック名と同じです。名前は変更することができます。

トピックのプロパティを使用した索引キーワードの追加

1) トピックリストポッドまたはプロジェクトマネージャーポッドで、トピックを選択します。
2) プロパティボタン をクリックします。
3) トピックのプロパティダイアログボックスで、「索引」タブをクリックします。
4) テキストボックスに、キーワードを入力します。サブキーワードを追加するには、メインキーワード、バックスラッシュ、サブキーワードの順に入力します。
5) 「追加」をクリックします。

トピックテキストの選択による索引キーワードの追加

1) トピックをダブルクリックして、デザインビューでトピックを開きます。
2) キーワードとして使用するテキストを選択します。
3) テキストを右クリックし、追加先／索引キーワード／*[索引]*を選択します。

索引キーワードのコピー

トピック間で索引キーワードをコピーすることができます。コピー後、各トピックに使用できるようにキーワードを修正することができます。

1) トピックリストポッドでトピックを右クリックして、プロパティボタン を選択します。
2) 「索引」タブをクリックします。

3) 「既存のトピックを追加」をクリックします。

左側に、プロジェクト内のすべてのキーワードのリストが表示されます。右側には、現在のトピックのすべてのキーワードリストが表示されます。まだ索引が作成されていないトピックの場合、キーワードは表示されません。

4) 索引キーワードをトピックにコピーします。

- 1つのキーワードをコピーするには、左側でキーワードを選択し、1つの矢印のボタンをクリックします。
- すべてのキーワードをコピーするには、2つの矢印のボタンをクリックします。

5) 「OK」をクリックします。キーワードがトピックにリンクされます。

ヒント: コピーした索引キーワードを修正するには、キーワードを選択します。「索引キーワード」にテキストを入力します。「置換」をクリックします。

索引キーワードのリンク先の選択

キーワードを様々なリンク先にリンクすることができます。ユーザーがキーワードをクリックすると、トピックペインでリンク先が表示されます。

1) 索引ポッドでキーワードを選択します。

2) 「トピック」で、キーワードトピックを右クリックします。

3) 「プロパティ」を選択します。

4) 「既存のトピック」でリンク先を指定し、「OK」をクリックします。

- リストでアイテムを選択します。必要に応じて、ポップアップメニューからアイテムを選択して移動します。他のプロジェクトのアイテムにもリンクできます。
- 索引キーワードトピックとしてトピックを作成するには、「新規トピック」をクリックします。タイトルを入力し、必要に応じてファイル名を変更して、マスターページを選択します。
- 別の種類のリンク先にリンクするには、リンク先ポップアップメニューをクリックし、リンク先の種類を選択します。リンク先の種類の識別URL、電子メールアドレス、FTPアドレス、またはバゲッジファイル名を入力します。

注意：

- トピックキーワードを指定する場合、「名前」と「リンク先」フィールドは無効にされています。トピックキーワードの場合、キーワードは保存されているトピックのみにリンクできます。トピックタイトルは名前として使用されます。
- 「トピックを検索」では、プロジェクト内のトピックを特定して、索引キーワードトピックを追加したり索引キーワードトピックのプロパティを変更したりします。

ユーザー定義変数による索引キーワードの作成

ユーザー定義変数を使用すると、複数バージョンの索引キーワードを作成できます。

1) 索引ポッドでキーワードを右クリックします。「プロパティ」を選択します。
2) 使用可能な変数メニューから変数を選択します。「追加」をクリックします。

   「索引キーワード」ボックスに変数がリストされます。
3) （オプション）「索引キーワード」ボックスで、変数にプレフィックスまたはサフィックスを追加します。例えば、変数「RoboHelp」にプレフィックス「Adobe」を追加します。
4) 「トピック」リストから、この新しいキーワードをリンクするトピックを選択します。
5) 「OK」をクリックします。

索引キーワードの相互参照

ユーザーが索引で相互参照されたキーワードを選択したら代替キーワードが表示されるように、索引キーワードを相互参照させることができます。代替キーワードをクリックしてトピックを表示します。

また、索引ファイルキーワードだけが相互参照可能な点に注意してください。

1) 索引ポッドで、相互参照するキーワードを追加します。このキーワードは、代替キーワードにリンクします。
2) キーワードを右クリックします。「プロパティ」を選択します。
3) 「相互参照」を選択します。ポップアップメニューから、代替キーワードを選択します。

   索引デザイナーの下部のパネルに、相互参照が表示されます。

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

索引キーワードの編集

索引キーワードの移動とソート

索引キーワードを移動すると、そのサブキーワードも移動されます。

トピックキーワードは、最初に数字で、次にアルファベットで、自動的にソートされます。

1) 索引ポッドで、次のいずれかの操作を行います。

- キーワードを選択します。ツールバーの矢印ボタンをクリックします。操作が許可されていない場合、ボタンは使用できません。
- キーワードをドラッグします。
- キーワードを右クリックします。ソート／*[*ソートオプション*]*を選択します。

  注: 「ソート」コマンドはバイナリ索引では使用できません。ソート関数は、プライマリレイアウトがHTMLヘルプであり、かつ索引がバイナリ索引のない索引ファイルに設定されている場合のみ有効です。他のすべてのレイアウトでは、索引はソートされたままですが、HTML出力の場合に限り、索引のソートは変更できます。ソートすると、索引ポッドの上下キーが有効になります。

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

プロジェクトのキーワードの名前変更

この手順では、索引のキーワードおよびトピックキーワードの名前を変更します。

1) 索引ポッドでキーワードを右クリックします。「名前変更」を選択します。
2) テキストボックスに新しいキーワードを入力します。

トピックのキーワードの名前変更

特定のトピックにより参照されているトピックキーワードの名前を変更するには、トピックのプロパティを変更します。他のトピックがその索引を参照していた場合、オリジナルのキーワードはそのまま残ります。変更したトピックのみが更新されます。

1) トピックリストポッドでトピックを選択します。
2) プロパティボタン をクリックします。

3) 「索引」タブをクリックします。キーワードを選択します。

4) テキストボックスに新しいキーワードを入力します。

5) 「置換」をクリックします。

キーワードの大文字と小文字の変更

1) 索引デザイナーでキーワードを選択します。

2) 索引デザイナーツールバーで、小文字 または大文字 ボタンをクリックします。

索引ポッドからの索引キーワードの削除

索引ポッドからキーワードを削除すると、リンクされているすべてのトピックからそのキーワードが削除されます。

1) 索引ポッドでキーワードを選択します。

2) ツールバーの削除をクリックします。

ヒント: 未使用のキーワードとは、他のトピックから参照されていない索引のことです。索引ポッドでは太字で表示されます。これらのキーワードは自動的に削除することができます。

トピックからの索引キーワードの削除

トピックからキーワードを削除すると、変更したトピックのみが影響を受けます。キーワードを参照している他のトピックは、まだそのキーワードにリンクしています。

1) トピックリストポッドでトピックを選択します。

2) プロパティボタン を選択します。

3) 「索引」タブをクリックします。

4) リストからキーワードを選択します。

5) 「削除」をクリックします。

索引の管理

レポートを使用しての索引の管理

RoboHelpには、索引レポートや未使用索引キーワードレポートなど、索引の管理で使用するレポートが用意されています。索引レポートを使用すると、レポートでの情報の表示方法を定義するオプションを選択できます。すべてのキーワード、関連するトピックが付属するキーワードのリスト、またはトピックのリストと関連するキーワードを表示することができます。

未使用索引キーワードレポートには、トピックにより参照されていないキーワードが表示されます。これらのキーワードは索引ファイルに含まれています。このレポートを使用して、削除するキーワードまたはトピックと関連付けるキーワードを識別します。

レポートを保存、コピー、印刷およびメールすることができます。

1) ツール／レポートを選択します。

2) 索引などのレポートを選択し、結果を表示します。

3) 「閉じる」をクリックします。

キーワードトピックの壊れた参照の識別と修正

1) プロジェクトマネージャーポッドで、壊れたリンクフォルダーを開きます。

   見つからないトピックがリストされます。赤いXが表示されます。

2) 見つからないトピックを右クリックします。「プロパティ」を選択します。

   見つからないトピックを参照しているキーワードには、キーアイコン を修正します。索引ポッドでトピック参照を削除または再リンクできます。

キーワードからトピック参照の削除

注: キーワードからトピックをすべて削除すると、索引ポッドではそれらのキーワードは太字で表示され、参照されていないことを示します。

索引ポッドでキーワードを選択すると、下側のパネルにはそのキーワードを参照しているトピックがすべて表示されます。この画面からトピックを削除すると、トピックからキーワードを削除することができます。選択したキーワードを参照する、プロジェクトに存在しないトピックの名前が表示されます。この画面からトピックを削除すると、壊れたリンクは削除され、索引ファイルは更新されます。

1) 索引ポッドでキーワードを選択します。

   索引ポッドの下側のパネルに、そのキーワードを参照しているトピックがリストされます。

2) トピックを選択します。ツールバーで、削除ボタン ✕ をクリックします。

未使用索引キーワードの削除

未使用のキーワードは、トピックと関連付けられていません。索引ポッドでは、未使用の索引キーワードは太字で表示されます。未使用のキーワードは、索引には表示されません。

キーワードを参照しているトピックを削除しても、未使用キーワードは索引に維持されます。これにより、キーワードを読み取らなくても他のトピックにキーワードを割り当てることができます。

注: この手順では、1つ以上のサブキーワードを持つキーワードは削除されません。

1) 索引ポッドでキーワードを選択します。ツールバーで、削除ボタン ✕ をクリックします。

   ヒント: ツール／レポート／未使用索引キーワードを選択して、未使用のキーワードを識別します。

コンディショナルビルドタグの索引への適用

1) 索引ポッドでキーワードを選択します。
2) 編集／タグ／適用／新規作成または複数選択をクリックします。
3) タグを選択するか、「すべてをチェック」をクリックします。
4) 「OK」をクリックします。

スマート索引ウィザードを使用した自動索引

索引の自動作成

スマート索引ウィザードを使用して、トピックのコンテンツを検索します。候補のキーワードからキーワードを選択します。

注: サードパーティファイルを閉じてから、スマート索引ウィザードを実行します。

1) ツール／スマート索引ウィザードを選択します。

2) 検索条件を選択します。

「**新規および既存の索引キーワードを検索**」

トピックの内容および既存の索引エントリに基づいてキーワードを追加します。

「**既存の索引キーワードをトピックに追加**」

既に使用されているキーワードのトピックを検索し、そのトピックにキーワードをリンクします。

「**カスタム検索設定を使用**」

「設定」をクリックして、カスタム検索オプションを設定します。スマート索引設定ダイアログボックスで、索引キーワードを検出する効率的な言語を定義できます。例えば、プロジェクト言語をフランス語、段落の言語を英語で定義すると、スマート索引では段落のキーワードを特定するのに英語の辞書が使用されます。

注: このオプションは、英語の場合のみ適用できます。

スマート索引設定ダイアログボックスの「設定」領域で、索引のキーワードに含めるオプションを選択できます。例えば、辞書で見つからないフレーズや単語内の複合語、フレーズ、単語の最初の文字を大文字にします。

「その他の設定」領域で、索引のキーワードから除外するオプションを選択できます。例えば、動詞や副詞を選択し、形容詞または名詞をキーワードとして含めたり除外したりします。

3) 索引キーワードを検索するためのアイテムを選択します。

4) 無視する単語またはフレーズを指定するには、「常に無視」または「フレーズ」を選択します。エントリを編集、追加、または削除します。

5) キーワードの最初の文字を大文字にするには、「すべての新規索引キーワードを大文字にする」を選択します。索引ポッドで大文字小文字を変更できます。

6) 「次へ」をクリックします。

7) 「トピックごとに索引キーワードの追加を確認」を選択します。

確認しないでキーワードを追加するには、「すべてのトピックに索引キーワードを自動的に追加」を選択して、「完了」をクリックします。

8) （オプション）検索のフィルターオプションを選択します。

フォルダー

指定したフォルダーでトピックを検索します。

ステータス

ステータスでトピックを検索します。

「新規トピック（スマート索引未処理）のみを確認」

索引を作成されていないトピックのみを検索します。

9) 「次へ」をクリックします。候補キーワードが1番目のトピックに表示されます。

10) キーワードを選択、選択解除、名前変更、または削除します。

次のトピックへ進むには、「スキップ」をクリックします。オプションをクリックして動詞、同意語および既存の索引キーワードを追加します。

注: 「次を含む文」ボックスには、キーワードが見つかったコンテキストでのヒントのキーワードが表示されます。「情報」フィールドには、選択されたキーワードが新しいキーワードであるか、既存のキーワードであるかが示されます。

11) 「次へ」をクリックし、結果ダイアログボックスで「閉じる」をクリックします。

索引ポッドに新しいキーワードが表示されます。

注意：

- キーワードやサブキーワードの大文字と小文字を変更できます。
- キーワードをトピック以外のリンク先にリンクすることができます。
- 索引キーワードは関連項目キーワードとは異なります。

無視するキーワードの指定

スマート索引ウィザードが無視する単語またはフレーズのリストを作成できます。このリストは常に無視リストです。

スマート索引ウィザードでトピックを検索すると、常に無視リストが確認されます。完全一致が見つかると、それは可能性のあるキーワードとして無視されます。

1) ツール／スマート索引ウィザードを選択します。

2) 「常に無視」をクリックします。

3) 次のいずれかを行います。

- 単語を追加するには、「新規」をクリックして、テキストを入力します。
- 単語を編集するには、単語を選択します。「編集」をクリックして、テキストを入力します。
- 単語を削除するには、単語を選択します。「削除」をクリックします。

リストがWLFファイルとしてプロジェクトフォルダーに保存されます。

注: 大文字の単語または大文字と小文字が混在する単語でない限り、入力する単語とフレーズには大文小文字の区別がありません。これらの場合、スマート索引ウィザードで正確な検索を行ってから、新しいキーワードの候補を作成する必要があります。

関連するリンク:

プロジェクトの設定を変更

無視する一般的な単語の指定

スマート索引ウィザードが無視する一般的な単語（aなど）のリストを作成できます。このリストは停止リストです。

停止リストには512文字しか含むことができません。停止リストに含まれる各単語には、不可視の文字が1つ含まれています。単語の途中で文字数の制限に達してしまった場合、単語全体がコンパイルされません。

1) ツール／スマート索引ウィザードを選択します。

2) 「常に無視」をクリックします。

3) 「停止リスト」タブをクリックします。

4) 次のいずれかを行います。

- 単語を追加するには、「新規」をクリックして、テキストを入力します。
- 単語を編集するには、単語を選択します。「編集」をクリックして、テキストを入力します。
- 単語を削除するには、単語を選択します。「削除」をクリックします。

リストがSTPファイルとしてプロジェクトフォルダーに保存されます。

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

関連するリンク:

プロジェクトの設定を変更

カスタムフレーズの指定

スマート索引ウィザードが候補を作成する索引キーワード（単語およびフレーズ）をうまくコントロールできるように、カスタムフレーズリストを作成します。このキーワードのリストは、プロジェクトに固有です。例えば、製品名を含めることができます。

スマート索引ウィザードでトピックを検索すると、フレーズリストが確認されます。そのトピックのキーワードではないトピックで一致する場合、そのアイテムをキーワードの候補として作成します。

1) ツール／スマート索引ウィザードを選択します。

2) 「フレーズ」をクリックします。

3) 「新規」をクリックします。

- フレーズを追加するには、「新規」をクリックして、テキストを入力します。
- フレーズを編集するには、フレーズを選択します。「編集」をクリックして、テキストを入力します。
- フレーズを削除するには、フレーズを選択します。「削除」をクリックします。

リストがPHRファイルとしてプロジェクトフォルダーに保存されます。このファイルは、Windowsのメモ帳などのテキストエディターで編集できます。

注: 大文字の単語または大文字と小文字が混在する単語でない限り、入力する単語とフレーズには大文小文字の区別がありません。これらの場合、スマート索引ウィザードで正確な検索を行ってから、新しいキーワードの候補を作成する必要があります。

索引の同意語の検索

注: このオプションは英語のみで利用可能です。

1) ツール／スマート索引ウィザードを選択します。
2) 「次へ」を2回クリックします。
3) キーワードを選択します。
4) 「オプション」をクリックします。「同意語」を選択します。

   「単語」ボックスにキーワードが表示されます。
5) （オプション）「反意語」をクリックして、キーワードの反意語を表示します。
6) 「カテゴリ」で、単語に最もよく一致するものを選択します。
7) 「同意語」で、キーワードとして追加する単語を選択します。「トピックに追加」をクリックします。
8) 「閉じる」をクリックします。

   ヒント: 追加の単語の同意語および反意語を表示するには、「単語」ボックスに入力して、「検索」をクリックします。

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

複数索引

複数の索引の作成

1つのプロジェクトに複数の索引を作成できます。新しい索引は、索引フォルダーに追加されます。複数の索引がある場合、任意の索引で右クリックして、「デフォルトとして設定」を選択し、その索引をデフォルトの索引として設定することができます。同様に、索引を右クリックして、「名前変更」を選択すると、索引の名前を変更できます。

複数の索引間で、キーワードをコピーおよびドラッグできます。

1) 次のいずれかを行います。
   - プロジェクトマネージャーポッドで、索引フォルダーを右クリックします。「新規索引」を選択します。
   - 索引ファイルを作成/表示ボタン「新規」をクリックします。
2) テキストボックスに名前を入力します。
3) （オプション）既存の索引をコピーするには、「既存の索引をコピー」を選択します。参照ボタン をクリックして、索引に移動します。
4) 「OK」をクリックします。

索引のマージ

プロジェクト内の索引をマージするには、次の手順に従います。

1) プロジェクトマネージャーポッドで、索引フォルダーを開きます。
2) 索引をダブルクリックします。
3) 索引ポッドで、マージした索引を挿入するキーワードを選択します。
4) 目次プレースホルダーを挿入ボタン をクリックします。
5) 索引を選択メニューから、挿入する索引を選択します。
6) 「OK」をクリックします。

   マージされた索引が、新規索引アイコン で表示されます。
7) アイコンをダブルクリックし、「表示」をクリックします。

   マージされた索引が、索引ポッドに表示されます。

関連するリンク：

スマート索引ウィザードを使用した自動索引

バイナリ索引の作成（HTML Help）

Microsoft HTMLヘルプでの目次と索引

ヘルププロジェクトをマージ

Microsoft HTMLヘルプでの目次と索引

カスタム目次アイコンの割り当て（HTML Help）

1) 目次ポッドで、ブックまたはページを右クリックします。「プロパティ」を選択します。

2) 「詳細」タブをクリックします。

   「画像」で、「自動」はブックまたはページが標準アイコンを使用することを示します。

3) ポップアップメニューから、アイコンを選択します。

   プロジェクトにビットマップファイル（BMP）を追加した後は、ブックやページにその他のアイコンを割り当てることができます。

4) （オプション）「新規としてマーク」を選択すると、標準アイコンが赤い星印付きで表示されます。星印は、目次アイテムに新しい情報が含まれることを示します。

   注: 「新規としてマーク」オプションは、プライマリレイアウトがMicrosoft HTMLヘルプである場合にのみ、選択可能です。

5) 「OK」をクリックします。

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

注: 目次ポッドは、すべてのブックとページを、「詳細」タブでの選択に関わらず標準アイコンで表示します。プロジェクトを生成すると、アイコンを「目次」ペインで表示できます。

バイナリ目次ファイルの作成（HTML Help）

ファイルを開く時間を短くするには、大規模プロジェクトにバイナリ目次ファイルを使用します。

重要: バイナリ目次ファイルを使用するプロジェクトを結合しないでください。

1) プロジェクトマネージャーポッドで、目次フォルダーの目次をダブルクリックします。目次ポッドが表示されます。

2) 出力／開く／出力設定を選択します。

3) シングルソースレイアウトフォルダーを展開します。

4) レイアウトを右クリックします。「プロパティ」を選択します。

5) 「編集」をクリックします。

6) 「目次スタイル」タブをクリックします。

7) 「バイナリ目次」を選択します。

8) 「OK」をクリックします。

9) プロジェクトを生成します。

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

バイナリ索引の作成（HTML Help）

Microsoft HTMLヘルププロジェクトでは、特定の状況でバイナリ索引が必要です。

- プロジェクトにトピックキーワードがある場合。トピックキーワードは、それを参照するHTMLファイルに保存されます。
- HTMLプロジェクトをマージする場合。プロジェクトをマージすると、各CHMファイルはそれぞれのプロジェクトに残りますが、各索引ファイルからのキーワードはマスタープロジェクトに結合されます。マスターCHMファイルと共に、各CHMファイルを配布してください。

1) Microsoft HTMLヘルプがプライマリレイアウトに設定されていることを確認します。

2) プロジェクト／ファイル／プロジェクトの設定を選択します。

3) 「全般」タブで「バイナリ索引」を選択します。

4) 「OK」をクリックします。

5) トピックキーワードを追加します（キーアイコン で示されます）。

6) 必要に応じてサブプロジェクトをマージします。

7) プロジェクトを生成し、表示します。

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

関連するリンク：

ヘルププロジェクトをマージ

出力の生成、表示、公開

目次のカスタマイズ（HTML Help）

ブックおよびページのタイトルを表示するためのカスタムフォントを選択し、ブックおよびページをトピックコンテンツと同期します。浮き上がったエッジまたは沈んだエッジを使用して、3次元の外観を作成します。

1) シングルソースレイアウトポッドで、HTMLヘルプ出力のレイアウトを右クリックします。

2) 「プロパティ」を選択します。

3) 「詳細設定」の横の「編集」をクリックします。

4) 「目次スタイル」タブをクリックします。

5) 次のスタイル設定オプションがあります。

罫線

目次の周囲に罫線を追加します。

ダイアログフレーム

目次の周囲にフレームを追加します。

プラス/マイナス記号

ブックを開いたり閉じたりするプラスアイコンとマイナスアイコンを表示します。

選択を常に表示

「目次」タブで選択されているトピックを表示します（このタブが左ペインフォーカスでない場合でも）。

ブックの代わりにフォルダー

ブックアイコンの代わりにフォルダーアイコンを表示します。

シングルクリックでブックを開く

1クリックでブックが開くようにします。

エッジを浮かす、エッジを沈ませる

3次元の外観を作成します。

項目間の線

ブックとページの間に線を追加します。

ルートからの線

ルートからブックとページを接続する線が表示されます。

6) フォントを指定します。

7) ウィンドウ、フレーム、および他のオプションを設定します。

- カスタムウィンドウでトピックを表示するには、「デフォルトウィンドウ」からウィンドウ名を選択します。
- カスタムフレームでトピックを表示するには、「デフォルトフレーム」からフレームセット名を選択します。
- カスタムブックおよびページのアイコンを使用するには、「カスタム画像ファイル」からBMPファイルを選択します。C:\Program Files\Adobe RoboHelp *[version]*\My.bmpなどの画像パスが含まれることを確認します。**注:** カスタムブックアイコンやカスタムページアイコンの場合は、アイコンストリップを作成します。Microsoft WebサイトのMSDNライブラリを参照してください。

8) 「OK」をクリックします。

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

注: バイナリ目次オプションは、大きなヘルプシステムに対してのみ推奨されます。これには、コンパイルされたHTMLヘルプが必要です。また、カスタマイズや外部目次ファイルはサポートしていません。

索引のカスタマイズ（HTML Help）

HTMLヘルププロジェクトの索引タイプにより、索引のプロパティが決まります。

索引ファイルキーワード

バイナリではない索引の索引ファイルキーワードの場合は、キーワードのフォントをカスタマイズできます。HTMLヘルプビューアーで「索引」タブをクリックします。

マージされた索引

CHM ファイルから索引をマージする場合は、「バイナリ索引」オプションを選択します。

トピックキーワード

索引にトピックキーワードが含まれる場合は、バイナリ索引を作成します。

1) シングルソースレイアウトポッドで、HTML ヘルプ出力のレイアウトを右クリックします。

2) 「プロパティ」を選択します。

3) 「編集」をクリックします。

4) 「索引」タブをクリックします。プロパティを設定します。

デフォルトウィンドウ

トピックを表示するカスタムウィンドウを選択します。カスタムウィンドウは、索引ファイルキーワードにのみリンクできます。

デフォルトフレーム

トピックを表示するカスタムフレームを選択します。カスタムフレームは、索引ファイルキーワードにのみリンクできます。

フォントを選択

フォント名とサイズを選択します。

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

目次コントロールの追加（HTML Help）

ユーザーがトピックを開くと、目次が表示されます。

トピックがサブフォルダーにある場合は、コントロールを追加する前にファイルのコンテンツをサブフォルダーにコピーします。

1) デザインビューでトピックを開きます。

2) 目次を追加する場所をクリックします。

3) 挿入／HTML／Javascript／目次を選択します。デザインエディターに目次コントロールが表示されます。

4) コントロールをテストするには、プロジェクトを生成します。目次コントロールには、最終出力の場合と同じ目次が表示されます。

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

ヒント: 他の目次ファイルをプロジェクトにリンクすることができます。目次コントロールと共にHHCファイルを選択する場合は、プロジェクトにHHCファイルをコピーします。

索引コントロールの追加（HTML Help）

プロジェクトが3ペインデザインをサポートしない場合は、索引コントロールをトピックに追加して、索引ファイルを利用できるようにします。索引コントロールでトピックを開くと、索引が表示されます。

1) トピックがサブフォルダーにある場合は、索引ファイル（HHK）をサブフォルダーにコピーします。

2) デザインエディターで、コントロールを含むトピックを開きます。

3) 索引を追加する場所をクリックします。

4) 挿入／HTML／JavaScript／索引を選択します。

   索引コントロールが表示されます。

索引コントロールをテストするには、プロジェクトをコンパイルします。索引コントロールには、最終出力の場合と同じ索引が表示されます。

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

ヒント: 他の索引ファイルをプロジェクトで使用できます。索引コントロールと共にHHKファイルを選択する場合は、HHKファイルおよびそれに関連するすべてのファイル（トピック、画像、マルチメディア）をコピーします。

カスタムウィンドウおよびフレームへのキーワードと目次アイテムのリンク（HTML Help）

カスタムウィンドウには、状況依存ヘルプおよび索引キーワード、目次ブック、目次ページからのリンクを表示できます。

1) カスタムウィンドウまたはフレームを作成します。

2) 次のいずれかを行います。

- 目次ポッドで、ブックまたはページを右クリックします。「プロパティ」を選択します。
- 索引ポッドで、索引ファイルキーワードを右クリックします。「プロパティ」を選択します。

3) 「詳細」タブをクリックします。

4) ウィンドウポップアップメニューから、カスタムウィンドウを選択します。

5) フレームポップアップメニューから、カスタムフレームを選択します。

6) 「OK」をクリックします。

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

注: Microsoft HTMLヘルプでは、トピックからカスタムウィンドウへのリンクはサポートしていません。ポップアップへのリンクのみをサポートしています。

関連するリンク:

ポップアップへのリンク

スマート索引ウィザードを使用した自動索引

用語集

用語集の用語の作成

1) プロジェクトマネージャーポッドで、用語集フォルダーの用語集をダブルクリックします。

2) 用語集ポッドで、「用語」ボックスに用語を入力します。

3) 用語を追加ボタン（プラス記号）をクリックするか、Enterキーを押します。

   用語が太字で表示されます。これは、定義が割り当てられていないことを示しています。

4) 定義する用語パネルで、定義を入力します。

   書式を設定したテキスト、タブ、または改行は使用できません。

   ヒント: トピックで用語および定義を表示するには、拡張用語集ホットスポットを追加します。

5) 必要に応じて、出力に表示されるように、シングルソースレイアウトウィザードの「用語集」タブを有効にします。少なくとも1つの用語とその定義を追加し、シングルソースレイアウトウィザードの「用語集」チェックボックスを有効にします。

   注: （Microsoft HTML Help）最終的な出力を配布するときは、CHM　ファイルにHHActiveX.DLLファイルを含めます。このDLLファイルは、オンライン用語集をサポートするActiveX® コントロールです。このファイルを、エンドユーザーのWindowsシステムにコピーして登録する必要があります。

用語集の用語と定義の読み込み

ヒント: 用語集ファイル（GLO）を読み込む前に、両方の用語集の詳細レポートを印刷します。このレポートは、両方の用語集に存在する用語を判別し、定義を比較するのに役立ちます。

1) プロジェクトマネージャーポッドで、用語集フォルダーの用語集を選択します。

2) プロジェクト／読み込み／用語集を選択します。

3) 参照ボタン をクリックして、GLOファイルに移動します。

4) 次のいずれかを行います：

- 外部の用語集にある定義と同一の用語を上書きする場合は、「既存の用語定義を置き換える」を選択します。
- 「読み込み済み用語集の用語」リストで 1 つ以上の用語を選択します。「追加」をクリックします。
- すべての用語を読み込むには、すべてを追加ボタン をクリックします。

5) 「OK」をクリックします。

用語集のテストと印刷

出力の用語集のテスト

1) 用語集ポッドが有効になっていることを確認します。
2) レイアウトを生成します。
3) 「結果を表示」をクリックします。
4) 「用語集」をクリックします。
5) 用語を選択して、その定義を表示します。

用語集の印刷

1) 用語集ポッドをクリックします。
2) ツールバーの印刷をクリックします。
3) ポップアップメニューから、印刷する情報を選択します。

概要

すべての用語を印刷します。

詳細

すべての用語と定義を印刷します。

4) 「プロパティ」および「ページ設定」をクリックして、印刷オプションを指定します。
5) 「OK」をクリックします。

用語集からの用語の削除

用語を削除しても、拡張用語集ホットスポットは削除されません。ホットスポットは別に削除します。

1) プロジェクトマネージャーポッドで、用語集フォルダーの用語集をダブルクリックします。

2) 用語集ポッドで、リストから用語を選択します。

3) ツールバーの削除をクリックします。

関連するリンク:

用語集ホットスポット

用語集の定義の変更

注: 拡張用語集ホットスポットとして使用される定義を変更する場合は、用語集ホットスポットウィザードを実行してプロジェクトを更新します。

1) 用語集ポッドで、変更する用語を選択します。

2) 定義テキストを編集します。

複数の用語集の作成

1つのプロジェクトに複数の用語集を作成できます。新しい用語集は、用語集フォルダーに追加されます。

複数の用語集間で、用語をコピーおよびドラッグできます。

注: デフォルトの用語集は削除できません。

1) 次のいずれかを行います。

- プロジェクトマネージャーポッドで、用語集フォルダーを右クリックします。新規用語集を選択します。
- 用語集ファイルを作成/表示ボタン をクリックします。「新規」をクリックします。

2) テキストボックスに名前を入力します。

3) （オプション）既存の用語集をコピーするには、「既存の用語集をコピー」を選択します。参照ボタン をクリックして、用語集に移動します。

ヒント: ツールバーの用語集ホットスポットウィザードの開始ボタン をクリックし、トピック内の既存の用語をマークします。

用語集のマージ

1) プロジェクトマネージャーポッドで、用語集フォルダーを開きます。

2) 用語集をダブルクリックします。

3) 用語集を読み込みボタン をクリックします。

4) フォルダーボタン をクリックします。マージする用語集を選択します。「開く」をクリックします。

5) 必要に応じて、「既存の用語定義を置き換え」の選択を解除します。

   このオプションを選択すると、用語集の既存の定義が、マージされた用語集の定義に置き換えられます。

6) 読み込まれた用語集リストから用語を選択します。選択した用語をマージするには、1つの右矢印をクリックします。すべての用語をマージするには、2つの右矢印をクリックします。

   注: マージ対象として選択済みの用語の選択を解除するには、現在のプロジェクトリストで用語を選択し、左矢印をクリックします。

7) 「OK」をクリックします。

マージした用語集の用語が、用語集ポッドに表示されます。

関連するリンク:

用語集ホットスポット

用語集ホットスポット

拡張用語集ホットスポット

用語集ホットスポットウィザードでは、トピック内の用語が検索され、それらの用語がマークされます。出力を生成またはプレビューしながら、拡張ホットスポットに変換するすべての用語をマークできます。

注意：

- 拡張用語集ホットスポットには、Internet Explorer 4.0 またはそれ以降のバージョンが必要です。スタイルの一部として使用する場合は、Internet Explorer 5.0 またはそれ以降のバージョンが必要です。Netscape Navigator は、拡張用語集ホットスポットをサポートしていません。
- 用語集パネルは Oracle Help ではサポートされていません。定義は、ホットスポットではなくインラインで表示されます。
- 用語集は印刷ドキュメントに出力され、ページの最後に表示されます。
- スタイルエディター（製品マネージャーポッドのスタイルシートボタンからアクセスできます）で用語と文字のスタイルを修正して、ホットスポットの外観をコントロールします。
- 用語集再スタイルによる出力のジェネレータースクリプトは、用語集をポップアップまたはツールヒントとして再スタイルし、選択されているレイアウトに対して出力を生成します。「ExtendScript Toolkit のサポートについて」を参照してください。

拡張用語集ホットスポットの追加

1) 次のいずれかを行います。

- 用語集ポッドからトピックに用語をドラッグします。

  用語がトピック内に出現しない場合、または用語が拡張に適した場所にない場合は、この方法を使用します。

- 用語集ポッドで、用語集ホットスポットウィザードボタン をクリックします。

  用語集ホットスポットウィザードでは、トピック内の用語が検索され、それらの用語がマークされます。出力を生成またはプレビューしながら、拡張ホットスポットに変換するすべての用語をマークできます。

デザインエディターでホットスポットをダブルクリックして、ホットスポットをプレビューします。

拡張用語集ホットスポットの更新

用語集ホットスポットウィザードでは、選択した用語集で定義されている用語についてマーカーを挿入します。トピック内の用語の定義は挿入されません。プレビューまたは出力を生成すると、RoboHelp では用語の定義が追加されます。その結果、トピック内でマークされた用語の定義は常に更新された状態になります。

1) プロジェクト／開く／用語集を選択し、「用語集ホットスポットウィザード」をクリックします。

2) オプションを選択します。用語を選択メニューから、個々の用語またはすべての用語を選択します。

トピックごとに用語のマークを確認

トピック内でマークされている用語を選択し、用語集ホットスポットとして展開する場合に選択します。

すべてのトピックの用語を自動的にマーク

用語集ホットスポットウィザードで、トピック内で検出した、用語集ホットスポットに展開するすべての用語をマークします。

大文字と小文字を区別

状況依存検索を行います。

トピックの用語の最初のインスタンスのみをマークして後に続くインスタンスのマークを解除

このオプションは、出力をプレビューまたは生成するときに、拡張用語集ホットスポットに用語について最初にマークされたインスタンスを返す場合に使用します。

3) 「次へ」をクリックします。

章でマークする用語を選択します。

4) 新規の定義を用語に割り当てるには、一致しない用語の横にあるボックスを選択します。

5) 「次へ」をクリックします。用語集ホットスポットウィザードが表示する各トピックに対して手順を繰り返します。

6) 「完了」をクリックします。

拡張用語集ホットスポットのテスト

1) トピックリストポッドで、ホットスポットを含むトピックを右クリックします。

2) 「表示」をクリックします。

3) 用語集の用語をクリックします。

4) 再び用語をクリックして、ホットスポットを閉じます。

拡張用語集ホットスポットのマーク解除

用語集ホットスポットウィザードを使用したホットスポットのマーク解除

1) プロジェクト／開く／用語集を選択し、「用語集ホットスポットウィザード」をクリックします。
2) 「各トピックの追加定義を確認」を選択します。
3) 検索するフォルダーおよびステータスを選択します。
4) 用語を選択メニューから、削除する用語を選択します。
5) 「次へ」をクリックします。
6) 各トピックが表示されたら、チェックボックスをオフにして、拡張用語ホットスポットの選択を解除します。
7) 「完了」をクリックします。

デザインビューでのホットスポットのマーク解除

1) デザインビューでトピックを開きます。用語を選択します。
2) 右クリックメニューから「展開テキストを削除」を選択します。

用語集定義ビューアーでマークされた用語の定義をクリックすることができますが、用語の定義は編集できません。**注**: 古いバージョンから用語集を更新すると、ローカルな変更はすべて失われます。

リンク、ナビゲーション、検索

ナビゲーションの基本

ナビゲーションオプション

ヘルププロジェクトでは、次のナビゲーションオプションを使用できます。

ハイパーテキストリンク

リンクのリンク先を開きます。

ポップアップ

デフォルトのビューアーではなく、ポップアップウィンドウにHTMLトピックを表示します。ポップアップは、別のHTMLトピックまたはブックマークにのみリンクできます。

リンクコントロール

関連トピックのリストを開く、クリック可能なオブジェクトです。リンクコントロールには、関連項目、関連トピック、またはキーワードリンクが含まれます。

ブレッドクラム

これらのリンクはヘルプページに表示され、目次でのページの位置、またはプロジェクトのディレクトリ構造の概要を示します。

閲覧シーケンス

一連のトピックのシーケンスです。シーケンスでトピックの順序を定義できます。

検索

検索キーワードを含むトピックを検出します。ナビゲーションペインの「検索」タブにリンクとして検索結果が表示されます。トピックペインの検索キーワードはハイライトされます。

トピックナビゲーションバー

出力タイプとしてWebHelpを使用して、レイアウトに追加されたナビゲーションバー。

ホットスポット、ドロップダウンホットスポット、およびTwistiesの拡張

展開するテキストリンクです。追加情報が表示されますが、他のトピックは表示されません。ダイナミックHTML（DHTML）をサポートしているブラウザーで、ホットスポットが使用できます。

テキストのみポップアップ

テキストのみが表示されるウィンドウで、トピックやWebページは表示されません。テキストのみポップアップは、定義または詳細に使用すると便利です。通常のポップアップとは違い、テキストのみのポップアップはそれを含むトピック内にあります。別のトピックではありません。

画像マップ

他のトピックへのグラフィカルなリンクを含む、HTMLトピック内の画像です。画像内のクリック可能な領域がホットスポットです。

画像リンク

リンク先にユーザーを移動させるか、ポップアップを開く画像のリンクです。画像リンクの作成は、テキストリンクを作成する場合と似ています。

ブックマーク

ユーザーをトピック内の特定の場所に移動させるリンクです。

WinHelpトピックコントロール

（Microsoft HTMLヘルプのみ）WinHelpシステムを開くクリック可能なオブジェクトです。

これらの機能の多くは、プロパティ／ナビゲーションダイアログボックスの設定を使用して、特定のレイアウトに対して指定できます。

トピックのナビゲーションペインのリンクを表示

状況依存ヘルプを呼び出して開くトピックのナビゲーションペインへのリンクを含める場合に選択します。

ブレッドクラムリンクを追加

トピックページにブレッドクラムを追加する場合に選択します。

子プロジェクトにマージされた目次を表示

子プロジェクトにマージされた目次を表示する場合に選択します。

書式

ブレッドクラムの書式を変更します。

検索結果にコンテキストを表示

（WebHelp、FlashHelp）検索結果のトピックの内容を表示する場合に選択します。

検索結果のハイライト

トピックで検索結果をハイライトする場合に選択します。検索結果をハイライトする色を選択します。

バージョン情報ボックスを追加

ユーザーがメインツールバーで画像をクリックしたときにダイナミックウィンドウに表示される情報を設定します。

バージョン情報ボックスの例

閲覧シーケンス

有効にする前に閲覧シーケンスを作成します。

ディテール

トピックナビゲーションバーの要素に表示されるテキストを変更します。

ツールバーの検索入力フィールド

メインツールバーに検索フィールドを含めます。

目次を同期

目次を右ペインのトピックと同期します。これにより、ユーザーは構造のどこに自分が位置するのかを知ることができます。

- 目次を自動で同期するには、ポップアップメニューをクリックして「自動」を選択します。
- ユーザーがクリックして目次を同期できるボタンを追加するには、ポップアップメニューをクリックして「手動」を選択します。**注：**カスタムスキンを使用する場合、WebHelp スキンエディターにボタンアイコンを提供します。

ブレッドクラムについて

階層リンク（ブレッドクラムリンク）とは、ヘルプシステムのWebページに表示されるナビゲーションリンクです。これらのリンクは、目次内におけるページの位置またはプロジェクトのディレクトリ構造を示すものです。マスターページまたはトピックでブレッドクラムを定義できます。実行時に設定し、ページの上または下に表示することもできます。

ユーザーは、ブレッドクラム軌跡の一部をクリックして、ページに直接移動できます。例えば、軌跡がホーム／インストール／ハードウェア要件である場合、ユーザーは「インストール」をクリックすると、インストールページに直接移動できます。

ブレッドクラムは、マージ済みプロジェクトに表示されます。マージ済みプロジェクトのページに対するブレッドクラムには、マージ済みプロジェクトとマスタープロジェクトについてそのページの位置が含まれます。

例えば、プロジェクトAsianCuisineを含むマスタープロジェクトMultiCuisineをサポートします。さらに、AsianCuisineにはプロジェクトJapaneseRecipesが含まれています。「日本の共通構成要素」というトピックのブレッドクラム軌跡は以下のとおりです。

ホーム／MultiCusine／AsianCuisine／JapaneseRecipes

ブレッドクラムは、WebHelp、WebHelp Pro、FlashHelp、FlashHelp Pro、HTMLヘルプおよびAIRヘルプのみで生成されます。他のすべてのレイアウトの場合、プレースホルダーがあっても、ブレッドクラムは生成されません。

ブレッドクラムのトピックへの追加

1) 出力／開く／出力（SSL）を選択します。
2) WebHelp、WebHelp Pro、FlashHelp、FlashHelp ProLayoutのいずれかをダブルクリックして、次の操作を行います。
   - （WebHelp）ナビゲーションペインで、「ブレッドクラムリンクを追加」を選択し、「書式」をクリックします。
   - （WebHelp Pro/FlashHelp/FlashHelp Pro）「次へ」をクリックします。「ブレッドクラムリンクを追加」を選択し、「書式」をクリックします。
3) レイアウト領域で、ブレッドクラムの位置と整列を選択します。
4) テキスト領域で、すべてのトピックページに表示されるメインヘルプページへのリンク名を選択するか、指定します。

5) 階層リンクのセパレーターを選択します。

6) ブレッドクラム軌跡の前にラベルを入力します。例えば、ブレッドクラム軌跡の前に、「現在位置」のような静的なテキストを追加できます。

7) プレビューポッドでブレッドクラムのレイアウトと書式設定をプレビューします。

8) 背景色を選択します。

9) （オプション）デフォルトの書式設定を使用するには、「トピックレベル形式を使用」を選択します。

10) （オプション）デフォルトのフォント設定を変更するには、「書式」をクリックします。

11) 「OK」をクリックし、「完了」をクリックします。

生成されたWebHelpのすべてのトピックページには、目次階層を参照したブレッドクラム軌跡が表示されます。

関連するリンク：

プレースホルダーの挿入

テキストリンクの作成

プロジェクトマネージャーおよびTOC Composerに表示されるほとんどのアイテムでリンクを作成できます。該当するアイテムとして、ブックマーク、URL、バゲッジファイル、ニュースグループ、FTPサイト、他のプログラムに関連付けられているファイル（PDFなど）、リモートトピックがあります。

デザインエディターを使用したテキストリンクの作成

1) デザインエディターで、リンクの挿入点を選択します。

2) ハイパーリンクを挿入ボタン をクリックします。

3) リンク先メニューからオプションを選択します。リンク元をボックスに指定します。

4) 「フレームに表示」が選択されている場合は、ポップアップメニューからオプションを選択します。

フレームに表示

リンク先がフレームの場合は、リンク先の内容を表示するフレームセットを定義します。フレームの種類を選択したり、カスタムフレーム情報を入力することができます。このオプションは、トピックへのリンクには使用できません。

自動サイズのポップアップで表示

ビューアーまたはブラウザーではなく、ポップアップウィンドウにリンク先トピックを表示します。ウィンドウサイズはコンテンツに応じて調整されます。長いトピックがある場合は、カスタムサイズのポップアップを使用してください。

カスタムサイズのポップアップで表示

リンク先トピックをポップアップウィンドウに表示します。ウィンドウのサイズを手動で変更するには、「幅」および「高さ」フィールドに数値を入力します。テキストがポップアップの高さまたは幅よりも大きい場合、ポップアップにはスクロールバーが表示されます。このオプションは、トピックへのリンクには使用できません。

5) リンク上にカーソルを移動したときに表示されるように、ツールヒントテキストを追加します。

6) リンク先としてプロジェクト内にあるローカルトピック、ブックマーク、フレームまたはURLを選択します。リストをフィルターするには、三角形をクリックします。

ドラッグによるリンクの作成

1) デザインエディターで、ホットスポット用のアイテムをトピックで選択します。テキスト、画像またはマルチメディアオブジェクトを選択します。

2) プロジェクトマネージャーポッドで、リンク先のアイテムを含むフォルダー（URLフォルダー内のURL、またはカスタムフォルダー内のトピックなど）を開きます。

3) リンク先のアイテムを参照して選択します。

4) （オプション）「目次」タブをクリックしてTOC　Composerを表示するか、または「プロジェクト」タブをクリックしてプロジェクトマネージャーを表示します。

5) リンク先アイテムをプロジェクトマネージャーポッドまたはトピックリストポッドからデザインエディターの選択した項目にドラッグします。

注: 情報タイプが含まれているトピックは、リンクとしてサポートされません。

関連するリンク:

画像マップ

ポップアップへのリンク

デフォルトのブラウザーやビューアーではなく、ポップアップにHTMLトピックを表示するリンクを作成できます。ポップアップでは、HTML形式、画像、ダイナミックHTML、リンクコントロール、およびリンク先のトピックに含まれている他のHTML機能をサポートしています。ユーザーがリンクをクリックすると、ポップアップが開き、トピックの内容または指定したサイズに合わせて表示されます。

ポップアップは、プロジェクト内のトピックまたはブックマークへリンクする場合にのみ使用できます。

1) デザインエディターで、リンクを挿入する場所にカーソルを配置するか、リンクのホットスポットを定義するテキストや画像を選択します。
2) ツールバーでポップアップを挿入ボタンをクリックします。をクリックします。
3) 「ハイパーリンクオプション」を選択します。
4) サイズオプションを選択します。カスタムにサイズを設定するポップアップを選択する場合は、「高さ」および「幅」フィールドに値をポイント単位で入力します。

   注: 自動/カスタムポップアップ内でのスクロールは、一部のデバイス上でのMulti-screen HTML5出力では機能しない場合があります。
5) 「公開先を選択（ファイルまたはURL）」で、トピック、ブックマークまたはフレームセットを選択します。
6) 「OK」をクリックします。

   注: ポップアップ内から別のポップアップへのリンクは、HTML ヘルプビューアーまたはInternet Explorerでは機能しません。

全文検索の対象からのポップアップの除外

1) ポップアップトピックを含む、小さなHTMLヘルププロジェクトを作成します。
2) プロジェクトを生成してCHMファイルを作成します。
3) 2つ目のCHMファイル内のポップアップトピックにリンクします（2つのヘルプシステムをマージしないでください）。
4) 両方のCHMファイルをユーザーに配布します。

関連するリンク:

テキストのみポップアップ

ブックマーク

ブックマークを使用すると、トピック内でリンクを並べて作成することができます。トピック内、プロジェクト内にある他のトピック、索引エントリ、目次エントリ、または画像マップからブックマークにリンクできます。ブックマークされているオブジェクトの横には、ブックマークアイコン が表示されます。プロジェクトマネージャーからブックマークを表示するには、トピックの横にあるプラスサイン をクリックします。

ブックマークの作成

1) ブックマークを作成する場所の左側をクリックします。
2) 次のいずれかを行います。
   - ブックマークの挿入アイコン をクリックします。
   - 挿入／リンク／ブックマークを選択します。
3) スペースなしで文字と数字を組み合わせた名前を入力します。

トピックを保存すると、プロジェクトマネージャーポッドにリストされるトピックの下にインデントされて、トピックリストポッドでトピックの横に、ブックマークアイコンが表示されます。

ブックマークへのリンクへの作成

1) ハイパーリンクのリンク先を開きます。トピック内にリンクを作成するには、トピック内にブックマークを作成します。
2) デザインエディターで、リンクの場所を選択し、ハイパーリンクを挿入ボタン をクリックします。
3) 「公開先を選択（ファイルまたは URL）」から、リンクするブックマークを選択します。
4) 表示アイコン をクリックしてリンクをテストします。

   注: ブックマークは、トピックと共にグループ化されます。

ブックマークの名前の変更

1) ブックマークのあるトピックを開きます。ブックマークを選択して右クリックし、ブックマーク [ブックマーク名] プロパティを選択します。
2) 名前を編集して「OK」をクリックします。
3) 名前を変更したブックマークのマップ ID の割り当てを解除し、再度割り当てます。
4) ブックマークを状況依存ヘルプで使用する場合、マップ ID を編集します。

ブックマークへの移動

1) デザインエディターでトピックを開きます。
2) 挿入／リンク／ブックマークへ移動を選択します。
3) 移動先となるブックマークを選択します。
4) 「移動」をクリックします。

ブックマークの削除

1) ブックマークへのすべてのリンクを削除します。
2) トピック内のブックマークアイコンを選択し、ツールバーで、削除ボタンをクリックします。

関連するリンク:

マップ ID の編集

画像とマルチメディアのリンク作成

マルチメディアクリップへのリンクの追加

画像、ビデオ、サウンド、およびその他のマルチメディアファイルへのリンクを追加することができます。

1) デザインエディターで、リンクを挿入する場所にカーソルを配置するか、リンクのホットスポットを作成するテキストや画像を選択します。

2) ハイパーリンクを挿入ボタン をクリックします。

3) 「リンク先」で三角形のボタン をクリックし、「マルチメディア」を選択します。

4) リンク先のファイルを選択します。「開く」をクリックします。

画像およびマルチメディアからのリンクの追加

トピックには、マルチメディアをリンクとして含めたり、サウンドやビデオクリップ、ローカルまたは外部のHTMLトピック、ブックマーク、WebサイトやFTPサイト、電子メール、ニュースグループなどを含めることができます。

1) デザインエディターで、リンク先にするマルチメディアオブジェクトまたは画像をクリックします。

2) ハイパーリンクを挿入ボタン をクリックします。

   - マルチメディアからリンクするには、「リンク先」で三角形のボタン をクリックし、「マルチメディア」を選択します。

   - 画像からリンクするには、リンク先を選択します。画像にはリンクを 1 つだけ指定できます。

   ヒント: トピック内のサウンドまたはビデオオブジェクトからリンクするには、オブジェクトを右クリックし、「ハイパーリンクを挿入」を選択します。

外部リンク

外部トピックへのリンク（Microsoft HTML ヘルププロジェクト）

1) デザインエディターで、リンクの場所を選択します。
2) ハイパーリンクを挿入ボタン をクリックします。
3) 「リンク先」で三角形のボタン をクリックし、「リモートトピック」を選択します。

外部ファイルへのリンク

1) デザインエディターで、リンクを挿入する場所を選択します。
2) テキストを入力します。
3) テキストをハイライトし、ハイパーリンクを挿入ボタンをクリックします 。
4) 「リンク先」の隣にある三角形のボタン をクリックし、「ファイル」を選択します。
5) ファイルを参照して開き、プロジェクトフォルダーにコピーします。
6) ファイルを生成して、外部トピックへのリンクをテストします。

WebHelp プロジェクト

外部ファイルは、WebHelp フォルダー内に入れて配布する必要があります。

Microsoft HTML ヘルププロジェクト

外部ファイルは、CHM フォルダー内に入れて配布する必要があります。

> 注: 外部 CHM ファイルは、プロジェクト CHM ファイルと同じフォルダーに入れる必要があります。

WinHelp トピックへのリンク（Microsoft HTML ヘルププロジェクト）

WinHelp トピックコントロールを追加して、HTML トピックから WinHelp ファイル内のトピックにリンクします。

1) デザインエディターでコントロールの場所をクリックします。
2) 挿入 /HTML/JavaScript/WinHelp トピックを選択します。
3) ボタンオプションを設定します。
4) 「次へ」をクリックします。WinHelp ファイルとトピックを選択します。
5) 「次へ」をクリックします。ボタンのラベルのフォントオプションを設定します。
6) 「完了」をクリックします。
7) プロジェクトをテストするには、生成します。

電子メールアドレス、FTP サイト、ニュースグループ、および Web アドレスへのリンク

1) デザインエディターで、リンクを挿入する場所を選択するか、ホットスポットを定義するテキストまたは画像を選択します。
2) ハイパーリンクを挿入ボタン をクリックします。
3) 「リンク先」で三角形のボタン をスペースを使用せずにクリックし、次のいずれかを行います。
   - 電子メールにリンクするには、「電子メール」を選択します。
   - FTP サイトまたはニュースグループにリンクするには、「FTP」または「Usenet ニュース」を選択します。
   - イントラネットまたは Web サイトにリンクするには、「Web アドレス」を選択します。

リンクビュー

リンクビューを使用して、プロジェクトのリンクを表示したり移動したりします。

リンクビューポッドの操作

リンクビューポッド中央にあるアイコンは現在のトピックを表します。アイコンのいずれかの側の線が内部リンクおよび外部リンクを示します。それぞれの線はリンクの種類を示すように色分けされています。

1) プロジェクト／開く／ポッド／リンクビューを選択します。リンクビューが Doc Pad 内にドキュメントとして表示されます。
2) トピックのドラッグ元のポッド（ワークフローペイン）を選択します。以下の操作のうち、どちらかを行います：
   - プロジェクトマネージャーからトピックを表示するには、プロジェクト／開く／ポッド／プロジェクトマネージャーを選択します。
   - TOC Composer からトピックを表示するには、プロジェクト／開く／ポッド／目次を選択します。
   - 索引デザイナーからトピックを表示するには、プロジェクト／開く／ポッド／索引を選択します。
3) 「トピック：」からトピックを選択し、リンクビューの中央にドラッグします。戻るボタンと次へボタンをクリックして、接続されたリンクを表示します。
4) 別のトピックのリンクを表示するには、リンクビューで、グループの中央の一番上にトピックをドラッグして、そのトピックのすべてのリンク元およびリンク先を表示します。

リンクビューポッドのリンクの外観の変更

アイコンのサイズ変更

1) プロジェクト／開く／ポッド／リンクビューを選択します。
2) 小さいアイコンを使用ボタンをクリックします 。をクリックします。

   注: ヒントテキストに、そのアイコンで実行できる操作が表示されます。

リンクビューのスクロール機能の設定

1) プロジェクト／開く／ポッド／リンクビューを選択します。
2) 以下の操作のうち、どちらかを行います：
   - リンクされたトピックがあるトピックをスクロールするには、トピックを伸縮可能にするをクリックします 。
   - ハイパーリンクのみをスクロールするには、トピックを中央に固定をクリックします 。
   - 大規模なプロジェクトの場合、リンク表示を制限ボタン をクリックします。

リンクビューポッドでのオプションの設定

別の種類のリンクを表示するにはアイコンをクリックしてください。

- 現在のトピックは、青い枠で囲まれて中央に表示されます。
- リンク元は左側に表示されます。
- リンク先は右側に表示されます。

リンクビューウィンドウの使用方法を定義します。

アイコンのサイズ

トピックの表示に使用するアイコンのサイズを設定します。小さいアイコンまたは大きいアイコンを使用できます。

センタートピックの位置

内部リンクおよび外部リンクを使用してセンターを決めます。

センタートピックの表示を移動

トピックを配置し、ウィンドウ内のリンクでスクロールします。

センタートピックを中央に固定

スクロールバーでリンクが移動している間も、センタートピックを中央に固定します。

リンクのメンテナンスと修復

リンクの更新および削除

リンクを含むトピックを開きます。以下の操作のうち、どちらかを行います：

- リンクを更新するには、リンクを右クリックし、「ハイパーリンクのプロパティ」を選択し、変更します。
- リンクを削除するには、リンクを右クリックし、「ハイパーリンクを削除」を選択します。
- リンクとテキストを削除するには、テキストを選択し、「削除」をクリックします。

壊れたリンクの管理

壊れたリンクを識別するには、プロジェクトマネージャーで壊れたリンクフォルダーを使用します。これには、プロジェクトで参照されている、削除されたトピックや見つからないトピックの名前が表示されます。

1) 壊れたリンクを識別および修正するには、ツールメニューからこれらのオプションを選択します。

トピックリンクの表示

リンクビューでトピックを表示します。

トピック参照の表示

1つのトピックに対する参照を識別します。このオプションは、トピックが目次や索引で参照されているかどうか、または他のトピックからそのトピックにリンクしているかどうかを確認するのに使用します。

BugHunterを有効にする

Microsoft HTMLヘルプシステムで状況依存トピックに使用します。このオプションは、HTMLヘルプシステムとWindowsアプリケーションとのリンク中に起こりうる問題を診断するのに使用します。

壊れたリンクの修正

壊れたリンクの原因である所在不明または削除されたトピックを識別します。このオプションは、壊れたリンクがどこで発生したのかを調べたり、トピックリンクを復元したりする場合に使用します。

トピック参照を編集

プロジェクト内のトピックへの参照を検索できます。このオプションは、参照元を確認したり、それらを修正したりする場合に使用します。

外部トピック参照を編集

プロジェクトで参照される外部トピック（リモートリンク、URLなど）を識別します。このオプションは、これらをプロジェクトから変更または削除するのに使用します。

壊れたリンクの修正

1) プロジェクト／ナビゲーション／トピックの参照／選択したトピックへの参照を選択します。

- リンクを修正するには、最初にリンクを選択します。次に、「編集」をクリックして、ハイパーリンクを編集または削除します。
- 目次アイテム、索引キーワードまたは画像マップを修正するには、アイテムを選択して「編集」をクリックし、壊れたリンクを修復する有効なリンク先を選択します。
- 目次エントリを削除するには、目次アイテムを選択して「削除」をクリックします。目次からブックかページが削除されます。

注: 複数の作成者が存在する環境でバージョンコントロールをお使いの場合は、一部のファイルが、別の作成者によって移動、名前変更または削除されたトピックへリンクされていることがあります。最新バージョンのファイルがない場合、それらは壊れたリンクとして表示されます。

トピック参照の識別および更新

トピック参照の識別

1) トピックリストポッドまたはプロジェクトマネージャーポッドからトピックを選択します。
   - 単一のトピックへの参照を表示するには、トピックを右クリックし、表示／トピック参照を選択します。
   - プロジェクト内のすべてのトピックへの参照を表示するには、ツール／トピック参照を編集を選択します。右側でトピックを選択します。左側にすべてのトピック参照が表示されます。

トピック参照の更新

1) プロジェクト／ナビゲーション／トピックの参照を選択します。
   - 壊れたリンクを修正するには、「選択したトピックへの参照」で修正するリンクを選択します。「編集」をクリックするかリンクを削除します。

関連するリンク：
画像マップの変更

外部トピック参照の識別および更新

1) プロジェクト／ナビゲーション／外部トピックの参照を選択します。
2) 以下の操作のうち、どちらかを行います：
   - 外部参照を識別するには、トピックを選択します。
   - 壊れたリンクを修正するには、「選択したトピックへの参照」でリンクを選択します。「編集」をクリックして変更します。
   - 目次のアイテムおよびエントリを修正または削除するには、「選択したトピックへの参照」でアイテムを選択します。「編集」をクリックしてリンク先を選択するか、「削除」をクリックします。

   注: このダイアログボックスから索引キーワードを変更することはできません。

関連するリンク：
壊れたリンクの修正

ハイパーリンクの表示およびテスト

ハイパーリンクの表示および閲覧シーケンスの選択

デザインエディターで、右クリックして「トピックリンクを表示」を選択します。または、以下の手順を使用します。

1) プロジェクト／開く／ポッド／リンクビューを選択します。リンクビューポッドが表示されます。

2) プロジェクトマネージャーポッドからリンクビューポッドにトピックをドラッグします。

3) プロジェクトマネージャーポッドをクリックします。

4) HTMLファイル（トピック）フォルダーまたはカスタムフォルダーを開いて、表示するトピックを選択します。

5) トピックを、中央のリンクビューアイコン の上のリンクビューポッドにドラッグします。

6) マウスボタンを放すとリンクが表示されます。

トピックのリンクのテスト

1) プロジェクト／開く／ポッド／トピックリストを選択します。トピックリストポッドが表示されます。

2) トピックを右クリックして「表示」を選択します。

3) テストするリンクをクリックします。

関連するリンク：

閲覧シーケンス

リンクコントロール

リンクコントロール

リンクコントロールは、目次および索引の代わりに移動に使用することができます。リンクコントロールはリンクと同様に機能し、テキスト、ボタン、または画像として表示できます。

注: トピックを更新する場合は、そのリンクコントロールが最新のものであることを確認してください。トピックを削除したり、トピックタイトル、トピック内容、またはファイル名を削除したりすると、リンクコントロールに影響する場合があります。

リンクコントロールは次のように機能します。

- ユーザーを関連トピックおよび情報に誘導します。リンクコントロールによりユーザーは、検索の手間を省くことができます。
- 様々なユーザー向けに情報を整理します。
- 複数のトピックで必要となる情報を単一のトピックに集め、リンクコントロールを使用して様々な場所からそのトピックにアクセスできるようにすることにより、トピック内容を管理します。
- リンクコントロールを長いリンクとしてではなく、オブジェクトとして挿入することにより、トピックのレイアウトを管理します。

リンクコントロールの種類

関連トピック

指定したトピックのリストを表示します。ユーザーの必要性に応じて、トピックで関連トピックのリストを変更します。関連トピックコントロールは、リンクコントロールよりも多くのメンテナンスが必要です。トピックを追加または削除する場合、各関連トピックコントロールのトピックを追加または削除する必要があります。

関連項目

論理カテゴリにグループ化したトピックのリストを表示します。ユーザーが「関連項目」をクリックすると、同一の関連項目キーワードに割り当てられているすべてのトピックがリストに表示されます。関連項目コントロールでは、トピックのグループを各トピックではなく1つの場所で定義するので、他のコントロールよりも管理の手間

がかかりません。トピックを追加または削除する場合、必ず関連項目コントロールを更新してください。コントロールを含む各トピック内では、自動更新が行われます。

キーワードリンク

トピック内での移動に索引キーワードを使用できるようにするコントロールです。索引には、キーワードに基づいて関連するトピックがグループ化されます。ユーザーが索引キーワードをクリックすると、関連するトピックリストが表示されます。索引内またはトピックのプロパティ内で索引キーワードを追加または削除すると、その索引キーワードが含まれる各トピック内でコントロールが更新されます。キーワードリンクコントロールは、メインレベルまたは親索引キーワードで使用できます。

キーワードリンクのプロパティ

索引ファイルキーワードおよびトピックキーワードを、索引ファイルからキーワードリンクコントロールに割り当てます。

プロジェクトのキーワード

コントロールで使用できるすべてのキーワードを表示します。

コントロールのキーワード

コントロールに割り当てられているキーワードを表示します。

追加

「キーワード」索引内のキーワードからキーワードを選択します。「追加」を選択します。

削除

「コントロールのキーワード」からキーワードを選択します。「削除」を選択します。

HTMLヘルププロジェクトの場合：

「リモートキーワード」他のCHMファイルからキーワードを使用します。**注：** 関連トピックコントロールに似ていますが、関連項目コントロールには、配置されているトピックであるリストから離脱することができる追加機能があります。また、コントロールが含まれる各トピックで自動的に更新することができます。つまり、コントロールは、関連するトピック間でコピー / ペーストが可能であることを意味します。

関連トピックコントロールの追加

ヒント: タイトルまたはファイル名の変更は、関連トピックコントロールには適用されません。

1) デザインエディターでコントロールの場所をクリックします。
2) 挿入／関連トピックをクリックします。
3) オプションを選択し、関連トピックをラベルや画像のボタンとして表示するか、テキストとして表示します。
4) 「プロジェクトのトピック」から、トピックを選択し、「追加」をクリックします。関連するトピックとして表示するすべてのトピックを引き続き追加します。**注:** URL ボックスには、リンクされているトピックファイルの場所が表示され、タイトルには、トピックページのタイトルが表示されます。
5) （オプション）「変更」をクリックし、関連トピック内のトピック名を更新します。
6) 見つかったトピックのダイアログまたはポップアップメニューに表示するオプションを選択します。
7) オプションを選択すると、フレームまたは新規ウィンドウで選択したトピックが表示されます。
8) 表示オプションおよびフォントオプションを選択します。
9) 「完了」をクリックし、表示ボタン をクリックしてテストします。

注: （Microsoft HTML ヘルプの場合）トピックに関連トピックコントロールが含まれていると、既知の Microsoft HTML ヘルプのバグにより、リンクが正常に動作しない可能性があります。関連項目コントロール、キーワードリンクコントロール、または標準の HTML リンクの使用を検討してください。

関連トピックウィザード

関連トピックウィザードを使用して、キーワードリンクまたは関連トピックコントロールのリンクを、テキストまたは画像を表示するボタン、プレーンテキスト、スクリプトで動作する非表示のコントロールとして表示する方法を変更します。

ボタン

トピックにコントロールを表示する方法を定義します。

ラベル

コントロールを、黒いテキストのグレーの四角いボタンで表示します。ボックスの内容がボタンに表示されます。ラベルは編集できます。

画像

コントロールを画像で表示します。画像ファイル名がこのオプションの下のボックスに表示されます（テキストラベルを画像に追加したり、RoboHelp でラベルを編集したりすることはできません）。画像を選択するには、参照ボタン をクリックし、ダイアログボックスから画像を選択します。Windows ビットマップ（BMP）およびアイコン（ICO）ファイルとして画像を保存します。

テキスト

コントロールをテキストリンク（例：詳細情報）として表示します。

非表示（スクリプトの場合）

コントロールを非表示にします。スクリプトを追加したトピックで使用します。トピック内にコントロールは表示されません。スクリプトを設定するには、開発者と共に作業してください。

（HTML ヘルププロジェクトのみ）キーワードにトピックが関連付けられていない場合ボタンを無効にする

キーワードリンクコントロールを作成して、コントロールに割り当てられたキーワードをすべて削除した場合、ユーザーがトピックを開いたときにコントロールが無効になります。

トピックの選択

リンクコントロールがクリックされたときにトピックのリストをどのように表示するかを指定します。

見つかったトピックのダイアログ

トピックのリストを見つかったトピックのダイアログボックスに表示します。ユーザーがトピックを選択し、「表示」をクリックすると、トピックが表示されます。

ポップアップメニュー

ポップアップメニューにトピックのリストを表示します。ユーザーはトピックを選択してポップアップメニューを開きます。

フレーム

キーワードがクリックされたときにトピックを表示するフレームを指定します。カスタムフレームセットはリストに表示されます。

関連項目または KLink コントロールを使用した HTML ヘルププロジェクトの場合

指定のキーワードに関連付けられたトピックがない場合、ボタンを無効にする

コントロールのキーワードに関連付けられたトピックがない場合、コントロールを無効にします。例えば、キーワードリンクコントロールを作成して、コントロールに割り当てられたキーワードをすべて削除した場合、ユーザーがトピックを開いたときにコントロールが無効になります。

関連項目キーワードおよびコントロールの作成、割り当ておよび追加

関連項目キーワードの作成および割り当て

1) 次のいずれかを行います。

- プロジェクトマネージャーポッドで関連項目フォルダーをダブルクリックします。関連項目ポッドが表示されます。
- テキストボックスに関連項目キーワードを入力します。プラスサインをクリックします。
- 新しい関連項目キーワードを追加ボタン をクリックします。新規キーワードを入力して、Enter キーを押します。

キーワードが太字で表示され、まだトピックが関連付けられていないことを示します。

2) 関連項目キーワードにトピックを割り当てるには、トピックリストポッドをクリックし、次のいずれかを行います。

- 複数のトピックにキーワードを追加するには、トピックを選択し、下側にあるポッドにドラッグします。割り当てるすべてのトピックに対して繰り返してください。
- 個々のトピックにキーワードを追加するには、トピックリストポッドをクリックし、トピックを選択します。プロパティボタン をクリックし、「関連項目」を選択します。トピックに割り当てるキーワードを入力し、「追加」をクリックします。

3) 新しいキーワードに関連項目コントロールを追加します。

関連項目ポッド

新しい関連項目キーワード

関連項目キーワードを作成します。

キーワードの追加

ボックスに入力された関連項目キーワードを追加します。

新しいキーワードトピック

キーワードトピックを割り当てます。

トピックの検索

検索条件に基づいてトピックを検索します。

関連項目ウィザードでの関連項目キーワードの設定

関連項目コントロールをトピック内に挿入しようとすると（挿入／関連項目）、関連項目ウィザードが表示されます。

プロジェクトの関連項目キーワード

使用できるすべての関連項目キーワードのリストを表示します。

追加

「追加するプロジェクトの関連項目キーワード」から名前を選択します。

削除

「削除するコントロールの関連項目キーワード」から名前を選択します。

コントロールの関連項目キーワード

コントロールに割り当てられている関連項目キーワードを表示します。

HTMLヘルププロジェクトの場合：

リモート関連項目キーワードを設定

他のCHMファイルから関連項目キーワードを使用します。

リモート CHM ファイルにキーワードを設定

注: HTML プロジェクトのみ。

CHM ファイルはプロジェクトフォルダーにコピーされます。キーワードは CHM ファイルからのみ参照されます。

CHM ファイル名

参照するリモート CHM ファイルを入力します。

a) 参照ボタン をクリックして、リモート CHM ファイルを参照します。

キーワード

参照するキーワードを入力します。名前を CHM ファイルで使用するとおりに入力します。

追加

「コントロールのリモートキーワード」にキーワードを追加します。

削除

「コントロールのリモートキーワード」からキーワードを削除します。

コントロールのリモートキーワード

キーワード挿入を表示します。

リモート CHM ファイルに関連項目キーワードを設定

注: HTML プロジェクトのみ。

他の CHM ファイルで使用されているヘルププロジェクト内の関連項目キーワードを使用します。CHM ファイルはプロジェクトフォルダーにコピーされます。関連項目キーワードはコピーされません。

CHM ファイル名

リモート CHM ファイル

参照ボタン

クリックしてリモート CHM ファイルを参照します。

関連項目キーワード

関連項目キーワードの名前を、CHM ファイル内で使用するとおりに入力します。

追加

関連項目キーワードを「コントロールのリモート関連項目キーワード」フィールドに追加します。

削除

関連項目キーワードを「コントロールのリモート関連項目キーワード」フィールドから削除します。

コントロールのリモート関連項目キーワード

コントロールに挿入する関連項目キーワードを表示します。

関連項目コントロールの追加

1) 関連項目キーワードを作成します。
2) デザインエディターでコントロールの場所をクリックします。
3) 「ヘルプコントロールを挿入」をクリックします。
4) 「関連項目」を選択します。
5) リンクオプションを選択します。
6) 「プロジェクトの関連項目キーワード」から、関連項目キーワードを選択します。
7) 「追加」をクリックします。追加するすべてのキーワードについて操作を繰り返します。「次へ」をクリックします。
8) 表示オプションおよびフォントオプションを選択します。
9) 「完了」をクリックします。コントロールをテストするには、プロジェクトを生成します。

リンクコントロールの変更、再利用または削除

1) デザインエディターで、リンクコントロールを含むトピックを開きます。
   - コントロールを変更するには、コントロールをダブルクリックし、そのプロパティを変更します。
   - コントロールを再利用するには、コントロールを右クリックし、「コピー」を選択します。リンク先のトピック内を右クリックし、「ペースト」を選択します。
   - コントロールを削除するには、コントロールを選択し、削除 ✕ をクリックします。

テキストのみポップアップ

テキストのみポップアップの作成

テキストのみポップアップは、定義などの短いテキスト句で、リンクが設定された用語をユーザーがクリックしたときに表示されます。テキストのみポップアップは、トピックのヘッダーおよびフッター以外の任意の場所に挿入できます。長いテキスト句の場合やグラフィックが必要な場合は、通常のポップアップを使用します。

関連するリンク：
ポップアップへのリンク

テキストのみポップアップの作成

1) デザインエディターで、テキストを選択します。
2) 挿入メニューから「テキストのみポップアップ」を選択します。
3) ポップアップテキストをウィンドウに直接入力します。

テキストのみポップアップの編集

1) テキストのみポップアップを右クリックして、「テキストポップアップのプロパティ」を選択します。
   - テキストを編集するには、「ポップアップテキスト」ボックスに入力します。
   - 背景色、フォント、および余白を編集するには、適切なボックスをクリックして変更を行います。選択内容は、作成したテキストのみポップアップに将来適用されます。
2) テストするには、ツールバーの表示ボタン をクリックして、「テキストのみポップアップ」を選択してください。

テキストのみポップアップの削除

1) ポップアップを右クリックして、「テキストポップアップを削除」をクリックします。

テキストのみポップアップのテスト

生成する前のテスト

1) デザインエディターで、テキストのみポップアップを含むトピックを開きます。
2) 表示ボタン をクリックします。
3) テキストのみポップアップをクリックします。

生成後のテスト

1) プライマリレイアウトを表示アイコン をクリックします。生成を促すメッセージが表示されたら「はい」をクリックします。
2) テキストのみポップアップを含むトピックを参照します。
3) テキストのみポップアップをクリックします。

閲覧シーケンス

閲覧シーケンスの作成または編集

閲覧シーケンスを使用すると、一連のトピックを移動するパスを読者に示すことができます。閲覧シーケンスを使用するときは、以下の点に注意してください。

- HTMLファイルや、他のヘルプシステムの外部トピックを閲覧シーケンスで使用することはできません。
- 1つのトピックは複数の閲覧シーケンスに属することができます。
- 各ヘルプ形式では、閲覧シーケンスの表示が異なります。WebHelp　レイアウトでは、プロジェクトレベルで閲覧シーケンスを有効または無効にできます。WebHelpおよびAdobe AIRレイアウトでは、表示する閲覧シーケンスを選択できます。レイアウトがコンテンツカテゴリを定義している場合は、各コンテンツカテゴリごとに閲覧シーケンスを選択できます。閲覧シーケンスを有効または無効にする方法およびコンテンツカテゴリに対してそれを選択する方法については、Adobe AIRレイアウトの設定およびWebHelp出力の生成を参照してください。

閲覧シーケンスを自動的に作成

自動作成された閲覧シーケンスは、既存の閲覧シーケンスを置き換えます。

1) 目次を作成します。
2) ツール／閲覧シーケンスエディターを選択します。
3) 「目次から自動作成」をクリックします。
4) 閲覧シーケンスに含める目次階層のレベル数を入力し、「OK」をクリックします。
5) 「OK」をクリックします。閲覧シーケンスの有効化ダイアログボックスが表示された場合は、「はい」をクリックします。

閲覧シーケンスを手動で作成

1) ツール／閲覧シーケンスエディターを選択します。
2) 「新規」をクリックして閲覧シーケンスに名前を付けます。
3) 「使用可能なトピック」から、追加するトピックを含むフォルダーを選択します。
4) 閲覧シーケンスにトピックを追加します。
   - 1 つのトピックを移動するには、トピックを選択して「追加」をクリックするか、閲覧シーケンスを追加ボタン をクリックします。
   - トピックのグループを移動するには、トピックを含むフォルダーを選択し、すべての閲覧シーケンスを追加ボタン をクリックします。
5) 「OK」をクリックします。閲覧シーケンスの有効化ダイアログボックスが表示された場合は、「はい」をクリックします。

閲覧シーケンスからのトピックの削除

1) 「閲覧シーケンス」リストからトピックを選択し、「削除」をクリックします。

閲覧シーケンスの名前の変更または削除

「閲覧シーケンス」リストから閲覧シーケンスを選択します。

- 閲覧シーケンスを削除するには、「削除」をクリックします。
- 閲覧シーケンスの名前を変更するには、「名前変更」をクリックし、新しい名前を入力します。

閲覧シーケンスの表示およびテスト

閲覧シーケンスに関連するトピックの確認

1) ツール／閲覧シーケンスエディターを選択します。
2) 「閲覧シーケンス」で、各閲覧シーケンスの横にあるプラスサイン ⊞ をクリックして、トピックを表示します。

閲覧シーケンスのテスト

複数のシーケンスに属するトピックは、「リンクビュー」で一番最初にリストされている閲覧シーケンス内に表示されます。

1) プロジェクト／開く／ポッド／リンクビューを選択します。リンクビューポッドが表示されます。
2) 「プロジェクトマネージャー」タブをクリックします。
3) プロジェクトマネージャーで、HTMLファイルフォルダーを開き、トピックを選択します。
4) トピックをリンクビューポッドにドラッグします。

   リンクビューアイコンの周囲に黄色い線が表示されたら、マウスのボタンを離すと、そのトピックに関連するリンクが表示されます。

   トピックが閲覧シーケンスに含まれている場合は、その上下に前へボタンと次へボタンが表示されます。
5) 「戻る」ボタンと「次へ」ボタンを押して閲覧シーケンスをテストします。

1つのトピックのシーケンスの表示

1) トピックを選択します。
2) プロパティボタンをクリックします。
3) 「詳細」タブをクリックします。

ブラウザーまたはビューでの閲覧シーケンスのテスト

1) 閲覧シーケンスが有効になっていることを確認します。
2) 生成ボタンをクリックして生成します。
3) 「結果を表示」をクリックし、閲覧シーケンスをクリックして表示します。

トピックが含まれる閲覧シーケンスの確認

1) デザインエディターでトピックを開きます。
2) プロパティボタンをクリックします。
3) 「詳細」タブをクリックします。

RoboHelp 出力検索

RoboHelp は様々なオプションを備えており、検索メタデータを追加したり、プロジェクトのコンテンツを検索に最適化したり、エンドユーザの検索操作性を設定したりできます。

RoboHelp 検索の基本

RoboHelp は次のような機能を出力の検索についてサポートします。

複数言語検索

RoboHelp 検索では、プロジェクト、トピック、および段落レベルで複数言語がサポートされています。例えば、ドイツ語の段落が埋め込まれた英語のトピックでドイツ語の単語を検索するとします。RoboHelp がドイツ語の単語を見つけた場合、ドイツ語の単語をハイライトして英語のトピックを表示します。

中国語 / 日本語 / 韓国語（CJK）検索

RoboHelp の WebHelp および FlashHelp 出力は、キーワード検索をサポートしています。これは、ユーザークエリーが個別の単語に分解され、各語がプロジェクトコンテンツで調べられるということを意味します。検索クエリーを個別の単語に分解することは、中国語 / 日本語 / 韓国語は単語の境界を明確に区別しないため、簡単ではありません。

WebHelp、FlashHelp、AIRHelp、ブラウザーベースの AIRHelp 出力を使用した検索機能は、得られた結果がさらに使いやすくなるように検索クエリーの CJK コンテンツを認識します。**注：** RoboHelp は全体として CJK 文字の各隣接シーケンスを調べ、同じシーケンスの検索クエリー全体が一致したトピックのみを表示します。

複数の CJK の単語を検索するには、次の方法で単語を区切ります。

- 論理演算子 AND または OR を使用する

  RoboHelp は CJK の各単語を調べ、使用した演算子に応じて結果を表示します。

- スペースを使用する

  スペースを使用して単語を区切った場合、RoboHelp フレーズ検索を行います。

  注： CJK 検索のサポートは RoboHelp Server のコンテンツの索引作成に影響を与えません。

サブ文字列検索

（WebHelp/Pro、FlashHelp/Pro）この機能を有効にすると、「log」で検索を実行した場合、「catalog」や「logarithm」などの単語を含まれたトピックが表示されます。サブストリング検索は、全文検索より時間がかかります。

注： マージされたプロジェクトでは、サブストリング検索は、それがマスタープロジェクトと子プロジェクトの両方で有効になっていれば機能します。

フレーズ検索

検索ボックスにフレーズを入力する場合は、引用符を使用して入力する必要があります。検索語が「color swatch」である場合、RoboHelp はフレーズ「color swatch」が含まれるすべてのトピックを返します。

AND 検索

（WebHelp、WebHelp Pro および AIR Help）RoboHelp はデフォルトでは、引用符で囲まない限り、複数の語が入力された場合、OR 検索を行います。検索ボックスに指定されたすべての単語を含むトピックが検索されることを意味します。SSL 設定で、「出力で AND 検索を許可」オプションを選択すると、RoboHelp は、引用符で囲まずに、複数の語が入力された場合 AND 検索を行います。RoboHelp は検索ボックスで指定されたすべての語を含むトピックのみを見つけます。AND 検索はフレーズ検索と一緒に使用できます。

SSL 設定で、デフォルトで AND 検索を有効にするかどうかを設定できます。さらに、出力に対して AND 検索がサポートされている場合、エンドユーザはそれを有効にするか無効にするかを選択できます。

注： マージ済みプロジェクトでは、子プロジェクトは親プロジェクトの設定を継承します。DUCC（コンテンツカテゴリ）のあるプロジェクトでは、設定はすべてのコンテンツカテゴリに適用されます。

検索でのブール演算子

（WebHelp）ブール演算子の AND、OR、および NOT を使用して検索語を組み合わせることで、検索を絞り込むことができます。

検索結果のランキング

RoboHelp は、検索結果を関連性に基づいてランク付けします。例えば、ある単語がトピックタイトルに表示されていると、トピックキーワードリストの単語よりも高いランクになります。その単語が見出し 1 に表示されるトピックは、見出し 2 に表示されるトピックよりもランクが高くなり、最初に検索結果に表示されます。

検索メタデータを追加する

検索メタデータは、同意語、トピックキーワード、およびストップ語で構成されます。

検索メタデータを追加または編集するには、次の操作を行います。

1) 編集／メタデータを検索を選択します。

2) 次の操作を行います。

同意語

このオプションを選択して同意語を定義し、検索語の変形が受け入れられるようにします。例えば、「カーソル」、「ポインター」、「マウス」を同意語として定義することができます。検索語が「マウス」の場合、「カーソル」という単語をハイライトして、この単語が含まれたすべてのトピックが表示されます。詳しくは、プロジェクトの設定の変更を参照してください。

トピックキーワード

このオプションを選択し、単語やフレーズを現在のトピックと関連付けます。通常は、トピックに関連しているがトピックコンテンツ内では見つからない単語またはフレーズを選びます。例えば、フォント、スタイル、およびポイントの大きさに関するトピックに、「書式」というキーワードを関連付けることができます。エンドユーザが「formatting」という語を検索語として入力した場合、RoboHelp はトピックが「formatting」という語を含んでいない場合でも表示します。検索結果をランク付けする場合、RoboHelp はトピックの本文で見つかった検索語よりも、キーワードを重視します。詳しくは、プロジェクトの設定の変更を参照してください。

注: キーワード検索は、Microsoft HTML Help（CHM）では使用できません。

ストップ語

「a」や「the」などの一般的な（マイナー）単語を停止リストファイル（ProjectName.stp）に追加するためのオプションです。RoboHelp は、これらの単語を無視し、最適で関連性の高い検索結果を表示します。詳しくは、プロジェクトの設定の変更を参照してください。

コンテンツを検索用に最適化する

RoboHelpは、コンテンツを検索用に最適化するための様々な方法をサポートしています。

OfficeおよびPDFファイルを検索可能にする

（WebHelp/Pro、FlashHelp/Pro）公開済みの出力でバゲッジファイル（PDF、Word、Excelファイルなど）を検索できます。検索結果で表示するには、これらのバゲッジファイルがハイパーリンクを使用して、トピックで参照されている必要があります。

注： バゲッジファイル検索を有効にするには、iFilter for MicrosoftとPDFがインストールされている必要があります。

検索から無参照トピックを除外

レイアウトプロパティの「出力から無参照トピックを除外」オプションを使用すると、次のプロジェクトコンポーネントで参照されているトピックからのみ検索結果が表示されます。

- 目次
- 索引
- 閲覧シーケンス
- デフォルトトピック
- CSHマップID
- 関連項目キーワード
- 関連トピックキーワード
- ハイパーリンク

検索から指定したバゲッジファイルタイプを除外

（Multiscreen HTML5、WebHelp、FlashHelpおよびAIR Help）「検索からバゲッジファイルタイプを除外」オプションで、検索から特定のタイプのバゲッジファイルを除外できます。例えば、プロジェクト中のすべてのExcelファイルを検索から除外できます。

注： マージ済みプロジェクトでは、各プロジェクトに検索設定を設定します。

検索から無参照のバゲッジファイルを除外

「検索から無参照バゲッジファイルを除外」オプションを使用すると、バゲッジファイルがハイパーリンクおよびレイアウトプロパティで設定されている索引と目次によってトピックから参照されている場合にのみ、検索結果はバゲッジファイルを表示します。「出力から無参照トピックを除外」オプションが選択された場合、RoboHelp は参照トピックのみを考慮します。このオプションが選択されていない場合は、プロジェクト内のすべてのトピックを考慮します。

「出力から無参照トピックを除外」および「出力から無参照バゲッジファイルを除外」オプションをサポートしているレイアウトについては、次の表を参照してください。

SSL	「出力から無参照トピックを除外」オプション	「検索から無参照バゲッジファイルを除外」オプション
マルチスクリーン HTML5	O	O
eBook		
Adobe AIR 出力タイプ：Adobe AIR アプリケーション	O	O
Adobe AIR 出力タイプ：ブラウザーバースヘルプ	O	O
WebHelp	O	O
WebHelp Pro	O	O
FlashHelp	O	O
FlashHelp Pro	O	O
Microsoft HTML Help	O	X
印刷文書	X	X
XML 出力	O	X
Oracle Help	O	X
JavaHelp	O	X

検索エクスペリエンスを設定する

エンドユーザーの検索エクスペリエンスを設定する

検索結果の合計数を表示

（WebHelp および AIR Help）このオプションを使用して、ユーザが入力して検索文字列の検索結果が出力内で表示される総数を指定できます。アップグレードされた、または新規の RoboHelp プロジェクトで、デフォルトでは、検索オプションは有効になっています。

注： マージ済みプロジェクトでは、子プロジェクトは親プロジェクトの設定を継承します。

検索結果にコンテキストを表示

デフォルトで、コンテキストがわかるように、検索結果リストには、各トピックの最初の 60 文字が表示されます。SSL ダイアログボックスを使用して、コンテキストの表示を無効にすることができます。

注： WebHelp/Pro および FlashHelp/Pro のみが、ヘルプの結果でコンテキストをサポートしています。Flash Help/Pro では、コンテキストはツールヒントとして表示されます。

カスタマイズ可能な検索結果リスト

（WebHelp/Pro）デフォルトでは、一度に 10 件の検索結果が表示されます。これら 2 つの出力で、検索ペインにはリストに表示される検索結果の最大数に関するオプションが含まれます。

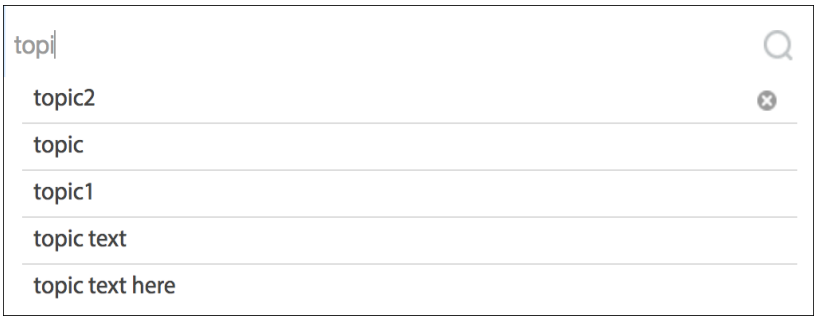
検索結果でランク列を隠す

WebHelp および WebHelp Pro 出力の場合、検索結果でランク列を隠すことで、さらに多くの検索結果を表示できるようになります。「検索結果でランク列を隠す」オプションは、WebHelp レイアウトプロパティの「検索」タブにあります。WebHelp 出力の生成および WebHelp Pro または FlashHelp Pro 出力の生成を参照してください。

検索のオートコンプリート

レスポンシブ HTML5 出力の検索機能では、入力された数文字に基づいて予測検索結果が表示されるようになりました。検索結果をあなたの検索履歴およびドキュメント内での検索用語の出現頻度に基づいてインテリジェントにランク付けすることで、あなたの検索結果の関連性を可能な限り高めます。検索結果の上位 5 件は検索フィールドに表示されます。

検索ボックスにトピック、テーマ、またはキーワードの最初の数文字を入力すると、背景で機能するパワフルなアルゴリズムがスペルミスおよび最も出現頻度が高く妥当なキーワードを検出し、これを過去の検索と照らし合わせることで、検索フィールドに入力された部分的なテキストに代わる最善の代替案を提案します。



検索はインテリジェントな予測を行い、いくつかの方法で検索の向上を試みます。

- 同義語とストップワードのサポート：検索エンジンはストップワードだけでなく、むしろ出現頻度が2番目に高いワードを予測候補に加えます。また、検索用語の同義語も含めることで関連結果を探します。
- カーソル位置：カーソルがワードの前または後ろに移動すると、予測候補が変化する場合があります。
- スペルチェック：検索エンジンは、スペルミスのある単語に最も類似している単語をお勧めします。最大2つまでのスペルミスに対応可能です。
- 検索履歴をチェック：過去の検索はcookiesに保存されており、検索ボックス内のテキストに合致する検索結果が表示されます。
- 検索履歴を消去：検索履歴を消去するには、検索フレーズの隣にある X ボタンを使用します。

キーボードショートカットを使用して検索結果をナビゲートする

- 次または前の候補を選択するには、上向き矢印キーまたは下向き矢印キーを使用します。
- 次の予測候補を表示するには、右向き矢印キーを使用します。
- 希望の検索語を選択し、結果を表示するには、Enter キーを押します。これにより、検索された用語が履歴に保存されます。
- 予測候補を非表示にするには、Escape キーを押します。

外部コンテンツ検索

外部コンテンツ検索を使用すると、作成者は、ユーザーが検索すると思われる用語に基づいて指定されたURLからコンテンツを表示できます。プロジェクトに関係したURLのリストを作成し、各URLごとに、検索語、タイトル、説明を提供できます。ユーザーの検索にこれらの検索語が含まれていると、RoboHelpは対応するURLのタイトルと説明を検索結果に返します。ユーザーがそれをクリックすると、そのコンテンツがトピックメインに表示されます。検索結果に返されたURLは、トピックで指定されているキーワードと同じランクを持っています。

外部コンテンツ検索の設定と管理

1) プロジェクト／開く／ポッド／外部コンテンツ検索を選択します。

2) 次のオプションを使用して、外部コンテンツ検索を設定し管理します。

追加

追加をクリックして検索語を指定し（カンマ、スペース、セミコロンで区切る）、外部コンテンツのURLを指定します。タイトルおよぎ説明を追加するのも良い方法です。適用したいCBTを選択します。「OK」をクリックして、プロジェクトフォルダー内のSearchOptions.xmlファイルにあるエントリを保存します。

編集

編集したいエントリを選択し、「編集」をクリックします。詳細を変更し、「OK」をクリックします。

読み込み

「読み込み」をクリックし、プロジェクトからSearchOptions.xmlファイルを選択して、そのプロジェクトの外部コンテンツ検索設定を現在のプロジェクトに読み込みます。

書き出し

「書き出し」をクリックし、SearchOptions.xmlファイルを書き出すフォルダーを選択します。2つのプロジェクトが同様の外部コンテンツ検索を許可する必要があるときは、SearchOptions.xmlファイルをあるプロジェクトから別のプロジェクトに書き出すと便利です。

検索

特定のエントリの検索文字列を指定します。このオプションは、プロジェクトが外部コンテンツ検索について多くのエントリを持つ場合に便利です。

外部コンテンツ検索を有効にする

次のレイアウト SSL で外部コンテンツ検索を有効にできます。

- マルチスクリーン HTML5
- WebHelp
- FlashHelp
- Adobe AIR
- WebHelp Pro
- FlashHelp Pro

1) シングルソースレイアウトポッドで、出力を生成するレイアウトを右クリックして、「プロパティ」を選択します。
2) レイアウトの違いにより、次の操作を行います。
    - （Multiscreen HTML5）スクリーンプロファイルをクリックします。検索タブで、「外部コンテンツ検索を有効にする」を選択します。
    - （Adobe AIR）「検索」をクリックし、「外部コンテンツ検索を有効にする」を選択します。
    - （WebHelp）「検索」をクリックし、「外部コンテンツ検索を有効にする」を選択します。
    - （WebHelp Pro）「外部コンテンツ検索を有効にする」を選択します。
    - （FlashHelp および FlashHelp Pro）「次へ」をクリックし、「外部コンテンツ検索を有効にする」を選択します。

マルチメディアと特殊効果

画像

画像の基本

画像ファイル形式

GIF（Graphic Interchange Format）

256色を表示できる8ビットカラーの形式で、色に制限のある画像に便利です。GIF画像は透明な属性をサポートします。GIF画像は、白黒写真、漫画、小さなアイコン、ボタン、バー、線そして行頭文字に最高の画質を提供します。GIF画像は、インターレースGIFやアニメーションGIFにすることができます。

JPEG（Joint Photographic Expert Group）

JPEG形式は、一般的にHTMLドキュメントなどで写真およびその他の連続階調画像を表示するために使用されます。256色以上の画像を使用する場合はJPEG形式を使用します。JPEGファイルの拡張子は、.jpegまたは.jpgです。

BMP（Windows Bitmap）

Windows用の標準的なビットマップ画像形式で、WinHelpアプリケーションで使用されています。ビットマップ画像は24ビット色までの画像をサポートします。WinHelpプロジェクトをHTMLに読み込むと、ビットマップはGIF形式またはJPG形式に変換されます。リンクコントロールやHTMLヘルプコントロール（カスタムボタン）を追加するときに、ビットマップおよびアイコン形式（ICOファイル）を使用できます。

MRB（Multi-Resolution Bitmap）

Windows Helpの画像形式で、異なる画面解像度を1つのファイルに保存した画像が含まれます。プログラムはWinHelpプロジェクトからファイルを読み込んで、GIF画像に変換します。

WMF（Windows Metafile）

Windowsシステム用のベクターグラフィック形式です。WMFファイルは通常、ワードプロセッサーアプリケーションのクリップアートに使用されます。プログラムはWinHelpプロジェクトからファイルを読み込んで、GIF画像に変換します。

PNG（Portable Network Graphics）

GIF と同様のビットマップ画像形式です。最新の Netscape Navigator および Microsoft Internet Explorer は PNG をサポートしています。

ヒント：

- 罫線と網かけダイアログボックスで背景色と画像を表示することで、静止状態の透かし効果を作成します。
- 画像を選択すると、ケーブルドラムボタン が表示されます。アイコンを使用することでトピックアイテム（画像、テキストおよび表）を他のトピックアイテムにリンクすることができ、ダイナミック HTML 効果をリンクに割り当てることができます。
- Microsoft Word ファイルまたは HTML ファイルを読み込む場合、すべての画像がファイルと共に読み込まれます（画像はアンカー枠内にある必要があります）。

  注: WebHelp Pro または WebHelp 出力を生成する場合、GIF または JPEG ファイルを使用します。

画像の検索

Graphics Locator を使用して、画像ファイルのドライブやフォルダーをスキャンしてファイルを検索します。次に、サムネイルで内容を確認してからファイルをコピーします。

1) ツールボックスポッドで、Graphics Locator をダブルクリックします。
2) 検索するグラフィックファイル形式を選択します。
3) 検索するパスを入力するか、場所を参照します。
4) 「検索」をクリックします。

画像のコピー

1) ツールボックスポッドで、Graphics Locator ボタン をダブルクリックします。
2) 「画像ファイル」リストから画像を選択します。
3) コピー先を参照します。
4) 「ファイルをコピー」をクリックします。

画像の表示

画像を表示するには、ファイル名拡張子とアプリケーションを関連付けます。

1) 「プロジェクト」ビューで、画像フォルダーを選択します。
2) 画像を右クリックします。
3) 「表示」をクリックします。
4) ファイル／オプションを選択します。
5) 「関連付け」タブをクリックします。
6) 「ファイルの関連付け」の横の「追加」をクリックします。ファイル名拡張子を入力します。
7) 「選択」をクリックします。ファイル形式の編集と表示に使用するアプリケーションを参照します。

画像のトピックへの追加

ファイル名に.gif、.jpeg、.jpg、または.bmp拡張子の付いたファイルを挿入できます。

注: Webベースのヘルプには、GIFファイルまたはJPEGファイルを使用します。

1) デザインエディターで、画像の場所を選択します。
2) ツールバーの画像の挿入ボタン をクリックします。
3) 次のいずれかを行います：
   - 参照ボタン をクリックして、ファイルを参照します。
   - 画像ファイルがプロジェクト内にある場合、プロジェクトフォルダーの画像ポップアップメニューからフォルダーを選択します。すべてのフォルダーを選択して、プロジェクト内のすべての画像を表示します。
4) 「OK」をクリックします。

ヒント：

- プロジェクトで使用されている画像の場合は、Project Manager\Imagesフォルダーからドラッグしてトピックにドロップします。
- 定義済みの画像を追加するには、画像ダイアログボックスの「ギャラリ」タブで、カテゴリを選択してから画像を選択します。プロジェクトに画像を追加するには、「OK」をクリックします。
- サードパーティの画像編集ツールを使用せずに、デザインエディターにスクリーンショットをペーストすることができます。画像はGIFまたはJPEGファイルのどちらかで保存されます。アクティブな画面をキャプチャするには、Alt + PrtScrキーを押します。

RoboScreenCapture画像のトピックへの追加

同時に画像を作成および追加します。

1) トピックのデザインエディターで、目的の場所にカーソルを移動します。
2) オブジェクトツールバーのScreenCapture画像を挿入ボタン をクリックします。ScreenCaptureを挿入ダイアログボックスが表示されます。
3) 新しい画像のファイル名を入力します。
4) ファイルの形式を選択します。
5) 「OK」をクリックします。RoboScreenCaptureが開き、RoboHelpが最小化されます。
6) 「キャプチャ」を選択し、アクティブウィンドウまたは目的の他のキャプチャを選択します。何も表示されていない部分に新しい画像が表示されます。
7) 「保存」 をクリックします。
8) RoboScreenCaptureを閉じます。RoboHelp for HTMLの画像ダイアログボックスが表示されます。
9) （オプション）画像のサイズ変更や、画像周囲の境界の配置などを行います。
10) 「OK」をクリックします。

トピックからの画像の削除

- トピックから画像を削除するには、デザインエディターでその画像を選択します。「削除」ボタンをクリックします。画像は画像フォルダーに残ったままです。
- 画像をプロジェクトから削除するには、すべてのトピックからファイルを削除します。画像は画像フォルダーから削除されます。

RoboHelp での画像の編集

1) デザインエディターで、編集する画像を選択します。
2) 画像を右クリックして「画像のプロパティ」を選択します。
3) オプションを設定します。

テキストの折り返し

テキストに囲まれた画像の配置を選択します。

> **注:** 画像の周囲にテキストの折り返しが存在する場合、画像を整列することはできません。「テキストの回り込み」で「なし」が選択されている場合、画像または行を調整することができます。

スクリーンヒント

ユーザーが画像の上にカーソルを置いたときに表示するテキストを入力します。通常、スクリーンヒントのテキストは画像タイトルです。

代替テキスト

（ユーザーがブラウザーで画像を無効にしたなどの理由で）画像を表示できない場合は、テキストを入力します。通常、代替テキストは画像の簡潔な説明を含む必要があります。

サイズ

クリックして画像の寸法（ピクセル）を設定します。サイズダイアログボックスで、「縦横比を維持」を選択して、画像の縦横比を維持します。

余白

クリックして画像とテキストの間にスペースを指定します。すべての辺の余白に対して同じ幅を指定したり、左、右、上、下の余白に対して別々の幅を指定したりできます。

罫線

クリックして画像に罫線を追加して、スタイルを指定します。

RoboScreenCaptureによる画像の編集

1) デザインエディターで、編集する画像を選択します。
2) 次のいずれかを行います。
   - 編集／表示／画像を選択します。
   - 右クリックして、「RoboScreenCaptureで編集」を選択します。
3) 画像を編集します。
4) 「保存」をクリックします。**注**: 詳細は、「RoboScreenCaptureヘルプ」を参照してください。

画像のサムネール

画像のサムネールサポート

ドキュメント内に画像をサムネールとして追加できるようになりました。サムネールはクリックすると拡大表示されます。ユーザーはサムネールの標準サイズをより柔軟に設定できるようになりました。これにより、公開された出力の全体に渡ってサムネールの見た目と印象を統一できます。また、ドキュメント内の文字コンテンツを画像との関連において整理しやすくなりました。

注: この機能は、レスポンシブHTML5出力だけのものです。

1) ドキュメント内の画像を選択します。
2) プロジェクト／開く／ポッド／スタイルと書式設定を選択します。
3) スタイルと書式設定ポッドのドロップダウンリストで、「画像のスタイル」を選択します。

   既存の画像のスタイルが一覧表示されます。

4) 手順 1 で選択した画像に設定を適用するには、画像のスタイルをダブルクリックします。

また、新しい画像のスタイルを作成したり、既存のスタイルを編集したりすることも可能です。画像のスタイルのドロップダウンリストの前にあるメニューオプションを使用します。

5) 「出力」タブの「生成」セクションで、レスポンシブ HTML5 をクリックします。

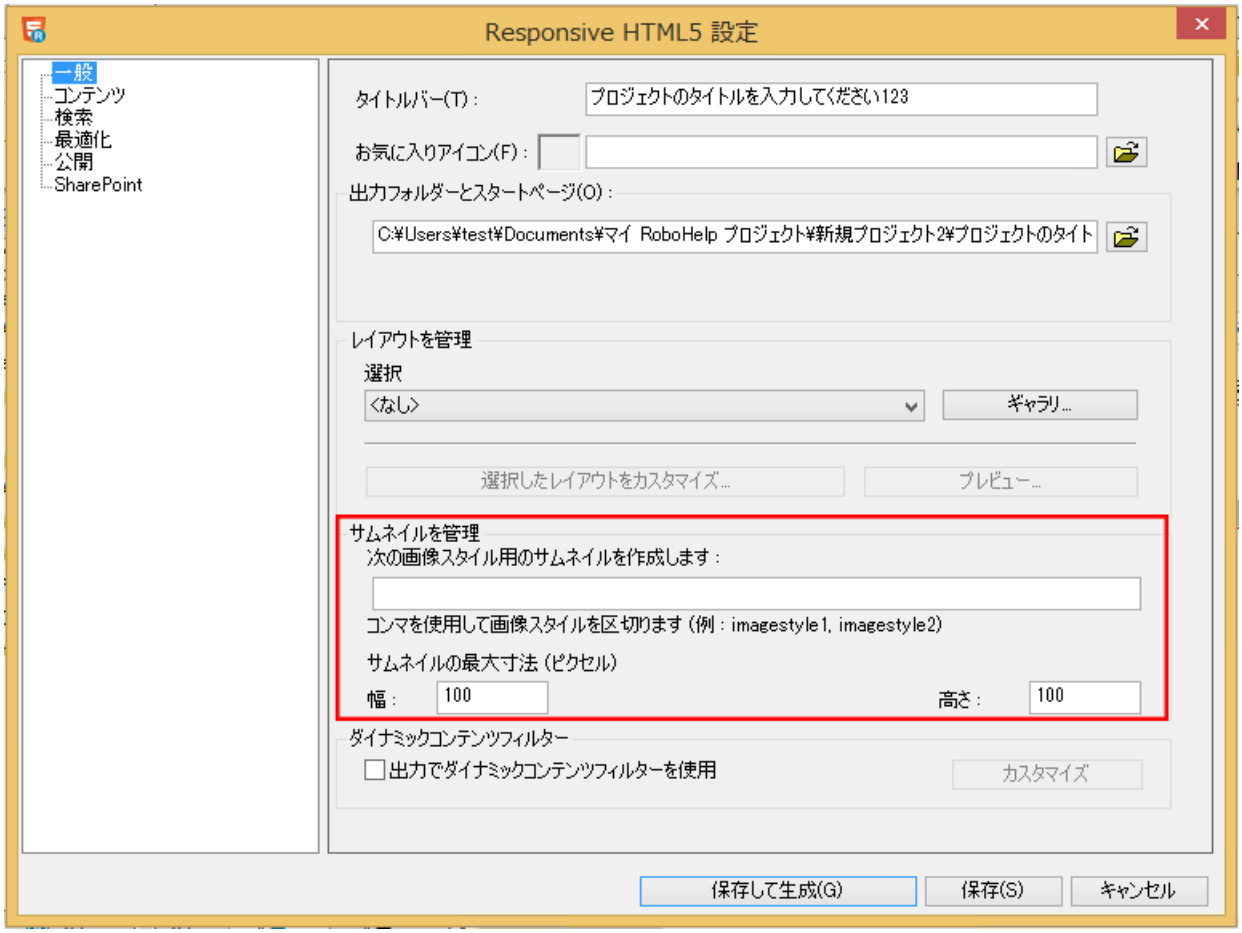
レスポンシブ HTML5 の設定ダイアログが開きます。

6) 「一般」タブの「サムネールを管理」セクションで、スタイル名および画像のサイズを指定します。サムネールに複数のスタイルを使用したい場合は、コンマを使用してスタイルを区切ります。

サムネールの最大許容サイズは 100 ピクセルです。

7) 出力フォルダーおよび「開始ページ」フィールドに出力場所を指定します。

8) 「保存して生成」をクリックし、出力を生成します。



画像マップ

画像マップの作成

1) デザインエディターで、画像を含むトピックを開きます。
2) 画像を右クリックします。「画像マップを挿入」を選択します。
3) 「四角形」、「円」、または「多角形」を選択します。

   カーソルが十字型 ＋ に変化します。
4) 画像の罫線内でクリック可能な領域を描画します。
5) 「リンク先」で三角形のポップアップメニュー ▼ をクリックします。「公開先を選択（ファイルまたはURL）」でファイルを選択するか、または別のリンク先を選択します。
6) 「スクリーンヒントテキスト」で、ユーザーが画像マップの上にマウスを置いたときに表示するテキストを入力します。
7) 「OK」をクリックします。

   ヒント: プロジェクトマネージャーは、画像を含む画像マップを画像フォルダーに保存します。画像ボタンの左側にあるプラスサイン は、画像マップであることを表します。プラスサインをクリックすると、画像マップのすべてのホットスポットのリストが表示されます。ホットスポットリンクはホットスポットアイコン 付きで表示されます。
8) テストするには、ツールバーの表示ボタンをクリックします。ホットスポットをクリックします。

画像マップの変更

1) デザインエディターで、画像マップを含むトピックを開きます。
2) ホットスポットをダブルクリックします。
3) 「リンク先」で三角形のポップアップメニュー ▼ をクリックします。「公開先を選択（ファイルまたはURL）」でファイルを選択するか、または別のリンク先を選択します。
4) 「OK」を選択します。確認メッセージが表示されたら、「OK」を選択して、ファイルをプロジェクトにコピーします。
5) テストするには、ツールバーの表示ボタン をクリックします。ホットスポットをクリックします。

関連するリンク:

ポップアップへのリンク

W3C コンプライアンス

Adobe Captivate デモ

次の手順に従って、Adobe Captivate を使用して作成したコンテンツを統合し、RoboHelp からソースを更新します。RoboHelp から Adobe Captivate を起動し、デモトピックを作成できます。Adobe Captivate デモの SWF および HTML5 出力を既存のトピックに挿入することもできます。デモまたはデモンストレーションは、Adobe Captivate の記録モードです。詳細情報については、「Adobe Captivate の使い方」を参照してください。

Adobe Captivate デモがプロジェクトに追加されると、RoboHelp からソースを開き、編集できます。

Adobe Captivate デモの作成

RoboHelp から Adobe Captivate デモを作成します。

1) プロジェクト／新規／トピック／ Adobe Captivate のトピックを選択します。
2) 作成する Adobe Captivate プロジェクトの名前を指定します。
3) デモトピックのタイトルボックスで、トピックの名前を入力します。
4) ファイル名ボックスに拡張子が .htm のファイル名を入力します。
5) 「OK」をクリックします。
6) デモを作成します。

   注: Adobe Captivate を開いている間は RoboHelp にはアクセスできません。
7) デモを保存し、Captivate を閉じます。
8) デモをテストするには、ホストトピックを選択したり開いたりして、「表示」をクリックします。
9) トピックを開き、ヘッダー、フッター、背景色またはタイトルテキストなどの追加情報を追加します。

   注: トピックに挿入された Adobe Captivate デモを選択し、必要であればそれをカットして他のトピックにペーストできます。

Adobe Captivate デモの挿入

プロジェクトの他のトピック、書籍や目次のページ、索引キーワードからデモトピックにリンクできます。リンクをクリックするとデモが始まります。

1) RoboHelp でデモを挿入するトピックを開きます。
2) デモを挿入する場所にカーソルを置きます。
3) 挿入メニューから「Adobe Captivate デモ」を選択します。Adobe Captivate デモダイアログボックスが表示されます。
   - デモ SWF ファイルが既にプロジェクトに存在する場合は、「プロジェクトフォルダーのマルチメディア」リストからファイルを選択します。
   - ファイルがプロジェクトフォルダーの外部にある場合は、参照ボタン をクリックして SWF ファイルの場所へ移動し、「開く」をクリックします。確認メッセージで「はい」をクリックして、ファイルをプロジェクトフォルダーにコピーします。
   - デモの Adobe Captivate HTML5 出力があれば、.htm ファイルを表示し選択します。

     注: RoboHelp は .htm ファイルをバゲッジファイルとして追加し、拡張子が .cpz になります。HTML5 出力ファイルで SWF ファイルを指定しない場合、RoboHelp は Design Editor で使用できるように、プレースホルダー SWF を追加します。この場合、RoboHelp からデモを編集することはできません。デモの HTML5 出力は、マルチスクリーン HTML5 レイアウトを使用して生成されたプロジェクト出力でのみ使用されます。
4) 「OK」をクリックします。トピックのオブジェクトは、ファイルが配置された場所を示しています。
5) デモをテストするには、「表示」 をクリックします。

Adobe Captivate デモの読み込み

Adobe Captivate デモを RoboHelp プロジェクト内の新しいトピックとして読み込むことができます。

1) プロジェクト／読み込み／ドキュメント／ Adobe Captivate デモを選択します。
2) デモのための作成する新しいトピックのタイトルを指定します。

3) デモのHTML5出力のパスを指定します。

4) デモのSWF出力のパスを指定します。

注意：

- HTML5出力パスを指定し、対応するSWF出力パスを指定しなかった場合、RoboHelpはDesign Editorで使用するためプレースホルダーSWFを追加します。このSWFは編集できません。
- 読み込むSWFにFLVファイルが埋め込まれている場合、RoboHelpはFLVファイルを読み込みません。FLVをバゲッジファイルとして追加してください。次を参照してください：ファイルおよびフォルダーのバゲッジフォルダーへの追加

Adobe Captivateデモの編集

1) Adobe Captivate デモを含むトピックを開くか、プロジェクトマネージャーのマルチメディアフォルダーを展開します。

2) デモを右クリックして、「編集」を選択します。

   注： HTML5出力ファイルを挿入し、対応するSWFファイルをスキップした場合、RoboHelpはDesign Editorで使用するためプレースホルダーSWFを追加します。このSWFは編集できません。

3) 必要な変更を行います。

4) Adobe Captivateを閉じます。

   注: RoboHelpでAdobe Captivateデモをプレビューすると、プロジェクトのファイル更新の確認を求めるプロンプトが表示される場合があります。Adobe Captivateデモを RoboHelpの外部にあるAdobe Captivateのデフォルトの場所に保存した場合に、このプロンプトが表示されます（デフォルトの場所は、C:\Documents and Settings\[user name]\My Documents\My Adobe Captivate Projects\ です）。RoboHelpでデモファイルへの変更を実行していないので、ファイルを更新する必要があります。

マルチメディア

マルチメディアの追加

1) マルチメディアを挿入するトピックの場所を選択します。

2) 挿入／メディア／マルチメディアを選択します。

3) ローカルフォルダーからマルチメディアファイルを挿入する場合は「オフライン（ローカルフォルダー）」オプションを選択し、URLを使用してオンラインビデオを埋め込む場合は「オンライン（URL）」を選択します。

4) マルチメディアオプションとして「オフライン（ローカルフォルダー）」を選択した場合は、次のいずれかの操作を行います。

   - 新しいファイルを追加するには、参照ボタン をクリックしてファイルの場所へ移動します。ダブルクリックして、「はい」を選択します。
   - 既存のファイルを追加するには、「プロジェクトフォルダーのマルチメディア」リストからファイルを選択します。

5) マルチメディアオプションとして「オンライン（URL）」を選択した場合は、次の注意で説明しているように、オンラインビデオのソースURL（埋め込みコード）を入力します。YouTube、Vimeo、Dailymotionのビデオでは、ソースURLの代わりにhttp URLを指定することもできます。

   注: ビデオのソースURLは、オンラインビデオの埋め込みコードからコピーできます。この埋め込みコードの例を示します：<iframe width="560" height="315" src="https://www.youtube.com/embed/PAxxJKa3PDo" frameborder="0" allow-fullscreen></iframe> 次に、ビデオを埋め込むために必要なソースURLです：https://www.youtube.com/embed/PAxxJKa3PDo このソースURLはビデオのhttpURLとは異なります。

6) オプションを設定します。

テキストの折り返し

テキストに囲まれたマルチメディアオブジェクトの配置を設定します。

スクリーンヒント

ユーザーがブラウザーでマルチメディアを無効にしている場合は、マルチメディアファイルをテキストラベルに置き換えます。

7) 外観設定を行うことができます。この設定は、パブリッシュされたWeb出力での埋め込みビデオの表示方法に影響します。

サイズ

埋め込みビデオのサイズを指定します。

QuickTimeビデオを追加した場合は、ビデオのサイズの各辺に16ピクセルずつを追加する必要があります。つまり、ビデオが320x240ピクセルである場合は、(前述の外観ドロップダウンリストで)「サイズ」を336x256として設定する必要があります。

余白

インチで、左、右、上および下の余白を指定します。

罫線

ビデオオブジェクトの周囲の罫線を設定します。

プレイヤー設定

パブリッシュされた出力内のプレーヤーのコントロール、再生およびサウンドに関連するビデオ設定を行います。次のオプションを使用できます。

自動：

プレーヤーのコントロールをホバー表示します。このオプションは、オンラインビデオを埋め込むときにのみ使用できます。

常に：

プレーヤーのコントロールを常に表示します。

しない：

プレーヤーのコントロールを表示しません。

注釈がある場合は表示：

埋め込まれたマルチメディアで注釈が使用可能な場合に注釈を表示します。このオプションは、オンラインビデオを埋め込むときにのみ使用できます。

フルスクリーン：

マルチメディアを全画面で表示します。

自動再生：

マルチメディアが含まれているトピックを開いたときに、そのマルチメディアを自動再生します。

ループ：

ユーザーが手動で停止するまで、マルチメディアを「n」回ループします。「無限」を選択するか、有限ループ回数を表す値「n」を指定します。無限ループオプションはWindows Media Video（wmv）以外のすべてのマルチメディアの種類に使用可能ですが、有限ループオプションはWindows Media Video（wmv）のマルチメディアの種類にのみ使用できることに注意してください。

ミュート：

ミュートモードでビデオを開始します。これは後から手動で変更できます。

初期ボリューム：

ビデオの初期ボリュームを指定します。これは後から手動で変更できます。このオプションは、HTML5ビデオファイルにのみ使用できます。

8) 「OK」をクリックします。

9) オブジェクトの近くにマルチメディアファイルへのリンクを作成し、ユーザーがマルチメディアファイルにアクセスできない場合、このリンクを選択するよう注意書きを付けます。

10) テストまたはプレビューするには、プロジェクト／表示の「アイテムを表示」ボタンをクリックします。

重要: オフラインビデオの場合、ビデオの出力タイプ（.mov、.qtなど）に応じてプレーヤー設定を変更します。オンラインビデオの場合、配信元（youtube.com、vimeo.comなど）で使用されている設定に応じてプレーヤー設定を変更します。

注: いくつかのファイル形式は、コンパイル済み Microsoft HTML ヘルプファイルで正常に動作しない場合があります。

マルチメディアのファイルの種類では次のファイルが使用できます。

- ビデオファイル：*.avi、*.asf、*.asx、*.mpg、*.mpeg、*.mpg4、*.mpe、*.mov、*.qt、*.ra、*.rm、*.rpm、*.wmv、*.wvx
- HTML5 ビデオファイル：*.mp4, *.ogg, *.ogv, *.webm を修正します。

  .ogg、.ogv、.webm 形式は Multiscreen HTML5 SSL のみでサポートされます。これらの形式は Internet Explorer ではサポートされていません。生成された Multiscreen HTML5 出力におけるビデの再生のためのブラウザー必要条件については、次の表を参照してください。

	Internet Explorer	FireFox	Chrome	Safari
Ogg	非サポート	3.5+	5.0+	非サポート
MPEG 4	9.0+	非サポート	5.0+	3.0+
WebM	非サポート	4.0+	6.0+	非サポート

場所：

Ogg は、Theora ビデオコーデックと Vorbis オーディオコーデックを持つ Ogg ファイルを表します

MPEG4 は、H.264 ビデオコーデックと AAC オーディオコーデックを持つ MPEG4 ファイルを表します

WebM は、VP8 ビデオコーデックと Vorbis オーディオコーデックを持つ WebM ファイルを表します

ヒント: 複数のデバイスで複数のブラウザーとの互換性を高めるには、MP4 ビデオファイルを使用します。MP4 ビデ EPUB 3 eBook 出力でもサポートされます。

注意：

- （Firefox の場合のみ）Multiscreen　HTML5 出力の MP4 ビデオは、デフォルトで 400x300 ピクセルのサイズで表示されます。必要に応じて異なるビデオサイズを指定できます。
- （Windows 7 および Internet Explorer 9）Multiscreen HTML5 出力で MP4 ビデオを表示するには、Windows Media Player がインストールされている必要があります。

- MPEG ビデオファイル：*.mpg、*.mpeg、*.mpg4、*.mpe

  注: H.264 ビデオコーデックおよび AAC オーディオコーデックを使用した MPEG 4 ファイルは、ほとんどのブラウザーでネイティブサポートされています。

- Windows Media ファイル：*.avi、*.asf、*.asx、*.wma、*.wmv、*.wax、*.wvx
- QuickTime ファイル：*.qt, *.mov
- Real ファイル：*.ra、*.rm、*.rpm
- オーディオファイル：*.asf、*.asx、*.mp3、*.mp4、*.wav、*.au、*.mid、*.rmi、*.ra、*.rm、*.wma、*.wax
- Flash ファイル：*.swf
- Flash ビデオファイル：*.flv、*.f4v
- Adobe Captivate ファイル：*.swf

マルチメディアファイルが他のトピックで使用されている場合、マルチメディアフォルダーからドラッグしてファイルを追加します。**注:** 視聴する前にインストールする必要がある Flash またはビデオ / オーディオプレーヤーなど、マルチメディアコンテンツには依存関係が存在する場合があります。

マルチメディアの変更

1) マルチメディアオブジェクトをダブルクリックします。マルチメディアダイアログボックスが表示されます。
2) 必要な変更を行います。
3) 「OK」をクリックします。
4) テストするには、ツールバーの表示ボタン をクリックします。

トピックからのマルチメディアの削除

1) マルチメディアオブジェクトを選択します。
2) 削除ボタン をクリックします。

   ヒント: 削除したマルチメディアオブジェクトを復元するには、元に戻す をクリックします。

ダイナミックHTMLと特殊効果

ダイナミックHTML（DHTML）はマルチメディアおよびスクリプトの機能を組み合わせて、視覚効果および3-D効果を作成します。挿入する効果は、ユーザーの入力（マウスのクリックなど）に応じて動作を実行します。DHTMLを操作する場合は次の点に注意してください。

- マウスのロールオーバー効果には、ドロップシャドウ、フォントの変更、光彩、ロックンロールがあります。
- ページがロードされたとき、ページがクリックされたとき、またはトリガーが実行されたときに実行される効果には、ぼかし、伸縮、フェードイン/フェードアウト、反転（上下）、フライイン/フライアウト、灰色、表示/非表示、スパイラル、ロックンロールがあります。
- いくつかの効果を組み合わせることが可能です。
- 最適な効果を得るには、DHTMLはInternet Explorer 5.0以降で使用してください。
- スタイルで使用されるダイナミック効果は、W3C準拠の出力ではサポートされていません。W3C準拠のコードを検証すると、エラーがレポートされる場合があります。

  注: HTMLファイルはIEおよびIE以外のブラウザーでDHTML効果をサポートしますが、XHTMLはDHTML効果のすべてのインスタンスをサポートしません。

関連するリンク:

コンディショナルビルドタグのコンテンツへの適用

DHTMLの基本

DHTML効果のトピックへの追加

1) デザインエディターでトピックを開き、要素を選択します。次のいずれかを行います。
   - テキストを選択します。
   - 段落ベースの効果の場合、段落内部をクリックします。
   - 配置済みボックスの場合、テキストボックスを選択して隅にグレーのボックスが表示されるようにします。
2) 挿入／DHTML／効果／効果を選択します

3) 「タイミング」リストから、効果を開始するためのイベントを選択します。
4) 「何を」リストから、適用する効果を選択します。
5) 「設定」リストで、プロパティを調整します。

DHTML効果は明るいグレーのハッシュマーク付きで表示されます。

ヒント: 正しいトピックに効果を適用していることを確認するために、デザインタグリストを使用します。

DHTML効果の複数の段落への適用

1) トピックでテキストボックスを追加する場所をクリックします。
2) 挿入／HTML／テキストボックスを選択します。
3) ボックスを右クリックし、「テキストボックスのプロパティ」を選択します。プロパティを設定します。
4) ボックスにテキストを入力します。
5) ボックスをクリックして選択します。
6) 挿入／DHTML／効果／効果を選択します
7) 「タイミング」リストから、効果を開始するためのイベントを選択します。
8) 「何を」リストから、適用する効果を選択します。
9) 「設定」リストで、プロパティを調整します。

トピックでのDHTML効果の更新

以下2つのいずれかの状況の場合、トピックを再保存してダイナミックHTML（DHTML）効果を更新します。

- スタイルを追加または変更してダイナミックHTML効果を追加した場合。この場合、効果を作成するためのコードに含まれるように、スタイルシートに関連付けられたすべてのトピックを再保存します。
- バージョン8.0より前のRoboHelpでプロジェクトを開くことができる場合。

メッセージが表示されたときにトピックを再保存するか、または後からトピックを更新できます。「デザイン」タブをクリックし、ツール／スクリプト／DHTMLを更新を選択します。

DHTML効果の変更または削除

1) デザインエディターでトピックを開きます。
2) 次のいずれかを行います。
   - 効果を変更するトピックアイテムを選択します。挿入／DHTML／効果／効果を選択します
   - 削除する要素を選択し、挿入／DHTML／効果／効果を削除を選択します。

   ヒント: EPUB 出力は DHTML 効果をサポートしていません。EPUB 出力からのDHTML効果を含むには、CBTを使用できます。

関連するリンク:

EPUBおよびKindle Book出力の生成

EPUBおよびKindle Book出力の生成

ダイナミックホットスポット

DHTMLホットスポットについて

DHTMLホットスポットは、クリックされたときに情報を表示します。

展開ホットスポット

クリックされたとき、ホットスポットの横に追加テキストを表示します。

ドロップダウンホットスポット

クリックされたとき、ホットスポットの下に追加情報を表示します。

DHTMLホットスポットの追加

1) デザインビューでトピックを開きます。ホットスポットとして使用するテキストを選択します。
2) 次のいずれかを行います。
   - 展開ホットスポットの場合、挿入／ DHTML ／拡張テキストを選択します。「展開テキストエディター」に、ホットスポットに表示されるテキストを入力します。「展開テキストエディター」の外をクリックしてエディターを閉じます。

- ドロップダウンホットスポットの場合、挿入／DHTML／ドロップダウンテキストを選択します。ドロップダウンボックスにテキストまたは画像を入力します。「ドロップダウンテキストエディター」の外をクリックします。

3) 表示ボタン をクリックしてテストします。

ヒント: 周囲のテキストとは異なる方式で DHTML ホットスポットを書式設定し、ユーザーに対して目立つようにします。

ホットスポットの削除

注: ホットスポットを削除すると、ホットスポット内の内容も削除されます。

1) ホットスポットを右クリックします。「展開テキストを削除」または「ドロップダウンテキストを削除」を選択します。

DHTML ホットスポットの書式変更

1つのトピックで書式を変更するか、スタイルシートを使用しているすべてのトピックの書式を変更します。複数のスタイルシートを使用している場合、ホットスポットを使用しているトピックに適用されている各スタイルシートを変更してください。

1) プロジェクト／開く／ポッド／スタイルと書式設定を選択します。

2) 次のいずれかを行います。

- 1つのトピックで書式を変更するには、「利用可能な場所」から、変更するトピックの名前を選択します。
- スタイルシートを使用しているすべてのトピックの書式を変更するには、「利用可能な場所」から、外部スタイルシートを選択します。

3) 「スタイル」から、変更するホットスポットの種類を選択します。

4) 「変更」をクリックします。

5) 「書式」をクリックして、変更する属性を選択します。

6) 「OK」をクリックします。「閉じる」をクリックします。

トリガーとターゲット

トリガーおよびターゲットについて

トリガーは、DHTMLの特殊効果を適用したテキストまたは画像です。トリガーが割り当てられたテキストまたは画像をユーザーがクリックすると、ターゲットが表示されます。トリガーを使用してDHTML効果を起動するには、最初にトリガーをテキストまたは画像に割り当てます。次にトリガーをターゲットにリンクしてDHTML効果を割り当てます。トリガーとターゲットを操作する際には、次の点に注意してください。

- トリガーとターゲットは同じトピック内にある必要があります。
- アイテムがクリック可能であることを示すには、フォントの色を変更して下線を付けるか、画像にテキストを追加します。

トリガーとターゲットの画像

This is the item users click (trigger).

トリガーのテキストまたは画像への割り当て

1) トリガーとして割り当てるテキストまたは画像を選択します。
2) 挿入／DHTML／トリガー／トリガーを選択しますケーブルドラムアイコン が表示されます。ハッシュマークがテキストに影を付けます。
3) トリガーを画像またはテキストにリンクします。

トリガーのテキストへのリンク

1) ターゲットとして使用するテキストを選択します。
2) 挿入／DHTML／効果／効果を選択します
3) 「タイミング」で、「1回目のトリガーをアクティブ化」を選択します。
4) 「何を」（ユーザーがトリガーを最初にクリックしたときに実行される効果）を選択し、プロパティ設定を選択します。
5) 「2回目のトリガーをアクティブ化」を選択し、プロパティを設定します。

6) 「OK」をクリックします。テキストの横にそれがターゲットであることを示す、プラグアイコン が表示されます。

7) トリガーをクリックし、ドラッグしてトリガーをターゲットテキストにリンクします。トリガーを複数のターゲットテキストにリンクするには、Shift キーを押しながらトリガーをクリックします。Shift キーを押したままマウスを次のターゲットテキストにドラッグします。

トリガーの画像へのリンク

1) トリガー画像を 1 回クリックして緑色のケーブルドラムアイコン を表示します。

2) ケーブルドラムアイコンをクリックし、ドラッグして画像をターゲット画像にリンクします。緑の線は、トリガーとターゲットのリンクを示します。

3) メニューから DHTML 効果を選択します。

4) 別のターゲットにリンクするには、Shift キーを押したままトリガーを再度クリックしてください。Shift キーを押したまま次の画像にドラッグします。

5) メニューから、ターゲット画像に適用する DHTML 効果を選択します。

トリガーの削除

1) トリガーに割り当てられているトピックアイテムを右クリックし、「DHTML　トリガーを削除」を選択します。

マーキー

マーキーの追加

マーキーとは、移動するテキストメッセージです。

- 既存のトピック内容の周囲にマーキーを配置するには、トピック内容を選択し、マーキーのプロパティを設定します。
- 最初にマーキーのプロパティを設定するには、トピックでマーキーを配置する場所をクリックします。マーキーのプロパティを設定し、マーキーの内容を入力します。

  注: XHTML は、マーキーをサポートしません。

マーキーのプロパティの設定または変更

1) 挿入／HTML／テキストボックス／マーキーを選択します。

2) マーキーを右クリックし、「マーキーのプロパティ」を選択し、マーキーのプロパティを指定または変更します。

   - 「量」で、マーキーが移動する速さを選択します。数字が大きいほど、速度が速くなります。
   - 「遅延」で、表示する期間（1/1000秒単位）を選択します。
   - 「動作」で、マーキーの移動方法を指定します。

   スクロール

   マーキーは絶えず画面上をスクロールします。

   スライド

   マーキーは画面上をスライドします。

   交互

   マーキーは開始方向からウィンドウの端へ移動します。

   - 「繰り返し」で、マーキーの繰り返しを指定します。トピックを開いている間中、マーキーを繰り返すには、「連続」を選択します。

3) 表示ボタン をクリックしてテストします。

マーキーの削除

1) カーソルをマーキーの領域に置きます。

2) マウスの左ボタンをクリックします。

3) 「削除」 をクリックします。

トピックのHTMLコメント

HTMLコメントの挿入

1) デザインエディターでトピックを開きます。
2) デザインビューにカーソルを挿入して、挿入／HTML／テキストボックス／コメントを選択します。
3) コメントエディターで次の書式を使用してコメントを入力します。

<!-- コメント -->

4) 「OK」をクリックします。

HTMLコメントの表示

1) デザインビューまたはHTMLビューでトピックを開きます。
2) 編集／表示/非表示／コメントを選択します。

   コメントはデザインビューでは緑の引き出し線で表示され、HTMLビューでは緑のテキストで表示されます。
3) （デザインビュー）引き出し線の上でカーソルを動かします。テキストポップアップノートにコメントが表示されます。

Iframe

PDFファイルまたはHTMLファイルをHTMLトピックに挿入するには、iframes（インラインフレーム）を使用します。HTMLページにPDFファイルまたはアクセスできるURLリンクを表示するには、iframeを挿入して、選択したHTMLページに必要なファイルを表示することができます。

iframeの挿入

1) 挿入／HTML／テキストボックス／インラインフレームを選択します。
2) iframeをダブルクリックします。
3) 名前を指定します。閲覧ボタン をクリックして、リンクするURL、HTMLファイルまたはPDFファイルを選択します。
4) （オプション）「罫線」タブをクリックして、罫線オプションを設定します。
5) 「OK」をクリックします。

   注： 挿入されるファイルは、生成されるヘルプだけでなく、プレビューでも表示することができます。

iframeの編集

- iframe をダブルクリックして、名前、リンクされているアイテムまたは罫線を変更します。
- フレームのサイズを変更するには、フレームハンドルをドラッグします。

コンディショナルテキスト

コンディショナルテキストの基本

コンディショナルテキストを使用すると、様々な目的や対象者向けにプロジェクト内のコンテンツのサブセットを生成できます。コンディショナルビルドタグを作成して、出力からコンテンツを除外し、それらのタグをトピックまたはトピック内の要素に適用できます。

印刷出力のカスタマイズ

オンライン文書には、オンライン機能を説明しているテキストなど、印刷マニュアルに必要のない要素が含まれている場合があります。これらの要素にはコンディショナルテキストとしてタグを付け、出力から除外することができます。マニュアルがオンライン文書のサブセットの場合、含めるトピックおよびトピックコンテンツにコンディショナルビルドタグを適用できます。その後、他の要素に別のタグを適用します。プロジェクトを生成するときは、オンラインのみのタグを除外することができます。

特定対象者向けにカスタマイズした内容の提供

トピックは製品、経験レベル、またはユーザータイプに関連する場合があります。コンディショナルテキストを使用すると、各グループに配布する情報量を減らすことができます。また、製品間の違いについて説明する注釈を省くことができます。

アプリケーションの異なるバージョンの配布

デモ、体験版、およびシェアウェアなど、アプリケーションの異なるバージョンを出荷する場合、各バージョンのトピックを省略することができます。

コンディショナルテキストのデザインおよびテスト

1) 提供する必要がある出力の種類（印刷マニュアル、オンラインチュートリアルなど）を決定し、現在および将来の要件を考慮します。スキルレベルごとに異なるバージョンが必要かどうかを判断します。

2) 出力タイプ別に適用するコンディショナルビルドタグを決定します。すべてのタグなしコンポーネントは出力に含まれます。様々な出力タイプについて、複数のタグをトピックに適用するかどうかを決定します。例えば、ベータ版ソフトウェアのテスターにマニュアルを配布する場合は、ベータ版に特有なトピックに Beta などのタグを付けます。その他のトピックには Printed などのタグを付けます。これにより、ベータ版に関連するトピックを最初に含め、後で除外することができます。

3) 各トピックに割り当てられているタグを確認するには、トピックプロパティレポートまたはコンディショナルビルドタグレポートを使用します。

4) トピック全体、またはトピック内の 1 つ以上の範囲にコンディショナルビルドタグを適用するかどうかを決定します。例えば、印刷マニュアルを作成する場合、オンライン用語集に関するテキストは除外します。

5) プロジェクトが大規模で、複数の出力タイプが必要な場合は特に、タグ名および色を決定します。タグ名は、Print や Online など、出力タイプが分かるように定義してください。タグの色により、トピックのコンディショナルテキストの範囲を識別することができます。

6) プロジェクトを更新する場合は、シングルソースおよびコンディショナル出力により、古いコンテンツを削除するかどうかを決定します。例えば、コンテンツの対象ユーザーについて説明するテキスト（「上級ユーザー向け」など）や画像を含むプロジェクトなどがあります。これらの要素は削除するか、コンディショナルテキストを使用して出力で非表示にすることができます。

7) 各タグを適用するときに、出力に含める目次または目次のページを決定します。

8) 出力に含める索引を決定します。プロジェクトで複数の索引を作成し、それぞれを適切な出力に含めることができます。

9) 出力を生成し、結果を確認して、コンディショナルタグをテストします。トピック、目次または索引に適用したタグの組み合わせは除外します。生成せずにトピックをプレビューし、コンディショナルな範囲を確認します。

関連するリンク：

コンディショナルテキストの範囲のプレビュー

コンディショナルテキストを実装するワークフロー

1) コンディショナルビルドタグを作成します。
2) トピック、トピック内容、目次、および索引の組み合わせにタグを適用します。
3) 出力から除外するタグおよび出力に含めるタグを定義します。
4) タグ付きのトピックを含めるか除外するコンディショナルビルドの式を定義します。

   式では論理演算子（OR、AND、NOT）を使用して、タグ付きのコンテンツを除外するフレーズを構成します。
5) 出力を生成します。

除外トピックへのリンクの管理

出力からコンテンツを除外すると、除外したコンテンツを参照するトピックでリンクが壊れる可能性があります。RoboHelp では、このような大部分のリンクを次の表で説明するように管理しています。

リンクの種類	Result
閲覧シーケンス	除外トピックは閲覧シーケンスには表示されません。
画像マップ	画像マップを含む画像が出力から除外される場合、その画像マップは削除されます。
索引	除外トピックにリンクしている索引キーワードは、索引ペインには表示されません。
リンクコントロール	除外トピックを参照するリンクコントロール（関連トピックまたはキーワードリンク）には、トピックは表示されません。
目次	除外トピックにリンクされた目次のブックまたはページは、目次ペインには表示されません。

コンディショナルビルドタグ

コンディショナルビルドタグの作成

1) プロジェクトリボンのタグ をクリックします。

2) 新規コンディショナルビルドタグダイアログに、タグの名前を入力します。

3) ビルドタグカラーボタン をクリックして、タグに色を割り当てます。カラーボックスで、色を選択するか、「カスタムカラー」をクリックして新しい色を定義します。アイコンに色を割り当てない場合、デフォルトで独自の色がアイコンに割り当てられます。

   このタグをコンテンツに適用すると、この色が使用されます。詳細については、次を参照してください：コンディショナルビルドタグのコンテンツへの適用

   注: 2 つのデフォルトタグ（Online および Print）がすべての新規プロジェクトに提供されます。タグの色の変更、タグの名前の変更、またはトピックやトピック内容へのタグの適用ができます。

コンディショナルビルドタグのコンテンツへの適用

コンディショナルビルドタグが適用されているコンテンツは、タグに指定されている色の斜線で網かけされて表示されます。プロジェクトがコンディショナルビルドタグの式を使用して作成されている場合は、トピックにはタグが適用されるコンテンツは表示されません。斜線の網かけの色により、タグ付き範囲が区別されます。フォルダーの場合、網かけ記号は表示されません。トピックの網かけはフォルダー内で表示できます。

注意：

- リンクなど、除外トピックへのテキスト参照は削除されます。ホットスポットは除外されたトピックに対してアクティブではありません。
- 目次ペッドのトピックにコンディショナルビルドタグを適用できます。
- コンディショナルテキストの表示と非表示を切り替えるには、編集リボンの表示/非表示ドロップダウンから「コンディショナル範囲」を選択します。

トピックに適用されたタグの検証

コンディショナルビルドタグダイアログボックスの「使用済み」領域には、タグを使用しているトピックが表示されます。「レベル」列には、タグが適用される方法が表示されます。

<トピック>

トピックに適用されます。

<コンテンツ>

トピックの内容に適用されます。

<両方>

トピックと内容の両方に適用されます。

「ファイル」列には、タグ付きの情報を含むファイルが表示されます。

1) 「コンディショナルビルドタグ」ポッド内のコンディショナルビルドタグを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

コンディショナルビルドタグのトピックへの適用

1) ポッドドロップダウン（プロジェクト／編集／レビューリボン）から「トピックリスト」を選択します。
2) トピックを選択します。
3) 編集リボンの適用ドロップダウンをクリックし、タグを選択します。

コンディショナルビルドタグの複数のトピックへの適用

1) ポッドドロップダウン（プロジェクト／編集／レビューリボン）から「トピックリスト」を選択します。
2) 複数のトピックを選択します。
3) プロジェクトツールバーのプロパティアイコン をクリックし、「詳細」をクリックします。
4) コンディショナルビルドタグ（トピックレベルタグ）ポッドでタグを選択します。「OK」をクリックします。

コンディショナルビルドタグのトピック内容への適用

1) デザインエディターでトピックを開きます。
2) トピック内容を選択します。
3) 編集リボンの適用ドロップダウンをクリックし、タグを選択します。

コンディショナルビルドタグをトピック内のコンテンツに適用すると、そのタグの作成時に定義したタグの色の上線がそのコンテンツに付されます。このタイプのタグの作成と定義については次を参照してください：コンディショナルビルドタグの作成

複数のコンディショナルビルドタグのトピック内容への適用

1) デザインエディターでトピックを開きます。
2) トピック内容を選択します。
3) 編集リボンの適用ドロップダウンをクリックし、「新規作成または複数選択」を選択します。
4) タグを選択するか、「すべてをチェック」をクリックします。「OK」をクリックします。

複数のコンディショナルビルドタグをトピック内のコンテンツに適用すると、それらのタグの作成時に定義したタグの色の上線がそのコンテンツに付されます。このタイプのタグの作成と定義については次を参照してください：コンディショナルビルドタグの作成

同一コンテンツに複数のタグを適用した場合は、適用されたタグの各色が組み合わさった上線が付されます。

コンディショナルビルドタグのフォルダー、索引、または目次への適用

1) 次のいずれかを行います。
   - タグをフォルダーに適用するには、プロジェクトマネージャーポッドのフォルダーを選択します。
   - タグを索引に追加するには、プロジェクトマネージャーポッドの索引フォルダーを選択します。キーワードまたはサブキーワードを選択します。
   - タグを目次に追加するには、プロジェクトマネージャーポッドの目次フォルダーを選択します。ブックまたはページを選択します。タグを目次全体に適用する場合は、出力で目次を使用できません。タグを目次のページのみに適用する場合は、目次を使用できます。タグ付きのページは使用できません。

2) 編集リボンの適用ドロップダウンをクリックし、「新規作成または複数選択」を選択します。

3) タグを選択するか、「すべてをチェック」をクリックします。「OK」をクリックします。

コンディショナルビルドタグのプレースホルダーへの適用

1) 次のいずれかを行います。

- マスターページに設定されているプレースホルダーを選択して、編集／タグ／適用を選択します。
- マスターページのプレースホルダーを右クリックして、コンディショナルビルドタグの適用／ [新しいタグ] を選択します。

注: コンディショナルビルドタグはスニペットインスタンスにも適用できますが、スニペットには適用できません。

コンディショナルテキストの範囲のプレビュー

コンディショナルテキスト領域でトピックの形式を確認するには、定義済みのコンディショナルビルドタグの式を使用してトピックをプレビューします。また、トピックをプレビュー中にコンディショナルビルドタグの式を定義することもできます。

1) デザインエディターでトピックを開きます。

2) 編集／表示／アイテムを表示を選択します。

3) 次のいずれかを行います。

- 既存の式をプレビューするには、コンディショナルビルドタグの式メニューから選択します。
- 新しい式を定義およびプレビューするには、定義をクリックして、出力から除外するタグを選択します。「OK」をクリックします。

ヒント: プレビューからコンディショナルビルドの式を削除するには、コンディショナルビルドタグの式メニューから「なし」を選択します。

コンディショナルテキストの表示および非表示

デザインエディターでは、コンディショナルビルドタグが適用されているアイテムに、そのタグに指定されている色の上線が付されます。

デザインエディターでは、コンディショナルテキストは常に表示されますが、上線は非表示にすることもできます。

1) 「編集」タブの「表示」セクションで、表示 / 非表示ドロップダウンをクリックします。

   「コンディショナル範囲」リスト項目は切り替え可能なオプションです。

2) コンディショナルテキストを非表示にするには、オプションの選択を解除します。

   注: 左側のアイコンの選択が解除されます。

   コンディショナルテキストを表示するには、オプションの選択を解除します。

   注: 左側のアイコンの選択が解除されます。

コンディショナルビルドタグの削除

1) 次のいずれかを行います。
   - トピックからコンディショナルビルドタグを削除するには、プロジェクトマネージャーポッドのHTMLファイルフォルダーで1つ以上のトピックを選択します。
   - トピックの内容からコンディショナルビルドタグを削除するには、デザインエディターでトピックを開きます。トピック内容を選択します。
   - 目次からコンディショナルビルドタグを削除するには、目次ポッドでクリックします。1つ以上のブックまたはページを選択します。
   - 索引からコンディショナルビルドタグを削除するには、索引ポッドでクリックします。キーワードまたはサブキーワードを選択します。
2) 編集／タグ／適用／新規作成または複数選択をクリックします。
3) タグを非選択にするか、「すべてを消去」をクリックします。「OK」をクリックします。
4) コンディショナルビルドタグをプロジェクトから削除するには、「プロジェクト」をクリックします。コンディショナルビルドタグフォルダーを展開し、タグをクリックして「削除」を選択します。「OK」をクリックします。

   ヒント: コンディショナルビルドタグをプロジェクトから削除する前に、プロジェクトレポートを実行し、影響のあるトピックを判断します。

コンディショナルビルドタグの名前変更

1) 「コンディショナルビルドタグ」ポッド内のタグを右クリックします。
2) 「名前変更」を選択し、新しい名前をボックスに入力します。
3) Enter キーを押します。このタグを使用しているトピックが、新しい名前で更新されます。

   ヒント: プロジェクトを再生成する前に、コンディショナルビルド式が新しいビルドタグ名で更新されていることを確認します。

コンディショナルビルドタグの式

コンディショナルビルドタグの式を定義

式は命令のセットです。トピックを指定して、出力に含めたり、出力から除外したりします。タグを除外する基本的な式または論理演算子（AND、OR、NOT など）を使用した複雑な式を定義することができます。

ユーザーは出力から除外されるトピックや目次にはアクセスできません。索引キーワードおよび目次のエントリは表示されません。トピックへのリンクが削除され、リンクコントロールからトピックが削除されます。除外というタグが付いた領域内でブックマークへのリンクが削除されます。トピックコンテンツに適用されたタグは、目次、索引またはリンクコントロールに影響しません。

式を保存するシングルソースレイアウトがあることを確認します。必要に応じて、レイアウトを作成するかデフォルトレイアウトを変更します。

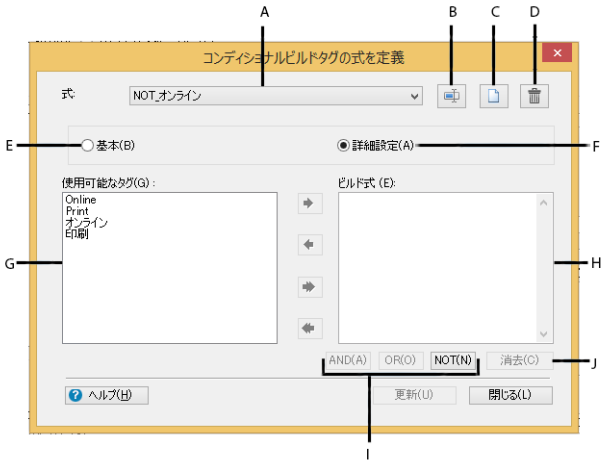
ヒント: ビルドタグを無視して、ビルドタグが適用されているかどうかに関係なく、プロジェクトのすべてのトピックを含む出力を生成することができます。プロジェクトの生成中に、オプションウィザードのコンディショナルビルドタグリストで「なし」を選択します。

コンディショナルビルドタグを作成し、それをトピックまたはトピックコンテンツに適用します。

1) プロジェクトリボンのタグドロップダウンをクリックし、「名前付き式」を選択します。

「コンディショナルビルドタグの式を定義」ダイアログが表示されます。

コンディショナルビルド式の定義



A

使用可能な式のリストから選択します。

B

選択した式の名前を変更します。

C

新しい式を作成します。

D

選択した式を削除します。

E

現在のコンディショナルビルドタグのリストから、式に含めるとタグと式から除外するタグを選択します。

F

論理演算子 AND、OR、NOT を使用して、式を作成します。「複雑なコンディショナルビルドタグの式」を参照してください。

G

使用可能なコンディショナルビルドタグのリストです。

H

除外するタグのリストです。

I

詳細オプションを使用して式を作成するために使用する論理演算子です。

J

詳細オプションを使用して作成したビルド式をクリアします。

2) ダイアログを初めて開いたときには、ビルド式は選択されていません。

3) 新しい式を作成するには、基本オプションまたは詳細オプションを使用して式を作成し、「保存」をクリックします。

4) 使用可能な式を編集するには、式ドロップダウンから式を選択し、「更新」をクリックします。

5) 「保存」をクリックします。

新しい式を作成する場合は、名前を付けるように求められます。

複雑なコンディショナルビルドタグの式

論理演算子を使用して複雑なコンディショナルビルドタグの式を定義する場合は、出力のカスタマイズにこのガイドラインを使用します。基本的な方法を使用して RoboHelp に作成させることもできます。

期待される結果	アクション
1 つのタグが適用されたすべてのトピック	タグ名を使用します。例：Tag1
複数のタグが適用されたすべてのトピック	タグ名と共に AND を使用します。例：Tag2 AND Tag3
任意の組み合わせのタグが適用されたすべてのトピック	タグ名と共に OR を使用します。例：Tag3 OR Tag4
1 つのタグが適用されたトピックを除くすべてのトピック	タグ名と共に NOT を使用します。例：NOT Tag2
複数のタグが適用されたトピックを除くすべてのトピック	タグ名と AND を使用した組み合わせに NOT を使用します。例：NOT Tag1 AND NOT Tag2 AND NOT Tag4

注: コンディショナルビルドタグを適用していないトピックおよびトピックテキストが出力に含まれます。

状況依存ヘルプ

状況依存ヘルプに関する基本情報

状況依存ヘルプ（CSH）トピックでは、ユーザーが実行するタスクに関連するアプリケーションのユーザーインターフェイスに関する情報が提供されます。例えば、CSH トピックには、ダイアログボックスのフィールドおよびコントロール、ウィンドウまたはスクリーンオブジェクトの説明、メッセージの説明に関する詳細が表示されます。CSH トピックにアクセスするには、F1 を押すか、「ヘルプ」ボタンをクリックするか、メニューから選択するか、疑問符アイコンをクリックします。

状況依存ヘルプを作成および実装するプロセスには通常、内容の作成者およびアプリケーション開発者が必要です。状況依存トピックを指定するには、作成者がマップ ID およびマップファイルを作成します。ユーザーが状況依存ヘルプにアクセスすると、マップ番号とヘルプファイル名がヘルプエンジンに送信されます。エンジンは、マップ番号をトピック ID と HTML ファイル名に一致させて、正しいトピックが表示されます。

プロセスの最終手順は、状況依存ヘルプのテストです。RoboHelp HTML には、アプリケーションの状況依存ヘルプのテストに加えて、ユーザーが使用できるツールがいくつかあります。

ウィンドウレベルトピック

アプリケーションのウィンドウ、ダイアログボックス、およびメッセージについて説明します。各ウィンドウレベルトピックは、HTM 形式であり、拡張子 .htm 付きで保存されます。テキストの書式設定、リンク、画像、その他の機能を使用できます。これらのトピックは、UI コンポーネントについて説明しているので、フィールドレベルヘルプよりも詳細です。これらのトピックは、F1 キーを押したり、「ヘルプ」ボタン、ヘルプメニューからアクセスします。

アプリケーションヘルプにカスタムウィンドウが用意されていない場合は、HTML ヘルプビューアに状況依存ヘルプが表示されます。

フィールドレベル（**What's This?**）トピック

（WinHelp および Microsoft HTML Help プロジェクトのみ）フィールドの簡単な説明が表示されます。ユーザは疑問符アイコンをクリックした後、ダイアログボックス内のフィールドをクリックすることによって、このヘルプにアクセスできます。RoboHelp では、フィールドレベルトピックを What’s This? トピックといいます。

注：WebHelp、WebHelp Pro、FlashHelp、FlashHelp Pro、および AIR ヘルプでは What's This Help はサポートされていません。WebHelp ウィンドウのサポートは状況依存ヘルプ API（Application Programming Interface）を含む場合のみ有効となります。

エアプレインヘルプ

インターネット接続でサポートされていないオフラインヘルプ。`RH_ShowHelp` を使用するには、`RH_AssociateOfflineHelp` を使用してオフラインヘルプシステムを関連付けます。この手順では、インターネット接続が利用できない場合の動作方法を関数に通知します。`RH_ShowHelp` を呼び出すたびに、オンラインヘルプを指定する必要があります。`RH_ShowHelp` および `RH_AssociateOfflineHelp` は、サポートされるファイルにあります。エアプレインヘルプを使用して、インターネット接続が失敗した場合のバックアップヘルプを提供できます。**注：** RH_ShowHelp はプログラミング関数で、RoboHelp の CSH API のルールを使用してヘルプトピックを表示するために開発者が使用します。

状況依存ヘルプの作成におけるヘルプ作成者とアプリケーション開発者の役割

ヘルプ作成者	アプリケーション開発者
ウィンドウ、ダイアログボックス、フィールドおよびコントロールなど、アプリケーションのコンポーネントを使用する方法を説明するトピックを記述する。	アプリケーションの様々な機能（ウィンドウ、ダイアログ、フィールド、コントロール）を開発する。
各状況依存ヘルプトピックにマップファイルを読み込んで、マップ ID を割り当てる。開発者と不明確な割り当てや割り当ての変更について話し合う。 または 各状況依存ヘルプトピックについてマップファイルを作成し、マップ ID を割り当てる。マップファイルが完成したときにマップファイルを開発環境に書き出す。および開発者に変更を通知する。	マップ ID を含むマップファイルを生成し、ヘルプ作成者に提供する。 または ヘルプ作成者からマップ ID を含むマップファイルを受け取る。
プロジェクトを生成して、出力に状況依存ヘルプトピックを追加する。	（マップファイルに含まれるマップ ID を基にして）アプリケーションから正確なヘルプトピックを呼び出すコードを作成する。
アプリケーションで状況依存トピックをテストする。ヘルプシステムのエラーを修正する。	アプリケーション（またはマップファイル）に変更が加えられた場合、ヘルプ作成者に通知する。これにより、ヘルププロジェクトを更新および再生成できる。アプリケーションコードのエラーを修正する。

WebHelp を呼び出す 4 通りのメソッドについては、Peter Grainge 氏の Web サイトのホームページの作成ページを参照してください。

- URL の使用
- マップ ID の使用
- マージされた WebHelp でのマップ ID の使用
- トピック ID の使用

マップファイルおよびマップ ID

関連するリンク：

状況依存ヘルプの作成におけるヘルプ作成者とアプリケーション開発者の役割
開発者向け情報

マップ番号、マップファイルおよびマップ ID について

マップ番号

トピック ID に関連付けられた数値。マップ番号とトピック ID はマップファイルに保存されます。マップ番号は、状況依存ヘルプを呼び出すトピックを指定するためにアプリケーションで使用されます。アプリケーション開発者がマップ番号、トピック ID またはその両方を使用するかどうかは、使用しているプログラミング言語によって決まります。

マップファイル

トピック ID とマップ番号を含んでいるテキストファイルです。マップ ID とマップファイルをトピックに関連付けます。ヘルプファイル作成者として開発者からマップファイルを受け取った場合は、マップファイルからマップ ID を割り当てます。マップファイルを手動で作成した場合は、マップ ID を自動生成するか、手動で作成します。プロジェクトには、複数のマップファイルが含まれる場合があります。マップファイルの拡張子は、.h、.hh、.hm になります。デフォルトのマップファイルは、BSSCDefault.h です。

マップ ID

トピック ID とマップ番号を組み合わせた文字列です。例：

```
#define ID_SetupScreen 101
```

- `ID_SetupScreen` は、トピック ID です。
- `101` がマップ番号です。
- `ID_SetupScreen 101` はマップ ID です。

アイコンは、次のようにマップ ID のステータスを示しています。

- 青色のアイコン は、マップ ID とトピックが対応していることを示します。
- 黄色のアイコン は、マップ ID がどのトピックとも対応していないことを示します。
- ロックされたアイコン （青または黄色）は、マップ ID が、ロックされたマップファイルにあることを示します。このマップ ID は割り当ても割り当て解除もできません。

マップ ID を作成、マップ ID を自動生成、マップ ID を使用するマップファイルを読み込みます。各トピック ID に一意のマップ ID を割り当てる必要があります。マップ ID をヘルプトピックに割り当てて、状況依存ヘルプのヘルプトピックを表示します。

マップテーブル

ダイアログボックスのフィールドおよびコントロールをマップ番号にマップするメカニズム。マップテーブルはアプリケーション内にプログラミングされ、状況依存ヘルプ機能を提供します。

マップファイルの管理

マップファイルの作成

マップファイルは、マップ ID のリストを含むテキストファイルです。マップのファイル名には .h の拡張子を使用します。ファイル名を指定する場合は、スペースの代わりにアンダースコアを使用し、次の無効な文字を使用しないようにします。< > | # ", $, &, [ ]

作成者または開発者はマップファイルを作成できます。開発者がマップファイルを作成する場合、作成者がそのファイルを読み込みます。

注: RoboHelp では、ダイアログボックスおよびトピックの動的な状況依存マッピングもサポートしています。これにより、技術担当の作者はマップ ID を手動で追跡する必要がなくなります。状況依存トピックの動的編集を参照してください。

ヒント: マップファイルをロックして、読み取り専用にすることができます。

1) 出力設定ポッドを開きます。
2) 状況依存ヘルプフォルダーを開きます。
3) マップファイルフォルダーを右クリックします。
4) 「新規マップファイル」を選択します。
5) 名前を入力します。
6) 「OK」をクリックします。ファイルはマップファイルフォルダーに追加されます。

注: 古いファイルには、更新されたファイルで使用されるマップ番号が含まれている場合があります。

マップファイルの読み込み

1) 次のいずれかを行います。
   - プロジェクト／読み込み／マップファイルをクリックします。
   - 出力設定ポッドで状況依存ヘルプフォルダーを展開します。
2) マップファイルに移動します。マップファイルがロックされていないことを確認します。
3) マップファイルをダブルクリックしてプロジェクトのマップファイルフォルダーに追加します。

マップファイルの書き出し

1) 出力設定ポッドで、状況依存ヘルプフォルダーを展開します。
2) マップファイルフォルダーを右クリックします。
3) 「マップファイルを書き出し」を選択します。
4) マップファイルの保存先のプログラミング言語を選択します。
5) ファイルの位置を指定して、「OK」をクリックします。

ヒント: マップファイルを書き出す場合、オリジナルのファイルはプロジェクトに残ります。

マップファイルのロックまたはロック解除

ロックされたマップファイルは読み取り専用ファイルです。ロックされたマップファイルでマップ ID を追加、削除、または変更しないでください。「未使用マップ ID を削除」が選択されている場合、ファイルを変更しないでください。ファイルを変更すると、ファイル内の変更内容が失われる可能性があります。読み込んだマップファイルはデフォルトでロックされます。

1) プロジェクト／開く／ポッド／出力設定を選択します。
2) マップファイルフォルダー（またはマップファイルフォルダーのカスタムフォルダー）を表示します。
3) マップファイルを右クリックします。
4) 「プロパティ」を選択します。
5) 「ロック済み」オプションを選択します。ファイルのロックを解除するには、「ロック済み」オプションの選択を解除します。
6) 「閉じる」をクリックします。

古いマップファイルの削除

古いマップファイルには、更新されたファイルで使用されるマップ番号が含まれている場合があります。これらのマップ番号は間違ったトピックを動的に呼び出すことがあります。この問題を回避するには、未使用マップファイルを削除します。

1) 出力設定ポッドを開きます。
2) 状況依存ヘルプフォルダーを開きます。
3) マップファイルフォルダーを展開します。
4) マップファイルを選択します。
5) 「削除」をクリックします。

未使用マップ ID の削除

このオプションを使用するには、マップファイルのロックが解除されている必要があります。未使用マップ ID を削除するには：

- 出力設定ポッドで状況依存ヘルプフォルダーを展開します。
- マップファイルフォルダーを右クリックします。
- 「編集」を選択します。
- 次の操作を行います：

マップファイル

削除する未使用マップ ID を含むマップファイルを選択します。

すべてを選択

すべてのマップファイルから未使用マップ ID を削除します。

すべてクリア

すべてのマップファイルの選択を解除し、未使用マップ ID を削除しません。

マップ ID の管理

マップ ID の作成

1) 出力設定ポッドを開きます。
2) 状況依存ヘルプフォルダーを開きます。
3) マップファイルフォルダーを展開します。
4) 「すべてのマップ ID」をダブルクリックします。
5) 「マップファイル」で下矢印をクリックし、マップ ID を保存するマップファイルを選択します。
6) マップ ID を作成 / 編集ボタン をクリックします。
7) 「トピック ID」で、トピックを識別するための単語または文字列を入力します。
8) 「マップ番号」に番号を入力します。

   注：トピックごとに個別のマップ ID を作成したり、自動マップボタンを使用して自動生成したりすることができます。次を参照してください：マップ ID の自動生成

マップ ID の編集

トピックのマップ ID の割り当てや割り当て解除、マップ ID の新規作成、ID の自動マップを行うことができます。トピックを列で並べ替えることもできます。

1) 出力設定ポッドを開きます。

2) 状況依存ヘルプフォルダーを開きます。

3) マップファイルフォルダーを右クリックします。

4) 「マップ ID を編集」を選択します。

5) 次のオプションから選択します。

マップファイル

使用できるマップファイル（読み込んだマップファイルなど）のリストを表示します。

<すべてのマップファイル>

すべてのマップ ID を表示します。

<プロジェクトマップファイル>

デフォルトマップファイル BSSCDdefault.h に含まれるマップ ID を表示する場合に選択します。選択解除されたマップファイルのマップ ID は BSSCDefault.h に保存されます。

マップファイルアイコン

クリックすると、新規マップファイルダイアログボックスが表示され、カスタムマップファイルを作成できます。カスタムマップファイルのマップ番号は自動的に割り当てられます。

マップ番号

トピック ID のマップ番号を表示します。マップ番号はマップファイル（.h、.hh、.hm）に保存されます。

トピック

マップ ID に割り当てたトピックを表示します。

使用済み ID の非表示

割り当てられていないマップ ID を表示します。

新規アイコン

マップ ID の作成マップファイルで選択したマップファイルに ID が追加されます。

編集アイコン

選択済みマップ ID を編集します。

削除

選択済みマップ ID を削除します。ID を削除する前に、「割り当てなし」をクリックすると、トピックへの壊れたリンクがなくなります。

オプション

トピックの自動マッピングをカスタマイズできます。

割り当て

選択したトピックを選択したトピック ID に割り当てます。トピックが右で、マップ ID が左で選択されている場合、このボタンを使用できます。

割り当てを解除

右のトピックからのマップ ID の割り当てを解除します。

自動マップ

カスタムまたはデフォルトのマップファイル（BSSCDefault.h）でマップ ID を割り当てます。マップファイルとトピックを選択し、「自動マップ」をクリックします。このボタンは、「<プロジェクトマップファイル>」またはカスタムマップファイルを選択している場合にのみ使用できます。マップ ID を自動でマップし、特定のマップファイルが選択されていない場合、マップ ID はデフォルトマップファイル（BSSCDefault.h）に保存されます。

- プログラムによって、トピックタイトルまたはファイル名がトピック ID として割り当てられ、マップ番号が割り当てられます。「オプション」クリックすると、自動マッピングをカスタマイズできます。
- 1 つのマップ ID に複数のトピックを割り当てることはできませんが、1 つのトピックに複数のマップ ID を割り当てることは可能です。

トピック

プロジェクトトピックのリストを表示します。リストをフィルターするには、三角形のマーク をクリックします。「すべてのフォルダー」、「トップレベルフォルダー」、またはカスタムフォルダーを選択します。

プロパティアイコン

トピックに割り当てるすべてのトピックIDを表示します。

プレビューアイコン

トピックを表示します。

> **注:** ブックマークにマップIDを割り当てると、ファイルが存在しないという不適切なエラーメッセージが表示されます。この警告は無視してください。トピックは存在しています。

マップIDの割り当て

ヘルプトピックが開かない場合、間違ったトピックが開く場合、または開発者がマップIDに影響を与えるアプリケーションに変更を加えた場合は、マップIDを更新します。

1) マップIDを編集ダイアログボックスで、マップIDの下にあるマップファイルを選択します。
2) 「マップIDを作成/編集」をクリックします。
3) 次のいずれかを行います。

- マップIDを再度割り当てます。「マップID」でマップIDを選択します。「割り当て解除」をクリックします。別のトピックを選択し、「割り当て」をクリックします。
- トピックIDまたはマップ番号を変更します。マップIDをダブルクリックし、必要な値を変更します。

マップIDの自動生成

カスタムマップファイルまたはデフォルトマップファイル（BSSCDefault.h）を使用して、マップIDを生成できます。マップファイルを生成する前に、命名規則を決定するには、開発者に確認します。

1) 出力設定ポッドで、状況依存ヘルプフォルダーを展開します。
2) マップファイルフォルダーを展開します。
3) 「すべてのマップID」をダブルクリックします。
4) 「マップファイル」で、三角形のボタンをクリックします。

5) マップファイルを選択します。

6) マップ ID の名前付けおよび番号付けのオプションを設定します。デフォルトでは、アプリケーションによって、トピックタイトルまたはファイル名がトピック ID として割り当てられ、マップ番号が割り当てられます。

7) 「トピック」フィールドで、トピックを選択します。

8) 「自動マップ」をクリックしてマップ ID を作成します。

9) 必要に応じて、マップファイルをダブルクリックして編集します。

10) マップファイルのコピーをアプリケーション開発者に提供します。

マップ ID の生成

ID は、マップ ID を編集ダイアログボックスで選択したマップファイル内にあります。

1) マップ ID を編集ダイアログボックスの「オプション」を選択します。

マップ ID のプレフィックス

各マップ ID の先頭に値を入力する場合に選択します。

大文字に変更

自動生成マップ ID を大文字にする場合に選択します。

次の番号から番号付けを開始

マップ番号の開始番号を入力する場合に選択します。

注意：

- これらのオプションを設定しても、既存のマップ ID には影響しません。
- デフォルトでは、アプリケーションによって、トピックタイトルまたはファイル名がトピック ID として割り当てられ、マップ番号が割り当てられます。
- マップ ID の自動生成機能は、「< プロジェクトマップファイル >」またはカスタムマップファイルを選択している場合にのみ使用できます。マップ ID を自動でマップし、マップファイルを選択していない場合、マップ ID はデフォルトマップファイル（BSSCDefault.h）に保存されます。
- 1 つのマップ ID に複数のトピックを割り当てることはできませんが、1 つのトピックに複数のマップ ID を割り当てることは可能です。

トピックへのマップ ID の割り当て

注: RoboHelp では、ダイアログボックスおよびトピックの動的な状況依存マッピングもサポートしています。これにより、技術担当の作者はマップ ID を手動で追跡する必要がなくなります。状況依存トピックの動的編集を参照してください。

1) 出力設定ポッドを開きます。
2) 状況依存ヘルプフォルダーを開きます。
3) マップファイルフォルダーを展開します。
4) 「すべてのマップ ID」をダブルクリックします。
5) 「マップファイル」で下矢印をクリックし、マップ ID を含むマップファイルを選択します。
6) 割り当てるマップ ID を選択します。
7) トピックを選択します。
8) 「割り当て」をクリックします。
9) 「閉じる」をクリックします。
10) プロジェクトを生成します。
11) アプリケーションでウィンドウレベルトピックをテストします。

マップ ID の割り当て解除

1) トピックを開きます。
2) プロパティボタン をクリックします。
3) 「詳細」タブをクリックします。
4) 「割り当てられたマップ ID」をクリックします。
5) 割り当て解除するマップ ID を選択します。
6) 「マップ ID を編集」をクリックします。
7) 「割り当て解除」をクリックします。
8) 「閉じる」をクリックします。

9) プロジェクトを生成します。

10) アプリケーションでウィンドウレベルトピックをテストします。

注: マップ ID をブックマークに割り当てて、トピックからブックマークを削除した場合は、ブックマークからマップ ID を手動で割り当て解除します。

状況依存トピックの動的編集

RoboHelp では、アプリケーションダイアログボックスに関係付けられた状況依存トピックの動的編集をサポートしています。ダイアログボックスにトピックが関係付けられていない場合は、既存のトピックをダイアログボックスに動的にマッピングしたり、新しいトピックを作成してそれをダイアログボックスにマッピングしたりできます。

注: この機能を使用するには、アプリケーションを RoboHelp 内から開く必要があります。また、アプリケーションは RoboHelp 9 状況依存ヘルプ API を使って状況依存ヘルプを実装する必要もあります。現在は、Windows での C++ API のみがサポートされています。

使用シナリオ

ダイアログボックスをヘルプトピックにマッピングするには、開発者と技術担当作者との間で密接な共同作業が必要です。通常、開発者はコード内でダイアログボックスのマップ ID を定義し、それを技術担当作者に伝えます。技術担当作者は、これらのマップ ID をヘルプトピックに手動で関係付けます。

ダイアログボックスとトピックの動的状況依存マッピングを行うことにより、技術担当作者はマップ ID を手動で追跡する必要がなくなります。そのかわりに技術担当作者は、アプリケーションを開き、関連のヘルプトピックをダイアログボックスに動的に関係付けることが出来ます。

この機能により、ヘルプの統合性のテストとトラブルシューティングが非常にやり易くなります。技術担当作者はただちに、すべてのダイアログボックスが正しいヘルプトピックにマッピングされているかどうかをテストできます。不一致が発見されたときは、迅速にそれを修正し、ダイアログボックスを正しいヘルプトピックに関係付けることができます。

アプリケーションダイアログボックスとトピックとのマッピング

1) RoboHelp でアプリケーションのヘルププロジェクトを開きます。

2) ツール／CSH／CSH ヘルプを開くをクリックします。

3) アプリケーションの実行形式ファイル（.exe）を参照して選択します。「開く」をクリックします。

4) アプリケーションが起動したら、状況依存ヘルプマッピングでアプリケーションダイアログボックスを参照します。F1 を押すか、「ヘルプ」ボタンをクリックします。

5) RoboHelp の CSH オプションダイアログボックスで、「プロジェクトマップファイル」ポップアップメニューからマップファイルを選択します。

   注: この CSH オプションダイアログボックスが表示されるのは、RoboHelp 内からツール／CSH／CSH ヘルプを開くを使用してアプリケーションを起動した場合のみです。

6) 次のいずれかを行います。

   - RoboHelp プロジェクト内の既存のトピックをダイアログボックスにマッピングしたい場合は、「選択したトピックにマップ」を選択し、正しいペインからマッピングのトピックを選択します。
   - 新しいトピックを作成しそれをダイアログボックスにマッピングしたい場合は、「新しいトピックにマップ」を選択します。
   - 現在ダイアログボックスにマッピングされているトピックのコンテンツを編集する場合は、「マップされたトピックを編集」を選択します。
   - ダイアログボックスとヘルプトピック間の現在のマッピング削除する場合は、「マッピングを削除」を選択します。

7) 「OK」をクリックします。

開発者向け情報

このAPIはHTMLヘルプとWinHelpでパラメーターを共有します。カスタムダイアログボックスを作成できます。**注:**「カスタムダイアログボックス」は、要件に基づいて独自のダイアログボックスを作成するためにこれらのAPIを使用するプロジェクトが持つ機能を指します。

関数`RH_ShowHelp`でヘルププロジェクトを呼び出します。この関数のソースコードは、サポートファイルに含まれています。これらのサポートファイルを開発プロジェクトに読み込みます。サポートされている言語には、Visual Basic、C/C++、JavaScript、およびJavaがあります。ファイルは、C:\Program Files\Adobe\Adobe RoboHelp*[version]*\CSH APIにあります。ファイルは次のとおりです。

- CSH API\RoboHelp_CSH.vb（Visual Basic）
- CSH API\RoboHelp_CSH.cpp（C/C++、.Hに依存）
- CSH API\RoboHelp_CSH.h（C/C++、.CPPに依存）
- CSH API\RoboHelp_CSH.js（Webページ - HTML/JavaScript）
- CSH API\RoboHelp_CSH.java（Javaアプリケーション）

RH_ShowHelpには、次の表に示すように4つのパラメーターがあります。

パラメーター	説明
`hParent`	HTMLヘルプのみのダイアログを呼び出すハンドル：このパラメーターは、呼び出しているウィンドウが閉じられるとヘルプダイアログを閉じます。
`a_pszHelpFile`	ヘルプソース（出力タイプに依存） Webhelp/Flashhelpの場合：「プロジェクト開始ページへのパス」 Webhelp Proの場合：「http://<ServerName>/roboapi.asp」 HTMLヘルプの場合：「.CHMファイルへのパス」ダイアログを指定するには、パラメーターの末尾で「>WindowName」を使用します。
`uCommand`	定数： `HH_DISPLAY_INDEX`索引ペインとデフォルトトピックを表示します。 `HH_DISPLAY_SEARCH`検索ペインとデフォルトトピックを表示します。 `HH_DISPLAY_TOC`目次ペインとデフォルトトピックを表示します。 `HH_HELP_CONTEXTdwData`パラメーターのマップIDに関連付けられたトピックを開きます。
`dwData`	マップIDを取得するには、プログラミング言語のマップファイルを書き出します。`uCommand`パラメーターで`HH_HELP_CONTEXT`を使用します。

Visual Basic アプリケーション用のヘルプのプログラミング

この情報は、状況依存ヘルプトピックと Visual Basic アプリケーションの関係を設定する開発者向けに記述されています。

1) Visual Basic でプロジェクトを開きます。

2) マップファイルが RoboHelp で既に作成されている場合は、RoboHelp から Visual Basic にマップファイルを書き出すようにヘルプシステム作成者に依頼します。

3) プロジェクトに RoboHelp_CSH.vb を含めます。関数 `RH_ShowHelp` は、RoboHelp_CSH.vb で定義されています。

4) Microsoft Internet Controls への参照を追加します。

5) ヘルプシステムを起動するには、`uCommand` に `HH_DISPLAY_INDEX`、`HH_DISPLAY_SEARCH`、`HH_DISPLAY_TOC`、`dwData` に「0」を代入して、`RH_ShowHelp` を呼び出します。

6) 出力タイプに応じて、StrPathAndWindow という文字列変数のヘルプソースパラメーターの値を次のように設定します。

   注: 次の例では、出力の種類にかかわらず、API は同じパラメーターを共有しています。変更する点は、ヘルプファイルの場所だけです。

WebHelp/FlashHelp

開始ページへのフルパスおよびダイアログ名を StrPathAndWindow 文字列変数に格納します。この文字列は、「C:\Program Files\MyApplication\WebHelp\MyStartPage.htm>MyWindow」のように表されます。

WebHelp Pro

サーバーへのフルパスおよびウィンドウ名を StrPathAndWindow 文字列変数に格納します。プロジェクト名が必要かどうかを判断するには、Web 管理者に確認します（RoboHelp サーバーの Configuration Manager で「自動マージ」オプションがオフに設定されている場合、プロジェクト名が必要になります）。

この文字列の例は、`http://<servername>/robohelp/rest/search?project=<project-name>&quesn=<search-query>` です。

HTML Help

CHMファイルへのフルパスおよびダイアログ名をStrPathAndWindow文字列変数に格納します。この文字列は、「C:\Program Files\MyApplication\MyHelp.chm>MyWindow」のように表されます。

ヒント: StrPathAndWindow文字列変数をハードコードしないでください。

7) ヘルプトピックを呼び出すには、`StrPathAndWindow` に `a_pszHelpFile` を、`HH_HELP_CONTEXT` に `uCommand` を、`dwData` にトピックのマップ ID をそれぞれ指定して、`RH_ShowHelp` 関数を呼び出します。

RH_ShowHelp の構文

RH_ShowHelp の構文

```
RH_ShowHelp(hParent As Long, a_pszHelpFile As String, uCommand As Long, dwData
as Long) As Boolean
```

例：

数値 1 にマップされているトピックを開くには：

```
Public cshObject as new RoboHelp_CSH .RH_ShowHelp Me.HWND, StrPathAndWindow,
cshObject.HH_HELP_CONTEXT, 1;
```

注意：

- WebHelp Pro プロジェクトの場合、新しい状況依存ヘルプの API は、RoboHelp サーバーのみでサポートされます。
- グローバル RoboHelp_CSH オブジェクトを 1 つ作成し、すべての状況依存ヘルプの呼び出しに使用します。

Visual Basic アプリケーションのエアプレインヘルプ

エアプレインヘルプを使用している場合は、関数を呼び出す前にオフラインヘルプを関連付けます。

構文

```
Public cshObject as new RoboHelp_CSH .RH_ShowHelp Me.HWND, StrPathAndWindow,
cshObject.HH_HELP_CONTEXT, 1;
```

例

```
strOnline = "http:// www.mycompany.com/roboapi.asp?project=myproject"
strOffline = "C:\Program Files\My App\WebHelp\StartPage.htm"
Public cshObject as new RoboHelp_CSH ' Should be global object
cshObject.RH_AssociateOfflineHelp strOnline, strOffline
```

Visual C++アプリケーションのヘルプのプログラミング

この情報は、状況依存ヘルプトピックとC++アプリケーションの関係を設定する開発者向けに記述されています。

1) C++ IDEでプロジェクトを開きます。
2) プロジェクトにRoboHelp_CSH.cppおよびRoboHelp_CSH.hを追加します。
3) wininet.lib および Hmlhelp.lib ライブラリをアプリケーションにリンクします。Hmlhelp.libライブラリは、インストールフォルダーのCSH APIフォルダーにあります。
4) Microsoft Visual C++をMFCと共に使用する場合は、プリコンパイル済みヘッダーを使用しないようにRoboHelp_CSH.cppファイルを設定します。

プリコンパイル済みヘッダーをRoboHelp_CSH.cppで使用しないようにする

Visual Studio 6

1) プロジェクト／設定を選択します。
2) 「Robohelp_Csh.Cpp」を選択します。
3) 「C/C++」タブで、「カテゴリ」を「プリコンパイル済みヘッダー」に変更します。
4) 「プリコンパイル済みヘッダーを使用しない」を選択します。
5) 「OK」をクリックします。

Visual Studio .NET

1) 「Robohelp_Csh.Cpp」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
2) C/C++フォルダーから「プリコンパイル済みヘッダー」を選択します。
3) 「プリコンパイル済みヘッダーを使用しない」を選択します。

Visual C++ アプリケーションからの関数呼び出し

注 : 状況依存マルチスクリーン HTML5、レスポンシブ HTML5、WebHelp、WebHelp Pro、FlashHelp、FlashHelp Pro、または HTML ヘルプトピックを、Visual C++ アプリケーションに関連付けます。

注 : 状況依存ヘルプは他の言語からも呼び出せます。以下に Visual C++ の例を示します。

RH_ShowHelp の構文

```
int RH_ShowHelp(HWND hParent, const char * a_pszHelpFile, unsigned int uCommand,
DWORD dwData)
```

パラメーター	データタイプ	説明
hParent	HWND	HTML ヘルプのみのダイアログボックスを呼び出すハンドル：呼び出しているウィンドウと一緒にヘルプダイアログボックスを閉じます。
a_pszHelpFile	const char *	ヘルプソース：Webhelp/FlashHelp の場合「プロジェクト開始ページへのパス」、Webhelp Pro の場合「http:///[*ServerName*]/roboapi.asp」 * HTML ヘルプの場合「.CHM ファイルへのパス」 ダイアログボックスを指定するには、このパラメーターの終わりに「>WindowName」を使用します。
uCommand	unsigned int	定数： HH_DISPLAY_INDEX 索引ペインとデフォルトトピックを表示します。 HH_DISPLAY_SEARCH 検索ペインとデフォルトトピックを表示します。 HH_DISPLAY_TOC 目次ペインとデフォルトトピックを表示します。 HH_HELP_CONTEXTdwData パラメーターのマップ ID に関連付けられたトピックを開きます。
dwData	DWORD	マップ ID を取得するには、プログラミング言語のマップファイルを書き出します。uCommand パラメーターで HH_HELP_CONTEXT を使用します。

RH_OpenHelpTopicの構文

WebHelpまたはFlashHelpでヘルプトピックを開くRH_OpenHelpTopic関数を呼び出します。

```
int RH_OpenHelpTopic(const TCHAR * a_pszHelpMainPage, const TCHAR *
a_pszTopicRelPath);
```

パラメーター	データタイプ	説明
a_pszHelpMainPage	const char *	Webhelp/FlashHelpのヘルプソース：「プロジェクト開始ページへのパス」ウィンドウを指定するには、このパラメーターの終わりに">WindowName"を追加します。
a_pszTopicRelPath	const char *	メインページに該当するトピックの相対パス。

ヒント: デフォルトトピックまで開くには、uCommand に HH_DISPLAY_INDEX、HH_DISPLAY_TOC、HH_DISPLAY_TOCのいずれかを指定し、かつdwDataに「0」を代入して、ヘルプの呼び出しを行います。WebHelp Proシステムでは、デフォルトナビゲーションボタンのデフォルトのウィンドウ設定はHH_DISPLAY定数をオーバーライドします。

AIRヘルプの状況依存ヘルプ関数の呼び出し

注: AIRヘルプAPIは、JAVA、VC.NET、CS.NET、VB、VB.NETなど多くの言語で提供されています。次の例は、Visual C++を使用してAIRヘルプAPIを起動する方法を示しています。

RH_AIR_ShowHelp関数を呼び出して、AIRヘルプアプリケーションを表示します。

```
int RH_AIR_ShowHelp(const TCHAR * a_pszViewerPath,
const TCHAR * a_pszHelpId,
const TCHAR * a_pszWindowName,
unsigned long ulMapNum,
const TCHAR * a_pszMapId,
const TCHAR * a_pszTopicURL);
```

パラメーター	データタイプ	説明
a_pszViewerPath	const char *	AIRヘルプアプリケーションのインストールディレクトリへのパスです。
a_ pszHelpId	const char *	(オプション) ビューアーに表示されるヘルプコンテンツのIDです。これは.helpcfgファイルで指定されます。

a_pszWindowName	const char *	（オプション）カスタマイズした出力ウィンドウ名です。
ulMapNum	unsigned long	状況依存のマップ番号
a_pszMapId	const char *	（オプション）状況依存のマップ ID です。指定すると、優先されるので、ulMapNum は無視されます。
a_pszTopicURL	const char *	（オプション）表示するトピックの URL です。指定すると、このパラメーターは ulMapNum および a_pszMapId よりも優先されます。

戻り値は、結果が正常である場合には 0 になり、エラーが発生した場合には 0 以外になります。

RH_GetAIRAppPath

`RH_GetAIRAppPath` 関数を呼び出して、AIR ヘルプアプリケーションを取得します。

```
TCHAR * RH_GetAIRAppPath(const TCHAR * a_pszAppId,
const TCHAR * a_pszPublisherId);
```

パラメーター	データタイプ	説明
a_pszAppId	const char *	AIR 生成時に RoboHelp で指定した Help app ID です。
a_pszPublisherId	const char *	AIR アプリケーションの署名に使用するデジタル証明書に該当する ID です。

AIR アプリケーションの戻り値のパスです。ユーザーは関数 free() を呼び出すと、メモリを解放することができます。**注**: データタイプは、Unicode が有効なアプリケーションの場合、`const wchar *` である可能性もあります。

レスポンシブ HTML5、マルチスクリーン HTML5、WebHelp、FlashHelp、または FlashHelp Pro の状況依存関数呼び出し

次の例では、WebHelp/FlashHelp のスタートページへのフルパスおよびダイアログボックス名が、StrPathAndWindow と呼ばれる文字列変数に格納されていると仮定しています。この文字列は、C:\\Program Files\\MyApplication\WebHelp\MyStartPage.htm> MyWindow のように表されます。この文字列はハードコードされません。

注: マップファイルを目的の場所に書き出します。

例：

数値 1 としてマップされているトピックを開くには：

```
RH_ShowHelp(GetSafeHwnd(), strPathAndWindow, HH_HELP_CONTEXT, (DWORD)1);
```

注: エアプレインヘルプを使用している場合は、呼び出しを行う前にオフラインヘルプを関連付けます。

注: マルチスクリーン HTML5 またはレスポンシブ HTML5 を使用している場合は、RH_ShowMultiscreenHelpWithMapId および `RH_ShowMultiscreenHelpWithMapNo` 関数を使用して、HTML5 ヘルプトピックを呼び出すことができます。この場合、それぞれの関数にマップ ID またはマップ番号を使用します。これらの機能に関するソースコードおよびドキュメントは、C:\Program Files\Adobe\Adobe RoboHelp [version]\CSH API\ にあるサポートファイル「RoboHelp_CSH.cpp」に含まれています。これらの関数を使用するには、C または C++ 開発プロジェクトにこのサポートファイルを読み込む必要があります。

WebHelp Pro の状況依存関数の呼び出し

1) 関数を呼び出します。

次の例では、サーバーへのフルパスおよびウィンドウ名が、StrPathAndWindow と呼ばれる文字列変数に格納されていると仮定しています。「自動マージ」オプションがオフに設定されている場合、プロジェクト名が必要になります。特定のキーワードの URL を取得する場合、この文字列の値は `http://<servername>/robohelp/rest/search?project=<project-name>&quesn=<search-query>` とします。

状況依存情報を取得する場合、URL は `http://servername>/robohelp/rest/robowindow?wtype=ctx &context=<id>[&area=<area_of_publishing> &type=project_type>]`

または

`http://servername>/robohelp/rest/robowindow?wtype=prj&window=<windowname>[&area=<area_of_publishing>&type=<project_type>]` です。

注: マップファイルを目的の場所に書き出します。

例：

数値1にマップされているトピックを開くには：

```
RH_ShowHelp(GetSafeHwnd(), strPathAndWindow, HH_HELP_CONTEXT, (DWORD)1);
```

2) ヘルプの呼び出しを実行してテストします。

注: エアプレインヘルプを使用している場合は、呼び出しを行う前にオフラインヘルプを関連付けます。

HTMLヘルプの状況依存関数の呼び出し

1) 関数を呼び出します。

次の例では、.CHMファイルへのフルパスおよびウィンドウ名が、StrPathAndWindowと呼ばれる文字列変数に格納されていると仮定しています。この文字列の値は、C:\Program Files\MyApplication\MyHelp.chm>MyWindowなど、CHMファイルへのパスを示しています。

例：

数値1としてマップされているトピックを開くには：

```
RH_ShowHelp(GetSafeHwnd(), strPathAndWindow, HH_HELP_CONTEXT, (DWORD)1);
```

2) ヘルプの呼び出しを実行してテストします。

注意：

- エアプレインヘルプを使用している場合は、呼び出しを行う前にオフラインヘルプを関連付けます。
- WebHelp Proプロジェクトでは、ヘルプAPIはRoboHelpサーバーまたはRoboEngine 3.0以降のみでサポートされています。

デフォルトのMFCヘルプハンドラーのオーバーライド

このトピックは、MFCベースのアプリケーションを作成するVisual C++アプリケーション開発者を対象としています。

- RoboHelp_CSH.hヘッダーファイルにあるとおり、wininet.libおよびHmlhelp.libライブラリはアプリケーションにリンクされている必要があります。Hmlhelp.libライブラリは、RoboHelpのインストールフォルダーのCSH APIフォルダーにあります。

- プロジェクトのRoboHelp_CSH.cppファイルを含みます。
- デフォルトのMFCヘルプハンドラーの代わりにRoboHelp APIを使用するには、メインフレームクラスのWinHelp関数をオーバーライドします。デフォルトでは、Visual StudioはこのクラスのCMainFrameを呼び出し、Visual Studioのクラスウィザードを使用して関数のオーバーライドを作成することができます。
- 関数をオーバーライドし、RoboHelp_CSH.hをインクルードすると、関数の内容が次のコードに置換されます（ヘルプファイルへの適切なパスを設定します。例は、RoboHelpサーバーベースのヘルプを示しています）。

  注： プロジェクトに従ってサーバーベースのヘルプへのパスを修正します。この例では、パスはRoboHelpサーバーのヘルプに適用されます。APIドキュメントを参照して、各コマンドのパラメーター値を決定し、状況依存ヘルプの呼び出し用のセカンダリウィンドウを指定します。

```
 CWaitCursor wait;
if (IsFrameWnd()) {
// CFrameWnd windows should be allowed to exit help mode first
CFrameWnd* pFrameWnd = (CFrameWnd*)this;
pFrameWnd->ExitHelpMode();
}
// cancel any tracking modes
SendMessage(WM_CANCELMODE);
SendMessageToDescendants(WM_CANCELMODE, 0, 0, TRUE, TRUE);
// must use top level parent (for the case where m_hWnd is in DLL)
CWnd* pWnd = GetTopLevelParent();
pWnd->SendMessage(WM_CANCELMODE);
pWnd->SendMessageToDescendants(WM_CANCELMODE, 0, 0, TRUE, TRUE);
// attempt to cancel capture
HWND hWndCapture = ::GetCapture();
if (hWndCapture != NULL)
::SendMessage(hWndCapture, WM_CANCELMODE, 0, 0);
// Set the path to server-based help
CString csOnlineHelpPath = _T("http://myserver/RoboAPI.asp");
// Translate the nCmd from WinHelp commands to RoboHelp commands
unsigned int nRHCmd;
switch (nCmd) {
case HELP_CONTEXT: nRHCmd = HH_HELP_CONTEXT; break;
case HELP_CONTENTS: nRHCmd = HH_DISPLAY_TOC; break;
case HELP_CONTEXTMENU: nRHCmd = HH_TP_HELP_CONTEXTMENU; break;
case HELP_WM_HELP: nRHCmd = HH_TP_HELP_WM_HELP; break;
case HELP_FINDER: nRHCmd = HH_HELP_FINDER; break;
default: nRHCmd = nCmd; break;
}
// finally, run the RoboHelp Help engine
if (!RH_ShowHelp(pWnd->m_hWnd, csOnlineHelpPath, nCmd, dwData))
AfxMessageBox(AFX_IDP_FAILED_TO_LAUNCH_HELP);
```

Visual Studio .NET を使用する Visual C++ 開発者の場合

- RoboHelp_CSH.h ヘッダーファイルにあるとおり、wininet.lib および htmlhelp.lib ライブラリはアプリケーションにリンクされている必要があります。
- プロジェクトの RoboHelp_CSH.cpp ファイルを含みます。
- デフォルトの MFC ヘルプハンドラーの代わりに RoboHelp API を使用するには、メインフレームクラスの HtmlHelp 関数をオーバーライドします。デフォルトでは、Visual Studio はこのクラスの CMainFrame を呼び出し、Visual Studio のクラスウィザードを使用して関数のオーバーライドを作成することができます。
- 関数をオーバーライドし、RoboHelp_CSH.h を含めた後、関数の内容を次のコードに置き換えます。（それに応じてヘルプファイルへのパスを設定します。例は、サーバーベースのヘルプを示しています）。

```
 CWaitCursor wait;
// Get the path to the Help system
CWinApp* pApp = AfxGetApp();
ASSERT_VALID(pApp);
// Set the path to server-based help
CString csOnlineHelpPath = _T("http://RoboHelp Server:port/robohelp/server");
PrepareForHelp();
// must use top level parent (for the case where m_hWnd is in DLL)
CWnd* pWnd = GetTopLevelParent();
// finally, run the RoboHelp Help engine
if (!RH_ShowHelp(pWnd->m_hWnd, csOnlineHelpPath, nCmd, dwData))
AfxMessageBox(AFX_IDP_FAILED_TO_LAUNCH_HELP);
```

注 : WebHelp Pro プロジェクトでは、新しい状況依存ヘルプ API は RoboHelp サーバーまたは RoboEngine 3.0 以降のみでサポートされています。

C++アプリケーションのエアプレインヘルプ

構文

```
 void RH_AssociateOfflineHelp(const char * a_pszPrimaryHelpSource, const char *
a_pszBackupHelpSource)
```

例

```
 m_sOnline = "http://www.mycompany.com/roboapi.asp?project=myproject";
m_sOffline = "C:\Program Files\My App\WebHelp\StartPage.htm";
RH_AssociateOfflineHelp(m_sOnline, m_sOffline);
```

注: オンラインヘルプとオフラインヘルプで異なるウィンドウ名を指定するには、ウィンドウをRH_AssociateOfflineHelpにマップします。Visual Basic用のこの例に従います。

```
 strOnline =
"http://www.mycompany.com/roboapi.asp?project=myproject>RemoteWindow1"
strOffline = "C:\Program Files\My App\MyHelp.chm>LocalWindow1"
Public cshObject as new RoboHelp_CSH ' Should be global object
cshObject. RH_AssociateOfflineHelp strOnline, strOffline
strOnline =
"http://www.mycompany.com/roboapi.asp?project=myproject>RemoteWindow2"
strOffline = "C:\Program Files\My App\MyHelp.chm>LocalWindow2"
cshObject. RH_AssociateOfflineHelp strOnline, strOffline
```

注: WebHelp Pro状況依存ヘルプAPIはRoboHelpサーバーまたはRoboEngine 3.0以降のみでサポートされています。

Javaアプリケーションのヘルプのプログラミング

この情報は、状況依存ヘルプトピックとJavaアプリケーションの関係を設定する開発者向けに記述されています。

1) Java IDE（統合開発環境）でプロジェクトを開きます。

2) RoboHelp_csh.javaをプロジェクトに追加します。

3) 必要なパラメーターを使用してRoboHelp_csh.javaで定義されている関数を呼び出します。

注: エアプレインヘルプはJavaAPIではサポートされません。

Java アプリケーションからの関数呼び出し

次の例では、出力の種類にかかわらず、API は同じパラメーターを共有しています。変更する点は、ヘルプファイルの場所だけです。

```
public static boolean RH_ShowHelp(int hParent, String a_pszHelpFile, int
uCommand, int dwData)
```

パラメーター	データタイプ	説明
hParent	int	将来のバージョン用に予約されています。0 を使用します。
a_pszHelpFile	文字列	ヘルプソース：Webhelp/FlashHelp の場合「<プロジェクト開始ページへのパス>」、Webhelp Pro の場合：「http://*[ServerName]*/roboapi.asp」 *オプション：このパラメーターの最後に「>WindowName」を使用してダイアログを指定します。
uCommand	int	定数： HH_DISPLAY_INDEX 索引ペインとデフォルトトピックを表示します。 HH_DISPLAY_SEARCH 検索ペインとデフォルトトピックを表示します。 HH_DISPLAY_TOC 目次ペインとデフォルトトピックを表示します。 HH_HELP_CONTEXTdwData パラメーターのマップ ID に関連付けられたトピックを開きます。
dwData	int	トピックのマップ ID（RoboHelp の「マップ ID を編集」で定義されます）。マップ ID を取得するには、使用する言語のマップファイルを書き出します（uCommand パラメーターで HH_HELP_CONTEXT を使用します）。

ヒント : ヘルプシステムを起動する（デフォルトトピックまで開く）には、uCommand に HH_DISPLAY_INDEX、HH_DISPLAY_TOC、HH_DISPLAY_TOC のいずれかを指定し、かつ dwData に「0」を代入して、ヘルプの呼び出しを行います。WebHelp Pro システムでは、デフォルトナビゲーションボタンに対するデフォルトウィンドウの設定が定数 HH_DISPLAY をオーバーライドします（ただし、ヘルプシステムは依然としてデフォルトのトピックを開きます）。

マルチスクリーン HTML5、レスポンシブ HTML5、WebHelp、FlashHelp、または FlashHelp Pro の状況依存関数呼び出し

1) 関数を呼び出します。

```
RoboHelp_CSH.RH_ShowHelp(0, StrPathAndWindow, RoboHelp_csh.HH_HELP_CONTEXT, 1);
```

ここで、WebHelp/FlashHelp のスタートページへのフルパスおよびウィンドウ名（オプション）は、StrPathAndWindow に格納されます（この文字列はハードコードしないでください）。**注**: ここで「Do not hard-code」は、様々なヘルプファイルを開いたり、コードを再利用するために、ユーザーからの入力として解釈される変数である必要があることを意味します。

2) アプリケーションを実行し、ヘルプの呼び出しをテストします。

注: マルチスクリーン HTML5 またはレスポンシブ HTML5 を使用している場合は、RH_ShowMultiscreenHelpWithMapId および `RH_ShowMultiscreenHelpWithMapNo` 関数を使用して、HTML5 ヘルプトピックを呼び出すことができます。この場合、それぞれの関数にマップ ID またはマップ番号を使用します。これらの機能に関するソースコードおよびドキュメントは、C:\Program Files\Adobe\Adobe RoboHelp [version]\CSH API\ にあるサポートファイル「RoboHelp_CSH.java」に含まれています。これらの関数を使用するには、Java 開発プロジェクトにこのサポートファイルを読み込む必要があります。

WebHelp Pro の状況依存関数の呼び出し

1) 関数を呼び出します。

```
RoboHelp_CSH.RH_ShowHelp(0, StrPathAndWindow, RoboHelp_csh.HH_HELP_CONTEXT, 1);
```

ここで、RoboHelp サーバーへのフルパスおよびダイアログボックス名（オプション）は、StrPathAndWindow に格納されます（RoboEngine の Configuration Manager で「自動マージ」オプションがオフに設定されている場合、プロジェクト名が必要となります）。この値の例は、「http://RoboHelp Server:port/robohelp/server」または「http://RoboHelp Server:port/robohelp/server?project=MyProject>MyWindow」です。

数値 1 としてマップされているトピックを開くには：

```
RoboHelp_CSH.RH_ShowHelp(0, StrPathAndWindow, RoboHelp_csh.HH_HELP_CONTEXT, 1);
```

2) アプリケーションを実行し、ヘルプの呼び出しをテストします。

Webページのヘルプのプログラミング

この情報は、状況依存ヘルプのトピックとWebページの関係を設定する開発者向けに記述されています。

1) ヘルプ作成者と話し合い、次の事項を決定します。
   - マップ番号を提供する担当者。
   - プロジェクトで状況依存ヘルプを使用するかどうか。
   - ヘルプシステムの保存場所（ローカルまたはサーバー上）。
2) Webページを開きます。
3) ページをRoboHelp_csh.jsにリンクさせます。
4) Webサイトからヘルプを呼び出す場合は、RoboHelp_csh.jsに含まれている関数を呼び出します。

Webページのヘルプのプログラミング（WebHelp/Pro）

ヒント: 状況依存ヘルプサポートファイルを使用します。これらのファイルを使用して、アプリケーション開発者は組み込み機能を呼び出すことができます。

以下の例は、2次ダイアログを表示するJavaScript関数を宣言する1つの方法を示しています。`ShowHelp`関数は、`strHelpOptions`変数で定義された属性を持つ特定のトピックを、カスタムウィンドウに表示します。

```
 var strHelpOptions = "location=no";
strHelpOptions += ",toolbar=no";
strHelpOptions += ",menubar=yes";
strHelpOptions += ",status=yes";
strHelpOptions += ",scrollbars=yes";
strHelpOptions += ",resizable=yes";
strHelpOptions += ",top=0";
strHelpOptions += ",left=0";
strHelpOptions += ",width=400";
strHelpOptions += ",height=400";
function ShowHelp(strUrl)
{
window.open(strUrl, "Help", strHelpOptions);
}
```

関数 `ShowHelp` を使用するには、HTML ファイル中の </HEAD> タグと <BODY> タグの間に、上記のスクリプトを挿入します。ユーザーがヘルプを表示できる場所に次のようなアンカータグを含めます。

ヘルプ!

このタグは、Help! というテキストを使用してハイパーリンクを作成します。エンドユーザーがハイパーリンク上をクリックすると、2 次ブラウザーで widget.htm が開かれます。

Web ページからの関数呼び出し

注: この情報は、状況依存マルチスクリーン HTML5、レスポンシブ HTML5、WebHelp、WebHelp Pro、FlashHelp または FlashHelp Pro トピックを Web ページに関連付ける開発者を対象としています。

次の例では、出力の種類にかかわらず、API は同じパラメーターを共有しています。変更する点は、ヘルプファイルの場所だけです。

注: マルチスクリーン HTML5 またはレスポンシブ HTML5 を使用している場合は、RH_ShowMultiscreenHelpWithMapId および RH_ShowMultiscreenHelpWithMapNo 関数を使用して、HTML5 ヘルプトピックを呼び出すことができます。この場合、それぞれの関数にマップ ID またはマップ番号を使用します。これらの機能に関するソースコードおよびドキュメントは、C:\Program Files\Adobe\Adobe RoboHelp [version]\CSH API\ にあるサポートファイル「RoboHelp_CSH.js」に含まれています。これらの関数を使用するには、HTML や JavaScript の開発プロジェクトにこのサポートファイルを読み込む必要があります。

RH_ShowHelpの構文

```
function RH_ShowHelp(hParent, a_pszHelpFile, uCommand, dwData)
```

パラメーター	データタイプ	説明
hParent	var	APIの次のバージョンで対応します。"0"を使用します。
a_pszHelpFile	var	ヘルプソース：WebHelpの場合「<プロジェクト開始ページへのパス>」（ローカルまたはサーバー上とすることができます）、WebHelp Proの場合：「http://*[server name]*/roboapi.asp」 *オプション：ウィンドウを指定するには、このパラメーターの終わりに「>WindowName」を使用します。
uCommand	var	定数： HH_DISPLAY_INDEX索引ペインとデフォルトトピックを表示します。 HH_DISPLAY_SEARCH検索ペインとデフォルトトピックを表示します。 HH_DISPLAY_TOC目次ペインとデフォルトトピックを表示します。 HH_HELP_CONTEXTdwDataパラメーターのマップIDに関連付けられたトピックを開きます。
dwData	var	表示されるトピックのマップID。マップIDを取得するために、ヘルプ作成者は、uCommandパラメーターでHH_HELP_CONTEXTを使用します。

RH_OpenHelpTopicの構文

WebHelpまたはFlashHelpトピックを開く関数「RH_OpenHelpTopic」を呼び出します。

```
function RH_OpenHelpTopic(a_pszHelpMainPage, a_pszRelTopicUrl)
```

パラメーター	データタイプ	説明
a_pszHelpMainPage	var	WebHelp/FlashHelpのヘルプソース：「プロジェクト開始ページへのパス」ウィンドウを指定するには、このパラメーターの終わりに">WindowName"を追加します。
a_pszRelTopicUrl	var	メインページに該当するトピックの相対パス。

ヒント: ヘルプシステム全体を起動する（デフォルトトピックまで開く）には、uCommandにHH_DISPLAY_INDEX、HH_DISPLAY_TOC、HH_DISPLAY_TOCのいずれかを指定し、かつdwDataに「0」を代入して、ヘルプの呼び出しを行います。WebHelp Proシステムでは、デフォルトナビゲーションボタンのデフォルトのウィンドウ設定はHH_DISPLAY定数をオーバーライドします。

WebHelp Pro の状況依存関数の呼び出し

1) サーバーから状況依存情報を取得するには、次の API を呼び出します。

   次の例では、RoboHelp サーバーへのフルパスおよびウィンドウ名（オプション）が、StrPathAndWindow と呼ばれる文字列変数に格納されていると仮定しています。RoboEngine の Configuration Manager で「自動マージ」オプションがオフに設定されている場合、プロジェクト名が必要となります。この文字列の値の例は、「http://RoboHelp Server:port/robohelp/server」または「http://RoboHelp Server:port/robohelp/server?project=MyProject>MyWindow」です。

   注: どのウィンドウを呼び出すかをテクニカルライターに問い合わせます。また、テクニカルライターがマップファイルを作成している場合は、マップファイルを目的の場所に書き出すよう依頼します。

   例：

   数値 1 としてマップされているトピックを開くには：

```
<p>Click for Help (map number 1)</p>
```

2) アプリケーションを実行し、ヘルプの呼び出しをテストします。

   注: WebHelp Pro プロジェクトの場合、新しい状況依存ヘルプの API は、RoboEngine 3.0 以降でのみサポートされます。

WebHelp または FlashHelp の状況依存関数の呼び出し

1) サーバーから状況依存情報を取得するには、次の API を呼び出します。

   ```
   http://<servername>/robohelp/rest/robowindow?wtype=ctx&context
   =<MAP ID>
   ```

   例：

   数値 1 としてマップされているトピックを開くには、<MAP ID> を 1 に変更します。

2) アプリケーションを実行し、ヘルプの呼び出しをテストします。

.NETのためのヘルプのプログラミング

.NETの基礎

すべての形式のRobHelp Server with .NET開発をサポートします。

- Webサービス、WebForm、およびWinFormを作成します。
- .NET Frameworkの総合的なサポートを提供します。
- 自己完結型.NET Webサービスとして動作します。
- Visual C .NET、C# .NET、Visual Basic .NET、およびASP .NETでのヘルプ開発をサポートするAPIを提供します。
- 既存の状況依存ヘルプで.NETの要件をサポートできるようにします。

RoboHelp Server with .NETは、デスクトップ、イントラネット、またはインターネット用のアプリケーションの作成、およびこれらのアプリケーション開発のサポートを目的として設計されています。

.NET環境でサーバーベースのヘルプを作成し、ヘルプシステムでのエンドユーザーの操作をリアルタイムに解析します。Visual C .NET、ASP .NET、Visual Basic .NET、またはC# .NETと共に使用してヘルプシステムを統合します。

.NET用の状況依存ヘルプサポートファイル

状況依存ヘルプのプログラミング用のサポートファイルを使用すると、コードを記述する代わりに、コードを読み込んで変数を入力できます。.NET用の状況依存ヘルプAPIは、Visual C/C++ .NET、ASP .NET、Visual Basic .NET、およびC# .NETをサポートします。

このAPIはHTMLヘルプとWinHelpでパラメーターを共有します。カスタムウィンドウがサポートされています。状況依存ヘルプは、修正を行わなくても動作します。

次の位置で各フォルダーから対応する言語のファイルを読み込みます。

```
C:\Program Files\Adobe\Adobe RoboHelp [version]\CSH API
```

C# .NET

C# .NET はオブジェクト指向言語で、C および C++ を使用していたプログラマーは、既存のアプリケーションとの統合を実現しながら、新しい .NET 環境に移行することができます。コンポーネントを XML に変換し、任意のオペレーティングシステム上で任意の言語を使用して実行することができます。

ASP .NET

ASP .NET は、Web アプリケーションおよび XML Web サービスを構築するための .NET Framework の一部です。ASP .NET ページでは、コンパイル済みの、イベントドリブンなプログラミングモデルを使用して、HTML、WML、XML などのマークアップを生成します。これによって、アプリケーションロジックとユーザーインターフェイスを分離することができます。Visual Basic .NET や C# .NET などの任意の .NET 言語を使用して、サーバー側ロジックを含む ASP .NET ページや ASP .NET XML Web サービスファイルを作成することができます。

ヘルプの呼び出し

状況依存ヘルプ関数の呼び出しでは、`RH_Showhelp` を呼び出すたびにオンラインヘルプを指定していることを確認します。リモートヘルプを呼び出すと、オンラインバージョンのヘルプシステムが表示されます。インターネットへの接続が不可能な場合は、オフラインヘルプが表示されます。

C# .NET から WebHelp または FlashHelp の状況依存ヘルプを呼び出します。

1) プロジェクトに RoboHelp_CSH.cs ファイルを含めます。

2) 関数 `RH_ShowLocalHelp (hParent, strtHelpURL, strWndName, nCommand, nData)` を呼び出します。

パラメーター	データタイプ	説明
`hParent`	オブジェクト	親ウィンドウのハンドル。
`strHelpURL`	文字列	WebHelp のヘルプソース。プロジェクト開始ページへのパスを指定します。
`strWndName`	文字列	開くウィンドウの名前。
`nCommand`	Int	クラス定数。 **`OptionConstants.CSH_DISPLAY_CONTEXT`** nData パラメーターでマップ ID に関連付けられたトピックを開きます。 **`OptionConstants.CSH_DISPLAY_TOC`** コンテンツペインとデフォルトのトピックを表示します。 **`OptionConstants.CSH_DISPLAY_INDEX`** インデックスペインとデフォルトのトピックを表示します。 **`OptionConstants.CSH_DISPLAY_SEARCH`** 検索ペインとデフォルトのトピックを表示します。
`nData`	Int	トピックのマップ ID を表示します。マップ ID を取得するには、nCommand で OptionConstants.CSH_DISPLAY_CONTEXT を使用して、プログラミング言語のマップファイルを書き出します。

C# .NET から WebHelp Pro または FlashHelp Pro の状況依存ヘルプを呼び出します。

1) VisualStudio を開きます。
2) 次のいずれかを行います。
   - ファイル／新規／プロジェクトを選択します。
   - C# .NET プロジェクトを開きます。
3) Help という名前のボタンを追加します。
4) C:\Program Files\[RoboHelp Install Folder]\CSH API\CS.NET にある状況依存ヘルプサポートファイルを参照します。
5) RoboHelp_CSH.cs ファイルをコピーします。
6) これらのファイルを C# .NET プロジェクトにペーストします。
7) 参照フォルダーを右クリックします。「参照の追加」を選択します。
8) .Net ／ System.Web.Services.Dll を選択します。
9) 「OK」をクリックします。
10) 参照フォルダーを右クリックします。「参照の追加」を選択します。
11) 以下を選択します。

```
c:\windows\system32\msxml2.dll
```

12) 「OK」を選択します。
13) 「Help」ボタンをダブルクリックします。
14) C# .NET の状況依存ヘルプのサンプルコードをコピーし、コードにペーストします。
15) RoboHelpAPI を使用してをドキュメントの最上部に追加します。
16) プロジェクトをテスト、コンパイル、および実行するには、ヘルプボタンを選択します。

ASP .NET から WebHelp または FlashHelp の状況依存ヘルプを呼び出します。

1) プロジェクトに RoboHelp_CSH.cs ファイルを含めます。

2) 関数 `RH_ShowLocalHelp (hParent, strtHelpURL, strWndName, nCommand, nData)` を呼び出します。

パラメーター	データタイプ	説明
`hParent`	オブジェクト	親ウィンドウのハンドル。
`strHelpURL`	文字列	WebHelp のヘルプソース。プロジェクト開始ページへのパスを指定します。
`strWndName`	文字列	開くウィンドウの名前。
`nCommand`	Int	クラス定数。 **`OptionConstants.CSH_DISPLAY_CONTEXT`** nData パラメーターでマップ ID に関連付けられたトピックを開きます。 **`OptionConstants.CSH_DISPLAY_TOC`** コンテンツペインとデフォルトのトピックを表示します。 **`OptionConstants.CSH_DISPLAY_INDEX`** インデックスペインとデフォルトのトピックを表示します。 **`OptionConstants.CSH_DISPLAY_SEARCH`** 検索ペインとデフォルトのトピックを表示します。
`nData`	Int	トピックのマップ ID を表示します。マップ ID を取得するには、nCommand で OptionConstants.CSH_DISPLAY_CONTEXT を使用して、プログラミング言語のマップファイルを書き出します。

ASP .NETからWebHelp ProまたはFlashHelp Proの状況依存ヘルプを呼び出します。

1) VisualStudio .NETを開きます。
2) 次のいずれかを行います。
   - ファイル／新規／プロジェクトを選択します。
   - ASP.NETプロジェクトを開きます。
3) C:\Program Files\[RoboHelp Install Folder]\CSH API\ASP.NETの状況依存ヘルプサポートファイルに移動します。
4) RoboHelp_CSH.csファイルをコピーします。
5) サポートファイルをASP.NETプロジェクトにペーストします。
6) 参照フォルダーを右クリックします。「参照の追加」を選択します。
7) .Net／System.Web.Services.Dllを選択します。
8) 「OK」をクリックします。
9) アプリケーションにボタンを追加します。
10) ボタンをダブルクリックします。
11) ASP.NET状況依存ヘルプのサンプルコードをコピーします。コード内にペーストします。
12) コード内に`using RoboHelp API`を追加します。
13) テストするために、プロジェクトをコンパイルして実行します。「Help」ボタンを選択します。

Visual Basic .NET から WebHelp または FlashHelp の状況依存ヘルプを呼び出します。

1) プロジェクトに RoboHelp_CSH.vb ファイルを含めます。

2) 関数 `RH_ShowLocalHelp (hParent, strtHelpURL, strWndName, nCommand, nData)` を呼び出します。

パラメーター	データタイプ	説明
`hParent`	オブジェクト	親ウィンドウのハンドル。
`strHelpURL`	文字列	WebHelp のヘルプソース。プロジェクト開始ページへのパスを指定します。
`strWndName`	文字列	開くウィンドウの名前。
`nCommand`	Int	クラス定数。 **`CSH_DISPLAY_CONTEXT`** nData パラメーターでマップ ID に関連付けられたトピックを開きます。 **`CSH_DISPLAY_TOC`** コンテンツペインとデフォルトのトピックを表示します。 **`CSH_DISPLAY_INDEX`** インデックスペインとデフォルトのトピックを表示します。 **`CSH_DISPLAY_SEARCH`** 検索ペインとデフォルトのトピックを表示します。
`nData`	Int	トピックのマップ ID を表示します。マップ ID を取得するには、nCommand で CSH_DISPLAY_CONTEXT を使用して、プログラミング言語のマップファイルを書き出します。

Visual Basic .NETからWebHelp ProまたはFlashHelp Proの状況依存ヘルプを呼び出します。

1) Visual Studio .NETを開きます。
2) 次のいずれかを行います。
   - ファイル／新規／プロジェクトを選択します。
   - Visual Basic .NETプロジェクトを開きます。
3) RoboHelp_CSH.vbファイルをコピーします。
4) これらのサポートファイルをASP .NETプロジェクトにペーストします。
5) 参照フォルダーを右クリックします。「参照の追加」を選択します。
6) .Net／System.Web.Services.Dllを選択します。
7) 「OK」をクリックします。
8) 「参照」を右クリックします。「参照の追加」を選択します。
9) 次のファイルを選択します。

```
msxml2.dll
```

10) 「OK」を選択します。
11) アプリケーションにボタンを追加します。
12) ボタンをダブルクリックします。
13) Visual Basic .NETの状況依存ヘルプのサンプルコードをコピーし、コードにペーストします。
14) テストするために、プロジェクトをコンパイルして実行します。「Help」ボタンを選択します。

RoboHelp Server with .NETのサンプルの検索

1) アプリケーションのプログラミング言語のサンプルを選択します。

名前	言語
RoboHelp Server CSH.NET VCサンプル	Visual C++ .NET
RoboHelp CSH.NET VBサンプル	Visual Basic .NET
RoboHelp CSH.NET C#サンプル	C# .NET

URL を指定します（WebHelp Pro）

1) コードサンプルで、次の名前の文字列を検出します。

```
m_strServer
```

2) サーバーアドレスを m_strServer に割り当てます。

```
http://server.com/robohelp/rest
```

3) プロジェクト名を指定します。

```
m_strProject = P1
```

4) 変数 `m_strParamValue` にウィンドウ名を指定します。

注 : STRPRIMARY はプライマリヘルプシステムを指定し、STRBACKUP はローカルヘルプを指定します。Visual Basic .NET、Visual C++ .NET、C# .NET の場合、アプリケーションはクライアント上にあり、オンラインとオフラインの両方のヘルプシステムを使用できます。ASP .NET の場合、すべての情報は Web サーバー上にあります。WebHelp Pro オンラインヘルプシステムをプライマリヘルプシステムとして指定し、WebHelp オンラインヘルプシステムをバックアップとして指定します。

RoboHelp Server with .NET で提供される Web サービス

RoboHelp サーバーには、REST Web サービスを使用した次の 2 つのサービスがあります。

Robowindow

サーバーに要求してウィンドウプロパティと状況依存ヘルプの URL を取得します。コードの詳細を参照してください。

検索

文の検索を実行し、結果を返します。コードの詳細を参照してください。

サポートファイルを使用しない手順

WebHelp Pro

WebHelp Proは、RoboHelpサーバーベースで、標準的なヘルプ機能（目次、索引、検索など）をサポートするコンパイルされていない出力タイプです。この出力を表示するためにブラウザーは必要ありません。また、WebHelp Proには、エンドユーザーによるシステムの使用方法に関するフィードバックレポートおよびRoboHelpサーバーでのみ利用可能なその他の機能が用意されています。WebHelp Proプロジェクトの場合は、状況依存ヘルプにRoboHelpサーバーが必要です。

コンテンツの表示

コンテンツを表示するためにASPファイルをインクルードします。デフォルトのハイパーリンクはhttp://<RoboHelp Server>/Roboapi.Aspです。このASPファイルにパラメーターを渡すことができます。

- project=Project_Name
- context=MapNumber
- url=URL

例：

- 次のURLは、サーバーからのデフォルトコンテンツを表示します：http://<Robohelp Server>/Roboapi.Asp
- このURLには（他のプロジェクトとマージされた）project_nameプロジェクトが表示されます：http://<RoboHelp Server>/robohelp/rest/search?project=<project-name>&quesn=<search-query>
- このURLにはマップ番号101のコンテンツが表示されます：http://<RoboHelp Server>/ /robohelp/rest/robowindow?wtype=ctx&context=<id>&project=<project name>

高度なウィンドウコントロール

ブラウザーからWebHelp Proの状況依存ヘルプを開く場合は、状況依存ヘルプAPIおよびサポートファイルを使用します。

WebHelp

Visual Basicアプリケーション用の状況依存ヘルプ

この情報を使用して、状況依存WebHelpまたはWebHelp Proトピックを Visual Basic アプリケーションに接続します。

次のサンプルコードでは Showhelp という関数を使用しています。この関数は、ブラウザーの種類に関係なく、ローカルまたはリモートのトピックを開きます。

ShowHelp 関数には2つのパラメーターがあります。strTopic はURLまたはローカルファイル名を値として取得し、bIsLocal はブール値を取得します。最初のパラメーターがローカルファイル名 (TRUE) であるか、リモートURL(FALSE) であるかが示されます。ファイルがローカルにある場合、ShowHelp は、アプリケーションフォルダーの Help サブフォルダー内の検索をブラウザーに指示します。

```
 Public Function ShowHelp(strTopic As String, _
bIsLocal As Boolean) As Boolean
Dim strDir As String
If bIsLocal Then
' Get registry entry pointing to Help
strDir = App.Path + "\Help\"
End If
' Launch topic
Dim hinst As Long
hinst = ShellExecute(Me.hwnd, vbNullString, _
  strTopic, vbNullString, _
  strDir, SW_SHOWNORMAL)
' Handle less than 32 indicates failure
ShowHelp = hinst > 32
End Function
```

ShellExecute を呼び出すには、関数を宣言します。例：

```
 Private Declare Function ShellExecute Lib _
"shell32.dll" Alias "ShellExecuteA" _
(ByVal hwnd As Long, _
ByVal lpOperation As String, _
ByVal lpFile As String, _
ByVal lpParameters As String, _
ByVal lpDirectory As String, _
ByVal nShowCmd As Long) As Long
```

関数ShowHelpは、明示的なファイル名またはURLを必要とします。しかし、状況依存ヘルプの場合、アプリケーションのコードを記述する際、明確なトピック名よりもコンテキストIDを使用する方がよいでしょう。そのためには次のサンプル関数ShowHelpContextを使用します。この関数は、整数のコンテキストIDをトピック名文字列にマップし、ShowHelpを呼び出してトピックを起動します。

```
 Public Function ShowHelpContext(nContextId As Integer) As Boolean
Dim strTopic As String
Dim bIsLocal As Boolean
bIsLocal = True
Select Case nContextId
Case HH_GADGET_DIALOG
strTopic = "gadget.htm"
Case HH_WHATSIT_DIALOG
strTopic = "whatsit.htm"
Case HH_WIDGET_DIALOG
strTopic = "widget.htm"
Case HH_TECH_SUPPORT:
strTopic = "http://www.mycompany.com"
bIsLocal = False
Case Else
strTopic = "unknown-context.htm"
End Select
ShowHelpContext = ShowHelp(strTopic, bIsLocal)
End Function
```

ShowHelpContextを使用すると、トピック名が変更された場合1つの関数を変更するだけで済むので、状況依存ヘルプのメンテナンスがより簡単になります。コンテキストID（例えばHH_GADGET_DIALOG）は、状況依存WebHelpまたはWebHelp Proを使用するプログラムモジュールの間で共有できるように、定数として宣言します。

```
 Const HH_GADGET_DIALOG As Integer = 1
Const HH_WHATSIT_DIALOG As Integer = 2
Const HH_WIDGET_DIALOG As Integer = 3
Const HH_TECH_SUPPORT As Integer = 4
```

状況依存 WebHelp および WebHelp Pro トピックを Visual C++ アプリケーションに接続します。

> **注:** この情報は、アプリケーション開発者向けに記述されています。この情報を基にして、状況依存 WebHelp または WebHelp Pro トピックと Visual C++ アプリケーションの関係を設定してください。

次に示したサンプルコードで使用している ShowHelp という関数は、ブラウザーの種類にかかわらずローカルまたはリモートのトピックを開きます。

ShowHelp 関数には 2 つのパラメーターがあります。szTopic は URL またはローカルファイル名を値として取得し、bIsLocal はブール値を取得します。最初のパラメーターがローカルファイル名 (TRUE) であるか、リモート URL(FALSE) であるかが示されます。ファイルがローカルにある場合、ShowHelp は、アプリケーションフォルダーの Help サブフォルダー内の検索をブラウザーに指示します。

```
 BOOL ShowHelp(LPCTSTR szTopic, BOOL bIsLocal)
{
TCHAR szDir[MAX_PATH]= "";
if (bIsLocal)
{
// Get directory of application
DWORD dw = GetModuleFileName(AfxGetInstanceHandle(), szDir, MAX_PATH);
TCHAR* pchEnd = _tcsrchr(szDir, '\\') + 1;
ASSERT_POINTER(pchEnd, TCHAR);
*pchEnd = '\0';
// Append subfolder name
_tcscat(szDir, _T("Help"));
}
// Open topic HINSTANCE
hinst = ShellExecute(NULL, //no parent hwnd
NULL, // open
szTopic, // topic file or URL
NULL, // no parameters
szDir, // folder containing file
SW_SHOWNORMAL); // yes, show it
// handle less than 32 indicates failure
return hinst > (HINSTANCE)32;
}
```

ShowHelpは、明示的なファイル名またはURLを必要とします。しかし、状況依存ヘルプの場合、アプリケーションのコードを記述する際、明確なトピック名よりもコンテキストIDを使用する方がよいでしょう。そのためには次のサンプル関数ShowHelpContextを使用します。この関数は、整数のコンテキストIDをトピック名文字列にマップし、ShowHelpを呼び出してトピックを開きます。

```
 BOOL ShowHelpContext(int nContextId)
{
CString strTopic;
BOOL bIsLocal = TRUE;
switch (nContextId)
{
case HH_GADGET_DIALOG:
strTopic = _T("gadget.htm");
break;
case HH_WHATSIT_DIALOG:
strTopic = _T("whatsit.htm");
break;
case HH_WIDGET_DIALOG:
strTopic = _T("widget.htm");
break;
case HH_TECH_SUPPORT:
strTopic = _T("http://www.mycompany.com");
bIsLocal = FALSE;
break;
default:
strTopic = _T("unknown-context.htm");
break;
}
return ShowHelp(strTopic, bIsLocal);
}
```

ShowHelpContextを使用すると、トピック名が変更された場合1つの関数を変更するだけで済むので、状況依存ヘルプのメンテナンスがより簡単になります。コンテキストID（例えばHH_GADGET_DIALOG）は、状況依存WebHelpまたはWebHelp Proを使用するプログラムモジュールの間で共有できるように、ヘッダーファイルで宣言します。このファイルは、ShowHelpとShowHelpContextのプロトタイプが定義されているのと同じファイルでもかまいません。

アプリケーションでHTMLヘルプのプログラム

注: Microsoft HTMLヘルププロジェクトのみです。

Windowsアプリケーションのウィンドウレベルヘルプ

- マップ番号を使用してトピックを呼び出すには、次の構文を使用してHTMLヘルプAPIを呼び出します。

```
HWND HtmlHelp(Window(), "c:\path\helpfile.chm", HH_HELP_CONTEXT, Number);
```

- ファイル名を使用してトピックを呼び出すには、次の構文を使用してHTMLヘルプAPIを呼び出します。

```
HWND HtmlHelp (Dialog(), "c:\path\helpfile.chm", HH_DISPLAY_TOPIC,
"topicfile.htm");
```

What's This? Helpの作成Windowsアプリケーションの

What's This? Helpをプログラムする方法は、状況依存ヘルプが作成された方法により異なります。

- ヘルプが RoboHelp HTML でテキストのみトピックファイルとして作成された場合、詳細はソフトウェア開発キットを参照してください。
- ヘルプがWhat's This? Help Composerで作成されている場合は、What's This? Help Helpを参照してください。

  注: 詳しくは、http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms670068(VS.85).aspx のHTML Help APIリファレンスを参照してください。

Windows以外のプラットフォームのためのウィンドウレベルヘルプ

- WebHelpを使用してC++およびVisual Basicアプリケーション、Javaアプリケーションおよび Webページの状況依存ヘルプトピックを表示します。詳細については、WebHelpを参照してください。
- JavaHelpを使用してJavaアプリケーションの状況依存ヘルプトピックを表示します。詳細は、状況依存JavaHelpの作成を参照してください。
- Java アプリケーションまたは他のプログラミング言語で書かれたアプリケーションの状況依存ヘルプトピックを表示するには、Oracle Helpを使用します。詳細は、状況依存Oracle Helpの作成を参照してください。

注: HTMLヘルプの出力をサーバー上にあるWebHelp、WebHelp Pro、FlashHelp、またはFlashHelp Proシステムのバックアップとして使用する必要がある場合は、Adobeのエアプレインヘルプを使用します。

HTMLヘルプの関数呼び出し

サンプルコード：

```
 HTML Help の関数呼び出し,        /*Window handle of program or dialog*/
"CSHHelp.chm",   /*Name of the CHM file*/
HH_HELP_CONTEXT,
dwMapNumber);     /*Map number from map file*/
```

HTML Helpの関数呼び出し

プログラムまたはダイアログボックスウィンドウハンドル。ウィンドウハンドルは、HTMLヘルプエンジンがアクションを実行しているアプリケーションを認識できるようにウィンドウを識別します。

CSHHelp.chm

コンパイル済みHTMLヘルプファイルです。このファイルに状況依存ヘルプが含まれます。アプリケーションで使用できるようにこのファイルをアプリケーション開発者に提供します。

HH_HELP_CONTEXT

ウィンドウレベルヘルプを表示するためにHTMLヘルプエンジンに送信されるコマンドです（HH_TP_HELP_WM_HELPなどのコマンドは、What's This? Helpに使用されます。）

Dwmapnumber

マップファイルにあるマップ番号。

ウィンドウレベルヘルプのトラブルシューティング

注: Microsoft HTMLヘルププロジェクトのみです。

問題	間違ったヘルプトピックが開く。
エラーメッセージ	コマンド：HH_HELP_CONTEXT Processing C:\Project Folder\HelpProject.chm マップ番号：2750 ファイル：Folder_Name\Topic_Name.htm
原因	マップIDが間違っています。
解決策	マップIDを更新します。 プロジェクトを生成して再テストします。
または：	
原因	マップファイルが間違っているか、古くなっています。
解決策	すべてのユーザーが正しいマップファイルを使用していることを確認します。 正しいマップファイルが使用されている場合は、トピックに対するマップIDの割り当てを解除します。 古いマップファイルを削除し、新しいマップファイルを読み込みます。 新しいマップIDを割り当てます。 生成して再テストします。

問題	トピックが表示されない。
エラーメッセージ	1. メッセージなし 2. コマンド：HH_HELP_CONTEXT 結果：[Map] セクションなしでHH_HELP_CONTEXTを呼び出しました 3. コマンド：HH_HELP_CONTEXT Processing C:\Folder Name\Project_Name.chm 結果：C:\Folder Name\Project_Name.chmで180010が見つかりません
原因	マップIDが割り当てられていません。
解決策	マップファイルが存在しない場合、"HH_HELP_CONTEXT called without a「Map」section" というメッセージが表示されます。 開発者からマップファイルが渡された場合、マップファイルを読み込みます。 マップIDを割り当てます。 "Cannot find 180010 in C:\Folder Name\Project_Name.chm" というメッセージが表示された場合は、マップIDを更新します。 生成して再テストします。

問題	トピックが表示されない、または間違ったトピックが表示される。
エラーメッセージ	1. コマンド：HH_HELP_CONTEXT Processing C:\Project Folder\Project_Name.chm マップ番号：1 ファイル：Folder_Name\Topic_Name.htm 2. コマンド：HH_HELP_CONTEXT Processing C:\Project Folder\Project_Name.chm 結果：C:\Project Folder\Project_Name.chm で 180010 が見つかりません
原因	間違ったマップ番号を使用して呼び出しています。
解決策	マップ ID レポートを印刷して、開発者に渡してください。 このファイルを使用して、マップ番号の割り当てを修正します。

問題	トピックが間違ったダイアログボックスに表示される。
エラーメッセージ	"HTML ヘルプ Author" が開き、"The window name 'window' passed to HH_GET_WIN_TYPE has not been specified." というメッセージが表示される。
原因	コールで間違ったダイアログ名を使用しているか、ヘルプ作成者がトピック用のカスタムウィンドウを作成したことを開発者に伝えていません。
解決策	開発者にカスタムダイアログについて伝えたことを確認します。 アプリケーションの更新後に生成して再テストします。

問題	トピックが表示されない。
エラーメッセージ	1. メッセージが表示されない 2. コマンド：HH_HELP_CONTEXT 結果：[Map] セクションなしで HH_HELP_CONTEXT を呼び出しました
原因	マップファイルまたはマップ番号がありません。
解決策	開発者から渡されたマップファイルを復元するか、更新してください。 生成して再テストします。

状況依存 JavaHelp の作成

ヒント: トピックを表示する機能を作成するのではなく、状況依存 Help API およびサポートファイルを使用して、組み込みの機能を呼び出します。

状況依存 JavaHelp では、開発者が作成したカスタムコードが必要です。

.JHM ファイルの印刷されたコピーが開発者の役に立つ可能性があります。

例：

```
public class ContextHelp
{
 private HelpSet hs;
 private HelpBroker hb;
 public boolean ShowHelp(String strTopic, String strHelpSet){
    if (hb == null) {
        ClassLoader loader = getClass().getClassLoader();
        URL url;
        try {
            url = HelpSet.findHelpSet(loader, strHelpSet);
            hs = new HelpSet(loader, url);
        }
        catch (Exception e) {
        return false;
        }
        hb = hs.createHelpBroker();
    }
    hb.setCurrentID(strTopic);
    hb.setDisplayed(true);
   return true;
 }
}
```

状況依存 JavaHelp のテスト

状況依存 JavaHelp のテストには、作成者と開発者が必要です。

プロジェクトを圧縮する

プロジェクトをコンパイルし、.JAR ファイルを作成します。.JAR ファイルを開発者に渡します。

状況依存トピックをテストする

アプリケーション内でトピックをテストし、トピックが正しいダイアログおよびウィンドウに表示されることを確認します。

エラーを解決する

開発者と協力して問題を解決します。

状況依存 Oracle Help の作成

注: この情報は、アプリケーションに状況依存 Oracle Help トピックを接続する必要のある開発者を対象としています。

ヒント: 状況依存ヘルプ API およびサポートファイルを使用すると、組み込み関数を呼び出すことができ、トピックを表示するために関数を作成する必要がありません。

Oracle Help は状況依存ヘルプをサポートしていますが、ヘルプが正しく動作するためのコードは、開発者が書き、またカスタマイズする必要があります。

状況依存ヘルプを含む Java アプリケーションの具体例を下に示します。この例を実行するには以下の手順に従ってください。

1) Oracle Help for Java コンポーネントおよび Sun Java 2 SDK 以降があることを確認します。
2) 次のコードを CSHDemo.java のファイルにコピーアンドペーストします。
3) ファイル（javac CSHDemo.java）をコンパイルします。
4) Java アプレットを実行します（java .cSHDemo <Oracle Help ヘルプセットファイル>）。Oracle Help ヘルプセットファイルパラメーターは、ヘルプセットファイルへのフルパスです。例えば、名前が Sample という Oracle Help ヘルプセットファイルを作成し、C:\myFiles に保存した場合、次のコマンドでこのアプリケーションを実行します。

```
java CSHDemo C:\myFiles\Sample.hs
```

状況依存 Java アプリケーションのサンプル

```
/*****************************************************************************
****
 * Oracle Help Context-Sensitive Help Sample Application
 *
 * This application is intended to demonstrate a few methods for invoking
 * context-sensitive Help with Oracle Help.
 *
 * USAGE:  CSHSample <full path to helpset file>
 *

*****************************************************************************
**/

import oracle.help.Help;
import oracle.help.CSHManager;
import oracle.help.library.Book;
import oracle.help.library.helpset.HelpSet;
import oracle.help.navigator.Navigator;
```

```
import java.awt.*;
import java.awt.event.*;
import java.net.URL;
public class CSHSample extends Frame implements ActionListener
{
  private Help helpObj;
  private Book bookObj;
  private CSHManager contextManager;
  private MenuItem exitMenu;
  private MenuItem contentsMenu;
  private MenuItem searchMenu;
  private MenuItem indexMenu;

  // Constants set to TopicIDs from map file for Helpset passed in
  // via command line.
  public static final String LABEL = "what_is_a_label_htm";
  public static final String FIELD = "what_is_a_text_field_htm";

  public static void main(String[] args)
  {
    if (args.length != 1) {
      System.err.println("Usage: CSHSample <full path to helpset file>");
      System.exit(1);
    }

    Book bookObj = null;
    String filename = args[0];

    // Expects filename format to be: "file:/[<drive>:/]dir/<helpset_file>"
    // e.g., "file:/c:/myPath/myHelp.hs"
    if (filename.charAt(0) == '/')
      filename = "file:" + filename;
    else
      filename = "file:/" + filename;

    try {
      bookObj = (Book) new HelpSet(new URL(filename));
    }
    catch (Exception e) {
      System.err.println("CSHSample Error: " + e.getMessage());
      System.exit(1);
    }

    CSHSample sampApp = new CSHSample(bookObj);
    sampApp.setVisible(true);
  }

  // Class Constructor
  public CSHSample(Book bookObj)
  {
    super("CSH Sample Application");

    setResizable(false);
    setSize(300, 200);
```

```
// Create Help Objects
try {
  helpObj = new Help(false, false);
  contextManager = new CSHManager(helpObj);
  contextManager.addBook(bookObj, true);
}
catch (Exception e) {
  System.err.println("CSHSample:: Failed While Creating Help object");
  e.printStackTrace();
  System.exit(1);
}

/*******************************************************************
 * Add UI Components
 *******************************************************************/
MenuBar menubar = new MenuBar();

Menu filemenu = new Menu("File");
exitMenu = new MenuItem("Exit");
filemenu.add(exitMenu);
exitMenu.addActionListener(this);
menubar.add(filemenu);

Menu helpmenu = new Menu("Help");
contentsMenu = new MenuItem("Help Contents");
contentsMenu.addActionListener(this);
helpmenu.add(contentsMenu);
indexMenu = new MenuItem("Topic Index");
indexMenu.addActionListener(this);
helpmenu.add(indexMenu);
searchMenu = new MenuItem("Full Text Search");
searchMenu.addActionListener(this);
helpmenu.add(searchMenu);
menubar.add(helpmenu);

setMenuBar(menubar);

Panel mainPanel = new Panel();
add(mainPanel, BorderLayout.CENTER);

// Add label
Label label = new Label("Country:", Label.LEFT);
mainPanel.add(label);
// Set context help for component. TopicID = LABEL
// Pass the component with the associated TopicID to the CSHManager Object
contextManager.addComponent(label, LABEL, true, true);

// Add TextField
TextField field = new TextField(15);
mainPanel.add(field);
// Set context help for component. TopicID = FIELD
// Pass the component with the associated TopicID to the CSHManager Object
contextManager.addComponent(field, FIELD, true, true);
```

```
    /*****************************************************************
     * End: Add UI Components
     *****************************************************************/

    addWindowListener(
      new WindowAdapter()
      {
        public void windowClosing(WindowEvent e)
        {
          setVisible(false);
          System.exit(0);
        }
      }
    );
  }

  public void actionPerformed(ActionEvent e)
  {
    Object source = e.getSource();

    if (source == exitMenu) {
      setVisible(false);
      System.exit(0);
    }
    else if (source == contentsMenu) {
      // Show Help; Display Contents tab
      Navigator[] navs = contextManager.getAllNavigators();
      if (navs != null)
        contextManager.showNavigatorWindow(navs[0]);
    }
    else if (source == indexMenu) {
      // Show Help; Display Index tab
      Navigator[] navs = contextManager.getAllNavigators();
      if (navs != null)
        contextManager.showNavigatorWindow(navs[1]);
    }
    else if (source == searchMenu) {
      // Show Help; Display Search tab
      Navigator[] navs = contextManager.getAllNavigators();
      if (navs != null)
        contextManager.showNavigatorWindow(navs[2]);
    }
  }
}
```

注: Oracle Helpは、（マップファイル内の）トピックIDを使用して、状況依存ヘルプを呼び出します。トピックIDは、METAタグを編集することによって変更可能です。

What’s This? Helpの作成

What's This? Help Composerツールについて

What's This? Help ComposerツールはRoboHelpと共にインストールされます。Word用のRoboHelpで作成されたWinHelpとMicrosoft HTML Helpの両方がサポートされています。

このツールはアプリケーションをスキャンし、プロジェクトを生成します。プログラムの実行ファイルを読み取り、ダイアログボックスのすべてのコントロールについて状況依存ヘルプトピックを作成します。また、ヘルプ作成の時間を短縮するために、推奨テキストを各トピックに追加することも可能です。

サポートされるMicrosoft HTMLヘルプのファイル：

- プログラムファイル（EXE）
- ダイナミックリンクライブラリ（DLL）
- ActiveXコントロール（OCX）

状況依存ヘルプは、どの RoboHelp プロジェクトにも追加できます。追加するとContext.txtというテキストのみのファイルが作成され、状況依存ヘルプトピックのテキストはすべてこのファイルに保存されます。

What's This? HelpとMicrosoft HTML Help

Microsoft HTML HelpのWhat's This? Helpプロジェクトを作成するには、次の操作を行います。

- Context.txtファイルを作成します。このファイルには、状況依存トピックを含めます。
- Context.txtファイルをプロジェクトに追加します。
- Context.txtファイルをデータベースに保存します。このデータベースは、トピックが編集されると更新されます。

- Dialog.cid および Context.h（トピック ID が記録されています）をプロジェクトフォルダーに保存します。開発者はこれらのファイルを使用します。
- Context.txt を状況依存ヘルプフォルダーの What's This? Help ファイルフォルダーに保存します。Context.txt ファイルをダブルクリックして、編集のために What's This? Help Composer を開きます。

  注: これらのファイルを 1 つでもプロジェクトマネージャーから削除すると、What's This? Help プロジェクトは HTML ヘルププロジェクトから削除されます。

What's This? Help Composer を使用しての状況依存ヘルプの作成

- HTML Help プロジェクトを開いてから、このファイルを選択して What's This? Help Composer で開きます。What's This? ヘルプを C/C++ アプリケーションに追加します。
- HTML Help プロジェクトをコンパイルするときに、状況依存トピックもコンパイルされてプロジェクトに組み込まれ、CHM ファイルの一部となります。
- What's This? Help Composer のオンラインヘルプシステムを参照してください。

What's This? Help Help

1) RoboHelp プロジェクトを開きます。
2) ファイル／新規／ What's This? Help プロジェクトを選択します。
3) アプリケーションを選択します。プログラム（.exe）、ダイナミックリンクライブラリ（.dll）、または ActiveX コントロール（.ocx）のいずれかを選択します。
4) 参照ボタンをクリックします。「ファイルの種類」で、ファイル形式を選択します。
5) アプリケーションが保存されているフォルダーに移動します。アプリケーションファイルをダブルクリックして選択します。
6) 「次へ」をクリックします。プロジェクトファイルの名前と場所が表示されます。

   すべての What's This? Help Composer プロジェクトのタイトルは「Context.txt」で、HTML Help プロジェクトと同じフォルダに保存されます。

7) 「次へ」をクリックします。アプリケーションのダイアログボックスが含まれているファイルの名前がすべて表示されます。これらのファイルは、アプリケーションと同じ場所（またはアプリケーションをコールする場所）にあります。リストされたファイルは、What's This? Helpプロジェクトに含まれます。不要なファイルをリストから削除することができます。使用するファイルについては、アプリケーション開発者にご相談ください。

8) 「次へ」をクリックします。What's This? Help Composerには、「OK」や「キャンセル」などのデフォルトボタンのヘルプトピックを生成する機能があります。

9) このようなトピックも作成するには、「はい、このプロジェクトのデフォルトヘルプテキストを作成」を選択します。

10) 「完了」をクリックします。

    アプリケーションのファイルがスキャンされ、情報のデータベースが生成されます。しばらくすると、新しいプロジェクトがWhat's This? Help Composerで開き、概要レポートが表示されます。このレポートは、表示、Windowsクリップボードへのコピー、および印刷ができます。

11) 概要レポートでの作業が完了したら「OK」をクリックします。

    ダイアログボックスおよびウィンドウのすべてのコンポーネントが「ダイアログボックス」ペインに表示されます。What's This? Helpトピックを作成できます。

12) RoboHelpに戻って、HTMLヘルプトピックで作業するには、What's This? Helpプロジェクトを保存して、プログラムを閉じます。

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

ヒント：

- What's This? Helpトピックで作業するには、RoboHelpでヘルププロジェクトを開き、What's This? Helpを開きます。
- What's This? Helpプロジェクトを開始する前に、開発者と相談してアプリケーションファイルに影響を与える可能性がある詳細、およびトピックの作成方法を決定します。

What's This? Help プロジェクトの読み込みヘルププロジェクト

C/C++ アプリケーション用の既存の What's This? Help プロジェクトを Microsoft HTML Help プロジェクトに読み込むことができます。HTML ヘルププロジェクトで使用できる What's This? Help プロジェクトは 1 つだけです。

1) RoboHelp プロジェクトを開きます。
2) ファイル／読み込み／ What's This? Help プロジェクトを選択します。
3) What's This? Help プロジェクトファイル（.chj）のフォルダーまで移動します。読み込むファイルをダブルクリックします。

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

注意：

- What's This? Help プロジェクトのすべてのファイルがプロジェクトフォルダーに保存されます。
- What's This? Help トピックを更新するには、Context.txt ファイルを編集します。このファイルは、プロジェクトマネージャーのテキストのみトピックファイルフォルダー（状況依存ヘルプフォルダーのサブフォルダー）にあります。このファイルの名前は変更できません。
- What's This? Help Composer でプロジェクトを開くには、Context.txt ファイルをダブルクリックします。

What's This? Help プロジェクトを開くヘルププロジェクト

1) プロジェクトを RoboHelp で開きます。
2) プロジェクト／開く／ポッド／出力設定を選択します。
3) 編集／ What's This? Help プロジェクトを選択します。What's This? Help Composer でプロジェクトが開きます。What's This? ヘルプを C/C++ アプリケーションに追加します。

   注 : What's This? Help Composer は C/C++ で作成されたアプリケーションで使用される HTML Help システムのみをサポートします。What's This? ヘルプを C/C++ アプリケーションに追加します。

What's This? Helpのプロジェクトからの削除

1) HTMLヘルププロジェクトを開きます。
2) プロジェクト／開く／ポッド／出力設定を選択します。出力設定のポッドが表示されます。
3) 状況依存ヘルプフォルダーを開きます。
4) テキストのみトピックファイルフォルダーを開きます。
5) 「CONTEXT.TXT」（What's This? Helpのファイル）を選択します。
6) 削除アイコン ✕ をクリックします。

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

注: What's This? Helpファイルを復元することができます。What's This? Helpプロジェクトファイル（.CHJ）はプロジェクトフォルダーに残っているので、プロジェクトに読み込めばCONTEXT.TXTファイルを作成できます。What's This? Helpプロジェクトの読み込みを参照してください。

What's This?のテストBugHunterによるヘルプ

注: BugHunterはMicrosoft HTML Helpプロジェクトのみと併用します。

1) テストする前に、次の要件を満たしていることを確認します。
   - ヘルプを作成しているシステムに、ヘルプトピックを呼び出すアプリケーションをインストールしている。
   - What's This? Helpトピックが HTMLヘルププロジェクト（CHMファイル）に存在している。
   - アプリケーションは、HTMLヘルプを使用するようにプログラミングされている。
   - マップファイルのコピーを、テストで使用するために利用できる。
2) HTMLヘルププロジェクトを生成し、CHMファイルにすべてのWhat's This? Helpトピックを追加します。このファイルをアプリケーションと同じフォルダーにコピーします。

3) ツール／ツール／BugHunterを有効にするを選択します。

4) アプリケーションを起動し、テストするダイアログボックスを開きます。

5) 疑問符アイコン ? をクリックし、フィールドまたはコントロールをクリックします。

HTMLヘルプAPIをテスト

Microsoft HTMLヘルププロジェクトで、マップ番号およびマップIDを持つウィンドウレベルトピックをテストします。このテストを実行するには、実際にアプリケーションを使用する必要があります。このツールを使用後にCHMファイルを再コンパイルするには、プログラムを終了してプロジェクトを再度開きます。

コンパイル済みHTMLヘルプファイルを選択します。

使用するHTML Help（CHM）を指定します。

Command

マップ番号またはトピックをテストします。HH_DISPLAY_TOPICを選択した場合、「HTMLファイル」フィールドに相対パスとファイル名を入力する必要があります。

ダイアログ（オプション）

トピック内容を表示するカスタムウィンドウを指定します。このフィールドは、ウィンドウレベルヘルプトピック用にカスタムウィンドウがある場合にのみ使用してください。

HTMLファイル

HH_Display_Topicでテストする HTMLファイルです。

Map Number

HH_Help_Contextに対してテストするマップ番号を指定します。

What's This? Helpのトラブルシューティング

注: Microsoft HTMLヘルププロジェクトのみです。

BugHunterを使用してWhat's This? Helpをテストする前に、BugHunterペインの中で右クリックし、オプション／表示オプションを選択してください。「ウィンドウレベルヘルプメッセージのみ」の選択を解除します。

問題	トピックが表示されない。
エラーメッセージ	メッセージなし
原因	ヘルプ作成者が（ダイアログのフィールドやコントロールの）テキストのみトピックを作成していない。
解決策	ダイアログボックスのフィールドやコントロールのテキストのみトピックを作成してください。 開発者からマップファイルが渡された場合、ファイルを先に読み込んでからテキストのみトピックを作成してください。 プロジェクトをコンパイルします。更新したCHMファイルを使用して再テストします。

問題	間違ったWhat's This? Helpトピックがフィールドまたはコントロールに表示される。
エラーメッセージ	コマンド：HH_TP_HELP_WM_HELP?HH_TP_HELP_CONTEXT_MENU Processing：Project_Name.chm コントロールID：1174 ヘルプID：1003 ファイル：Folder_Name/FileName.TXT
原因	開発者がWhat's This? Helpをリクエストするメッセージを不正にハンドルした。
解決策	マップIDレポートを開発者に渡します。 テキストのみトピックは、テキストのみポップアップマップIDと示されます。 プロジェクトをコンパイルします。更新したCHMファイルを使用して再テストします。

問題	間違ったトピックが表示されるか、トピックが表示されない。
エラーメッセージ	メッセージなし または コマンド：HH_TP_HELP_WM_HELP?HH_TP_HELP_CONTEXT_MENU Processing：Project_Name.chm コントロールID：1174 ヘルプID：1003 ファイル：Folder_Name/FileName.TXT
原因	マップファイルのマップ番号に一致するトピックIDが存在しない。 または トピックIDが間違ったトピックに一致している。
解決策	トピックIDが存在しないために問題が発生している場合は、マップファイルを修正します。 開発者からマップファイルが渡されている場合は、マップファイルを更新してください。 自動生成マップファイルの場合：状況依存のテキストのみトピックダイアログボックスを開きます。マップ番号を選択します。トピックIDを入力します。「追加と更新」をクリックします。 トピックIDが間違ったトピックに一致しているために発生している問題である場合は、テキストのみトピックを削除します。トピックIDに対して新しいトピックを作成します。 プロジェクトをコンパイルします。更新したCHMファイルを使用して再テストします。

テキストのみトピックを保守（Microsoft HTML ヘルププロジェクト）

アプリケーションに変更を加えたときは、その変更を反映するようにテキストのみトピックを更新します（What's This? Help Composer を使用する場合、このような保守の問題の大部分があてはまります）。

以下に影響を与えるアプリケーションを変更します。

- プロジェクトで使用されるマップファイル
- アプリケーション機能の使用方法を説明する、テキストのみトピックの内容
- What's This? Help のテキストのみトピックファイル（.TXT）

変更のタイプ	アクション
機能の削除（ダイアログボックス、メッセージボックス、ウィンドウなどがアプリケーションから削除される）	テキストのみファイル（.txt）からテキストのみトピックを削除します。
機能の更新や改良（ダイアログボックスのコントロールやフィールドが追加 / 削除される）	テキストのみトピックの内容を編集します。これで正確に機能を説明したり、ダイアログボックスからフィールドが消された場合は、フィールドの記述を削除します。
新しい機能（新規ダイアログボックスの追加など）	新規のテキストのみトピックを作成します。
新規マップファイル（新規機能に対して）	マップファイルを読み込んでからテキストのみトピックを作成します。
マップファイルの更新（新規 / 既存の機能に対して）	使用されていないマップファイルを削除し、更新されたファイルを読み込んで、既存のマップファイルを更新します。

注意：

- テキストのみトピックとウィンドウレベルトピックを作成する場合は、両方に同じマップファイルを使用しないでください。
- 状況依存ヘルプを更新するたびに、変更または追加されたトピックをすべてテストしてください。

テキストのみトピックでの作業

テキストのみトピックの作成

Microsoft HTMLヘルプのテキストのみトピックファイルを作成するときは、トピックの作成と内容の記述を同じダイアログボックスで行います。開発者から受け取ったマップファイルを使用する場合は、最初にそのファイルを読み込んでください。

1) プロジェクト／開く／ポッド／出力設定を選択します。出力設定のポッドが表示されます。

2) 状況依存ヘルプフォルダーを開きます。

3) What's This? Helpファイルフォルダーを右クリックします。「テキストのみトピックファイルを作成/読み込み」を選択します。

4) 「ファイル名」にトピックファイルの名前を入力します。マップファイルを読み込んだ場合は、その名前を使用します（pizza.HとpizzaTXT）。

5) 「開く」をクリックします。

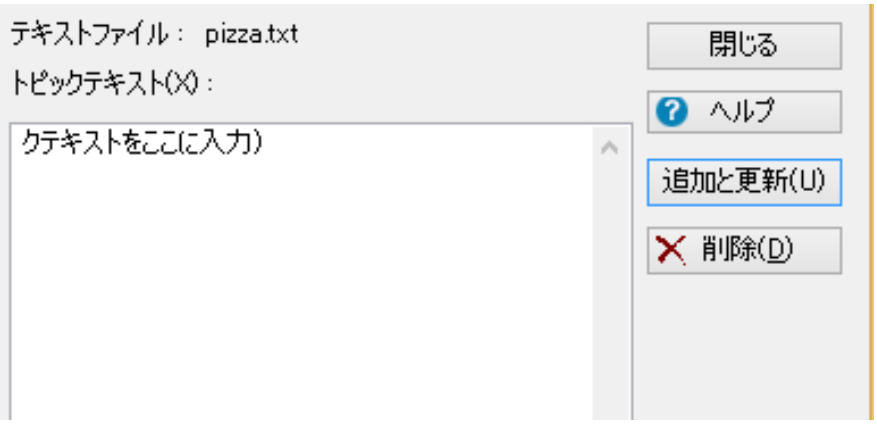
6) 作成する最初のトピックのトピックIDを選択します。

   - マップファイルを自動作成する場合は、「トピックID」にトピックIDを入力します。
   - マップファイルを読み込む場合は、リストからトピックIDを選択します。

   トピックIDエントリのサンプル

7) 「トピックテキスト」にトピックの内容を入力します。このテキストは、ユーザーがフィールドまたはコントロールのヘルプを要求したときにポップアップウィンドウに表示されます。

トピックテキストのサンプル



1) 「追加と更新」をクリックします。

   バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

ヒント：

- Windows ダイアログの「OK」、「キャンセル」、「保存」、「開く」などのボタンに対しては、トピックや追加のコードは不要です。
- HTML ヘルププロジェクトに複数の .txt ファイルを組み込むことができます。

テキストのみトピックの編集

1) プロジェクト／開く／ポッド／出力設定を選択します。出力設定のポッドが表示されます。
2) 状況依存ヘルプフォルダーおよび What's This? Help ファイルフォルダーを開きます。
3) トピックファイル（.TXT）をダブルクリックします。
4) 「トピック ID」リストからトピックを選択します。
5) 「トピックテキスト」のテキストを編集します。
6) 「追加と更新」をクリックします。

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

ヒント: このダイアログでマップ番号を編集することができます。

テキストのみトピックのテスト

テキストのみトピックをテストするには、アプリケーションにアクセスする必要があります。

- マップファイルを自動生成した場合は、そのファイルを開発者に渡します。
- テストが終了したら、ヘルプをコンパイルします。開発者にCHMを渡します。
- アプリケーションの最新バージョンを、最新の CHM ファイルと共にインストールします。
- 最新のアプリケーションをネットワークまたはCDからインストールする場合は、コンパイル時に既存のCHMファイルを新しいCHMファイルで置き換えます。アプリケーションEXEファイルが保存されているフォルダーにCHMファイルをコピーします。
- ダイアログボックスのテストのチェックリストとして、マップIDレポートを印刷します。トピックIDとトピックとを対応させる、テキストのみトピックファイルを印刷します。

ヒント：

- アプリケーション呼び出しをテストするには、BugHunterを使用します。
- マップ番号が一意ではないという問題を解決するには、重複マップIDレポートを使用します。

テキストのみトピックの削除

ダイアログボックスのコントロールやフィールドに対する変更によって状況依存ヘルプが影響を受ける場合に、Microsoft HTMLヘルププロジェクトに含まれるテキストのみトピックを削除することができます。

1) プロジェクト／開く／ポッド／出力設定を選択します。出力設定のポッドが表示されます。
2) 状況依存ヘルプフォルダーおよびWhat's This? Helpファイルフォルダーを開きます。
3) トピックファイル（.txt）をダブルクリックします。
4) 削除するトピックを選択します。
5) 「削除」をクリックします。

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

ヒント：

- 更新されたマップファイルを開発者から受け取った場合は、マップファイルを置き換えてからトピックを削除してください。
- テキストのみトピックを削除しても、マップファイル内のトピック ID とマップ番号はそのまま残ります。未使用マップ ID は、削除してかまいません。

テキストのみトピックファイルの削除

テキストのみトピックファイル（.TXT）が不要になったときは、Microsoft HTML ヘルププロジェクトから削除します。

1) プロジェクト／開く／ポッド／出力設定を選択します。出力設定のポッドが表示されます。
2) 状況依存ヘルプフォルダーおよび What's This? Help ファイルフォルダーを開きます。
3) トピックファイル（.txt）を選択します。
4) 「削除」をクリックします。
5) マップファイルフォルダーを開きます。
6) 削除した .txt ファイルに関連付けられていたマップファイル（.H）を選択します。
7) 「削除」をクリックします。トピックファイルおよびそのマップファイルが削除されます。

バージョンコントロールプロジェクトには、さらに多くのオプションがある場合があります。

状況依存ヘルプのテスト

状況依存ヘルプツールによるテスト

状況依存ヘルプツールは、アプリケーションからのヘルプの呼び出しをシミュレートします。

1) ツールボックスポッドで「CSH Test」をダブルクリックします。

2) 次のいずれかを行います。

- サーバーベースのヘルプをテストするには、「オンライン」を選択します。
- ローカルヘルプをテストするには、「オフライン」を選択します。

3) 次のいずれかを行います。

- サーバーベースのヘルプの場合は、FlashHelp Pro の次の構文を使用してサーバーの場所とプロジェクト名を入力します。

```
http://RoboHelp
Server/robohelp/server?project=MyProject&area=area-name&type=flashhelp
```

WebHelp Proの場合、次の構文を使用します：

```
http://RoboHelp Server/robohelp/server?project=MyProject&area=area-name&ver=1
```

- ローカルヘルプの場合は、「参照」ボタンをクリックし、ヘルプファイルを選択します。

4) （オプション）ウィンドウ名を入力します。

5) マップファイルアイコン をクリックし、マップファイルを選択します。

6) 三角形をクリックし、マップ番号を選択します。

7) 「ヘルプを表示」をクリックします。

ヘルプが正常に動作している場合、マップ番号に関連付けられたトピックが表示されます。

BugHunter for HTMLヘルプによるテスト

注: Microsoft HTMLヘルププロジェクトのみです。

BugHunterは、状況依存ヘルプトピックをテストして問題を診断するトラブルシューティングツールです。BugHunterはテスト中にアプリケーションが行う呼び出しをキャプチャして表示します。

注: BugHunterを使用し始める前に、一度HTMLヘルプWorkshopを起動する必要があります。HTMLヘルプWorkshopを起動するには、HTMLヘルプWorkshopのインストールフォルダーの「hhw.exe」ファイルをダブルクリックします。

BugHunterは、次のタスクに使用します。

- ヘルプボタン、F1ヘルプ、またはWhat's This? Helpをテストします。
- エラーの原因の追跡。
- データのクリップボードへのコピー、または注釈付きでのテキストファイルへの保存。
- 間違ったトピックが表示される理由の調査。
- 特定のマップ番号が使用されるかどうかの判断。
- ウィンドウレベルヘルプトピックにマップIDが割り当てられているかどうかの判断。

BugHunterの起動と終了

1) プロジェクト／開く／ポッド／ツールを選択します。
2) 次のいずれかを行います。
   - データのキャプチャを開始するには、ツール／BugHunterを有効にするを選択します。

     出力ダイアログボックスには、プログラムが有効である間、キャプチャしたデータが表示されます。アプリケーションのダイアログボックスでヘルプを有効にすると、BugHunterからのメッセージが出力ウィンドウに表示されます。データのコピー、注釈の追加、または保存を行うには、ペインの内側を右クリックします。
   - ペインを消去するには、ペインの内側を右クリックし、「すべてを消去」を選択します。データは、消去するまでペイン内に残ります。
   - データのキャプチャを停止するには、ツール／BugHunterを有効にするを選択します。

BugHunter データの解釈

次に BugHunter データの例を示します。

```
C:\APPLICATION FOLDER\HELP_FILE.CHM, Custom Folder\Help_Topic_Name.htm,
HH_HELP_CONTEXT, 10253, Topic launched
```

次に複数行データの例を示します。

```
Project: C:\APP FOLDER\HELP_FILE.CHM
File: Custom Folder\Help _Topic_Name.htm
Command: HH_HELP_CONTEXT
Map Number: 10253
Result: Topic launched
```

次のようにデータを解釈します。

プロジェクト

アプリケーションの場所。呼び出されたヘルプトピックを含む HTML ヘルプのファイル名。

File

.htm トピックが存在するフォルダーおよびサブフォルダー。

Command

HTML ヘルプに送られたコマンド名。

10253

マップ番号

Result

アクティビティの概要。「Topic launched」は、トピックマップ ID がアプリケーションコードに一致することを示します。

BugHunter ペインのカスタマイズ

1) BugHunter ペインの内側を右クリックし、「オプション」をクリックします。

マップ番号の 16 進数での表示

1) ファイル／オプションを選択します。「BugHunter」タブをクリックします。
2) 「表示オプション」で、「マップ番号を 16 進数で表示」を選択します。

アプリケーションでのテスト

アプリケーションで状況依存ヘルプをテストするには、次のガイドラインに従います。

- RoboHelp でマップ ID を自動生成した場合は、マップファイルを書き出してアプリケーション開発者に提供します。マップ ID を使用するようにアプリケーションを更新します（まだこの作業を行っていない場合）。
- プロジェクトを生成します。出力ファイルをアプリケーション開発者に提供します。
- ウィンドウレベルトピックを表示するカスタムウィンドウをデザインした場合は、アプリケーション開発者に連絡します。この方法でトピックを表示するには、アプリケーションでのコーディングが必要です。
- 最新バージョンのアプリケーションをインストールするか、Web アプリケーションにアクセスします。ネットワークドライブまたは CD からアプリケーションの最新ビルドをインストールする場合、生成するたびに出力ファイルを新しいコピーに置換することができます。アプリケーションの EXE ファイルと同じフォルダーに出力ファイルを配置します。
- マップ ID レポートを印刷します。これを、ダイアログボックスをテストする際のチェックリストとして使用します。
- アプリケーションで「ヘルプ」をクリックするか、F1 キーを押して、各ダイアログボックスで正しいヘルプトピックが表示されることを確認します。
- 動作しなかったマップ ID の情報を更新し、以下の項目を確認します。
- 正しいマップ ID が割り当てられていることを確認します。
- トピックにウィンドウが割り当てられていることを確認します。
- プロジェクトを生成して、編集されたトピックを再テストします。

状況依存ヘルプの用語

ALI ファイル

マップ ID を追加、更新、または削除したときに、プロジェクトフォルダーに自動的に作成されるプロジェクトファイル。トピック ID/ トピックの対応が示されます（例：ID_ABCForm=ABC.htm）。

CHM ファイル

ヘルプ作成者が Microsoft HTML ヘルププロジェクトをコンパイルしたときに作成されるファイル。プロジェクトに含まれるすべてのファイル（状況依存ヘルプトピック、マップファイルなど）が圧縮されてこのファイルに保存されます。

ヘッダーファイル

アプリケーション開発者が使用するマップファイルを指す用語。アプリケーション開発者は、トピック ID と対応するマップ番号のリストを含むテキストファイルであるヘッダーファイルを作成します。ヘッダーファイルで使用される拡張子は .H、.HH または .HM です。アプリケーション開発者がヘルプ作成者にヘッダーファイルを提供する場合、ヘルプ作成者はヘッダーファイルをプロジェクトに読み込む必要があります。

HHCTRL.OCX

（Microsoft HTML ヘルププロジェクト）HtmlHelp() アプリケーションプログラミングインターフェイスを含む MicrosoftActiveX コントロール。アプリケーション開発者は、ユーザーがヘルプを要求したときに HHCTRL.OCX が呼び出されるようにします。

HH_HELP_CONTEXT

（Microsoft HTML ヘルププロジェクト）この HTML ヘルプ API コマンドによって、マップ番号を使用してアプリケーションに対する呼び出しを実行できます。

HTML ヘルプ API

（Microsoft HTML ヘルププロジェクト）Microsoft HTML ヘルプ用のアプリケーションプログラミングインターフェイスで、アプリケーションからヘルプウィンドウを表示できるようにします。HTML ヘルプ API には、開発者がヘルプウィンドウの種類、スタイル、および位置を指定するためのコマンドが含まれています。

HTMLヘルプトランスレーター

（Microsoft HTMLヘルププロジェクト）アプリケーションでユーザーがヘルプを要求したときに、Microsoft HTMLヘルプが状況依存ヘルプトピックを検索するために使用する仕組み。

HTMLヘルプビューアー

（Microsoft HTMLヘルププロジェクト）コンパイル済みMicrosoft HTML Help（CHMファイル）を表示するために使用されるデフォルトのウィンドウ。ヘルプ作成者は、状況依存ヘルプトピックを表示するための独立したカスタムウィンドウをデザインすることもできます。

接頭辞

トピックIDの先頭に追加される文字（例えば、トピックIDIdd_Mytopicidでは「IDD_」がプレフィックスです）。マップファイルを生成する開発ツールは、デフォルトのプレフィックスを使用します。RoboHelpでマップファイルを生成する場合は、プレフィックスを指定できます。プレフィックスは必須ではありませんが、トピックIDを整理するのに便利です。

RH ShowHelp

状況依存ヘルプトピックを呼び出すときに使用される RoboHelp API 関数。WebHelp Pro、WebHelpおよびHTMLヘルプの場合、この関数を呼び出すことができます。

サポートファイル

（WebHelpおよびWebHelp Proプロジェクト）Adobeは、開発者がコードを読み込んで、変数を入力できるようにサポートファイルを提供しています。サポートされる各言語には対応するサポートファイルがあり、WebHelp ProまたはWebHelpプロジェクトを呼び出して状況依存ヘルプの個々のトピックを表示するために使用される関数が含まれています。

iOS と Android アプリ用のヘルプの作成

RoboHelp はマルチスクリーンまたはレスポンシブ HTML5 出力と iOS と Android アプリを統合するために使用できる API を提供します。API には次のものが含まれます。

- アプリをカスタマイズしたかどうかに関係なく、アプリに含めることができる API 関数用の Objective C（iOS）および Java（Android）ソースコード
- 表示された API の使用を説明するサンプルアプリ

iOS バージョン 5 以降がサポートされています。Android 2.2（Froyo）以上のバージョンがサポートされています。

使用できるようになる機能

モバイルヘルプ API を使用すると、次の機能を使用することができます。

- ヘルプのアプリへの埋め込み
- アプリのブラウザーか、モバイルオペレーティングシステムのデフォルトブラウザーで「ヘルプ」を開く
- モバイルアプリ画面から、状況依存ヘルプを実装する
- サーバーでヘルプをホストして、モバイルアプリからこれにリンクする**注:** 外部サーバーでホストされたヘルプをリンクしている間、実装がアップル App Store のガイドラインに適合しているか確認します。

モバイルヘルプを実装するためのステップの拡大

1) RoboHelp プロジェクトの出版の準備をします。
2) 状況依存ヘルプを準備して、関連するマッピングを作成します。
3) マルチスクリーンまたはレスポンシブ HTML5 出力を生成します。
4) マルチスクリーンまたはレスポンシブ HTML5 出力をアプリにバンドルします。
5) モバイルヘルプ API のソースファイルをアプリに含めます。
6) API 関数を呼び出してアプリの必要なヘルプ呼び出しを実装します。

使用可能な API 関数

iOS

- `-(id) initForHelpPath: (NSString*)path;`
- `-(void) setHelpPath: (NSString*)path;`
- `-(void) setShowHelpInEmbeddedBrowser: (BOOL)bInEmbedded;`
- `-(void) showFullScreenHelp: (UIViewController*)presentingViewController;`
- `-(void) showFullScreenHelp: (UIViewController*)presentingViewController ForMapNo:(NSInteger)ctxId;`
- `-(void) showFullScreenHelp: (UIViewController)presentingViewController ForMapId:(NSString)ctxId;`
- `-(void) cleanUpResources;`
- `-(void) setTitle: (NSString*)title;`
- `-(void) setBackButtonText: (NSString*)text;`
- `-(void) setSupportsIPhoneOrientation: (UIInterfaceOrientation)orientation supports:(BOOL)supports;`
- `-(void) setSupportsIPadOrientation: (UIInterfaceOrientation)orientation supports:(BOOL)supports;`

  ヒント: これらの API 関数の使用方法を理解するには、コードのコメントを参照します。

Android

次のコードサンプルは、使用可能な Java メソッドを示しています。

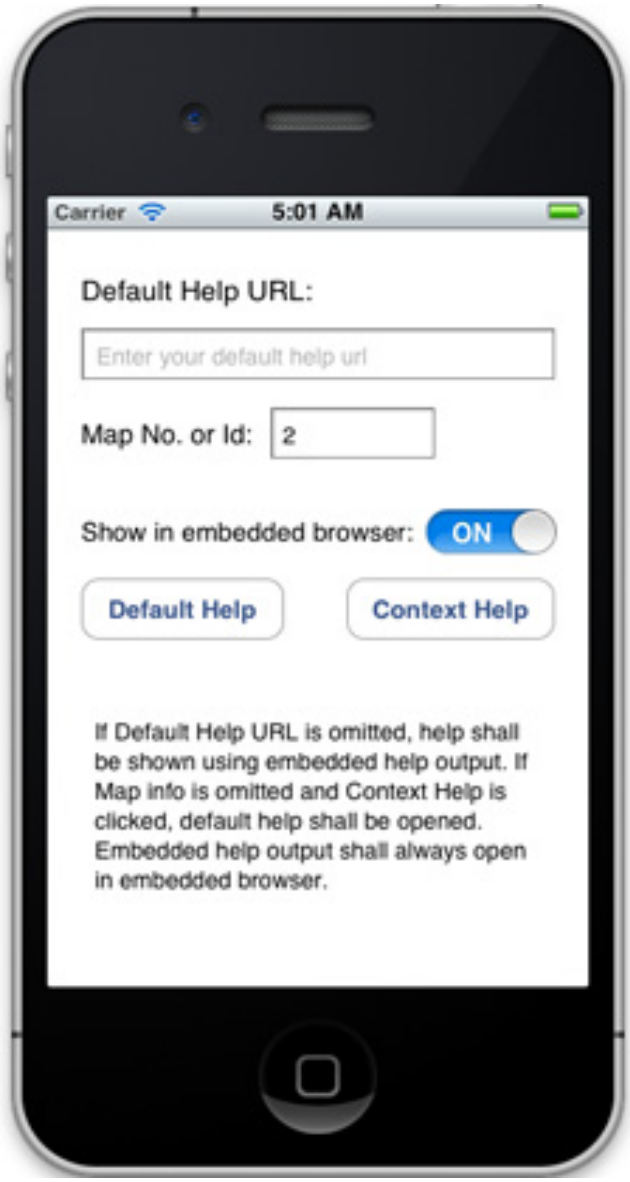
- `RoboHelpAPI(String url, View v)`
- `void setHelpPath(String url)`
- `void setShowHelpInEmbeddedBrowser(boolean bEmbedded)`
- `void showFullScreenHelp()`

- `void showFullScreenHelpForMapNo(int mapNo)`
- `void showFullScreenHelpForMapId(String mapId)`
- `void setTitle(String title)`
- `void setBackButtonText(String text)`
- `void setSupportsOrientation(boolean supports)`

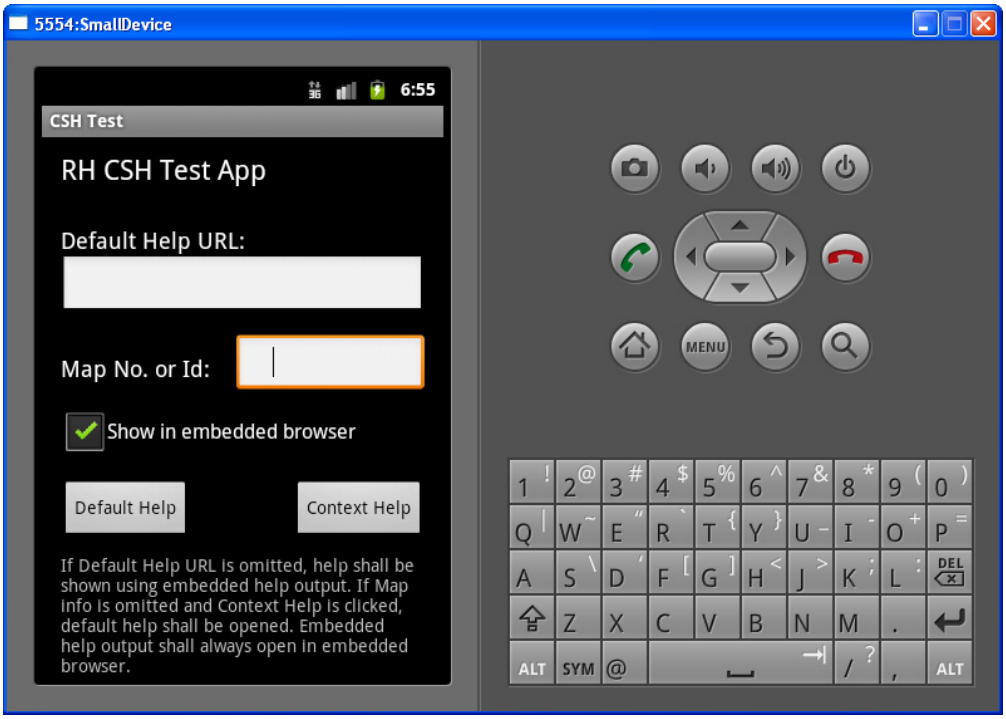
ヒント: これらのAPI関数の使用方法を理解するには、コードのコメントを参照します。

サンプルアプリ

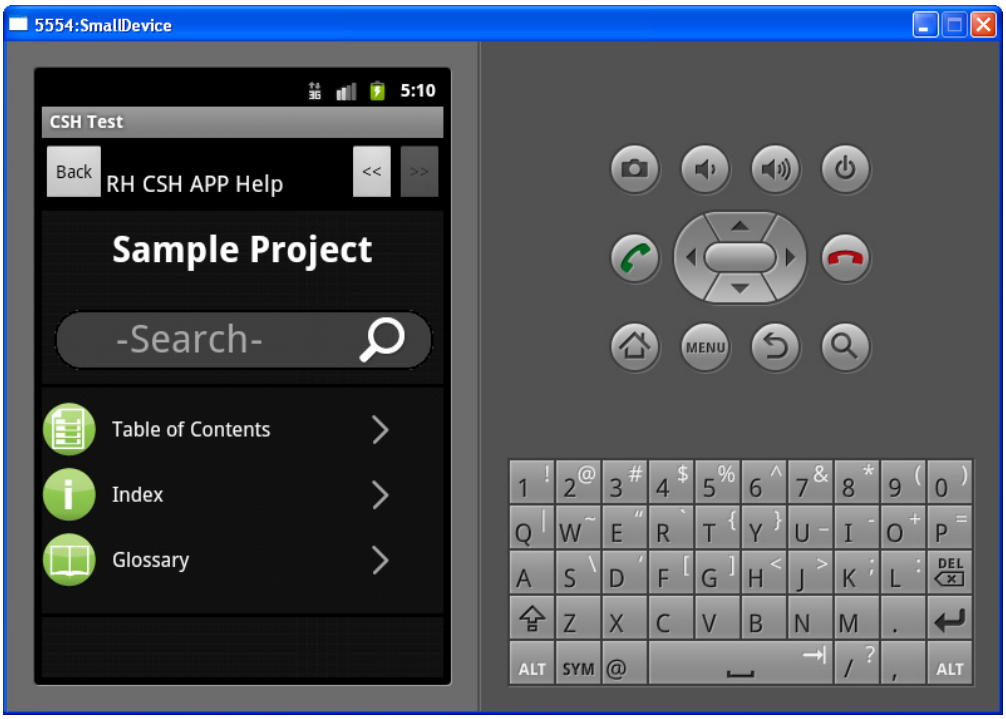
RoboHelpには、モバイルヘルプAPIの機能を説明するサンプルアプリが含まれています。



モバイルヘルプ API 機能を説明する iOS サンプルアプリ



モバイルヘルプ API 機能を説明する Android サンプルアプリ



フィルタリングされたダイナミックコンテンツの状況依存ヘルプ

ダイナミックコンテンツフィルターを使用して、ヘルプ出力を作成するときには、状況依存ヘルプを作成できます。ユーザーは、この状況依存ヘルプから、フィルタリングされたコンテンツへ直接移動できます。例えば、コンテンツが地域に基づく場合は、特定の地域についてフィルタリングされた状況依存ヘルプを表示できます。ダイナミックコンテンツフィルターを作成および使用する方法の詳細については、「ダイナミックコンテンツ出力の生成」を参照してください。

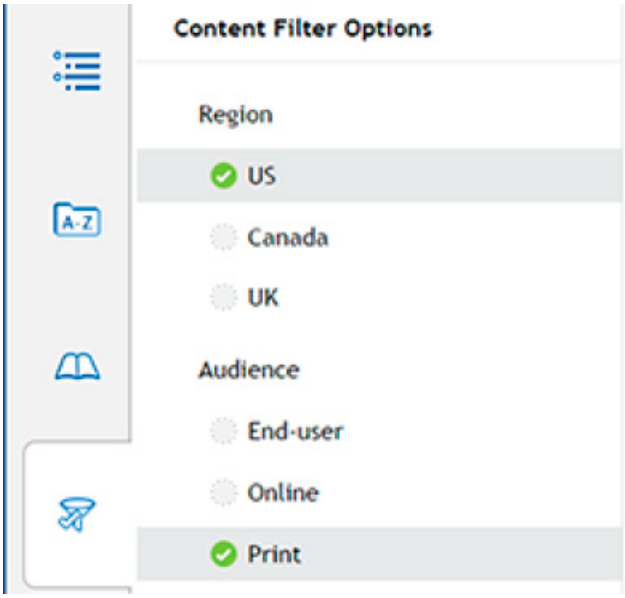
注： ダイナミックコンテンツフィルターは、レスポンシブ HTML5 およびモバイルアプリ出力でサポートされます。

状況依存ヘルプからフィルターへのリンクを作成するには、次の構文でリンクを作成します。

```
<help topic url>?filter=<tag1>:<value1>,<tag2>:<value2>...
```

例えば、次のフィルターへの直接リンクを作成するとします。

ダイナミックフィルター



次のリンクを作成します。

```
<help topic url>?filter=Region:US,Audience:Print
```

リファレンス

オプションダイアログボックスの「BugHunter」タブ（HTML Help）

表示オプション

ウィンドウレベルヘルプメッセージでは、ウィンドウレベルヘルプのみのメッセージをキャプチャします。

ヒント : What's This? Helpをテストするには、このオプションをクリアします。

マップ番号を16進数で表示

10進数ではなく、16進数でマップ番号を表示します。

各メッセージを1行に表示

出力が1行に表示されます。複数行の場合は、情報の種類ごとに分かれてデータが表示されます。

例（1行）

```
C:\APPLICATION FOLDER\HELP_FILE.CHM, Custom Folder\Help_Topic_Name.htm,
HH_HELP_CONTEXT, 10253, Topic launched
```

例（複数行）

```
Project: C:\APPLICATION FOLDER\HELP_FILE.CHM
File: Custom Folder\Help_Topic_Name.htm
Command: HH_HELP_CONTEXT
Map Number: 10253
Result: Topic launched
```

カラーオプション

ヘルプ、エラーメッセージ、プロンプト、注釈、およびウィンドウ背景の色を選択します。

出力の生成

シングルソースの基本と詳細

シングルソースレイアウトについて

シングルソースレイアウトは、プロジェクト出力の異なるバージョンのテンプレートとして動作します。RoboHelp では、出力形式ごとにシングルソースレイアウトが提供されています。

通常、生成するプロジェクトのバージョンが異なるときは（オンラインチュートリアルなど）、出力に異なる設定を使用します。これらの設定は、シングルソースレイアウトに保存できます。レイアウトを作成し、出力設定を定義した後、必要に応じて、出力を個々にまたはバッチで生成、表示、または公開します。

レイアウトは、プロジェクトの各バージョンの設定および作業環境設定にかかる時間を節約し、一貫性の確保に役立ちます。コンディショナルタグおよびコンディショナルビルドの式を使用すると、プロジェクトの異なるバージョンに対して異なる出力を作成できます。

関連するリンク：

レイアウトタイプの使用

RoboHelp のレイアウトタイプ

RoboHelp では、次のレイアウトタイプをサポートしています。

- レスポンシブ HTML5 のレイアウト
- eBook のレイアウト
- WebHelp のレイアウト
- WebHelp Pro と FlashHelp Pro のレイアウト
- Microsoft HTML ヘルプのレイアウト
- JavaHelp のレイアウト
- Oracle Help のレイアウト
- XML のレイアウト
- Adobe AIR のレイアウト

プライマリレイアウトの指定

プライマリレイアウトは、作業環境に対して設定するデフォルトのレイアウトです。プライマリレイアウトを使用すると、他のオプションを指定しなくても出力を生成できます。プライマリレイアウトには、そのプライマリレイアウトに関連付けられている出力形式の設定が含まれます。これはプロジェクトウィンドウ、目次プロパティ、およびその他のプロパティエンティティを制御します。

1) シングルソースレイアウトポッドで、レイアウトを右クリックします。

2) 「プライマリレイアウトとして設定」を選択します。

   シングルソースレイアウトポッドでプライマリレイアウトにラベルが付きます。

   注: 新しいウィンドウを作成する場合、ウィンドウの種類はデフォルトのレイアウトに基づきます。詳細については、この記事を参照してください。

シングルソースレイアウトの作成と編集

シングルソースレイアウトの作成または複製

複製したレイアウトは、元のレイアウトの設定を維持しています。

1) シングルソースレイアウトポッドで、次のいずれかの操作を行います。

   - レイアウトを生成するには、レイアウトを作成ボタン をクリックします。
   - レイアウトを複製するには、レイアウトを複製ボタン をクリックします。

2) 「レイアウト名」ボックスに、名前を入力します。

3) 新しいレイアウトの場合は、ポップアップメニューから出力形式を選択します。

   注: 複製したレイアウトの出力形式を変更することはできません。

4) 「OK」をクリックします。

5) 新しいレイアウトの場合は、表示されるプロパティダイアログボックスでオプションを設定します。「保存」をクリックします。

シングルソースレイアウトの編集

1) シングルソースレイアウトポッドで、レイアウトを右クリックします。
2) 「プロパティ」を選択します。
3) オプションを設定します。「保存」をクリックします。

注: レイアウトの出力形式は変更できません。代わりにレイアウトを作成します。

シングルソースレイアウト名の変更

1) シングルソースレイアウトポッドで、レイアウトを右クリックします。
2) 「名前変更」を選択します。
3) 名前を入力します。

関連するリンク:

レイアウトタイプの使用

出力の生成、表示、公開

シングルソースレイアウトの削除

レイアウトを削除しても、プロジェクトの他の部分に影響はありません。

1) シングルソースレイアウトポッドで、シングルソースレイアウトを右クリックします。プライマリレイアウトは削除できません。
2) 「削除」を選択します。

出力から無参照トピックを除外するオプションについて

シングルソースを意図したプロジェクトは、プロジェクトから生成された出力のすべてのタイプで無関係なトピックを含むことが可能です。例えば、複数の目次を持つプロジェクトには、単一の目次に基づいて生成した出力に関係のないトピックが含まれます。この場合、出力から無参照のトピックを除外することで、ユーザーには関係のあるトピックのみがナビゲーションや検索で表示されます。

トピックが次のプロジェクトコンポーネントによって参照されていない場合、RoboHelp はそれを無参照と見なします。

- 目次
- 索引
- 閲覧シーケンス
- デフォルトトピック
- CSH マップ ID
- 関連項目キーワード
- 関連トピックキーワード

「出力から無参照トピックを除外」オプションは、Adobe AIR、WebHelp、WebHelp Pro、FlashHelp、FlashHelp Pro、Microsoft HTML Help、XML Output、Oracle Help、および JavaHelp レイアウトで使用できます。

関連するリンク：

出力生成の基本

ダイナミックコンテンツ出力の生成

RoboHelp のダイナミックコンテンツ機能を使用すると、パラメーターに基づいたフィルターを簡単に適用できる出力を作成できます。パラメーターは、コンディショナルビルドタグを使用して定義します。例えば、ユーザーが領域（米国、英国、カナダ）および対象者（エンドユーザー、オンライン、印刷）を基準に出力をフィルタリングするために使用できるフィルターを作成できます。ダイナミックコンテンツでは、コンテンツ作成者が、コンディショナルビルドタグを利用してコンテンツを簡単にシングルソーシングすることもできます。

作成者はこの機能を使用することで、ユーザーに提供するフィルター基準に応じたコンディショナルビルドタグを作成できます。例えば、米国、英国、カナダの3つの地域、およびエンドユーザ、オンライン、印刷の3つの対象者を基準として、コンディショナルビルドタグを作成できます。

フィルターを使用して出力を生成するときには、フィルタータブが表示されるため、ユーザーは出力SSLのフィルターで選択した基準（タグまたは式）に基づいてコンテンツをフィルタリングできます。

ユーザーは検索機能を使用して、フィルタリング後の結果からコンテンツを検索することもできます。

注： ダイナミックコンテンツのフィルターは、レスポンシブHTML5およびモバイル出力に適用できます。

タグコンテンツ

出力でダイナミックコンテンツフィルターを作成するには、ユーザーがフィルタリングするプロジェクト内の必要な部分に、コンディショナルビルドタグを適用します。

RoboHelpプロジェクトでは、コンディショナルビルドタグを以下に適用できます。

- トピック

  注： タグをトピックに適用すると、トピックと目次のすべてのコンテンツ、およびそれらを指す索引エントリが、出力内のタグを継承します。

- トピック内のコンテンツ（テキスト、画像など）

  段落より下のレベルのテキストには、コンディショナルビルドタグを適用しないことをお勧めします。フィルター機能は下位レベルでも機能しますが、テキストの段落レベルより下のレベルにタグを設定すると、文章が不完全になるなどの誤動作が生じる可能性があります。

- 目次のアイテム
- 索引のアイテム

  注： コンディショナルビルドタグを用語集に適用することはできません。

コンテンツの同一セクションに複数のコンディショナルビルドタグを適用できます。例えば、米国とカナダのタグを、北米の顧客をターゲットとしたトピックに適用できます。その後、英国の顧客をターゲットとした別のトピックにタグを付けることができます。これによりユーザーは、地域を基準としてコンテンツをフィルタリングするためのオプションを出力で選択できます。「米国 AND カナダ」のような式を使用して、北米という名前のフィルター基準を作成することもできます。

RoboHelp では、コンディショナルビルドタグの適用は制限されません。つまり、あらゆる組み合わせでコンテンツにタグを適用できます。そのため、出力フィルタリングメカニズムに基づいて出力がどのように表示されるかを常に考慮しながら、タグを適用する必要があります。

米国とカナダの 2 つのタグを例に挙げます。米国タグを表に適用し、カナダタグを表のコンテンツに適用したとします。出力に表示するためのマークを米国タグに付け、非表示にするためのマークをカナダタグに付けた場合、コンテンツは表示されます。これは、表の表示プロパティよりコンテンツの表示プロパティの方が優先されるためです。ただし、トピックに表示のマークを付け、トピック内の段落に非表示のマークを付けた場合、段落は表示されません。

フィルタリングの機能方法の例については、出力でのダイナミックコンテンツフィルターの使用を参照してください。

タグなしコンテンツ

RoboHelp プロジェクトでダイナミックフィルターを使用するときには、すべてのコンテンツにタグを付ける必要はありません。タグなしのコンテンツは、条件のないコンテンツです。つまりタグなしコンテンツは、フィルターに関係なく、すべてがユーザーに向けて表示されます。

ダイナミックコンテンツフィルターの作成

ダイナミックフィルターは、レイアウトごとに 1 つずつ作成できます。

1) 「出力」タブでレイアウトをクリックします。

2) レイアウト設定ダイアログで、「出力でダイナミックコンテンツフィルターを使用」にチェックマークを付け、「カスタマイズ」をクリックします。

   ダイナミックコンテンツフィルターダイアログが表示されます。

3) フィルターを作成するときには、フィルター基準（タグと式）を含むグループを定義できます。

例えば、米国、カナダ、英国のコンディショナルビルドタグを含む地域グループを作成できます。

また、フィルター内の基準として式を使用することもできます。例えば、「北米 AND カナダ」というフィルターを作成してから、北米という基準を選択できるユーザー向けオプションを出力に含めることができます。

注: タグと式は、グループに含めなくてもフィルターに追加できます。つまり、どのグループも含んでないフィルターを作成できます。また、1つ以上のグループと、どのグループにも含まれていないタグまたは式を含むフィルターを作成することもできます。

重要: ネストされたグループを作成することはできません。つまり、グループに別のグループを含めることはできません。

4) タグまたは式をグループに追加するには、「基準を追加」をクリックし、タグと式ダイアログでタグと式を選択します。

注: ダイナミックフィルターにはタグまたは式の1つのインスタンスを追加できます。そのため、タグまたは式をフィルターに追加しても、タグと式ダイアログにはタグまたは式が表示されません。

タグまたは式をフィルターに追加した場合、フィルターに表示されるタグまたは式の表示名は、作成時に指定した名前です。ただし、出力表示のために、フィルターに表示される名前を変更することもできます。また、フィルターに指定した表示名によって、プロジェクト内のタグまたは式の名前が変更されることはありません。

注: また、以下に一覧表示した文字を除くすべてのタグまたは式の表示名に特殊文字を含めることができます。コロン（:)、セミコロン（;)、カンマ（,)、パーセント（%)、アンパサンド（&)、ハッシュ（#）および等号（=）です。

5) デフォルトでコンテンツをフィルタリングするように選択できます。つまり、出力が表示されるときに、事前に定義された基準に基づいて、コンテンツがフィルタリングされます。デフォルトのタグまたは式をフィルターに設定するには、タグまたは式を右クリックし、「デフォルトを選択」を選択します。

6) フィルターに表示されるタグまたは式の名前を変更するには、タグまたは式を右クリックし、「名前変更」を選択します。

注: タグの名前を変更すると、フィルターを編集ダイアログの下部にステータスメッセージが表示され、タグの名前（表示名ではない）が示されます。

注: フィルター内のグループ名は一意である必要があります。タグまたは式の表示名は、グループ内で一意である必要があります。表示名の一意性のチェックでは、大文字と小文字が区別されません。例えば、End-User という表示名と END-USER という表示名を同じグループ内に作成することはできません。

7) ユーザーが出力内の 1 つのグループから複数のフィルター基準を選択できるようにするには、「出力に複数選択を許可」にチェックマークを付けます。

8) ナビゲーションの矢印を使用して、フィルター内でグループ、タグ、式を移動します。

例えば、グループ外へタグを移動するには、左向き矢印をクリックします。これによりタグは、それ自体が含まれているグループと同じレベルおよびそのグループの上のレベルに移動されます。右向き矢印は、グループ外のタグを次のグループへ移動するときに使用します。また、グループ内でタグを上下に移動することもできます。

注: アイテムは、ドラッグアンドドロップで移動することもできます。

9) 「保存」をクリックします。

10) レイアウト設定ダイアログで「保存して生成」をクリックします。

出力でのダイナミックコンテンツフィルターの使用

このセクションでは、出力でのダイナミックコンテンツフィルターの使用方法について説明し、さらに、タグをコンテンツに適用するときおよびフィルターにタグを使用するときの想定事項について説明します。

ダイナミックコンテンツフィルターをレイアウトに割り当てた後、レイアウトの出力を生成できます。

出力に、フィルターアイコンが表示されるようになりました。フィルターアイコンをクリックすると、現在のレイアウトに割り当てられているダイナミックコンテンツフィルターが表示されます。

重要: 出力内のどのコンテンツにもタグが割り当てられていない場合、タグはフィルターに表示されません。そのため、グループ内のすべてのタグがフィルターに表示されない場合は、グループが表示されません。また、フィルターで（タグとして、または式の一部として）タグを使用しない場合、このタグは、プロジェクト内の適用先コンテンツから削除されます。

デフォルトでは、フィルター内のすべてのグループおよび基準が選択解除されます。つまり、フィルター基準が現在適用されていないため、すべてのコンテンツが（条件なしで）表示されます。ただし、フィルターの作成中にデフォルトを設定すると、デフォルトグループが選択された状態で表示されます。

コンテンツをフィルタリングするには、フィルター内のグループまたは基準のチェックマークを付けたり外したりします。

以下のセクションでは、ダイナミックコンテンツフィルタリングメカニズムの機能方法を説明するために、2つのシナリオについて詳しく説明します。

グループから1つの基準（タグまたは式）を選択する

「セールスビルダー」というフィルターで、地域グループの「米国」にチェックマークを付けたとします。

- 米国タグの付いたすべてのコンテンツが表示されます。
- 米国タグとその他のタグが組み合わせて付されたすべてのコンテンツが表示されます。

  米国タグと英国タグの付いたコンテンツが表示されます。ただし、英国タグの付いたトピックは非表示になります。また、英国タグとカナダタグの付いたコンテンツも非表示になります。
- 対象者グループのタグが付されたすべてのコンテンツは、米国タグも同時に付されない限り、表示されません。

  米国タグとPDFタグの付いたコンテンツは表示されます。ただし、PDFタグのみが付いたコンテンツは非表示になります。また、英国タグと印刷タグの付いたコンテンツも非表示になります。
- すべてのタグなしコンテンツが表示されます。

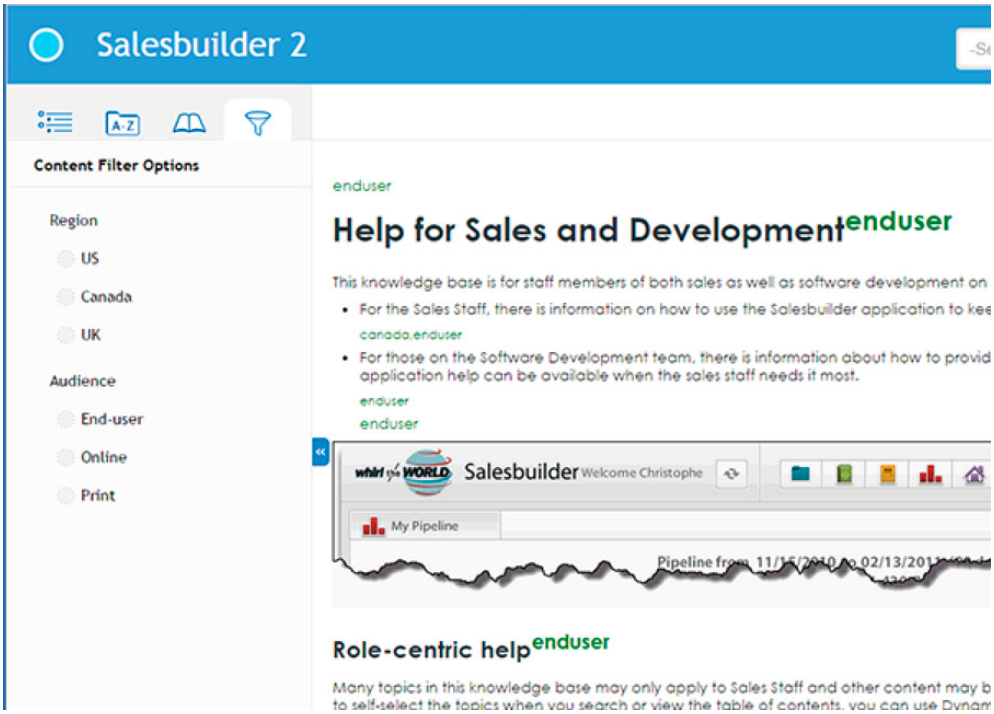
1つのグループから1つの基準を選択し、2番目のグループから別の基準を選択する

「セールスビルダー」フィルターで、地域グループの「米国」および対象者グループの「印刷」にチェックマークを付けたとします。

ダイナミックコンテンツフィルターのテスト

ダイナミックコンテンツフィルターを作成し、出力に適用した後、「タグ付き出力を表示」オプションを使用して、フィルターをテストできます。このオプションを選択した場合、タグを適用したコンテンツ内の位置にタグが表示された状態で、出力が生成されます。その後、フィルター基準を選択して、フィルターの機能方法をテストできます。

enduser タグが表示されたサンプル出力



タグ付き出力を生成するには

1) 出力（SSL）ポッドを開くには、ポッドドロップダウンから「出力（SSL）」を選択します。

   ポッドドロップダウンは、プロジェクトリボン、編集リボン、レビューリボンに表示されます。

2) 出力（SSL）ポッドでレスポンシブ出力またはモバイル出力を右クリックし、「タグ付き出力を表示」を選択します。

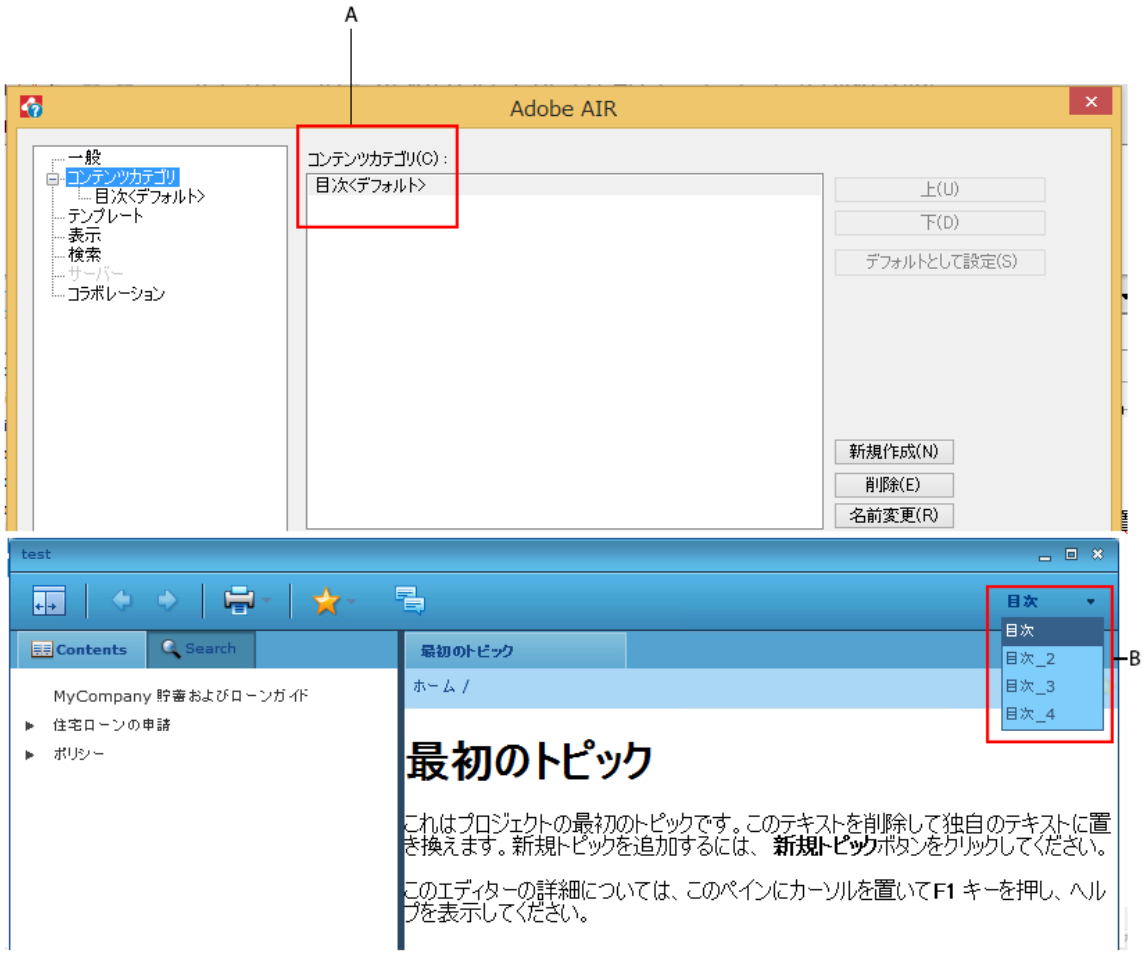
タグ付き出力が生成されます。

動的なユーザー中心のコンテンツ（DUCC）の生成

Adobe® AIR® および WebHelp 出力を、様々なコンテンツカテゴリを含む統合されたヘルプシステムとして生成します。ユーザーは、自分に関係のあるコンテンツカテゴリを選択したり、コンテンツカテゴリ内で検索したりします。各コンテンツカテゴリは、独自の目次、索引、およびカテゴリを含みます。エンドユーザーがさまざまな役割、製品、またはバリアントのためのコンテンツ間を素早く切り替える必要がある場合は、動的なユーザー中心のコンテンツを作成すると便利です。例えば、コールセンターのエージェントが扱うクエリーは、システム管理者の様々な領域（例えば、ユーザー管理、サイト管理、コンテンツ管理など）に関係する場合があります。システム管理コンテンツを同一インターフェイスからアクセス可能な一連のモジュール化コンテンツカテゴリとして表示したり検索したりする機能は、クエリーをリアルタイムで処理する状況では時間の節約となります。

コンテンツカテゴリを作成する方法については、Adobe AIR レイアウトの設定および WebHelp 出力の生成を参照してください。

A.SSL でのコンテンツカテゴリ定義 B. 出力でのコンテンツカテゴリ選択



Microsoft SharePointのネイティブ（ASPX）またはHTML出力の生成

Microsoft SharePointは、小組織にも大組織にも人気のWebプラットフォームです。複数のWebアプリケーションの置き換えを中央管理するよう設計されており、エンタープライズWebサイトに必要な様々な組み合わせをサポートします。通常は、Webコンテンツの管理とドキュメント管理システムに関連しています。

関連するリンク：

PDFレビュー

コメントおよび変更の管理

ネイティブ（ASPX）マルチスクリーン出力のMicrosoft SharePointへの公開

マルチスクリーンHTML5 SSLを使用すると、ネイティブ（ASPX）出力をSharePoint 2010以降のドキュメントライブラリまたはSharePoint 2007のフォルダーに直接公開できます。公開した出力をブラウザに表示すると、トピックはSharePoint Chromeに単一の連続したHTMLページとして表示されます。

操作手順については、マルチスクリーンHTML5出力の生成を参照してください。

注意：

- （Internet Explorerの場合のみ）コンテンツにPDFドキュメントを含むiFrameがある場合は、読者はページの一番最後まで下方にスクロールできない場合があります。この問題を回避するには、SharePointのファイルの取り扱いを参照プロパティを「許可」に設定します。
- Site Member権限でSharePointに再公開できない場合は、SharePointの「ページの追加とカスタマイズ」の権限があるかどうか確認します。
- SharePointに公開中のトピック/画像の名前に二重ドット（..）がないことを確認します。ある場合は、公開操作が**不正な要求**エラーで失敗します。

Microsoft SharePointへのHTML出力の公開

WebHelp、FlashHelpおよびブラウザーベースヘルプ（Adobe AIR SSL）

UNCパスを使用したSharePointサイトにHTML出力を公開します。WebHelp出力の生成およびブラウザーベースのヘルプをホストするためのサーバーの設定を参照してください。

レイアウトタイプの使用

レスポンシブ HTML5 のレイアウト

ほとんどの Web ブラウザーは、スマートフォンやタブレットなど画面の小さいデバイスでコンテンツを表示するためのネイティブ最適化をサポートしています。ただし現在デバイスの種類が多様になってきているため、このような汎用最適化は不十分である場合が多くなっています。

レスポンシブ HTML5 SSL を使用すると、特定の種類のデバイスに最適な表示を提供できます。デバイスごとに異なるスクリーンプロファイルを追加および設定し、これらのスクリーンプロファイル用に HTML5 出力を生成することができます。ユーザーが使用しているデバイスで HTML5 出力のランディングページを表示すると、そのデバイスに最適化されたコンテンツに自動的にリダイレクトされます。

さまざまなデバイスに最適化された HTML5 出力

スクリーンレイアウトによって、ナビゲーションリンクなどコンテンツと出力の要素をデバイスに表示する方法を選択しカスタマイズすることで、表示が改善されます。

プロジェクトを作成すると、プロジェクトにレスポンシブ HTML5 のレイアウトが追加されます。デフォルトのレスポンシブ HTML5 SSL には、iPad、iPhone、Kindle Fire、Samsung Galaxy Tab など、一般的なデバイスのスクリーンプロファイルが含まれています。スクリーンプロファイルは、定義済みのスクリーンレイアウトにマッピングされます。

関連するリンク：

マルチスクリーンHTML5出力の生成

スクリーンプロファイル

スクリーンレイアウト

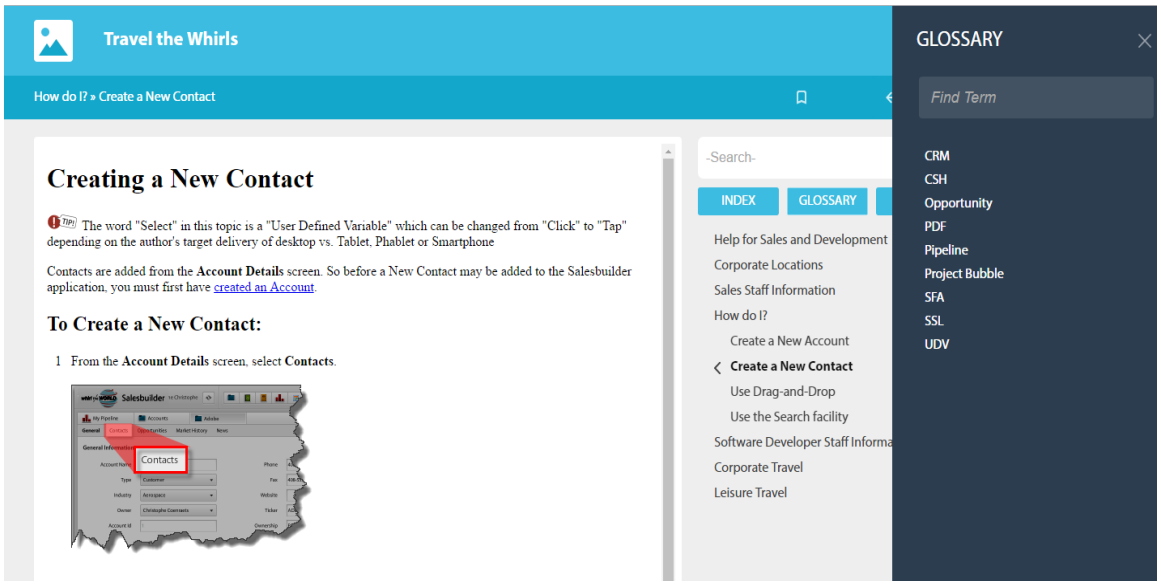
スタイルのメディアルールおよび属性

メディアクエリー

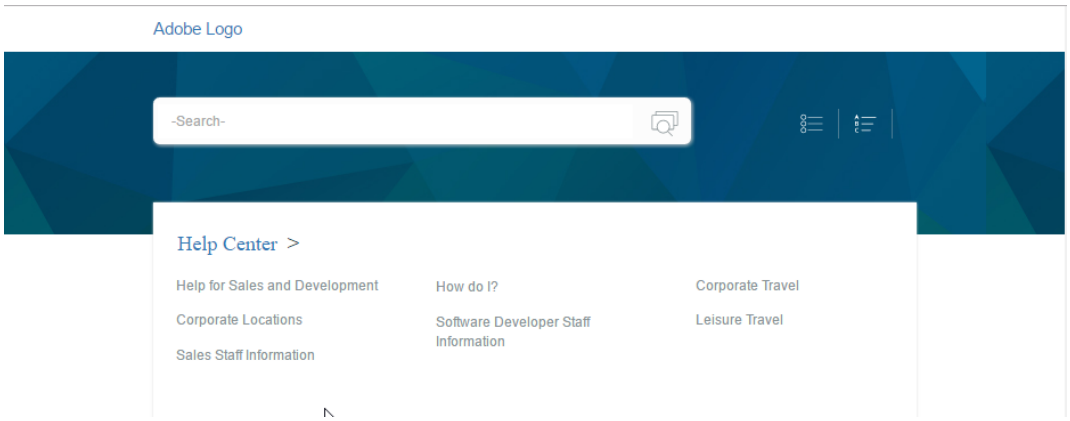
カスタマイズ可能なHTML5レイアウト

充実したHTML5レイアウトを使用すれば、対象ユーザーに視覚的にリッチなコンテンツを提供できます。各レイアウトの特徴は次のとおりです。

1) インディゴ：このレイアウトは、Webデザインの最新トレンドに従って構築されています。印象的な見た目と比類のない機能性を組み合わせました。インディゴは、特別なニーズを持ったユーザー向けのコンテンツ作成を想定した508条対応のレイアウトであると同時に、優れた検索性能と直感的なナビゲーション体験を提供します。用語集や目次などのウィジェットの表示／非表示や、トピックをお気に入りに追加など、アクセスを容易にする機能が充実しています。右のサイドバーに位置する表示／非表示の垂直メニューはユーザーフレンドリーなインターフェースであり、索引、用語集、フィルターを自在にナビゲーションできます。



2) オーシャンブルー：このレイアウトは専門的にデザインされたWebテンプレートです。すっきりとしたレイアウトのシンプルなデザインが特徴です。ページ最下部で、ページ内のトピックスクロールが可能になりました。ユーザーはヘッダーまでスクロールして戻ることなく、ページトップのさまざまなコンテンツカテゴリーにいつでもアクセスすることができます。



これらレイアウトのコンテンツは、デバイスの画面サイズに応じてダイナミックに調整されます。

RoboHelpをインストールすると、ギャラリーフォルダーにデフォルトのスクリーンレイアウトがあります。これらのレイアウトにアクセスするには：

1) 出力設定ポッドで、「スクリーンレイアウト」を右クリックし、「新規レスポンシブレイアウト」を選択します。

2) ギャラリーで使用可能なリストからインディゴまたはオーシャンのレイアウトを選択します。

3) （オプション）レイアウトの新しい名前を指定できます。

サポートされるブラウザー

レスポンシブ HTML5 SSL を使用して生成される出力のプライマリターゲットは、Android OS と Apple iOS です。

HTML5 出力は、次のブラウザーでサポートされます。

プラットフォーム	サポートされるブラウザー
Android OS	デフォルトでインストールされている Webkit ベースのブラウザー（Chrome Lite）
iOS	Apple Safari
Windows Desktop OS	Firefox 4+、Chrome 9+、Internet Explorer 9
Mac OS	Apple Safari

注: HTTP サーバーの他にも、HTML5 出力を HTTPS サーバーに公開することもできます。

オンラインとオフラインの動作

HTML5 出力は、オンラインとオフラインの両方でアクセスできます。エンドユーザーは、出力をデバイスのローカルメモリにコピーすることで、オフラインでブラウザーに出力を表示することができます。

レスポンシブ HTML5 の前提条件の設定

レスポンシブ HTML5 SSL の設定を始める前に、次のことを検討してください。

デフォルトのスクリーンプロファイル

HTML5 SSL に、デフォルトのスクリーンプロファイルを設定します。デバイスの寸法とブラウザーエージェントの組み合わせが、どのスクリーンプロファイルとも一致しない場合は、デフォルトのスクリーンプロファイルが使用されます。

デバイス画像とコンテンツウィンドウ

スクリーンプロファイルのプロパティでデバイス画像を選択します。デバイス画像は、選択したスクリーンプロファイルでコンテンツをプレビューする場合に、出力の外観と雰囲気を可視化するのに役立ちます。例えば、ユーザーに iPhones のプロジェクトの HTML5 出力を表示したい場合、iPhone のデバイス画像を追加すると、iPhone でその出力を実際に表示する場合と近いプレビュー表示ができます。

スクリーン解像度

スクリーンプロファイルで、スクリーン解像度の範囲を指定し、より小さいスクリーン解像度のデバイス用にスクリーンプロファイルを作成します。スクリーン解像度はスクリーンサイズとは異なり、同じようなスクリーンサイズの 2 つのデバイスでも、スクリーン解像度は非常に異なる場合があります。

ブラウザーエージェント（ユーザーエージェント）

スクリーン解像度の範囲は同じでもブラウザーは異なるデバイス用に、様々なスクリーンプロファイルを作成し、ブラウザ固有の外観を表示できます。

スクリーンプロファイルのプロパティでブラウザーを指定すると、RoboHelp はそのスクリーンプロファイル用に生成された出力にブラウザーエージェント ID を追加します。ユーザーが使用しているデバイスで HTML5 出力用のランディングページを表示すると、ブラウザーはブラウザエージェント ID とその他のスクリーン設定を確認し、そのブラウザーとデバイスに最適化されたコンテンツをロードします。

ブラウザーの定義済みリストには、現在一般的なデバイスが考慮されています。リストにブラウザーを追加する場合は、そのブラウザーのユーザーエージェントの文字列から固有の文字列を指定します。ユーザーエージェント文字列のリストを参照してください。

HTML5 出力生成のワークフロー

HTML5 出力を生成するには、次のワークフローを使用します。

デフォルトスクリーンプロファイルを持つ新規プロジェクト

レスポンシブ HTML5 SSL の一般プロパティを設定してから、検索プロパティと最適化プロパティを設定し、出力を生成します。

カスタムスクリーンプロファイルを持つ新規プロジェクト

この場合は、レスポンシブ HTML5 SSL の設定を始める前に、プロジェクトにカスタムスクリーンプロファイルが含まれている必要があります。新規スクリーンプロファイルをプロジェクトに追加する方法についての詳細を参照してください。プロジェクトでカスタムスクリーンプロファイルが使用可能になったら、レスポンシブ HTML5 SSL にスクリーンプロファイルを追加し、その他のプロパティを設定し、出力を生成します。

アップグレードされたプロジェクト

プロジェクトをアップグレードする場合は、RoboHelp はスクリーンプロファイルを追加しますが、新規 SSL またはスクリーンレイアウトは追加しません。プロジェクトをアップグレードしたら、ギャラリからスクリーンレイアウトを追加します。レスポンシブ HTML5 タイプの新規 SSL を追加し、必要に応じてレスポンシブ HTML5 SSL を設定し、出力を生成します。

既存の WebHelp プロジェクトを新しい外観と雰囲気で公開する場合は、このワークフローを使用します。レスポンシブ HTML5 出力は HTML5 と互換性があるため、フレームなしのレイアウトを作成でき、高画質のビデオ（MP4）を使用できます。

HTML5 出力を作成するための推奨事項

- フレームセットは使用しないでください。
- MP4 ビデオを使用します。マルチメディアの追加を参照してください。

マルチスクリーンのレイアウト

ほとんどの Web ブラウザーは、スマートフォンやタブレットなど画面の小さいデバイスでコンテンツを表示するためのネイティブ最適化をサポートしています。ただし現在デバイスの種類が多様になってきているため、このような汎用最適化は不十分である場合が多くなっています。

マルチスクリーン HTML5 SSL を使用すると、特定の種類のデバイスに最適な表示を提供できます。デバイスごとに異なるスクリーンプロファイルを追加および設定し、これらのスクリーンプロファイル用に HTML5 出力を生成することができます。ユーザーが使用しているデバイスで HTML5 出力のランディングページを表示すると、そのデバイスに最適化されたコンテンツに自動的にリダイレクトされます。

さまざまなデバイスに最適化されたHTML5出力

スクリーンレイアウトによって、ナビゲーションリンクなどコンテンツと出力の要素をデバイスに表示する方法を選択しカスタマイズすることで、表示が改善されます。

プロジェクトを作成すると、プロジェクトにマルチスクリーンHTML5のレイアウトが追加されます。デフォルトのマルチスクリーンHTML5 SSLには、iPad、iPhone、Kindle Fire、Samsung Galaxy Tabなど、一般的なデバイスのスクリーンプロファイルが含まれています。スクリーンプロファイルは、定義済みのスクリーンレイアウトにマッピングされます。

関連するリンク：

マルチスクリーンHTML5出力の生成

スクリーンプロファイル

スクリーンレイアウト

スタイルのメディアルールおよび属性

メディアクエリー

サポートされるブラウザー

マルチスクリーン HTML5 SSL を使用して生成される出力のプライマリターゲットは、Android OS と Apple iOS です。

HTML5 出力は、次のブラウザーでサポートされます。

プラットフォーム	サポートされるブラウザー
Android OS	デフォルトでインストールされている Webkit ベースのブラウザー（Chrome Lite）
iOS	Apple Safari
Windows Desktop OS	Firefox 4+、Chrome 9+、Internet Explorer 9
Mac OS	Apple Safari

注: HTTP サーバーの他にも、HTML5 出力を HTTPS サーバーに公開することもできます。

オンラインとオフラインの動作

HTML5 出力は、オンラインとオフラインの両方でアクセスできます。エンドユーザーは、出力をデバイスのローカルメモリにコピーすることで、オフラインでブラウザーに出力を表示することができます。

マルチスクリーン HTML5 の前提条件の設定

マルチスクリーン HTML5 SSL の設定を始める前に、次のことを検討してください。

デフォルトのスクリーンプロファイル

HTML5 SSL に、デフォルトのスクリーンプロファイルを設定します。デバイスの寸法とブラウザーエージェントの組み合わせが、どのスクリーンプロファイルとも一致しない場合は、デフォルトのスクリーンプロファイルが使用されます。

デバイス画像とコンテンツウィンドウ

スクリーンプロファイルのプロパティでデバイス画像を選択します。デバイス画像は、選択したスクリーンプロファイルでコンテンツをプレビューする場合に、出力の外観と雰囲気を可視化するのに役立ちます。例えば、ユーザーに iPhones のプロジェクトの HTML5 出力を表示したい場合、iPhone のデバイス画像を追加すると、iPhone でその出力を実際に表示する場合と近いプレビュー表示ができます。

スクリーン解像度

スクリーンプロファイルで、スクリーン解像度の範囲を指定し、より小さいスクリーン解像度のデバイス用にスクリーンプロファイルを作成します。スクリーン解像度はスクリーンサイズとは異なり、同じようなスクリーンサイズの 2 つのデバイスでも、スクリーン解像度は非常に異なる場合があります。

ブラウザーエージェント（ユーザーエージェント）

スクリーン解像度の範囲は同じでもブラウザーは異なるデバイス用に、様々なスクリーンプロファイルを作成し、ブラウザ固有の外観を表示できます。

スクリーンプロファイルのプロパティでブラウザーを指定すると、RoboHelp はそのスクリーンプロファイル用に生成された出力にブラウザーエージェント ID を追加します。ユーザーが使用しているデバイスで HTML5 出力用のランディングページを表示すると、ブラウザーはブラウザエージェント ID とその他のスクリーン設定を確認し、そのブラウザーとデバイスに最適化されたコンテンツをロードします。

ブラウザーの定義済みリストには、現在一般的なデバイスが考慮されています。リストにブラウザーを追加する場合は、そのブラウザーのユーザーエージェントの文字列から固有の文字列を指定します。ユーザーエージェント文字列のリストを参照してください。

HTML5 出力生成のワークフロー

HTML5 出力を生成するには、次のワークフローを使用します。

デフォルトスクリーンプロファイルを持つ新規プロジェクト

マルチスクリーン HTML5 SSL の一般プロパティを設定し、検索プロパティと最適化プロパティを設定し、出力を生成します。

カスタムスクリーンプロファイルを持つ新規プロジェクト

この場合は、MultiscreenHTML5 SSLの設定を始める前に、プロジェクトにカスタムスクリーンプロファイルが含まれている必要があります。新規スクリーンプロファイルをプロジェクトに追加する方法についての詳細を参照してください。プロジェクトでカスタムスクリーンプロファイルが使用可能になったら、マルチスクリーンHTML5 SSLにスクリーンプロファイルを追加し、その他のプロパティを設定し、出力を生成します。

アップグレードされたプロジェクト

プロジェクトをアップグレードする場合は、RoboHelpはスクリーンプロファイルを追加しますが、新規SSLまたはスクリーンレイアウトは追加しません。プロジェクトをアップグレードしたら、ギャラリからスクリーンレイアウトを追加します。マルチスクリーンHTML5タイプの新規SSLを追加し、必要に応じてマルチスクリーンHTML5 SSLを設定し、出力を生成します。

既存のWebHelpプロジェクトを新しい外観と雰囲気で公開する場合は、このワークフローを使用します。マルチスクリーンHTML5出力はHTML5と互換性があるため、フレームなしのレイアウトを作成でき、高画質のビデオ（MP4）を使用できます。

HTML5出力を作成するための推奨事項

- フレームセットは使用しないでください。
- MP4ビデオを使用します。マルチメディアの追加を参照してください。

eBookのレイアウト

eBookのレイアウトは、EPUB3およびKindle Book（MOBI）形式で出力を生成する場合に役立ちます。

RoboHelpはXHTMLベースのコンテンツを含む1つのファイルを作成します。書き出されたファイルには、ドキュメントの表紙のために指定したサムネイル画像が含まれています。このサムネイルは、eBookリーダーのライブラリビューでブックを表示するために使用されます。

関連するリンク：

EPUBおよびKindle Book出力の生成

WebHelpのレイアウト

WebHelpについて

WebHelpはコンパイルされない出力形式であり、ユーザは任意のブラウザとプラットフォームでWebベースまたはデスクトップのアプリケーションのヘルプを確実に表示できます。WebHelpは標準のヘルプ機能をサポートし、カスタマイズ機能を備えています。

Adobe Dreamweaverなどの別のHTMLエディターでコンテンツを作成でき、その場合でもWebHelpが提供するヘルプのナビゲーション機能や編成機能を利用できます。

ブラウザーが古くてDHTML（ナビゲーションペインの表示に使用されます）をサポートしない場合、WebHelpはサポートされている別の形式を使用してナビゲーションペインを表示します。

WebHelpとMicrosoft HTMLヘルプの相違点

WebHelp	Microsoft HTML Help
Webブラウザーによるサポート	Microsoft HTMLヘルプエンジンが必須
コンパイルされていない出力ファイル	コンパイル、圧縮された形式（CHMファイル）
任意のプラットフォームで動作可能	32ビットのWindowsプラットフォームが必須
サーバーベースの配布に最適	サーバーベースの配布に必要な対応策

WebHelpに対するMac OSの制限事項

- Mac OSのファイル名には、32文字の制限があります。
- 出力は、DHTMLではなくHTMLとして表示されます。
- BMP画像ファイルは正しく表示されません。

WebHelp での検索ハイライトの追加と削除

WebHelp システムでは、検索結果はデフォルトで表示されるトピック内でハイライトされます。自分の環境設定に従ってハイライト色を設定できます。

注: WebHelp、WebHelp Pro、FlashHelp および FlashHelp Pro のいずれのプロジェクトでも、検索ハイライトを有効にする手順は同じです。

1) WebHelp レイアウトをダブルクリックします。
2) 「ナビゲーション」をクリックします。
3) 「検索結果のハイライトを有効にする」を選択または解除します。
4) 検索結果のハイライトが有効になっているときに、カラーピッカーボックスをクリックし、ポップアップメニューからお好きなハイライト色を選択します。

Section 508 準拠の WebHelp の作成

Section 508 準拠の出力は、視覚、聴覚、または運動機能に障害のあるユーザーがヘルプを利用しやすくします。

文章読み上げユーティリティは、アクティブウィンドウの内容、使用可能なオプション、または入力されたテキストを読み上げます。これらのユーティリティおよび画面レビュー補助機能は、画面に表示されているテキストを音声に、または動的に更新可能な点字表示に変換します。この技術は、キーボードアシスタントまたはショートカット、スピーチおよびサウンドへの見出し、およびツールバーを点滅するなどの視覚的注意を提供すことができます。

Section 508 準拠の WebHelp を作成するときは、次のことを考慮してください。

- Section 508 オプションを使用して生成された WebHelp システムは、サポートされているすべてのブラウザーで開きます。ただし、準拠していることを確認するには、Internet Explorer で出力を表示します。
- マスタープロジェクトがピュア HTML または Section 508 準拠 WebHelp を使用して生成されている場合、WebHelp システムをマージすると、サブプロジェクトは目次からのみ利用できます。索引または全文検索からは利用できません。サブプロジェクトは、目次のブックとして表示されます。ユーザーがサブプロジェクトの目次ブックをクリックすると、サブプロジェクトは新規のブラウザーウィンドウで開きます。

Section 508 準拠をサポートする WebHelp の機能

- 画像、動的要素、フレーム、フォームなどに対する代替テキストを提供する Section 508 準拠オプション。視覚に障害のあるユーザーは、補助ソフトウェアを使用することで、出力での現在位置および現在の選択内容を聞くことができます。
- 代替テキストは、目次ブックの画像、ページ、プラス/マイナスアイコン、「目次」/「検索」/「索引」タブまたはペイン、ナビゲーションボタン、およびデザインタイムコントロールのボタンに対して指定できます。
- 代替テキストのある他の要素としては、拡張およびドロップダウンテキスト、トリガーとターゲット、ポップアップメニューなどがあります。
- 補助ソフトウェアが読み取ることのできるナビゲーションフレーム。
- 補助ソフトウェアが行および列のヘッダーを識別できる HTML テーブルの生成。
- 補助ソフトウェアが読み取ることのできるオンラインフォーム。
- 操作および情報検索の複数のモードが使用できる出力。例えば、運動障害のあるユーザーは、キーボードまたはマウスのいずれかから、より適した方法を利用できます。聴覚、視覚、または運動のみの機能は必要ありません。

ヘルプシステムで Section 508 準拠を保証するためのガイドライン

- WebHelp は、フレームセットおよびナビゲーションに準拠しています。トピック内のその他の要素が準拠していることを確認します。
- ヘルプシステムにフォームボタンまたは画像やオーディオなどのマルチメディア要素が含まれる場合は、画面ヒントなどの視覚的な同等機能を提供し、補助ソフトウェアが画面から読み取ることができるようにします。
- 障害に対応できるように複数のアクセス方法で情報を構成します。色で示される情報には、色を使用しない代替手段を提供します。
- 基本的な外部スタイルシートを使用することで、スタイルシートの使用が無効な場合でも、ドキュメントを読めるようにします。
- Web ページでアプレットを使用する場合は、アプレット用のリーダーをダウンロードできる場所のリンクを含めます。
- キーボードショートカットおよびその他のユーザー補助機能をドキュメント化します。
- HTML ヘルプコントロールは使用しないようにします。

WebHelp 出力の生成、表示、公開

- WebHelp 出力を生成するには、最初に WebHelp 出力を生成するための様々なパラメーターの設定について WebHelp 出力の生成を参照してください。
- 出力生成の基本で WebHelp 出力の生成について学習してください。
- WebHelp 出力を表示する方法については、WebHelp、FlashHelp、WebHelp Pro、FlashHelp Pro の出力の表示を参照してください。
- WebHelp 出力の様々な配信形式については、次を参照してください：出力の公開

関連するリンク：

出力の生成、表示、公開

Microsoft HTML ヘルプのレイアウト

WebHelp および WebHelp Pro プロジェクトのカスタムスキンの作成

Helpprojects のマージ

WebHelp Pro と FlashHelp Pro のレイアウト

WebHelp Pro および FlashHelp Pro について

WebHelp Pro および FlashHelp Pro のレイアウトは、Web およびアプリケーションにサーバーベースの出力を提供します。この出力をサーバーに公開するには、RoboHelp サーバーがインストールされている必要があります。

WebHelp Pro は、標準的なヘルプ機能をサポートするコンパイルされていない出力形式です。

RoboHelp で WebHelp Pro プロジェクトまたは FlashHelp Pro プロジェクトを作成し、コンテンツの作成、機能の追加、および外観のカスタマイズを行います。出力の表示とテストの準備が整ったら、プロジェクトを生成します。RoboHelp は、プロジェクトフォルダー内の単一のフォルダーに出力ファイルを作成します。

速度の向上

「目次」、「索引」、および「検索」タブがより素早く表示されます。

データベースに記録される使用情報

データベースにアクセスしてアプリケーションを改善します。

実行時のプロジェクトのマージ

実行時に、またはサーバーからヘルプシステムにアクセスしたときに、複数のプロジェクトをマージします。

ウィンドウプロパティ

サーバーアクセスに、「ツールバー」、「メニュー」、「ロケーションバー」および「ステータスバー」の各オプションが含まれます。これらのツールプロパティを設定するには、出力設定ポッドのWindowsフォルダーで、ウィンドウをダブルクリックします。

デスクトップヘルプからWebHelp Proへの変換

1) サーバー管理者またはIT部門に問い合わせて、RoboHelpサーバーがインストールされていることを確認し、その名前を教えてもらいます。
2) RoboHelpサーバーのパスまたは場所を確認し、プロジェクトで指定します。
3) プロジェクトをRoboHelpで開きます。出力としてWebHelp Proを設定します。
4) プロジェクトファイルを公開して、サーバーに接続します。
5) サーバーにアクセスするには、ブラウザーのアドレスバーにドメイン名を入力します。URLが分からない場合は、サーバー管理者に問い合わせてください。

関連するリンク：

プライマリレイアウトの指定

出力の表示

出力の公開

Microsoft HTML ヘルプのレイアウト

Microsoft HTML ヘルプについて

HTML は、タグを使用して、ドキュメント内のテキストやグラフィックなどの要素に表示指示のマークを付けます。HTML ヘルプには、トピックの HTML ドキュメント（HTM ファイル）と共にプロジェクトのソースファイルが含まれます。RoboHelp を使用して、リンク、目次、索引、特殊効果、関連トピックボタンなどの機能を追加します。

ユーザーには、HTML ヘルプビューアーで表示する圧縮ファイル（CHM）を配布します。

HTML ヘルプのメインコンポーネントには、次のものが含まれます。

HTML ヘルプ ActiveX コントロール

目次、索引、リンクコントロール（関連トピックやキーワードリンク）などのナビゲーション機能をサポートします。また、WinHelp トピックリンク、スタートアップ画面、ウィンドウ終了コントロールなどの HTML ヘルプコントロールもサポートします。

レイアウトエンジン

Microsoft Internet Explorer 6 以降では、HTML ヘルプのサポートに必要なコンポーネントが提供されています。

HTML ヘルプビューアー

コンパイル済みの HTML ヘルプ（CHM ファイル）を表示します。Internet Explorer ブラウザーのコンポーネントを使用しますが、独自のウィンドウインターフェイスでコンテンツを表示します。

圧縮された HTML

プロジェクトのすべてのファイルを 1 つの CHM ファイルにしたコレクションで、必要なディスク領域が少なく、読み込みが速くなります。このコンパイル済みファイルをアプリケーションと共に提供するか、スタンドアロンのオンライン文書としてユーザーに配布することができます。

Microsoft HTMLヘルプの生成

RoboHelpヘルプコンパイラーは、すべてのソースファイルを配布可能な形式に処理します。処理されたファイルはテストまたは配布することができます。

プロジェクトの任意のステージで出力を生成できます。

コンパイラーのメッセージ

生成時に、メッセージ、統計的な情報、およびコンパイルエラーが表示されます。ソースファイルで問題が発生すると、コンパイラーは次のようなエラーメッセージを表示します。

注意

出力において深刻な問題にはならないと考えられる状況です。注意番号には、1000から2999までの番号が付けられています。

警告

出力で問題が発生する状況です。例えば、コンパイラーが画像を検索できない場合、注意メッセージを表示し、生成を継続します。警告番号には、3000から4999までの番号が付けられています。

エラー

コンパイラーが停止する状況です。原因を調べて修正しないと、出力は正しく生成されません。エラー番号には、5000から6999までの番号が付けられています。

内部エラー

HTMLヘルプWorkshopプログラムによるエラーです。内部エラーには7000以降の番号が付けられています。

目次のブックまたはページのカスタムウィンドウへのリンク（Microsoft HTML Help）

1) 目次ポッドでトピックを右クリックし、新規／ブックまたはページ／を選択して、「詳細設定」タブをクリックします。

2) 目次のブックまたはページを表示するためのオプションを指定します。

ウィンドウ

トピックを表示するカスタムウィンドウを指定します。

フレーム

トピックを表示するフレームを指定します。このリストにはカスタムフレームセットが表示されます。

コメント

目次のコメントはユーザーには表示されません。

画像

目次でブックまたはページを表示するためのカスタムアイコンを選択します。ポップアップメニューをクリックします ▼。下向き矢印キーを押して、使用可能なアイコンのリスト内を移動します。閉じたブックの状態および開いたブックの状態用に異なるアイコンを選択します。

注: カスタムアイコンを表示するには、HTML ヘルプビューアーの「目次」タブで生成と表示を行います。

新規としてマーク

目次のブックアイコンやページアイコンに赤い星を付けて、エンドユーザーに新しいアイテムであることを表します。標準アイコンは次のようなものです。

- 新規ブック
- 新規ページ

情報タイプを使用

このオプションは、「全般」タブで「リンクを含むブック」が選択されている場合にのみ指定できます。情報タイプの目次ブックやページを使用するには、このオプションを選択します。

情報タイプ

「追加」をクリックして、情報タイプのトピックを選択します。情報タイプを変更するには「編集」を、削除するには「削除」をクリックします。

タイプ

ブックまたはページの情報タイプを表示します。

3) 「OK」をクリックします。

CHM ファイルの抽出

コンパイル済みの Microsoft HTML ヘルプファイル（CHM）からソースファイルを取り出すことができます。

1) ツールボックスポッドで「HTML ヘルプ Studio」をダブルクリックします。
2) ファイル／開くを選択して、CHM ファイルを選択します。「開く」をクリックします。
3) 次のいずれかを行います：
   - 個々のファイルまたはフォルダーを取り出すには、ファイルまたはフォルダーを選択してから展開ボタン をクリックします。
   - すべてのファイルを取り出すには、展開ボタンをクリックします。すべてのファイルを選択。
4) 「展開先」の場所を指定します。

CHM ファイルの名前変更

CHM ファイル名は、プロジェクトのファイル名（.xpj）に基づきます。

1) シングルソースレイアウトポッドで、HTML ヘルプを右クリックします。「プロパティ」を選択します。
2) 「出力フォルダーとファイルの名前」に、.chm 拡張子を含むファイル名を入力します。
3) 「保存」をクリックします。

   次にヘルプを生成するときに、CHM ファイルの名前が変更されます。

HTML ヘルプファイルとコンポーネントの検索

1) ツールボックスポッドで「HTML ヘルプファイルを検索」または「ヘルプコンポーネントを検索」をダブルクリックします。
2) 「検索」をクリックします。

   ヒント : 列を再配置またはサイズ変更するには、見出しまたはセパレーターバーをドラッグします。

CHM ファイルの置換

1) ツールボックスポッドで、「HTML ヘルプ登録」をダブルクリックします。

   「名前」列に、ヘルプ作成システムに現在登録されている CHM ファイルが一覧表示されます。

2) 置き換える CHM ファイルを選択します。

3) 「編集」をクリックします。

4) 参照ボタン をクリックして、置き換える CHM ファイルに移動します。

5) ファイルを選択して、「開く」をクリックします。「OK」をクリックします。

   注: CHM ファイルを置き換えても、ユーザーに対するヘルププロジェクトの表示には影響ありません。

CHM ファイルの登録または登録解除

コンパイル済みの Microsoft HTML ヘルプファイル（CHM）をアプリケーションで使用する場合、Help ファイルを登録することがあります。CHM ファイルの登録は、ヘルプ作成システムで行います。ファイルを登録しても、配布されたヘルププロジェクトのユーザーに対する表示には影響ありません。

1) ツールボックスポッドで、「HTML ヘルプ登録」をダブルクリックします。

   - CHM ファイルを登録するには、「登録」をクリックします。CHM ファイルに移動し、「開く」をクリックします。「OK」をクリックします。
   - CHM ファイルの登録を解除するには、ファイルを選択して「登録解除」をクリックします。「OK」をクリックします。

JavaHelp のレイアウト

JavaHelp について

JavaHelp は、圧縮された出力形式であり、Java プログラミング言語で記述されたアプリケーションと連動します。JavaHelp と Java アプリケーションは様々なプラットフォーム上で実行されます。

RoboHelp は JavaHelp 形式をサポートし、すべての Java ベースのヘルプ機能および HTML コンテンツやハイパーテキストリンクなどの HTML ベースの機能を自動的に作成します。既存の WinHelp および HTML プロジェクトを活用して JavaHelp システムを作成することもできます。JavaHelp システムの配布用にファイル圧縮機能を使用できます。

JavaHelp は、圧縮されたファイル（.JAR ファイル）または Java アプリケーションのヘルプシステムを実行するために使用されるファイルのセットです。RoboHelp は、JavaHelp フォルダーに、またはヘルプのコンパイルが選択されている場合は JAR ファイルに、配布するすべてのファイルをコピーします。

必要なシステム

- Sun Java 2 SDK 以降
- JavaHelp 1.1.3 以降

ユーザーの要件

- Java Runtime Environment（JRE）1.2.1 またはそれ以降
- JavaHelp 1.1.3 以降

JavaHelp 出力の生成

JavaHelp を生成すると、ソースファイルがプロジェクトサブフォルダー JavaHelp（デフォルト）に保存されます。

JavaHelp ファイルを生成するとき、RoboHelp は関連トピックのコントロールを JavaHelp に固有のコントロールに変換できます。

1) Bsscjhrc.jar ファイルを、アプリケーションの拡張フォルダーに、または Java 仮想マシン（Java.exe）に渡すクラスパスに格納します。
2) 関連トピックコントロールをトピックに組み込みます。
3) 出力を生成します。

   注: 関連トピックコントロールの代わりに疑問符が表示される場合は、Bsscjhrc.jar ファイルが正しい場所にありません。

関連するリンク：

出力生成の基本

JavaHelp プロジェクトのマージ

参照を追加することで、外部ヘルプセットファイルのすべての要素は既存のプロジェクトとマージされます。

注: 外部のナビゲーションビュー（目次、索引、検索）をリモートビューとして追加できます。ただし、外部の HS ファイルへの参照を追加すると、すべてのビューが、他のプロジェクトファイルと共に、既存のプロジェクトに追加されます。

JavaHelp の制限

大文字と小文字について

すべての大文字および小型大文字をサポートします。

カスタムカラー

JavaHelp ビューアーでは、一部のカスタムカラーが正しく表示されません。

拡張用語集ホットスポットの定義

インラインで表示されます。

フォント

フォントは、JavaHelp のデフォルトフォントに自動的に設定されます。フォントサイズはサポートされません。

フォーム

JavaHelp ビューアーでは、単純なフォームのみが正しく表示されます。

フレームセット

サポートされません。

Word 2000 以降で生成した HTML ファイル

サポートされません。

HTML ヘルプコントロール

WinHelp トピック、ショートカット、目次、索引、スプラッシュ画面、ウィンドウ終了および HHCTRL バージョンをサポートします。

画像

圧縮されたJavaHelpでは同じように表示されません。背景画像と画像マップはサポートされていません。

リンク

電子メールアドレス、FTPサイト、および外部ファイルへのリンクをサポートします。

リスト

JavaHelpビューアーでは、簡単な箇条書きと番号付きリストだけが正しく表示されます。

マルチメディア

WAVやMIDIなどのサウンドファイルおよびAVIなどのビデオファイルをサポートします。

段落整列

P align="center" などのタグをサポートします。

標準テキスト

HTML以外のファイルをサポートします。

ポップアップリンク

ポップアップノート全体がコンテンツフレームに含まれる場合、ポップアップノートウィンドウの下端の境界は表示されません。この制限はテキストのみのポップアップノートには当てはまりません。

特殊効果

ActiveXコントロール、DHTML、JavaScript、スタートアップスクリーンおよびVisual Basicスクリプトをサポートします。

スタイルシート

部分カスケーディングスタイルシートのサポートは、JavaHelp 1.1で提供されます。外部スタイルシートは正しく動作します。レベル1のカスケーディングスタイルシートは、Sun Java 2 JDK以降で使用できます。または、Sun Java 2 JDKではSwing 1.1.1を使用できます。

表の幅、配置、罫線の効果

次の属性はサポートされません。

- 最初のTABLEタグで値が設定された表がセルの幅の指定よりも優先されます。
- テーブル幅属性（TABLE WIDTH）は、パーセントではなく絶対ピクセルで指定した場合に機能します。
- TABLEタグで使用すると、背景色の属性BGCOLORが機能しません。
- BRタグ（改行）をTABLEタグで使用すると、使用したBRタグの数だけ表のセルが拡張します。

  注: この機能はJavaHelp 1.1.3以降でサポートされています。
- 表の配置を正確に設定できない。

テキストアニメーションと効果

サポートされません。

Oracle Helpのレイアウト

Oracle Helpについて

Oracle Helpは、Javaやその他のアプリケーションと連動する出力形式です。

Oracle Helpは、圧縮されたファイル（.jar）またはアプリケーションのヘルプシステムを実行するために使用されるファイルのセットです。Oracle Helpを生成すると、配布するファイルは1つの出力フォルダーに作成されます。

必要なシステム

- Oracle Helpコンポーネント、バージョン3.2.2または4.1.2以降

  注: バージョン3.2.2は、EWTと呼ばれるOracle内部Java GUIツールキットを使用して作成されています。バージョン4.1.2は、Java Foundation Classを使用して作成されています。機能、API、およびサポートされるファイル形式は、どちらのバージョンでも同じです。JFCを使用してアプリケーションを作成するには、またはヘルププロジェクト用にカスタムナビゲーターを作成するには、バージョン4.1.2以降を使用します。開発者がOracle製品を使用している場合は、バージョン3.2.2を使用します。

- Sun Java 2 SDK 以降
- Java Runtime Environment（JRE）バージョン 1.2.1 以降

Oracle Help には、Oracle Help コンポーネント、Oracle Help ビューアー、および開発者用の API ドキュメントが含まれます。

ユーザーの要件

- Oracle Help コンポーネント（バージョン 3.2.2 または 4.1.2 以降）
- Oracle Help プロジェクト（コンパイル済みの JAR ファイル、または個別のソースファイルを含むフォルダーとして）
- Sun Java SDK（バージョン 2 以降）または Java Runtime Environment（バージョン 1.2.1 以降）

  注: Oracle Help をコンパイルするときは、java コンパイラーコマンドの呼び出し時にエンコーディングタイプが utf-8 (-Dfile.encoding=UTF8) に設定されていることを確認してください。こうすることで、ヘルプが正しく生成され、すべてのシステムで表示できます。

Oracle Help のトピック ID の更新

Oracle Help は、（マップファイル内の）トピック ID を使用して、状況依存ヘルプを呼び出します。トピック ID は、トピックの meta タグを編集することによって変更できます。

1) HTML エディターでトピックを開きます。

注意：

- 2 つのトピックが同じトピックタイトルである場合、後から生成した方に別の ID が割り当てられます（「TopicID」が「TopicID1」になるなど）。
- 2 つのトピックのトピック ID meta タグが同じ場合、生成の際に出力表示ポッドに警告が表示されます。
- トピックにトピック ID を指定するタイトルや meta タグがない場合、RoboHelp はファイル名に基づいてトピック ID を作成します。

Oracle Helpのトピックウィンドウの設定

デザインエディターでトピックのmetaタグを編集することで、トピックを表示するウィンドウを指定します。ウィンドウを指定しないと、デフォルトのウィンドウが使用されます。

1) HTMLエディターでトピックを開きます。

2) metaタグを編集します。

```
meta name = "window-type" content =["window name"]
```

Oracle Helpとリモートビュー

Oracle Helpではビューを使用して、ナビゲーターの左側のペインの内容を定義します。目次、キーワード索引、および全文検索のビューがあります。

Oracle Helpプロジェクトにリモートビューを追加することも可能です。リモートビューは、目次、索引、または全文検索データベースの外部テーブルです。小さいプロジェクトを1つのマスタープロジェクトにマージする場合は、リモートビューを使用します。リモートビューが固有のタブを残すか、既存のビューとマージするかを指定できます。デフォルトでは、エンジン、タイプ、ラベルが同じであるすべてのビューがマージされます。

Oracle Helpでは、ラベルとタイトルの間に重要な区別があります：

ラベル

タブに割り当てられます。

タイトル

目次のトップレベルのブックまたはノードに割り当てられます。

Oracle Helpプロジェクトのマージ

1) Oracle Helpを生成するときに、外部ヘルプセットファイル（.hs拡張子のファイル）への参照を追加します。

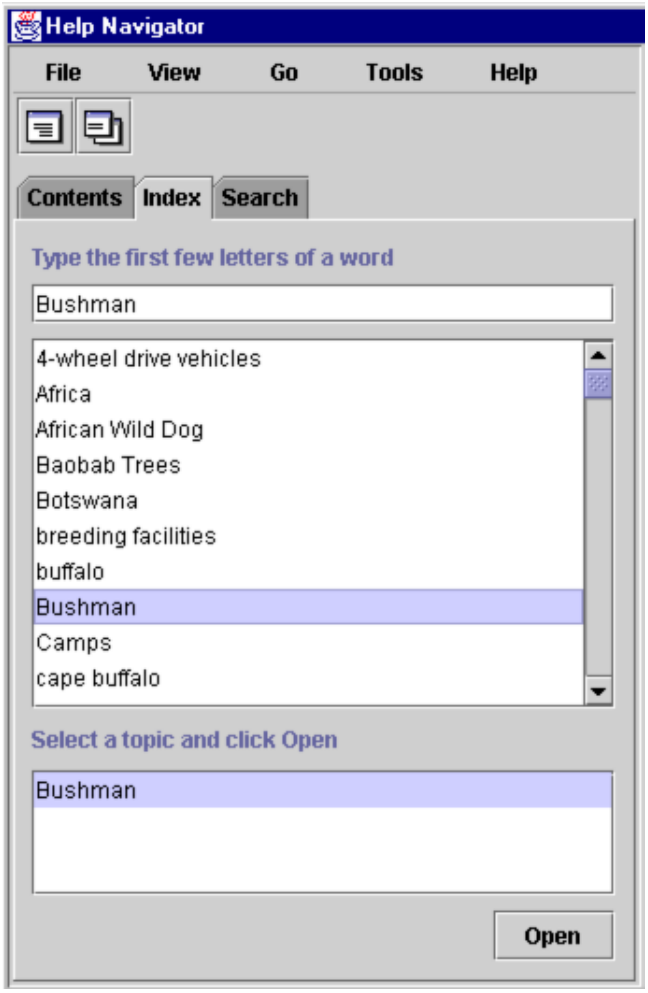
外部HSファイルへの参照を追加すると、すべてのビューが他のプロジェクトファイルと合わせて既存のプロジェクトに追加されます。

Oracle Help 索引

1 レベルのインデントがサポートされています。ユーザーは、キーワードを使用してリストの中を検索できます。キーワードが選択されると、トピックが下のペインにリストされます。下のペインのトピックをダブルクリックして、右側のトピックウィンドウにその内容を表示します。

外部の索引を読み込んで、Oracle Help リモートビューを使用してマージすることができます。個々の索引に対して別々のタブを作成でき、またマージすることもできます。

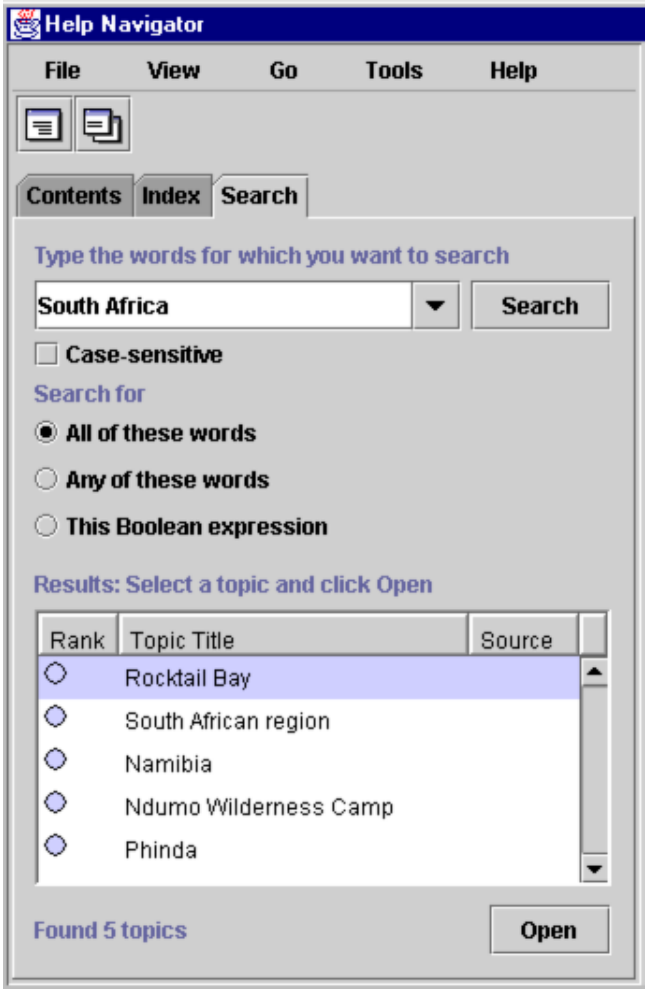
Oracle Help 索引の例



Oracle Help 全文検索

Oracle Help では、検索の結果はアルファベット順ではなく関連性ごとに表示されます。Oracle Help リモートビューを使用して、他のプロジェクトからの全文検索データベースを読み込むことができます。

Oracle Help 全文検索の例



Oracle Help の制限

すべての Oracle Help プロジェクトにすべての制限が適用されるわけではありません。

大文字と小文字について

すべての大文字および小型大文字をサポートします。

拡張用語集ホットスポットの定義

インラインで表示されます。

フォント

サポートされるフォントが限られます。

「用語集」ペイン

用語集デザイナーを使用するときはサポートされません。

HTML ヘルプコントロール

WinHelp トピック、ショートカット、目次、索引、スプラッシュ画面、ウィンドウ終了および HHCTRL バージョンをサポートします。

リンク

電子メールアドレス、FTP サイト、および外部ファイルへのリンクをサポートします。

リスト

Oracle Help ビューアーでは、簡単な箇条書きと番号付きリストだけが正しく表示されます。

マルチメディア

WAV や MIDI などのサウンドファイルおよび AVI などのビデオファイルをサポートします。

標準テキスト

HTML 以外のファイルをサポートします。

特殊効果

ActiveX コントロール、DHTML、JavaScript、スタートアップスクリーンおよび Visual Basic スクリプトをサポートします。サポートされていない DHTML は、生成される Oracle Help プロジェクトではプレーンテキストとして表示されます。

テキストアニメーションと効果

サポートされません。

XMLのレイアウト

RoboHelpでは、ハンドラーを使用して、XMLをHTMLに変換し、XMLファイルをトピックに読み込みます。ハンドラーを使用すると、トピックまたはプロジェクト全体をXMLとして書き出すこともできます。HDFエディターでXMLハンドラーを作成したりカスタマイズしたりすることができます。

事前に定義された次のハンドラーファイルを使用できます。

トピックとしてのDocBookの読み込み

選択したDocBookファイルをHTMLトピックとして読み込みます。

XHTML（*.XML）の読み込み

選択したXHTMLファイルをHTMLトピックとして読み込みます。

XML（CSS/XSL）の読み込み

選択したXMLファイルに関連付けられたスタイルシート（CSSファイルまたはXSLファイル）がある場合、このハンドラーはXMLファイルを書式設定済みのHTMLトピックとして読み込みます。選択したXMLファイルに関連付けられたスタイルシートがない場合は、XMLファイルを書式設定のないHTMLファイルに変換します。この読み込みオプションには、詳細な読み込みオプションも用意されています。XMLファイルをテキストフローまたはツリーフローとして読み込んだり、カスタマイズ済みのCSSファイルまたはXSLファイルを選択したりできます。

注: すべての HDF ファイル（およびハンドラー）を削除すると、XML 読み込み機能または出力機能にはアクセスできません。ハンドラーを含むHDFファイルを読み込むには、XMLハンドラーマネージャーを使用します。また、この機能を有効にするには、RoboHelpを再インストールしてください。

関連するリンク:

XML 出力の生成

XML ファイルの読み込み

Adobe AIRのレイアウト

Adobe AIRレイアウトを使用してヘルプを生成するときに、それをAdobe AIRアプリケーションとして、ブラウザーベースヘルプ（Adobe AIRアプリケーションのテーマとスキンを持つ）として、またはAdobe AIRビューアーで表示できるパッケージ化されたデータファイルとして生成できます。

Adobe AIRは、デスクトップをWebに接続するアプリケーションを開発して展開するためのクロスプラットフォームランタイムです。

注： Linuxの場合、Version 2.6より後ではAIR Runtimeはサポートされません。Version 2.6を使用しているLinuxでは、まだAIRヘルプが実行されます。

Adobe AIRレイアウトで出力を生成する利点については、出力タイプについてを参照してください。

Adobe AIRを使用したヘルプアプリケーションの詳細については、www.adobe.com/go/learn_rh_article_airhelp_jpを参照してください。

Adobe AIRレイアウトの設定

シングルソースレイアウトポッドのAdobe AIRオプションからAdobe AIRレイアウトを設定します。Adobe AIRダイアログボックスで、出力形式を選択したり、インストーラーの設定を行ったり、ユーザーに対するヘルプコンテンツの表示方法を定義したりできます。

1) シングルソースレイアウトポッドで「Adobe AIR」を選択し、次のいずれかの操作を行います。

- 右クリックし、コンテキストメニューから「プロパティ」を選択します。
- 編集／プロパティを選択します。

関連するリンク：

Helpprojectsのマージ

Adobe AIR出力の配布

AIRヘルプのアップデートのホスト

Adobe AIRプロジェクトのカスタムスキンの作成

AIRヘルプでのレビューと共同作業

ヘルプの出力の選択

Adobe AIR用に、次の4つの出力オプションから1つを選択できます。

1) Adobe AIRダイアログボックスの「全般」タブで、出力形式を選択します。

Adobe AIRアプリケーション

埋め込みヘルプとしてAdobe AIRの出力を生成します。ヘルプシステムは、1つのAIRアプリケーションインストーラーとして作成されます。AIRアプリケーションは、ローカルにインストールすることも、ユーザーに配布することもできます。ユーザーは、更新情報がWebで提供されているときはいつでも、Adobe AIRを利用してインストールされているヘルプシステムを更新できます。自動更新の詳細については、Peter Grainge氏が作成したAdobe AIRヘルプ記事の自動更新のセクションを参照してください。**注:** Adobe AIRアプリケーションをインストールするには、JRE 1.6以降がシステムにインストールされている必要があります。

ブラウザーベースのヘルプ

オンラインヘルプまたは埋め込みヘルプとして使用できるブラウザーベースのヘルプをAdobe Flexアプリケーションとして生成します。この出力は、特定の設定のサーバーにアップロードできます。ユーザは、Adobe Flashプラグイン9.0以降がインストールされているブラウザを使用して、このヘルプを表示できます。**注:** ブラウザベースのヘルプは、コメント入力、お気に入り、リソース、RSS、自動更新などのAdobe AIRアプリケーションの機能をサポートしません。

AIRアプリケーションとブラウザーベースのヘルプ

Adobe AIRアプリケーションとブラウザーベースのヘルプという2つの形式のヘルプシステムを同時に生成します。AIRアプリケーションは、コンピューターにインストールして表示できます。ブラウザーベースのヘルプはサーバーにアップロードすることで表示できます。これら2つのヘルプシステムは互いに独立しています。

ヘルプコンテンツのみ

ヘルプビューアーで表示できるデータファイル（RHA）として、ヘルプシステムを生成します。ヘルプビューアーを作成するには、RoboHelpのヘルプビューアーウィザードを使用します。HelpConfigファイルにすべてのファイルの場所を書き込むことで、複数のファイルを1つのビューで表示できます。

注: HelpConfigファイルの構文については、ヘルプコンテンツ設定ファイルの作成と確認を参照してください

複数のプロジェクトの出力を1つの.airファイルにマージする方法の詳しい手順については、www.adobe.com/go/learn_rh_merge_rha_jpを参照してください。

ヘルプの設定

1) Adobe AIRダイアログボックスの「全般」タブで、次の設定を行います。

AIRファイルの出力場所

「参照」をクリックして、ヘルプアプリケーションインストーラー（AIRファイル）のフォルダーを選択し、名前を指定します。デフォルトでは、プロジェクト名の後に.airの付いた名前になります。

開始ページの出力場所（ブラウザーベースヘルプのみ）

ブラウザーベースのヘルプで表示する最初のページを指定します。

ヘルプのタイトル

ヘルプアプリケーションのタイトルを指定します。このタイトルは、ヘルプのタイトルバーとProgram Filesに表示されます。

バージョン

生成されるヘルプアプリケーションのバージョン番号を指定します。通常は、ヘルプアプリケーションの最初のリリースのバージョン番号として1.0を設定し、以降のリリースごとにバージョン番号を1ずつ大きくします。バージョン番号を大きくすることで、ユーザーはローカルインストールで更新されたヘルプコンテンツを識別しやすくなります。

Help ID

ヘルプアプリケーションの固有の識別子を指定します。ヘルプIDには、英数字、ピリオド、およびハイフンを使用できます。

注： 更新されたヘルプを配布するときは、バージョン番号のみを変更してください。インストールされているAIRヘルプは、ヘルプIDとバージョンの組み合わせを利用して、ヘルプの新しいバージョンが入手可能かどうかを識別します。

ヘルプアプリケーションインストーラーの設定

注： オプションで「インストーラーの設定」チェックボックスのチェックを解除すると、署名なしのAdobe AIRアプリケーションを作成できます。このアプリケーションには、後から署名できます。AIRファイルの名前には拡張子.airiが追加され、インストーラーの設定グループ下のフィールドが無効になり、後から署名するAIRIヘルプパッケージを準備するように選択したことが示されます。AIR開発者ツールでAIRヘルプ中間アプリケーションに署名を参照してください。

電子証明書でAdobe AIRヘルプアプリケーションに署名するには、「インストーラーの設定」チェックボックスを選択し、ヘルプアプリケーションインストーラーの設定を行います。

1) Adobe AIRダイアログボックスの「全般」タブの「インストーラー設定」グループで、次の設定を行います。

電子証明書

電子署名を使用すると、ヘルプシステム（またはその更新）が変更されていないこと、または作成されてから壊れていないことを保証できます。すべてのAdobe AIRアプリケーションには電子署名が必要であり、電子署名がないとインストールできません。組織が認証機関から電子署名を購入している場合は、「参照」をクリックしてそれを選択します。それ以外の場合は、「作成」をクリックして、自己証明された（再利用可能な）証明書を作成します。自己署名電子証明書の作成を参照してください。

パスワード

電子証明書に割り当てられたパスワードを入力します。

タイムスタンプを含める

電子証明書にタイムスタンプを含める場合は選択します。タイムスタンプは、証明書の有効期間についての情報を提供します。

プログラムメニューフォルダー

プログラムメニューフォルダーの名前を指定します。例えば、Windowsでは、指定した文字列は、スタート／プログラム／[プログラムメニューフォルダー名]／[ヘルプシステムタイトル]というパスの構成に使用されます。

コンテンツカテゴリの作成

コンテンツカテゴリを作成して出力をユーザー中心ヘルプシステムのパッケージとして公開します（たとえば、異なるユーザー役割、異なる地域、異なる製品、または異なるプラットフォームに対してヘルプシステムのパッケージを公開します）。

エンドユーザーは統合化されたヘルプシステムのパッケージを表示することができ、ドロップダウンリストからアクセスしたいヘルプシステムを選択できます。各ヘルプシステムは独自の目次、索引、閲覧シーケンス、および検索があります。

1) Adobe AIR ダイアログボックスのコンテンツカテゴリタブで、次の操作を行います。

- コンテンツカテゴリの名前を変更するには、カテゴリを選択します。「名前の変更」をクリックし、別の名前を指定します。
- コンテンツカテゴリを削除するには、カテゴリを選択し、「削除」をクリックします。「はい」をクリックして確定します。
- ユーザーが選択するドロップダウンリスト内のコンテンツカテゴリの順番を変更するには、上向きまたは下向きのキーを使用します。
- コンテンツカテゴリをデフォルトカテゴリとして指定するには、「デフォルトとして設定」をクリックします。

コンテンツの設定

ヘルプアプリケーションのコンテンツの表示を設定します。コンテンツカテゴリをすでに作成している場合は、各カテゴリごとにコンテンツのプレゼンテーションを設定します。

1) Adobe AIR ダイアログボックスの「コンテンツ」タブで、各コンテンツカテゴリごとに次の設定を行います。

コンテンツタタイトル

コンテンツカテゴリのタイトルを指定します。タイトルは、ドロップダウンリストに表示され、ユーザーがコンテンツカテゴリを識別するために役立ちます。

注： コンテンツカテゴリをまだ作成していない場合は、このフィールドを無視してください。RoboHelp は、「全般」タブのヘルプ設定で指定したタイトルを使用します。

目次

生成されるヘルプで表示する目次を選択します。目次を参照してください。

索引

生成されるヘルプで表示する索引を選択します。索引を参照してください。

用語集

生成されるヘルプで表示する用語集を選択します。用語集を参照してください。

変数セット

生成されるヘルプでデフォルトの変数セットを上書きする変数セットを選択します。ユーザー定義変数を参照してください。

デフォルトトピック

ヘルプが開いたときに表示されるトピックです。デフォルトでは、目次の最初のトピックがデフォルトトピックです。

言語

言語がプロジェクトの言語と異なる場合にレイアウトの出力言語を指定します。RoboHelp はこの言語設定を、プレビューおよび生成された出力における UI 文字列や言語関連の UI 要素のために使用します。

エンコーディング

公開する Web サーバーが UTF-8 と異なる文字エンコーディングを持っている場合に、文字エンコーディング形式を指定します。

マップファイル

マップ ID に関連付けられているトピック ID を含むマップファイルを指定して、状況依存ヘルプを提供します。

閲覧シーケンス

このコンテンツカテゴリの閲覧シーケンスを選択します。

コンディショナルビルドの式

出力に適用するコンディショナルビルドの式を指定します。コンディショナルビルドタグの式を参照してください。

すべてのトピックに適用

すべてのトピックにマスターページまたはCSSのいずれを適用するかを指定します。「すべてのトピックに適用」オプションを選択しないと、個別のトピックに関連付けられているマスターページが有効になります。マスターページがトピックに適用されていない場合は、現状で生成されます。次を参照してください：生成時のマスターページまたはCSSの適用

出力から無参照トピックを除外

このオプションは、プロジェクト内に存在するが、レイアウト内のデフォルトトピックではないトピック、選択されている目次、索引、または閲覧シーケンスから参照されていないすべてのトピック、またはすべての参照トピックを除外するために選択します。

注： RoboHelpは出力表示ポッドに、出力から除外されている無参照トピックを表示します。

検索から無参照のバゲッジファイルを除外

このオプションは、プロジェクト内に存在するが、選択されている目次から参照されていないすべてのトピック、またはすべての参照トピック（「出力から無参照トピックを除外」が選択されている場合）を除外するために選択します。「出力から無参照トピックを除外」が選択されていない場合は、RoboHelpは、プロジェクト内のトピックから参照されていないバゲッジファイルを除外します。

ヘルプビューアーウィンドウとブランドオプションの設定

外観の設定により、ヘルプビューアーウィンドウの外観が定義されます。

1) Adobe AIRダイアログボックスで「テンプレート」グループを選択し、次の設定を行います。

テンプレート

ポップアップメニューからテンプレートを選択します。

スキン

ポップアップメニューからスキンを選択します。または、「ギャラリ」をクリックして、選択されたテンプレートに対して使用できるスキンの中から選択します。スキンを選択する前に、それをプレビューできます。

著作権

ヘルプアプリケーションの著作権を所有しているエンティティを指定します。通常は、ヘルプのコンテンツを発行している会社の名前です。著作権情報はバージョン情報ボックスに表示されます（ヘルプ／バージョン情報）。

説明

ヘルプの説明を指定します。説明はバージョン情報ボックスに表示されます（ヘルプ／バージョン情報）。

お気に入りアイコン

（ブラウザーベースのヘルプ）ヘルプシステムに関連付けるアイコンを指定します。このアイコンはブラウザーのタブに表示されます。

幅、高さ

ヘルプウィンドウの幅と高さを設定します。

ブランドオプションを指定

様々なサイズのヘルプシステムのアイコンをクリックして指定し、その他のブランドオプションを指定します。

オペレーティングシステムでは、ヘルプシステムのアイコンをタイトルバー、タスクバー、バージョン情報など定義済みの場所に表示するために、次のサイズを使用します。

- 128x128
- 48x48
- 32x32
- 16x16

独自のアイコンを指定しない場合は、オペレーティングシステムによってデフォルトのサイズが使用されます。最適な効果を得るには、定義済みの各サイズに画像を提供してください。さらに、16bit と 32bit の両方のカラーモードでアイコンが適切に表示されること確認してください。アイコンファイルは、PNG 形式である必要があります。

また会社のロゴをヘルプアプリケーションの右上に表示したり、著作権情報またはブランド関連の情報ステータスバーに表示することもできます。ロゴの画像サイズは、32x32 です。

ヘルプアプリケーションのテンプレート

ヘルプアプリケーションに使用するテンプレートを選択します。次の3種類のテンプレートのいずれかを選択できます。

注：「ヘルプコンテンツのみ」の出力タイプを選択した場合は、テンプレートは適用できません。

クラシックヘルプ

クラシックヘルプテンプレートは、ページを上部ペイン、左ペイン、コンテンツペインに分割します。

マルチタブアコーディオン

マルチタブアコーディオンテンプレートは、ページを上部ペイン、左ペイン、コンテンツペインに分割します。

ユニペイン

ユニペインテンプレートは、ページを上部ペインとコンテンツペインに分割します。

各テンプレートは、外観とナビゲーションオプションが異なります。これらは、いくつかの共通の機能も備えています。共通の機能は、目次、索引、用語集、検索、印刷、コンテンツペインなどのサポートです。次の表は、3種類のテンプレートの違いをまとめたものです。

機能	クラシックヘルプ	マルチタブ アコーディオン	ユニペイン
操作方法 閲覧シーケンスを参照してください。	O	X	X
検索	O	O	O
検索結果でのコンテキストの表示	X	O	O
左ペインを表示/非表示	O	O	X
ステータスバーの表示	O	O	O

注： F11キーを押すと、左ペインと上部ペインの表示/非表示が切り替わります。

ヘルプシステムで使用するテンプレートを選択し、生成する前にプレビューできます。**注:** テンプレートをカスタマイズできます。デフォルトでは、テンプレートで使用できるコンテンツ表示とナビゲーションのすべてのオプションが選択されています。

コンテンツ表示の設定

ユーザーがヘルプアプリケーションを使用するときのヘルプアプリケーションの動作方法を設定します。

1) Adobe AIR ダイアログボックスで「ビュー」グループを選択し、次の設定を行います。

自動更新を有効にする

AIR アプリケーションは、デスクトップにインストールされている AIR ファイルを、ネットワークドライブまたは HTTP サーバーの場所にある最新のコンテンツと、自動的に同期できるようになります。次のいずれかを行います。

ネットワーク内でのコンテンツアップデート

種類メニューから「ファイル」を選択し、「参照」をクリックしてコンテンツアップデートのフォルダーとファイルを選択します。

ネットワーク外でのコンテンツアップデート

種類メニューから「HTTP」を選択し、ヘルプコンテンツのアップデートが格納されている XML ファイルの URL を入力します。

自動更新機能を使用すると、アップデートが使用できるようになるたびにヘルプアプリケーションが更新されます。自動アップデートは、XML ファイルの形式で送信することも、Web サーバーでホストすることもできます。AIR ヘルプのアップデートのホストを参照してください。

追加

クリックして、ローカルまたはネットワークドライブ上の XML ファイルをホストしている場合に、インストールされているヘルプを更新する Mac OS および Linux の場所を指定します。

リソースを追加

「追加」ボタンを選択してクリックし、ヘルプアプリケーションのお気に入りグループに表示される外部リンクを追加します。

技術サポートページ、知識ベースの記事、RSS フィード、関連 Web サイトなどのリソースを追加できます。

オンラインコンテンツを表示

AIRヘルプビューアーが公開されたブラウザーベースのヘルプを取得するフルパスを指定します。例えば、http://www.example.com/[browserhelpfolder] などです。

このオプションは、出力形式として「Adobe AIRアプリケーション」または「AIRアプリケーションとブラウザーベースのヘルプ」を選択した場合にのみ指定できます。

注: このオプションを選択する場合は、サーバーURLによって指定されている場所にブラウザーベースのヘルプを公開するようにしてください。それ以外の場所に公開すると、AIRアプリケーションはオフラインコンテンツを表示します。

検索の設定

Adobe AIRダイアログボックスで「検索」グループを選択し、次の設定を行います。

検索結果のハイライト

検索結果のハイライトを有効にする場合に選択します。検索条件と一致するトピックが表示され、検索語がハイライトされます。ハイライトの色を設定するには、テキストポップアップメニューをクリックします。

検索結果にコンテキストを表示

検索結果と共にトピックの最初の数行を表示する場合に選択します。

サブストリング検索を有効にする

検索文字列そのものばかりでなく文字列が埋め込まれているテキストも検索結果に含める場合に選択します。例えば、「log」で検索を実行した場合、「catalog」や「logarithm」などの単語を含まれたトピックが表示されます。サブストリング検索は、全文検索より時間がかかります。

外部コンテンツ検索を有効にする

ヘルプシステム外にある特定されたURLからコンテンツを表示するために選択します。URLを指定しそれを検索語に関連付ける方法の詳細については、外部コンテンツ検索を参照してください。

検索結果でランク列を隠す

検索結果でランク列を表示しないために選択します。

検索結果の合計数を表示

特定の検索文字列の検索結果数を表示するために選択します。

出力のAND検索を許可

検索ボックスに二重引用符を使用せずに指定されたすべての単語を含むトピックのみを表示するために選択します。デフォルトでは、ユーザーが複数の単語を二重引用符に入れずに入力するとORが実行されます。検索ボックスに指定されたすべての単語を含むトピックが検索されることを意味します。

注: AND検索はフレーズ検索と一緒に使用できます。

必要に応じ、「デフォルトでAND検索を有効にする」オプションを有効にします。デフォルトでAND検索を無効にすることを許可した場合は、エンドユーザーは出力で有効にするオプションが使用できます。

注: **マージ済みプロジェクトでは、子プロジェクトは親プロジェクトの設定を継承します。**DUCC（**コンテンツカテゴリ**）**のあるプロジェクトでは、設定はすべてのコンテンツカテゴリに適用されます。**

検索からバゲッジファイルタイプを除外

検索から除外するバゲッジファイルのタイプを選択します。

共同作業の設定

共同作業設定は、Adobe AIRアプリケーションにのみ使用できます。

1) Adobe AIRダイアログボックスで「共同作業」グループを選択し、次の設定を行います。

トピックレーティングを有効にする

ユーザーがトピックを0から5星の5段階で評価できるようにします。

コメント入力を有効にする

選択すると、コメント入力が有効になります。

コメントモデレーションを有効にする

権限を与えられたユーザー（モデレーター）によるコメントの承認または拒否を許可するために選択します。

注: 出力を配信するときに、必ずモデレーターパスワードを共有してください。Adobe AIR出力の配布を参照してください。

コメントとトピックレーティングのための場所を設定

信頼ベースのシステムまたはユーザー認証のいずれを使用するかにより、次のいずれかのオプションを選択します。

- ネットワークフォルダーを選択します。「参照」をクリックして、コメントを格納する共有ネットワークフォルダーを選択します。「追加」をクリックして、必要に応じてMacおよびLinuxシステム上の場所を追加します。Windows、Mac、およびLinuxのURL書式を参照してください。

  モデレーターがモデレーションダッシュボードにアクセスするために必要なパスワードを指定します。

  「保留」または「承認」を選択して、モデレーションなしのコメントをどのように処理するかを指定します。「保留」を選択した場合は、モデレーションなしのコメントはユーザーには表示されません。

  信頼ベースの作業環境では、コメントを共有ネットワークフォルダーに保存することが適しており、ここでは、内部の関係者による共有レビューはコンテンツ開発プロセスの一部です。

- RoboHelpサーバーを選択し、サーバーURLを指定します。

  RoboHelpサーバーにコメントを保存することにより、ユーザーがコメントを見たり投稿したりする前にユーザーを認証することができます。

設定ファイルパス

コメント同期と自動更新のための設定を保存するファイルのパスと名前を指定します。AIRアプリケーションが配布されたときに、ユーザーはプロジェクトの!SSLフォルダーにあるデフォルトの設定ファイルを、設定ファイルパスで指定された場所にコピーし、必要に応じてデフォルト設定を変更できます。たとえば、コメント付けを無効にしたり、コメントの保存場所を変更したりできます。

パスは次のいずれかの形式で入力できます。

- 相対パス（インストールフォルダーに対して相対的）
- 絶対場所（たとえば共有ネットワークドライブまたはユーザードライブ内のファイル場所）
- Web URL（XMLファイルを投稿した場所のURL）

ブラウザーベースのヘルプをホストするためのサーバーの設定

生成されたブラウザーベースヘルプをサーバーに直接アップロードできます。使用するサーバーについては、システム管理者に問い合わせてください。

注: 出力タイプが Adobe AIR アプリケーションの場合は、サーバーの設定は適用できません。

1) Adobe AIR ダイアログボックスで「サーバー」を選択します。

2) 「新規」をクリックします。新しい公開先ダイアログボックスで、次のオプションを指定します。

記述名

ヘルプシステムを公開するサーバーの名前です。例えば、社内レビュー用にヘルプシステムを公開する場合は、「Internal Review Server」などと入力します。

接続プロトコル

サーバーまたは共有プラットフォームに接続するためのプロトコルを選択します。FTP、HTTP、ファイルシステム、または SharePoint を選択します。

次に、FTP サーバー接続の詳細を示します。

ホスト名

FTP サーバーのホスト名を入力します。

ポート

ポート番号を入力します。通常、FTP 接続はデフォルトポートの 21 を使用します。

ユーザー ID とパスワード

FTP サーバーがユーザー認証を必要とする場合は、システム管理者から提供されたユーザー ID とパスワードを入力します。

匿名ユーザー

FTP サーバーが匿名 FTP を許可する場合は、「匿名ユーザー」を選択します。FTP サーバーに接続するために、ユーザー ID とパスワードは必要ありません。

HTTP サーバー接続の次の詳細を指定します。

ホスト名

サーバーのホスト名を入力します。

サーバーディレクトリ

ヘルプシステムの目次を配置するHTTPサーバー上のディレクトリを入力します。一部のHTTPサーバーでは、パスの最後にスラッシュ（/）が必要です。

「ファイルシステム」を選択し、出力先のパスを入力します（ネットワークパスへのアクセス権を持っていてそこにヘルプシステムのコンテンツを直接アップロードできる場合）。

ファイルシステムサーバー接続の場合は、接続先のパスを指定します。

Microsoft SharePointサーバー接続の場合は、SharePointディレクトリパスを指定します。SharePointサイトパスが、システム上のネットワークドライブとしてマッピングされている場合、またはネットワークパスに追加されている場合は、ブラウザーボタンを使用してネットワークパスを選択できます。

3) 以下のオプションを設定します。

削除されたファイルを確認する

公開先から削除されたファイルを確認します。

ファイルを上書きする前に確認する

サーバー上のファイルを上書きする前に、警告を表示します。

すべて再公開する

すべてのファイルを公開先に再公開して、サーバー上の既存ファイルを上書きします。**注:** プロジェクトがマスタープロジェクトのオプションを設定していて、サブプロジェクトのコピーが出力フォルダー内にある場合は、「すべてを再公開」を選択しないでください。

4) ヘルプを公開するには、「保存して生成」をクリックします。

注意：

- マージされたヘルプシステムの場合は、個々のプロジェクトを同じ場所に公開します。マスタープロジェクトでは「すべてを再公開」を使用しないでください。
- レイアウトオプションを 1 回設定して、プライマリレイアウトが自動的に生成されるようにするには、生成ボタンを選択します。
- 複数のレイアウトの生成または公開はバッチで実行します。
- 出力が破損している場合は、トピックファイルに「&」文字が含まれていないかどうかチェックします。トピックの名前を変更し、出力を再生成します。
- Adobe AIR 出力でサポートされているビデオ形式の一覧については、http://kb2.adobe.com/jp/cps/402/kb402866.html を参照してください。

自己署名電子証明書の作成

電子証明書を作成して、Adobe AIR ヘルプアプリケーションをテストしたり個人的に配布したりできます。ただし、Web サイトを使用してヘルプを配布する場合は、Thawte や VeriSign などの認証機関（CA）から電子証明書を取得してください。電子証明書を使用して、ヘルプシステムに署名します。

認証機関から取得した電子証明書は Web を使用して検証できます。電子証明書により、ヘルプアプリケーションインストーラーが本物であり、改ざんされていないことをエンドユーザーに保証できます。詳細については、www.adobe.com/go/learn_air_digital_certificate_jp を参照してください。

1) 「電子証明書」ラベルの近くの「作成」をクリックします。

2) Self-Sign 電子証明書を作成ダイアログボックスで、次の詳細情報を入力します。

発行者名

発行元の名前を指定します。通常は、会社の名前です。別の会社の Adobe AIR に基づくヘルプアプリケーションを作成している場合は、クライアントの名前を指定します。必要に応じて、組織単位と組織名を指定できます。

国 / 地域

発行元の国を選択します。

種類

電子証明書の暗号化標準を選択します。2048-RSA 標準の方が、1024-RSA 標準より強力な暗号方式です。

ファイル名を付けて保存

「参照」をクリックし、フォルダーを選択して、作成した電子証明書を保存します。自己署名電子証明書は、.p12 という拡張子で保存されます。

AIR 開発者ツールで AIR ヘルプ中間アプリケーションに署名

Adobe AIR ヘルプアプリケーションを他のシステムにインストールするには、アプリケーションに署名する必要があります。ただし、アプリケーションに後で署名できるように、署名なしの Adobe AIR インストーラーファイルを作成する機能があります。これらの署名なしの Adobe AIR インストーラーファイルは、AIRI（AIR Intermediate）パッケージと呼ばれます。この機能により、証明書が別のマシンにある場合や、署名をアプリケーション開発とは別に処理する場合に対応できます。

後でアプリケーションに署名するために、Adobe AIR ヘルプの設定ダイアログボックスの「インストーラー設定」の選択を解除する場合は、RoboHelp のインストールディレクトリ（パスに：\RoboHTML\AIRSDK\bin）に含まれるコマンドラインの AIR 開発者ツール（ADT）を使用する必要があります。

手順については、次を参照してください：ADT を使用した AIR 中間ファイルへの署名

出力の生成、表示、公開

出力を生成して表示し、リンク、閲覧シーケンス、その他の要素をテストします。出力を生成すると、プロジェクトに関する情報を含むファイルおよび出力ファイルも更新されます。

出力（WebHelp および FlashHelp のみ）を公開すると、出力ファイルやフォルダーは指定した場所に配置されます。場所は、Web サイト、ローカルハードドライブ、またはネットワークフォルダーとすることができます。

WebHelp と WebHelp Pro 出力の組み合わせ、または Adobe AIR アプリケーションとブラウザーベースのヘルプ出力の組み合わせを使用して、エアプレインヘルプを配布できます。エアプレインヘルプは、統合されたオフラインまたはオンラインヘルプの一般的な名前です。エアプレインヘルプを WebHelp および WebHelp Pro 出力に実装する方法については、この記事 を参照してください。

AIR アプリケーションとブラウザーベースのヘルプ出力を使用すると、エアプレインヘルプをより簡単に配布できます。「オンラインコンテンツを表示」オプションを選択し、指定したサーバー URL で指定された場所にブラウザーベースのヘルプ出力を公開していることを確認してください。Adobe AIR レイアウトの設定。

出力生成の基本

ローカルハードドライブに出力を生成します。初めてレイアウト出力を生成するときは、生成された出力ファイル用に新しいサブフォルダーが作成されます。このサブフォルダーは、\!SSL!\[layout name] 下のプロジェクトにフォルダー内に作成されます。

注: 出力を生成するたびに、最後のセッションで作成された出力フォルダーのファイルが削除されます。出力サブフォルダーのファイルを追加または手作業で修正している場合は、出力を生成する前にそれらのファイルを別の場所にコピーしてください。

1) シングルソースレイアウトポッドで、レイアウトを右クリックします。「生成」を選択します。
2) レイアウトの種類に従ってオプションを設定します。
3) 「完了」をクリックします。

最適なプロジェクト生成のためのヒント

- 作業は、ネットワーク経由ではなく、ローカルで行います。

  RoboHelp は出力を生成するときに、プロジェクトのすべてのファイルにアクセスする必要があります。プロジェクトが数千のファイルで構成されている場合、RoboHelp が各ファイルにアクセスを試みるため、ネットワークトラフィックにより生じた軽微な遅延であっても一層大きくなります。これらの遅延は、生成時間に悪影響を与える可能性があります。

- ウィルスチェックからプロジェクトフォルダーを除外します。

  注: ウイルススキャンソフトウェアをオフにすると速度は向上しますが、セキュリティ上の理由から推奨しません。

- システムに十分なメモリがあることを確認します。

関連するリンク:

ナビゲーションオプション
ユーザー定義変数

レスポンシブ HTML5 出力の生成

レスポンシブ HTML5 SSL は、選択したデバイスのすべてのサイズに対して出力を生成するのに役立ちます。

マルチスクリーン HTML5 ヘルプを使用して、スマートフォンやタブレットなどの小さなスクリーンにコンテンツを表示するための最適化を作成できますが、これには少なくとも各スクリーンごとに若干の作業を必要とします。レスポンシブ HTML5 を使用して、すべてのスクリーンに最適化された 1 つの出力を作成できます。レスポンシブ HTML5 は、ユーザーがアクセスしているスクリーンに自動的に合わせたり、ブラウザーの向きの反転やサイズ変更など、動的なスクリーンサイズ変更にも自動的に合わせます。

注： RTL 言語のコンテンツをパブリッシュすると、右側にサイドバーが表示されます。ただし、Google Chrome ブラウザーで表示すると、スクロールバーの進行方向にある出力の部分は切り捨てられます。

レイアウトおよびスクリーン情報に関するマルチスクリーンおよびレスポンシブ HTML5 の比較を下表に示します。

	レスポンシブ HTML5	マルチスクリーン HTML5
レイアウト数	1	複数
スクリーンプロファイルを設定する必要がある	X	O
スクリーンの種類に応じて異なるコンテンツを指定する	X	O

レスポンシブ HTML5 出力を生成するには

1) シングルソースレイアウトポッドで、レスポンシブ HTML5 SSL をダブルクリックします。

   注： 開いたプロジェクトが前のバージョンで作成されたものである場合は、レスポンシブ HTML5 のレイアウトを作成する必要があります。シングルソースレイアウトポッドで、レイアウトを作成アイコンをクリックし、出力タイプにレスポンシブ HTML5 を選択します。

2) 「一般」タブで、次のオプションを設定します。

タイトルバー：

タイトルバーに表示するタイトルを指定します。

お気に入りアイコン：

出力に関連付けるアイコンを指定します。アイコンが、使用しているブラウザーによってブラウザーのタブまたはアドレスバーに表示されます。

出力フォルダーとスタートページ：

出力の場所とスタートページを指定します。出力フォルダーの場所を選択するには、参照ボタンをクリックします。出力のデフォルト以外のスタートページを選択するには、.htm 拡張子を使用してページのアドレスを入力します。スタートページは、出力のホームページです。

3) レイアウトを選択し、そのルック＆フィールをカスタマイズします。詳細については、レイアウトのカスタマイズを参照してください。「プレビュー」をクリックすると、レイアウトに加えた変更のプレビューを生成することができます。

重要: 標準またはブラックのテーマのレイアウトには現在特定の脆弱性の問題があります。標準またはブラックのテーマのレイアウトを使用している場合は、問題の詳細とその解決方法について、次のナレッジベースの記事を参照してください。クロスサイトスクリプティング脆弱性

4) 「出力でダイナミックコンテンツフィルターを使用」にチェックマークを付けて、ダイナミックコンテンツフィルターを現在の出力に割り当てます。ユーザーダイナミックコンテンツフィルターを作成する方法の詳細については、次を参照してください：ダイナミックコンテンツ出力の生成

5) （オプション）「コンテンツ」タブで、次のオプションを設定します。

目次

生成された出力に表示する目次を選択します。目次を参照してください。

索引

生成された出力に表示する索引を選択します。索引を参照してください。

用語集

生成された出力に表示する用語集を選択します。次を参照してください：用語集を参照してください。

変数セット

生成される出力で、デフォルトの変数セットを上書きする変数セットを選択します。ユーザー定義変数を参照してください。

デフォルトトピック

ヘルプが開いたときに表示されるトピックです。デフォルトでは、目次の最初のトピックがデフォルトトピックです。

言語

言語がプロジェクトの言語と異なる場合にレイアウトの出力言語を指定します。RoboHelp はこの言語設定を、プレビューおよび生成された出力における UI 文字列や言語関連の UI 要素のために使用します。

エンコーディング

文字エンコーディング形式を指定します。

マップファイル

マップ ID に関連付けられているトピック ID を含むマップファイルを指定して、状況依存ヘルプを提供します。

閲覧シーケンス

表示する閲覧シーケンスを選択します。

コンディショナルビルドの式

プロジェクトにコンディショナルタグがある場合は、「定義」をクリックして、コンディショナルビルドの式を指定します。コンディショナルビルドタグの式を参照してください。

すべてのトピックに適用

プロジェクトレベルでマスターページまたは CSS を適用するには、このオプションを選択します。

マスターページ

プロジェクトでマスターページが適用されているかどうかに関係なく、すべての個別トピックの設定を、選択したマスターページでオーバーライドします。マスターページのCSSおよびレイアウトが、すべてのトピックのCSSと外観に上書きされます。選択したマスターページにヘッダーまたはフッターがない場合、ヘッダーまたはフッターが定義されているかどうかに関係なく、トピックにヘッダーまたはフッターは表示されません。

CSS

個別のトピックと関連付けられているマスターページが有効になります。トピックにマスターページが関連付けられているかどうかに関係なく、すべてのトピックとそのCSSを、選択したCSSでオーバーライドします。

生成時のマスターページまたはCSSの適用を参照してください。

出力から無参照トピックを除外

このオプションは、プロジェクト内に存在するが、レイアウト内のデフォルトトピックではないトピック、選択されている目次、索引、または閲覧シーケンスから参照されていないすべてのトピック、またはすべての参照トピックを除外するために選択します。

注： RoboHelpは出力表示ポッドに、出力から除外されている無参照トピックを表示します。

検索から無参照のバゲッジファイルを除外

このオプションは、プロジェクト内に存在するが、選択されている目次から参照されていないすべてのトピック、またはすべての参照トピック（「出力から無参照トピックを除外」が選択されている場合）を除外するために選択します。「出力から無参照トピックを除外」が選択されていない場合は、RoboHelpは、プロジェクト内のトピックから参照されていないバゲッジファイルを除外します。

目次の設定

目次の一番下に索引と用語集を挿入するには、「索引」、「用語集」またはその両方を選択します。デフォルトでは、索引が用語集の前に挿入されます。索引と用語集を配置する順番を逆にするには、上下ボタンを使用します。

6) （オプション）検索タブで、次のオプションを設定します。

サブストリング検索を有効にする

この機能を有効にすると、「log」で検索を実行した場合、「catalog」や「logarithm」などの単語を含まれたトピックが表示されます。サブストリング検索は、全文検索より時間がかかります。

外部コンテンツ検索を有効にする

ヘルプシステム外にある特定されたURLからコンテンツを表示するために選択します。URLを指定しそれを検索語に関連付ける方法の詳細については、外部コンテンツ検索を参照してください。

検索結果にコンテキストを表示

検索結果と共にトピックの最初の数行を表示する場合に選択します。

トピックコメントを検索コンテキストとして使用

トピックコメントを検索結果に表示するように選択します。

注: デフォルトでは、各検索結果にRoboHelpのトピックタイトルが表示され、その後にトピックの最初の段落の最初の100文字が表示されます。

検索コンテキスト内の文字数

検索結果に表示する最大文字数を設定します。

検索からバゲッジファイルタイプを除外

検索から除外するバゲッジファイルのタイプを選択します。

7) （オプション）「最適化」タブで、次のオプションを設定します。

自動サイズポップアップとカスタムサイズポップアップをハイパーリンクに変換

自動サイズポップアップまたはカスタムサイズポップアップで表示されるよう設定したハイパーリンクが、フラットハイパーリンクに変換されてることを確認するには、このオプションを選択します。

テキストのみのポップアップをハイパーリンクに変換

テキストのみのポップアップがフラットハイパーリンクに変換されていることを確認するには、このオプションを選択します。

絶対画像サイズを相対画像サイズに変換

画像の実際の幅と高さをパーセントに変換するには、このオプションを選択します。このようにして、プロジェクトで使用されている画像をデバイスに適したものにでき、さまざまなデバイスサイズに合わせることができます。

絶対表サイズを相対表サイズに変換

表の実際の幅と高さをパーセントに変換するには、このオプションを選択します。RoboHelp が表をこのように最適化することを許可することで、表をさまざまなデバイスのサイズに合わせられます。

iOS デバイスでズームを有効にする

iPad と iPhone でピンチズームを有効または無効にします。このオプションが有効な場合は、ユーザーはデバイスのスクリーンをピンチすることで、iPad または iPhone に表示された RoboHelp 出力をズームインできます。

Adobe Captivate HTML5 出力を使用

Adobe Captivate SWF 出力ではなく、Adobe Captivate HTML5 出力を使用するには、このオプションを選択します。

注: Adobe Captivate HTML5 出力は、プロジェクトに読み込まれる、また挿入されるデモとして使用できる必要がありあす。

プロジェクトスタイルの範囲をトピックコンテンツのみに制限

次のことを実行するには、このオプションを選択します。

- プロジェクトスタイルシート（CSS）で定義したスタイルがスクリーンレイアウト CSS で定義したスタイルを上書きしないようにする。
- トピックおよびレイアウトスタイルシート（CSS）が SharePoint マスターページで使用されている CSS を上書きしないようにする。

例：プロジェクト CSS にスタイルが含まれる場合。

```
div{ color:red; }
```

レイアウト CSS に `div` スタイルも含まれているが、別の色である場合、およびこの設定が設定されていない場合は、プロジェクト定義は赤色を適用されたレイアウト定義を上書きする可能性があります。

検索結果でランク列を隠す

検索結果でランク列を表示しないことを選択します。

検索結果の合計数を表示

特定の検索文字列の検索結果数を表示するために選択します。

出力に AND 検索を表示

検索ボックスに二重引用符を使用せずに指定されたすべての単語を含むトピックのみを表示するために選択します。デフォルトでは、ユーザーが複数の単語を二重引用符に入れずに入力すると OR が実行されます。検索ボックスに指定されたいずれかの単語を含むトピックすべてが検索されることを意味します。

注: AND 検索はフレーズ検索と一緒に使用できます。

必要に応じ、「デフォルトで AND 検索を有効にする」オプションを選択します。初期設定では、AND 検索を無効にしても、エンドユーザーは出力で有効にするオプションが使用できます。

8) （オプション）「公開」タブで、次のオプションを設定します。

サーバー

出力用のサーバーの場所を指定します。HTML5 出力を SharePoint サイトに公開するには、「新規」をクリックし、「SharePoint」を選択します。SharePoint サイト上のフォルダーの UNC パスを入力します（フォルダーがネットワークドライブとしてマッピングされている場合は、「参照」をクリックしてそのドライブを選択します）。

同様に、HTML5 出力を RoboHelp Server 10 に公開するには、「新規」をクリックし、「RoboHelp Server」を選択します。サーバー名（http://<サーバー名>: ポート番号 /<コンテキスト名>/server）、ユーザー ID とパスワードを入力します。パスワードを保存する場合は、「パスワードを保存」オプションを選択します。プロジェクトを公開できる、サーバー上の利用可能な領域を確認するには、更新アイコンをクリックします。

オプション

出力でファイルへの変更を処理する方法を指定します。

削除されたファイルを確認する

選択すると、RoboHelp HTML は公開先の場所から削除されたファイルを確認し、再公開します。

ファイルを上書きする前に確認する

選択すると、RoboHelp はファイルを上書きする前にプロンプトを表示します。

すべて再公開する

選択すると、すべてのファイルが公開先に再公開されます。サブフォルダーにサブプロジェクトのコピーがあるマスタープロジェクトの場合は、「すべて再公開する」を選択しないでください。これにより、同じ場所に既に公開されている出力ファイルが上書きされるのを防ぐことができます。

> **注:** 公開先を新しいホストに変更した場合は、必要に応じて、ユーザー ID とパスワードを指定し、パスワードをレジストリに保存します。

9) （オプション）「SharePoint」タブで、次のオプションを設定してネイティブ（.aspx）ファイル形式で出力を公開します。

SharePoint のバージョン

SharePoint 2007 または SharePoint 2010+ のどちらかを選択します。

公開場所：

選択したバージョンによって、次のいずれかを行います。

- SharePoint 2010+ を選択した場合は、「参照」をクリックして接続設定ダイアログボックスで SharePoint サイトパスと資格情報を入力し、SharePoint ドキュメントライブラリと出力をアップロードするフォルダーを選択します。
- SharePoint 2007 を選択した場合は、出力を公開する SharePoint パスを入力します。

SharePointへの公開

このオプションが選択されると、SharePointのみにファイルが公開されます。また以下を指定します。

- 削除されたファイルを確認する：選択すると、RoboHelp HTMLは公開先の場所から削除されたファイルを確認し、再公開します。
- ファイルを上書きする前に確認する：選択すると、RoboHelp はファイルを上書きする前にプロンプトを表示します。
- すべて再公開する：選択すると、すべてのファイルが公開先に再公開されます。サブフォルダーにサブプロジェクトのコピーがあるマスタープロジェクトの場合は、「すべて再公開する」を選択しないでください。これにより、同じ場所に既に公開されている出力ファイルが上書きされるのを防ぐことができます。

詳細オプション

次のオプションを指定します。

- 出力フォルダー：生成された SharePoint 出力を保存するローカルフォルダーです。このオプションは通常自動的に挿入されます。マージ済みプロジェクトで作業する場合にのみ出力フォルダーを指定する必要があります。
- 公開前に**SharePoint**ネイティブ出力を生成：ASPXファイルを事前に生成するには、このオプションを選択します。このオプションが選択されていない場合は、通常のHTMLファイルが生成された後にダイアログボックスが表示され、これらのファイルを公開するかどうかを選択できます。「公開」をクリックすると、ASPXファイルが生成されSharePointにアップロードされます。

10) 「保存」をクリックします。

11) 「保存して生成」をクリックします。

RoboHelpはレスポンシブHTML5を公開し、結果ダイアログを表示します。

12) 「結果を表示」をクリックして、デフォルトブラウザーでレスポンシブHTML5を起動します。これで、このヘルプがサーバー上にホストでき、さまざまなデバイスからオンラインで使用できるようになりました。

モバイルアプリ出力の生成

モバイルアプリ SSL を使用すると、出力として Android または iOS モバイルアプリケーションを生成できます。Androidor または iOS モバイルアプリケーションを生成するには、RoboHelp と PhoneGap の統合を使用します。

重要: モバイルアプリを作成するには、PhoneGap アカウントが必要です。複数のアプリを作成するには、Creative Cloud サブスクリプションを購入する必要があります。

モバイルアプリを生成するには

1) 出力／モバイルアプリを選択します。

   注: 開いたプロジェクトが前のバージョンで作成されたものである場合は、モバイルアプリのレイアウトを作成する必要があります。シングルソースレイアウトポッドで、レイアウトを作成アイコンをクリックし、出力タイプにモバイルアプリを選択します。

2) レイアウトを選択し、そのルック＆フィールをカスタマイズします。詳細については、レイアウトのカスタマイズを参照してください。「プレビュー」をクリックすると、レイアウトに加えた変更のプレビューを生成することができます。

3) 「出力でダイナミックコンテンツフィルターを使用」にチェックマークを付けて、ダイナミックコンテンツフィルターを現在の出力に割り当てます。ユーザーダイナミックコンテンツフィルターを作成する方法の詳細については、次を参照してください：ダイナミックコンテンツ出力の生成

4) 「アプリケーションの詳細」タブで、以下のオプションを設定します。

パッケージ

モバイルアプリを一意に識別する名前。一般的な命名規則では、企業ドメイン名を逆順に使用し、その後にアプリの名前を入力します。例えば、com.adobe.myapp のように命名します。この名前は、アプリケーションを一意に識別するために PhoneGap によって使用されます。

注: PhoneGap で使用されるサードパーティ製ツールに関する問題を回避するため、英字と下線を使用し、ドットを区切り文字として使用することをお勧めします。

バージョン

アプリの PhoneGap のバージョン番号。

バージョンコード（Android）

アプリの Android のバージョン番号。Google Play などの Android ストアにアプリをアップロードすると、バージョン番号を更新するたびに、アプリの更新がユーザーに通知されます。

注： iOS アプリを作成する場合は、これは必要ありません。

タイトル

モバイルデバイスに表示されるアプリケーションのタイトル。

説明

アプリケーションの PhoneGap の説明。

アイコン

モバイルデバイスに表示されるアプリケーションのアイコン。

スプラッシュ画面

モバイルデバイスでアプリを開いたときに表示されるスプラッシュ画面。

複数のスプラッシュスクリーンを指定できます。使用中のデバイスのスクリーンのサイズと解像度に基づいて、スプラッシュ画面が表示されます。これを行う方法の詳細については、次の PhoneGap ドキュメントを参照してください。スプラッシュスクリーンを参照してください。

PhoneGap または Adobe の資格情報

PhoneGap または Adobe ID のユーザー名とパスワード。

注： RoboHelp と PhoneGap の統合を使用するには、PhoneGap または Adobe のユーザーアカウントが必要です。

プラットフォーム

アプリを作成するプラットフォーム（iOS、Android）を選択します。

Android デバッグアプリは、以下の Android 署名ファイルと資格情報がなくても作成できます。ただし iOS の場合は、署名ファイルが必要です。

プラットフォーム - Android

Androidアプリを作成するには、以下の資格情報を入力する必要があります。

キーストアファイル

キーストアは、一連の秘密鍵で構成されるバイナリファイルです。

キーストアパスワード

キーストアファイルに関連付けられたパスワード。

証明書エイリアス

アプリで識別されるエンティティ（個人、会社など）を表します。

証明書パスワード

エイリアスに関連付けられたパスワード。

プラットフォーム - iOS

iOSアプリを作成するには、以下の資格情報を入力する必要があります。

電子証明書

Appleデバイスでアプリを実行するには、有効な証明書でアプリに署名する必要があります。このファイルはAppleのProvisioning Portalで提供されています。

証明書パスワード

電子証明書に関連付けられたパスワード。

プロビジョニングプロファイル

iOSデバイスへのアプリケーションのインストールを許可するファイル。ファイル内には電子証明書、App ID、1つ以上のデバイスのUDIDが指定されています。これらのデバイスに、テスト目的でアプリをインストールできます。ユーザーはこれらのデバイスに、アプリを直接インストールできます。

5) （オプション）「コンテンツ」タブで、次のオプションを設定します。

目次

生成された出力に表示する目次を選択します。目次を参照してください。

索引

生成された出力に表示する索引を選択します。索引を参照してください。

用語集

生成された出力に表示する用語集を選択します。次を参照してください：用語集を参照してください。

変数セット

生成される出力で、デフォルトの変数セットを上書きする変数セットを選択します。ユーザー定義変数を参照してください。

デフォルトトピック

ヘルプが開いたときに表示されるトピックです。デフォルトでは、目次の最初のトピックがデフォルトトピックです。

言語

言語がプロジェクトの言語と異なる場合にレイアウトの出力言語を指定します。RoboHelp はこの言語設定を、プレビューおよび生成された出力における UI 文字列や言語関連の UI 要素のために使用します。

エンコーディング

文字エンコーディング形式を指定します。

マップファイル

マップ ID に関連付けられているトピック ID を含むマップファイルを指定して、状況依存ヘルプを提供します。

閲覧シーケンス

表示する閲覧シーケンスを選択します。

コンディショナルビルドの式

プロジェクトにコンディショナルタグがある場合は、「定義」をクリックして、コンディショナルビルドの式を指定します。コンディショナルビルドタグの式を参照してください。

すべてのトピックに適用

プロジェクトレベルでマスターページまたは CSS を適用するには、このオプションを選択します。

マスターページ

プロジェクトでマスターページが適用されているかどうかに関係なく、すべての個別トピックの設定を、選択したマスターページでオーバーライドします。マスターページのCSSおよびレイアウトが、すべてのトピックのCSSと外観に上書きされます。選択したマスターページにヘッダーまたはフッターがない場合、ヘッダーまたはフッターが定義されているかどうかに関係なく、トピックにヘッダーまたはフッターは表示されません。

CSS

個別のトピックと関連付けられているマスターページが有効になります。トピックにマスターページが関連付けられているかどうかに関係なく、すべてのトピックとそのCSSを、選択したCSSでオーバーライドします。

生成時のマスターページまたはCSSの適用を参照してください。

出力から無参照トピックを除外

このオプションは、プロジェクト内に存在するが、レイアウト内のデフォルトトピックではないトピック、選択されている目次、索引、または閲覧シーケンスから参照されていないすべてのトピック、またはすべての参照トピックを除外するために選択します。

注： RoboHelpは出力表示ポッドに、出力から除外されている無参照トピックを表示します。

検索から無参照のバゲッジファイルを除外

このオプションは、プロジェクト内に存在するが、選択されている目次から参照されていないすべてのトピック、またはすべての参照トピック（「出力から無参照トピックを除外」が選択されている場合）を除外するために選択します。「出力から無参照トピックを除外」が選択されていない場合は、RoboHelpは、プロジェクト内のトピックから参照されていないバゲッジファイルを除外します。

目次の設定

目次の一番下に索引と用語集を挿入するには、「索引」、「用語集」またはその両方を選択します。デフォルトでは、索引が用語集の前に挿入されます。索引と用語集を配置する順番を逆にするには、上下ボタンを使用します。

6) （オプション）検索タブで、次のオプションを設定します。

サブストリング検索を有効にする

この機能を有効にすると、「log」で検索を実行した場合、「catalog」や「logarithm」などの単語を含まれたトピックが表示されます。サブストリング検索は、全文検索より時間がかかります。

外部コンテンツ検索を有効にする

ヘルプシステム外にある特定されたURLからコンテンツを表示するために選択します。URLを指定しそれを検索語に関連付ける方法の詳細については、外部コンテンツ検索を参照してください。

検索結果にコンテキストを表示

検索結果と共にトピックの最初の数行を表示する場合に選択します。

トピックコメントを検索コンテキストとして使用

トピックコメントを検索結果に表示するように選択します。

注: デフォルトでは、各検索結果にRoboHelpのトピックタイトルが表示され、その後にトピックの最初の段落の最初の100文字が表示されます。

検索コンテキスト内の文字数

検索結果に表示する最大文字数を設定します。

検索からバゲッジファイルタイプを除外

検索から除外するバゲッジファイルのタイプを選択します。

7) （オプション）「最適化」タブで、次のオプションを設定します。

自動サイズポップアップとカスタムサイズポップアップをハイパーリンクに変換

自動サイズポップアップまたはカスタムサイズポップアップで表示されるよう設定したハイパーリンクが、フラットハイパーリンクに変換されてることを確認するには、このオプションを選択します。

テキストのみのポップアップをハイパーリンクに変換

テキストのみのポップアップがフラットハイパーリンクに変換されていることを確認するには、このオプションを選択します。

絶対画像サイズを相対画像サイズに変換

画像の実際の幅と高さをパーセントに変換するには、このオプションを選択します。このようにして、プロジェクトで使用されている画像をデバイスに適したものにでき、さまざまなデバイスサイズに合わせることができます。

絶対表サイズを相対表サイズに変換

表の実際の幅と高さをパーセントに変換するには、このオプションを選択します。RoboHelp が表をこのように最適化することを許可することで、表をさまざまなデバイスのサイズに合わせられます。

iOS デバイスでズームを有効にする

iPad と iPhone でピンチズームを有効または無効にします。このオプションが有効な場合は、ユーザーはデバイスのスクリーンをピンチすることで、iPad または iPhone に表示された RoboHelp 出力をズームインできます。

Adobe Captivate HTML5 出力を使用

Adobe Captivate SWF 出力ではなく、Adobe Captivate HTML5 出力を使用するには、このオプションを選択します。

注： Adobe Captivate HTML5 出力は、プロジェクトに読み込まれる、また挿入されるデモとして使用できる必要がありあす。

プロジェクトスタイルの範囲をトピックコンテンツのみに制限

次のことを実行するには、このオプションを選択します。

- プロジェクトスタイルシート（CSS）で定義したスタイルがスクリーンレイアウト CSS で定義したスタイルを上書きしないようにする。
- トピックおよびレイアウトスタイルシート（CSS）が SharePoint マスターページで使用されている CSS を上書きしないようにする。

例：プロジェクト CSS にスタイルが含まれる場合。

```
div{ color:red; }
```

レイアウト CSS に `div` スタイルも含まれているが、別の色である場合、およびこの設定が設定されていない場合は、プロジェクト定義は赤色を適用されたレイアウト定義を上書きする可能性があります。

8) 「保存」をクリックします。

9) 「保存して生成」をクリックします。

RoboHelp はモバイルアプリを公開し、結果ダイアログを表示します。

10) 「結果を表示」をクリックして、モバイルアプリの出力ダイアログを開きます。

ダウンロードの詳細が表示されたモバイルアプリの出力ダイアログ

「ローカルドライブに保存」ボタンをクリックして、アプリをコンピューターにダウンロードします。

アプリをダウンロードしたら、他のユーザーがデバイスで QR コードをスキャンしたり URL へアクセスしたりすることによってアプリをモバイルデバイスへダウンロードできるようにします。

注：デバイス UDID がモバイルプロビジョンファイルに追加されている場合は、この URL からしか iOS アプリをインストールできません。

App Store にモバイルアプリケーションをアップロード

モバイルアプリケーションの設定を行ったあと、アプリケーションを作成できます。このアプリケーションは PhoneGap サーバーにアップロードされます。コンピューターにアプリケーションをダウンロードするか、QR コードを使用してアプリケーションをモバイルデバイスにダウンロードすることができます。

Apple または Android の AppStore へアプリケーションをアップロードするには、次の記事の手順に従ってください。

- Android 開発者コンソール
- Apple App Store へのアプリケーションの送信

マルチスクリーン HTML5 出力の生成

マルチスクリーン HTML5 SSL は、選択したスクリーンプロファイル用の出力を生成するのに役立ちます。

1) シングルソースレイアウトポッドで、マルチスクリーン HTML5 SSL をダブルクリックします。

   注： 開いたプロジェクトが前のバージョンで作成されたものである場合は、マルチスクリーン HTML5 のレイアウトを作成する必要があります。シングルソースレイアウトポッドで、レイアウトを作成アイコンをクリックし、出力タイプにマルチスクリーン HTML5 を選択します。

2) 「一般」タブで、次のオプションを設定します。

タイトルバー

タイトルバーに表示するタイトルを指定します。

お気に入りアイコン

出力に関連付けるアイコンを指定します。アイコンが、使用しているブラウザーによってブラウザーのタブまたはアドレスバーに表示されます。

出力フォルダーとスタートページ

出力の場所とスタートページを指定します。出力フォルダーの場所を選択するには、参照ボタンをクリックします。出力のデフォルト以外のスタートページを選択するには、.htm 拡張子を使用してページのアドレスを入力します。スタートページは、出力のホームページです。

3) 「スクリーンプロファイル」タブをクリックします。スクリーンプロファイルがスクリーンレイアウトにマッピングされます。これらのスクリーンプロファイルは、デフォルトのスクリーンとして設定されます（デフォルトでは、デスクトップがデフォルトのスクリーンとして設定されています）。

- 必要に応じ、デフォルトのスクリーンプロファイルを変更します。デフォルトに設定したいスクリーンプロファイルを選択し、「デフォルトとして設定」をクリックします。

  注：出力が起動されたデバイスの解像度がスクリーンプロファイルと一致しない場合は、デフォルトのスクリーンプロファイルが使用されます。

- 必要に応じ、「上へ移動」または「下へ移動」をクリックしてスクリーンプロファイルの順序を変更します。

  注： 出力が起動されたデバイスの解像度が2つのスクリーンプロファイルと一致する場合は、SSL設定のスクリーンプロファイルの順序によって、使用するスクリーンプロファイルが決定します。

- プロジェクトで使用できる新規スクリーンプロファイルを追加します。「スクリーンプロファイルを追加」をクリックし、リストからスクリーンプロファイルを選択します。

- 出力を生成するのに必要のないスクリーンプロファイルを削除します。スクリーンプロファイルリストからスクリーンプロファイルを選択し、「スクリーンプロファイルを削除」をクリックします。

- スクリーンプロファイルをスクリーンレイアウトにマッピングします。**注**：「プレビュー」をクリックし、マッピングされたスクリーンレイアウトをプレビューします。

4) 「スクリーンプロファイル」タブを展開し、各スクリーンプロファイルで次の設定を行います。

目次

生成された出力に表示する目次を選択します。目次を参照してください。

索引

生成された出力に表示する索引を選択します。索引を参照してください。

用語集

生成された出力に表示する用語集を選択します。次を参照してください：用語集を参照してください。

変数セット

生成される出力で、デフォルトの変数セットを上書きする変数セットを選択します。ユーザー定義変数を参照してください。

デフォルトトピック

出力を開くと表示されるトピックを選択します。デフォルトでは、目次の最初のトピックがデフォルトトピックです。

言語

言語がプロジェクトの言語と異なる場合にレイアウトの出力言語を指定します。RoboHelp はこの言語設定を、プレビューおよび生成された出力における UI 文字列や言語関連の UI 要素のために使用します。プロジェクトの設定の変更を参照してください。

エンコーディング

公開する Web サーバーが UTF-8 と異なる文字エンコーディングを持っている場合に、文字エンコーディング形式を指定します。

マップファイル

マップ ID に関連付けられているトピック ID を含むマップファイルを指定して、状況依存ヘルプを提供します。マップファイルおよびマップ ID を参照してください。

閲覧シーケンス

表示する閲覧シーケンスを選択します。閲覧シーケンスを参照してください。

コンディショナルビルドの式

プロジェクトにコンディショナルタグがある場合は、「定義」をクリックして、コンディショナルビルドの式を指定します。コンディショナルビルドタグの式を参照してください。

すべてのトピックに適用

プロジェクトレベルでマスターページまたはCSSを適用するには、このオプションを選択します。

マスターページ

プロジェクトでマスターページが適用されているかどうかに関係なく、すべての個別トピックの設定を、選択したマスターページでオーバーライドします。マスターページのCSSおよびレイアウトが、すべてのトピックのCSSと外観に上書きされます。選択したマスターページにヘッダーまたはフッターがない場合、ヘッダーまたはフッターが定義されているかどうかに関係なく、トピックにヘッダーまたはフッターは表示されません。

CSS

個別のトピックと関連付けられているマスターページが有効になります。トピックにマスターページが関連付けられているかどうかに関係なく、すべてのトピックとそのCSSを、選択したCSSでオーバーライドします。

生成時のマスターページまたはCSSの適用を参照してください。

出力から無参照トピックを除外

このオプションは、プロジェクト内に存在するが、レイアウト内のデフォルトトピックではないトピック、選択されている目次、索引、または閲覧シーケンスから参照されていないすべてのトピック、またはすべての参照トピックを除外するために選択します。

注： RoboHelpは出力表示ポッドに、出力から除外されている無参照トピックを表示します。

検索から無参照のバゲッジファイルを除外

このオプションは、プロジェクト内に存在するが、選択されている目次から参照されていないすべてのトピック、またはすべての参照トピック（「出力から無参照トピックを除外」が選択されている場合）を除外するために選択します。「出力から無参照トピックを除外」が選択されていない場合は、RoboHelpは、プロジェクト内のトピックから参照されていないバゲッジファイルを除外します。

5) 各スクリーンプロファイルの「検索」タブで、次の設定を行います。

サブストリング検索を有効にする

この機能を有効にすると、「log」で検索を実行した場合、「catalog」や「logarithm」などの単語を含まれたトピックが表示されます。サブストリング検索は、全文検索より時間がかかります。

外部コンテンツ検索を有効にする

プロジェクト出力外にある特定されたURLからコンテンツを表示するために選択します。URLを指定しそれを検索語に関連付ける方法の詳細については、外部コンテンツ検索を参照してください。

検索結果にコンテキストを表示

検索結果と共にトピックの最初の数行を表示する場合に選択します。コンテキストとして表示する最大文字数を指定できます。

検索からバゲッジファイルタイプを除外

検索から除外するバゲッジファイルのタイプを選択します。

ページあたりの結果数

1ページあたりに表示する検索結果数を選択します。

6) 各スクリーンプロファイルの「最適化」タブで、次の設定を行います。

自動サイズポップアップとカスタムサイズポップアップをハイパーリンクに変換

自動サイズポップアップまたはカスタムサイズポップアップで表示されるよう設定したハイパーリンクが、フラットハイパーリンクに変換されてることを確認するには、このオプションを選択します。

テキストのみのポップアップをハイパーリンクに変換

テキストのみのポップアップがフラットハイパーリンクに変換されていることを確認するには、このオプションを選択します。

絶対画像サイズを相対画像サイズに変換

画像の実際の幅と高さをパーセントに変換するには、このオプションを選択します。このようにして、プロジェクトで使用されている画像をデバイスに適したものにでき、さまざまなデバイスサイズに合わせることができます。

絶対表サイズを相対表サイズに変換

表の実際の幅と高さをパーセントに変換するには、このオプションを選択します。RoboHelp が表をこのように最適化することを許可することで、表をさまざまなデバイスのサイズに合わせられます。

iOS デバイスでズームを有効にする

iPad と iPhone でピンチズームを有効または無効にします。このオプションが有効な場合は、ユーザーはデバイスのスクリーンをピンチすることで、iPad または iPhone に表示された RoboHelp 出力をズームインできます。

Adobe Captivate HTML5 出力を使用

Adobe Captivate SWF 出力ではなく、Adobe Captivate HTML5 出力を使用するには、このオプションを選択します。

注： Adobe Captivate HTML5 出力は、プロジェクトに読み込まれる、また挿入されるデモとして使用できる必要がありあす。

プロジェクトスタイルの範囲をトピックコンテンツのみに制限

次のことを実行するには、このオプションを選択します。

- プロジェクトスタイルシート（CSS）で定義したスタイルがスクリーンレイアウト CSS で定義したスタイルを上書きしないようにする。
- トピックおよびレイアウトスタイルシート（CSS）が SharePoint マスターページで使用されている CSS を上書きしないようにする。

例：プロジェクト CSS にスタイルが含まれる場合。

```
div{ color:red; }
```

レイアウト CSS に `div` スタイルも含まれているが、別の色である場合、およびこの設定が設定されていない場合は、プロジェクト定義は赤色を適用されたレイアウト定義を上書きする可能性があります。

7) （オプション）「公開」タブで、次のオプションを設定します。

サーバー

出力用のサーバーの場所を指定します。HTML 出力を SharePoint サイトに公開するには、「新規」をクリックし、「SharePoint」を選択します。SharePoint サイト上のフォルダーの UNC パスを入力します（フォルダーがネットワークドライブとしてマッピングされている場合は、「参照」をクリックしてそのドライブを選択します）。

オプション

出力でファイルへの変更を処理する方法を指定します。

削除されたファイルを確認する

選択すると、RoboHelp HTML は公開先の場所から削除されたファイルを確認し、再公開します。

ファイルを上書きする前に確認する

選択すると、RoboHelp はファイルを上書きする前にプロンプトを表示します。

すべて再公開する

選択すると、すべてのファイルが公開先に再公開されます。サブフォルダーにサブプロジェクトのコピーがあるマスタープロジェクトの場合は、「すべて再公開する」を選択しないでください。これにより、同じ場所に既に公開されている出力ファイルが上書きされるのを防ぐことができます。

> **注:** 公開先を新しいホストに変更した場合は、必要に応じて、ユーザー ID とパスワードを指定し、パスワードをレジストリに保存します。

8) （オプション）「SharePoint（ネイティブ）」タブで、次のオプションを設定してネイティブ（.aspx）ファイル形式で出力を公開します。

SharePoint のバージョン

SharePoint 2007 または SharePoint 2010+ のどちらかを選択します。

公開場所：

選択したバージョンによって、次のいずれかを行います。

- SharePoint 2010+ を選択した場合は、「参照」をクリックして接続設定ダイアログボックスで SharePoint サイトパスと資格情報を入力し、SharePoint ドキュメントライブラリと出力をアップロードするフォルダーを選択します。
- SharePoint 2007 を選択した場合は、出力を公開する SharePoint パスを入力します。

SharePointへの公開

このオプションが選択されると、SharePointのみにファイルが公開されます。また以下を指定します。

- 削除されたファイルを確認する：選択すると、RoboHelp HTMLは公開先の場所から削除されたファイルを確認し、再公開します。
- ファイルを上書きする前に確認する：選択すると、RoboHelp はファイルを上書きする前にプロンプトを表示します。
- すべて再公開する：選択すると、すべてのファイルが公開先に再公開されます。サブフォルダーにサブプロジェクトのコピーがあるマスタープロジェクトの場合は、「すべて再公開する」を選択しないでください。これにより、同じ場所に既に公開されている出力ファイルが上書きされるのを防ぐことができます。

詳細オプション

次のオプションを指定します。

- 出力フォルダー：生成された SharePoint 出力を保存するローカルフォルダーです。このオプションは通常自動的に挿入されます。マージ済みプロジェクトで作業する場合にのみ出力フォルダーを指定する必要があります。
- 公開前に**SharePoint**ネイティブ出力を生成：ASPXファイルを事前に生成するには、このオプションを選択します。このオプションが選択されていない場合は、通常のHTMLファイルが生成された後にダイアログボックスが表示され、これらのファイルを公開するかどうかを選択できます。「公開」をクリックすると、ASPXファイルが生成されSharePointにアップロードされます。

9) （手順8に続くもう1つのオプション）RoboHelpでは、SharePointマスターページを、マルチスクリーンHTML5 SSLにおける各スクリーンプロファイルに割り当てることができます。SharePointマスターページを割り当てないように選択することもできます。各スクリーンプロファイルごとに次のオプションのいずれかを選択します。

サイトのマスターページ

サイトに対して相対的なマスターページのパスを入力します。

ルートサイト：example.com

SharePointサイト：example.com/robohelp

マスターページの場所：example.com/robohelp/doclib/minimal.master

パスを次のように指定します：**doclib/minimal.master**

システムのマスターページ

SharePointのシステムページのデフォルトマスターページとして定義されたマスターページを使用します。

カスタムサイトマスターページ

SharePointのサイトのデフォルトマスターページとして定義されたマスターページを使用します。

サイトコレクションのマスターページ

サイトコレクション（サイトのルート）に対して相対的なマスターページのパスを入力します。

例：

ルートサイト：example.com

SharePointサイト：example.com/robohelp

マスターページの場所：example.com/robohelp/doclib/minimal.master

パスを次のように指定します：**/robohelp/doclib/minimal.master**を修正します。

なし

SharePoint出力にマスターページを適用しません。出力は、SharePointクロムなしにASPXページとして表示されます。

推奨事項:マルチスクリーンHTML5出力をSharePointで最適化して表示するには、SharePointマスターページがHTML5に準拠しているかどうかを確認します。そうでない場合は、次のようなHTML5コンテンツまたはマルチスクリーンHTML5オプションはSharePointで公開したマルチスクリーンHTML5出力では動作しない可能性があります。

- HTML5ビデオ（プラグインなし）
- マルチスクリーンHTML5設定ダイアログボックスの最適化ページの次のオプション。

- 絶対画像サイズを相対画像サイズに変換
- 絶対表サイズを相対表サイズに変換
- Adobe Captivate HTML5 出力を使用
  - （Internet Explorer の場合のみ）ヒントテキストは、ユーザーが公開された SharePoint コンテンツの検索フィールドをクリックして検索文字列を入力しても、フィールドから削除されません。ユーザーは手動でヒントテキストを削除する必要があります。
  - 重要度の低いレイアウトの問題

EPUB および Kindle Book 出力の生成

EPUB 形式は、コンテンツを携帯デバイス、eBook リーダー、およびタブレットに配信するときに便利です。EPUB リーダーには、Adobe Digital Editions、Calibre、および Mozilla Firefox の EPUB Reader プラグインなどがあります。

Adobe Digital Editions リーダーソフトウェアは無料で、Digital Editions 製品サイトからダウンロードできます。

関連するリンク：

コンディショナルビルドタグのコンテンツへの適用

EPUB のリソース

EPUB の概要、RoboHelp のサポートする EPUB、お勧めについては、Neil Perlin が作成したこの記事 を参照してください。

EPUB の主な機能の一覧については、www.adobe.com/go/learn_rh_blog_epub_jp を参照してください。

EPUB 形式の詳細については、www.idpf.org を参照してください。

整形式かつ書式の整った EPUB 文書を作成するガイドラインについては、www.adobe.com/go/learn_rh_epub_best_practices_jp（EPUB フォーマットのベストプラクティスガイド）を参照してください。

Digital Editions の詳細については、ブログ Digital Editions を参照してください。

eBook 出力の生成

1) シングルソースレイアウトポッドで、eBook SSL をダブルクリックします。

2) 「一般」タブで、次のオプションを設定します。

eBook 形式

eBook 形式に、EPUB 3 か Kindle Book、またはその両方を選択します。EPUB 3 を選択した場合は、.epub ファイルが生成されます。Kindle Book 出力では、EPUB 3 出力は KindleGen コンバーターを使用して Kindle Format 8 および Mobi 出力に変換されます。

注: ご使用のコンピューターで KindleGen コンバーターを使用できない場合は、Kindle Book の生成ダイアログボックスに表示されているリンクからダウンロードしてください。

出力フォルダーとファイル名

出力ファイルの場所と名前を指定します。出力フォルダーの場所を選択するには、参照ボタン をクリックします。

注: ファイル名とともに、拡張子を指定する必要があります。選択した出力を元に、拡張子が追加されます。

EPUB 3 出力の検証

RoboHelp で、標準 EPUB 検証ツールである EpubCheck を使用して EPUB 出力を検証するように設定します。EpubCheck を使用するには、コンピューターに Java Runtime 1.5 以上がインストールされている必要があります。

注: ご使用のコンピューターで EpubCheck.jar ファイルを使用できない場合は、EPUB 検証ダイアログボックスに表示されているリンクからダウンロードしてください。検証メッセージは、英語です。

KindleGen のログを表示

KindleGen コンバーターで生成されるエラー、警告、ステータスメッセージを Output View ポッドに表示するには、このオプションを選択します。

3) 「コンテンツ」タブで、次のオプションを設定します。

目次

生成された出力に表示する目次を選択します。目次を参照してください。

索引

生成された出力に表示する索引を選択します。索引を参照してください。

用語集

生成された出力に表示する用語集を選択します。次を参照してください：用語集を参照してください。

変数セット

生成される出力で、デフォルトの変数セットを上書きする変数セットを選択します。ユーザー定義変数を参照してください。

コンディショナルビルドの式

プロジェクトにコンディショナルタグがある場合は、「定義」をクリックして、コンディショナルビルドの式を指定します。コンディショナルビルドタグの式を参照してください。

すべてのトピックに適用

プロジェクトレベルでマスターページまたはCSSを適用するには、このオプションを選択します。

マスターページ

プロジェクトでマスターページが適用されているかどうかに関係なく、すべての個別トピックの設定を、選択したマスターページでオーバーライドします。マスターページのCSSおよびレイアウトが、すべてのトピックのCSSと外観に上書きされます。選択したマスターページにヘッダーまたはフッターがない場合、ヘッダーまたはフッターが定義されているかどうかに関係なく、トピックにヘッダーまたはフッターは表示されません。

CSS

個別のトピックと関連付けられているマスターページが有効になります。トピックにマスターページが関連付けられているかどうかに関係なく、すべてのトピックとそのCSSを、選択したCSSでオーバーライドします。

生成時のマスターページまたはCSSの適用を参照してください。

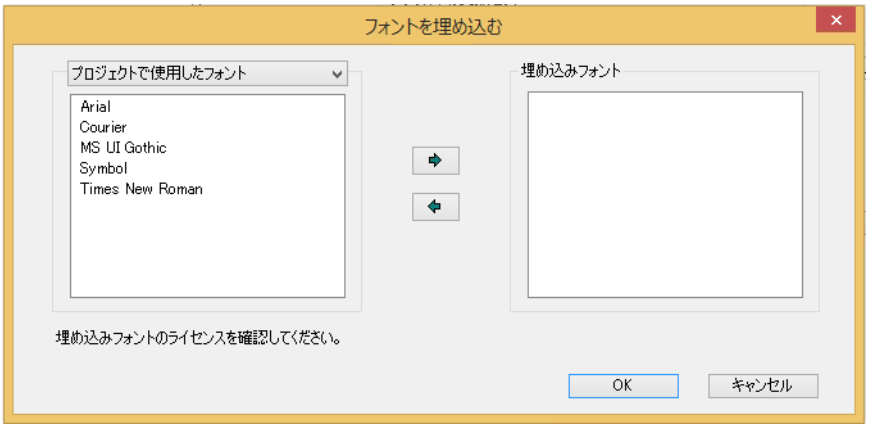
フォントを埋め込む

このオプションを選択して、選択したフォントをeBookに埋め込みます。一般的でないフォントを含むコンテンツを作成する場合、またはエンドユーザーの環境で使用できない可能性のあるカスタムフォントを使用する場合は、このオプションを使用します。

フォントはeBook出力の一部として組み込まれるため、一部のユーザーにフォントがインストールされていない場合でも、統一されたユーザーエクスペリエンスが提供されます。

このオプションにチェックマークを付けると、フォントを埋め込むダイアログが表示されます。このダイアログでは、RoboHelpプロジェクトに現在含まれているフォントを埋め込むように選択できます。また、現在含まれていないシステムフォントを埋め込むこともできます。

フォントを埋め込むダイアログ



管理

管理をクリックすると、フォントを埋め込むダイアログが開くため、現在埋め込まれているフォントを変更できます。

出力から無参照トピックを除外

このオプションは、プロジェクト内に存在するが、レイアウト内のデフォルトトピックではないトピック、選択されている目次、索引、または閲覧シーケンスから参照されていないすべてのトピック、またはすべての参照トピックを除外するために選択します。

注： RoboHelpは出力表示ポッドに、出力から除外されている無参照トピックを表示します。

目次の設定

目次の一番下に索引と用語集を挿入するには、「索引」、「用語集」またはその両方を選択します。デフォルトでは、索引が用語集の前に挿入されます。索引と用語集を配置する順番を逆にするには、上下ボタンを使用します。

4) 「メタデータ情報」タブで、Open Packaging Format (OPF) specification に準拠したメタデータを指定します。

タイトル

出力のタイトルです。デフォルトでは、RoboHelp はプロジェクト名を表示します。

作成者

（オプション）作成者の名前です。複数の作成者名を指定するには、カンマで区切ります。

発行元（s）

（オプション）出力を利用可能にすることに責任のあるエンティティの名前（例えば、作成者または組織）。

権利

（オプション）権利についての宣言（例えば、著作権情報）。

説明

（オプション）コンテンツの説明。

出版識別子

ISBN などの使用を決定する識別子。

言語

コンテンツが書かれている言語。フォーマットの詳細については、Dublin Core Metadata Element Set を参照してください。

発効日

（オプション）出力を発行した日付。「日付と時間の形式と指定します。

表紙画像

（オプション）eBookの表紙画像として使用するJPG、JPEGまたはPNG画像のパスと寸法を指定します（ブラウザーでサイズの異なるスクリーンに最適化して表示するには、パーセント値を使用します）。GIF画像を指定することもできます。ただし、GIFアニメーションの場合、最初のフレームのみが表紙に使用されます。

注： 表紙画像を指定しない場合は、目次の最初のトピックが表紙ページとして使用されます。

5) 「メタ情報」タブで、「カスタムメタデータ」をクリックし、XML形式で追加のEPUB 3固有のメタデータを指定します。EPUBのメタデータの指定については、メタデータのEPUB 3仕様を参照してください。

例えば、パブリケーション識別子の識別子タイプ（ISBN、UUID、DOIなど）を追加する場合は、以下のXML形式を使用できます。

```
<dc:identifier
id="pub-id">urn:doi:10.1016/j.iheduc.2008.03.001</dc:identifier>
```

```
<meta refines="#pub-id" property="identifier-type"
scheme="onix:codelist5">06</meta>
```

6) 「最適化設定」タブで、次のオプションを設定します。

自動サイズポップアップとカスタムサイズポップアップをハイパーリンクに変換

自動サイズポップアップまたはカスタムサイズポップアップで表示されるよう設定したハイパーリンクが、フラットハイパーリンクに変換されてることを確認するには、このオプションを選択します。

テキストのみのポップアップをハイパーリンクに変換

テキストのみのポップアップがフラットハイパーリンクに変換されていることを確認するには、このオプションを選択します。

絶対画像サイズを相対画像サイズに変換

画像の実際の幅と高さをパーセントに変換するには、このオプションを選択します。

絶対表サイズを相対表サイズに変換

表の実際の幅と高さをパーセントに変換するには、このオプションを選択します。

7) 「保存して生成」をクリックします。

ベストプラクティス

EPUB出力のコンテンツを準備する際に、次のベストプラクティスに留意します。

- ブックマークにスペース文字を使用しないでください。スペース文字は検証エラーを引き起こします。
- コンテンツに`Frameset`エレメントを使用しないでください。

制限

次のHTMLエレメント/属性はEPUB 3ではサポートされておらず、EPUB出力から削除されます。

- アプレット
- マーキー（`marquee`タグは削除されますが、コンテンツは出力に表示されます）
- `Table cellpadding`
- `Table cellspacing`
- 表の中央揃え、表は出力では左揃えに表示されます

EPUB 2.0.1 出力を生成

EPUB 2.0.1 出力を生成するための準備

1) プロジェクトコンテンツをレビューし、EPUB 形式でサポートされていないコンテンツ（例えばドロップダウンまたは展開テキスト）にCBTを適用します。
2) EPUB出力の目次を作成します。
3) シングルソースレイアウトポッドで、XML出力を右クリックし、「新規レイアウト」を選択します。名前を指定して、「OK」をクリックします。
4) EPUB出力用に作成した目次を選択します。
5) コンディショナルビルド式を選択または定義します。
6) 「保存」をクリックします。

   ヒント: インストールされたソフトウェア内に提供されているサンプルプロジェクト（スターターポッドからアクセスできます）には、EPUB出力のために設定されているレイアウトが含まれています。これらのレイアウトの設定をチェックしてください。

EPUB 2.0.1 出力生成用スクリプトを実行

1) 次のいずれかを行います。
   - 出力／生成／ EPUB 2.0.1 出力を選択します。
   - ツール／スクリプト／ EPUB 2.0.1 Generator を選択します。
2) EPUB 出力を保存する場所を指定します。
3) 出力の設定を含む XML レイアウトを選択します。
4) 「メタデータ」タブで、Open Packaging Format (OPF) specification に準拠したメタデータを指定します。

タイトル

出力のタイトルです。デフォルトでは、RoboHelp はプロジェクト名を表示します。

作成者

（オプション）作成者の名前です。複数の作成者名を指定するには、カンマで区切ります。

発行元

（オプション）出力を利用可能にすることに責任のあるエンティティの名前（例えば、作成者または組織）。

タグ

（オプション）コンテンツに関連付けるキーワード。

権利

（オプション）権利についての宣言（例えば、著作権情報）。

説明

（オプション）コンテンツの説明。

ISBN

（オプション）ISBN 仕様に準拠した識別子。

発効日

出力を発行した日付。DateandTimeFormats で指定されているフォーマットに従います。

言語

コンテンツが書かれている言語。フォーマットの詳細については、Dublin Core Metadata Element Set を参照してください。

5) 「表紙」タブで、EPUB 出力の表紙に表示する画像を参照して選択します。

6) ePub の検証タブで、「ePub ファイルを検証」を選択し、標準　EPUB バリデーター epubcheck.jar の場所を指定します。

7) 「生成」をクリックします。

WebHelp 出力の生成

1) シングルソースレイアウトポッドで、WebHelp のレイアウトをダブルクリックします。

注: 新規プロジェクト以外で作業している場合は、デフォルトの WebHelp のレイアウトの名前が変更されているか、削除されている場合があります。レイアウト設定ダイアログボックスのタイトルバーで種類を確認するには、任意のレイアウトをダブルクリックします。また、シングルソースレイアウトポッドのレイアウトを作成アイコンを使用して、必要な種類の新規レイアウトを追加することもできます。

2) WebHelp 設定ダイアログボックスの「全般」タブで、次のオプションを設定します。

タイトルバー

タイトルバーに表示するタイトルを指定します。

お気に入りアイコン

ヘルプシステムに関連付けるアイコンを指定します。このアイコンはブラウザーのタブに表示されます。

出力フォルダーとスタートページ

場所を指定し、ヘルプファイルのスタートページを選択します。出力フォルダーの場所を選択するには、参照ボタン をクリックします。ヘルププロジェクトのデフォルト以外のスタートページを選択するには、.htm 拡張子を使用してページのアドレスを入力します。スタートページは、アプリケーションからヘルプシステムを呼び出すときにリンク先として設定されるヘルプ内容のフレームセットです。

小文字のファイル名を使用

小文字だけのファイル名を作成します。このオプションは、UNIX ユーザーに推奨されます。

注：マージされたプロジェクトの場合は、このオプションを選択しないでください。他のプロジェクトのトピックへのリンクは小文字に変換されますが、トピックのファイル名は同じままになります。大文字と小文字が混合されている場合、UNIX でリンクが壊れます。

3) 「コンテンツカテゴリ」タブで、コンテンツカテゴリを作成して出力をユーザー中心ヘルプシステムのパッケージとして公開します（たとえば、異なるユーザー役割、異なる地域、異なる製品、または異なるプラットフォームに対してヘルプシステムのパッケージを公開します）。

エンドユーザーは統合化されたヘルプシステムのパッケージを表示することができ、ドロップダウンリストからアクセスしたいヘルプシステムを選択できます。各ヘルプシステムは独自の目次、閲覧シーケンス、索引、および検索があります。

- コンテンツカテゴリを作成するには、「新規」をクリックし、名前を指定します。
- コンテンツカテゴリの名前を変更するには、カテゴリを選択します。「名前の変更」をクリックし、別の名前を指定します。
- コンテンツカテゴリを削除するには、カテゴリを選択し、「削除」をクリックします。「はい」をクリックして確定します。
- ユーザーが選択するドロップダウンリスト内のコンテンツカテゴリの順番を変更するには、上向きまたは下向きのキーを使用します。
- コンテンツカテゴリをデフォルトカテゴリとして指定するには、「デフォルトとして設定」をクリックします。

4) コンテンツタブで、各コンテンツカテゴリごとに次のオプションを設定します。

コンテンツタタイトル

コンテンツカテゴリのタイトルを指定します。タイトルは、ドロップダウンリストに表示され、ユーザーがコンテンツカテゴリを識別するために役立ちます。

注：コンテンツカテゴリをまだ作成していない場合は、このフィールドを無視してください。RoboHelp は、「全般」タブのヘルプ設定で指定したタイトルを使用します。

目次

生成されるヘルプで表示する目次を選択します。目次を参照してください。

索引

生成されるヘルプで表示する索引を選択します。索引を参照してください。

用語集

生成されるヘルプで表示する用語集を選択します。用語集を参照してください。

変数セット

生成されるヘルプでデフォルトの変数セットを上書きする変数セットを選択します。ユーザー定義変数を参照してください。

デフォルトトピック

ヘルプが開いたときに表示されるトピックです。デフォルトでは、目次の最初のトピックがデフォルトトピックです。

言語

言語がプロジェクトの言語と異なる場合にレイアウトの出力言語を指定します。RoboHelp はこの言語設定を、プレビューおよび生成された出力における UI 文字列や言語関連の UI 要素のために使用します。

エンコーディング

文字エンコーディング形式を指定します。

マップファイル

マップ ID に関連付けられているトピック ID を含むマップファイルを指定して、状況依存ヘルプを提供します。

閲覧シーケンス

表示する閲覧シーケンスを選択します。

コンディショナルビルドの式

プロジェクトにコンディショナルタグがある場合は、「定義」をクリックして、コンディショナルビルドの式を指定します。コンディショナルビルドタグの式を参照してください。

すべてのトピックに適用

プロジェクトレベルでマスターページまたはCSSを適用するには、このオプションを選択します。

マスターページ

プロジェクトでマスターページが適用されているかどうかに関係なく、すべての個別トピックの設定を、選択したマスターページでオーバーライドします。マスターページのCSSおよびレイアウトが、すべてのトピックのCSSと外観に上書きされます。選択したマスターページにヘッダーまたはフッターがない場合、ヘッダーまたはフッターが定義されているかどうかに関係なく、トピックにヘッダーまたはフッターは表示されません。

CSS

個別のトピックと関連付けられているマスターページが有効になります。トピックにマスターページが関連付けられているかどうかに関係なく、すべてのトピックとそのCSSを、選択したCSSでオーバーライドします。

生成時のマスターページまたはCSSの適用を参照してください。

出力から無参照トピックを除外

このオプションは、プロジェクト内に存在するが、レイアウト内のデフォルトトピックではないトピック、選択されている目次、索引、または閲覧シーケンスから参照されていないすべてのトピック、またはすべての参照トピックを除外するために選択します。

注： RoboHelpは出力表示ポッドに、出力から除外されている無参照トピックを表示します。

検索から無参照のバゲッジファイルを除外

このオプションは、プロジェクト内に存在するが、選択されている目次から参照されていないすべてのトピック、またはすべての参照トピック（「出力から無参照トピックを除外」が選択されている場合）を除外するために選択します。「出力から無参照トピックを除外」が選択されていない場合は、RoboHelpは、プロジェクト内のトピックから参照されていないバゲッジファイルを除外します。

5) 「ナビゲーション」タブで、次のオプションを設定します。

スキン選択

（オプション）プロジェクト内のスキンを参照します。または、「ギャラリ」をクリックして、スキンギャラリからスキンを選択します。出力の色、ボタン、テキスト、フォント、アイコンをカスタマイズするには、スキンを適用します。

注:「Section 508準拠の出力」オプションを選択した場合は、「スキン」オプションは無効になります。「従来のスタイル - スキンなし」オプションを使用してください。

トピックナビゲーション

「従来のスタイル - スキンなし」オプションを選択した場合は、このオプションを有効にします。ナビゲーションペインの「表示/非表示」ボタンを含める、または除外したり、トピックに閲覧シーケンスを含める、または除外するには、「編集」をクリックしてオプションにアクセスします。

W3C準拠のトピック

W3C準拠のトピックの場合、HTMLバリデーターを通してトピックを渡します。

Webのマークを追加

Webのマークとは、WebページのHTMLマークアップ内のコメントです。Internet Explorer 6以降は、このコメントを参照して、ユーザーのコンピューターに表示されるページのセキュリティゾーンを判別します。Internet Explorerによって出力がブロックされないようにするには、このオプションを選択します。

注: プロジェクトをマージする前に、Webのマークコメントオプションの選択/非選択がすべてのプロジェクト間で一致していることを確認してください。

Section 508準拠の出力

Section 508準拠のWebHelpを提供する場合に選択します。出力は、スキンまたはDHTMLなどの他の機能を含むことはできません。

速度を最適化

大部分のユーザーがヘルプにアクセスするときのオプションを選択します。XML形式では、すぐに必要なデータしかダウンロードされないので、ロード時間が短縮されます。例えば、目次ペインは、最初に必要最低限のデータしかダウンロードされないので、すぐに表示されます。残りのデータは、ユーザーがリスト内を下方向に移動するタイミングに合わせてダウンロードされます。

- **Web**サイト（インターネット） Webサイトからアクセスする場合に選択します。接続のスピードが遅くなり、データが小さなグループに分割され、より多くのWebHelpファイルが必要になります。
- ローカル**PC**またはイントラネット（内部ネットワーク） イントラネットまたはローカルコンピューターからアクセスする場合に選択します。接続のスピードが速くなり、データが大きなグループに分割され、必要なWebHelpファイルの数が減ります。

推奨フォーマット

WebHelpがダイナミックHTML（DHTML）を処理する方法、およびエンドユーザーがヘルプにアクセスする方法を指定します。選択するオプションは、使用されているブラウザーやファイアウォールの種類など、ユーザー環境に依存します。

DHTML／ピュアHTML

サポートされている場合はダイナミックHTMLを使用し、それ以外の場合はピュアHTMLを使用します。Javaアプレットをブロックするファイアウォールをユーザーが使用している場合は、DHTML／ピュアHTMLを選択します。これにより、Javaアプレットがヘルプから削除されます。

ピュアHTML

すべてのブラウザーで、リストベースのピュアHTMLを使用してヘルプを表示します。ただし、ピュアHTMLを使用するとナビゲーション機能が制限されます。

ツールバーのボタン

左側のペインに表示するナビゲーションツールバーボタンを選択します。

目次を同期

目次を右ペインのトピックと同期します。これにより、ユーザーは構造のどこに自分が位置するのかを知ることができます。

- 目次を自動で同期するには、ポップアップメニューをクリックして「自動」を選択します。
- ユーザーがクリックして目次を同期できるボタンを追加するには、ポップアップメニューをクリックして「手動」を選択します。**注：**カスタムスキンを使用する場合、WebHelp スキンエディターにボタンアイコンを提供します。

ブレッドクラムリンクを追加

トピックページにブレッドクラムを追加する場合に選択します。

書式

ブレッドクラムの書式を変更します。

閲覧シーケンスを有効にする

出力に閲覧シーケンスを表示するかどうかを指定します。

トピックのナビゲーションペインのリンクを表示

状況依存ヘルプを呼び出して開くトピックのナビゲーションペインへのリンクを含める場合に選択します。

子プロジェクトにマージされた目次を表示

子プロジェクトにマージされた目次を表示する場合に選択します。

ツールバーの検索入力フィールド

メインツールバーに検索フィールドを含めます。

バージョン情報ボックスを追加

ユーザーがメインツールバーで画像をクリックしたときにダイナミックウィンドウに表示される情報を設定します。

バージョン情報ボックスの例

6) 検索タブで、次のオプションを設定します。

サブストリング検索を有効にする

この機能を有効にすると、「log」で検索を実行した場合、「catalog」や「logarithm」などの単語を含まれたトピックが表示されます。サブストリング検索は、全文検索より時間がかかります。

検索結果内での強調表示を有効にする

検索結果のハイライトを有効にする場合に選択します。ポップアップメニューから、ハイライトの色を選択します。

外部コンテンツ検索を有効にする

ヘルプシステム外にある特定されたURLからコンテンツを表示するために選択します。URLを指定しそれを検索語に関連付ける方法の詳細については、外部コンテンツ検索を参照してください。

検索結果にコンテキストを表示

検索結果と共にトピックの最初の数行を表示する場合に選択します。

検索結果でランク列を隠す

検索結果でランク列を表示しないために選択します。

検索結果の合計数を表示

特定の検索文字列の検索結果数を表示するために選択します。

出力のAND検索を許可

検索ボックスに二重引用符を使用せずに指定されたすべての単語を含むトピックのみを表示するために選択します。デフォルトでは、ユーザーが複数の単語を二重引用符に入れずに入力するとORが実行されます。検索ボックスに指定されたすべての単語を含むトピックが検索されることを意味します。

注: AND検索はフレーズ検索と一緒に使用できます。

必要に応じ、「デフォルトでAND検索を有効にする」オプションを有効にします。デフォルトでAND検索を無効にすることを許可した場合は、エンドユーザーは出力で有効にするオプションが使用できます。

注: マージ済みプロジェクトでは、子プロジェクトは親プロジェクトの設定を継承します。DUCC（コンテンツカテゴリ）のあるプロジェクトでは、設定はすべてのコンテンツカテゴリに適用されます。

検索からバゲッジファイルタイプを除外

検索から除外するバゲッジファイルのタイプを選択します。

7) 公開タブで、次のオプションを設定してから、「保存して生成」をクリックします。

サーバー

出力用のサーバーの場所を指定します。SharePointサイトに公開するには、「新規」をクリックし、「SharePoint」を選択します。SharePointサイト上のフォルダーのUNCパスを入力します（フォルダーがネットワークドライブとしてマッピングされている場合は、「参照」をクリックしてそのドライブを選択します）。

オプション

出力でファイルへの変更を処理する方法を指定します。

削除されたファイルを確認する

選択すると、RoboHelp HTMLは公開先の場所から削除されたファイルを確認し、再公開します。

ファイルを上書きする前に確認する

選択すると、RoboHelpはファイルを上書きする前にプロンプトを表示します。

すべて再公開する

選択すると、すべてのファイルが公開先に再公開されます。サブフォルダーにサブプロジェクトのコピーがあるマスタープロジェクトの場合は、「すべて再公開する」を選択しないでください。これにより、同じ場所に既に公開されている出力ファイルが上書きされるのを防ぐことができます。

注： 公開先を新しいホストに変更した場合は、必要に応じて、ユーザーIDとパスワードを指定し、パスワードをレジストリに保存します。

関連するリンク：

ダイナミックHTMLと特殊効果

WebHelp Pro または FlashHelp Pro 出力の生成

1) 次のオプションを指定して、「次へ」をクリックします。

注: 生成する出力の種類により、一部のオプションの順序が異なります。

プロジェクト名

プロジェクトをマージする場合、サーバーでプロジェクトの複数のバージョンを区別します。

お気に入りアイコン

ヘルプシステムに関連付けるアイコンを指定します。このアイコンはブラウザーのタブに表示されます。

出力フォルダーとスタートページ

場所を指定し、ヘルプファイルのスタートページを選択します。出力フォルダーの場所を選択するには、フォルダーボタン をクリックします。ヘルププロジェクトのデフォルト以外のスタートページを選択するには、.htm 拡張子を使用してページのアドレスを入力します。スタートページは、アプリケーションからヘルプシステムを呼び出すときにリンク先として設定されるヘルプ内容のフレームセットです。

コンディショナルビルドの式

プロジェクトにコンディショナルタグがある場合は、「定義」をクリックして、コンディショナルビルドの式を指定します。

スキン

プロジェクトのスキンから選択するか、または「ギャラリ」をクリックしてスキンギャラリから選択します。スキンを使用すると、色、ボタン、テキスト、フォント、アイコンなどを変更して出力をカスタマイズできます。FlashHelp 出力にはスキンが必要です。

注:「Section 508 準拠の出力」オプションを選択した場合は、「スキン」オプションは無効になります。「従来のスタイル - スキンなし」オプションを使用してください。

目次

生成したヘルプに表示する目次を選択します。

索引

生成したヘルプに表示する索引を選択します。

用語集

生成したヘルプに表示する用語集を選択します。

変数

生成されるヘルプでデフォルトの変数セットの値を上書きする変数セットを選択します。

言語

言語がプロジェクトの言語と異なる場合にレイアウトの出力言語を指定します。RoboHelp はこの言語設定を、プレビューおよび生成された出力における UI 文字列や言語関連の UI 要素のために使用します。

エンコーディング

文字エンコーディング形式を指定します。

デフォルトトピック

ヘルプが開いたときに表示されるトピックです。「選択」をクリックしてトピックを指定します。デフォルトでは、目次の最初のトピックがデフォルトトピックです。

デフォルトウィンドウ

ヘルプが表示されるコンテナです。デフォルトでは、ヘルプシステムはユーザーのデフォルトのブラウザーウィンドウに表示されます。

出力から無参照トピックを除外

このオプションは、プロジェクト内に存在するが、レイアウト内のデフォルトトピックではないトピック、選択されている目次、索引、または閲覧シーケンスから参照されていないすべてのトピック、またはすべての参照トピックを除外するために選択します。

> **注：** RoboHelp は出力表示ポッドに、出力から除外されている無参照トピックを表示します。

検索から無参照のバゲッジファイルを除外

このオプションは、プロジェクト内に存在するが、選択されている目次から参照されていないすべてのトピック、またはすべての参照トピック（「出力から無参照トピックを除外」が選択されている場合）を除外するために選択します。「出力から無参照トピックを除外」が選択されていない場合は、RoboHelp は、プロジェクト内のトピックから参照されていないバゲッジファイルを除外します。

すべてのトピックに適用

プロジェクトレベルでマスターページまたは CSS を適用するには、このオプションを選択します。

マスターページ

プロジェクトでマスターページが適用されているかどうかに関係なく、すべての個別トピックの設定を、選択したマスターページでオーバーライドします。マスターページの CSS およびレイアウトが、すべてのトピックの CSS と外観に上書きされます。選択したマスターページにヘッダーまたはフッターがない場合、ヘッダーまたはフッターが定義されているかどうかに関係なく、トピックにヘッダーまたはフッターは表示されません。

CSS

個別のトピックと関連付けられているマスターページが有効になります。トピックにマスターページが関連付けられているかどうかに関係なく、すべてのトピックとその CSS を、選択した CSS でオーバーライドします。

2) 次のオプションを指定して、「次へ」をクリックします。

外部コンテンツ検索を有効にする

ヘルプシステム外にある特定された URL からコンテンツを表示するために選択します。URL を指定しそれを検索語に関連付ける方法の詳細については、外部コンテンツ検索を参照してください。

検索結果のハイライト

検索結果のハイライトを有効にする場合に選択します。ポップアップメニューから、ハイライトの色を選択します。

検索結果にコンテキストを表示

検索結果と共にトピックの最初の数行を表示する場合に選択します。

検索結果でランク列を隠す

（WebHelp Pro）検索結果でランク列を表示しないために選択します。

検索結果の合計数を表示

（WebHelp Proのみ）特定の検索文字列の検索結果数を表示するために選択します。

出力のAND検索を許可

（WebHelp Proのみ）検索ボックスに二重引用符を使用せずに指定されたすべてのの単語を含むトピックのみを表示するために選択します。デフォルトでは、ユーザーが複数の単語を二重引用符に入れずに入力するとORが実行されます。検索ボックスに指定されたすべての単語を含むトピックが検索されることを意味します。

注: AND検索はフレーズ検索と一緒に使用できます。

必要に応じ、「デフォルトでAND検索を有効にする」オプションを有効にします。デフォルトでAND検索を無効にすることを許可した場合は、エンドユーザーは出力で有効にするオプションが使用できます。

注: **マージ済みプロジェクトでは、子プロジェクトは親プロジェクトの設定を継承します。**DUCC（**コンテンツカテゴリ**）**のあるプロジェクトでは、設定はすべてのコンテンツカテゴリに適用されます。**

W3C準拠のトピック

W3C準拠のトピックの場合、HTMLバリデーターを通してトピックを渡します。

注: スタイルで使用されるダイナミック効果は、W3C準拠の出力ではサポートされていません。

Webのマークを追加

Webのマークとは、WebページのHTMLマークアップ内のコメントです。Internet Explorer 6以降は、このコメントを参照して、ユーザーのコンピューターに表示されるページのセキュリティゾーンを判別します。Internet Explorerによって出力がブロックされないようにするには、このオプションを選択します。

注: プロジェクトをマージする前に、Webのマークコメントオプションの選択/非選択がプロジェクト間で一致していることを確認してください。

バージョン情報ボックスを追加

「追加」をクリックして、ユーザーがメインツールバーから起動したバージョン情報ボックスに表示する情報を指定します。

フラッシュセキュリティの自動管理

（FlashHelp Proの場合）選択すると、生成される出力パスが、Flash Playerのローカルの信頼されたサンドボックスにコピーされます。Flash 7以降でのセキュリティの変更のため、Flash Playerの信頼できるセキュリティサンドボックスにSWFファイルを格納します。RoboHelp*[version]*.cfgファイルがFlashPlayerTrustフォルダーに保持されます。**注:** スタイルで使用されるダイナミック効果は、W3C準拠の出力ではサポートされていません。

スキンに印刷ボタンを表示する

（FlashHelp Pro）出力に印刷ボタンを表示します。

トピックのナビゲーションペインのリンクを表示

状況依存ヘルプから開かれるトピックに、ナビゲーションペインへのリンクを含めます。

ブレッドクラムリンクを追加

トピックページにブレッドクラムを追加する場合に選択します。

3) 次のオプションを設定してから、「保存して生成」をクリックします。

サーバー

出力用のサーバーの場所を指定します。使用するプロトコルに従って、`Servername:port/context-name/server`または`https://Servername:port/context-name/server`を入力します。RoboHelpはデフォルトで`http`プロトコルを使用します。

オプション

出力でファイルへの変更を処理する方法を指定します。

削除されたファイルを確認する

選択すると、RoboHelp HTMLは公開先の場所から削除されたファイルを確認し、再公開します。

ファイルを上書きする前に確認する

選択すると、RoboHelpはファイルを上書きする前にプロンプトを表示します。

すべて再公開する

選択すると、すべてのファイルが公開先に再公開されます。サブフォルダーにサブプロジェクトのコピーがあるマスタープロジェクトの場合は、「すべて再公開する」を選択しないでください。これにより、同じ場所に既に公開されている出力ファイルが上書きされるのを防ぐことができます。

注: 公開先を新しいホストに変更した場合は、必要に応じて、ユーザー ID とパスワードを指定し、パスワードをレジストリに保存します。

Microsoft HTML Help 出力の生成

1) 次のオプションを設定してから、「保存して生成」をクリックします。

出力フォルダーとファイル名を選択

場所を指定し、ヘルプファイルのスタートページを選択します。出力フォルダーの場所を選択するには、参照ボタン をクリックします。ヘルププロジェクトのデフォルト以外のスタートページを選択するには、.chm 拡張子を使用してページを入力します。

コンディショナルビルドの式

プロジェクトにコンディショナルタグがある場合は、「定義」をクリックして、コンディショナルビルドの式を指定します。

目次

生成したヘルプに表示する目次を選択します。

索引

生成したヘルプに表示する索引を選択します。

用語集

生成したヘルプに表示する用語集を選択します。

変数

生成されるヘルプでデフォルトの変数セットの値を上書きする変数セットを選択します。

言語

言語がプロジェクトの言語と異なる場合にレイアウトの出力言語を指定します。RoboHelp はこの言語設定を、プレビューおよび生成された出力における UI 文字列や言語関連の UI 要素のために使用します。

デフォルトトピック

ヘルプが開いたときに表示されるトピックです。「選択」をクリックしてトピックを指定します。デフォルトでは、目次の最初のトピックがデフォルトトピックです。

デフォルトウィンドウ

ヘルプが表示されるコンテナです。デフォルトでは、ヘルプシステムはユーザーのデフォルトのブラウザーウィンドウに表示されます。

出力から無参照トピックを除外

このオプションは、プロジェクト内に存在するが、レイアウト内のデフォルトトピックではないトピック、選択されている目次、索引、または閲覧シーケンスから参照されていないすべてのトピック、またはすべての参照トピックを除外するために選択します。

注： RoboHelp は出力表示ポッドに、出力から除外されている無参照トピックを表示します。

ブレッドクラムリンクを追加

トピックページにブレッドクラムを追加する場合に選択します。

CHM のファイルサイズを最適化する

CHM ファイルのサイズを小さくします。

詳細設定

目次と索引のカスタムスタイルを指定する場合にクリックします。

すべてのトピックに適用

プロジェクトレベルで書式を適用するには、このオプションを選択します。

マスターページ

プロジェクトでマスターページが適用されているかどうかに関係なく、すべての個別トピックの設定を、選択したマスターページでオーバーライドします。マスターページの CSS およびレイアウトが、すべてのトピックの CSS と外観に上書きされます。例えば、選択したマスターページにヘッダーまたはフッターがない場合、トピックでもヘッダーまたはフッターは表示されません。

CSS

個別のトピックと関連付けられているマスターページが有効になります。トピックにマスターページが関連付けられているかどうかに関係なく、すべてのトピックとそのCSSを、選択したCSSでオーバーライドします。

Oracle Help 出力の生成

1) 次のオプションを指定して、「次へ」をクリックします。

出力フォルダーとファイルの名前を選択

出力ファイルの名前と場所です。

小文字のファイル名を使用

UNIXユーザーまたはUNIXサーバーのファイルにアクセスするユーザーに推奨されます。

コンディショナルビルドの式

「定義」をクリックして、コンディショナルビルドの式を指定します。

デフォルトトピック

「選択」をクリックして、ヘルプが起動したときに表示されるトピックを選択します。

ナビゲーションペイン

「ヘルプ」ナビゲーションペインに表示するタブを指定します。

トピックナビゲーションバー

ナビゲーションバーのオプションを指定します。

出力

Oracle Helpの出力タイプを指定します。

非圧縮Oracle Help（ソースファイル付き）

HSファイルと個別のソースファイルを生成します。

圧縮Oracle Help

JARファイルとHSファイルを生成します。

圧縮 Oracle Help（ソースファイル付き）

JAR ファイル、HS ファイル、および個別のソースファイルを生成します。

注: Oracle Help ソースファイルを生成すると、Oracle Help 出力フォルダーを空にします。

目次

出力に表示する目次を選択します。

索引

出力に表示する索引を選択します。

変数

生成されるヘルプでデフォルトの変数セットの値を上書きする変数セットを選択します。

言語

言語がプロジェクトの言語と異なる場合にレイアウトの出力言語を指定します。RoboHelp はこの言語設定を、プレビューおよび生成された出力における UI 文字列や言語関連の UI 要素のために使用します。

エンコーディング

公開する Web サーバーが UTF-8 と異なる文字エンコーディングを持っている場合に、文字エンコーディング形式を指定します。

出力から無参照トピックを除外

このオプションは、プロジェクト内に存在するが、レイアウト内のデフォルトトピックではないトピック、選択されている目次、索引、または閲覧シーケンスから参照されていないすべてのトピック、またはすべての参照トピックを除外するために選択します。

注: RoboHelp は出力表示ポッドに、出力から除外されている無参照トピックを表示します。

すべてのトピックに適用

プロジェクトレベルで書式を適用するには、このオプションを選択します。

マスターページ

プロジェクトでマスターページが適用されているかどうかに関係なく、すべての個別トピックの設定を、選択したマスターページでオーバーライドします。マスターページのCSSおよびレイアウトが、すべてのトピックのCSSと外観に上書きされます。例えば、選択したマスターページにヘッダーまたはフッターがない場合、トピックでもヘッダーまたはフッターは表示されません。

CSS

個別のトピックと関連付けられているマスターページが有効になります。トピックにマスターページが関連付けられているかどうかに関係なく、すべてのトピックとそのCSSを、選択したCSSでオーバーライドします。

2) 次のオプションを設定して、「次へ」をクリックします

ラベル

ビュー名上にマウスを置いたときに表示されるテキストです。デフォルトのテキストを使用するには空のままにします。

画像

参照ボタンをクリックして、ツールバーで使用する画像を選択します。

3) 次のオプションを設定して、「次へ」をクリックします

タイトル

（オプション）ビューアーに表示するテキストを指定します。デフォルトのテキスト（「目次」、「索引」、「全文検索」）を使用する場合は、ボックスを空のままにします。

画像

参照ボタンをクリックして、目次タイトルの隣に表示される画像を選択します。

4) 「追加」をクリックして、目次、索引、検索のリモートビューを指定します。ビューのプロパティを入力して、「次へ」をクリックします。

「全般」タブ

以下のオプションを設定します。

名前

（オプション）リモートビューの一意の名前です。

種類

リモートビューの種類（TOCNavigator、KeywordNavigator、またはSearchNavigator）です。Oracle Helpでは、ラベルとビューのタイプが一致するビューをマージします。

変換方式

ビューのデータファイルの形式です。

データファイル

リモートビューのパス（ファイル名またはURL）です。

オプションタブ

以下のオプションを設定します。

テキスト

タブのラベルとビューのタイトルを指定します。デフォルトのテキスト（「目次」、「索引」、「全文検索」）を使用する場合は、ボックスを空のままにします。

画像

参照ボタンをクリックして、ツールバーで使用する画像を選択します。

マップ参照タブ

参照ボタンをクリックして、リモートビュー用にポインターをマップファイルに追加します。

5) 外部ヘルプセットファイル（.hs）をプロジェクトとマージするには、「サブヘルプセット」でパスを指定して、「追加」をクリックします。

6) 「保存して生成」をクリックします。

7) JavaHelp　JDK要件ダイアログボックスが表示される場合は、次のいずれかのオプションを選択します。

注: このダイアログボックスは、Sun Java 2 JDK以降がインストールされていない場合に表示されます。

全文検索なしで生成

全文検索機能なしで出力を生成する場合にクリックします。

Java SDKのインストールフォルダーを検索

Java SDKのインストールフォルダーを参照する場合にクリックします。「ネットワーク」をクリックしてネットワークドライブ上でフォルダーを検索し、指定します。

JavaHelp 出力の生成

1) 次のオプションを設定してから、「保存して生成」をクリックします。

出力フォルダーとファイルの名前を選択

出力ファイルの名前と場所です。

小文字のファイル名を使用

UNIX ユーザーまたは UNIX サーバーのファイルにアクセスするユーザーに推奨されます。

コンディショナルビルドの式

「定義」をクリックして、コンディショナルビルドの式を指定します。

デフォルトトピック

「選択」をクリックして、ヘルプが起動したときに表示されるトピックを選択します

トピックナビゲーションバー

ナビゲーションバーのオプションを指定します。

目次

出力に表示する目次を選択します。

索引

出力に表示する索引を選択します。

用語集

出力に表示する用語集を選択します。

変数

生成されるヘルプでデフォルトの変数セットの値を上書きする変数セットを選択します。

言語

言語がプロジェクトの言語と異なる場合にレイアウトの出力言語を指定します。RoboHelp はこの言語設定を、プレビューおよび生成された出力における UI 文字列や言語関連の UI 要素のために使用します。

エンコーディング

公開するWebサーバーがUTF-8と異なる文字エンコーディングを持っている場合に、文字エンコーディング形式を指定します。

出力から無参照トピックを除外

このオプションは、プロジェクト内に存在するが、レイアウト内のデフォルトトピックではないトピック、選択されている目次、索引、または閲覧シーケンスから参照されていないすべてのトピック、またはすべての参照トピックを除外するために選択します。

注: RoboHelpは出力表示ポッドに、出力から除外されている無参照トピックを表示します。

バージョン

JavaHelpのバージョンを指定します。

圧縮

必要に応じて次のオプションを選択します。

非圧縮JavaHelp（ソースファイル付き）

HSファイルと個別のソースファイルを生成します。

圧縮JavaHelp JAR

JARファイルとHSファイルを生成します。

圧縮JavaHelp（ソースファイル付き）

JARファイル、HSファイル、および個別のソースファイルを生成します。

注: JavaHelpソースファイルを生成すると、JavaHelp出力フォルダーは空になります。

すべてのトピックに適用

プロジェクトレベルで書式を適用するには、このオプションを選択します。

マスターページ

プロジェクトでマスターページが適用されているかどうかに関係なく、すべての個別トピックの設定を、選択したマスターページでオーバーライドします。マスターページのCSSおよびレイアウトが、すべてのトピックのCSSと外観に上書きされます。

選択したマスターページにヘッダーまたはフッターがない場合、ヘッダーまたはフッターが定義されているかどうかに関係なく、トピックにヘッダーまたはフッターは表示されません。

CSS

個別のトピックと関連付けられているマスターページが有効になります。トピックにマスターページが関連付けられているかどうかに関係なく、すべてのトピックとそのCSSを、選択したCSSでオーバーライドします。

詳細

ナビゲーションビューのプロパティおよびマージオプションですと指定します。

2) JavaHelp　JDK要件ダイアログボックスが表示される場合は、次のいずれかのオプションを選択します。

注: このダイアログボックスは、Sun Java 2 JDK以降がインストールされていない場合に表示されます。

全文検索なしで生成

全文検索機能なしで出力を生成する場合にクリックします。JavaHelp SubHelpSetsダイアログボックスが表示されます。

外部JavaHelpヘルプセット（HSファイル）をプロジェクトにマージします。

SubHelpSet

ヘルプセット（.hs）ファイルへのフルパス（ファイル名またはURL）を入力します。

追加

指定したHSファイルを追加します。

更新

既に追加したSubHelpSetファイルの場所を変更します。ファイルを強調表示して、「SubHelpSet」ボックスでパスを変更し、「更新」をクリックします。

削除

選択したSubHelpSetファイルを削除します。

Java SDKのインストールフォルダーを検索

Java SDKのインストールフォルダーを参照する場合にクリックします。「ネットワーク」をクリックしてネットワークドライブ上でフォルダーを検索し、指定します。

次の情報を指定して、指定したMIMEタイプのビューアークラスを定義できます。

種類

MIMEタイプを入力します。

クラス

MIMEタイプを表示するJavaクラスを入力します。

XML出力の生成

1) 次のオプションを設定してから、「保存して生成」をクリックします。

出力フォルダーとファイル名を選択

出力ファイルの名前と場所です。

コンディショナルビルドの式

「定義」をクリックして、コンディショナルビルドの式を指定します。

書き出しハンドラーを選択

次の詳細オプションがあります。

DocBookへのプロジェクトの書き出し

XMLプロジェクト全体をDocBook形式に書き出します。

DocBookへのトピックの書き出し

トピックのみをDocBook形式に書き出します。

XHTMLへのプロジェクトの書き出し

XMLプロジェクトをXHTML形式に書き出します。すべてのトピックはXHTMLファイルに変換されます。

DocBookオプションの場合は、「詳細」をクリックして追加のオプションを設定します。

内容のみ

プロジェクトまたはトピックに含まれる意味のある内容（テキストまたはデータ）のみを書き出します。DHTML効果は含まれません。

全機能の書き出し

プロジェクトまたはトピックの内容全体（テキストとデータおよび関連の表示形式）を書き出します。すべてのDHTML効果が含まれます。

目次

出力に表示する目次を選択します。

索引

出力に表示する索引を選択します。

用語集

出力に表示する用語集を選択します。

変数

生成されるヘルプでデフォルトの変数セットの値を上書きする変数セットを選択します。

エンコーディング

文字エンコーディング形式を指定します。

出力から無参照トピックを除外

このオプションは、プロジェクト内に存在するが、レイアウト内のデフォルトトピックではないトピック、選択されている目次、索引、または閲覧シーケンスから参照されていないすべてのトピック、またはすべての参照トピックを除外するために選択します。

注： RoboHelpは出力表示ポッドに、出力から除外されている無参照トピックを表示します。

すべてのトピックに適用

プロジェクトレベルで書式を適用するには、このオプションを選択します。

マスターページ

プロジェクトでマスターページが適用されているかどうかに関係なく、すべての個別トピックの設定を、選択したマスターページでオーバーライドします。マスターページのCSSおよびレイアウトが、すべてのトピックのCSSと外観に上書きされます。例えば、選択したマスターページにヘッダーまたはフッターがない場合、トピックでもヘッダーまたはフッターは表示されません。

CSS

個別のトピックと関連付けられているマスターページが有効になります。トピックにマスターページが関連付けられているかどうかに関係なく、すべてのトピックとそのCSSを、選択したCSSでオーバーライドします。

関連するリンク：

XMLのレイアウト

EclipseHelpの生成

EclipseHelpには、XMLベースの目次を含む多数のHTMLファイルおよびplugin.xmlファイルが含まれます。Eclipseはプラグインファイルを使用して、ヘルプ／ヘルプコンテンツからヘルプを表示します。

1) 次のいずれかを行います。
   - 出力／生成／EclipseHelpを選択します。
   - ツール／スクリプト／EclipseHelp Generatorを選択します。
2) EclipseHelp出力を保存するフォルダーを選択します。
3) 次の情報を指定します。

タイトル

出力のタイトルです。デフォルトでは、RoboHelpはプロジェクト名を表示します。

プロバイダー名

会社の名前です。

バージョン

出力のバージョン番号です。

ID

出力の一意のIDです。

4) 「生成」をクリックします。

出力のバッチ生成

出力をバッチで生成すると、各出力の処理が完了するまで待たずに次の出力を開始できます。異なるレイアウトの出力を異なる場所に公開できます。コンディショナルビルドタグを使用して異なる出力のテスト、表示、または配布を行う場合、バッチ処理を使用すると時間を節約できます。

レイアウトは、バッチ生成ダイアログボックスに表示されている順に処理されます。

重要: 生成の間に、RoboHelp は最後のセッションで作成された出力フォルダーのファイルを削除します。出力サブフォルダーのファイルを追加または手作業で修正している場合は、出力を生成する前にそれらのファイルを別の場所にコピーしてください。

1) シングルソースレイアウトポッドで、レイアウトを右クリックします。
2) 「バッチ生成」を選択します。
3) 生成する出力のレイアウトを選択します。
4) 「生成」または「公開」をクリックします。

注意：

- WebHelp または WebHelp Pro の生成には、ブラウザーが必要です。
- 印刷された Word ドキュメントを初めて生成するときは、Word でマクロを有効にします。
- 公開は、選択した WebHelp レイアウトで公開先が定義されている場合にのみ使用できます。
- バッチ生成ダイアログボックスで生成のステータスを確認してください。ステータスが失敗の場合は、下部のペインでコンパイラーメッセージを調べて問題を解決します。WinHelp プロジェクトの場合は、レイアウトウィザードでプロジェクトを生成し、エラーウィザードを使用して問題を特定します。
- 公開した WebHelp または WebHelp Pro 出力をサーバーから確認して、変更やサーバー依存の機能を確認してください。

レイアウトのカスタマイズ

レイアウトのカスタマイズダイアログ（レスポンシブ HTML5 およびモバイルアプリ）では、使用可能なレイアウトコンポーネントのリストから選択できます。レイアウトコンポーネントを選択し、レイアウトのプロパティをカスタマイズできます。

レイアウトをカスタマイズするには、次の操作を実行します。

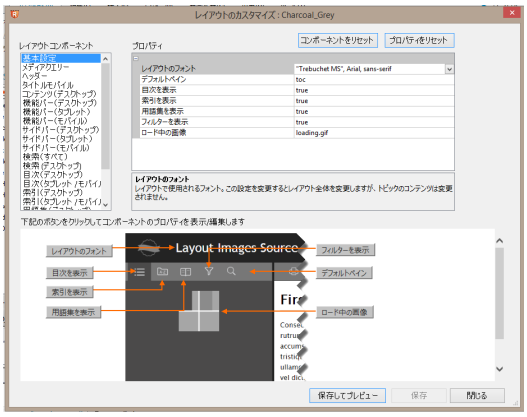
1) 設定ダイアログで、「選択したレイアウトをカスタマイズ」をクリックします。

   「レイアウトのカスタマイズ」ダイアログには、レイアウトのルック＆フィールのプレビューが表示されます。

   あるいは、「レイアウトのカスタマイズ」ダイアログを開くには、出力設定ポッドに移動します。

   - Responsive_with_Logo を右クリックし、「編集」を選択します。
   - プロジェクトツールバーの鉛筆アイコンをクリックします。

   レイアウトのカスタマイズダイアログ



2) レイアウトのコンポーネントリストからレイアウトのコンポーネントを選択します。

   各コンポーネントは、それに関連付けられているカスタマイズ可能な一連のプロパティを持っています。

3) プロパティを編集するには、プロパティペインでプロパティ値に移動します。

4) プロパティペインのプロパティに移動するには、プロパティペインのプロパティをクリックし、プロパティの値を編集します。

あるいは、コンポーネントプレビューペインにコンポーネントのプレビューが表示されます。さらに、プレビューペインには、プレビューペイン内の各プロパティを指すボタンが表示されます。

プレビューペイン内のプロパティボタンをクリックすると、プロパティペイン内のプロパティに移動できます。

これにより、編集中のプロパティをプレビューから識別できます。

5) 変更を保存するには、次の操作を実行します。

- 更新を保存し変更をプレビューするには、「保存してプレビュー」をクリックします。
- プレビューしないで更新を保存するには、「保存」をクリックします。

6) すべてのコンポーネントプロパティをリセットするには、「コンポーネントをリセット」をクリックします。

7) 特定のコンポーネントプロパティをリセットするには、（プロパティペインからまたはプレビューペインから）コンポーネントを選択し、「プロパティをリセット」をクリックします。

8) レイアウトのカスタマイズが終わったら、「閉じる」をクリックします。

出力の表示

1) 次のいずれかを行います。

- 既に出力を生成している場合は、シングルソースレイアウトポッドでレイアウトを右クリックして「表示」を選択します。プロンプトが表示されたら、「はい」をクリックして、表示する前に出力を生成します。
- レイアウトを生成してある場合は、「結果を表示」をクリックします。表示した後は、「終了」をクリックするか、「公開」をクリックしてレイアウトで指定されている場所に出力を公開します。
- マージされたシステムを表示するには、最初にマスタープロジェクトを公開し、公開先からマスタープロジェクトを表示します。プロジェクトを公開するには、「公開」をクリックします。**注:** 「公開」ボタンが無効になっている場合は、レイアウトの生成時または編集時に公開ダイアログボックスに公開先を追加します。

マルチスクリーン HTML5 出力の表示

1) マルチスクリーン HTML5 出力を様々なブラウザーで表示するには、ツールバーの「マルチスクリーンプレビュー」ボタンをクリックします。

注: マルチスクリーンプレビューでメディアクエリーを正しく表示するには、Internet Explorer 9 以降が必要です。最新バージョンの Internet Explorer をインストールしてください。

WebHelp、FlashHelp、WebHelp Pro、FlashHelp Pro の出力の表示

WebHelp Pro または FlashHelp Pro プロジェクトを Adobe RoboHelp サーバーに公開することなくローカルにプレビューするには、Web ブラウザーで開きます。索引、目次、リンクおよび閲覧シーケンスをローカルにプレビューすることはできません。

また、サーバーから表示することで、サーバーに依存するすべての機能を含む公開されたプロジェクトをテストすることもできます。

ブラウザーでプロジェクトを表示して、リンク、画像、閲覧シーケンス、その他の要素をテストします。

注: Chrome のセキュリティ設定では、FlashHelp や FlashHelp Pro の出力をローカルディスクから読み込むことは許可されません。これらの出力タイプの場合は、コマンドラインから Chrome を、アクセスファイル許可モードで起動します（Chrome.exe -allow-file-access-from-files）。

WebHelp、FlashHelp、WebHelp Pro、FlashHelp Pro のリモートでの表示

1) プロジェクトを開き、適切なレイアウトがプライマリレイアウトであることを確認します。

2) 出力／生成／プライマリレイアウトを選択します。

WebHelp、FlashHelp、WebHelp Pro、FlashHelp Pro のローカルでの表示

1) シングルソースレイアウトポッドで、レイアウトを右クリックします。次のいずれかを行います。

   - デフォルトブラウザーで出力を表示するには、「表示」を選択します。プロンプトが表示されたら、出力を更新する場合は「はい」をクリックします。そうでない場合は、「いいえ」をクリックします。

- 選択したブラウザーで出力を表示するには、「アプリケーションを選択して表示」を選択し、コンピューターにインストールされているブラウザーの1つを選択します。

  ヒント: ブラウザーが異なれば、CSS ベースのコンテンツのレンダリングも異なります。トピックやプロジェクト出力を複数のブラウザーでプレビューできるので、よく使用されるブラウザーでコンテンツが正しく表示されるかどうかをテストできます。

2) 制限ダイアログボックスが表示される場合は、「OK」をクリックします。このダイアログボックスには、サーバーに接続しないと表示できない機能の一覧が示されます。例えば、「検索」ボタンや Windows プロパティなどです。

   プロジェクトがデフォルトのブラウザーで開きます。

   重要: トピックに PDF へのリンクが含まれている場合は、Adobe® Acrobat® 10 がコンピューターにインストールされていることを確認してください。Acrobat 9 またはそれ以前のバージョンで PDF をプレビューすると正しく動作しない場合があります。

   ヒント: マージされたヘルプシステムをマスタープロジェクトのローカルコピーから表示するには、サブプロジェクトの WebHelp ファイルを、マスタープロジェクトの mergedProject\[プロジェクト名] フォルダーにコピーします。シングルソースレイアウトポッド内のレイアウトを右クリックして、「表示」を選択します。マスタープロジェクトでは「すべてを再公開」オプションを使用しないでください。

コンパイル済み Microsoft HTML ヘルプの表示

1) シングルソースレイアウトポッドで、Microsoft HTML ヘルプを右クリックします。

2) プロンプトが表示されたら、出力を更新する場合は「はい」をクリックします。そうでない場合は、「いいえ」をクリックします。

   注: トピックごとの内部リンクおよび外部リンクを参照するには、プロジェクト／開く／ポッド／リンクビューを選択します。

関連するリンク:

トピックの表示と要素のデザイン

ヘルプビューアーウィザード

AIR ヘルプビューアーの生成

1) ツール／開く／/ ツールツールボックスを選択します。
2) ダブルクリックしてヘルプビューアーウィザードを起動します。
3) 必要な情報を指定します。

   注: ファイルのパスを選択し、ファイル名として任意の名前を入力します。
4) バージョン番号と ID を指定します。
5) 自己署名電子証明書の作成。自己署名電子証明書の作成を参照してください。
6) 「完了」をクリックします。

ヘルプコンテンツファイルのコピー

1) ヘルプコンテンツファイル（RHA）を自分のコンピューターにコピーします。これは、任意の場所に存在できますが、インストーラーは場所を認識しておく必要があります。

   RHA ファイルの生成方法については、ヘルプの出力の選択を参照してください。

ヘルプアプリケーションのインストール

AIR ヘルプビューアーは、ヘルプアプリケーションをインストールする AIR ファイルです。

1) C:/Program Files/*[folder name]* に移動します。
2) AIR ファイルをダブルクリックします。
3) 同じフォルダーに移動し、EXE ファイルをダブルクリックします。

ヘルプコンテンツ設定ファイルの作成と確認

選択した形式でコンテンツを表示するには、AIR ヘルプビューアーをヘルプコンテンツファイルと関連付ける必要があります。.helpcfg という拡張子で XML ファイルを作成し、RHA ファイルと AIR ヘルプビューアーを関連付けます。インストールした AIR ファイルと同じ場所にファイルを保存します。AIR ヘルプビューアーは .helpcfg ファイルを使用してヘルプコンテンツファイルへのパスを探し、ヘルプコンテンツを表示します。

ヘルプビューアーで表示したいすべてのヘルプファイルに対してXMLコードを繰り返します。

例えば、ヘルプコンテンツ設定が含まれるXMLファイルには、次のコード行が含まれます。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?><contents><data id="" label=""
onlineurl="" offlineurl=""/></contents>
```

属性名	属性値
ID	ビューアー内でヘルプデータファイル同士を区別するための固有のストリング。このIDを使用して、CSH APIを呼び出したり、AIRヘルプビューアーを起動したりできます。
label	ヘルプビューアーに複数のヘルプデータファイルが含まれるときのヘルプコンテンツのラベル。ヘルプビューアーは、選択されたヘルプコンテンツでこのストリングを表示します。
onlineurl	サーバーでホストされているヘルプコンテンツのオンラインURL。
offlineurl	ローカルにインストールされたヘルプコンテンツを利用できる場合の、ヘルプファイルのオフラインの場所。
useoffline	オプションの設定。これを「true」に設定すると、AIRヘルプビューアーは、ヘルプアプリケーションが起動されたときにオフラインのヘルプコンテンツを取得します。オフラインヘルプを使用できない場合は、この属性をヘルプコンテンツ設定ファイルで指定する必要はありません。

注： .helpcfgファイルの名前は、任意の名前に設定できます。この名前は、インストールフォルダー内にある.airまたは.exeファイルの名前と一致させる必要はありません。

出力の公開

WebHelp および FlashHelp プロジェクトの出力を公開できます。出力の場所を指定した後、必要に応じて、出力を公開します。バッチ処理を使用して、プロジェクトの複数のバージョン（複数の場所を含む）を公開します。

前回の公開以降に変更したファイルのみを公開できます。

1) シングルソースレイアウトポッドでレイアウトを右クリックして、「プロパティ」を選択します。

2) 次の操作を行います：

- （WebHelp）「公開」をクリックします。
- （FlashHelp）公開ダイアログボックスが表示されるまで「次へ」をクリックします。

3) 次のいずれかの方法で、公開先を指定します。

- 「サーバー」ボックスで既存の公開先を選択または編集し、必要に応じてオプションを設定して、「保存」をクリックします。

削除されたファイルを確認する

選択すると、RoboHelp HTML は公開先の場所から削除されたファイルを確認し、再公開します。

ファイルを上書きする前に確認する

選択すると、RoboHelp はファイルを上書きする前にプロンプトを表示します。

すべて再公開する

選択すると、すべてのファイルが公開先に再公開されます。サブフォルダーにサブプロジェクトのコピーがあるマスタープロジェクトの場合は、「すべて再公開する」を選択しないでください。これにより、同じ場所に既に公開されている出力ファイルが上書きされるのを防ぐことができます。

> **注:** 公開先を新しいホストに変更した場合は、必要に応じて、ユーザー ID とパスワードを指定し、パスワードをレジストリに保存します。

- 新しい公開先を指定するには、「新規」をクリックします。公開先の名前を入力し、必要に応じてオプションを設定します。「OK」をクリックします。

ヘルプシステムをマージ

サブプロジェクトをMergedProjectsフォルダーに公開するには、次の情報を指定します。

- 「ホスト名」に、IPアドレスまたはURLを入力します。
- 「サーバーディレクトリ」で、マスタープロジェクトへのパス/.../*[master project]*/MergedProjects/*[subproject]*を入力します。このパスは、マスタープロジェクトの公開後、サーバーに存在しています。

オプション

オプションは選択した接続プロトコルによって異なります。

サーバー名

ファイルを公開するサーバーです。IPアドレスを使用できます。

ユーザー ID

ホストへの接続に使用するユーザー IDを指定します。

パスワード

ユーザー IDのパスワードを指定します。この情報は、ネットワークシステム管理者から入手できます。

パスワードを保存

パスワードを保存し、ファイルを公開するときに入力する必要がないようにします。(パスワードを保存すると、レジストリにパスワードが入力されます。その際、暗号化は行われません)。

ポート

ホストに接続するときに使用するポートです。

匿名ユーザー

パスワードを必要としない匿名ユーザーとしてファイルを公開します。パスワードまたは電子メールアドレスなどの他の匿名情報を指定する場合は、このオプションを選択しません。種類「**匿名**」と入力し、「パスワード」ボックスにパスワードを入力します。

サーバーディレクトリ

サーバー上の公開先ディレクトリを指定します。デフォルトはスラッシュです。

Web 名

「ホスト名」で選択したサーバー上の FrontPageWeb の名前です。（サブ Web には、初期スラッシュは必要ありません）。

注:「Web 名」は、FrontPage Server Extensions がサーバーにインストールされている場合にのみ使用されます。それ以外の場合は、ファイルは FTP:// を使用して指定するサーバーのディレクトリに公開されます。

公開先のパス

（HTTP プロトコル）ファイルを公開する場所のパスです。

4) シングルソースレイアウトポッドでレイアウトを右クリックし、「公開」を選択します。メッセージが表示される場合は、公開前に変更を生成して含めるかどうかを選択します。

5) 「閉じる」をクリックします。

サーバーから出力を表示して、変更とサーバー依存機能を確認します。

コマンドプロンプトからの出力の生成と公開

コマンドラインからの生成は、RoboHelp を開かずに、またはスケジュールされたバッチで自動的にレイアウトを公開します。コマンドラインおよびバッチでの生成と公開は同時に実行できます。

注: RoboHelp 内からコマンドプロンプトにアクセスするには、スタート／すべてのプログラム／ Adobe RoboHelp[バージョン]／ツール／ RoboHelp コマンドプロンプトの順にクリックします。

コマンドプロンプトからアプリケーションを開くには

1) コマンドプロンプトから、次の形式でコマンドを入力します。

```
rhcl myproject\myproject.xpj
```

2) デフォルトの出力フォルダーにある出力ファイルにアクセスします。

コマンドプロンプトからのレイアウトの生成

- デフォルトの出力フォルダー（!SSL!）に 1 つのレイアウトを生成するには、次の形式でコマンドを入力します。

```
rhcl [project path][-l][layout name]
```

- カスタム出力フォルダーに 1 つのレイアウトを生成するには、次の形式でコマンドを入力します。

```
rhcl [project path][-l][layout name][-o][path of custom output folder]
```

- デフォルトの出力フォルダー（!SSL!）にすべてのレイアウトを生成するには、次の形式でコマンドを入力します。

```
rhcl [project installation path][-b]
```

- カスタム出力フォルダーにすべてのレイアウトを生成するには、次の形式でコマンドを入力します。

```
rhcl [full or relative path of theRoboHelpproject][-b]
```

コマンドプロンプトからのレイアウトの公開

1) 次の形式でコマンドを入力します。

```
rhcl [project path][-p][server name][user name][password]
```

サーバー名、ユーザー名、およびパスワードはオプションです。

コマンドプロンプトのオプション

コマンドは、`rhcl` で開始し、プロジェクトのパスと名前を含む必要があります。コマンドの入力には次の形式を使用します。

```
rhcl [-?][-h][project path][-l][layout name][-p][server name:user
name:password][-o][output folder path][-d][-b][-g]
```

コマンドの入力時にすべてのオプションが必要なわけではありません。

-l

レイアウトを生成します。レイアウト名を指定します（例、-lFlashHelp）。レイアウトを指定しない場合、このアプリケーションはプライマリレイアウトを生成します。

-p

レイアウトを公開します。新しい公開先ダイアログボックスを使用して、すべての公開先を設定します。

“

スペースを示します。

-o

：出力をフォルダーに送信します。

-d

：コマンドプロンプトでレイアウトおよび公開先名を表示します。

-b

：バッチ生成用のレイアウトセットを生成します。特定のシングルソースレイアウトの出力フォルダーに出力します。

-h

ヘルプを表示します。

- `rhcl`
- `rhcl -h`
- `rhcl -?`

-g

ログのファイル名を指定します。

`rhcl` コマンドでこのオプションを指定すると、`rhcl` は指定したログファイルに出力を書き込みます。コンソールには出力は送信されません。指定するログファイル名では Unicode 文字を使用できません。指定した名前のファイルが存在すると、そのファイルは上書きされます。

AIRヘルプのアップデートのホスト

初回のAdobe AIRアプリケーションを公開した後、必要に応じてコンテンツを修正および改訂できます。デフォルトでは、ユーザーがヘルプアプリケーションを起動すると、オンラインコンテンツが表示されます。このため、表示されたヘルプには更新が含まれます。

Adobe AIRアプリケーションの新しいバージョンを生成すると、出力と共にヘルプコンテンツ設定ファイルが作成されます。このXMLファイルは、ヘルプアプリケーションのバージョンごとに固有です。これは、公開されたヘルプアプリケーションの場所、ヘルプID、およびバージョン番号に関する情報を含んでいます。このXMLファイルをヘルプアプリケーションインストーラーと共に、ユーザー用に指定された共有サーバーの場所に格納します。ユーザーのインストール済みバージョンがこの場所にアップデートがあることを確認すると、ヘルプアプリケーションが更新されます。

アップデートの作成とホスト

1) シングルソースレイアウトポッドで Adobe AIR を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

2) ヘルプコンテンツのアップデート情報を指定します。

   既存のヘルプコンテンツを更新しているので、以前に設定したヘルプ出力のヘルプのタイトルとヘルプIDを保持し、バージョン番号を更新します。

3) Adobe AIR ダイアログボックスで、表示グループを選択し、「自動更新を有効にする」が有効になってない場合はそれを選択します。

4) 共有の場所またはWebサーバーでホストする更新済みのヘルプコンテンツ設定ファイル（XMLファイル）の場所を指定します。

   ネットワーク内でヘルプのアップデートを配布するには、このファイルパスを選択します。ネットワーク外で配布するには、Webサーバーの場所を選択します。

5) リソースタブなど、必要に応じて他のパラメーターを更新します。

6) ヘルプの出力形式を生成します。

アップデートの送信

指定したWebサーバーアドレス（HTTPの場所）またはネットワークフォルダーで、Adobe AIRアプリケーションのアップデートを送信できます。

1) ヘルプを生成した後、更新したヘルプアプリケーションインストーラーと関連するXMLファイルを、Webサーバーまたはフォルダーに送信します。

プロジェクト出力の配布

プロジェクト出力を作成してテストした後は、開発者または発行者に配布します。配布する出力はプロジェクトに依存します。デフォルトでは、配布する出力はプロジェクトのサブフォルダーにあります。（Microsoft HTMLヘルプの場合、出力は単一のCHMファイルにコンパイルされます）。

一部のRoboHelpツールは、DLLおよびOCXファイルによってヘルプ機能を提供します。これらのファイルを配布してください。これらのファイルは、ヘルプシステムのインストーラーに含める必要があります。

RoboHelpアプリケーションに必要なDLLの一覧は、アプリケーションヘルプに示されています。再配布可能ファイルの一覧は、RoboHelp*[バージョン]*プログラムファイルのRedistフォルダーにあるRedistrb.Txtに含まれています。

注: 他のユーザーがアクセスできるように、出力をバージョンコントロールに追加します。

マルチスクリーンHTML5出力の配布

マルチスクリーンHTML5ヘルプシステムが中央サーバー/場所に公開されると、現在のクエリーに関連する情報のみがユーザーのコンピューターのWebブラウザーにダウンロードされます。必要であれば、ローカルコンピューターにヘルプシステムを保存するよう選択することもできます。

デフォルトでは、すべてのマルチスクリーンHTML5出力ファイルは`!SSL!/Multiscreen_HTML5`プロジェクトフォルダーに保管されます。このフォルダーにあるサブフォルダーの名前を変更したり、移動したりしないようにお勧めします。

- アプリケーションと共にMultiscreenHTML5ヘルプを配布するには、`Multiscreen_HTML5`フォルダーとその内容を開発者が指定する場所にコピーします。スタートページ（HTMファイル）名を開発者に知らせます。
- MultiscreenHTML5のファイルをサーバー、Webサイトまたは他のネットワークの場所に公開するには、サブプロジェクトを`Mergedprojects`サブフォルダー内の正しいフォルダーに公開します。サブプロジェクトを`MergedProjects`サブフォルダーに手動でコピーする一方で、親プロジェクトから取り込んだ`parentda a.js`ファイルを除く`screenda a.js`などのファイルをすべて上書きします。
- スタンドアロンのMultiscreen HTML5ヘルプを配布する一方、`Multiscreen_HTML5`フォルダーとその内容をCD、サーバーまたはユーザーのコンピューターにコピーします。ヘルプシステムを表示するときに選択するスタートページ（HTMファイル）をユーザーに知らせます。
- 単一のスクリーンプロファイルのヘルプを公開すると、特定のスクリーンプロファイルのマルチスクリーンHTML5のみを生成します。スクリーンプロファイルフォルダーを個別にコピーして使用しないでください。

Multiscreen_HTML5フォルダーの出力ファイル

マルチスクリーンHTML5出力を公開すると、次の出力ファイルがプロジェクトサブフォルダーに作成されます。

File	説明
index.htm	開始ページのデフォルトのファイル名
parentdata.js	親プロジェクトについての情報です。プロジェクトに親プロジェクトがない場合は空白です
screendata.js	スクリーンプロファイルについての情報
access_cookies.htm	Internet Explorerのクッキーの読み込み / 書き出しに使用します

注： マルチスクリーン-HTML5で生成されたHTMファイルをプロジェクトに読み込まないでください。これらのHTMファイルはランタイム専用です。

スクリーンプロファイルフォルダー内の出力ファイル

このフォルダーのファイルはスクリーンプロファイル専用です。このフォルダーには生成したトピックファイルも含まれます。

File	説明
index.htm	スクリーンプロファイルの開始ページ
projectdata.js	サブプロジェクトについての情報
ehlpdhtm.js	高度な機能（ダイナミック HTML 効果など）のための JavaScript

whxdata フォルダーの出力ファイル

このフォルダーのファイルには、各種コンポーネントのプロジェクトデータが含まれます。

File	説明
csh.js	状況依存ヘルプデータ
glo.js	用語集の索引データ
gdata1.js	用語集の定義データ
idx.js	索引データの索引
idx1.js	索引データ
toc.js	目次データ
whfts_xml.js	全文検索索引データ
window.js	ウィンドウデータ

テンプレートフォルダーのサブフォルダー

このフォルダーには、画像、アイコン、カスケードスタイルシートなどのリソースが含まれています。

フォルダー	説明
スクリプト	使用する各種ウィジェットの JavaScript ファイル
リソース	デフォルトのリソース
< スクリーンプロファイルフォルダー >	スクリーンプロファイル専用のリソース

e ブック出力の配布

プロジェクトの !SSL! フォルダー内の e ブックサブフォルダー内に生成された次のファイルを配布します。

<プロジェクト名>.mobi

この出力はキンドルフォーマット 8 をサポートし、アマゾンキンドルデバイスで表示できます。

<プロジェクト名>.epub

この出力は、iOS 上の iBook や Android 上の Aldiko など、さまざまなデバイスやリーダーで表示できます。

WebHelp の配布

ヘルプシステムが 1 箇所にまとめて公開されている場合は、現在の照会に関係のある情報のみがユーザーのブラウザーにダウンロードされます。ヘルプシステムをローカルに保存することもできます。

デフォルトでは、WebHelp のすべての出力ファイルはプロジェクトサブフォルダー（!SSL!\WebHelp）に保管されます。WebHelp フォルダーにはサブフォルダーがあります。フォルダー名を変更したり、フォルダーを移動したりしないでください。

- アプリケーションと共に WebHelp を配布するには、WebHelp フォルダーとその内容を開発者が指定する場所にコピーします。スタートページ（HTM ファイル）名を開発者に知らせます。
- WebHelp のファイルをサーバー、Web サイト、または他のネットワークの場所に公開するには、サブプロジェクトを Mergedprojects サブフォルダー内の正しいフォルダーに公開します。
- スタンドアロン製品として WebHelp を配布する場合は、WebHelp フォルダーおよびその内容を CD、サーバー、またはユーザーのシステム上の任意の場所にコピーします。ヘルプシステムを表示するときに選択するスタートページ（HTM ファイル）をユーザーに知らせます。

WebHelp フォルダー内の出力ファイル

WebHelp を生成すると、プロジェクトフォルダーのサブフォルダーに次の出力ファイルが作成されます。

注: WebHelp で生成された HTM ファイルをプロジェクトに読み込まないでください。これらのファイルは実行時にのみ使用されます。

File	説明
cshdat_robohelp.htm	状況依存ヘルプのデータ
cshdat_webhelp.htm	状況依存 API のレガシーサポート
default.css	スタイルシート
default.skn	デフォルトスキン
EHLPDHTM.JS	高度な機能（ダイナミック HTML 効果など）のための JavaScript
.GIF ファイル	スキン、ナビゲーション、および閲覧シーケンスの画像
NewProject.htm	プロジェクトの開始ページ
NewProject.log	すべての必須ファイルを一覧にする
NewProject_csh.htm	状況依存 API のレガシーサポート
NewProject_rhc.htm	状況依存 API をサポートする
webhelp.jar	アプレットベースの WebHelp をサポートする
whestart.ico	Internet Explorer のお気に入りメニューのアイコン
whfbody.htm	全文検索のフレームセットの下部ペイン
whfdhtml.htm	全文検索のフレームセット
whfform.htm	全文検索のフレームセットの上部ペイン
whfhost.js	全文検索用の JavaScript
whform.js	索引および全文検索の入力フィールド
whframes.js	フレームセット
whgbody.htm	用語集
whgdef.htm	用語集の定義

File	説明
whgdhtml.htm	用語集の用語と定義をマージする
whghost.js	用語集をサポートする
whhost.js	索引および用語集のファイルを一覧にし、ロードする
whibody.htm	索引の下のペイン
whidhtml.htm	索引のフレームセット
whiform.htm	索引の上部ペイン
whihost.js	索引をサポートする
whlang.js	言語サポート
whmozemu.js	Netscape Navigator の関数
whmsg.js	メッセージの種類の定義および構造
whnjs.htm	JavaScript が無効の場合に表示される
whphost.js	プロジェクトの内容を決定する
whproj.htm	プロジェクトデータ
WHPROJ.JS	WHPROJ.HTM をサポートする JavaScript
whproj.xml	XML プロジェクトデータ
whproxy.js	フレームワークのサポート
whres.xml	アプレットサポート（カスタムのフォントと色）
whskin_banner.htm	ロゴダイアログボックス用 - 作成者について（スキン）
whskin_blank.htm	内部サポートファイル（_blank.htm と同様）（スキン）
whskin_frmset01.htm	ナビゲーションペイン、ナビゲーションバー、およびトピックを区別するフレームセット（スキン）
whskin_frmset010.htm	ナビゲーションバーとナビゲーションペインを区別するフレームセット（スキン）
whskin_info.htm	システム情報ページ（スキン）
whskin_mbars.htm	ナビゲーションバーをサポートする（スキン）
whskin_papplet.htm	アプレットのナビゲーションペイン（スキン）

File	説明
whskin_pdhtml.htm	Dynamic HTMLのナビゲーションペイン（スキン）
whskin_plist.htm	ピュアHTMLのナビゲーションペイン
whskin_tbars.htm	ツールバーのボタン
whst_topics.xml	生成時にトピックを解析する
whstart.ico	WebHelpアイコン
whstart.js	スタートページをサポートする
whstub.js	フレームワークのサポート
whtbar.js	ナビゲーションバーをサポートする
whtdhtml.htm	目次の本文
whthost.js	目次をサポートする
whtopic.js	トピックナビゲーションバーをサポートする
whutils.js	共通機能をサポートする
whver.js	ブラウザーバージョンの設定

Whgdataサブフォルダーの出力ファイル

!SSL!\Webhelp\Whgdata内のファイルは、ピュアHTMLのWebHelpで使用されます。

File	説明
whexpbar.gif	ナビゲーションペインのデフォルトの幅を設定する
whlstf0.htm	全文検索のボディ
whlstfl0.htm	全文検索レベル2の文字
whlstg0.htm	用語集
whlsti0.htm	索引の用語
whlstt0.htm	コンテンツ（パート2）
whlstt1.htm	コンテンツ（パート2）
whnvf30.htm	目次フレーム

File	説明
whnvf31.htm	索引フレーム
whnvf32.htm	全文検索のフレーム
whnvf33.htm	用語集フレーム
whnvl31.htm	索引レベル 1 の文字
whnvl32.htm	全文検索レベル 1 の文字
whnvl33.htm	用語集の文字
whnvp30.htm	目次のナビゲーションペイン
whnvp31.htm	索引のナビゲーションペイン
whnvp32.htm	全文検索のナビゲーションペイン
whnvp33.htm	用語集のナビゲーションペイン
whnvt30.htm	「目次」タブ
whnvt31.htm	「索引」タブ
whnvt32.htm	「全文検索」タブ
whnvt33.htm	「用語集」タブ

Whdata サブフォルダーの出力ファイル

!SSL!\Webhelp\Whdata 内のファイルは、旧型のブラウザーで実行される WebHelp の DHTML バージョンで使用されます。

File	説明
whftdata0.htm	全文検索データ - HTML ペイン
whftdata.js	全文検索データ - WHFDATA0.HTM をサポートする JavaScript
whftdata0.xml	全文検索データ - XML サポート
whFull-text search.htm	全文検索索引データ - HTML サポート
whFull-text search.js	全文検索索引データ - whFull-text search.htm をサポートする JavaScript
whFull-text search.xml	全文検索索引データ - XML サポート

File	説明
whfwdata0.htm	全文検索キーワード - HTMLサポート
whfwdata.js	全文検索索引データ - whfwdata0.htmをサポートするJavaScript
whfwdata0.xml	全文検索キーワード - XMLサポート
whgdata.js	用語集の用語の定義をロードする
whGlossary.htm	用語集の索引データ - HTMLサポート
whGlossary.js	用語集の索引データ - whGlossary.htmをサポートするJavaScript
whGlossary.xml	用語集の索引データ - XMLサポート
whidata0.htm	非XMLブラウザーの索引データ
whidata.js	WHIDATA0.HTMをサポートするJavaScript
whidata0.xml	索引データ - XMLバージョン
whidx.htm	索引データの索引 - HTMLサポート
whidx.js	索引データの索引 - whidx.htmをサポートするJavaScript
whidx.xml	索引データの索引 - XMLバージョン
whtdata0.htm	目次データ - HTMLサポート
whtdata.js	目次データ - whtdata0.htmをサポートするJavaScript
whtdata0.xml	目次データ - XMLサポート
whtoc.htm	目次の目次索引 - HTMLサポート
whtoc.js	目次の目次索引 - whtoc.htmをサポートするJavaScript
whtoc.xml	目次の目次索引 - XMLサポート

Whxdata サブフォルダーの出力ファイル

!SSL!\Webhelp\Whxdata 内のファイルは、新型のブラウザーで実行される WebHelp の Java アプレットおよび DHTML バージョンで使用されます。

File	説明
whftdata0.xml	全文検索データ
WHFTS.XML	全文検索索引データ
WHFWDATA0.XML	全文検索キーワード
WHGDATA0.XML	用語集の定義データ
WHGLO.XML	用語集の索引データ
WHIDATA0.XML	索引データ
WHIDX.XML	索引データの索引
WHTDATA0.XML	目次データ
WHTOC.XML	目次の目次索引

FlashHelp の配布

デフォルトでは、FlashHelp のすべての出力ファイルはプロジェクトサブフォルダー（!SSL!/FlashHelp）に保管されます。FlashHelp を生成するときに、FlashHelp ソースファイルを保存するフォルダーの名前とスタートページ名を指定できます。

プロジェクトにサブフォルダーが含まれている場合、FlashHelp フォルダーにはサブフォルダーとその中のファイルが含まれます。プロジェクトの構造を正確に維持するため、フォルダー名を変更したり、移動したりしないでください。

FlashHelp をアプリケーションと共に配布

1) FlashHelp フォルダーとその内容を開発者により指定された場所にコピーします。どの .htm ファイルがスタートページかを開発者に知らせます。

FlashHelpをディスク、サーバーまたはデスクトップに公開

1) ヘルプシステムを表示するときに選択するスタートページ（.htmファイル）をユーザーに知らせます。

FlashHelpの出力ファイル

RoboHelpを使用してFlashHelpを生成すると、出力ファイルが作成されます。プロジェクトの生成中に、出力ファイルはデフォルトでFlashHelpというサブフォルダーに保存されます。

FlashHelpフォルダーの出力ファイル

File	説明
cshdat_WEBHELP.htm	状況依存APIのレガシーサポートファイル
*.css	スタイルシート
*.FHS	FlashHelpスキンファイル
WF_TOPICS.CSS	カスタマイズされたトピックスクロールバーのスタイルシート。FlashHelpスキンの設定に基づいて生成される
EHLPDHTM.JS	Dynamic HTML効果などの高度な機能にRoboHelpが使用するJavaScript関数を含む
.GIFファイル	スキン、ナビゲーション、および閲覧シーケンスの画像
<プロジェクト名>.htm	プロジェクトの開始ページ
<プロジェクト名>_csh.htm	状況依存APIのレガシーサポートファイル
<プロジェクト名>_rhc.htm	状況依存ヘルプAPIサポートファイル
wf_favicon.ico	Internet Explorerのお気に入りメニューのアイコン
WF_*.HTM	FlashHelp実行時のFLAファイル
SKIN_*.SWF	スキンファイル
WFRES.XML	FlashHelpに実行時にロードされるすべての文字列を含むローカライズファイル（LNGファイルから生成）
WHPROJ.XML	DHTMLバージョンのFlashHelpがナビゲーションデータのロードに使用するプロジェクトファイル

File	説明
whmozemu.js	Netscape Navigator でサポートされている関数
WF_MASTER.JS	FlashHelp の実行時に必要な JavaScript ファイル
wf_dispatcher.js	FlashHelp の実行時に必要な JavaScript ファイル
whtopic.js	トピックのサポートファイル（トピックナビゲーションバー）
whutils.js	共通機能のユーティリティファイル
whver.js	ブラウザーバージョンの設定

whgdata サブフォルダーの出力ファイル

File	説明
whexpbar.gif	デフォルトのナビゲーションペインの幅のサイズ設定に使用する
whlstf0.htm	全文検索のボディ
whlstfl0.htm	全文検索レベル 2 の文字
whlstg0.htm	用語集の単語リスト
whlsti0.htm	索引の単語リスト
whlstt0.htm	コンテンツリストパート 1
whlstt1.htm	コンテンツリストパート 2
whnvf30.htm	目次フレーム
whnvf31.htm	索引フレーム
whnvf32.htm	全文検索のフレーム
whnvf33.htm	用語集フレーム
whnvl31.htm	索引文字レベル 1
whnvl32.htm	全文検索レベル 1
whnvl33.htm	用語集の文字
whnvp30.htm	目次のナビゲーションペイン
whnvp31.htm	索引のナビゲーションペイン

File	説明
whnvp32.htm	全文検索のナビゲーションペイン
whnvp33.htm	用語集のナビゲーションペイン
whnvt30.htm	「目次」タブ
whnvt31.htm	「索引」タブ
whnvt32.htm	「全文検索」タブ
whnvt33.htm	「用語集」タブ

whxdataサブフォルダーの出力ファイル

!Sl! の出力ファイル \Flashhelp\whxdata の出力ファイルは、最近のブラウザーで実行されるFlashHelpのJavaアプレットおよびDHTMLバージョンで使用されるXMLデータファイルです。

File	説明
whftdata0.xml	全文検索データファイル
WHFTS.XML	全文検索索引データファイル
WHFWDATA0.XML	全文検索索引データファイル
WHGDATA0.XML	用語集定義データファイル
WHGLO.XML	用語集索引データファイル
WHIDATA0.XML	索引データファイル
WHIDX.XML	索引データファイルの索引
WHTDATA0.XML	目次のデータファイル
WHTOC.XML	目次ファイルの目次の索引

注: FlashHelpで生成されたHTM出力ファイルをプロジェクトに読み込まないでください。このファイルは実行時用にのみ使用されます。

Microsoft HTML ヘルプの配布

1) プログラムの実行可能（EXE）ファイルと共にヘルプをインストールするには、次のシステムヘルプファイルを開発者に渡します。または、スタンドアロンで使用するためにファイルを配布します。

   注: ユーザーは、Windows エクスプローラーで CHM ファイルをダブルクリックすることで、スタンドアロンの Microsoft HTML ヘルプを実行できます。

   CHM

   単一のヘルプファイルに収められた単一の配布されるヘルプシステム、およびマスタープロジェクトのサブプロジェクトのすべての CHM ファイル。これらの子 CHM ファイルは、マスター CHM にはコンパイルされません。

   HLP、CNT

   プロジェクトにコンパイル済み WinHelp ファイルのトピックへのリンクが含まれる場合は、HLP および CNT ファイルを配布します。これらは、マスター CHM ファイルにはコンパイルされません。

2) アプリケーション開発者は、プロジェクトで使用する機能およびユーザーが使用する Windows のバージョンによっては、次のサポートファイルを配布します。

   - Microsoft HTML ヘルプサポートファイルの組み込みコンポーネント。
   - HHActiveX.DLL は、オンライン用語集および閲覧シーケンスのサポートを提供する Adobe ActiveX コントロールです。ユーザーのシステムに HHActiveX.DLL ファイルをインストールして登録します。このファイルは、C:\Program Files\Adobe\Adobe RoboHelp[version]\RoboHTML から CHM と同じフォルダーにコピーします。
   - ヘルプシステムにサードパーティの ActiveX コントロールが含まれる場合は、コンポーネントのサポートファイルをユーザーのシステムにインストールして登録します。ユーザーは、ActiveX コントロールのファイルをカスタムフォルダーにコピーし、.ocx または .dll 拡張子の前に代替フォルダーのパスを付けて、ファイルを登録します。

   注: Adobe 使用許諾契約では、HTML ヘルプの出力と共に Microsoft HTML ヘルプファイルおよび Internet Explorer ファイルの再配布が認められています。

ActiveX コントロールの登録

プロジェクトで ActiveX コントロールを提供する場合は、以下の指示をユーザーに提供し、ヘルプシステムと共に配布されたコントロールをユーザーが登録できるようにします。

1) 「開始」をクリックし、検索ボックスに cmd と入力します。

2) 検索結果で、プログラムリスト内の cmd.exe を右クリックし、ポップアップメニューで「管理者として実行」を選択します。

   注: ユーザーアカウント制御メッセージが表示された場合は、続行するには「はい」をクリックします。

3) HHActiveX.DLL ファイルを登録するには、コマンドプロンプトで次のコマンドに HHActiveX.DLL のパスを指定し入力し、Enter キーを押します。

```
regsvr32[パス] hhactivex.dll
```

4) サードパーティの ActiveX コントロールを登録するには、次のコマンドを入力し、Enter キーを押します。

```
regsvr32[activex_name.dll or activex_name.ocx]
```

5) コマンドプロンプトウィンドウを閉じます。

関連するリンク:

プロジェクトの作成

ファイルの管理

ActiveX コントロール

JavaHelp の配布

次のファイルとコンポーネントを配布します。

- プロジェクトが圧縮されている場合は、JAR ファイルを配布します。
- プロジェクトが圧縮されていない場合、出力フォルダー内のすべてのソースファイルを配布します。
- JavaHelp 1.1.3 以降のコンポーネント。
- Java Runtime Environment ファイル（JRE）、または、ユーザーが Sun の Web サイトからダウンロードするようにします。
- プロジェクトが関連トピックボタンを含む場合、Bsscjhrs.jar ファイルを配布します。

JavaHelp 出力ファイル

出力ファイル	説明
.HS	ヘルプセットファイルです。このファイルは、マップファイルのセットをポイントし、関連するナビゲーションビュー（目次、索引、および検索）を定義します。
.JAR	すべてのプロジェクト出力を含む圧縮済み JavaHelp ファイル（オプション）です。
default.css	すべてのプロジェクトトピックに適用される、デフォルトのカスケーディングスタイルシートファイルです。
projectname_ndx.xml	索引ビューのコンテンツとレイアウトが記述されている索引ファイルです。
projectname_map.xml	ヘルプトピック ID を関連する内容の HTML ファイル、およびウィンドウタイプに関連付けるマップファイルです。状況依存呼び出し、目次、および索引の API で使用されます。
projectname_toc.xml	目次ビューのコンテンツとレイアウトが記述されている目次ファイルです。

Oracle Help の配布

出力を生成するときに、すべてのソースファイルを 1 つの JAR ファイルに圧縮できます。JAR ファイルは、ソフトウェアアプリケーションのヘルプや、スタンドアロン製品としての配布に使用されます。

1) Oracle Help を配布するときは、次のコンポーネントを含めます。

- プロジェクトが圧縮されている場合は、JAR ファイル。
- プロジェクトが圧縮されていない場合は、OracleHelp 出力フォルダー内のすべてのファイルとサブフォルダー。
- JavaHelp 1.1.3 以降のコンポーネント
- Java Runtime Environment（JRE）または Java Development Kit（JDK）。

Oracle Help 出力

File	説明
.HS	ヘルプセットファイルです。このファイルは、マップファイルのセットをポイントし、関連するナビゲーションビュー（目次、索引、および検索）を定義します。
.JAR	すべてのプロジェクト出力を含む圧縮済みOracle Helpファイル（オプション）です。
default.css	すべてのプロジェクトトピックに適用される、デフォルトのカスケーディングスタイルシートファイルです。
Projectnumber_fts.idx	全文検索データベースを含む、全文検索ファイルです。
Projectnumber_nd.xml	索引ビューのコンテンツとレイアウトが記述されている索引ファイルです。
Projectnumber_lnk.xml	関連項目キーワードに関連するトピックへのリンク（関連項目コントロール）を含むファイルです。
Projectnumber_map.xml	ヘルプトピックIDを関連する内容のHTMLファイル、およびウィンドウタイプに関連付けるマップファイルです。状況依存呼び出し、目次、および索引のAPIで使用されます。
Projectnumber_toc.xml	目次ビューのコンテンツとレイアウトが記述されている目次ファイルです。

XML 出力の配布

生成の間に、CSS、XSL、XML、HTMおよびGIFの各出力ファイルが、プロジェクトフォルダーのサブフォルダーに作成されます。他には次のファイルがあります。

XML_Outputフォルダー内の出力ファイル	説明
EHLPDHTM.JS	高度な機能用のJavaScript機能
NewProject.htm	プロジェクトの開始ページ
NewProject.log	必要なファイルをすべて一覧にした出力ファイル

関連するリンク：

出力の表示

Adobe AIR 出力の配布

Adobe AIR 出力の配布は、選択した出力タイプにより異なります。

出力タイプ	配布するファイル	ユーザーのコンピューターで必要
Adobe AIR アプリケーション	出力場所に生成された AIR（.air）ファイル	AIR Runtime 次を参照してください：Adobe AIR Runtime Distribution
ブラウザーベースのヘルプ	出力フォルダーに生成されたすべてのファイル ブラウザーベースヘルプを、スタンドアロンヘルプシステムとして配布する場合は、出力フォルダーとそのコンテンツを CD、サーバー、またはユーザーのシステム上の任意の場所にコピーします。ヘルプシステムを表示するときに選択する開始ページ（HTM ファイル）をユーザーに知らせます。	Flash プラグイン 9.0 以降 「ローカルのブラウザーベースヘルプを実行するための FlashPlayerTrust の設定」を参照してください。
AIR アプリケーションとブラウザーベースのヘルプ	個別に配布： 出力場所に生成された AIR（.air）ファイル 出力フォルダーに生成されたすべてのファイル	AIR Runtime Flash プラグイン 9.0 以降
ヘルプコンテンツのみ	出力場所に生成された RHA（.rha）ファイル	AIR Runtime

ローカルのブラウザーベースヘルプを実行するための FlashPlayerTrust の設定

ブラウザーベースヘルプをローカルドライブから実行するには、FlashPlayerTrust フォルダー内の `RoboHelp.cfg` ファイル内で定義されている信頼フォルダーのリストに、インストールフォルダーを追加する必要があります。

1) 開始／ファイル名を指定して実行を選択します。

2) `%appdata%\Macromedia\Flash Player\#Security\FlashPlayerTrust\` と入力し、「OK」をクリックします。

3) `RoboHelp.cfg` ファイルがテキストエディターで開きます。

4) ブラウザーベースヘルプファイルが保存されているローカルフォルダーへのパスを追加します。

モデレーターパスワードと設定ファイルパス

Adobe AIR 出力を配布するときは、出力の生成時に指定したモデレーターパスワードと設定ファイルパスを伝えることを忘れないでください。

出力を配置しようとする組織は、モデレーションを有効にしてモデレーターがモデレーターダッシュボードにアクセスできるようにするためのパスワードが必要となります。

組織の環境設定に従ってコメント同期と自動更新を設定した後に、設定ファイルを保存するための設定ファイルパスも必要です。設定ファイルパスが相対である場合は、同じ AIR ヘルプファイルを別の場所に別の設定でインストールできます。

設定ファイルの属性

AIR ヘルプを配置しようとする組織は、必要に応じてコメント入力や自動更新を設定できるようになりました。デフォルトの設定ファイルをプロジェクトの !SSL フォルダーから設定ファイルパスに指定されている場所にコピーし、デフォルト設定を変更します。

設定ファイルには次の設定が含まれています。

config topicrating:

トピックレーティングを有効または無効にします。有効値は yes または no です。

commentsync:

コメント入力を有効または無効にします。有効値は yes または no です。

updatecommentlocation:

OS 固有の更新コメント場所が指定されないときに、コメントを同期するために AIR ヘルプが使用するパスを指定します。

windowsupdatecommentlocation:

コメントを保存し同期する Windows コンピューター上の共有場所を指定します。

macupdatecommentlocation:

コメントを保存し同期する Mac OS コンピューター上の共有場所を指定します。

linuxupdatecommentlocation:

コメントを保存し同期するLinuxコンピューター上の共有場所を指定します。

marknewcommentsaspending

新規コメントに「保留」または「承認済み」のステータスを付けるかどうかを指定します。有効値はyesまたはnoです。

注: ユーザーが保留コメントを表示するには、コメントをモデレートする必要があります。

autoupdate:

自動更新を有効または無効にします。有効値はyesまたはnoです。

windowsupdatexmllocation:

Windowsコンピューター上の自動更新XMLファイルの場所を指定します。

macupdatexmllocation:

Mac OSコンピューター上の自動更新XMLファイルの場所を指定します。

linuxupdatexmllocation:

Linuxコンピューター上の自動更新XMLファイルの場所を指定します。

updatexmllocation:

自動更新xmlの場所を指定します。

注: RoboHelpは、OS固有のupdatexmllocation属性をチェックする前に、この属性をチェックします。この属性が存在していると、RoboHelpはOS固有のupdatexmllocation属性をチェックしません。

logoimage:

AIRヘルプでロゴを表示するために使用される画像ファイルの場所を指定します。

companytext:

AIRヘルプのステータスバーに表示される会社名（たとえば、Powered By Adobe RoboHelpなど）を指定します。

Windows、Mac、およびLinuxのURL書式

Adobe AIRアプリケーション共同作業設定を設定するときに、パスを次の書式で指定します。

	Windows	Mac	Linux
ハードディスク上のファイル	file:///C:/config.xml	file:///Applications/config.xml	file:///etc/config.xml
ネットワークドライブ上のファイル	file:////robohelpserver/config.xml	file:///Volumes/robohelpserver/config.xml	file:///media/robohelpserver/config.xml

新しいコメントのステータスの変更について

作成者は、Adobe AIR出力の生成時に、新規コメントのステータスを「保留」または「承認済み」に設定します。

ユーザーは、コメントをソートしたり同期したりするためのネットワーク場所にある `settings.xml` ファイルにアクセスして、新規コメントのステータスを変更できます。ステータスを「保留」に設定した場合は、新規コメントはモデレートされる必要があります。保留以外の場合は、新規コメントはモデレーションなしに承認され、ユーザーに対して表示されます。

印刷ドキュメント

印刷ドキュメントについて

オンライン出力と印刷ドキュメントは、ソースファイルを共有します。同様に、同じソースファイルからPDFファイルと印刷ドキュメントを生成できます。

目次の編成とカスタマイズ

プロジェクトの一部のみ、またはプロジェクト全体から、印刷ドキュメントをデザインします。生成時に、ページとブックを調整して、ドキュメント内にトピックを配置する場所を決定します。印刷ドキュメントの構成をプロジェクトの目次に準拠させるか、またはプロジェクトマネージャーのカスタムフォルダーからトピックを選択します。

プロジェクトスタイルのWordへのマップ

スタイルマッピングにより、印刷ドキュメントでのスタイルの使用方法を制御します。プロジェクトスタイルをWordドキュメントに直接コピーします。適用されているプロジェクトスタイルは、Wordでもスタイルを維持します。または、スタイルマッピングを省略し、トピックのスタイルを使用することもできます。

作成するWordドキュメントの種類

個々のドキュメント

タイトルページ、目次、用語集、索引に個別のWordファイル。印刷された目次内の各ルートレベルのブック（章）とページに対しても、個別のドキュメントが作成されます。

マスター文書

個別のドキュメントにリンクするオプションのドキュメント。Wordでのマスター文書を熟知していることが推奨されます。このファイルは編集できません。このファイルには、ドキュメントを参照するフィールドコードのみが含まれています。大きいマニュアルには、マスター文書を使用しないでください。

1つのドキュメント

タイトルページ、目次、章、用語集、索引を含む、1つのWordファイル。

印刷ドキュメントの構造

- 印刷ドキュメントのルートレベルのブックとページで、新しい章が開始します。
- 印刷ドキュメントの非ルートレベルのサブブックとページには、区切りは挿入されません。
- トピック以外の宛先にリンクするページは、印刷ドキュメントでは使用できません。
- セクションのレイアウトダイアログボックスで、印刷ドキュメント出力のセクションを整理します。

オンライン機能の変換

RoboHelpは、多くの共通プロジェクト機能を変換します。ActiveXコントロール、罫線、ダイナミックHTML、ヘッダーとフッター、JavaScript、リンクコントロール、トピックの罫線などを含む、それ以外の機能は削除します。特定の機能に関する変換の詳細を次の表で説明します。

機能	変換の説明
箇条書きと段落番号	変換済み（画像箇条書きを除く）
コンディショナルビルドタグ	コンディショナルビルドタグおよび式で除外されたトピックとトピックコンテンツは、削除されます。
ドロップダウンホットスポットと拡張ホットスポット	指定すると、拡張テキストとドロップダウンテキストがインラインで表示されます。他のテキストと区別されるように、スタイルをホットスポットにマップします。
拡張用語集ホットスポット	印刷出力で拡張テキストとドロップダウンテキストを選択すると、変換されてインラインで表示されます。他のテキストと区別されるように、スタイルをホットスポットにマップします。
フォントセット	Wordは最初のフォントを使用します。最初のフォントが存在しない場合、Wordはデフォルトフォントを作成します。
フォーム	WordのHTMLに変換されます。サードパーティフォームは、ドキュメントから削除されます。
画像	画像を配置するか埋め込むかを指定します。配置した画像は、出力フォルダーの画像フォルダーに格納されます。画像をドキュメントに含める場合は、画像を埋め込みます。画像を見出しに含めることができます。これにより画像は印刷された目次にも表示されます。
マーキー	Wordのテキストに変換されます。
配置テキストボックス	変換されて、ドキュメントの最後またはページの下端に配置されます。
網かけ	塗りつぶしは変換されますが、パターンは変換されません。
テキストボックス	変換されテキストのみ収まるようにサイズが変更されます。

ページ設定

RoboHelp は、Microsoft Word の印刷ドキュメントへのデフォルトページ設定を割り当てます。

本文ページの設定

開始ページ

すべてのドキュメントは、奇数ページから開始します。ドキュメントが奇数ページで終了する場合、ドキュメントの最後に空白ページが追加されます。空白ページにはヘッダー、フッター、ページ番号はありません。

ヘッダー

ヘッダーは、各ページの上部に表示されセクションの最初のページにはありません。ドキュメント名は、偶数ページに、左揃えで表示されます。ルートの章の名前は、奇数ページに右揃えで表示されます。

フッター

フッターは、各ページの下部に表示され、ページ番号を含みます。ページ番号は、偶数ページでは左揃えされ、奇数ページでは右揃えされます。

ページ番号

ページ番号はフッターにあり、通常はアラビア数字です（1、2、3、など）。目次ドキュメントには、小文字のローマ数字（i、ii、iii、など）が使用されます。

その他の設定

Microsoft Word ドキュメントを作成するには、ソースファイルに関する次の詳細に注意し、それに従ってセットアップしてください。

タイトルページ

- タイトルページは、ドキュメントの設定を使用します。
- 印刷ドキュメントを生成するときに、デフォルトのタイトルページを指定します。
- ドキュメント名（タイトルページに表示されます）は、印刷ドキュメントの全般ダイアログボックスで定義した印刷ドキュメント名です。このダイアログボックスは、印刷ドキュメントレイアウトをダブルクリックすると表示されます。

- ヘッダーとフッターは空白です。
- タイトルページには、ページ番号がありません。
- タイトルページは、Word ドキュメントにコピーされる TitlePageTitle スタイルを使用します。
- ファイルを追加するとき、RoboHelp で出力フォルダーにコピーが生成されるようにする場合は、プロジェクトフォルダーにファイルをコピーします。

目次

- 目次は、トピックタイトルの見出しレベルと、印刷ドキュメントの構造の階層に基づきます。印刷ドキュメントの構造は、印刷ドキュメントの目次ダイアログボックスで定義できます。

  注: また、プロジェクトマネージャーから目次を作成することもできます。目次ポッドでトピックを右クリックし、「目次を自動作成」を選択します。プロジェクトマネージャーのトピックは、印刷ドキュメント構成での配置に基づいて、自動的に見出しスタイルでのレベルが上下します。

- ほとんどの目次は、情報の階層や構成を示す複数のレベルの見出しがあり、ユーザーが素早く情報を探せるようになっています。
- 目次 1 ～ 9 は、目次のエントリに使用されるスタイルです。
- 「Table of Contents Page Title」は、目次のタイトルに使用されるスタイルです。
- 目次ドキュメントのページ番号には、小文字のローマ数字（i、ii、iii、など）が使用されます。
- ファイル名は、Chapter_00_Table_Of_Contents.doc です。

章

- 章ファイルには、印刷ドキュメントの目次ダイアログボックスで指定されたトピックが含まれています。ルートレベルのトピックとブックに対して、新規のドキュメントが作成されます（生成時に 1 つのドキュメントを選択した場合を除く）。
- 章ドキュメントのページ番号には、アラビア数字が使用されます（1、2、3、など）。
- ファイル名は、Chapter_{##}_{ブック名またはページ名}.doc です。

用語集

- 用語集は、プロジェクトの用語と定義が基になります。プロジェクトに用語と定義がない場合は、用語集ドキュメントは生成されません。
- 用語集は、Word ドキュメントにコピーされる 3 つのスタイルを使用します。

用語集の見出し

ヘッダーの文字（A、B など）に使用されるスタイルです。プロジェクトで言語が指定されている場合、見出し文字はその言語でローカライズされます。

用語集ラベル

用語集の用語に使用されるスタイルです。

用語集の定義

用語集の定義に使用されるスタイルです。定義は、用語と同じ行に記述され、次の行からはぶら下がりインデントで記述されます。

- 用語集ドキュメントのページ番号には、アラビア数字が使用されます（1、2、3、など）。
- デフォルトでは、ファイル名は Chapter_{##}_Glossary.doc です。## は、最後の章番号の次の番号です。

索引

- 索引は、プロジェクトのキーワードとサブキーワードが基になります。トピックのキーワードは、出力で関連トピックが生成される場合のみ含まれます。
- 索引スタイルは、印刷ドキュメントで選択した Word テンプレートの索引見出しおよび索引 1-9 のスタイルに基づきます。
- デフォルトでは、索引は 2 つの列がインデントされます。プロジェクトで言語が指定されている場合、見出し文字はその言語でローカライズされます。
- 索引ドキュメントのページ番号には、アラビア数字が使用されます（1、2、3、など）。
- ファイル名は、Chapter_{##}_Index.doc です。## は、用語集の章番号の次の番号です。ドキュメントに用語集が含まれない場合は、最後の章番号の次の番号です。

アクセサリページ

- 謝辞、付録、序文、著作権表記などのアクセサリページは、元の書式設定が維持されます。
- ファイルを追加するときは、プロジェクトフォルダーにファイルをコピーできます。コピーも出力フォルダーに生成されます。
- セクションのレイアウトダイアログボックスを使用して、新しいセクションを追加します。

画像

画像は次のように処理できます。

ドキュメントに埋め込む

ドキュメント内に画像を保持します。画像を埋め込むと、外部の画像ファイルに依存しない大きなサイズのDOCファイルが作成されます。

ドキュメントにリンク

ドキュメント外の画像を参照します（外部の画像ファイルを参照する小さなサイズのDOCファイルが作成されます）。画像ファイルは、印刷ドキュメントの出力フォルダー内のImagesフォルダーに保存されます。

ヒント: 見出しスタイルの画像は削除されます。見出しに画像を含めるには、選択を変更します。

ドキュメントのコンテンツの編成とカスタマイズ

1) シングルソースレイアウトポッドで、印刷ドキュメントをダブルクリックします。
2) 印刷ドキュメントの全般ダイアログボックスで、印刷ドキュメントの全般オプションを設定します。

名前

ドキュメントの名前を指定します。この名前は、ドキュメントヘッダーおよびタイトルページで使用されます。

場所

Wordドキュメントのパスを指定します。PDFドキュメントもこの場所に保存されます。プロジェクトフォルダー内の!SSL!*[layout name]*に印刷ドキュメントファイルを作成します。別のフォルダーを参照するには、「参照」ボタンをクリックします。「OK」をクリックします。

注: 印刷するWordのドキュメントでは、DOCとDOCXの両方の形式がサポートされています。

PDF設定

PDFのプロパティを設定します。

設定

ドキュメントファイル作成のオプションを選択します。

個別のドキュメントを生成

ドキュメントの章および節ごとに異なるWordファイルを作成します。章は、印刷ドキュメントの目次ダイアログボックスで指定されている目次のルートレベルのブックまたはページです。

1つのドキュメントを生成

タイトルページ、目次、章、用語集、索引を含む、1つのWordファイルを作成します。

注:「個別のドキュメントを生成」を選択した場合は、「マスター文書を作成」をクリックして、すべてのドキュメントが表示されるようにします。

ハイパーリンクを維持

ハイパーテキストリンクを維持する場合は選択します。

新しいページでトピックごとに開始

改ページを作成する場合は選択します。

画像

画像のオプションを設定します。

ドキュメントに埋め込む

ドキュメント内に画像を保持します。

ドキュメントにリンク

ドキュメント外の画像を参照します。画像ファイルは、印刷ドキュメントの出力フォルダー内のImagesフォルダーに保存されます。

> **ヒント**: デフォルトでは、見出しスタイルに含まれる画像は削除されます。画像を含めるには、「詳細」ボタンをクリックして、「目次の画像」を選択します。

定義

クリックして、コンディショナルビルドの式を指定します。

コンテンツ

生成したヘルプで表示する目次、索引、用語集を選択します。

変数セット

印刷ドキュメントの変数セットを選択します。

詳細

目次、用語集、テキストの詳細なオプションを指定します。

> **注**: 見出しにインライン書式設定を適用する場合は、目次のスタイルフィールドを選択しない限り、ドキュメントにインラインスタイルは表示されません。インラインスタイルはドキュメントの目次にも表示されますので注意してください。

印刷ドキュメントで、ヘッダーとフッターを印刷することもできます。

3) 印刷ドキュメントにヘッダーとフッターを適用するには、マスターページを選択してヘッダー / フッターをドキュメント全体に適用します。

4) 複数のヘッダーフッターの組み合わせ（たとえば左ページと右ページ用）を適用するには、「複数のヘッダー / フッター」をクリックし、複数のヘッダーフッターオプションダイアログで次の操作を実行します。

- BULLET_ITEM
- BULLET_ITEM
- BULLET_ITEM

5) 印刷出力の最初の章の最初のページでページ番号を振り直すには、「第一章のページの番号付けを再開」を選択します。

6) 「次へ」をクリックします。

7) 印刷ドキュメントの目次の「トピック」で、ポップアップメニューをクリックし、表示されるトピックから選択します。

すべてのトピックを表示

コンディショナルビルドタグに関係なく、すべてのトピックを表示します。

目次

目次のすべてのトピックを表示します。

フォルダーボタン

プロジェクトマネージャーポッドでトピックを表示するには、カスタムフォルダーのフォルダーボタン、「トップレベルのフォルダー」、または「すべてのフォルダー」を選択します。タイトル別またはファイル名別にトピックを表示します。

8) 「トピック」で、目次を追加および作成するトピックを選択します。

自動マッピングを無効にするには、「HTMLの見出しのレベルを維持」を選択します。見出しスタイルのレベルが維持されます。印刷ドキュメントの構造が「章のレイアウト」列の構造と一致していない場合は、Wordで変更します。

左から右にトピックをドラッグ&ドロップします。左側のトピックアイコンが青に変わり、トピックが追加されたことを示します。

コンディショナルビルドタグを使用して全般ダイアログボックスで除外されたトピックは、「章のレイアウト」列ではグレーのアイコンで表示されます。

見つからないトピックは、破れたページのアイコン で表示されます。

9) 章のレイアウトの下で、コンテンツを編集または再配置します。

新しいブックを追加するには、新しい章ボタンをクリックします。ブックまたはページを移動するには、矢印ボタンをクリックします。

アイテムを目次の高いレベルに移動します。

アイテムを目次の低いレベルに移動します。

アイテムを目次で上に移動します。

アイテムを目次で下に移動します。

10) 「次へ」をクリックして、ドキュメントのセクションレイアウトを設定します。

「セクションレイアウト」列にはデフォルトのセクションが表示されます。セクションを削除したり、トピックまたは既存のWord文書を新しいセクションとして追加したりできます。セクションを並べ替えることもできます。

クリックするとセクションが削除されます。

左の列にあるトピックを選択し、このアイコンをクリックしてトピックをセクションとして追加します。

クリックしてWord文書をセクションとして追加します。ファイルを探し、選択して、「開く」をクリックします。

クリックしてWordで編集します（選択したセクションがWord文書である場合）。変更が印刷されるドキュメントに組み込まれます。

印刷されるドキュメントでセクションを配置するには、矢印ボタンを使用します。

11) 次のいずれかを行います。

- 「次へ」を選択して、スタイルをマップします。
- 変更を保存します。
- 「完了」をクリックして生成します。PrintDoc.dot マクロのメッセージが表示される場合は、「マクロを無効にする」をクリックして作業を続けます。PrintDoc.dotマクロのメッセージが表示される場合は、「マクロを無効にする」をクリックして作業を続けます。

注意：

- すべてのMicrosoft Wordドキュメントを閉じる必要があります。
- ドキュメントのコンテンツを変更しても、目次には影響ありません。
- TOC Composerで更新した目次は、「章のレイアウト」には反映されません。
- 更新した目次を使用するには、「すべてを削除」をクリックしてから、「すべてを追加」をクリックします。

印刷ドキュメントを作成する前に

印刷ドキュメントの整理

- 生成前に、目次レポートを印刷します。ツール／レポート／目次を選択します。印刷ドキュメントのトピックの横にチェックマークをつけ、ドキュメントを生成するときに簡単にわかるようにします。
- 大きなドキュメント（700～800ページを超える）の場合は、個々のドキュメントを作成します。多くのDOCファイルを作成するには、印刷ドキュメント構成のルートレベルにより多くのブックを配置します。このようにしないと、印刷ドキュメントにはほんのわずかな大きいファイルしか含まれなくなります。

スタイルと書式

プロジェクトスタイルとテンプレートスタイルの両方で生成準備ができていることを確認します。

すべてのトピックテキストへのスタイルの適用

インライン書式設定は、Wordのスタイルにはマップされず、インライン書式設定として変換されます。

埋め込みスタイルは、Wordにマップされません。インラインスタイルに変換されます。埋め込みスタイルを使用するトピックがある場合は、外部スタイルシートをそのトピックにリンクし、スタイルをテキストに適用します。

トピックの見出しへのスタイルの適用

トピックを連続するテキストではなく個別のセクションとして扱うには、すべてのトピック見出しに見出しスタイルを設定します。また、トピックタイトルを印刷ドキュメント構造のルートレベルに配置します。

カスタム見出しにHeading*[number]*という形式のRoboHelp見出しスタイル名が使用されていない場合、そのトピックは目次に表示されません。この問題を解決するには、RoboHelpの見出しスタイルの1つを変更して、カスタムの見出しスタイルの設定を使用するようにします。

一貫したスタイルの使用

印刷ドキュメントは、プロジェクトのスタイルをWordのスタイルにマップします。

テンプレートの選択

- カスタムテンプレート
- RoboHelpスタイルのMapping.dotテンプレート
- Wordのデフォルトテンプレート

テンプレートへの新しいスタイルの追加

プロジェクトのスタイルを解析して、Wordにどのようにマップされるのかを確認します。必要に応じて、新しいスタイルを作成します。次に注意します：

文字スタイル

スタイルは、同じ種類のテンプレートスタイルにのみマップできます。生成前に、一致する文字スタイルを作成します。テンプレートとプロジェクトスタイルの名前が一致していると、マッピングが容易です。例えば、Wordの文字スタイルを作成します。

コンディショナルテキスト

トピックまたはトピックの内容を印刷ドキュメントから除外するには、コンディショナルビルドの式を定義します。印刷ドキュメントの目次ダイアログボックスでは、除外されたトピックはグレーの疑問符アイコン で示されます。

関連するリンク：

コンディショナルビルドタグの式を定義

シングルソースレイアウト

出力をカスタマイズして設定を保存するには、コンディショナルビルドタグと一緒に使用します。

統一性を保つには、印刷ドキュメントレイアウトからのスタイルマッピングを他のヘルプ作成者と共有します。スタイルマッピング（.ZPL ファイル）をプロジェクトに読み込むか、マッピングを別の場所に書き出します。

スタイルのマッピング

マップされるスタイル

マップされないスタイルは、デザインエディターに表示されているとおりに書式設定されます。スタイルマップは、ZPL ファイルに保存されます。

見出しスタイル

見出しのマッピングを行うには、HTML の標準見出しスタイルをトピックタイトルに適用する必要があります。カスタム見出しスタイルが「見出し<番号>」形式の名前になっていない場合は、見出しとして扱われません。

見出しスタイルは、Word の見出しスタイルに自動的にマップされます。自動的なマッピングを無効にするには、印刷ドキュメントの目次ダイアログボックスの「HTML の見出しのレベルを維持」を選択します。印刷ドキュメントの目次ダイアログボックスでの位置に関係なく、見出しスタイルレベルは保持されます。

RoboHelp は、見出しに適用された RoboHelp プロジェクトスタイル、および印刷される目次階層でのトピックの配置を考慮します。

印刷ドキュメントの目次をプロジェクトの目次と全く同じに生成すると、同じ見出しスタイルで同じ目次階層を持つ Word ドキュメントが作成されます。目次の階層を変更すると、自動プロセスが引き継いで、見出しレベルを割り当てます。

- ルートレベルのブックとページは、常に見出し 1 です。プロジェクトの見出しスタイルが低い場合（見出し 2 など）は、調整され、レベルが上げられます。
- 見出し 2 ～ 6 のブックおよびページは、印刷ドキュメントの構成とプロジェクトの見出しスタイルに従って調整されます。異なるプロジェクト見出しスタイルは、必要に応じて調整されます。

- 見出し 7 から 9 のブックとページは、自動で Word の見出し 7 から 9 のスタイルにマップされます。
- ページにリンクするブックは、トピックのように扱われます。

RoboHelp は、印刷ドキュメントの目次を作成するときに、これらの見出し調整を行います。

段落スタイル

段落スタイルは、Word の段落スタイルにのみマップできます。段落スタイルは、フォント属性、行間隔、段落番号、罫線と網かけに適用されます。

文字スタイル

文字スタイルは、Word の文字スタイルにのみマップできます。文字スタイルは、フォント属性に適用されます。

マルチレベルリストのスタイル

RoboHelp におけるマルチレベルリストスタイルは、Word 内のマルチレベルリストスタイルに対してのみマッピングできます。マルチレベルリストの個別のレベルが自動的にマッピングされます。たとえば、RoboHelp リスト内のレベル 3 アイテムのスタイルは、Word 内のリストのレベル 3 のスタイルに自動的にマッピングされます。

表のスタイル

RoboHelp 内の表スタイルは、Word 内の表スタイルに対してのみマッピングできます。

埋め込みスタイル

外部のスタイルシートで定義されていない埋め込みスタイルは、Word ドキュメントではインラインで適用されます。グローバルには使用できません。

インラインスタイル

インラインスタイルは、Word ドキュメントの適用されたインラインで、テンプレートのグローバルでは利用できません。

マップされないスタイル

次のスタイルは、マッピングでは利用できません。

- 背景 + テキスト（BODY）。これらのスタイル設定は、インラインで適用されます。
- 見出しスタイル

マップされないスタイル（印刷ドキュメントの外観ダイアログボックスでは「割り当てなし／プロジェクトのスタイルを使用」で示されます）は、Word ドキュメントに追加されます。このスタイルは、プロジェクトスタイルと同じ属性を持ちます。印刷ドキュメントの外観ダイアログボックスにアクセスするには、シングルソースレイアウトポッドで印刷ドキュメントレイアウトをダブルクリックし、「次へ」をクリックします。

スタイル名

マップされたテンプレートスタイルは、Word のテンプレートスタイルの名前を保持します。

RoboHelp が追加するスタイル

重複スタイル

プロジェクトに、重複するスタイル名を持つ複数のスタイルシートがある場合は、最も頻繁に使用されるスタイルがマップされます。

スタイルのマップ

1) シングルソースレイアウトポッドで印刷ドキュメントをダブルクリックし、印刷ドキュメントの外観が表示されるまで「次へ」をクリックします。

   プロジェクトのスタイルが左側に表示されます。一致するテンプレートスタイルが右側に表示されます。一致するスタイルが見つからない場合は、「割り当てなし／プロジェクトのスタイルを使用」と表示されます。自動的にマップされる見出しスタイルは表示されません。

2) Microsoft Word テンプレートで、プロジェクトに既に存在するテンプレートを選択するか、またはポップアップメニューから別のテンプレートオプションを選択します。

（なし）プロジェクトのCSSスタイルを使用

テンプレートではなくトピックの書式。

Microsoft Wordテンプレートを使用

テンプレートファイルを選択ダイアログボックスで、テンプレートを開きます。プロジェクトフォルダーへのコピーまたは既存のテンプレートの上書きを選択します。後でテンプレートに素早くアクセスできるようにするには、「はい」をクリックします。他のヘルプ作成者とテンプレートを共有し、1つの場所にテンプレートを維持するには、「いいえ」をクリックします。

Style Mappingdot

デフォルトテンプレートを使用します。

参照

注: 選択したテンプレートの名前がデフォルトの Word テンプレートと同じ場合は、カスタムテンプレート名に _RHT が追加されます。

3) 「プロジェクトのCSSスタイル」で、テンプレートスタイルにマップするプロジェクトスタイルを選択します。選択したスタイルのサンプルが、「プレビュー」の下に表示されます。

プロジェクトのCSSスタイル（すべて）

プロジェクトのすべてのスタイルを表示します。

プロジェクトのCSSスタイル（使用中のみ）

プロジェクトで使用されているスタイルのみを表示します。

文字

スタイルのフォント属性をプレビューします。

段落

スタイルのフォント属性と行間をプレビューします。

説明

スタイルのテキスト説明をプレビューします。

4) 「Microsoft Word テンプレートスタイル」で、ポップアップメニューを選択してテンプレートスタイルを表示します。

Microsoft Wordのスタイル（すべて）

Wordのデフォルトを含むテンプレートのすべてのスタイルを表示します。

Microsoft Wordのスタイル（ユーザー定義）

ユーザー定義スタイルのみを表示します。

注: スタイルは、同じタイプの他のスタイルに対してマッピングする必要があります。たとえば、文字から文字、段落から段落、表から表、マルチレベルリストからマルチレベルリストです。

5) スタイルを選択し、選択したMicrosoft Wordスタイルのポップアップメニューでスタイルを選択して、目的のすべてのプロジェクトスタイルをマップします。

6) 目的のすべてのプロジェクトスタイルをマップします。

7) 「完了」をクリックして生成します。

8) マクロのメッセージが表示される場合は、「この発行元からのマクロを常に信頼する」をクリックします。次に、「マクロを有効にする」をクリックします印刷ドキュメントファイルは、プロジェクトフォルダー内の!SSL!*[layout name]*に表示されます。

9) 「結果を表示」をクリックして出力を表示するか、「終了」をクリックします。

Microsoft Wordでドキュメントが開きます。選択されている設定に応じて、目次、マスター文書、または1つのドキュメントが表示されます。

スタイルマップの書き出し

すべてのプロジェクトスタイルを、同じWordテンプレートスタイルに確実にマップします。

1) プロジェクトを開きます。

2) 印刷ドキュメントレイアウトを作成します。

3) スタイルをマップします。設定を保存します。

4) シングルソースレイアウトポッドで、書き出すスタイルマップを含むレイアウトを右クリックします。「環境設定を書き出し」を選択します。

5) スタイルマップの書き出し先を参照します。「保存」をクリックします。

スタイルマップの読み込み

すべてのプロジェクトスタイルを同じWordテンプレートスタイルに確実にマップするには、スタイルマップを共有します。

1) シングルソースレイアウトポッドで、印刷ドキュメントのレイアウトを右クリックします。「環境設定を読み込み」を選択します。

2) 書き出されたスタイルマップ（.zplファイル）を参照します。

3) 「開く」を選択します。

   - スタイルマップに関連したテンプレートがプロジェクトにない場合は、「はい」を選択してプロジェクトフォルダーにコピーします。

   出力を生成するときは、読み込んだスタイルマップが使用されます。

4) 読み込んだ後でスタイルマップを編集するには、レイアウトを右クリックします。「プロパティ」を選択します。プロパティダイアログボックスの各画面で、オプションを設定して「次へ」をクリックします。

5) 「保存」をクリックします。

PDFの生成

PDFでは、リンク、ブックマーク、書式設定、グラフィック、フォント、特殊文字、および色が維持されます。

PDFの生成

1) プロジェクトを開きます。

2) 出力／生成／PDF出力をクリックします。

設定オプションでのPDFの生成

1) シングルソースレイアウトポッドで、印刷ドキュメントのレイアウトをダブルクリックします。
2) 「出力形式」領域で、「Adobe PDFの生成」を選択します。
3) 「PDF設定」をクリックします。オプションを設定します。
4) 各画面でオプションを選択して、章のレイアウト、セクションのレイアウト、およびスタイルを設定します。「次へ」をクリックし、各画面での設定を順に行います。
5) 「完了」をクリックします。
6) （省略可能）「結果を表示」をクリックします。

印刷ドキュメントの生成

印刷ドキュメントとシングルソースレイアウトを作成し、印刷ドキュメントと同時にPDFファイルを生成できます。

テンプレートを使用しない場合は、すべてのドキュメントがトピック内で使用されている書式設定を保持します。

1) シングルソースレイアウトポッドで、印刷ドキュメントのレイアウトをダブルクリックします。
2) 印刷ドキュメントの全般ダイアログボックスでオプションを選択します。ヘッダーとフッターの追加についての詳細は、印刷ドキュメントにヘッダーとフッターを追加するを参照してください。
3) 印刷ドキュメントのコンテンツダイアログボックスで、ドキュメントの構成を調整します。
4) 印刷ドキュメントの外観ダイアログボックスで、Microsoft Wordスタイルをマップします。
5) レイアウトを生成する前に、手作業で修正したファイルまたは追加したファイルを別の場所にコピーします。
6) 「結果を表示」をクリックします。

デフォルトでは、印刷ドキュメントファイルはプロジェクトフォルダー内の!SSL!*[layout name]*に作成されます。テンプレートは、ルートプロジェクトフォルダーに保存されます。

注意：

- Microsoft Office 2000 SP-2以降がインストールされていない場合、1500以上の一覧項目を含む印刷ドキュメントを生成すると、一部の一覧項目が正しく変換されません。
- 次のエラーメッセージが表示された場合は、Microsoft Word のマクロのセキュリティ設定を変更してください：「登録されているWord VBAのバージョンが正しくありません。印刷ドキュメントを再インストールしてください。」

  a) 「セキュリティセンターの設定」を開きます。

  - Word 2007の場合は、Officeボタン／Wordオプション／セキュリティセンター／セキュリティセンターの設定をクリックします。
  - Word 2010の場合は、ファイル／オプション／セキュリティセンター／セキュリティセンターの設定をクリックします。

  b) マクロの設定を「すべてのマクロを有効にする」に変更し、「OK」をクリックします。

  c) RoboHelp HTMLから印刷ドキュメント出力を生成します。

印刷ドキュメントにヘッダーとフッターを追加する

ドキュメントの印刷出力にヘッダーとフッターを追加するように選択できます。

重要: 印刷ドキュメントにヘッダーとフッターを追加するには、最初にドキュメントのマスターページにヘッダーとフッターを追加する必要があります。詳細については、印刷ドキュメントのヘッダーとフッターの追加を参照してください。

ヘッダーとフッターを追加するには、次の操作を実行します。

1) 印刷出力を生成するには、印刷ドキュメントの生成を参照してください。

2) ドキュメントの印刷全般ダイアログボックスで、ドキュメント全体にヘッダーとフッターの設定を適用するには、ヘッダー/フッタードロップダウンリストからマスターページを選択します。

3) 複数のヘッダーフッターの組み合わせ（たとえば左ページと右ページ用）を適用するには、「複数のヘッダー/フッター」をクリックします。

4) 複数のヘッダーフッターオプションダイアログで、次の操作を実行します。

- 異なるヘッダーフッターマスターページの組み合わせを、印刷出力の 1 つ以上のセクションの先頭ページ、偶数ページおよび奇数ページに適用するには：

a) 1つ以上のセクションを選択します。

b) ドロップダウンメニューで、先頭ページ、偶数ページ、および奇数ページに対してマスターページを選択します。

c) 「OK」をクリックします。

d) この手順を繰り返して、他のセクションにもマスターページを適用します。

- 異なるヘッダーフッターマスターページの組み合わせを、印刷出力のすべてのセクションの先頭ページ、偶数ページおよび奇数ページに適用するには：

a) セクションを1つだけ選択します。

b) ドロップダウンメニューで、先頭ページ、偶数ページ、および奇数ページに対してマスターページを選択します。

c) 「すべてのセクションに適用」をクリックします。

d) 「OK」をクリックします。

- 同じヘッダーとフッターを、印刷出力の 1 つ以上のセクションのすべてのページに適用するには：

a) 1つ以上のセクションを選択します。

b) ポップアップメニューで、先頭ページに対するマスターページを選択します。

c) 「すべてのページタイプに適用」をクリックします。

d) 「OK」をクリックします。

- 同じヘッダーとフッターを、印刷出力のすべてのセクションのすべてのページに適用するには：

a) セクションを1つだけ選択します。

b) ポップアップメニューで、先頭ページに対するマスターページを選択します。

c) 「すべてのページタイプに適用」をクリックします。

d) 「すべてのセクションに適用」をクリックします。

5) 印刷出力の最初の章の最初のページでページ番号を振り直すには、「第一章のページの番号付けを再開」を選択します。

6) 「OK」をクリックします。

7) 「保存して生成」をクリックします。

デフォルトプリンターオプションの指定

RoboHelp 内部からデフォルトのプリンター設定を設定することができます。使用できるオプションは、選択したプリンターによって異なります。

注: 指定した設定により、他の Windows アプリケーションでのドキュメントの印刷方法が影響を受けます。

設定には次のものがあります。

用紙サイズ

用紙のサイズを指定します。

用紙ソース

プリンターでの用紙の位置を指定します。オプションはプリンターによって異なります。用紙ソースの例には、上トレイや封筒フィードがあります。

方向

方向が縦と横のどちらであるかを指定します。

余白

インチで、左、右、上および下の余白を指定します。

スキン

スキンについて

Adobe AIR、WebHelp および FlashHelp システムの外観を変更するには、スキンを使用します。ウィンドウの左側と出力の上部のツールバーにスキンが適用されます。色、ボタン、フォント、アイコンを変更し、背景やロゴを追加して、ヘルプシステムをカスタマイズします。

RoboHelp スキンギャラリには、定義済みのスキンがあります。

スキンの編集

次の手順に従って、RoboHelp 内から WebHelp および AIRHelp のスキンを編集します。次回、スキンを使用して生成する際に、スキンプロパティの変更が反映されます。プロジェクトをローカライズすると、デフォルトスキンのテキストはプロジェクトの言語設定を使用して翻訳されます。スキンテキストを編集すると、LNG ファイルのカスタマイズ設定が上書きされます。

注: FlashHelp スキンは、FlashHelp スキン開発キットで編集します。FlashHelp スキンのカスタマイズを参照してください。

1) 出力設定ポッドで、スキンフォルダーを展開します。
2) スキンを右クリックします。「編集」を選択します。
3) スキンタイプの違いにより、WebHelp スキンエディターまたは Adobe AIR ヘルプスキンエディターのいずれかが起動します。必要に応じて、オプションを設定します。

   注: 出力タイプによっては、一部のオプションを利用できません。
4) 「OK」をクリックします。
5) 「ビューを更新」をクリックして、ダイアログボックスに変更を表示します。「プレビュー」をクリックし、別のウィンドウで変更を表示します。

ヒント：

- Webサイトのリンク用のURLアイコンを使用するか、またはブックアイコンの代わりにフォルダーアイコンを使用します。
- 異なる色の目次アイコンを使用するには、画像ギャラリを参照します。ギャラリは、C:\Program Files\Adobe\Adobe RoboHelp*[version]*\RoboHTML\gallery\images\Books_and_Pagesにあります。グラフィックエディターで画像の色を編集することもできます。
- カスタムツールバーアイテムのあるプロジェクトを生成するときは、ナビゲーションダイアログボックスでカスタムボタンを選択します。
- 画像ファイルを削除しないでスキンからボタンを削除するには、プロジェクトを生成するときにオプションを選択解除します。WebHelpスキンエディターでは選択を解除しないでください。
- ボタン用の画像ファイルまたは JavaScript ファイルなどの追加ファイルは、Project Folder\!SkinSubFolder!\<スキン名>フォルダーにあります。スキンは、!SkinSubFolder!フォルダー内の分割されたサブフォルダーに保存されています。
- 他のファイル（HTMLファイルや画像ファイルなど）を指定するには、!SkinSubFolder!フォルダーの下にあるスキンのサブフォルダーにこれらのファイルをコピーします。

関連するリンク：

WebHelpおよびWebHelp Proプロジェクトのカスタムスキンの作成

Adobe AIRプロジェクトのカスタムスキンの作成

ギャラリへのスキンの追加

プロジェクト間でスキンを保存したり再使用したりするには、スキンをスキンギャラリへ追加します。

1) 出力設定ポッドで、スキンフォルダーを展開します。
2) スキンを右クリックします。「ギャラリに追加」を選択します。

スキンの読み込み

Adobe AIR の AHS ファイル、WebHelp の SKN ファイル、または FlashHelp の FHS ファイルを読み込むと、関連付けられたすべてのファイルがスキンサブフォルダーに追加されます。圧縮された AHZ ファイル（Adobe AIR の場合）、ZKN ファイル（WebHelp の場合）、または FHZ ファイル（FlashHelp の場合）を読み込むこともできます。

1) 出力設定ポッドで、スキンフォルダーを右クリックします。「読み込み」を選択します。

2) スキンファイルまたは圧縮されたスキンファイルに移動します。

3) ファイルを選択します。「開く」をクリックします。

4) （オプション）スキンの名前およびファイル名を入力します。

5) 「OK」をクリックします。

このスキンは、次に出力を生成するときに選択できます。

スキンの書き出し

スキンを書き出すと、スキンとそれに関連するファイルを含む圧縮されたファイルとして保存されます。

1) 出力設定ポッドで、スキンフォルダーを展開します。

2) スキンを右クリックします。「書き出し」を選択します。

3) スキンを書き出す場所に移動します。「保存」をクリックします。

スキンの削除

1) 次のいずれかを行います。

   - プロジェクトからスキンを削除するには、出力設定ポッドでスキンフォルダーのスキンを選択します。
   - ギャラリからスキンを削除するには、C:\Program Files\Adobe\Adobe RoboHelp [version]\RoboHTML\Sqskinsext\Gallery でスキンを選択します。

2) 「削除」を押します。

スキンのプレビュー

WebHelp、WebHelp Pro、FlashHelp、および FlashHelp Pro のスキンをプレビューできます。

1) 出力設定ポッドで、スキンフォルダーを展開します。スキンを選択します。

2) ツールバーで、表示ボタン をクリックします。

スキンのコンパイル

Adobe AIR レイアウトの各テンプレートは、exStyle.css という関連スタイルシートを持っています。このファイルは *[Project folder]*\!SkinSubFolder!*[skin name]* にあり、スタイルをテキストエディターで直接変更できます。

ヒント : RoboHelp は、デフォルトの exStyle.css ファイルを [インストールフォルダー]\AIRHelpExt\skins\[skin name]\SkinTemplate に保存します。スタイルシートを編集するときは、このファイルに記載されているコメントを参照してください。

スタイルシートを変更した後に、CSS ファイルをコンパイルして SWF ファイルを生成します。

1) 出力設定ポッドで、スキンフォルダーを展開します。

2) スキンを右クリックします。「コンパイル」を選択します。

Adobe AIR プロジェクトのカスタムスキンの作成

Adobe AIR ヘルプスキンエディターを使用すると、Adobe AIR プロジェクトのスキンを簡単に作成したり編集したりできます。

1) 出力設定ポッドで、スキンフォルダーを右クリックします。「新規スキン」を選択します。

2) 次のいずれかを行います。

- 「ギャラリからスキンを作成」を選択し、「OK」をクリックします。「Adobe AIR」タブをクリックします。スキンを選択します。「OK」をクリックします。

注: Adobe AIR プロジェクトのスキンはテンプレートに関連付けられます。したがって、スキンを選択することは、それに関連付けられているテンプレートを選択することにもなります。

- 「カスタム Adobe AIR スキンを作成」を選択します。テンプレートを選択し、スキン名を指定します。「OK」をクリックします。

3) Adobe AIR ヘルプスキンエディターで、パレット、フォントスタイル、アイコンセットを微調整します。

パレットの微調整

使用可能なパレットからパレットを選択し、テンプレートの各部の色を変更して微調整します。色相、彩度、コントラストの値を使用してさらに細かい調整を行います。

1) 使用可能パレットで、パレットをクリックします。「次へ」および「戻る」ボタンを使用して、RoboHelp ギャラリで使用できるパレット内を移動します。

2) 背景色を変更してパレットをカスタマイズします。以下の操作のうち、どちらかを行います：

- 各背景色の上にポインタを置きます。色が使用されている場所にプレビューが表示されます。
- 背景色をクリックし、カラーピッカーから別の色を選択します。
- 色相、彩度、コントラストをスライダーで調整します。背景色の下にあるチェックボックスを選択すると、その色のみの色相、彩度、コントラストを調整できます。

注: カスタマイズされたパレットをギャラリに保存できます。「選択されたパレット」ボックスでカスタマイズされたパレットの名前を指定し、「保存」をクリックします。XML ファイルを %Application Data%\Adobe\RoboHTML\[version]\AIRSkinEditor\ColorThemes から削除することで、カスタマイズされたパレットを削除することもできます。

フォントプロパティの変更

フォントプロパティには、フォントタイプとフォントカラーがあります。

1) フォントプロパティ内のドロップダウンリストからフォントを選択します。

2) スタイル 1

   ヘッダー、フッター、およびメインタスクバーに表示されるテキストのフォントを設定します。

スタイル 2

無効およびマウスオーバーテキストのフォントを設定します。

スタイル 3

ポッドテキストのフォントを設定します。

アイコンのカスタマイズ

各テンプレートはアイコンセットを持っています。アイコンセットを変更したり、既存のアイコンを新しいアイコンに置き換えることでアイコンセットを編集したりできます。アイコンセットに対してアイコンを追加したり削除したりすることはできません。

アイコンを置き換えるときには、最良の結果が得られるようにデフォルトアイコンのサイズを保持してください。たとえば、デフォルトの「コメントを追加」ボタンのサイズが 16x16 の場合は、新しい画像も同じサイズにします。

注: アイコンに使用できるファイルタイプは、.jpg、.gif、.png です。

- アイコンセットを変更するには、「新規セットを選択」をクリックします。ドロップダウンリストからアイコンセットを選択し、「選択」をクリックします。
- 現在のアイコンセットを編集するには、「現在のセットを編集」をクリックします。カスタマイズするアイコンを選択します。「参照」をクリックし、新しいアイコンが含まれている画像ファイルを選択します。各アイコンステートごとに、画像を置き換えたら「適用」をクリックします。

  注: 新しいアイコンセットを選択した後またはアイコンへの変更を適用した後にスキンの編集をキャンセルした場合でも、これらの変更はキャンセルされません。

WebHelp および WebHelp Pro プロジェクトのカスタムスキンの作成

カスタムスキンは、SKN ファイルとして次の場所に保存されます：*[Project folder]*\!SkinSubFolder!*[skin name]*

ギャラリのスキンからカスタムスキンを作成した場合、ギャラリのスキンは変更されません。

1) 出力設定ポッドで、スキンフォルダーを右クリックします。「新規スキン」を選択します。

2) 次のいずれかを行います。

   - 「カスタム WebHelp スキンを作成」を選択します。「OK」をクリックします。
   - 「ギャラリからスキンを作成」を選択し、「OK」をクリックします。スキンを選択します。（オプション）「プレビュー」をクリックして、選択したスキンを表示します。

3) 「ツールバー」タブをクリックします。必要に応じて、オプションを設定します。

   注: 出力タイプによっては、一部のオプションを利用できません。

メイン

メインツールバーに表示されるアイテムが一覧表示されます。

カスタムツールバーアイテムの追加

「アクション」タブで、ボタンのリンクまたはスクリプトを定義します。

リンク

ボタンを URL にリンクします。リンク先のパスを入力するか、参照ボタン をクリックしてリンク先を参照します。リンクされたファイルはスキンフォルダーにコピーされます（ProjectName\!SkinSubFolder!\YourSkin）。

JavaScript の場合は、アクションに対する関数呼び出しを指定します。

OnLoad

ボタンを含むページがロードされた（MyFunction()）ときに呼び出す関数を指定します。

OnMouseOver

ボタンの上にポインターが移動したときに呼び出す関数を指定します。

OnClick

ボタンがクリックされたときに呼び出す関数を指定します。

「詳細設定」で、複数作成者機能を使用するときのカスタムツールバーアイテムの依存ファイルを追加または削除します。

依存関係

既に追加されている依存ファイルが一覧表示されます。別の依存ファイルの名前を指定するには、「追加」をクリックします。

追加

依存ファイルの場所を参照します。「OK」をクリックします。外部ファイルは、プロジェクトフォルダーに自動的にコピーされます。

削除

依存関係リストから依存ファイルを削除します。カスタムツールバーの画像は削除できません。ファイルはRoboHelpソフトウェアからのみ削除され、ハードディスクからは削除されません。

インラインJavaScript

プロジェクトのカスタムボタン関数の関数定義を入力します。

外部JavaScriptファイル

ファイルを参照して選択します。

カスタムツールバーアイテムの削除

クリックすると、選択したカスタムツールバーアイテムが削除されます。

目次、索引、検索、用語集

変更するボタンを選択し、編集ボタンをクリックして、ボタンのテキストを編集するか、ボタンに画像を配置します。

検索入力

ツールバーおよび検索ペインに表示されるフィールドを編集するにはダブルクリックします。ボタンのオプションは、ツールバーおよび検索ペインの両方に適用されます。「キャプション」および「テキストボックスの幅」はツールバーのみに適用されます。ボックスの幅は、10～40文字に設定できます。

概要

選択して「編集」をクリックし、メインツールバーの右上に表示される画像を変更します。「バージョン情報ボタン」の画像を指定します。画像はスキンフォルダーにコピーされます。次に、出力形式での必要に応じて、以下の情報を指定します。

画像

「バージョン情報」ボックスの左側に表示される画像を選択します。

会社

会社名を入力します。ロゴの下に表示されます。このテキストは、「URL」で指定するURLへのハイパーテキストリンクです。

著作権

著作権に関する情報を入力します。

URL

会社のWebサイトのWebアドレスを入力します。

タイトルの画像

「バージョン情報」ボックスの上に表示される画像を指定します。画像は211x60ピクセルより小さくします。

ヘルプ作成者

システムを識別するか、エンドユーザーにより多くの情報を提供します。

電子メール

作成者の電子メールアドレスを入力します。

ナビゲーションバー

メインツールバーの直下にあるアイテム , を修正します。

前のトピック、次のトピック、目次を同期、ナビゲーションコンポーネントを非表示

変更するアイテムを選択し、「編集」をクリックして、ボタンの画像を変更します。

「前へ」および「次へ」ボタンを使用すると、ユーザーは閲覧シーケンスで定義されている一連のトピックを前後に移動できます。ボタンが有効なときと無効なときにボタンに表示される画像を変更できます。有効な場合、ユーザーはボタンをクリックしてさらなるトピックを表示できます。無効な場合、その方向にはトピックがありません。

「目次を同期」ボタンの画像を変更することができます。生成するときは、「目次を同期（手動）」を選択して、ナビゲーションバーにボタンが表示されるようにします。

注: 出力でスキンを使用すると、「ナビゲーションコンポーネントを隠す」ボタンは、必ずしもすべてのバージョンの Netscape Navigator で表示されない場合があります。

4) 「ナビゲーション」タブをクリックします。参照ボタン をクリックして画像を選択し、必要に応じて他の設定を指定します。

注: ツールバーのサイズは、画像が収まるように自動的に変更されます。画像は、コンテンツおよびラベル領域の背景に並べて表示されます。

トピックとページ

目次のトピックの画像を選択します。

リモート URL

プロジェクトにないリンクの画像を選択します。

背景画像

コンテンツ領域の背景に使用する画像を選択します。画像がペーストされます。

ポイント時のカラー

トピック上にマウスポインターを置いたときに表示されるカラーを選択します。

5) 「OK」をクリックします。

6) 選択したスキンの名前を変更するには、右クリックして、「名前変更」を選択し、「名前」ボックスに名前を入力します。

   注: ギャラリのスキンの名前を変更することはできません。

7) 「ビューを更新」をクリックして、ダイアログボックスに変更を表示します。「プレビュー」をクリックし、別のウィンドウで変更を表示します。

8) 「OK」をクリックします。.skn 拡張子を含むスキン名とファイル名を入力します。

   このスキンは、次に出力を生成するときに使用できます。

   ヒント: スキンファイル（SKN）を他と共有するには、他のヘルプ作成者が出力を生成するときに、特定の要素を含めたり除外したりすることができるように、事前にスキンのカスタマイズ可能な要素をすべて定義しておきます。

FlashHelp スキンのカスタマイズ

既存のスキンの要素を別のスキンの要素に置き換えることで、FlashHelp のスキンをカスタマイズできます。Flash 開発に慣れている場合は、Adobe Flash または RoboHelp スキン開発キットでスキンを作成することもできます。

SDK には、開発キットの使い方やヒントなどが含まれています。

Flash によるスキンのカスタマイズまたは作成

RoboHelp スキンギャラリの既存の圧縮スキンファイル（FHZ）を使用するか、作成します。

1) FlashSDK を www.adobe.com/go/learn_rh_flash_sdk_jp からダウンロードし、スキンを変更します。

2) スキン編集を終了するときに、圧縮されたスキンファイル（オプション）を共有します。さらに、スキンをプロジェクトに読み込みます。

3) スキンをプレビューします。

4) FlashHelp レイアウトを生成する場合、FlashHelp オプションダイアログボックスでスキンを選択します。

Flash を使用しないでスキンを変更

FlashHelp スキンは、Flash スキンファイル（SWF ファイル）で構成されています。各 SWF ファイルは、ツールバーボタンやアイコンなどの異なるスキン要素に使用されます。Windows Explorer を使用して、既存のスキン内にある個々の SWF ファイルを別のスキンの SWF ファイルに置き換えます。

1) スキンを読み込んで、使用するすべてのスキンがプロジェクトに含まれるようにします。
2) !Skinsubfolder!*[skin name]* に移動します。
3) コピーする SWF ファイルを含むスキンサブフォルダーを開きます。
4) SWF ファイルを右クリックし、「コピー」を選択します。
5) 置換する SWF ファイルを含むスキンサブフォルダーを開きます。
6) ファイルをペーストして置き換えます。
7) RoboHelp で、プロジェクトの生成時に、FlashHelp プロパティダイアログボックスで新しく変更されたスキンを選択します。プロジェクトの生成が終了したら、「結果を表示」をクリックして、スキンをテストします。

スキンギャラリから WebHelp または FlashHelp のスキンを選択してのプレビュー

1) シングルソースレイアウトポッドで、Flashhelp レイアウトをダブルクリックします。
2) 「ギャラリ」をクリックします。
3) スキンを選択します。「プレビュー」をクリックして表示します。「OK」をクリックして選択します。
4) 「終了」をクリックして、FlashHelp の出力を生成します。

スキンがプロジェクトに追加され、Flash アイコン と共にスキンプロジェクトサブフォルダーに表示されます。

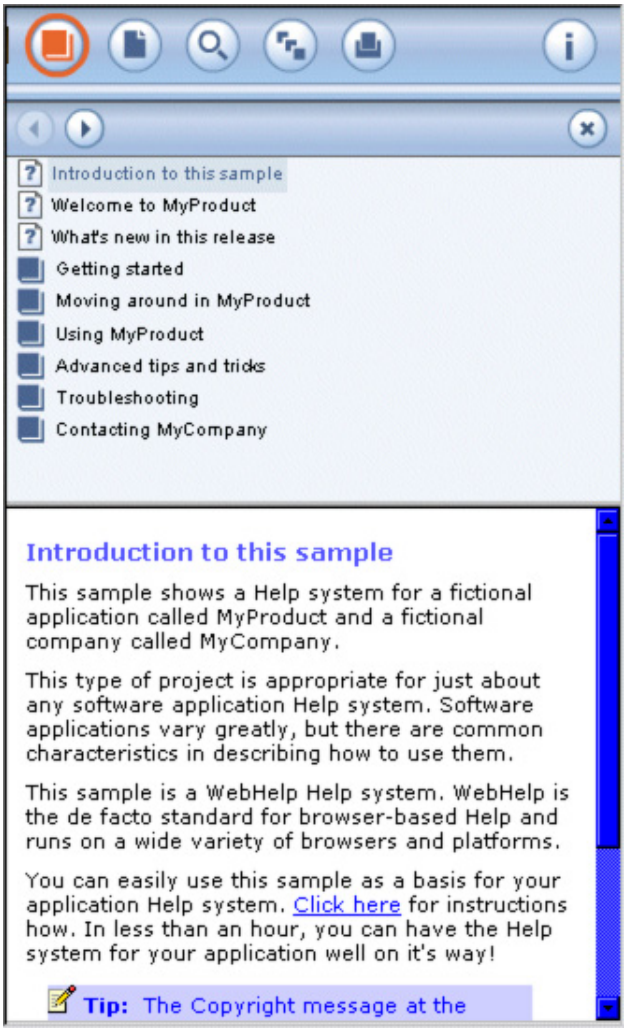
FlashHelp の垂直スタイルスキン

垂直スタイルスキンでは、ツールバーのアイコンにツールヒントがあります。ボタン上にマウスを置くと、ツールヒントが表示されます。

このようなスキンの名前の前には「Vertical」を付けます（例：Vertical-Breeze）。

注: 垂直スタイルのスキンには、ツールバーに検索フィールドがありません。

垂直スタイルのスキンの例



ウィンドウ

WebHelp ウィンドウと FlashHelp ウィンドウは、ユーザーが状況依存ヘルプ API を使用する場合にサポートされます。

ウィンドウの作成または編集

注: この手順は、マルチスクリーン HTML5、Adobe AIR、WebHelp、WebHelp Pro、FlashHelp、FlashHelp Pro、HTML ヘルプに適用されます。

1) 次のいずれかを行います。

- 出力設定ポッド（出力／開く／出力設定）で、Windows フォルダーを右クリックします。「新規ウィンドウ」を選択し、ウィンドウを作成するレイアウトの種類を選択します。

  注: プロジェクト内にレイアウトが存在している必要があります。

- 出力設定ツールバーで新規ウィンドウを作成アイコンをクリックし、ドロップダウンメニューからウィンドウの種類を選択します。
- プライマリレイアウトのウィンドウを作成するには、出力設定ポッドの「Windows」の「新規ウィンドウ」をクリックします。

2) テキストボックスに名前とキャプションを入力します。

3) オプションを設定します。オプションの多くは、すべての出力形式に共通です。

位置

目で見ながら位置を変更するには、サンプルウィンドウの内側をポイントしてクリックします。目で見ながらサイズを変更するには、サンプルウィンドウの境界をポイントします。正確な測定値を使用するには、「位置」で、「上」と「左」に位置の値を入力します（ブラウザーウィンドウに対する割合）。サイズを変更するには、「高さ」および「幅」に値を入力します。

表示するウィンドウ

選択したウィンドウは、左上にあるプレビューエリアに表示されます。

4) WebHelp Pro および FlashHelp Pro に固有のオプションを選択します。

5) 「OK」をクリックします。

ヒント: JavaHelp および Oracle Help プロジェクトの場合は、出力を生成するときにナビゲーションパネルのオプションを設定します。

関連するリンク:

プライマリレイアウトの指定

WebHelp、WebHelp Pro、FlashHelp、FlashHelp Pro のオプション

標準のウィンドウプロパティオプションに加えて、WebHelp Pro には次のオプションがあります。WebHelp Pro および FlashHelp Pro では、プロジェクトをサーバーに公開した後で設定を表示できます。

ボタン

上向きおよび下向き矢印をクリックし、ブラウザーに表示されるボタンの順序を変更します。含めるボタンを選択します。これらのボタンをカスタマイズするか、またはスキンを使用して新しいボタンを追加できます。

デフォルトとして設定

クリックすると、選択したボタンがデフォルトに設定されます。「目次」がデフォルトです。

WebSearch

「WebSearch」ボタンを表示します。このボタンは、プロジェクトで有効になっている場合にのみ使用できます。

閲覧シーケンス

閲覧シーケンスを作成した場合に、そのサポートを有効にします。ウィンドウには、「進む」および「戻る」ボタンが含まれています。閲覧シーケンスをカスタマイズするには、スキンを使用します。

ツールバーの検索入力フィールド

ツールバーに「検索」ボタンを追加します。検索入力フィールドをカスタマイズするには、スキンを使用します。

デフォルトブラウザーの設定を使用

ユーザーのデフォルトのブラウザーサイズ、ツールバー、位置、その他のプロパティを使用する場合に選択します。選択しないと、標準のブラウザーのツールバー、メニュー、ロケーションバー、ステータスバーを使用できます。

サイズ変更可能

このオプションを選択すると、ユーザーはウィンドウのサイズを変更できます。この設定は、状況依存ヘルプ API と共に使用すると有効となります。

表示

トピックペインを表示するには、「1 ペイン」を選択します。「2 ペイン」を選択すると、ナビゲーションペインも表示されます。

HTML のオプション

標準のウィンドウプロパティオプションに加えて、HTML ヘルプには次のオプションがあります。

ボタン

（HTML Help）表示するボタンを選択します。

ボタン	説明
表示 / 非表示	ナビゲーションペインを開いたり閉じたりします。
戻る	前のトピックを開きます。
前方	以前に表示したシーケンスで、次のトピックを開きます。
停止	Web ページの表示を停止します。
更新	トピックの内容を更新します。
ホーム	デフォルトの Web ページを表示します。
オプション	「ホーム」、「表示」、「戻る」、「中止」、「更新」、「印刷」、「検索ハイライトのオン / オフ」などのコマンドにアクセスできるメニューを開きます。
印刷	「目次」タブからページ、見出し、サブトピック、目次全体を印刷します。「索引」または「検索」タブから、印刷ダイアログボックスを開始します。
同期	クリックすると、右ペインのトピックと「目次」タブのブックまたはページが同期します。このオプションは、ユーザーがトピック表示時にブックとページをトピックと同期する、「目次を自動同期」とは異なります。
ボタン 1	Web ページ、イントラネットサイト（URL で指定）、ヘルプトピック（同じファイルに含まれる場合は、ファイル名で指定）を開きます。
ボタン 2	Web ページ、イントラネットサイト（URL で指定）、ヘルプトピック（同じ CHM ファイルに含まれる場合は、ファイル名で指定）を開きます。

3ペインのタブとウィンドウ

ナビゲーションペインに含めるタブを選択します。「目次と索引」を選択しても、プロジェクトに目次が設定されていない場合は、HTML Helpビューアーに「目次」タブが表示されません。

目次と索引

ナビゲーションペインに「目次」タブと「索引」タブを表示します。ナビゲーションペインにはこれらのタブが必要です。このオプションを選択しないと、ナビゲーションペインのオプションが使用できなくなります。

お気に入り

ナビゲーションペインに「お気に入り」タブを表示します。

用語集

ナビゲーションペインに「用語集」タブを表示します。

検索

ナビゲーションペインに「検索」タブを表示します。

高度な検索

ワイルドカードとブール関数の文字を使用して、トピックを検索できるようにします。

閲覧シーケンス

閲覧シーケンスを作成してある場合、そのサポートを有効にします。

デフォルトタブ

HTMLヘルププロジェクトが開いたときに表示するタブを選択します。

タブ位置

ウィンドウタブのデフォルトの位置を選択します。

3ペインオプション

ペインの画面上の表示と動作のプロパティを設定します。

スタートアップ時にナビゲーションペインを非表示

ナビゲーションペインを非表示にします。ナビゲーションペインを開くには、「表示」をクリックします。

目次を自動同期

「目次」タブのブックおよびページを、右ペインに表示されているトピックと同期します（この機能を動作させるには「選択を常に表示」が有効になっている必要があります。アクティブな場合には、チェックをつけ、シングルソースレイアウトを表示して「詳細設定の編集」をクリックします。「目次スタイル」で「選択を常に表示」が選択されていることを確認します）。ファイル名で、スペースではなくアンダースコアが使用されていることを確認します。

ウィンドウのサイズと位置を記憶

ビューアーの最後のサイズと位置を記録します。

ナビゲーションペインの表示と非表示を自動的に切り替え

ユーザーがHTMLヘルプビューアーからプログラムにフォーカスを切り替えたら、左ペインを自動的に非表示にします。トピックのコンテンツは表示されたままとなり、左側のタブは一時的に閉じられます。これらのタブは、HTMLヘルプビューアーをクリックするとすぐに表示されます。

注:「ナビゲーションペインの表示と非表示を自動的に切り替え」を選択した場合、「高度なプロパティ」、「拡張済みスタイル」の順にクリックし、「最前面のウィンドウ」を選択してください。このオプションにより、右のペインがアプリケーションの後ろに隠されるのを妨げます。

ナビゲーションペインの幅

ピクセル単位で幅を入力します。設定する幅は、ウィンドウのタブの数に依存します。

高度なプロパティ

「公開先」、「スタイル」、「拡張済みスタイル」の各タブで、HTMLウィンドウの高度なプロパティを指定します。オプションの中には、アプリケーションでのコーディングが必要なものもあります。

ウィンドウの高度な公開先プロパティ

デフォルト

デフォルトのトピックを割り当てます。

ホーム

ユーザーが「ホーム」をクリックしたときに表示されるURLを定義します。

目次

代わりの目次ファイル（.HHC）の名前を指定します。

索引

代わりの索引ファイル（.HHK）の名前を指定します。

ボタン 1 ラベル

ボタン 1 にラベルを割り当てます。

カスタムボタン 1

ボタン 1 のリンク先を定義する URL です。

注: Internet Explorer 5.5 がインストールされている場合、「カスタム 1」ボタンは外部 CHM ファイルを参照しません。

ボタン 2 ラベル

ボタン 2 にラベルを割り当てます。

カスタムボタン 2

ボタン 2 のリンク先を定義する URL です。

ウィンドウの高度なスタイルプロパティ

システムメニュー

システムメニューを追加します。ウィンドウスタイル ID は WS_SYSMENU です。

最小化ボタン

最小化ボタンを追加します。ウィンドウスタイル ID は WS_MINIMIZEBOX です。

最大化ボタン

最大化ボタンを追加します。ウィンドウスタイル ID は WS_MAXIMIZEBOX です。

兄弟ウィンドウをクリップ

ウィンドウが他の兄弟ウィンドウを覆うかどうかを指定します。ウィンドウスタイル ID は WS_CLIPSIBLINGS です。

子ウィンドウをクリップ

ウィンドウが他の子ウィンドウを覆うかどうかを指定します。ウィンドウスタイル ID は WS_CLIPCHILDREN です。

垂直スクロールバー

垂直スクロールバーを追加します。ウィンドウスタイル ID は WS_VSCROLL です。

水平スクロールバー

水平スクロールバーを追加します。ウィンドウスタイル ID は WS_HSCROLL です。

ポップアップ

ポップアップメニューウィンドウを使用します。ウィンドウスタイル ID は WS_POPUPWINDOWSTYLE です。

最小化

ウィンドウが開かれたときに最小化して表示します。ウィンドウスタイル ID は WS_MINIMIZE です。

最大化

ウィンドウが開かれたときに最大化して表示します。ウィンドウスタイル ID は WS_MAXIMIZE です。

罫線

ウィンドウのまわりに罫線を表示します。ウィンドウスタイル ID は WS_BORDER です。

ダイアログ枠

ウィンドウをダイアログフレームに表示します。ウィンドウスタイル ID は WS_DLGFRAME です。

可視

可視ウィンドウを作成します。ウィンドウスタイル ID は WS_VISIBLE です。

太いフレーム

太いフレームを使用してウィンドウを表示します。ウィンドウスタイル ID は WS_THICKNESS です。

無効

ユーザー入力を受け付けないようにウィンドウを無効にします。ウィンドウスタイルIDはWS_DISABLEDです。

ウィンドウの高度な拡張済みスタイルプロパティ

ツールウィンドウ

ウィンドウをフローティングツールバーとして使用するように設定します。ウィンドウスタイルIDはWS_EX_TOOLWINDOWです。

クライアント境界線

エッジが沈んだ 3D 境界線を作成します。ウィンドウスタイル ID は WS_EX_CLIENTEDGEです。

スタティック境界線

ユーザーが入力できないウィンドウの3Dの境界線を作成します。ウィンドウスタイルIDはWS_EX_STATICEDGEです。

透過

ウィンドウを透明にします。ウィンドウスタイルIDはWS_EX_TRANSPARENTです。

ファイルを承認

ウィンドウでファイルをドラッグアンドドロップできるようにします。ウィンドウスタイルIDはWS_EX_ACCEPTFILESです。

親をコントロール

Tabキーを使用して、子ウィンドウにナビゲートできるようにします。ウィンドウスタイルIDはWS_EX_CONTROLPARENTです。

コンテキストヘルプ

タイトルバーに、クリックするとカーソルのポインターが疑問符に変化する質問を追加できます。子ウィンドウをクリックすると、WM_HELPメッセージが表示されます。ウィンドウスタイルIDはWS_EX_CONTEXTHELPです。

テキストを右から左へ表示

ウィンドウテキストを右から左へ読む順番で表示します。ウィンドウスタイルIDはWS_EX_RTLREADINGです。

親ウィンドウに通知しない

子ウィンドウが作成または破壊された場合、子ウィンドウが親ウィンドウへWM_PARENTNOTIFYメッセージを送らないことを指定します。ウィンドウスタイルIDはWS_EX_NOPARENTNOTIFYです。

テキストを右揃え

一般的な右揃えを指定します。ウィンドウスタイルIDはWS_EX_RIGHTです。

左スクロールバー

クライアントエリアの左側に垂直のスクロールバーを配置します。ウィンドウスタイルIDはWS_EX_LEFTSCROLLBARです。

一番上のウィンドウ

ウィンドウが非アクティブの場合でも、すべてのウィンドウの上にウィンドウを配置します。アプリケーションは、SetWindowsPosメンバー関数を使用してこの位置を変更できます。ウィンドウスタイルIDはWS_EX_TOPMOSTです。

この機能をテストするには、CHMファイルを生成、表示します。HTMLヘルプビューアーが開いたら、ウィンドウを選択します。ビューアーが最上位のウィンドウのままになります。

HTMLボタンの追加

イントラネット、WebサイトおよびHTMLページにリンクするボタンを追加できます。ホームボタン以外に、指定したURLへリンクするボタンを2つ追加できます。これらのボタンは、HTMLヘルプビューアーの一番上に表示されます。

「ホーム」ボタンの追加

1) ウィンドウのプロパティで、「ボタン」、「ホーム」の順にクリックします。
2) 「高度なプロパティ」タブをクリックします。
3) 「公開先」タブの「ホーム」で、URLを入力します。
4) 「OK」を2回クリックします。

「ジャンプ」ボタンの追加

1) ウィンドウのプロパティダイアログボックスで、「ボタン1」を選択します。
2) 「高度なプロパティ」タブをクリックします。
3) 「公開先」タブの「ボタン 1」で、ウィンドウに表示されるアイコンのラベルテキストを入力します（オプション）。
4) 「カスタムボタン1 URL」にリンクのWebサイトのアドレスを入力します。
5) 「OK」を2回クリックします。

注意：

- ナビゲーションペインのないカスタムウィンドウは、カスタムボタンをサポートしません。「戻る」、「進む」、「表示と非表示」などのオプションを選択した場合、ヘルプトピックをテストしても選択したボタンは表示されません。
- カスタムウィンドウへのWebサイトリンクには、3ペインデザイン（ナビゲーションペイン）を使用する必要があります。
- HTML ヘルプビューアーやウィンドウでは、ホームボタンと URL は次のように表示されます。

  ホーム

  ボタン1

  ボタン2

JavaHelp ビューアーおよび Oracle ビューアーの編集ウィンドウ

JavaHelp ビューアーには、カスタマイズ可能なナビゲーションペインとコンテンツペインが含まれます。ナビゲーションペインを省略するには、目次、索引、および検索の設定を消去します。目次または索引を作成しない場合は、対応する設定を消去します。

1) 「プロジェクト」をクリックします。
2) シングルソースレイアウトをダブルクリックします。
3) 「ナビゲーションペイン」および「トピックナビゲーションバー」のオプションを設定します。

JavaHelp ビューアーのオプション

期待される結果	操作
閲覧シーケンスと WebSearch の場所を指定する。	「右上」、「左下」、「右下」から選択します。
閲覧シーケンスまたは WebSearch コントロールのデザインを指定する。	「ボタン」または「テキスト」を選択します。
JavaHelp 出力の種類を指定する。	「非圧縮 JavaHelp（ソースファイル付き）」は、HS ファイルおよび個別の出力ファイルを作成します。 「圧縮 JavaHelp」は、.JAR ファイルと .HS ファイルを作成します。 「圧縮 JavaHelp（ソースファイル付き）」は、.JAR ファイル、HS ファイル、および個別の出力ファイルを作成します。

Oracle ビューアーのオプション

期待される結果	アクション
ナビゲーションペインから「目次」タブを追加（または削除）する。	「目次」を選択または解除する。
ナビゲーションペインから「索引」タブを追加（または削除）する。	「索引」を選択または解除する。
ナビゲーションペインから「検索」タブを追加（または削除）する。	「検索」を選択または解除する。
WebSearch　を有効にする（選択すると、Help ビューアーから WebSearch にアクセスできるようになります）。	WebSearc.h を選択する。
「閲覧シーケンスを有効にする」（プロジェクトで閲覧シーケンスを作成する場合、この機能を選択して使用可能にします）。	閲覧シーケンスを選択します。
トピックナビゲーションバーの場所を指定する。	「左上」、「右上」、「左下」、「右下」を選択する。
トピックナビゲーションバーのスタイルを指定する。	「ボタン」または「テキスト」をスタイルとして選択する。

デフォルトウィンドウの割り当て

1) シングルソースレイアウトポッドで、シングルソースレイアウトフォルダーを展開します。
2) WebHelp ProまたはHTMLヘルプを使用するレイアウトをダブルクリックします。
3) デフォルトウィンドウメニューで、カスタムウィンドウを選択します。

ウィンドウの削除

1) 出力設定ポッドで、Windowsフォルダーを展開します。
2) ウィンドウを右クリックします。「削除」を選択します。

スクリーンプロファイル

スクリーンプロファイルでは、様々なデバイスに固有のスクリーンの仕様を定義できます。スクリーンプロファイルをマルチスクリーンHTML5 SSLに追加すると、そのスクリーンプロファイルに最適化された出力が生成されます。

例えば、スマートフォンとタブまたはiPadとSamsung Galaxy Tab用に別々のスクリーンプロファイルを作成すると、これらのデバイス用に最適化された別々の出力を生成することができます。

スクリーンプロファイルには、次の属性があります。

スクリーン解像度

このスクリーンプロファイルをマッピングするデバイスの解像度の範囲をピクセルで指定します。詳細については、スクリーンのサイズと解像度にデバイスのピクセル比を使用を参照してください。

注: スクリーンプロファイルを使用するスタイルを作成してある場合は、幅の範囲を変更するとスタイルシートを手動で更新する必要があります。スクリーンプロパティを保存し、スタイルシートを更新します。詳しい手順については、メディアクエリーの管理を参照してください。

ブラウザー

（オプション）このスクリーンプロファイルの解像度に一致するデバイス用にブラウザー固有の出力を生成し、表示できるようにします。例えば、iPhone と Android フォンの幅と高さの範囲がこのスクリーンプロファイルに一致する場合は、RoboHelp によってブラウザーエージェント情報が検索され、適切な出力が生成されます。ブラウザーエージェントについて詳しくは、レスポンシブ HTML5 の前提条件の設定を参照してください。

スクリーンプロファイルのマルチスクリーン HTML5 SSL への追加

デフォルトでは、マルチスクリーン HTML5 SSL には定義済みスクリーンプロファイルのセットが含まれます。プロジェクトに含まれるその他のスクリーンプロファイルを追加する場合は、次の手順を行います。

1) シングルソースレイアウトポッドで、マルチスクリーン HTML5 SSL を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

2) マルチスクリーン HTML5 設定ダイアログボックスで、左側のペインの「スクリーンプロファイル」をクリックします。

3) 「スクリーンプロファイルを追加」をクリックします。プロジェクトで使用できるスクリーンプロファイルのリストが表示されます。デフォルトでは、すべて選択されています。

   注： スクリーンプロファイルの左側にあるチェックボックスを選択解除すると、SSL からスクリーンプロファイルを削除できます。プロジェクトのスクリーンプロファイルは、出力設定ポッドから削除されるまで RoboHelp に保持されます。

4) 「OK」をクリックします。

5) 「保存」をクリックします。マルチスクリーン HTML5 SSL を使用して出力を生成すると、新規スクリーンプロファイル用の出力が生成されます。

スクリーンプロファイルの変更

デフォルトでは、スクリーンプロファイルのセットが提供されます。以下に、スクリーンプロファイル iPhone を変更する手順を説明します。

1) 出力設定ポッドの「スクリーンプロファイル」を展開します。

2) iPhone を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

3) 必要に応じ、次のうちの 1 つまたは複数の設定を変更します。

名前

名前を指定します。例えば、iPhone を iPhone_New に変更します。

> **注：** スクリーン名にスペースまたはピリオドを含めようとすると、スペースや文字はアンダースコアに置き換えられます。

ユーザー ID ボックスに「

スクリーン解像度の範囲に定義済みの値を入力するには、定義済みスクリーンプロファイルを選択します。新規スクリーンプロファイルの確認リンクから、adobe.com にアップロードされた最新のスクリーンプロファイルにアクセスできます。

スクリーン解像度

幅と高さの最低値と最高値を指定し、スクリーンプロファイルのスクリーン解像度の範囲を設定します。

ブラウザー

スクリーンプロファイル用のブラウザーを選択します。RoboHelp には、一般的なブラウザーのリストが提供されています。このリストに追加する場合は、ブラウザーのブラウザーエージェントまたはユーザーエージェントから固有の文字列を指定してください。

プレビューの設定

このスクリーンプロファイルで出力をプレビューするための設定を行うには、このオプションをクリックします。コンテンツを表示するウィンドウのサイズを定義します。プレビューに使用するデバイス画像を選択し、コンテンツウィンドウの左上の位置を指定します。設定が整ったら、「保存」をクリックします。

4) プロファイルのプロパティを保存するには、「保存」をクリックします。

スクリーンプロファイルをプロジェクトに追加する

1) 出力設定ポッドで、「スクリーンプロファイル」を右クリックし、新規スクリーンプロファイルを選択します。

2) 既定のスクリーンプロファイルを選択します。スクリーンプロファイルの設定が表示されます。

   注: 「新規スクリーンプロファイルを確認」リンクをクリックすると、選択したスクリーンプロファイルをダウンロードできます。ダウンロードしたファイル predefined_screens.xml を AppData\Roaming\Adobe\RoboHTML\10.00 および <robohelp インストールフォルダー>\RoboHTML\presets に保存します。既定のスクリーンプロファイルのリストが更新されます。

3) 必要に応じて設定を変更します。

4) 「保存」をクリックします。新規スクリーンプロファイルが作成され、スクリーンプロファイルのプロジェクト階層に表示されます。

   ヒント: 既存のスクリーンプロファイルの設定を再使用して、新規のスクリーンプロファイルを作成できます。プロジェクト階層でスクリーンプロファイルを右クリックし、「スクリーンプロファイルを複製」を選択します。

スクリーンプロファイルの削除

1) 出力設定ポッドのスクリーンプロファイルを右クリックし、「削除」を選択します。

2) プロンプトが表示されたら、スクリーンプロファイルの削除を確定します。

スクリーンプロファイルへのスタイルのマッピング

スクリーンプロファイルの幅を変更すると、スタイルシートで定義されたスクリーンプロファイルのメディアクエリーが定義されなくなります。RoboHelp では、メディアクエリーは自動的に更新されません。定義されていないメディアクエリーをメディアにマッピングするには、次の手順を行います。

1) CSS ファイルを右クリックし、「編集」をクリックします。

2) スタイルダイアログボックスで、メディアリストから「メディアクエリーを管理」を選択します。

3) 幅を指定したため定義されていないメディアクエリーを選択し「マップ」をクリックします。

4) スクリーンプロファイル名を選択します。

5) 「OK」をクリックします。

スクリーンのサイズと解像度にデバイスのピクセル比を使用

スクリーンプロファイルを作成するときには、出力先として計画しているスクリーンの解像度に基づいて幅と高さの最小値と最大値を定義します。例えば、デスクトップデバイスに出力する場合は、幅の最小値を1080、高さの最小値を1920に設定します。ただし、高解像度スクリーン（HDおよびFull HD）デバイスでは多くの場合、スクリーン解像度が1080x1920です。ハードウェアは、このスクリーン解像度に従い、デバイスを大画面のデスクトップとして識別するため、これらのデバイスへ出力すると、出力内容が正しく表示されません。

出力先デバイスのスクリーン解像度を識別するには、抽象的なスクリーン解像度を使用する必要があります。

物理的スクリーン解像度：

デバイスの仕様書（マニュアル）に記載の値

デバイスのピクセル比

デバイスとそれらに対応するピクセル比のリストについては、Device pixel density tests を参照してください。

デバイスのピクセル比の詳細については、デバイスピクセルの縦横比についての詳細情報を参照してください。

抽象的スクリーン解像度

抽象的なスクリーン解像度を計算するには、「（物理的スクリーン解像度）／デバイスのピクセル比」という式を使用します。

スクリーンプロファイルを作成するときには、スクリーンの幅として以下の値が推奨されます。

電話：

0～699

タブレット：

700～1295

デスクトップ：

1296～99999

スクリーンレイアウト

スクリーンレイアウトは、マルチスクリーン HTML5 出力またはレスポンシブ HTML5 SSL 出力のルック＆フィールを定義するために役に立ちます。例えば、スクリーンレイアウトを使用して、トピックページをどのように表示するか、検索ページがどのように動作するか、またはどのブランドオプションを追加するかを定義できます。スクリーンレイアウトでは、目次、索引、用語集など様々な要素のプレースホルダーが提供されます。このオプションをサポートすることで、要素を希望通りに柔軟にレイアウトできます。

スクリーンレイアウトには、XHTML レイアウトページ（SLP）と、CSS、画像、マルチメディアアセットなどのリンクファイルが含まれます。

SLP には、マルチスクリーン HTML5 またはレスポンシブ HTML5 SSL 出力のレイアウトを定義するプレースホルダーと HTML コンテンツが含まれます。

注: 各スクリーンレイアウトには、1 つの検索結果レイアウトページと 1 つのトピックレイアウトページのみ含めることができます。一般的なレイアウトページは、複数含めることができます。

RoboHelp をインストールすると、ギャラリーフォルダーにデフォルトのスクリーンレイアウトがあります。マルチスクリーン HTML5 またはレスポンシブ HTML5 出力には、ギャラリーで使用可能なスクリーンレイアウトに基づくスクリーンレイアウトを作成する必要があります。RoboHelp では、プロジェクト階層の !ScreenTemplates! 内の <screen_layoutname> フォルダーの必要なすべてのファイルがコピーされます。

スクリーンレイアウトの作成

1) 出力設定ポッドで、「スクリーンレイアウト」を右クリックし、新規スクリーンレイアウトを選択します。
2) ギャラリーの使用可能なリストから、スクリーンレイアウトを選択します。
3) 名前と説明を指定します。
4) 「OK」をクリックします。

スクリーンレイアウトの管理

出力設定ポッドで、スクリーンレイアウトを右クリックし次の手順を行います。

- スクリーンレイアウトの名前を変更するには、「名前の変更」（または「プロパティ」）をクリックし、別の名前を指定します。
- 説明を表示または変更するには、「プロパティ」を選択します。
- スクリーンレイアウトを読み込むには、「読み込み」を選択し、SLZ ファイル名を指定します。
- スクリーンレイアウトを書き出すには、「書き出し」を選択し、SLZ ファイルを保存する場所を指定します。

スクリーンレイアウトのプレビュー

様々なスクリーンレイアウトコンポーネントと、それらの外観と配置が希望通りになっているかどうかを確認するには、スクリーンレイアウトをプレビューします。

注： プロジェクトのコンテンツは、スクリーンレイアウトプレビューには表示されません。特定のスクリーンレイアウトでコンテンツがどのように表示されているかを確認する場合は、スクリーンレイアウトをマルチスクリーン HTML5 またはレスポンシブ HTML5 レイアウト設定のスクリーンプロファイルにマッピングし、ツールバーの「プレビュー」をクリックします。

スクリーンレイアウトを編集している最中にスクリーンレイアウトをプレビューするには、次の手順を行います。

1) Ctrl + W キーを押す

スクリーンレイアウトの編集

スクリーンレイアウトには、主要なコンポーネントが2つあります。スクリーンレイアウトページとCSSです。スクリーンレイアウトページは、コンテンツと構造を定義します。CSSは、レイアウトとスキンを定義します。

スクリーンレイアウトページは様々な方法で、編集またはカスタマイズできます。例えば、新規レイアウトページを追加し、クリーンレイアウトページのウィジェットの位置とスタイルを編集したり、ウィジェットを挿入するなどしてカスタマイズできます。

クリーンレイアウトページ（SLP）の追加

スクリーンレイアウトには、トピックコンテンツと検索結果を表示するための標準レイアウトページが含まれています。ただし、目次付きのホームページなどその他の種類のコンテンツを表示するために、レイアウトページを何枚でも追加してデザインできます。

注：スクリーンレイアウトにSearchResults.slpファイルがない場合は、検索結果ページを追加できます。

1) 出力設定ポッドで、スクリーンレイアウト名または既存のSLP名を右クリックします。新規／スクリーンレイアウトページを選択します。
2) 「一般」タブで、ページタイトルと説明を指定します。
3) 「外観」タブで、スタイルシートを添付し、必要に応じスタイルを変更します。
4) （オプション）背景サウンドを追加します。
5) 「OK」をクリックします。

スクリーンレイアウトページのコンポーネント

スクリーンレイアウトページの主要なコンポーネントは、ウィジェットです。ウィジェットには、プレースホルダーが含まれており、カスケーディングスタイルシートを使用してスタイルとレイアウトを編集できます。出力を生成している最中に、プレースホルダーは関連する機能を持つ標準HTMLタグに変換されます。

注：　出力とスクリーンレイアウトエディターのウィジェットの外観と雰囲気は、ある程度異なる場合があります。

次のウィジェットをカスタマイズして、様々な機能を使用できます。

LNG 文字列

LNG ファイルから文字列を追加するには、このウィジェットを挿入します。

注: LNG ファイルには、様々なユーザーインターフェイス要素の文字列が含まれます。RoboHelp では、実行時にこれらの文字列がロードされます。

タブ

タブ付きパネルにタブを追加するには、このウィジェットを挿入します。

閲覧シーケンス

閲覧シーケンスボタンとリンクをデフォルトまたはカスタムスタイルで挿入するには、このウィジェットメニューからオプションを選択します。

用語集

用語集のプレースホルダーを作成するにはこのウィジェットを挿入します。

索引

索引のプレースホルダーを作成するにはこのウィジェットを挿入します。

プリントボタン

このウィジェットを挿入して印刷用のアイコンを追加します。

プリントリンク

このウィジェットを挿入して印刷用のテキストリンクを追加します。

プロジェクトタイトル

このウィジェットを挿入してプロジェクトタイトルのプレースホルダーを作成します。

タブ付きパネル

2 つのレイヤーに一連のタブを挿入します（水平に配置されたタブと垂直に配置されたタブ（アコーディオン））。デフォルトのタブグループは、目次、索引、用語集で、構成されます。「空白水平タブ」または「空白垂直タブ」（アコーディオン）を選択して、一連の空白タブを挿入することもできます。

検索

検索オプションおよび検索結果領域ウィジェットを挿入します。検索オプションウィジェットでは、出力に表示する検索ボックスを追加し、スタイルできます。また、検索ボックスで指定されたすべての単語の検索結果を表示するオプションも、デフォルトで追加されています。

検索結果領域ウィジェットでは、検索結果を表示する領域をデザインし、スタイルできます。「URLを検索」や「検索コンテキスト」などのコンポーネントを追加し、設定できます。

表示/非表示

エンドユーザーがウィジェットを表示または非表示にできるようにするには、表示/非表示ウィジェットを挿入します。例えば、目次ウィジェットに表示/非表示ウィジェットを追加すると、エンドユーザーは出力の目次を表示または非表示にできます。

次のいずれかのオプションを選択します。

デュアルステートの表示/非表示

異なるテキスト（例えば、表示または非表示）を2つのステートのいずれかで表示します

静的な表示/非表示

同じテキスト（例えば、表示/非表示）を両方のステートで表示します

目次

スクリーンレイアウトページに目次要素を挿入し、様々なプレースホルダーをスタイルするには、ツリーまたは展開ノードのどちらかを選択します。ツリーは、目次アイテムを階層的に表示します。展開ノードでは、各レベルの目次アイテムの隣の矢印が、次のレベルのアイテムを表示します。

トピック

トピックコンテンツのプレースホルダーを作成するにはこのウィジェットを挿入します。

目次ウィジェット

出力の目次のプレースホルダーを作成しスタイルするには、目次ツリーウィジェットまたは目次展開ノードウィジェットをスクリーンレイアウトページに挿入します。

属性

クラス

親目次プレースホルダーのDiv classを適用するよう指定します。

子プレースホルダー

目次ツリーウィジェットには、次の子プレースホルダーが含まれます。

開いたブック

出力の目次の開いたブックアイテムの外観と雰囲気を定義します。このプレースホルダーの中に、関連するHTMLコンテンツを挿入できます。

閉じたブック

出力の目次の閉じたブックアイテムの外観と雰囲気を定義します。

ページ

出力の目次のページアイテムの外観と雰囲気を定義します。

リンク

出力でWebアドレス、電子メールメッセージ、マルチメディアファイル、Usenetニュースグループ、FTPサイトにリンクされた目次アイテムの外観と雰囲気を定義します。

プレースホルダーのプロパティと属性

各マルチスクリーンまたはレスポンシブHTMLウィジェットには、プレースホルダーのセットがあり、各プレースホルダーには、定義済みの属性があります。

次の表に、プレースホルダーと、そのプロパティと属性を表します。

プレースホルダー	親	子	属性
アルファベットカテゴリー	用語集	テキスト	class、showin
閲覧シーケンス戻る	[HTML]	[なし]	class
AND検索コントロール			
閲覧シーケンス次へ	[HTML]	[なし]	class

プレースホルダー	親	子	属性
閉じたブック	目次	テキスト アイコン	class、classhover、classselected
フィルターボックス	用語集 索引	[なし]	プレースホルダー
用語集	タブコンテンツグループ [HTML}	用語集 TermGlossary DefinitionAlphabet CategoryFilter ボックス	class、showin
用語集の定義	用語集	テキスト	class、classhover
アイコン	閉じたブック 開いたブック ページ リンク 注意：これらのプレースホルダーは、目次の子です。	画像	class、src、hoversrc、selectedsrc
索引	タブコンテンツグループ [HTML]	索引キーワード 索引リンク アルファベットカテゴリー フィルターボックス	class、showin
索引キーワード	索引	テキスト	class、classhover、classbookchilds
索引リンク	索引	テキスト	class、classhover
LNG 文字列	[すべて]	[なし]	class
ナビゲーションリンク	[すべて]	[なし]	class、href
開いたブック	目次	テキスト アイコン	class、classhover、classselected、classbookchilds
検索フィールド	[すべて]	[なし]	プレースホルダー
検索コンボ	検索結果	[なし]	[なし]
検索コンテキスト	検索結果アイテム	[なし]	class
URL を検索	[すべて]	[なし]	class
メッセージを検索	検索結果	[なし]	class
検索ページ番号	検索結果	[なし]	class、ckasspagelink、classpage
前の検索結果	検索結果	[なし]	class

プレースホルダー	親	子	属性
検索結果アイテム	検索結果	検索タイトル 検索コンテキスト	class、classhover
次の検索結果	検索結果	[なし]	class
検索結果	タブコンテンツグループ [HTML]	メッセージを検索 検索コンボ 検索結果アイテム 検索ページ番号 前の検索結果 次の検索結果	class
検索タイトル	検索結果アイテム	[なし]	class
表示 / 非表示	[すべて]	[なし]	class
タブ	タブグループ	[なし]	class、classhover、classselected
タブコンテンツ	タブコンテンツグループ	[なし]	class
タブコンテンツグループ	タブ付きパネル	[なし]	class
タブグループ	タブ付きパネル	[なし]	defaulttab
タブ付きパネル	[HTML]	[なし]	class、showin
テキスト	閉じたブック 開いたブック ページ リンク 索引キーワード 索引リンク アルファベットカテゴリー 用語 用語集の定義	[なし]	class
目次	タブコンテンツグループ [HTML]	閉じたブック 開いたブック ページ リンク	class、showin
ページ	目次	テキスト アイコン	class、classhover、classselected
リンク	目次	テキスト アイコン	class、classhover、classselected
トピック	タブコンテンツグループ [HTML]	[なし]	class

スクリーンレイアウトデザインのガイドライン

- RoboHelp で使用できる標準ウィジェットを使用したスクリーンレイアウトをデザインします。
- 新規スクリーンレイアウトの標準のウィジェットまたはデフォルトレイアウトの画像は再使用しないでください。
- ウィジェットがスクリーンレイアウトで使用されているかどうかに関わらず、スクリーンレイアウト CSS のすべてのウィジェットを定義します。こうすることで、ウィジェットを後で追加した場合でも、スクリーンレイアウトの外観と雰囲気が影響を受けないようになります。
- CSS のクラススタイルはシンプルに作成してください。各スタイルにモジュール方式の定義があることを確認してください。
- スクリーンレイアウトで使用するかどうかに関わらず、すべてのアイコンと画像が、スクリーンレイアウトフォルダーの中にあることを確認してください。画像名と形式は、必要な形式にしてください。
- `img` スタイルの画像の高さと幅を px で指定します。
- スクリーンレイアウトで必要なスタイル名を使用していることを確認してください。CSS で追加スタイルを定義する必要がある場合は、類似の命名規則に従ってください。ただし、最初の文字に「w」は使用しないでください。「w」で始まるスタイル名は、定義済みウィジェットによって予約されています。
- スタイルでは、絶対配置を使用しないでください。マルチスクリーン HTML5 やレスポンシブ HTML5 出力では、流動的なレイアウトのほうがよく機能します。
- ウィジェットの最上位親要素のスタイルでは、配置属性（フロートなど）は使用しないでください。このような要素には、トピック、索引、タブ付きパネルなどがあります。
- ハイパーリンクスタイルの疑似クラスの定義を含みます。
- スタイルのフォントファミリが適切で、サポートしているデバイスの処理を行うこと確認してください。

- 必要に応じ、ハイパーリンクスタイルがタッチ状態の処理を行い、WebKit所有権属性（-webkit-tap-highlight-colorなど）が含まれることを確認してください。

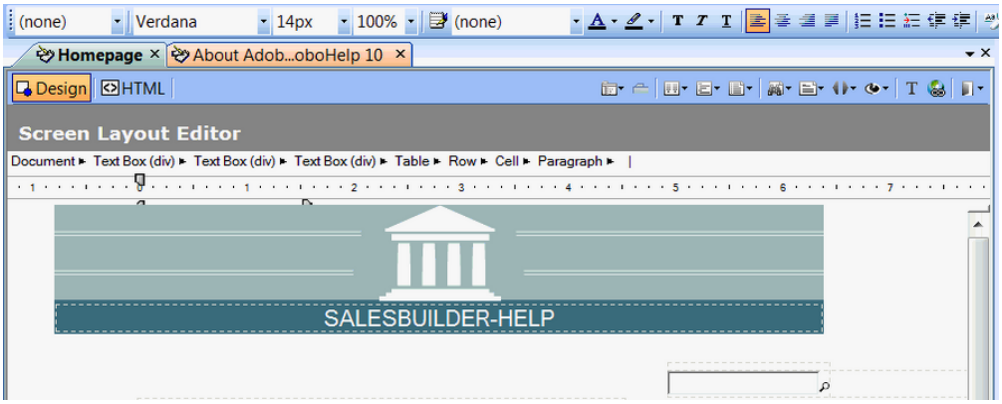
  注: これらの属性はRoboHelp CSSエディターから挿入することはできないため、手動で挿入する必要があります。

- スクリーンレイアウトに汎用テキストを挿入するには、LNG文字列を使用します。
- スクリーンレイアウトでは、インラインスタイリングを使用しないでください。
- スクリーンレイアウトのプレビューで使用される表示画像を提供します。
- Layout.css ファイルに、マルチスクリーンまたはレスポンシブウィジェットの内部で使用されているスタイル定義が含まれていることを確認してください。RoboHelpをインストールするとギャラリーフォルダーにできるファクトリスクリーンレイアウトのLayout.cssファイルを参照します。

スクリーンレイアウトページ（SLP）の編集

1) 出力設定ポッドで、編集するレイアウトスクリーンを展開します。
2) スクリーンレイアウトページをダブルクリックします。スクリーンレイアウトエディターが開きます。使用可能なウィジェットを挿入することで新規コンポーネントを追加し、位置を変更し、プロパティを修正できます。

スクリーンレイアウトエディターでのスクリーンレイアウトページ



3) 必要に応じ、スクリーンレイアウトページを編集します。

- ウィジェットを挿入するには、次の手順のいずれかを行います。
  - 挿入／マルチスクリーンウィジェットを選択します。ウィジェットを選択します。
  - スクリーンレイアウトエディターの Widget ツールバーのツールボタンをクリックします。
- ウィジェットのプレースホルダーを選択するには、スクリーンレイアウトエディターのツールバーの下にあるタグリストのプレースホルダー名をクリックします。例えば、タブ付きパネルウィジェットのLNG文字列プレースホルダーに移動するには、タグリストのLNG文字列をクリックします。
- ウィジェットの属性を表示し、修正するには、次の手順を行います。
  - プロジェクト／開く／ポッド／スクリーンレイアウトのプロパティを選択します。

デフォルトトピックページのカスタマイズ

新規スクリーンレイアウトには、デフォルトのページ、検索結果ページ、トピックページが含まれています。これらのページを様々な方法でカスタマイズできます。

次に、トピックページをカスタマイズするいくつかの例を示します。

- ページの一番下にプロジェクトタイトルプレースホルダーを配置します。
- トピックページの背景色を変更します。タグリスト内のドキュメントをクリックし、「トピックの罫線と網かけ」を右クリックして選択します。色を選択し、「OK」をクリックします。
- タブ付きパネルをカスタマイズします。タブを削除するには、タグリストからタブを選択し、「削除」をクリックします。タブを追加するには、タブを追加したい場所の手前にあるタブを選択し、挿入タブウィジェットをクリックします。タブ名を指定します。
- 閲覧シーケンスの画像を置き換えます。閲覧シーケンスで画像を選択します。右クリックし、「画像プロパティ」を選択します。新規画像にPNCファイルを参照し選択します。他の画像も同じ方法で変更します。

レビューと共同作業

コンテンツ開発のさまざまな段階で、または配信後においても、他の作成者、SME、編集者、エンドユーザーなど、さまざまな関係者からの意見を入力する必要があります。RoboHelpでは、フィードバックを収集、追跡、解決する方法が複数用意されており、これらのすべての役割の間で効率的な共同作業ができるようになっています。

デザインエディターでのレビュー

自分のレビューコメントをプロジェクト内に直接挿入します。変更履歴モードを有効にして、コメントを編集することもできます。

レビューツールバーを表示する

レビューツールバーには、次のタスクのためのボタンがあります。

- レビューコメントを追加する
- レビューコメントを編集する
- 変更履歴モードを有効にする
- この変更を承認して次へ移動する
- この変更を拒否して次へ移動する
- 前の変更へ移動またはコメントをレビューする
- 次の変更へ移動またはコメントをレビューする

レビューツールバーを表示するには、次の操作を実行します。

1) 「レビューツールバーを選択します。

変更履歴モードを有効にする

デザインエディターでプロジェクトをレビューするには、プロジェクトを開き、変更履歴モードでコンテンツを編集します。

重要: RoboHelp は、書式や構造の変更は追跡しません。たとえば、単語に下線を引いたり、表から行を削除しても、変更は記録されません。

1) 変更履歴モードを有効にするには、次のいずれかの操作を行います。

- レビュー／追跡／変更履歴を選択します。
- レビューツールバーで、変更履歴アイコン をクリックします。

レビュー設定を設定する

- 挿入テキストの色を変更するには、挿入テキストを右クリックし、「挿入コンテンツのプロパティ」を選択します。色を選択します。「色をデフォルトとして設定」を選択します。
- 削除テキストの色を変更するには、削除テキストを右クリックし、「削除コンテンツのプロパティ」を選択します。色を選択します。「色をデフォルトとして設定」を選択します。
- レビューコメントの色を変更するには、コメントを右クリックし、「レビューコメントのプロパティ」を選択します。色を選択します。「色をデフォルトとして設定」を選択します。
- レビューアー名として表示する名前を設定するには、ファイル／オプション／全般を選択します。レビューアー名ボックスで、レビューアー名を入力します。

  注: 変更した設定を読み込むには RoboHelp を再起動します。

PDF レビュー

レビュー用の PDF を作成する

レビューメニューの「レビュー用の PDF を作成」オプションを使用すると、PDF を作成することができ、レビューアーはそれを無料の Adobe Reader でレビューできます。PDF は RoboHelp プロジェクトのタグ付き構造を保存するので、コメントを RoboHelp プロジェクトに読み込むことができます。

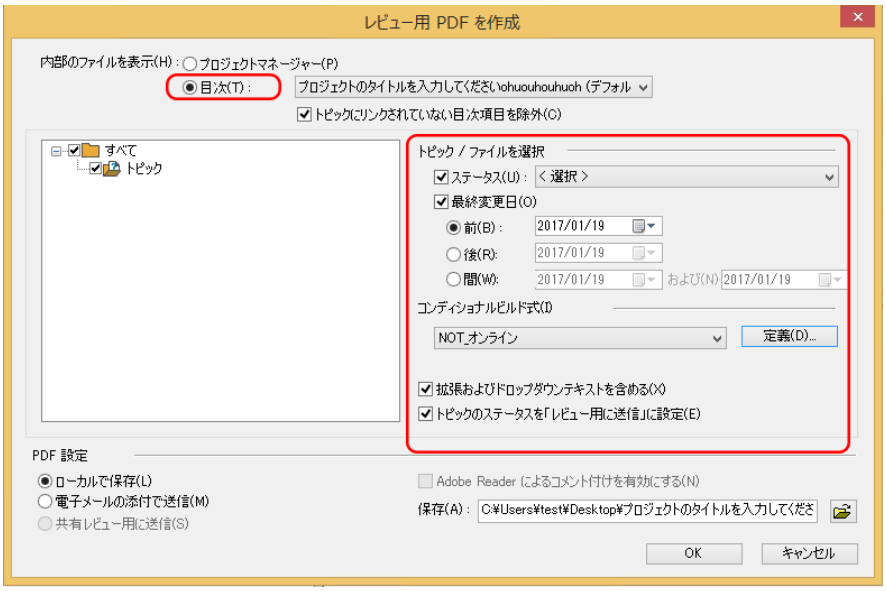
注： コメントを正しく読み込むために、PDF の作成後にはプロジェクトを更新しないでください。

PDF をローカルに保存したり、それを電子メールでレビューアーに送信したりできます。同じコンピューターに Acrobat X Pro 以上がインストールされている場合は、SharePoint ワークスペースで PDF をホストしたり、ネットワーク環境で共有したりすることができます。

注： 円の中に適用されている画像マップは円の内部の最大の正方形の中のハイパーリンクとして変換され、多角形内に適用されている画像マップは変換されません。iframe は変換されません。プレースホルダーのみが表示されます。ページ内に収まらない表、画像、その他の要素はトリミングされます。レビュー用に作成された PDF に、展開テキストやドロップダウンテキストなどのダイナミック HTML コンテンツを含めるか、または除外することができます。

1) レビュー／共同作業／ PDF を作成を選択します。

レビュー用のコンテンツをフィルターするためのさまざまなオプション



2) PDF に含めるトピック、マスターページ、スニペットを表示するには、次のオプションのいずれかを使用します。

プロジェクトマネージャー

プロジェクトマネージャーポッドに表示されるトピックの順序でトピックリストを表示するには、このオプションを選択します。PDF に含めるためにリストから選択したトピックは、PDF と同じ順序で表示されます。

目次

選択した目次からトピックリストを表示するには、このオプションを選択します。「トピックにリンクされていない目次項目を除外」オプションを選択すると、PDF に空白の目次エントリが含まれなくなります。

3) （オプション）さらにトピックリストをフィルタリングするには、トピック名の左側にあるチェックボックスを使用するか、次のオプションを使用します。

ステータス

トピックステータスに基づいてトピックをフィルタリングするには、このオプションを選択します。

最終変更

特定の日付の前または後、または特定の期間に変更されたトピックをフィルタリングするには、このオプションを選択します。

注： Microsoft Word または FrameMaker 文書にリンクされているトピックを選択し、そのコンテンツが古い場合は、RoboHelp が警告を表示します。

4) （オプション）展開テキストやドロップダウンテキストなど、ダイナミック HTML コンテンツを含めるには、「展開テキストとドロップダウンテキストを含める」を選択します。

5) （オプション）レビュー用に選択したトピックのステータスを自動設定するには、トピックステータスの設定に「レビュー用に送信」を選択します。

6) 次の PDF 設定のいずれかを選択します。

ローカルに保存

PDFを作成し、指定した場所に保存します。PDFは、自分のレビューのために使用したり、それを共有場所にコピーして他のレビューアーがフィードバックを追加するために使用したりできます。

電子メールの添付ファイルとして保存

PDFを作成し、それを電子メールクライアントで開かれた新しい電子メールメッセージに添付します。メッセージを作成してレビューアーに送信できます。

共有レビュー用に送信

PDFを作成し、ネットワーク環境にアップロードするか、共有レビューのためにSharePointサーバーにアップロードします。

注: Acrobat X Pro以上が同じコンピューターにインストールされている場合は、このオプションがRoboHelpで有効になります。

7) 「Adobe Readerで注釈を有効にする」を選択します。

注: Acrobat X Pro以上が同じコンピューターにインストールされている場合は、このオプションがRoboHelpで有効になります。

8) （オプション）内容をフィルタリングするには、コンディショナルビルドの式を定義し適用します。

9) 「OK」をクリックします。

レビュー用PDFにSWFを埋め込む

プロジェクトに挿入されたSWFが確実にレビュー用PDFに含まれるようにするために、次のことを実行します。

1) ファイル／オプション／全般を選択します。

2) 「レビュー用PDFにSWFを埋め込む」を選択します。

注: このオプションを選択しないでレビュー用PDFを作成したときは、プログラム内に挿入したSWFの位置にプレースホルダーが挿入されます。

SWF にコメントを付ける

再生し一時停止できるSWFがレビュー用PDFに含まれている場合は、各スライドにコメントを付けることができます。ただし、RoboHelpはこれらのコメントを読み込むときに、スライド関連付けを削除し、SWFファイルに付けられているすべてのコメントをデザインエディター内のSWFファイルの上に配置します。各コメントは、レビューペインに個別のエントリとしても表示されます。

ヒント: コメントのコンテキストを示すために、スライドを説明するスライドタイトルまたはテキストを追加します（例：コマンドメニュースライド：選択したメニュー項目からポインターを離してください）。

1) 注釈／注釈ツールバーを表示を選択します。
2) コメントを付けたい箇所で「一時停止」をクリックします。
3) 「ノート注釈」コメントツールを選択し、コメントを付けるスライドをクリックします。
4) 「再生」をクリックしてレビューを続けます。

PDF からコメントを読み込む

- レビュー／共同作業／コメントを読み込むを選択します。
- （オプション）レビュー後に読み取られようとしているすべてのトピックのステータスを「レビュー済み」に更新するには、「トピックステータスを確認済みに更新」を選択します。

デザインエディターに読み込まれたPDFコメントについて

各タイプのPDFコメントがどのようにデザインエディターに読み込まれるかを以下の表に示します。

PDF	エディター
ノート注釈	レビューコメント
コールアウト	レビューコメント
ハイライトテキストに挿入されたコメント	レビューコメント
挿入テキスト	変更履歴モードでの挿入テキスト
削除テキスト	変更履歴モードでの削除テキスト
置換テキスト	削除テキストと挿入テキストの組み合わせ

注: レビュー用PDFからコメントまたは変更履歴が読み込まれた場合、その文書または変更履歴への変更は、同じPDFからさらにコメントを読み込んだときには読み込まれません。

SWFに付けられたコメントの読み込み

RoboHelpはSWFに付けられたコメントを読み込み、それらを挿入SWF近くに配置します。これらのコメントは、レビューペインポッドから追跡できます。コメントはスライドには関連付けられていません。

プレースホルダー、スニペット、およびヘッダーやフッターに付けられたコメントの読み込み

マスターページ内のトピックの目次、ブレッドクラム、スニペット、およびヘッダーやフッターの場合、RoboHelpはコメントをこれらの要素の上または下に配置します。コメントを付けたPDF内の箇所にはコメントを挿入できません。挿入と削除もノート注釈として読み込まれます。

共有リソースの管理

分散オーサリング環境では、作成者間でコンテンツリソースを共有する必要がよくあります。例えば、複数のライターが1つのドキュメントの異なるトピックを同時に記述できます。複数のライターが同一のトピックに対して異なる時間で（おそらく異なる時間帯で）記述することも可能です。RoboHelpには、クラウド共有（Dropbox、Googleドライブ、SkyDrive）やファイルシステムベースの共有場所を使用して、プロジェクトで次のリソースを共有する機能が提供されています。

- HTMLファイル
- 画像
- マスターページ
- スニペット
- スタイルシート
- トピック

RoboHelpでは、共有場所やプロジェクトにリソースを簡単に追加できます。リソースマネージャーとWindowsエクスプローラー間で、ファイルとフォルダーをドラッグして移動します。画像、スタイルシート、およびトピックを、プロジェクトマネージャーからリソースマネージャーにドラッグして移動します。プロジェクト設定ポッドとリソースマネージャー間で、マスターページをドラッグして移動します。スニペットをリソースマネージャーからトピックにドラッグして移動します（RoboHelpはスニペットポッドを更新します）。

あるプロジェクトのリソース（たとえば、スニペットポッドのスニペット）をリソースマネージャー内の共有場所にドラッグすると、そのリソースが書き出され他の作成者が使用できるようになります。逆に、リソースマネージャーからリソースをプロジェクトにドラッグしてドロップすると、リソース（と関連ファイル）がプロジェクトに読み込まれます。

共有場所を追加

リソースマネージャーポッドで、任意数のリソース場所をルート要素として追加できます。

1) 表示／開く／ポッド／リソースマネージャーを選択し、共有場所を追加 をクリックします。

   「共有場所を追加」ダイアログでは、共有場所のタイプを指定できます。

2) 場所タイプドロップダウンリストで、共有アプリケーションに適した種類を選択します。

ドロップボックス：

Dropbox フォルダーを他のユーザーと共有します。ドロップボックスの詳細と、ダウンロード方法、および基本的な使い方については、dropbox.com をご覧ください。次に、場所タイプドロップダウンリストから **Dropbox** を選択し、共有 Dropbox フォルダーを選択します。

Google ドライブ：

Google Drive フォルダーを他のユーザーと共有します。Google ドライブの詳細と、ダウンロード方法、および基本的な使い方については、drive.google.com をご覧ください。次に、場所タイプドロップダウンリストから **Google Drive** を選択し、共有 Google Drive フォルダーを選択します。

SkyDrive:

SkyDrive フォルダーを他のユーザーと共有します。SkyDrive の詳細と、ダウンロード方法、および基本的な使い方については、skydrive.live.com をご覧ください。次に、場所タイプドロップダウンリストから **SkyDrive** を選択し、共有 SkyDrive フォルダーを選択します。

SharePoint:

マッピングされている（ネットワーク）ドライブを追加して SharePoint サーバーを示します。詳細については、Microsoft SharePoint を参照してください。次に、場所タイプドロップダウンリストからその他を選択し、共有 SharePoint サーバーのマッピングされているドライブを選択します。

その他：

Windows フォルダーを他のユーザーと共有します。次に、場所タイプドロップダウンリストからその他を選択し、共有フォルダーを選択します。

重要: ドロップボックス、Google ドライブ、または SkyDrive を使用する場合は、これらのアプリケーションを最初にインストールする必要があります。

3) 共有場所の名前を指定します。

4) 場所のタイプをドロップボックス、Google ドライブ、または SkyDrive として選択した場合、パスフィールドの値はデフォルトでそのアプリケーションのインストールディレクトリになります。別のパスを選択するには、参照ボタンをクリックしてください。

5) 共有場所を作成するには、「OK」をクリックします。

さらに共有リソースを整理するには、各共有場所でフォルダーを作成できます。フォルダーを作成ボタン をクリックし、フォルダーの名前を指定します。

カテゴリの追加

カテゴリは、さまざまなタイプのリソースを管理するときに便利です。カテゴリを追加し編集したり、各カテゴリにさまざまなファイルタイプを関連付けたりできます。たとえば、ビデオという名前のカテゴリを追加し、それに .flv、.swf、.avi ファイルタイプを関連付けることができます。

1) レビュー／開く／ポッド／リソースマネージャーを選択します。「カテゴリを追加 / 編集」ボタンをクリックします。

2) カテゴリを追加ボタン をクリックします。

3) 新しいカテゴリの名前を入力して、「OK」をクリックします。

4) ファイルの種類の追加ボタン をクリックし、選択したカテゴリのファイルの種類を追加します。

注意：

- 既存のカテゴリにファイルの種類を追加できます。
- 既存のカテゴリでファイルの種類を編集できます。
- 「デフォルトにリセット」をクリックして、リソースマネージャーのデフォルト表示にリセットできます。すべてのユーザー定義カテゴリとファイルの種類はその後もルートフォルダー内にあります。

ユーザー間のリソースの共有

1) 他のユーザーとリソースを共有するには、プロジェクトマネージャーからリソースをドラッグし、それをリソースマネージャーポッド内の特定のフォルダーにドロップします。

   あるいは、リソースを右クリックします。コンテキストメニューから、リソースマネージャー／共有を選択します。

   「コンテンツを選択」ダイアログで、特定の共有フォルダーを選択します。

   RoboHelp はそのファイルを依存ファイルと一緒にリソースマネージャーに追加します。

   - 参照先 CSS ファイル
   - 参照先画像
   - トピックファイル内でハイパーリンクされているファイル（これらのファイルは切断された参照で追加されますが、「リンク先リソースを管理」を使用して、有効なリンクでファイルをプロジェクトに追加できます。）
   - 参照先スニペット

2) ユーザーによって共有されているリソースを使用するには、リソースマネージャーポッド内の特定のフォルダーからリソースをドラッグし、それをプロジェクトマネージャー内にドロップします。

   RoboHelp は、前述の他のユーザーとのリソースの共有の場合のように、そのファイルを依存ファイルと一緒にリソースマネージャーに追加します。

   重要: リソースマネージャーから、依存するスニペットを含む共有リソースを使用する場合は、初回にそのスニペットをプロジェクトマネージャーに手動で入れる必要があります。初回後は、他のユーザーがこのスニペットに行った変更は、プロジェクトマネージャー内の自分のコピーに同期されます。

リソースマネージャーポッドでコンテンツを表示 / 非表示にする

1) レビュー／開く／ポッド／リソースマネージャーを選択します。
2) カテゴリを表示 / 非表示ボタン をクリックします。
3) リソースマネージャーポッドで表示または非表示にするカテゴリを選択または選択解除します。
4) 次のいずれかのオプションを選択します。

すべて

共有場所にあるすべてのリソースを表示します。

リンク

開いているプロジェクトで使用されているリソースのみを表示します。

共有ファイルとフォルダーの管理

共有場所を作成し、フォルダーと共有リソースをその場所に追加したら、リソースマネージャーポッド内でこれらに対してさまざまな操作を実行できます。

ファイルまたはフォルダー固有の操作を実行するには、リソースマネージャー内のファイルまたはフォルダーを右クリックし、メニューのオプションを使用します。

編集：

ファイルを関連エディターで開きます。

エクスプローラー：

Windowsエクスプローラーでフォルダーを開きます。Windowsエクスプローラーでファイルの親フォルダーを開きます。

コピー：

ファイルまたはフォルダーをクリップボードにコピーします。

ペースト：

コピーしたファイルまたはフォルダーを共有場所にペーストします。

削除：

ファイルまたはフォルダーを削除します。

同期：

プロジェクト内のファイルのコピーを、共有場所のコピーと同期します。

リンクを削除：

プロジェクト内のファイルのコピーと共有場所のコピーとのリンクを削除します。共有されているコピーを更新しても、プロジェクトのコピーには反映されません。また、プロジェクトのコピーを更新しても、共有されているコピーには反映されません。

ファイルに対してユーザーが多くの変更を行う場合、これらの変更をユーザーが変更を完了した後でのみ同期する予定の場合は、このオプションを使用してください。

プロジェクトのコピーと比較：

バージョンコントロールアプリケーションを使用して、プロジェクトファイルと共有コピーを比較します。

注： ファイルを比較するには、何らかのバージョンコントロールアプリケーションをインストールする必要があります。またRoboHelp内でバージョンコントロールアプリケーションの設定を行う必要もあります。

名前を変更：

ファイルまたはフォルダーの名前を変更します。

プロジェクトに追加：

共有リソースをプロジェクトに追加します。

共有リソースの別のユーザーがファイルを共有フォルダーに追加し、そのファイルを自分のプロジェクトに追加する場合に、このオプションを使用します。

読み込み：

（フォルダー）1つ以上のファイルを選択されたフォルダーに読み込みます。

書き出し：

リソースファイルの書き出しダイアログボックスで、選択したフォルダーを書き出します。

新規フォルダー：

フォルダーを現在のフォルダー場所に追加します。

更新：

選択されたファイルまたはフォルダーのコンテンツを更新します。

プロパティ：

選択されたファイルまたはフォルダーのプロパティを表示します。

リンク先リソースの管理

リンクされているリソースは、プロジェクトで使用されている共有リソースです。プロジェクトで共有リソースを使用すると、RoboHelp はその共有リソースのコピーをプロジェクト内に追加します。ただし、RoboHelp は共有場所とのリンクを保持するので、マスターコピーが更新されたかどうかを追跡できます。

注： 共有場所からマスターコピーを削除しても、プロジェクトで使用されているリソースのコピーは削除されません。

1) リソースの比較や更新などのタスクを実行するには、共有リソースボタン をクリックします。

2) リンク先リソースの管理ダイアログで、次の操作を実行します。

比較：

選択したファイルのプロジェクトマネージャーコピーと共有場所コピーを、トピックプレビューで並べて表示します。

「比較」をクリックしてファイル比較アプリケーションで 2 つのファイルの比較を開始します。ただし、先にインストールしてからバージョンコントロールアプリケーションの設定を行う必要があります。

リソースのフィルター：

指定した検索条件に基づいて、プロジェクト内のリンク先リソースを検索します。

リンク先リソースは、次のいずれかのステータスを持つことができます。

同期されています：

共有リソースとプロジェクト内で使用されているコピーは同じです。

共有場所で変更されています：

オリジナルの共有リソースが変更されており、プロジェクトで使用されているコピーは同期されていません。

プロジェクトで変更されています：

プロジェクトで使用されているコピーが変更されています。

> **注：** プロジェクトマネージャーおよびリソースマネージャーでは、プロジェクト内で使用されているリソースに、リソースが同期しているかどうかを示すアイコンが表示されます。

両方の場所で変更：

オリジナルの共有リソースとプロジェクト内のコピーの両方が変更されています。

共有場所にない：

オリジナルのリソースが共有場所にありません。

プロジェクト内にない：

リソースへの参照がプロジェクト内に存在しますが、そのリソースがプロジェクトフォルダーから削除されています。この状態は、リソースを手動で削除した場合にのみ発生します。

更新：

プロジェクト内または共有場所にあるリソースを更新できます。

同期時に更新：

共有場所でトピックが更新されたときに通知を受けるように選択します。このオプションはデフォルトで選択されています。定期的に通知を受けたくない場合は、これを無効にすることができます。例えば、別のユーザーがトピックに多くの変更を行っている場合は、このオプションを無効にできます。そのユーザーが変更を完了したときに、オプションを有効に戻します。

リンクを削除：

選択したリソースの共有場所へのリンクを削除します。リソースはコピーされたリソースとしてプロジェクトに保持されます。共有場所のマスターコピーに対して行った更新は手動で追跡される必要があります。

リンクを置換：

現在のリンクを、同じファイル拡張子を持つ別の共有リソースへのリンクで置き換えます。

リンク先リソース通知の管理

すべてのリンクされているリソースをリアルタイムで同期するには、ツールバーのすべて同期コマンドを使用します。

「すべて同期」コマンドを選択すると、リンク先リソース通知ダイアログに次のオプションが表示されます。

共有場所で変更されたファイルプロジェクト内のファイルを更新

共有場所の（リストボックスに表示されている）ファイルの一部が、最後の同期以降に変更されているため、プロジェクト内のファイルと同期していません。プロジェクトファイルを共有場所のファイルと同期するには、このオプションを選択します。

共有場所とプロジェクトで変更されたファイルプロジェクト内のファイルを上書き

共有場所とプロジェクトの（リストボックスに表示されている）ファイルの一部が、最後の同期以降に変更されているため、同期していません。プロジェクト内のファイルを共有場所のファイルで上書きするには、このオプションを選択します。

プロジェクト内で変更されたファイル共有場所のファイルの更新

プロジェクト内の（リストボックスに表示されている）ファイルの一部が、最後の同期以降に変更されているため、共有場所のファイルがプロジェクト内のファイルと同期していません。共有場所のファイルをプロジェクトのファイルで同期するには、このオプションを選択します。

リソースマネージャーの設定

1) 次のいずれかを行います。
   - ファイル／オプションを選択します。「リソースマネージャー」をクリックします。
   - レビュー／開く／ポッド／リソースマネージャーを選択します。「リソースマネージャー設定」ボタンをクリックします。
2) 「オプション」ダイアログボックスで、リソースマネージャーのアプリケーションレベル設定とプロジェクトレベル設定を指定します。

アプリケーションレベルのリソースマネージャー設定の指定

1) 「オプション」ダイアログボックスで、プロジェクト内での共有リソースの使用方法を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。

コピーとして

プロジェクト内に共有リソースのコピーを挿入します。共有場所内にあるオリジナルのリソースが更新されても、リソースマネージャーはそのことをユーザーに通知したりプロジェクトを更新したりしません。

リンクとして

プロジェクト内に共有リソースのコピーを挿入し、コピー（プロジェクト内）とオリジナル（共有場所内）の間のリンクを保持します。リンクを保持することで、リソースマネージャーは、リソースへの更新を追跡でき、ユーザーはプロジェクト内または共有場所内のリソースを更新できます。

注: リンクされたスタイルシートに他のリソースへの参照が含まれている場合は、RoboHelp は、これらの参照リソースに対する更新を追跡しません。

2) リンク先リソースへの更新に対するチェック頻度を指定します。

注: このチェック頻度に従って更新をチェックすることのほかに、RoboHelp は、プロジェクトを開いたときおよび出力を生成するときに、リンク先リソースのステータスをチェックします。

3) 次のいずれかを行います。

- 共有場所のリフレッシュ頻度を指定します。
- 「自動更新を無効」を選択します。**注**: これらのいずれの場合も、リソースマネージャーポッドの更新アイコンを使用して手動で更新できます。

プロジェクトレベルのリソースマネージャー設定の指定

プロジェクトレベルでリンク先リソースの更新に対する環境設定を指定できます。たとえば、プロジェクト A に対して、リンク先リソースが共有場所で更新された場合にリソースマネージャーがそれらのリンク先リソースをすべて自動更新するように指定できます。プロジェクト B に対しては、リンク先リソースが更新された場合にリソースマネージャーがユーザーにそのことを通知するように指定できます。

リンク先リソースの更新に対してプロジェクトレベルの設定を指定するには、次の操作を行います。

1) 次のいずれかのオプションを選択します。

通知自分：

共有場所でリンク先リソースがオリジナルバージョンから異なると通知します。

通知しない：

リンク先リソースが共有場所のオリジナルバージョンから異なっていても通知しない

ローカルプロジェクトリソースを自動更新：

共有場所での変更を含むプロジェクト内のリンク先リソースのすべてを更新します

バージョンコントロールアプリケーションの設定

リソースを他のユーザーと共有するときは、しばしば自分のプロジェクト内のリソースのバージョンと、共有場所にあるバージョンを比較する必要があります。プロジェクトのファイルと共有ファイルを比較するには、何らかのバージョンコントロールアプリケーションをコンピューターにインストールする必要があります。このアプリケーションをRoboHelpに認識させ使用できるようにするために、RoboHelpを設定する必要があります。

1) リソースマネージャーポッドで、「リソースマネージャーの設定」をクリックします。

2) バージョンコントロールタブに移動します。

3) SharePoint設定グループで、次の操作を実行します。

- バージョンコントロールアプリケーションのパスを入力または参照して指定します。
- 必要なコマンドライン引数を入力します。詳細については、バージョンコントロールアプリケーションのマニュアルを参照してください。

4) 「OK」をクリックして変更を保存します。

変更を有効にするには、RoboHelpを再起動する必要があります。

コメントおよび変更の管理

デザインエディター内で直接コメントをレビューし、それを承認または拒否できます。レビューペインポッドでコメントや変更をリストとして表示したり、さまざまな方法でフィルターしたり、承認または拒否したりすることもできます。レビューペインで各コメントのステータスを設定できます。

レビューペインポッド

レビューペインには、デザインエディターで直接付けられたコメントや変更、およびレビュー用PDFから読み込まれたコメントが表示されます。

レビューペインポッドを表示するには、レビュー／開く／ポッド／レビューペインを選択します。

注： 変更履歴モードでコメントを挿入したりコンテンツを編集したりしている場合は、レビューペイン内をクリックしてレビューペインの内容を更新してください。

レビューペインには、各コメントや変更について次の情報が表示されます。

アイコン

コメントや変更の種類（たとえば挿入テキストや削除テキストなど）を示すアイコンを表示します。

レビューアー

Acrobatで（レビューコメント用として）設定されているレビューアー名またはファイル／オプションで（変更履歴用として）設定されているレビューアー名を表示します。レビュー設定を設定するを参照してください。

変更

コメントや変更の最終変更日時を表示します。

詳細

コメントや変更を標準テキストで表示します。

ステータス

コメントのステータスを表示します。**注：** RoboHelpでは、3つのタイプのステータス（承認、拒否、なし）をサポートしています。ステータスが設定されているPDFを読み込むと、RoboHelpは取り消しステータスと完了ステータスを「なし」に変換します。

種類

レビューコメントまたは変更の種類（挿入および削除）を表示します。

パス

コメントまたは変更が存在するトピックを表示します。

- 列を表示または非表示にするには、レビューペインポッドを右クリックし、「列を表示」を選択します。列を選択します。
- 列に表示されている情報の種類でコメントや変更を並び替えるには、その列のヘッダーをクリックします。
- デザインエディターで前後のコメントへ移動するには、レビューペインツールバーの前へアイコン または次へアイコン をクリックします。

コメントおよび変更のフィルター

1) レビューペインツールバーで、エントリをフィルターアイコン をクリックし、次のいずれかのオプションを選択します。

すべて非表示

レビューペインおよびデザインエディター内ですべてのコメントと変更を非表示にします。

すべて表示

レビューペインおよびデザインエディター内ですべてのコメントと変更を表示します。

種類別に表示

3つの表示（すべての種類、レビューコメント、変更履歴）の1つを選択できます。「すべての種類」では、コメントと変更の両方がレビューペインに表示されます。「レビューコメント」では、コメントのみがレビューペインに表示されます。「変更履歴」では、変更履歴モードで行われた挿入と削除のみがレビューペインに表示されます。

レビューアー別に表示

特定のレビューアーのコメントや変更のみを表示できます。RoboHelpは、プロジェクト内のコメントや変更からレビューアーリストを作成します。

ステータス別に表示

ステータスを選択してそのステータスを持つコメントのみを表示できます。

すべてのトピックに対して表示

開いているすべてのトピックまたはアクティブトピックのみの中にあるコメントや変更を表示します。

コメントおよび変更のグループ化

1) レビューペインポッドを右クリックし、「グループ別」を選択します。次のいずれかのオプションを選択します。
   - カラー
   - レビューアー
   - 変更
   - ステータス
   - 種類
   - トピック
   - パス

ヒント: グループ化を削除するには「なし」を選択します。

コメントに対して返信またはステータスを設定

- コメントに返信するには、コメントを右クリックし、「レビューコメントに返信」を選択します。

  注: RoboHelp は返信を子コメントとしてレビューペインに表示します。
- ステータスを設定するには、コメントを選択し、レビューペインツールバーのステータスを設定アイコン をクリックします。「承認」、「拒否」、または「なし」を選択します。

変更の承認または拒否

レビューペインでレビューアーによって行われた変更をレビューし、変更を承認または拒否できます。いずれの場合も、RoboHelp はコンテンツとレビューペインを更新します。たとえば、削除テキストタイプの変更を承認すると、削除としてマークされたそのテキストはコンテンツから削除され、レビューペイン内のエントリが削除されます。

変更を承認するには、次のいずれかの操作を行います。

- （すべての変更）レビュー／追跡／承認／すべて承認を選択します。

  ヒント: 選択されているトピック内のすべての変更のみを承認するには、「< トピック名 > からすべてを承認」を選択します。

- トピック内の挿入テキストまたは削除テキストタイプの変更を選択します。レビュー／追跡／承認／承認して次へ移動を選択するか、レビューペインツールバーの承認して次へ移動アイコン をクリックします。

- レビューペインから挿入テキストまたは削除テキストタイプの変更を選択し、レビューペインツールバーの承認して次へ移動アイコン をクリックします。

変更を拒否するには、次の操作を行います。

- （すべての変更）レビュー／追跡／拒否／すべて拒否を選択します。

  注: 選択されているトピック内のすべての変更を拒否するには、「< トピック名 > からすべてを拒否」を選択します。

- トピック内の挿入テキストまたは削除テキストタイプの変更を選択します。レビュー／追跡／拒否／拒否して次へ移動を選択するか、レビューペインツールバーの拒否して次へ移動アイコン をクリックします。

- レビューペインから挿入テキストまたは削除テキストタイプの変更を選択し、レビューペインツールバーの拒否して次へ移動アイコン をクリックします。

コメントの削除

次のいずれかを行います。

- トピック内でコメントを選択します。レビュー／コメント／削除を選択します。

- レビューペイン内でコメントを選択し、レビューペインツールバーのレビューコメントを削除アイコン をクリックします。

  注: コメントを削除すると、RoboHelp はレビューペインおよびコンテンツからそのコメントを削除します。コメントに返信が付いている場合は、返信（子コメント）もレビューペインから削除されます。

AIRヘルプでのレビューと共同作業

AIRヘルプ（Adobe AIRアプリケーション出力）のレーティング機能、コメント機能、モデレーション機能を使用すると、レビューの処理や共同作業が柔軟に行えます。必要に応じて、信頼ベースの内部セットアップとサーバー駆動のセキュアな外部セットアップの間を切り替えられます。同様に、モデレーションを有効または無効にしたり、匿名コメントを許可または禁止したり、オンラインまたはオフラインでの作業（オフラインモードで保存されたコメントを公開できます）を選択したりできます。

トピックレーティング

ヘルプをAdobe AIRアプリケーションとして配信する場合は、トピックレーティングを有効にしてユーザーフィードバックを収集できます。ユーザーはトピックを0から5星の5段階で評価できます。AIRヘルプアプリケーションは、各ユーザーごとにトピックレーティングを、共有ネットワークドライブの場所（コメントを同期するための場所と同じ）またはRoboHelpサーバー上に保存し、トピックを表示するときにレーティングを読み込みます。

ユーザーがトピックを開くと、そのトピックの平均レーティングが表示されます。ユーザーは、レーティングウィジェットの上にマウスを置くことで自分のレーティングを見ることができます。RoboHelpサーバーがトピックレーティングを保存するように設定されている場合は、ユーザーは認証が行われてからレーティングを指定できます。オフライン方式では、トピックレーティングはローカルのユーザーデータベースに保存され、AIRヘルプアプリケーションのステータスバーにステータスが表示されます。ユーザーが次回にオンラインになり、サーバーによって認証されたときに、非同期のアイテムが自動的に同期されます。

トピックレーティングを有効にするには、共同作業の設定を参照してください。

コメント

コメントを共有ネットワークフォルダーに保存する

信頼ベースの共同作業フレームワークを内部ユーザーに提供する場合は、コメントを保存するための共有ネットワーク場所を指定します。ユーザーはそのネットワーク場所に対して読み取りおよび書き込みアクセスを持っている場合は、コメントを読んだり付けたりできます。各ユーザーのコメントはその場所で個別のXMLファイルに保存されます。

共有ネットワーク場所の指定方法については、共同作業の設定を参照してください。

RoboHelp サーバーにコメントを保存する

企業ネットワーク外のユーザーによるコメント付けを許可する場合は、コメントを RoboHelp サーバーに保存します。ユーザーはサーバーで認証された後にコメントを読み取ったり付けたりできます。

注： RoboHelp サーバーはユーザー認証をデータベースおよび LDAP の両方で提供します。

RoboHelp サーバーを使用して共同作業を導入し使用するための主な手順

1) （作成者）RoboHelp HTML で、次のレイアウト設定で AIR ヘルプを生成します。

- トピックレーティングを有効にする
- コメント入力を有効にする
- コメントモデレーションを有効にする
- 「コメントとトピックレーティングのための場所を設定」で、RoboHelp サーバーを選択し、サーバー URL を指定します。

  詳しい手順については、共同作業の設定を参照してください。

2) （管理者）RoboHelp サーバー Web Administrator で、管理者としてサインインし、設定／モデレーションをクリックします。次の設定を指定します。

- ヘルプコンテンツに対してユーザーが匿名でコメントを付けることを許可するには、「匿名投稿を許可」を選択します。

  注： RoboHelp サーバーがすべてのユーザーを認証します。匿名投稿が有効のときは、ユーザーはユーザー名を表示しないで投稿できるオプションが使用できます。

- モデレーターが承認した後にのみユーザーコメントを表示するには、「新規コメントを保留としてマークする」を選択します。

  詳しい手順については、**RoboHelp** サーバー **10** の使用を参照してください。

3) （ユーザー）AIR ヘルプアプリケーションを起動します。「コメントポッドを表示 / 非表示」をクリックし、コメントを追加します。コメントの追加およびコメントのモデレーションを参照してください。

コメントの環境設定を設定する

ユーザーは、AIRヘルプでコメントの次の環境設定を設定できます（出力）。

ログイン名に常にレビュー担当者名を使用

コメントが共有ネットワークフォルダーに保存される場合、ユーザーは、自分のコメントに表示する名前を指定できます。デフォルトでは、RoboHelpはユーザーエリアで定義されたユーザー名を表示します。

注: コメントがRoboHelpサーバーに保存される場合は、RoboHelpはログイン名を使用します。

コメントの同期にデフォルトの場所を使用

ユーザーはこのオプションを選択して、コメントを保存する新しい場所を指定できます。デフォルト場所は、AIRヘルプの生成時に指定した場所です。

共有フォルダーからのコメントの受信

ユーザーはこのオプションを選択することで、AIRヘルプの起動後にコメントポッドが表示されたときに自動的にすべてのコメントを受信することができます。

モデレーションポッドの表示

ユーザーはこのオプションを選択することで、モデレーター権限を持っている場合にモデレーションモードを有効にできます。信頼ベースのコメント付けでは（共有ネットワーク場所）、モデレーターは、AIRヘルプの生成時に作成者によって指定されたパスワードにアクセスすることのみが必要です。サーバーベースのコメント付けでは、モデレーターは管理者権限が必要です。

注: 作成者がAIRヘルプの生成時にモデレーションを有効にしていた場合のみ、ユーザーはモデレーションモードを有効にできます。

すべてのコメントを削除する

ローカルデータベースからすべてのコメントを削除するために選択します。このオプションを選択した後に「送信と受信」をクリックすると、すべてのコメントが共有場所またはRoboHelpサーバーから削除されます。

コメントの追加

Adobe AIR 出力の生成時にコメント付けを有効にした場合に、ユーザーはコメントを付けることができます。コメントは、「サーバーに送信」または「送信と受信」オプションをクリックするまではローカルに保存されます。

1) 「コメントポッドを表示 / 非表示」をクリックして、コメントポッドを表示します。
2) コメントを追加するには、「コメントを追加を表示 / 非表示」をクリックします。コメントを入力し、「保存」をクリックします。
3) 「送信と受信」をクリックして、保存されたコメントを公開します。

コメントモデレーション

コメントを共有ネットワーク場所または RoboHelp サーバーのいずれに保存する場合でも、RoboHelp はコメントモデレーションをサポートしています。モデレーションが有効になっている場合、モデレートされていないコメントのステータスは、SSL で設定されているように「保留」または「承認」です。拒否されたコメントは、そのコメントをつけたユーザーのみが見ることができます。

	共有場所	RoboHelp サーバー
モデレーションを有効化	デフォルトで無効	デフォルトで有効 管理者は RoboHelp サーバーで管理者 UI を使用して設定を変更できる
認証	コメントを読んだり付けたりするためには不要 コメントをモデレートするためには必要 モデレーターパスワードは、作成者によって提供され変更はできない	匿名コメントが禁止されている場合は、コメントを読んだり付けたりするために必要 コメントをモデレートするために管理者権限が必要
新規コメントのステータス	モデレーターは、コメントが中央管理されている場所にある `settings.xml` ファイルを変更できます。 モデレーションステート属性が「オン」に設定されている場合は、新規コメントはモデレートされるまで「保留」ステートに留まります。「オフ」に設定されている場合は、すべての新規コメントはデフォルトで「承認済み」としてマークされ、モデレーションのためにキューされません。モデレーターは後でコメントを拒否または削除できます。	サーバーで設定されている「新規コメントを保留としてマークする」オプションは、新規コメントのステータスを決定します。

コメントのモデレーション

AIRヘルプ出力で、次の操作を行います。

1) 「環境設定」をクリックします。

2) 「コメント」をクリックします。

3) パスワードを指定します。

4) モデレーション表示ポッドを選択します。「OK」をクリックします。

5) 次のオプションを使用してコメントをフィルタリングします。

すべて表示リスト

「保留」、「拒否済み」、または「承認済み」を選択して、ステータスでコメントをフィルタリングします。

作成者別コメントリスト

作成者の名前を選択して、作成者でコメントをフィルタリングします。

現在のトピックのコメント

クリックすると、現在のトピックのみのコメントが表示されます。

すべてのトピックのコメント

クリックすると、すべてのトピックのコメントが表示されます。

6) 「承認」、「拒否」、または「削除」をクリックして、コメントをモデレートします。

7) 「送信と受信」をクリックして、コメントを共有場所またはサーバーと同期します。

プログラムの高度な機能

ActiveX コントロール

ActiveX コントロール

ActiveXコントロールは、プロジェクトに組み込んで使用できるMicrosoft Windowsベースのアプリケーションです。軽量かつコンパイル済みであること、モジュール形式で再使用可能なことがその特長です。Web ページの作成者が ActiveX コントロールを使用して HTMLページの機能を拡張するのと同じように、ActiveXコントロールを使用してトピックの機能を拡張することができます。

ActiveX コントロールは、ActiveX テクノロジをサポートするブラウザーでのみ機能します。これに該当するのが、Microsoft Internet Explorer や HTML ヘルプビューアーです。Netscape Navigator は ActiveX コントロールをサポートしていません。

RoboHelp には、リンクコントロールおよび HTML ヘルプコントロールなど、HTML ヘルプ用の ActiveX コントロールが組み込まれていますが、他の ActiveX コントロールを追加することもできます。例えば、クレジットカード決済、表計算、データベース通信などの機能も、ActiveX コントロールで追加できます。

プロジェクトには、ActiveX コントロールがいくつか組み込まれています。その中でも特に重要な働きをするのが、HHCTRL.OCX（Microsoft 提供）です。目次および索引の生成、全文検索の機能の実装に、この ActiveX コントロールは欠かせません。

> **注：** ActiveX コントロールをコピーしてユーザーのシステムに登録します。ActiveX コントロールは、コンパイル済み CHM ファイルには組み込まれません。WebHelp や WebHelp Pro プロジェクトの場合、Internet Explorer 4.0 以降は ActiveX コントロールをサポートします。

デザインタイムコントロールの追加

注: この情報は、Microsoft HTMLヘルププロジェクトに関連しています。

1) コントロールを追加するトピックにカーソルを移動します。
2) 挿入／HTML／Javascript／デザインタイムコントロールを選択します。
3) コントロールのリストから、プロジェクトに挿入するコントロールを選択します。
4) 「OK」をクリックします。

HTMLヘルプActiveXコントロールの種類

カレンダーコントロール

カレンダーコントロール付きのトピックをユーザーが開くと、テキスト内にカレンダーが表示されます。表示または印刷するカレンダーの年や月を選択できます。

カスタムボタン

カスタムボタンは、ユーザーにデータベース内の最新情報やアプリケーションの最新版をダウンロードしてもらうために用意します。

バナー

バナー付きのトピックをユーザーが開くと、ヘルプトピックの内容が表示されるようにできます。このバナーにより、テキスト、画像、およびアイコンを任意の間隔でトピック内に表示できます。

チャート

チャートを描画、表示および印刷できます。チャートのプロパティは、オプションやチェックボックスで変更できます。チャートやグラフのデータを入力することも可能です。

計算

オンラインテストの回答などのデータを入力できます。テスト結果（各設問の正解例）を取得して表示することもできます。

ヒント: ActiveXコントロールは、システムに登録済みのものであれば、どれでもプロジェクトのトピックに挿入できます。それ以外のActiveXコントロールを追加するには、事前にそのコントロールをインストールし、登録しておいてください。

ActiveX コントロールの追加

コントロールを動作させるには、ユーザーのシステムにカスタム ActiveX.ocx ファイルを配布して登録する必要があります（RoboHelp ライセンスがあると、これらのコントロールを配布できます）。デフォルトでは、コントロールは C:\Program Files\Adobe\Adobe RoboHelp*[version]*\Redist にあります。

1) コントロールを追加するトピックにカーソルを移動します。

2) 挿入／HTML／Javascript／ActiveX コントロールを選択します。

3) 追加する ActiveX コントロールを選択し、「OK」をクリックします。

4) ActiveX コントロールをダブルクリックして、その外観とプロパティを編集します。HTML ヘルプではすべての ActiveX コントロールはサポートされず、一部のコントロールにはプロパティダイアログボックスがありません。

ActiveX コントロールプロパティのカスタマイズ

1) トピックの ActiveX コントロールをダブルクリックしてプロパティダイアログボックスを開き、次の ActiveX コントロールのプロパティを表示します。

コードソース

ActiveX コントロールの最新コピーがあるアドレス（URL）を指定します（ローカルシステムにない場合）。

データソース

ActiveX コントロールがデータ引数を検索するアドレス（URL）を指定します。

ID

ActiveX コントロールの ID を表示します（ID が含まれる場合）。

2) 「ActiveX コントロール」タブをクリックし、「追加」をクリックして次のプロパティを指定します。「OK」をクリックします。

- 「名前」では、ActiveX コントロールのカスタマイズ可能なプロパティのリストから追加するプロパティを選択します。
- 「値」では、選択したプロパティの値を入力します。

3) 「余白」タブをクリックし、余白を指定します。

4) 「罫線」タブをクリックします。「設定」で「ボックス」または「カスタム」を選択します。

   カスタム設定を使用すると、異なるサイズと色の罫線をActiveXコントロールの各縁に追加できます。スタイル、罫線の色、太さを指定して、選択した内容をプレビューします。

5) 「サイズ」タブでは、次のサイズのプロパティを指定します。

   - 「推奨幅」および「推奨高さ」にピクセル（px）単位（デフォルト）またはパーセント（%）で値を入力します。
   - 「縦横比を維持」をクリックして縦および横の比率を保ちます。

ActiveXコントロールプロパティの削除

1) デザインエディターで、ActiveX コントロールをダブルクリックしてプロパティダイアログボックスを開きます。

2) 削除するプロパティの名前または値を選択します。

3) 「削除」ボタンをクリックします。

カレンダーコントロールのカスタマイズ

1) 挿入／HTML／Javascript／ActiveXコントロールを選択します。

2) 「カレンダーコントロール *[version]*」を選択します。コントロールが次の例のようにデザインエディターに表示されます。

3) コントロールをダブルクリックし、「ActiveXコントロール」タブの設定を変更します。

4) 平日の見出しのフォントの色を変更するには、「ActiveXコントロール」タブの「追加」をクリックします。

5) 「Dayfontcolor」を選択し、色の値を入力して「OK」をクリックします。

6) カレンダーを表示するには、表示ボタン をクリックします。

アプレット

1) 挿入／HTML／Javascript／アプレットを選択します。

2) 次の情報を追加します。

コード

使用するclassファイル。

コードベース

選択したclassファイルへのパス。アプレットがプロジェクトフォルダーにある場合は、このフィールドを空白にします。

名前

classファイルの名前。複数のアプレットが相互に通信できるように、アプレット名を割り当てます。

代替テキスト

ブラウザーがアプレットを表示できない場合に使用する代替テキスト。

パラメーター

アプレットの可変要素（背景色やフォントなど）を定義するパラメーターの名前と値。

追加

アプレットのパラメーターの名前と値を入力するためのダイアログボックスを開きます。名前と値の例は、それぞれFontTypeとFontType=Arialです。

編集

パラメーターを編集するためのダイアログボックスを開きます。

削除

選択したパラメーターを削除します。

サイズ

オブジェクトの幅と高さを設定します。

余白

オブジェクトの余白を設定します。

罫線

オブジェクトの周囲の罫線を設定します。

注意：

- トピックの中でアプレットを使用する場合は、アプレットを追加する前に、アプレットをプロジェクトフォルダーに移動します。
- ほとんどのアプレットはclassファイルです。開発者と相談して、アプレットのclassファイルを入手してください。
- classファイルをバージョンコントロールに追加するには、それらのファイルを手動でバゲッジファイルフォルダーに追加します。
- アプレットは、WebHelp、WebHelp Pro、FlashHelp、およびFlashHelp Proの各プロジェクトでのみ動作します。

フォーム

フォーム作成のワークフロー

注: デザインエディターで作成したフォームは、対応するCGI（Common Gateway Interface）スクリプトをサーバーに持っている必要があります。

1) フォームを追加してフォームのプロパティを設定します。
2) 特定のフォーム要素を追加します。
3) ユーザーが入力したデータに基づいて動作するスクリプトにリンクします。この手順には、スクリプト言語やプログラミング言語で作成したCGIスクリプトが必要です。

フォームの上

フォームの下

フォームへのトピックの追加

1) フォームを挿入する場所を選択します。
2) 挿入／ HTML ／ HTML フォーム／フォームを選択します。フォーム要素を置くための長方形のボックスが挿入されます。

フォームのプロパティの設定

1) フォームの中を右クリックして、「フォームのプロパティ」を選択します。
2) 「フォーム」タブで次のオプションを設定して、「サイズ」（ピクセル単位）、「余白」、「罫線」、および「網かけ」オプションを設定します。「OK」をクリックします。

アクション

「フォームアクション」ボックスに、フォームの処理を実行するために使用するアドレスを入力します。

方法

「方法」リストから、サーバーへのフォームデータの送信に使用する方法を選択します。

Post

HTTP Post トランザクションでデータを送信します。

取得

URL に引数を追加して、アンカーのようにそれを開きます。

名前

「名前」ボックスに、フォーム名を入力します。

ヒント : 背景の画像またはパターンを含めるには、参照ボタン をクリックして使用する画像を指定します。

フォーム要素

フォーム要素はデザインエディターで利用できます。

テキストフィールド

フォームにテキストを入力します。フィールドは、デフォルトのテキストを入力しておくことも、空のままにすることもできます。

複数行テキストフィールド

複数行のテキストをフォームフィールドに入力できます。

非表示フィールド

非表示フィールドの名前と値を追加できます。

パスワードフィールド

パスワードを保護することができます。パスワードをボックスに入力すると、ビューアーにはパスワードは一連のアスタリスク（*）で表示されます。

ラジオボタン

グループから1つの選択肢のみを選択できます。オプションはリストで表示され、その中の1つがデフォルトで選択されます。新しいボタンをクリックすると、以前に選択されていたアイテムは消去されます。

チェックボックス

複数の選択肢の任意の組み合わせを選択できます。チェックボックスは、排他的でない選択のグループを表します。

ボタン

フォームに標準ボタンを挿入し、タイトルを指定し、作成者が定義したカスタムアクションを実行することができます。

送信ボタン

作成したフォームをサーバーに送信できます。

画像ボタン

クリックするとアクションを実行するボタンの上に、カスタム画像を挿入できます。

リセットボタン

フォームの初期の状態にリセットできます。

ドロップダウンメニュー

フォームにドロップダウンメニューを挿入できます。ドロップダウンメニューの設定に応じて、1つ以上のアイテムを選択できます。

テキストフィールドの追加および編集

1) 複数行テキストフィールドをフォームのどこに挿入するかを選択し、挿入／HTML／HTMLフォーム／テキストフィールドを選択します。また、挿入／HTML／HTMLフォーム／複数行テキストフィールドを選択することもできます。

2) テキストフィールドの場合は、要素をダブルクリックしてテキストフィールドダイアログボックスを開き、次のプロパティを指定して「OK」をクリックします。

種類

フィールドの種類を示します。

コントロール識別子

「名前」フィールドに関連付ける名前を指定します。フォームに表示されるのではなく、CGIプログラムはこれを使用してフォーム要素を識別します。テキストフィールドの横にラベルを付けるには、デザインエディターでテキストを入力します。

初期テキスト

フォームを開いたときに表示されるテキスト（「種類」で「パスワード」を選択した場合は、このフィールドのすべての文字がアスタリスク（*）で表示されます）。

推奨幅

フィールドの幅を設定します。

長さ制限

ユーザーが入力できる文字の最大数を設定します。

3) 複数行テキストフィールドの場合、要素をダブルクリックして複数行テキストフィールドダイアログボックスを開き、次のプロパティを指定して「OK」をクリックします。

コントロール識別子

フィールドの名前。フォームに表示されるのではなく、フォーム要素の識別に使用されます。テキストフィールドの横にラベルを付けるには、デザインエディターでテキストを入力します。

行

フィールドの行数。

列

フィールドの列数。

初期テキスト

フォームを開いたときに表示されるテキスト。

特殊フィールドの追加

1) フィールドを挿入する場所にカーソルを置きます。
2) 挿入 / 変数 / フィールドを選択します。
3) 「値」リストでフィールドの種類を選択します。

日付

年月日、または年、月、および日の組み合わせ

時間

時間（必要に応じて、AM または PM を含む）

タイトル

トピックタイトルまたはその他のテキスト

File

ファイル名の書式

変数

名前と値

4) 「形式」リストでフィールドの形式を選択します。

5) （オプション）「新規」をクリックします。Default という形式の行が、「形式」リストの最後に追加されます。「現在の形式」ボックスに新しい形式の名前を入力します。「例」列は、トピックでフィールドがどのように表示されるかを示します。

6) 「OK」をクリックします。フィールドがトピックに追加されます。

ヒント: トピックを開いたときにフィールドを更新するには、「このフィールドを自動更新」を選択します。トピックのフィールドを表示するには、表示メニューから「表示」を選択し、「フィールド」を選択します。

フォームへのボタンの追加

1) ボタンを挿入する場所を選択します。挿入／ HTML ／ HTML フォーム／ボタンを選択し、表示されたプレースホルダーボタンをダブルクリックします。

2) 「種類」でボタンの種類を選択します。

送信ボタン（キャプチャ）

標準ボタンとして表示され、処理のためにフォームを CGI スクリプトに送信します。

送信ボタン（画像）

カスタム画像として表示され、処理のためにフォームを CGI スクリプトに送信します。

リセット

ユーザーが行ったすべての入力のフォームを消去します。

プレーンボタン

ボタンが実行するアクションをカスタマイズできます。

3) 「コントロール識別子」ボックスにボタン名を入力します。

4) 「ボタンキャプション」ボックスにボタンキャプションを入力します。

5) 「送信ボタン（画像）」を選択した場合、「スクリーンヒント」ボックスでスクリーンヒントを指定します。

6) 「送信ボタン（画像）」を選択した場合、「ボタン画像パス」でボタンを指定します。

7) 「OK」をクリックします。

画像ボタンの追加

1) ボタンを追加するフォームの内側にカーソルを置きます。
2) 挿入／HTML／HTMLフォーム／画像ボタンを選択し、「OK」をクリックします。
3) 画像名を入力し、「プロジェクトフォルダーの画像」から画像を選択するか、「ギャラリ」タブで画像を選択します。
4) スクリーンヒント、ボタンキャプション、およびサイズを指定するには、画像をダブルクリックして、必要な値を選択または入力します。

チェックボックスの追加

1) フォーム内のチェックボックスを挿入する場所を選択します。
2) 挿入／HTML／HTMLフォーム／チェックボックスを選択します。
3) チェックボックスをダブルクリックして、チェックボックスの次のオプションを指定します。

種類

「チェックボックス」を選択します。

コントロール識別子

チェックボックスに関連付ける名前を入力します。

コントロール値

コントロールの値を入力します。

「このコントロールを初期選択」の選択

トピックを開いたときにこのオプションをデフォルトの選択に設定します。

4) 「OK」をクリックします。

ラジオボタンの追加

1) ラジオボタンをフォームのどこに挿入するかを選択します。
2) 挿入／HTML／HTMLフォーム／ラジオボタンを選択します。
3) ラジオボタンをダブルクリックして、次のプロパティを指定します。

種類

「ラジオボタン」を選択します。

コントロール識別子

ラジオボタンに関連付ける名前を入力します。

コントロール値

オプションの値を入力します。

「このコントロールを初期選択」の選択

トピックを開いたときにこのオプションをデフォルトの選択に設定します。

4) 「OK」をクリックします。

ドロップダウンメニューの追加

1) メニューをフォームのどこに配置するかを選択します。
2) 挿入／HTML／HTMLフォーム／ドロップダウンメニューを選択します。
3) ドロップダウンメニューをダブルクリックします。
4) 「ドロップダウンメニュー」タブのオプションを設定します。

コントロール識別子

メニューの名前を入力します。この名前は表示されません。これは、フォームのデータをソートするときに使用されます。メニューの横にラベルを付けるには、デザインエディターを使用します。

行

オプションの表示方法を設定します。例えば、1に設定して、一度に1つのアイテムを表示します。

複数選択を許可

複数のオプションを選択できます。

5) 「オプション」タブのオプションを設定します。

新規

新しいラベルを指定できます。「ラベル」フィールドに名前を入力し、「値」フィールドに値を入力します。

選択範囲

オプションにデフォルトとしてマークを付けます。

6) 「OK」をクリックします。

フレーム

フレームやフレームセットの概要

フレームセットをデザインして、ナビゲーションをカスタマイズします。

フレーム

ビューアーを個別のトピックの個別のリージョンに分割します。

フレームセット

他のフレームのトピックは静止したまま、一部のフレームのトピックを変更することができます。

フレームセットは、HTML Helpビューアーまたはブラウザーにどのようにフレームを表示し、どのトピックを各フレーム内に表示するかを指示します。フレーム内に表示されるトピックは、フレームのソーストピックです。フレームセットは通常のHTMLトピックとして使用できます。

フレームセットは複数のフレームをもつことができます。画面のスペースによって実用的なフレームの数が決まるので、フレームの数が多すぎると、ビューアーが見にくくなります。単語の一部のみが各フレームに表示されることがあります。フレーム数が多いと、ロード時間が延びる原因になります。

注意：

- ビューアーまたはブラウザーからプロジェクト全体を印刷することができますが、印刷は一度に1つのフレームに限定されています。
- ターゲットハイパーテキストは特定のフレームにリンクします。
- ハイパーテキストでリンクされた外部トピックまたはURLは正常に表示されないことがあります。
- フレームセットはプロジェクトマネージャーのHTMLファイル（トピック）フォルダーに保存されます。正方形のアイコン は、フレームセットファイルを示します。

関連するリンク：

テキストリンクの作成

フレームセットの作成

1) プロジェクト／開く／ポッド／プロジェクトマネージャーを選択します。
2) プロジェクトファイルを右クリックして、新規作成／フレームセットを選択し、テンプレートをクリックします。
3) タイトルを入力します。タイトルはファイル名になります。「次へ」をクリックします。
4) フレームセット内の各フレームについてプロパティを定義します。
   - 「名前」に名前を入力します。
   - すべてのフォルダーポップアップメニューから、フレームに割り当てるファイルまたはURLを選択します。選択したファイルまたはURLが、「初期ファイル」フィールドに表示されます。
   - 高さ、幅、フレームの余白および罫線のカラーを指定して、フレームをデザインします。次のオプションを指定して、「完了」をクリックします。

サイズ変更なし

フレームのサイズを変更できないようにします。

スクロール

フレーム内のスクロールバーの表示をコントロールします。

自動

トピックコンテンツ全体をスクロールによってのみ表示できる場合にスクロールバーを表示します。

O

スクロールバーを常に表示します。

X

スクロールバーを表示しません。

新規トピック

トピックを作成し、フレームに割り当てます。

フレームやフレームセットの変更

1) プロジェクト／開く／ポッド／プロジェクトマネージャーを選択します。

2) HTML　ファイル（トピック）フォルダーで、フレームセットファイルをダブルクリックします。

   注: フォルダーが表示されない場合、プロジェクトマネージャービューを切り替えボタン をクリックします。

3) 変更を行います。

   注: 既に定義したフレームセットのテンプレートは選択できません。別のテンプレートを使用するには、フレームセットを作成します。

フレームのサイズの変更

注: この手順ではデフォルト設定は変更されません。

1) マウスポインターを 2 つのフレーム間のグレーライン（フレームの境界線）に置きます。

2) マウスポインターが変化した後、フレームの境界線を左右にドラッグすると、一方のフレームは幅が広がり、他方のフレームは幅が狭くなります。

フレームセットの削除

フレームセットを誤って削除した場合、ハードディスクから削除されていなければ、フレームセットをプロジェクトに読み込み直すことができます。

1) プロジェクト／開く／ポッド／プロジェクトマネージャーを選択します。

2) HTMLファイル（トピック）フォルダーを展開します。

3) 削除するフレームセットファイルを選択します。

4) 削除ボタン をクリックします。

ヒント: 目次のフレームセットまたはハイパーテキストのリンクで参照されているフレームセットは、削除すると壊れたリンクフォルダーに移されます。プロジェクトに追加し直すには、右クリックして「復元」を選択します。

フレームセットのブックまたはページへのリンク

1) プロジェクト／開く／ポッド／プロジェクトマネージャーを選択します。

2) 目次フォルダーをダブルクリックします。

3) フォルダー内の目次を右クリックし、目次ツールバーで新規目次ブックボタン または新規目次ページボタン をクリックします。

4) 目次に表示するタイトルを入力し、「リンクを含むブック」を選択します。

5) 既存のトピックからフレームセットを選択して、「OK」をクリックします。

フレームのトピックへのリンク

1) フレームセットをブラウザーまたはビューアーで開きます。

2) トピックを開き、リンクするテキストを選択します。

3) 右クリックしてハイパーリンクを挿入ボタン を選択します。

4) 「リンク先」で三角形のポップアップメニュー ▼ をクリックし、表示されるポップアップメニューからリンク先の種類を選択します。

   または、「公開先を選択（ファイルまたはURL）」でトピックまたはURLを選択します。

5) フレームに表示ポップアップメニューで、リンク先を選択します。このオプションは内容を表示するフレームを定義します。

「ページのデフォルト（なし）」

トピックを同じフレームでヘルプファイルウィンドウとして開きます。

新規ウィンドウ

トピックを新規ブラウザーウィンドウで開きます。

「同じフレーム」

トピックを同じフレームで現在のトピックとして開きます。

「親フレーム」

トピックをリンクの親フレームで開き、オリジナルのトピックを非表示にします。

「ページ全体」

トピックをヘルプファイルウィンドウで開き、オリジナルのトピックまたはフレームセットを置き換えます。

6) 「OK」をクリックします。

HTMLヘルプコントロール

HTMLヘルプコントロールの再使用

HTMLヘルプコントロールは移植性に優れています。コントロールをトピックにコピーし、使用するトピックに合わせて変更することができます。

1) デザインエディターで、再使用するコントロールを含むトピックを開きます。
2) コントロールを右クリックして「コピー」を選択します。
3) コントロールが必要なトピックを開きます。
4) コントロールを配置する場所を右クリックして、「ペースト」を選択します。
5) コントロールを変更するには、コントロールをダブルクリックします。

WinHelpトピックコントロールの追加

注: タイトルに@マークを持つトピックは、コンパイル済みHTMLヘルプファイルで関連トピックコントロールから呼び出すことができません。

1) デザインエディターでコントロールの場所をクリックします。
2) 挿入/HTML/JavaScript/WinHelpトピックを選択します。
3) ボタンオプションを設定します。

テキスト

黒いテキストを使用した標準のグレーのボタンを挿入します。ボタンのテキストを「テキスト」フィールドで編集します。

画像

BMPまたはICOファイルを挿入します。フォルダーボタンをクリックして、ファイルを参照します。ファイルを選択してプロジェクトにコピーします。

非表示

トピックに表示されないコントロールを挿入します。このオプションは、コントロールをオブジェクトとしてトピックに挿入します。

4) 「次へ」をクリックします。WinHelp ファイルとトピックを選択します。

の作成

ヘルプファイルを指定します。プロジェクトフォルダーに .HLP ファイルをコピーするには、「はい」をクリックします。WinHelp システムに目次ファイルが含まれている場合は、「はい」をクリックしてそれをプロジェクトフォルダーへコピーします。

ポップアップとして表示

WinHelp トピックをポップアップメニューに表示します。

ウィンドウ

ウィンドウの種類を指定します。

トピックを指定

トピックタイトル、トピック ID、またはマップ番号によりトピックを定義します。

5) 「次へ」をクリックしてボタンラベルのフォントオプションを設定します。

6) 「完了」をクリックします。ヘルプシステムをコンパイルしてテストします。

ヒント : HTML ヘルプシステムは HLP ファイルと CNT ファイルと共に配布してください。

関連するリンク :

デザインタイムコントロールを追加

索引コントロールの追加

注: Microsoft HTMLヘルププロジェクトのみです。

3ペインデザインにある「索引」タブで、ユーザーはキーワードにアクセスできます。

プロジェクトが3ペインデザインをサポートしていない場合、トピックに索引コントロールを追加して、索引ファイルを使用可能にすることができます。ユーザーが索引コントロールを含むトピックを開くと、索引が表示されます。

トピックがサブフォルダーにある場合は、コントロールを追加する前に索引ファイル（.HHK）をサブフォルダーにコピーします。

1) デザインエディターで、索引を追加するトピック内の場所をクリックします。

2) 挿入/HTML/JavaScript/インデックスを選択します。

3) 索引コントロールをテストするには、プロジェクトをコンパイルします。索引コントロールには、最終出力の場合と同じ索引が表示されます。

   ヒント: 他の索引ファイル（HHK）をプロジェクトで使用することもできます。索引コントロールと共にHHKファイルを選択する場合は、HHKファイルおよびそれに関連するすべてのファイル（トピック、画像、マルチメディア）をコピーします。

目次コントロールの追加

注: Microsoft HTMLヘルププロジェクトのみです。

ユーザーがトピックを開くと、目次が表示されます。

トピックがサブフォルダーにある場合は、コントロールを追加する前にファイルのコンテンツをサブフォルダーにコピーします。

1) デザインエディターで目次を追加するトピック内の場所をクリックします。

2) 挿入/HTML/JavaScript/目次を選択します。

3) コントロールをテストするには、最初にプロジェクトを生成してください。目次コントロールには、最終出力の場合と同じ目次が表示されます。

   ヒント: 他の目次ファイルをプロジェクトにリンクすることができます。目次コントロールと共にHHCファイルを選択する場合は、プロジェクトにHHCファイルをコピーします。

スプラッシュ画面の追加

注: Microsoft HTMLヘルププロジェクトのみです。

トピックを開いたときに表示されるスプラッシュ画面を含めることもできます。Windowsビットマップ（BMP）や.GIF画像を使用することができます。

1) デザインエディターで、トピックを開いたときに表示されるスプラッシュ画面を開きます。
2) 挿入/HTML/JavaScript/スプラッシュ画面を選択します。
3) 「スプラッシュの画像ファイル」で参照ボタンをクリックして、プロジェクトに使用する画像を指定します。
4) 画像ファイルを選択して、「開く」をクリックします。
5) 「スプラッシュ表示時間（秒）」で、画像を表示する時間を指定します。
6) 「完了」をクリックします。トピックをプレビューしてスプラッシュ画面をテストします。

   ヒント: ファイルには、スプラッシュ関連のファイルとその場所が表示されます。このオブジェクトは、HTML Helpビューアーまたはブラウザーでは表示されません。ユーザーがトピックを開くと、画像のみが表示されます。

ショートカットコントロールの追加

注: Microsoft HTMLヘルププロジェクトのみです。

1) デザインエディターで、ショートカットコントロールを追加するトピック内の場所をクリックします。
2) 挿入/HTML/JavaScript/ショートカットウィザードを選択します。
3) ボタンオプションを設定します。

テキスト

動作を実行するグレーのボタンを挿入します。

画像

動作を実行するカスタム画像（BMPまたはICO）を挿入します。

非表示

トピックに表示されないコントロールを挿入します。

4) 「次へ」をクリックしてショートカットの機能を設定します。

実行するプログラム

コントロールから実行するプログラムを指定します。EXE ファイルが保管されているドライブまたはフォルダーに移動して、ダブルクリックします。

プログラムパラメーター

必要に応じて、プログラムを実行したときに適用するコマンドライン引数を定義します。

プログラムウィンドウのウィンドウクラス

ウィンドウクラスを指定します。

表示するトピック

プログラムが見つからなかった場合に表示するトピックを指定します。

5) 「次へ」をクリックしてボタンラベルのフォントオプションを設定します。

6) 「完了」をクリックします。

HHCTRL バージョンコントロールの追加

HHCTRL バージョンコントロールは、ユーザーのシステムにインストールされている Microsoft HTML ヘルプのバージョン番号を表示します。

1) デザインエディターで、コントロールを追加するトピック内の場所をクリックします。

2) 挿入 /HTML/JavaScript/HHCTRL バージョンを選択します。

3) ボタンのオプションを選択します。

テキスト

動作が開始する、黒いテキスト付きのグレーのボタンを挿入します。既存のラベルを使用するか、テキストを編集します。

画像

ボタンとしてカスタム画像（BMP または ICO）を挿入します。

非表示

トピックに表示されないコントロールを挿入します。ウィンドウを閉じるスクリプトの開発者が表示されます。トピックにスクリプトを追加することもできます。

4) 「次へ」をクリックしてボタンラベルのフォントオプションを設定します。

5) 「完了」をクリックします。

ヒント: トピックをプレビューしてHHCTRLバージョンコントロールをテストしてください。

クローズウィンドウコントロールの追加

1) デザインエディターでトピックを開き、コントロールを追加するトピック内の場所をクリックします。

2) 挿入/HTML/JavaScript/ ウィンドウを閉じるを選択します。

3) コントロールのボタンオプションを設定します。

テキスト

選択すると動作が開始するグレーボタンを挿入します。ボタンに表示されるテキストを編集します。

画像

選択すると動作を開始するボタンを挿入します。

非表示

トピックに表示されないコントロールを挿入します。ウィンドウを閉じるスクリプトの開発者が表示されます。トピックにスクリプトを追加できます。

4) 標準的なボタンを追加する場合は、「次へ」をクリックしてボタンラベルのフォントを指定します。任意のフォント、フォントスタイル、およびサイズを割り当てることができます。

5) 「完了」をクリックします。

ヒント: ウィンドウを閉じるコントロールをテストするには、Microsoft HTMLヘルププロジェクトをコンパイルします。

HTMLヘルプコントロールの変更

注: Microsoft HTMLヘルププロジェクトのみです。

1) デザインエディターで、コントロールを含むトピックを開きます。
2) コントロールをダブルクリックします。

   ヒント: プロパティを変更するには、コントロールを右クリックして「デザインタイムコントロールのプロパティ」を選択します。

HTMLヘルプコントロールの削除

1) デザインエディターで、削除するコントロールを含むトピックを開きます。
2) コントロールを選択します。
3) 「削除」をクリックします。

   ヒント: 間違えてコントロールを削除した場合は、元に戻すボタンをクリックすると復元されます。

情報の種類（HTML Help）

情報タイプはHTMLヘルプ（CHM Help）のみのためにデザインされています。

情報タイプについて（HTML Help）

情報タイプは、ユーザーがHTMLヘルプビューアーの「目次」タブからアクセスできるブックやページを制御します。Microsoft HTMLヘルププロジェクトのみで使用できるオプションの機能です。

最初にカテゴリを定義し、情報タイプを追加します。次に、トピック（ページまたはブック）を情報タイプに割り当てます。HTMLヘルプビューアーの「目次」タブから、ユーザーは目次に表示されるブックとページをカスタマイズすることができます。情報タイプをトピックに割り当てない場合は、ユーザーのカスタマイゼーションにかかわらず、HTMLヘルプビューアーにトピックが表示されます。

カテゴリは、ジョブの説明やスキルレベルなどの情報タイプをグループ化する1つの方法です。最大10種類のカテゴリおよび32種類の情報タイプを作成できます。

情報タイプは、次の2つのカテゴリに分類されます。

すべて

ユーザーは、カテゴリのすべての情報タイプを利用できます。

排他的

ユーザーを制限してカテゴリから情報タイプを1つだけ選択できるようにします。例えば、ユーザーが各自のスキルレベルに応じたヘルプトピックのみにアクセスできるように、スキルレベルごとに排他に分類することができます。

現在のバージョンのMicrosoft HTMLヘルプでは、情報タイプをサポートするために「索引」タブと「検索」タブをフィルターすることはできません。ユーザーは、ユーザーが選択した情報タイプにないHTMLヘルプ索引からトピックにアクセスできません。

情報タイプの詳細については、HTMLヘルプで情報タイプを使用する戦略（著者：Rob Houser）を参照してください。

カテゴリと情報タイプの定義（HTML Help）

1) 編集／情報タイプを選択します。
2) 「カテゴリ」フィールドに名前を入力します。
3) カテゴリを次のいずれかに分類します。

すべて

ユーザーは、カテゴリにある情報タイプの任意の組み合わせを選択できます。

排他的

ユーザーは、カテゴリにある1つの情報タイプだけを選択できます。

非表示

目次のトピックを表示できません。フィルターを適用する情報タイプをカスタマイズできません。トピックを状況依存ヘルプの情報タイプに割り当てる場合は、このオプションを選択します。

4) 「カテゴリを追加」をクリックします。さらにカテゴリを追加するには、手順2～4を繰り返します。
5) カテゴリを選択して情報タイプを追加します。

6) 「情報タイプ」に、情報タイプを入力します。

7) 「情報タイプを追加」をクリックします。同じカテゴリにさらに情報タイプを追加するには、手順6と7を繰り返します。

8) 「OK」をクリックします。

情報タイプの割り当て（HTML Help）

情報タイプを作成した後に、それらを目次内でブックまたはページに割り当てます。**注:** Microsoft HTMLヘルプがプライマリレイアウトとして設定されていることを確認してください。

1) プロジェクトマネージャーポッドで、目次フォルダーの目次をダブルクリックします。

2) 目次ポッドで、ブックまたはページを右クリックし、「プロパティ」を選択します。

3) 「詳細」タブをクリックします。

4) 「情報タイプを使用」を選択します。

5) 情報タイプ内のエントリを選択し、「タイプ」をクリックします。

6) 情報タイプを選択します。

HTMLヘルプビューアーから情報タイプにアクセス

ヘルプシステムを開くと、情報タイプを選択するように要求するメッセージが表示されます。情報タイプに割り当てられていないトピックは「索引」タブから選択できます。

1) 「目次」タブをクリックします。

2) 「カスタム」を選択します。

3) 「次へ」をクリックします。表示されるリストは、情報タイプの分類が「排他的」であるか、「すべて」であるかによって異なります。

4) 情報タイプの任意の組み合わせを選択し、「次へ」をクリックします。

5) 「完了」をクリックします。「目次」タブが更新され、選択した情報タイプに対応するページのみが表示されます。

   ヒント: ヘルプシステムがInternet Explorerのブラウザーに表示されている場合、最初のトピックにTOCActiveXコントロールが含まれている限り、情報タイプを使用できます。

情報タイプの編集（HTML Help）

情報タイプのカテゴリの変更（HTML Help）

1) 編集／情報タイプを選択します。
2) カテゴリのリストから、カテゴリを選択します。
3) 「カテゴリ」ボックスをクリックして、テキストを編集します。
4) 分類を「すべて」から「排他的」または「非表示」に変更するには、オプションをクリックします。「変更」をクリックします。

情報タイプからのカテゴリの削除（HTML Help）

カテゴリを削除すると、関連付けられている情報タイプも削除されます。

1) 編集／情報タイプを選択します。
2) カテゴリのリストから、削除するカテゴリを選択します。
3) 「カテゴリを削除」をクリックします。カテゴリとそのすべての情報タイプが削除されます。

情報タイプの削除（HTML Help）

情報タイプのブックまたはページからの削除（HTML Help）

1) プロジェクトマネージャーポッドで、目次フォルダーの目次をダブルクリックします。
2) 目次ポッドで、ブックまたはページを右クリックし、「プロパティ」を選択します。
3) 「詳細」タブをクリックします。
4) 「情報タイプ」から、トピックフォルダーを選択します。
5) 「削除」をクリックして割り当てを削除します。

情報タイプのカテゴリからの削除（HTML Help）

1) 編集／情報タイプを選択します。
2) カテゴリのリストから、削除する情報タイプを含むカテゴリを選択します。
3) 情報タイプを選択します。
4) 「情報タイプを削除」をクリックします。

スクリプト

スクリプトの使用

スクリプトとは、イベントにどのように反応するか、HTMLヘルプビューアーまたはブラウザーに伝えるコード化されたコマンドです。スクリプトは、HTMLヘルプシステム、イントラネット、Webサイトにさらに多くの機能を追加します。

共通にサポートされているスクリプティング言語はVBScriptおよびJavaScriptです。使用するスクリプティングはWebページで使用されている種類と同じです。スクリプトはコンパイルされません。RoboHelp HTMLエディターで表示することができます。コンパイルされないので、ダイナミックリンクライブラリ（DLL）は不要です。

HTMLヘルプではマクロがサポートされていないので、マクロがWinHelpシステムで実現している機能と同じ機能を、スクリプトを使用して実現します。アプリケーション開発者はトピックで権限を使用できるようにするスクリプトを提供することができます。

注: スクリプトで使用するサポートファイル（画像ファイルなど）を、プロジェクトに含めるバゲッジファイルフォルダーに追加します。

スクリプトのHTMLトピックの追加

1) デザインエディターで、スクリプトを追加するトピック内の場所をクリックします。
2) 挿入/HTML/JavaScriptを選択します。
3) 「ソース」タブで、スクリプティングコードを入力します。
   - スクリプトをクリップボードにコピーする場合は、「ソース」タブ内をクリックし、データをボックスにペーストします。スクリプトを直接ボックスに入力することもできます。
   - どのようなブラウザーでも互換性があるように、コメントタグ<!-- and -->でスクリプトを囲みます。
4) 「タグ」タブを選択し、編集する「名前」または「値」を選択し、「名前を編集」または「値を編集」を選択します。

5) 必要に応じてタグを変更し、「OK」をクリックします。値は VBScript または JavaScript である可能性があります。

アイコン ■ は、トピック内でスクリプトが挿入されている場所を示します。スクリプトを編集するには、アイコンをダブルクリックします

6) 出力を生成した後に、HTML ファイルをテストします。

スクリプトのイベントのサポート

スクリプトのイベントを使用して、RoboHelp で定義した特定のトリガーポイントで関数を呼び出します。

定義済みのイベント

次のイベントは RoboHelp で定義済みです。

イベント	説明	引数
SaveAll	ファイル／すべてを保存が実行されると通知を送信します	なし
OpenTopic	エディターでファイルが開かれると通知を送信します	ファイルの完全なパス
CloseTopic	エディターでファイルが閉じられると通知を送信します	トピックの完全なパス
PreSSLGenerate	SSL が生成される前に通知を送信します	レイアウトの名前
PostSSLGenerate	SSL が生成された後に通知を送信します	レイアウトの名前
PreImport	ファイルが読み込まれる前に通知を送信します	読み込み中のファイルの完全なパス
PostImport	ファイルが読み込まれた後に通知を送信します	読み込まれたファイルの完全なパス

注: イベント名は大文字と小文字を区別しません。

イベントの関数の登録

イベントのスクリプトに定義された関数をスクリプトエクスプローラーポッドから、またはスクリプトを修正して登録することができます。複数の関数が同じイベントに登録されると、RoboHelpは登録された順番で関数を実行します。**ヒント**: 関数の戻り値を「false」に変更することで、同じイベントに登録された関数の実行チェーンを解除することができます。

スクリプトエクスプローラーポッドを使用した登録

1) スクリプトエクスプローラーポッドでスクリプトを選択します。「イベント用に登録」を右クリックして選択します。

2) イベントの登録ダイアログボックスで、登録する関数名を指定し、イベント名リストからイベント名を選択します。

   注: スクリプトで定義された関数名を指定していることを確認します。イベント名はRoboHelpで定義済みです。例えば、SaveAllイベントは、ファイル／すべてを保存を選択すると実行します。

3) 「OK」をクリックします。

スクリプトからの登録

次の構文を使用してイベントに関数を登録します。

```
registerEvent (EventName:string, FilePath:string, FunctionName:string)
```

注: イベントを使用して引数を指定し、処理に使用できる情報を取得することができます。例えば、読み込み操作でファイル名を取得できます。

関数の登録解除

スクリプトエクスプローラーポッドを使用した登録解除

1) スクリプトエクスプローラーポッドでスクリプトを選択します。右クリックし、「登録解除」を選択します。

スクリプトからの登録解除

次の構文を使用して関数の登録を解除します。

```
unregisterEvent (EventName:string, FilePath:string, FunctionName:string)
```

ExtendScript Toolkitのサポートについて

独自のスクリプトを作成して、繰り返しの多いタスクおよび時間のかかるワークフローを自動化します。例えば、RoboHelpプロジェクトで使用する画像をカウントするスクリプトを記述できます。

RoboHelpには、ユーザーが使用したり、カスタマイズしたりすることができるサンプルスクリプトのセットが用意されています。ツール／スクリプトからこれらのサンプルスクリプトにアクセスできます。

ネイティブモバイルアプリジェネレーター

このスクリプトは、RoboHelpコンテンツをAndroidモバイルオペレーティングシステム用のネイティブモバイルアプリとしてパッケージするために使用します。

EclipseHelp Generator

このスクリプトを使用して、EclipseHelp出力を生成します。

EPUB2.0.1 Generator

このスクリプトを使用して、EPUB 2.0.1出力を生成します。

WebHelpからCHMへのコンバーター

このスクリプトは、WebHelp出力をCHMファイルとして生成するために使用します。スクリプトを実行する前に、WebHelpレイアウトをカスタマイズして、CHM出力で希望するカラーとブランディングを追加できます。

用語集の再書式付きの出力ジェネレーター

このスクリプトは、用語集をポップアップまたはツールヒントとして、選択されたレイアウトの出力を生成するために使用します。初期設定では、RoboHelpは用語集を拡張ホットスポットとして出力を生成します。

注: このスクリプトの実行前に、Glossary Hotspot Wizardを1回実行してください。

Image Extension Updater

このスクリプトを使用して、プロジェクト内のトピックで参照されている画像パスのファイル拡張子を変更します。デフォルトでは、スクリプトは各トピック内のファイル拡張子.bmpを.pngに変換します。別の拡張子に変換するようにスクリプトを変更できます。

注： このスクリプトはトピック内で参照されている画像ファイルの名前を変更するもので、画像を作成するわけではありません。新しい拡張子を付けた画像は、元の画像と同じ場所に保存してください。

Link Converter

このスクリプトを使用すると、RoboHelp プロジェクト内のすべてのファイルについて、アンカーリンクの href ターゲットを変換します。例えば、プロジェクト内のすべてのヘルプファイルについて、www.adobe.com から www.adobe.com/jp/support/ に変換するようにリンクを定義します。詳しくは、スクリプトファイルを参照してください。

Master Page Import

このスクリプトを使用して、マスターページを読み込みます。

UDV Converter With UI

このスクリプトを使用すると、キーワードをユーザー定義の変数に変換し、プロジェクト内のすべてのファイルについて値を変更します。キーワード、ユーザー定義の変数名、およびその値を入力します。

UDV Converter

このスクリプトを使用すると、キーワードをユーザー定義の変数に変換し、プロジェクト内のすべてのファイルについて値を変更します。詳しくは、スクリプトを参照してください。

Word Count ジェネレーター

このスクリプトを使用すると、開いてある RoboHelp プロジェクトの語数をカウントします。トピックごとおよびプロジェクトごとに語数をカウントします。Word Count スクリプトを実行するには、スクリプトを右クリックして、「実行」を選択します。出力ビューポッドに語数の概要が表示されます。

Reference Page Image Updater

このスクリプトを使用して、FrameMaker の文書の読み込みで生成されたトピック内に、参照ページの画像を挿入します。詳細については、スクリプトファイル見出しの「説明」の節を参照してください。

Style-based Index Generator

このスクリプトを使用して、プロジェクトのトピック内に存在するキーワードのための、スタイルベースの索引エントリを作成します。スクリプトでスタイルを指定する必要があります。このスクリプトは、各トピック内で指定のスタイルを持つすべてのキーワードを検索し、それらの索引エントリを生成します。デフォルトでは、このスクリプトはh1（見出し1）およびh2（見出し2）スタイルに対してエントリを生成します。スクリプト内のスタイル配列を、必要なスタイル名に変更してください。

スクリプトの作成

ExtendScript Toolkitのスクリプトエクスプローラーを使用して、スクリプトを記述し、デバッグすることができます。

組み込みスクリプトでタスクを自動化できます。詳細な手順については、Adobe RoboHelp ビデオチュートリアルページでJohn Daigle氏によって解説されています。

データオブジェクトモデル内で使用できるメソッドの詳細については、Adobe RoboHelp スクリプトガイドを参照してください。

スクリプトフォルダーの管理

スクリプトフォルダーの作成

特定のスクリプトを格納するフォルダーを作成します。例えば、あるフォルダーでデータを記録するスクリプトと、別のフォルダーで出力を表示するスクリプトを格納できます。**注：** サンプルスクリプトが、RoboHelpのインストールのスクリプトフォルダー（C:\Programe Files\Adobe\Adobe RoboHelp[version]\RoboHelpHTML\presets\scripts）に格納されています。

フォルダーのドラッグ

フォルダーをスクリプトエクスプローラーの内外にドラッグできます。

読み込みおよび書き出し

別のプロジェクトおよび場所でフォルダーを読み込んだり、書き出したりすることができます。フォルダーを読み込んだり、書き出したりするには、そのフォルダー内に少なくとも1つのスクリプトファイルが存在している必要があります。

スクリプトファイルの管理

スクリプトファイルを作成

スクリプトファイルを作成し、名前を指定します。

編集

スクリプトエクスプローラーまたはWindowsエクスプローラーでスクリプトを右クリックし、ExtendScript Toolkitを使用して編集します。スクリプトファイルをダブルクリックして、サードパーティエディターで編集します。**ヒント**: サードパーティエディターを追加するには、ファイル／オプションに進み、「関連付け」タブをクリックし、サードパーティエディター用にファイル名拡張子.jsxを追加します。

読み込みおよび書き出し

コンピューターまたはネットワークとの間でスクリプトファイルの書き出しまたは読み込みを行います。

スクリプトファイルのドラッグ

スクリプトファイルを、コンピューターまたはネットワーク上の別のフォルダーにドラッグします。

スクリプトの実行

コマンドラインの使用

以下のフォーマットでコマンドを入力すると、スクリプトを実行できます。

```
Robohtml.exe -x [scriptfilenames]
```

複数のスクリプトファイル名をスペースで区切って指定すると、あるスクリプトの後に別のスクリプトを実行することができます。ファイル名のパスにスペースが含まれている場合には、そのファイル名のパスを一重引用符または二重引用符で囲みます。

ツールメニューの使用

ツール／スクリプトで使用できるRoboHelpスクリプティングサンプルを使用するか、新しいスクリプトを作成して実行することができます。ExtendScript Toolkitのマニュアルを参照してください。

Windows エクスプローラーの使用

スクリプトをダブルクリックして、ExtendScript Toolkit で開いて実行します。

ExtendScript Toolkit の使用

ExtendScript Toolkit から RoboHelp を直接実行して、スクリプトを実行します。RoboHelp を実行するには、ExtendScript Toolkit のポップアップメニューから「Adobe RoboHelp*[version]*」を選択します。クリックしてターゲットアプリケーションに接続ボタン をクリックし、RoboHelp を実行します。アイコンは緑色になり、RoboHelp HTML が実行中であることを示します。**注:**
ExtendScript Toolkit で Adobe RoboHelp を選択しないで、スクリプトを実行しようとすると、エラーが発生します。

Twisties

Twisties を使用すると、開閉のため、画像を持つ用語、ドロップダウンテキスト、および展開テキストを拡張できます。用語集、ドロップダウン、または展開テキストを開閉したときに、ユーザーには異なる画像が表示されます。

ホットスポットでの画像の追加または変更

1) スタイルダイアログボックスでドロップダウンホットスポットスタイルを選択します。
2) 文字スタイルを展開して、ドロップダウンホットスポットスタイルを表示します。
3) Twisties 画像を選択ボタン をクリックします。
4) 閉じたドロップダウンテキストを表示する画像と、ドロップダウンホットスポットを開く画像を選択します。
5) オプションを選択し、「テキストの先頭」または「テキストの末尾」のいずれかに画像を配置します。同様に、展開テキスト用の画像を変更できます。

用語の画像の追加または変更

1) スタイルダイアログボックスで用語のスタイルを選択します。
2) Twisties画像を選択ボタン ▶ をクリックします。
3) 閉じたドロップダウンテキストを表示する画像と、ドロップダウンホットスポットを開く別の画像を選択します。ホットスポットの開閉を区別するために、別の画像を選択します。
4) オプションを選択し、「テキストの先頭」または「テキストの末尾」のいずれかに画像を配置します。同様に、展開テキスト用の画像を変更できます。

Twisties画像の削除

1) 用語またはドロップダウンリストホットスポットから画像を削除するには、Twisties画像を選択ダイアログボックスで「消去」ボタンをクリックします。

デフォルトのキーボードショートカット

Adobe RoboHelp HTMLには、マウスを使用しなくても素早く作業できるように、ショートカットが用意されています。これらのショートカットはデザインエディターで使用します。追加のキーボードショートカットはメニューのコマンド名の横に表示されます。

注: 特定のショートカットを使用するには、最初にテキストを選択する必要があります。テキストを最初に選択する必要があるショートカットは、星印（*）でマークされています。

タスク	キーボードショートカット
基本操作	
新規プロジェクト	CTRL+Alt+N
プロジェクトを開く	CTRL+O
プロジェクトを閉じる	CTRL+Alt+C
プロジェクトの名前を変更	CTRL+Alt+R
オプション	Shift+CTRL+T
コンポーネントを保存	CTRL+Alt+S
すべてを保存	CTRL+S
取り消し	CTRL+Z
繰り返し	CTRL+Y
カット	CTRL+X
コピー	CTRL+C
ペースト	CTRL+V
削除	Delete
すべてを閉じる	CTRL+Alt+X
終了	Shift+CTRL+X
すべてを選択	CTRL+A
検索	CTRL+F

タスク	キーボードショートカット
置換	CTRL+H
ファイル内の検索と置換	CTRL+SHIFT+F
ブックマークへジャンプ	F5
アクティブペインから印刷	CTRL+P
ページ設定	CTRL+Alt+U
の作成	F1
アクティブペインのスペルチェック	F7
類義語辞典	SHIFT+F7
トピックの作成	CTRL+T
トピックを複製	CTRL+D
アイテムを編集	CTRL+E
トピックを終了	CTRL+F4
リンクされたトピックを新しいタブで開く	CTRL キーを押しながらクリックする
名前を変更	F2
段落マーカー	Ctrl+Shift+8
トピックをプレビュー	CTRL+W
ハイパーテキストリンクの挿入 *	CTRL+K*
画像の挿入	CTRL+G
テキスト専用のポップアップを挿入	CTRL+ALT+P
プロジェクトの設定ダイアログを開く	CTRL+SHIFT+/
トピックのプロパティダイアログを開く	Alt+Enter
コンディショナルビルドタグダイアログの表示 *	CTRL+N
「次へ」タブ	CTRL+PAGE DOWN
「前へ」タブ	CTRL+PAGE UP
更新	

タスク	キーボードショートカット
更新	CTRL+F5
すべて更新	CTRL+ALT+F5
強制的に更新	CTRL+SHIFT F5
すべてを強制的に更新	CTRL+SHIFT+ALT+F5
ドキュメントを管理	CTRL+Alt+D
デザインエディターでのテキストの書式設定	
太字	CTRL+B
斜体	CTRL+I
下線	CTRL+U
書式／段落メニュー	CTRL+SHIFT+D
書式／フォントメニュー	CTRL+D
フォントを適用	CTRL+SHIFT+ALT+F
フォントのサイズを拡大する *	CTRL+SHIFT+>
フォントのサイズを縮小する *	CTRL+SHIFT+<
フォントのサイズを 1 ポイント拡大する *	CTRL+]
フォントのサイズを 1 ポイント縮小する *	CTRL+[
デザインエディターでのスタイル	
スタイルの適用 *	CTRL+SHIFT+S
「標準」スタイルの適用	CTRL+SHIFT+N
記号または番号スタイルの適用	CTRL+SHIFT+L
「見出し 1」の適用 *	ALT+CTRL+1
「見出し 2」の適用 *	ALT+CTRL+2
「見出し 3」の適用 *	ALT+CTRL+3
目次ポッド	
目次でブックまたはトピックを上に移動	CTRL + 上向き矢印キー

タスク	キーボードショートカット
目次でブックまたはトピックを下に移動	CTRL + 下向き矢印キー
目次でブックまたはトピックを左へ移動	CTRL + 左向き矢印キー
目次でブックまたはトピックを右へ移動	CTRL + 右向き矢印キー
索引|ポッド	
索引|キーワードを小文字に変更する	CTRL+L
索引|キーワードの最初の文字を大文字に変更する	Ctrl+J
レビューペイン	
レビューコメントを追加する	CTRL+ALT+M
スクリーンレイアウトエディター	
開いているスクリーンレイアウトをプレビューする	CTRL+W
バージョンコントロール	
「ファイルステータス」タブのバージョンステータスを更新	F5

* 先にテキストを選択します。